

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料2）

大飯発電所3 / 4号炉		女川原子力発電所2号炉		泊発電所3号炉		相違理由					
表1 漏えい停止までの時間の設定及び漏えい量（化学体積制御系） その1											
想定範囲	<p>①異常の検知</p> <p>&lt;システム検知&gt;                      配管破損により、破損側封水注入流量が増加するため、健全側封水注入流量が低下し、封水注入流量低警報が発信する。</p> <p>0分                      (定格流量 1.5m<sup>3</sup>/h に対して低警報が1.5m<sup>3</sup>/hであるため、速やかに警報が発信する)</p> <p>また、封水注入合計流量の増加により、封水注入アイルタ差圧高警報が発信する。</p> <p>&lt;システム検知&gt;                      配管破損により、封水注入流量が低下し、封水注入流量低警報が発信する。</p> <p>0分                      (定格流量 1.5m<sup>3</sup>/h に対して低警報が1.5m<sup>3</sup>/hであるため、速やかに警報が発信する)</p>	<p>②事象の判断及び漏えい箇所の特定</p> <p>以下のパラメータから封水注入流量計上流量管からの漏えいと判断                      10分                      封水戻り流量、原子炉周辺建屋サンプ水位、RMS測定値(R-21A/B)、封水注入アイルタ差圧、漏水注意等</p> <p>以下のパラメータから封水注入流量計下流量管からの漏えいと判断                      10分                      封水戻り流量、原子炉周辺建屋サンプ水位、RMS測定値(R-21A/B)、封水注入アイルタ差圧、漏水注意等</p>	<p>③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止</p> <p>中央制御室において、封水注入ライン流量制御弁を遠隔手動閉止                      1分</p>	合計時間 (①+②+③)  11分	漏えい量  漏えい量21.5m <sup>3</sup> 封水注入流量 7.2m <sup>3</sup> /h (1ループ当たり 1.8m <sup>3</sup> /h) 11分/60分×7.2m <sup>3</sup> /h = 1.4m <sup>3</sup> 配管保有水量 20.4m <sup>3</sup> 1.4m <sup>3</sup> +20.4m <sup>3</sup> =21.8m <sup>3</sup>	<p>①異常の検知</p> <p>&lt;システム検知&gt;                      配管破損により、破損側A-封水注入流量が増加するため、健全側B、C-封水注入流量が低下し、封水注入流量低警報が発信する。</p> <p>1分                      (通報の封水注入流量 1.8m<sup>3</sup>/h に対して、低警報は1.5m<sup>3</sup>/hであるため、速やかに警報が発信する)</p> <p>&lt;システム検知&gt;                      配管破損により、封水注入流量が低下し、封水注入ライン流量低警報が発信する。</p> <p>1分                      (通報の封水注入流量 1.8m<sup>3</sup>/h に対して、低警報は1.5m<sup>3</sup>/hであるため、速やかに警報が発信する)</p>	<p>②事象の判断及び漏えい箇所の特定</p> <p>以下のパラメータから封水注入流量計上流量管からの漏えいと判断                      10分                      封水戻り流量、封水戻り差量、原子炉補助建屋サンプ水位等</p> <p>以下のパラメータから封水注入流量計下流量管からの漏えいと判断                      10分                      封水戻り流量、原子炉周辺建屋サンプ水位、RMS測定値(R-21A/B)、封水注入アイルタ差圧、漏水注意等</p>	<p>③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止</p> <p>中央制御室において、A-1次冷却材ポンプ封水注入ラインCVV外部隔離弁を閉止                      2分                      (A-1次冷却材ポンプ封水注入ラインCVV外部隔離弁を閉止1分、漏えい継続の場合は1次冷却材ポンプ封水注入流量制御弁を手動閉止1分、合わせて2分)</p> <p>中央制御室において、1次冷却材ポンプ封水注入流量制御弁を手動閉止1分</p>	合計 (①+②+③)  13分	<p>系統保有水量W=5.5m<sup>3</sup>                      定格封水注入流量 5.46m<sup>3</sup>/h                      (1.82m<sup>3</sup>/h×3ループ=5.46m<sup>3</sup>/h)                      系統漏えい量W1                      =13分/60分×5.46m<sup>3</sup>/h=1.2m<sup>3</sup>                      系統保有水量W2=5.4m<sup>3</sup>                      1.2m<sup>3</sup>+5.4m<sup>3</sup>=6.3m<sup>3</sup></p> <p>系統保有水量W=5.7m<sup>3</sup>                      定格封水注入流量 5.46m<sup>3</sup>/h                      (1.82m<sup>3</sup>/h×3ループ=5.46m<sup>3</sup>/h)                      系統漏えい量W1                      =12分/60分×5.46m<sup>3</sup>/h=1.1m<sup>3</sup>                      系統保有水量W2=5.4m<sup>3</sup>                      1.1m<sup>3</sup>+5.4m<sup>3</sup>=6.7m<sup>3</sup></p>	<p>【大飯】</p> <p><a href="#">記載表現の相違</a>  <a href="#">記載方針の相違</a></p> <p>・治では、本資料における記載を考慮し、W（系統溢水量）、W1（系統漏えい量）、W2（系統保有水量）を定義していることによる相違。</p> <p>・添付資料16「系統別溢水量算出結果」において、建屋別に溢水量を分けて記載する必要があるため、本資料との関係が分かるよう、建屋名称を記載している。</p> <p><a href="#">設計方針の相違</a></p> <p>プラント設計の違いによる検知方法、検知時間の相違。</p>
建屋	封水注入配管 (貫通部～流量計)	封水注入配管 (貫通部～流量計)	封水注入配管 (貫通部～流量計)	封水注入配管 (貫通部～流量計)	封水注入配管 (貫通部～流量計)	原子炉 補助建屋					





赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉		女川原子力発電所2号炉		泊発電所3号炉		相違理由
表3 漏えい停止までの時間の設定および漏えい量 (化学体積制御系) その3						
想定範囲	抽出配管/非再生冷却器入口 (貫通部) ~ 非再生冷却器	抽出配管/非再生冷却器出口 (非再生冷却器) ~ 圧力制御弁	抽出配管/非再生冷却器入口 (貫通部) ~ 非再生冷却器	抽出配管/非再生冷却器出口 (非再生冷却器) ~ 圧力制御弁	抽出配管/非再生冷却器入口 (貫通部) ~ 非再生冷却器	
①異常の検知	<システム検知> 配管破損によりVCT (11.3m <sup>3</sup> ) の保有水が減少しVCT水位が低下する。VCT水位高警報 (55%±1.5%) から原子炉補給開始水位 (24%±1.5%) まで水位が低下し原子炉補給水開始音が発信 11.3m <sup>3</sup> × (56.5%-22.5%) / 100% ÷ 32.0m <sup>3</sup> /h × 60分 = 7.2-8.2分	以下のパラメータから抽出ラインからの漏えいと判断 10分 温度センサ高警報、充てんポンプトリップ、加圧器水位、VCT水位、原子炉周辺建屋サンプ水位、RMS測定値 (R-21A/B)、漏水注音等	①異常の検知 <システム検知> 配管破損によりVCT (0.07809m <sup>3</sup> /%) の保有水が減少しVCT水位が低下する。VCT通常開始水位 (60+5%) から原子炉補給開始水位 (30-5%) まで水位が低下し、原子炉補給開始音が吹鳴、原子炉補給水制御が自動水位低 (自動水位) (L120) 警報が発信 0.07809m <sup>3</sup> /% × (65%-31%) ÷ 32.0m <sup>3</sup> /h × 60分 = 5.5分	②事象の判断及び漏えい箇所の特定 以下のパラメータから抽出ラインからの漏えいと判断 10分 温度センサ高警報、充てんポンプトリップ、加圧器水位、VCT水位、原子炉周辺建屋サンプ水位等	③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止 中央制御室において、抽出オリフイス出口格納容器第1隔離弁を遠隔手動閉止 1分	
漏えい量	漏えい量21.0m <sup>3</sup> オリフイスによる制限流量 32.0m <sup>3</sup> /h 19分/60分 × 32.0m <sup>3</sup> /h = 10.2m <sup>3</sup> 配管保有水量 10.8m <sup>3</sup> 10.2m <sup>3</sup> + 10.8m <sup>3</sup> = 21.0m <sup>3</sup>	合計時間 (①+②+③) 19分	系統溢水量 (W=W1+W2) 系統溢水量W=20.5m <sup>3</sup> オリフイスによる制限流量 32.0m <sup>3</sup> /h 系統補えい量W1 = 16分/60分 × 32.0m <sup>3</sup> /h = 8.5m <sup>3</sup> 系統保有水量W2 = 11.9m <sup>3</sup> 8.5m <sup>3</sup> + 11.9m <sup>3</sup> = 20.5m <sup>3</sup>	合計 (①+②+③) 16分	③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止 中央制御室において、抽出オリフイス出口格納容器第1隔離弁を手動閉止 1分	
建屋	原子炉建屋	原子炉建屋	原子炉建屋	原子炉建屋	原子炉建屋	【大飯】 記載表現の相違 記載方針の相違 ・治では、本資料における記載を考慮し、W (系統溢水量)、W1 (系統補えい量)、W2 (系統保有水量) を定義していることによる相違。 ・添付資料16「系統別溢水量算出結果」において、建屋別に溢水量を分けて記載する必要があるため、本資料との関係が分かるよう、建屋名称を記載している。 設計方針の相違 プラント設計の違いによる検知方法、検知時間の相違。

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1補足説明資料2)

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉		女川原子力発電所2号炉		泊発電所3号炉		相違理由
表4 漏えい停止までの時間の設定及び漏えい量 (主蒸気系)		【川内1 / 2号炉】 p.補-2-9-7より抜粋		表4 漏えい停止までの時間の設定及び系統溢水量 (主蒸気系)		【大飯】
想定範囲	①異常の検知 システム検知 主蒸気ライン圧力低により中央制御室に警報が発信 また、主蒸気ライン圧力低(S+RT)により、主給水循環ポンプが自動停止 10秒	①異常の検知時間 (異常の検知手段) L12 中央制御室に「主蒸気減速高主蒸気圧力異常発生」(所定自動停止)警報が発信する。2秒。 L13 主蒸気減速増加に伴う原子炉出力の上昇するため、出力変化により中央制御室に「SG熱出力注量」警報が発信する。2秒。 L14 主蒸気減速増加に伴う原子炉出力の上昇する。出力変化により中央制御室に「SG熱出力注量」警報が発信する。2秒。	②発生原因の検知 漏えい原因の検知 L15 中央制御室にて漏れ発生を感知し、中央制御室に「SG熱出力注量」警報が発信する。2秒。 L16 主蒸気減速増加に伴う原子炉出力の上昇する。出力変化により中央制御室に「SG熱出力注量」警報が発信する。2秒。	①異常の検知 システム検知 主蒸気ライン圧力低により中央制御室に警報が発信 また、主蒸気ライン圧力低(S+RT)により、主給水循環ポンプが自動停止 10秒	②発生原因の検知 漏えい原因の検知 L17 中央制御室にて漏れ発生を感知し、中央制御室に「SG熱出力注量」警報が発信する。2秒。 L18 主蒸気減速増加に伴う原子炉出力の上昇する。出力変化により中央制御室に「SG熱出力注量」警報が発信する。2秒。	①異常の検知 システム検知 主蒸気ライン圧力低により中央制御室に警報が発信 また、主蒸気ライン圧力低(S+RT)により、主給水循環ポンプが自動停止 10秒
主蒸気管	②異常の判断及び漏えい原因の検知 以下のパラメータから漏れ発生を感知する SG水位異常、SG流量異常、主蒸気ライン圧力低、主蒸気圧力異常等	③発生原因の検知 漏えい原因の検知 L19 中央制御室にて漏れ発生を感知し、中央制御室に「SG熱出力注量」警報が発信する。2秒。 L20 主蒸気減速増加に伴う原子炉出力の上昇する。出力変化により中央制御室に「SG熱出力注量」警報が発信する。2秒。	④発生原因の検知 漏えい原因の検知 L21 中央制御室にて漏れ発生を感知し、中央制御室に「SG熱出力注量」警報が発信する。2秒。 L22 主蒸気減速増加に伴う原子炉出力の上昇する。出力変化により中央制御室に「SG熱出力注量」警報が発信する。2秒。	②異常の判断及び漏えい原因の検知 以下のパラメータから漏れ発生を感知する SG水位異常、SG流量異常、主蒸気ライン圧力低、主蒸気圧力異常等	③発生原因の検知 漏えい原因の検知 L23 中央制御室にて漏れ発生を感知し、中央制御室に「SG熱出力注量」警報が発信する。2秒。 L24 主蒸気減速増加に伴う原子炉出力の上昇する。出力変化により中央制御室に「SG熱出力注量」警報が発信する。2秒。	②異常の判断及び漏えい原因の検知 以下のパラメータから漏れ発生を感知する SG水位異常、SG流量異常、主蒸気ライン圧力低、主蒸気圧力異常等
主蒸気管	③漏えい源所の隔離等により漏えい停止 中央制御室において、電動補助給水ライン流量異常、タービン動補助給水ライン流量異常、タービン動補助給水ライン流量異常等を遠隔手動停止する。 2分(1分/側)	④漏えい量 1号 21.1m³ 2号 21.2m³	④漏えい量 1号 21.6m³ 2号 21.7m³	③漏えい源所の隔離等により漏えい停止 中央制御室において、電動補助給水ライン流量異常、タービン動補助給水ライン流量異常等を遠隔手動停止する。 2分(1分/側)	④漏えい量 1号 21.6m³ 2号 21.7m³	③漏えい源所の隔離等により漏えい停止 中央制御室において、電動補助給水ライン流量異常、タービン動補助給水ライン流量異常等を遠隔手動停止する。 2分(1分/側)
主蒸気管	④漏えい源所の隔離等により漏えい停止 中央制御室において、電動補助給水ライン流量異常、タービン動補助給水ライン流量異常等を遠隔手動停止する。 2分(1分/側)	⑤補正水量 1号 21.1m³ 2号 21.2m³	⑤補正水量 1号 21.6m³ 2号 21.7m³	④漏えい源所の隔離等により漏えい停止 中央制御室において、電動補助給水ライン流量異常、タービン動補助給水ライン流量異常等を遠隔手動停止する。 2分(1分/側)	⑤補正水量 1号 21.6m³ 2号 21.7m³	④漏えい源所の隔離等により漏えい停止 中央制御室において、電動補助給水ライン流量異常、タービン動補助給水ライン流量異常等を遠隔手動停止する。 2分(1分/側)
主蒸気管	⑤補正水量 1号 21.1m³ 2号 21.2m³	⑥合計 13分	⑥合計 13分	⑤補正水量 1号 21.1m³ 2号 21.2m³	⑥合計 13分	⑤補正水量 1号 21.1m³ 2号 21.2m³
主蒸気管	⑥合計 13分	⑦系統溢水量 1号 21.1m³ 2号 21.2m³	⑦系統溢水量 1号 21.6m³ 2号 21.7m³	⑥合計 13分	⑦系統溢水量 1号 21.6m³ 2号 21.7m³	⑥合計 13分
主蒸気管	⑦系統溢水量 1号 21.1m³ 2号 21.2m³	⑧相違理由 【大飯】 記載表現の相違 記載方針の相違 ・治では、本資料における記載を考慮し、W (系統溢水量)、W1 (系統漏えい量)、W2 (系統保有水量) を定義していることによる相違。 ・添付資料16「系統別溢水量算出結果」において、建屋別に溢水量を分けて記載する必要があるため、本資料との関係が分かるよう、建屋名称を記載している。 ・プラント設計の違いによる検知方法、検知時間の相違。 ・大飯は主蒸気ドレン配管 (一般部) について、主蒸気逃がし弁、主蒸気隔離弁バイパス配管、主蒸気ドレン配管、タービン動補助給水ポンプ駆動用蒸気配管とまとめて評価を実施している。泊は、主蒸気ドレン配管 (一般部) を単独で評価しており、同様に個別に評価した実績として川内1 / 2号炉がある。	⑧相違理由 【大飯】 記載表現の相違 記載方針の相違 ・治では、本資料における記載を考慮し、W (系統溢水量)、W1 (系統漏えい量)、W2 (系統保有水量) を定義していることによる相違。 ・添付資料16「系統別溢水量算出結果」において、建屋別に溢水量を分けて記載する必要があるため、本資料との関係が分かるよう、建屋名称を記載している。 ・プラント設計の違いによる検知方法、検知時間の相違。 ・大飯は主蒸気ドレン配管 (一般部) について、主蒸気逃がし弁、主蒸気隔離弁バイパス配管、主蒸気ドレン配管、タービン動補助給水ポンプ駆動用蒸気配管とまとめて評価を実施している。泊は、主蒸気ドレン配管 (一般部) を単独で評価しており、同様に個別に評価した実績として川内1 / 2号炉がある。	⑦系統溢水量 1号 21.1m³ 2号 21.2m³	⑧相違理由 【大飯】 記載表現の相違 記載方針の相違 ・治では、本資料における記載を考慮し、W (系統溢水量)、W1 (系統漏えい量)、W2 (系統保有水量) を定義していることによる相違。 ・添付資料16「系統別溢水量算出結果」において、建屋別に溢水量を分けて記載する必要があるため、本資料との関係が分かるよう、建屋名称を記載している。 ・プラント設計の違いによる検知方法、検知時間の相違。 ・大飯は主蒸気ドレン配管 (一般部) について、主蒸気逃がし弁、主蒸気隔離弁バイパス配管、主蒸気ドレン配管、タービン動補助給水ポンプ駆動用蒸気配管とまとめて評価を実施している。泊は、主蒸気ドレン配管 (一般部) を単独で評価しており、同様に個別に評価した実績として川内1 / 2号炉がある。	⑦系統溢水量 1号 21.6m³ 2号 21.7m³



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉		女川原子力発電所2号炉		泊発電所3号炉		相違理由
表5 漏えい停止までの時間の設定及び漏えい量 (主給水系)				表5 漏えい停止までの時間の設定及び系統溢水量 (主給水系)		【大飯】 記載表現の相違 記載方針の相違 ・治では、本資料における記載を考慮し、W (系統溢水量)、W1 (系統漏えい量)、W2 (系統保有水量) を定義していることによる相違。 ・添付資料16「系統別溢水量算出結果」において、建屋別に溢水量を分けて記載する必要があるため、本資料との関係が分かるよう、建屋名称を記載している。 ・治では主給水系の評価結果について、2つに分割せずに記載した。
(1/2)						
想定範囲	①異常の検知	②事象の判断及び漏えい箇所の特定	③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止	合計時間 (①+②+③)	漏えい量	
主給水管 (貫通部～ 逆止弁)	<システム検知> 主蒸気ライン圧力低により中央制御室に警報発信 8秒 また、主蒸気ライン圧力低(S+RT)により主給水制御弁自動閉止 15秒	以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位偏差、SG 流量偏差、主蒸気ライン圧力低、主蒸気配管室温度等	中央制御室において、電動補助給水ライン流量調節弁、タービン動機弁を遠隔手動閉止 2分(1分/個)	12分8秒	漏えい量175.5m <sup>3</sup> 主給水流量 2030m <sup>3</sup> /h 補助給水流量 430m <sup>3</sup> /h 15秒/3600秒×2030m <sup>3</sup> /h = 94.5m <sup>3</sup> 配管保有水量 15m <sup>3</sup> 蒸気発生器保有水量 66m <sup>3</sup> 94.5+15+66=175.5m <sup>3</sup>	
主給水管 (逆止弁～上流)	<システム検知> SG 水位低による原子炉トリップ 50秒 また、Iavg 低による主給水制御弁の自動閉止 110秒	自動隔離のため判断時間なし 0分	自動隔離のため操作時間なし 0分	110秒	漏えい量77.1m <sup>3</sup> 主給水流量 2030m <sup>3</sup> /h 110秒/3600秒×2030m <sup>3</sup> /h = 62.1m <sup>3</sup> 配管保有水 15m <sup>3</sup> 62.1+15=77.1m <sup>3</sup>	
建設	①異常の検知 システム検知 主蒸気ライン圧力低ECS作動による原子炉トリップ 1秒 また、主蒸気ライン圧力低により、主給水制御弁自動閉止 14秒 1分	以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位偏差、SG 流量偏差、主蒸気ライン圧力低等	中央制御室において、補助給水ライン流量調節弁を手動閉止 2分 主蒸気ライン圧力低による主給水制御弁、主給水制御弁自動閉止 0分 また、主蒸気ライン圧力低により主給水制御弁、主給水制御弁自動閉止 1秒 主給水制御弁自動閉止 1秒 合計 2分	合計 (①+②+③) 13分	系統溢水量 (W=W1+W2) 系統溢水量 2.00m <sup>3</sup> /h 主給水流量 2.00m <sup>3</sup> /h 系統漏えい量 W1 = 1分/60分×2.00m <sup>3</sup> /h = 0.33m <sup>3</sup> 配管保有水量 15.0m <sup>3</sup> 系統保有水量 W2 = 15.0+0.0 = 15.0m <sup>3</sup> 82.9m <sup>3</sup> +15.0m <sup>3</sup> = 97.9m <sup>3</sup>	
原子炉建屋	<システム検知> SG 水位低による原子炉トリップ 39秒 1分	以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位偏差、SG 流量偏差、SG 水位低による原子炉トリップ等	中央制御室において、主給水制御弁、主給水制御弁を手動閉止 2分 中央制御室において、主給水ポンプと弁を遠隔手動閉止、ポンプ出口閉鎖 1分 (中央制御室において、主給水ポンプと弁を遠隔手動閉止 2分、1分×2回、合計閉鎖時間 5分、合わせて7分)	合計 (①+②+③) 13分	系統溢水量 W = 68.1m <sup>3</sup> 主給水流量 2.00m <sup>3</sup> /h 系統漏えい量 W1 = 13分/60分×2.00m <sup>3</sup> /h = 0.43m <sup>3</sup> 配管保有水量 15.0m <sup>3</sup> 453.1m <sup>3</sup> +15.0m <sup>3</sup> = 468.1m <sup>3</sup>	
	<システム検知> SG 水位低による原子炉トリップ 1分	以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位偏差、SG 流量偏差、SG 水位低による原子炉トリップ等	中央制御室において、主給水ポンプと弁を遠隔手動閉止、ポンプ出口閉鎖 1分 (中央制御室において、主給水ポンプと弁を遠隔手動閉止 2分、1分×2回、合計閉鎖時間 5分、合わせて7分)	合計 (①+②+③) 18分	系統溢水量 W = 63.2m <sup>3</sup> 主給水流量 2.00m <sup>3</sup> /h 系統漏えい量 W1 = 18分/60分×2.00m <sup>3</sup> /h = 0.6m <sup>3</sup> 配管保有水量 15.0m <sup>3</sup> 627.3m <sup>3</sup> +15.0m <sup>3</sup> = 642.3m <sup>3</sup>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉		女川原子力発電所2号炉		泊発電所3号炉		相違理由
<p>表5 漏えい停止までの時間の設定及び漏えい量 (主給水系) (2/2)</p>						
想定範囲	①異常の検知	②事象の判断及び漏えい箇所の特定	③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止	合計時間 (①+②+③)	漏えい量	
主給水バイパス配管 (下流分岐～制御弁)	<システム検知> 主給水流量と主蒸気流量の不一致警報が中央制御室に発信 10分	以下のパラメータから階離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位偏差、SG 流量偏差、主蒸気・主給水配管室温度等	中央制御室において、原子炉トリップ後の状況を確認 5分 また、原子炉手動トリップ操作後約60秒で原子炉トリップしや断器開+Tagg 低により主給水制御弁は自動閉止 60秒	11分	漏えい量 387.2m <sup>3</sup> 主給水流量 2030m <sup>3</sup> /h 11分/60分×2030m <sup>3</sup> /h = 372.2m <sup>3</sup> 配管保有水 15m <sup>3</sup> 372.2m <sup>3</sup> + 15m <sup>3</sup> = 387.2m <sup>3</sup>	
主給水バイパス配管 (制御弁～上流分岐)	<システム検知> SG水位低による原子炉トリップの自動閉止 50秒 また、Tagg 低による原子炉トリップの自動閉止 110秒	以下のパラメータから階離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位偏差、SG 流量偏差、SG 水位低による原子炉トリップ、主蒸気・主給水配管室温度等	中央制御室において、主給水ポンプ2台を遠隔手動停止 7分 (操作2分(1分/台)、停止5分、合わせて7分)	17分50秒	漏えい量 618.4m <sup>3</sup> 主給水流量 2030m <sup>3</sup> /h 1070秒/3600秒×2030m <sup>3</sup> /h = 603.4m <sup>3</sup> 配管保有水 15m <sup>3</sup> 603.4m <sup>3</sup> + 15m <sup>3</sup> = 618.4m <sup>3</sup>	
<p>【再掲】 表5 漏えい停止までの時間の設定及び系統溢水量 (主給水系)</p>						
建屋	①異常の検知	②事象の判断及び漏えい箇所の特定	③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止	合計 (①+②+③)	系統溢水量 (W=11+12)	
新子母建屋	<システム検知> 主給水流量と主蒸気流量の不一致警報が中央制御室に発信 10分 また、Tagg 低による原子炉トリップの自動閉止 110秒	以下のパラメータから階離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位偏差、SG 流量偏差、SG 水位低による原子炉トリップ、主蒸気・主給水配管室温度等	中央制御室において、原子炉手動トリップ操作後約60秒で原子炉トリップしや断器開+Tagg 低により主給水制御弁は自動閉止 60秒	13分	系統溢水量 W=183.3m <sup>3</sup> 主給水流量 2.00m <sup>3</sup> /h 漏えい量 W1 = 1.0分/60分×2.00m <sup>3</sup> /h = 0.033m <sup>3</sup> 配管保有水量 15.0m <sup>3</sup> 系統保有水量 W2 = 15.0 + 0.0 = 15.0m <sup>3</sup> 82.5m <sup>3</sup> + 81.0m <sup>3</sup> = 163.5m <sup>3</sup>	
	<システム検知> SG水位低による原子炉トリップの自動閉止 50秒 また、Tagg 低による原子炉トリップの自動閉止 110秒	以下のパラメータから階離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位偏差、SG 流量偏差、SG 水位低による原子炉トリップ、主蒸気・主給水配管室温度等	中央制御室において、主給水ポンプ2台を遠隔手動停止 7分 (操作2分(1分/台)、停止5分、合わせて7分)	1分	系統溢水量 W=49.0m <sup>3</sup> 主給水流量 2.00m <sup>3</sup> /h 系統漏えい量 W1 = 1.0分/60分×2.00m <sup>3</sup> /h = 0.033m <sup>3</sup> 配管保有水量 15.0m <sup>3</sup> 系統保有水量 W2 = 15.0 + 0.0 = 15.0m <sup>3</sup> 34.5m <sup>3</sup> + 14.5m <sup>3</sup> = 49.0m <sup>3</sup>	
	<システム検知> SG水位低による原子炉トリップの自動閉止 50秒 また、Tagg 低による原子炉トリップの自動閉止 110秒	以下のパラメータから階離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位偏差、SG 流量偏差、SG 水位低による原子炉トリップ、主蒸気・主給水配管室温度等	中央制御室において、主給水ポンプ2台を遠隔手動停止 7分 (操作2分(1分/台)、停止5分、合わせて7分)	13分	系統溢水量 W=483.1m <sup>3</sup> 主給水流量 2.00m <sup>3</sup> /h = 13.0分/60分×2.00m <sup>3</sup> /h = 0.433m <sup>3</sup> 配管保有水量 15.0m <sup>3</sup> 系統保有水量 W2 = 15.0 + 0.0 = 15.0m <sup>3</sup> 463.1m <sup>3</sup> + 15.0m <sup>3</sup> = 478.1m <sup>3</sup>	
	<システム検知> SG水位低による原子炉トリップの自動閉止 50秒 また、Tagg 低による原子炉トリップの自動閉止 110秒	以下のパラメータから階離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位偏差、SG 流量偏差、SG 水位低による原子炉トリップ、主蒸気・主給水配管室温度等	中央制御室において、主給水ポンプ2台を遠隔手動停止 7分 (操作2分(1分/台)、停止5分、合わせて7分)	18分	系統溢水量 W=618.2m <sup>3</sup> 主給水流量 2.00m <sup>3</sup> /h 系統漏えい量 W1 = 18.0分/60分×2.00m <sup>3</sup> /h = 0.6m <sup>3</sup> 配管保有水量 15.0m <sup>3</sup> 系統保有水量 W2 = 15.0 + 0.0 = 15.0m <sup>3</sup> 603.2m <sup>3</sup> + 15.0m <sup>3</sup> = 618.2m <sup>3</sup>	
<p>【大飯】 記載表現の相違 記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊では、本資料における記載を考慮し、W (系統溢水量)、W1 (系統漏えい量)、W2 (系統保有水量) を定義していることによる相違。</li> <li>・添付資料16「系統別溢水量算出結果」において、建屋別に溢水量を分けて記載する必要があるため、本資料との関係が分かるよう、建屋名称を記載している。</li> <li>・泊では主給水系の評価結果について、2つに分割せずに記載した。</li> </ul> <p>設計方針の相違 プラント設計の違いによる検知方法、検知時間の相違。</p>						



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料2）

大飯発電所3 / 4号炉		女川原子力発電所2号炉		泊発電所3号炉		相違理由
表6 漏えい停止までの時間の設定及び漏えい量（蒸気発生器ブローダウン系）		表6 漏えい停止までの時間の設定及び漏えい量（蒸気発生器ブローダウン系）		表6 漏えい停止までの時間の設定及び系統溢水量（蒸気発生器ブローダウン系）		【大飯】
想定範囲	①異常の検知	②事象の判断及び漏えい箇所の特定	③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止	合計時間 (①+②+③)	漏えい量	【大飯】 記載表現の相違 記載方針の相違
蒸気発生器ブローダウン配管（貫通部～隔離弁）	<システム検知> 主給水流量と主蒸気流量の不一致警報が中央制御室に発信 0分	以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位偏差、SG 流量偏差 蒸、主蒸気、主給水配管 室温度等	中央制御室において原子炉トリップ操作を行い、トリップ後の状況を確認その後、電動補助給水ライン流量調節弁、タービン流量調節弁を遠隔手動閉止 7分 (トリップ後の状況確認5分、操作2分(1分/組)合わせて7分) また、原子炉手動トリップ操作後約60秒で原子炉トリップしや断器開+Tag 低により主給水制御弁は自動閉止 60秒	17分	漏えい量 247.8m <sup>3</sup> 臨界流量 707m <sup>3</sup> /h (口径 38、SG 圧力 61.5kg/cm <sup>2</sup> 以上) 補助給水流量 430m <sup>3</sup> /h + 11分×60分×707m <sup>3</sup> /h + 7分×60分×430m <sup>3</sup> /h = 179.8m <sup>3</sup> 配管保有水量 2.0m <sup>3</sup> 蒸気発生器保有水量 66m <sup>3</sup> 179.8m <sup>3</sup> + 2.0m <sup>3</sup> + 66m <sup>3</sup> = 247.8m <sup>3</sup> ※合計時間(10分+60秒) 漏えい量 235.0m <sup>3</sup> 臨界流量 707m <sup>3</sup> /h (口径 38、SG 圧力 61.5kg/cm <sup>2</sup> 以上) 107秒/3600秒×707m <sup>3</sup> /h = 21.1m <sup>3</sup> 配管保有水量 2.5m <sup>3</sup> 21.1m <sup>3</sup> + 2.5m <sup>3</sup> = 23.6m <sup>3</sup>	・泊では、本資料における記載を考慮し、W（系統溢水量）、W1（系統漏えい量）、W2（系統保有水量）を定義していることによる相違。 ・添付資料 16「系統別溢水量算出結果」において、建屋別に溢水量を分けて記載する必要があるため、本資料との関係が分かるよう、建屋名称を記載している。 ・泊では主給水系の評価結果について、2つに分割せずに記載した。
蒸気発生器ブローダウン配管（隔離弁～アンダグル弁）	<システム検知> SG 水位低による原子炉トリップ 100秒 また、SG 水位低によるブローダウンライン格納容器隔離弁自動閉止 107秒	自動隔離のため判断時間なし 0分	自動隔離のため操作時間なし 0分	107秒	系統保有水量 W = 27.8m <sup>3</sup> 系統溢水量 W1 = 27.8m <sup>3</sup> 臨界流量 689m <sup>3</sup> /h (口径 38×Sch40、圧力 58.7kg/cm <sup>2</sup> 、温度 262℃ 以上) 補助給水流量 240m <sup>3</sup> /h 系統漏えい量 W2 = 14分×60分×240m <sup>3</sup> /h + 14分×60分×689m <sup>3</sup> /h = 216.5m <sup>3</sup> 配管保有水量 15.0m <sup>3</sup> 蒸気発生器保有水量 66.0m <sup>3</sup> 系統保有水量 W = 216.5m <sup>3</sup> + 15.0m <sup>3</sup> + 66.0m <sup>3</sup> = 297.5m <sup>3</sup>	・泊では、本資料における記載を考慮し、W（系統溢水量）、W1（系統漏えい量）、W2（系統保有水量）を定義していることによる相違。 ・添付資料 16「系統別溢水量算出結果」において、建屋別に溢水量を分けて記載する必要があるため、本資料との関係が分かるよう、建屋名称を記載している。 ・泊では主給水系の評価結果について、2つに分割せずに記載した。
建屋	①異常の検知	②事象の判断及び漏えい箇所の特定	③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止	合計 (①+②+③)	系統保有水量 (W = W1 + W2)	【大飯】 記載表現の相違 記載方針の相違
原子炉建屋	<システム検知> SG 水位低による原子炉トリップ 114秒 2分・・・、補助給水配管流量調節弁を自動閉止 2分・・・、d、合わせて4分	以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定 10分・・・ SG 水位偏差、SG 流量偏差等	中央制御室において、主給水隔離弁を手動閉止、補助給水隔離弁、補助給水ポンプ出口流量調節弁を手動閉止 4分 (主給水隔離弁、主給水隔離弁を手動閉止 2分・・・、補助給水ポンプ出口流量調節弁を手動閉止 2分・・・、d、合わせて4分)	16分 ※主給水ライン隔離完了までの時間 合計 (d～eまでの合計) ※ブローダウンによる補助給水ポンプ起動から補助給水ライン流量調節弁完了までの時間 14分 (b～dまでの合計)	系統溢水量 W = 27.8m <sup>3</sup> 臨界流量 689m <sup>3</sup> /h (口径 38×Sch40、圧力 58.7kg/cm <sup>2</sup> 、温度 262℃ 以上) 補助給水流量 240m <sup>3</sup> /h 系統漏えい量 W2 = 14分×60分×240m <sup>3</sup> /h + 14分×60分×689m <sup>3</sup> /h = 216.5m <sup>3</sup> 配管保有水量 15.0m <sup>3</sup> 蒸気発生器保有水量 66.0m <sup>3</sup> 系統保有水量 W = 216.5m <sup>3</sup> + 15.0m <sup>3</sup> + 66.0m <sup>3</sup> = 297.5m <sup>3</sup>	・プラント設計の違いによる検知方法、検知時間の相違。 ・泊では、隔離弁下流のラインについては溢水上有意な影響があるため、想定破損除外を適用している。先行 PWR において当該配管を想定破損除外した実績はない。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																							
<p>表7 漏えい停止までの時間の設定及び漏えい量（補助給水系）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="100 215 168 454">漏えい量</th> <th data-bbox="100 454 168 566">合計時間 (①+②+③)</th> <th data-bbox="100 566 168 774">③漏えい箇所の隔離等 により漏えい停止</th> <th data-bbox="100 774 168 997">②事象の判断及び 漏えい箇所の特定</th> <th data-bbox="100 997 168 1284">①異常の検知</th> <th data-bbox="100 1284 168 1460">想定範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="168 215 593 454">                     漏えい量 294.7m<sup>3</sup>                      臨界流量 892m<sup>3</sup>/h                      (口径 3B、SG 圧力 61.5kg/cm<sup>2</sup> 以上)                      補助給水流速 430m<sup>3</sup>/h                      11分/60分 × 892m<sup>3</sup>/h +                      7分/60分 × 430m<sup>3</sup>/h                      = 213.7m<sup>3</sup>                      配管保有水量 15.0m<sup>3</sup>                      蒸気発生器保有水量 66m<sup>3</sup>                      213.7m<sup>3</sup> + 15m<sup>3</sup> + 66m<sup>3</sup>                      = 294.7m<sup>3</sup>                      ※合計時間(10分+60秒)                 </td> <td data-bbox="168 454 593 566">                     17分                 </td> <td data-bbox="168 566 593 774">                     中央制御室において原子炉トリップ操作を行い、トリップ後の状況を確認し、その後、電動補助給水流速調節弁、タービン駆動補助給水流速調節弁を遠隔手動閉止                      7分                      (トリップ後の状況確認5分、操作2分(1分/個)合わせて7分)                      また、原子炉手動トリップ操作後約60秒で原子炉トリップシヤ断器開+Tavg低により主給水制御弁は自動閉止60秒                 </td> <td data-bbox="168 774 593 997">                     以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定                      10分                      SG 水位偏差、SG 流量偏差、主蒸気・主給水配管室温度等                 </td> <td data-bbox="168 997 593 1284">                     &lt;システム検知&gt;                      主給水流速と主蒸気流量の不一致警報が中央制御室に発信                      0分                 </td> <td data-bbox="168 1284 593 1460">                     補助給水配管                      (主給水管分岐                      ~逆止弁)                 </td> </tr> </tbody> </table>	漏えい量	合計時間 (①+②+③)	③漏えい箇所の隔離等 により漏えい停止	②事象の判断及び 漏えい箇所の特定	①異常の検知	想定範囲	漏えい量 294.7m <sup>3</sup> 臨界流量 892m <sup>3</sup> /h (口径 3B、SG 圧力 61.5kg/cm <sup>2</sup> 以上) 補助給水流速 430m <sup>3</sup> /h 11分/60分 × 892m <sup>3</sup> /h + 7分/60分 × 430m <sup>3</sup> /h = 213.7m <sup>3</sup> 配管保有水量 15.0m <sup>3</sup> 蒸気発生器保有水量 66m <sup>3</sup> 213.7m <sup>3</sup> + 15m <sup>3</sup> + 66m <sup>3</sup> = 294.7m <sup>3</sup> ※合計時間(10分+60秒)	17分	中央制御室において原子炉トリップ操作を行い、トリップ後の状況を確認し、その後、電動補助給水流速調節弁、タービン駆動補助給水流速調節弁を遠隔手動閉止 7分 (トリップ後の状況確認5分、操作2分(1分/個)合わせて7分) また、原子炉手動トリップ操作後約60秒で原子炉トリップシヤ断器開+Tavg低により主給水制御弁は自動閉止60秒	以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位偏差、SG 流量偏差、主蒸気・主給水配管室温度等	<システム検知> 主給水流速と主蒸気流量の不一致警報が中央制御室に発信 0分	補助給水配管 (主給水管分岐 ~逆止弁)	<p>表7 漏えい停止までの時間の設定及び系統溢水量（補助給水系）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="689 215 757 454">漏えい量</th> <th data-bbox="689 454 757 566">合計時間 (①+②+③)</th> <th data-bbox="689 566 757 774">③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止</th> <th data-bbox="689 774 757 997">②事象の判断及び漏えい箇所の特定</th> <th data-bbox="689 997 757 1284">①異常の検知</th> <th data-bbox="689 1284 757 1460">想定範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="757 215 1279 454">                     系統溢水量 W=587.4m<sup>3</sup>                      臨界流量 877m<sup>3</sup>/h                      (口径 3B×Sch80、圧力 85.7kg/cm<sup>2</sup>、温度 230℃ 以上)                      補助給水流速 240m<sup>3</sup>/h                      系統漏えい量 W1                      = 33m<sup>3</sup> × 60min ÷ 60min × 877m<sup>3</sup>/h                      + 60min × 240m<sup>3</sup> ÷ 60min × 240m<sup>3</sup>/h = 506.4m<sup>3</sup>                      配管保有水量 15.0m<sup>3</sup>                      蒸気発生器保有水量 66.0m<sup>3</sup>                      系統保有水量 W = 506.4m<sup>3</sup> + 15.0m<sup>3</sup> + 66.0m<sup>3</sup> = 587.4m<sup>3</sup> </td> <td data-bbox="757 454 1279 566">                     35分                 </td> <td data-bbox="757 566 1279 774">                     ※1 主給水ライン隔離完了までの時間 33分 0~1の合計                      ※2 プラントトリップによる補助給水ポンプ起動から補助給水ラインの隔離完了までの時間 6分 (e~gの合計)                 </td> <td data-bbox="757 774 1279 997">                     中央制御室において緊急負荷降下準備・連絡、緊急負荷降下、プラントトリップ水速確認、主給水制御弁、補助給水制御弁、補助給水出口流量調節弁手動閉止                      24分                      (緊急負荷降下の準備・連絡5分、緊急負荷降下15分、d、e、f、gの合計14分)                      ※1、主給水ライン隔離完了までの時間 2分                      ※2、補助給水ポンプ起動から補助給水ラインの隔離完了までの時間 6分 (e~gの合計)                 </td> <td data-bbox="757 997 1279 1284">                     以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定                      10分                      SG 水位偏差、SG 流量偏差等                 </td> <td data-bbox="757 1284 1279 1460">                     補助給水配管                      (主給水管分岐                      ~逆止弁)                 </td> </tr> </tbody> </table>	漏えい量	合計時間 (①+②+③)	③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止	②事象の判断及び漏えい箇所の特定	①異常の検知	想定範囲	系統溢水量 W=587.4m <sup>3</sup> 臨界流量 877m <sup>3</sup> /h (口径 3B×Sch80、圧力 85.7kg/cm <sup>2</sup> 、温度 230℃ 以上) 補助給水流速 240m <sup>3</sup> /h 系統漏えい量 W1 = 33m <sup>3</sup> × 60min ÷ 60min × 877m <sup>3</sup> /h + 60min × 240m <sup>3</sup> ÷ 60min × 240m <sup>3</sup> /h = 506.4m <sup>3</sup> 配管保有水量 15.0m <sup>3</sup> 蒸気発生器保有水量 66.0m <sup>3</sup> 系統保有水量 W = 506.4m <sup>3</sup> + 15.0m <sup>3</sup> + 66.0m <sup>3</sup> = 587.4m <sup>3</sup>	35分	※1 主給水ライン隔離完了までの時間 33分 0~1の合計 ※2 プラントトリップによる補助給水ポンプ起動から補助給水ラインの隔離完了までの時間 6分 (e~gの合計)	中央制御室において緊急負荷降下準備・連絡、緊急負荷降下、プラントトリップ水速確認、主給水制御弁、補助給水制御弁、補助給水出口流量調節弁手動閉止 24分 (緊急負荷降下の準備・連絡5分、緊急負荷降下15分、d、e、f、gの合計14分) ※1、主給水ライン隔離完了までの時間 2分 ※2、補助給水ポンプ起動から補助給水ラインの隔離完了までの時間 6分 (e~gの合計)	以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位偏差、SG 流量偏差等	補助給水配管 (主給水管分岐 ~逆止弁)	<p>【大飯】</p> <p>記載表現の相違          記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊では、本資料における記載を考慮し、W（系統溢水量）、W1（系統漏えい量）、W2（系統保有水量）を定義していることによる相違。</li> <li>・添付資料 16「系統別溢水量算出結果」において、建屋別に溢水量を分けて記載する必要があるため、本資料との関係が分かるよう、建屋名称を記載している。</li> </ul> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント設計の違いによる検知方法、検知時間の相違。</p>
漏えい量	合計時間 (①+②+③)	③漏えい箇所の隔離等 により漏えい停止	②事象の判断及び 漏えい箇所の特定	①異常の検知	想定範囲																					
漏えい量 294.7m <sup>3</sup> 臨界流量 892m <sup>3</sup> /h (口径 3B、SG 圧力 61.5kg/cm <sup>2</sup> 以上) 補助給水流速 430m <sup>3</sup> /h 11分/60分 × 892m <sup>3</sup> /h + 7分/60分 × 430m <sup>3</sup> /h = 213.7m <sup>3</sup> 配管保有水量 15.0m <sup>3</sup> 蒸気発生器保有水量 66m <sup>3</sup> 213.7m <sup>3</sup> + 15m <sup>3</sup> + 66m <sup>3</sup> = 294.7m <sup>3</sup> ※合計時間(10分+60秒)	17分	中央制御室において原子炉トリップ操作を行い、トリップ後の状況を確認し、その後、電動補助給水流速調節弁、タービン駆動補助給水流速調節弁を遠隔手動閉止 7分 (トリップ後の状況確認5分、操作2分(1分/個)合わせて7分) また、原子炉手動トリップ操作後約60秒で原子炉トリップシヤ断器開+Tavg低により主給水制御弁は自動閉止60秒	以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位偏差、SG 流量偏差、主蒸気・主給水配管室温度等	<システム検知> 主給水流速と主蒸気流量の不一致警報が中央制御室に発信 0分	補助給水配管 (主給水管分岐 ~逆止弁)																					
漏えい量	合計時間 (①+②+③)	③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止	②事象の判断及び漏えい箇所の特定	①異常の検知	想定範囲																					
系統溢水量 W=587.4m <sup>3</sup> 臨界流量 877m <sup>3</sup> /h (口径 3B×Sch80、圧力 85.7kg/cm <sup>2</sup> 、温度 230℃ 以上) 補助給水流速 240m <sup>3</sup> /h 系統漏えい量 W1 = 33m <sup>3</sup> × 60min ÷ 60min × 877m <sup>3</sup> /h + 60min × 240m <sup>3</sup> ÷ 60min × 240m <sup>3</sup> /h = 506.4m <sup>3</sup> 配管保有水量 15.0m <sup>3</sup> 蒸気発生器保有水量 66.0m <sup>3</sup> 系統保有水量 W = 506.4m <sup>3</sup> + 15.0m <sup>3</sup> + 66.0m <sup>3</sup> = 587.4m <sup>3</sup>	35分	※1 主給水ライン隔離完了までの時間 33分 0~1の合計 ※2 プラントトリップによる補助給水ポンプ起動から補助給水ラインの隔離完了までの時間 6分 (e~gの合計)	中央制御室において緊急負荷降下準備・連絡、緊急負荷降下、プラントトリップ水速確認、主給水制御弁、補助給水制御弁、補助給水出口流量調節弁手動閉止 24分 (緊急負荷降下の準備・連絡5分、緊急負荷降下15分、d、e、f、gの合計14分) ※1、主給水ライン隔離完了までの時間 2分 ※2、補助給水ポンプ起動から補助給水ラインの隔離完了までの時間 6分 (e~gの合計)	以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位偏差、SG 流量偏差等	補助給水配管 (主給水管分岐 ~逆止弁)																					



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料2）

大飯発電所3／4号炉		女川原子力発電所2号炉		泊発電所3号炉		相違理由
表8 漏えい停止までの設定及び漏えい量（補助蒸気系）						
想定範囲	①異常の検知 ＜温度検知＞ 温度センサ（60℃）の検知により 補助蒸気遮断弁が自動閉止 5分	②事象の判断及び 漏えい箇所の特定 自動隔離のため判断時間 なし 0分	③漏えい箇所の隔離等 により漏えい停止 自動隔離のため判断時 間なし 0分	合計時間 (①+②+③)	漏えい量	【大飯】 記載表現の相違 記載方針の相違 ・治では、本資料における記載を 考慮し、W（系統溢水量）、W1（系 統漏えい量）、W2（系統保有水 量）を定義していることによる相 違。 ・添付資料16「系統別溢水量算 出結果」において、建屋別に溢水 量を分けて記載する必要があるた め、本資料との関係が分かるよ う、建屋名称を記載している。 設計方針の相違 プラント設計の違いによる検知方 法、検知時間の相違。
補助蒸気供給配管				5分	漏えい量3.7m <sup>3</sup> スチームコンバータ容量 31.3m <sup>3</sup> /h（定格発生蒸気量 30t/hより）5分/60分× 31.3m <sup>3</sup> /h=2.7m <sup>3</sup> 配管保有水量1.0 m <sup>3</sup> 2.7m <sup>3</sup> +1.0 m <sup>3</sup> =3.7m <sup>3</sup>	
想定範囲	①異常の検知 ＜温度検知＞ 温度センサ（60℃）の検知によ り補助蒸気遮断弁が自動閉止 5分 （潮流抵抗球の検知時間は区画 に依存する。補助蒸気遮断弁の閉 止時間は約25秒、検知遅れ10秒 を想定。）	②事象の判断及び 漏えい箇所の特定 温度異常高の警報により、漏え い発生を特定、判断 10分 空図操作自動停止のため、事象 判断時間は考慮しない	③漏えい箇所の隔離等 により漏えい停止 自動隔離のため操作時間 なし 0分	合計 (①+②+③)	系統保有水量 (W=W1+W2) 系統溢水量W=3.7m <sup>3</sup> スチームコンバータ容量31.3m <sup>3</sup> /h (定格発生蒸気量30t/hより) 系統漏えい量W1 =5min÷60min×31.3m <sup>3</sup> /h=2.7m <sup>3</sup> 系統保有水量W2=1.0m <sup>3</sup> 2.7m <sup>3</sup> +1.0m <sup>3</sup> =3.7m <sup>3</sup>	【大飯】 記載表現の相違 記載方針の相違 ・治では、本資料における記載を 考慮し、W（系統溢水量）、W1（系 統漏えい量）、W2（系統保有水 量）を定義していることによる相 違。 ・添付資料16「系統別溢水量算 出結果」において、建屋別に溢水 量を分けて記載する必要があるた め、本資料との関係が分かるよ う、建屋名称を記載している。 設計方針の相違 プラント設計の違いによる検知方 法、検知時間の相違。
検量	原子炉建屋 原子炉 補助建屋			5分		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>補足説明資料 25</p> <p>内部溢水により想定される事象の確認及び解析確認結果</p> <p>女川2号炉では、内部溢水の影響軽減対策として、原子炉の安全停止を達成し、維持するために必要な系統は、内部溢水によって同時に機能が喪失しないように系統分離等の対策を講じており、安全停止パスを確保することとしている。</p> <p>その上で、内部溢水により原子炉に外乱が及ぶ場合について、重畳事象を含めどのような事象が起こる可能性があるかを分析し、内部溢水による影響範囲を評価し、緩和設備に対する機能維持状態を確認し、低温停止が可能であることを確認する。</p> <p>以下に、事象の抽出プロセス、解析前提条件及び解析結果を示す。</p> <p>1. 想定される事象の評価プロセス</p> <p>(1) 前提条件</p> <p>次の事項を前提とし、評価を行うこととする。</p> <p>・内部溢水発生を想定する区画及びその影響範囲の防護対象設備は内部溢水発生により機能が喪失するが、それ以外の区画の防護対象設備は機能が維持される。</p>	<p>補足説明資料 3</p> <p>内部溢水により想定される事象の確認及び解析確認結果</p> <p>泊発電所3号炉では、内部溢水の影響軽減対策として、原子炉の安全停止を達成し、維持するために必要な系統は、内部溢水によって同時に機能が喪失しないように系統分離等の対策を講じており、安全停止パスを確保することとしている。</p> <p>その上で、内部溢水により原子炉に外乱が及ぶ場合について、重畳事象を含めどのような事象が起こる可能性があるかを分析し、内部溢水による影響範囲を評価し、緩和設備に対する機能維持状態を確認し、低温停止が可能であることを確認する。</p> <p>以下に、事象の抽出プロセス、解析前提条件及び解析結果を示す。</p> <p>1. 想定される事象の評価プロセス</p> <p>(1) 前提条件</p> <p>次の事項を前提とし、評価を行うこととする。</p> <p>・内部溢水が発生した場合、原子炉の安全停止ならびに外乱事象の対処に必要な設備は、その機能が維持されることを確認していることから、溢水防護対象設備は機能喪失しないものとする。</p>	<p>【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映</p> <p>【女川】 記載表現の相違</p> <p>【女川】 記載表現の相違</p> <p>【女川】 設計方針の相違</p> <p>女川では「多重性又は多様性を有する防護対象設備は、同時に機能を喪失させない」方針としているが、泊では基本的に女川と同様に「同時に機能を喪失させない」方針としたうえで、更に保守的に「原子炉停止機能及び炉心冷却機能を有する防護対象設備は、多重性又は多様性を有していても溢水により機能を喪失させない」方針としている。</p> <p>機能喪失しないことの確認結果については、溢水影響評価結果（添付資料17, 18, 19）を参照。</p>	



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>・原子炉建屋又はタービン建屋において内部溢水が発生することを仮定し、当該建屋内の防護対象設備以外のものは機能喪失を仮定する。(溢水により機能を喪失する設備は機能喪失を仮定する。)</p> <p>・原子炉建屋又はタービン建屋において発生した内部溢水は、当該建屋以外に影響は及ばない。</p> <p>(2) 抽出プロセスの考え方</p> <p>内部溢水に起因して様々な機器の故障や誤動作に伴う外乱の発生が想定され、また、幾つかの外乱が同時に発生することも考えられる。</p> <p>発生する事象の抽出に当たっては、ある溢水区画において溢水が発生した場合に溢水影響を受ける設備を抽出し、どのような外乱が発生し得るのか、外乱発生後に事象がどのように進展するかについて、安全停止パスの確認と同様にすべての溢水区画について評価することが考えられる。</p> <p>そのためには、常用系設備等の防護対象設備に該当しない設備に対してそれらの配置を網羅的に整理し、溢水区画ごとに溢水影響を詳細に分析することが必要である。しかしながら、このような詳細な分析を実施することは現実的でないことから、防護対象設備に該当しない常用系設備等は、設置された溢水区画によらず溢水影響を受ける可能性があるという保守的な仮定を用いた代替の評価手法により評価することとする。以上を踏まえ、<b>原子炉建屋及びタービン建屋</b>で内部溢水により発生すると考えられる外乱の抽出を行い、内部溢水により誘発される過渡事象等の起回事象(以下「代表事象」という。)を特定する。更に代表事象が重畳することも考慮する。</p> <p>また、代表事象の重畳の<b>組み合わせ</b>の評価については、代表事象の事象進展の特徴から重畳した場合の事象進展を定性的に推定することにより、より厳しい評価結果となりうる<b>組み合わせ</b>を選定し、選定した重畳事象の収束が可能であるかについて解析的に確認を行う。</p>	<p>・原子炉建屋及び原子炉補助建屋（以下「1次系建屋」という）又はタービン建屋（以下「2次系建屋」という）において内部溢水が発生することを仮定し、当該建屋内の防護対象設備以外のものは機能喪失を仮定する（溢水により機能を喪失する設備は機能喪失を仮定する）。</p> <p>・1次系建屋内において発生した内部溢水は、1次系建屋間で影響を及ぼすが、2次系建屋には影響は及ばない。また、2次系建屋において発生した内部溢水は、当該建屋以外に影響は及ばない。</p> <p>(2) 抽出プロセスの考え方</p> <p>内部溢水に起因して様々な機器の故障や誤動作に伴う外乱の発生が想定され、また、幾つかの外乱が同時に発生することも考えられる。</p> <p>発生する事象の抽出に当たっては、ある溢水区画において溢水が発生した場合に溢水影響を受ける設備を抽出し、どのような外乱が発生し得るのか、外乱発生後に事象がどのように進展するかについて、安全停止パスの確認と同様にすべての溢水区画について評価することが考えられる。</p> <p>そのためには、常用系設備等の防護対象設備に該当しない設備に対してそれらの配置を網羅的に整理し、溢水区画ごとに溢水影響を詳細に分析することが必要である。しかしながら、このような詳細な分析を実施することは現実的でないことから、防護対象設備に該当しない常用系設備等は、設置された溢水区画によらず溢水影響を受ける可能性があるという保守的な仮定を用いた代替の評価手法により評価することとする。以上を踏まえ、<b>1次系建屋及び2次系建屋</b>で内部溢水により発生すると考えられる外乱の抽出を行い、内部溢水により誘発される過渡事象等の起回事象(以下「代表事象」という)を特定する。更に代表事象が重畳することも考慮する。</p> <p>また、代表事象の重畳の<b>組合せ</b>の評価については、代表事象の事象進展の特徴から重畳した場合の事象進展を定性的に推定することにより、より厳しい評価結果となりうる<b>組合せ</b>を選定し、選定した重畳事象の収束が可能であるかについて解析的に確認を行う。</p>	<p>【女川】                  記載表現の相違                  建屋名称の相違                  【女川】                  記載方針の相違                  泊は建屋名称の読み替えを行う。</p> <p>【女川】                  記載方針の相違                  女川は、「原子炉建屋」と「タービン建屋」間で影響を及ぼさないこととしており、泊は「1次系建屋」と「2次系建屋」間で影響を及ぼさないこととした。</p> <p>【女川】                  記載方針の相違                  女川は、「原子炉建屋」と「タービン建屋」間で影響を及ぼさないこととしており、泊は「1次系建屋」と「2次系建屋」間で影響を及ぼさないこととした。</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>以下に、内部溢水により想定される事象の抽出から解析評価までのプロセス及びプロセスの各ステップの概要を示す。(図 1.1)</p> <p>【ステップ1】                      評価事象を網羅的に抽出するため、「発電用軽水型原子炉施設の安全評価に関する審査指針」(以下「安全評価審査指針」という。)の評価事象の選定方法に従い、原子炉に有意な影響を与える要因を抽出する。(図 2.1)</p> <p>【ステップ2】                      原子炉に有意な影響を与える要因を誘発する故障を抽出する。(図 2.1)</p> <p>【ステップ3】                      ステップ2で抽出した故障が発生し得る溢水区画を分析する。ここでは、常用系設備等の防護対象設備に該当しない設備は、設置された溢水区画によらず、溢水影響を受ける可能性があるとして仮定する。その際、<b>原子炉建屋及びタービン建屋</b>の一方の建屋における溢水の影響は他方の建屋に及ばないとする。(図 2.1)</p> <p>【ステップ4】                      ステップ2及び3での分析を踏まえ、各建屋で発生する代表事象として扱う事象を特定する。代表事象の特定に当たっては、溢水影響により発生する可能性のある事象の中から最も厳しい事象を想定する。(例えば、<b>原子炉再循環ポンプ</b>(以下「再循環ポンプ」という。)のトリップについては、溢水の規模により1台トリップから全台トリップまで考えられるが、最も厳しくなる全台トリップを想定する。(図 2.1)</p> <p>【ステップ5】                      各建屋で発生する代表事象の解析結果等を踏まえ、代表事象の組み合わせ毎に、重畳を考慮した場合にプラントに与える影響が厳しくなるか否かの分析を行い、解析の要否を整理する。</p>	<p>以下に、内部溢水により想定される事象の抽出から解析評価までのプロセス及びプロセスの各ステップの概要を示す。(図 1.1)</p> <p>【ステップ1】                      評価事象を網羅的に抽出するため、「発電用軽水型原子炉施設の安全評価に関する審査指針」(以下「安全評価審査指針」という。)の評価事象の選定方法に従い、原子炉に有意な影響を与える要因を抽出する。(図 2.1)</p> <p>【ステップ2】                      原子炉に有意な影響を与える要因を誘発する故障を抽出する。(図 2.1)</p> <p>【ステップ3】                      ステップ2で抽出した故障が発生し得る溢水区画を分析する。ここでは、常用系設備等の防護対象設備に該当しない設備は、設置された溢水区画によらず、溢水影響を受ける可能性があるとして仮定する。その際、<b>1次系建屋及び2次系建屋</b>の溢水の影響は当該の建屋以外に影響が及ばないとする。(図 2.1)</p> <p>【ステップ4】                      ステップ2及び3での分析を踏まえ、各建屋で発生する代表事象として扱う事象を特定する。代表事象の特定に当たっては、溢水影響により発生する可能性のある事象の中から最も厳しい事象を想定する。(例えば、<b>1次冷却材ポンプ</b>のトリップについては、溢水の規模により1台トリップから全台トリップまで考えられるが、最も厳しくなる全台トリップを想定する。)(図 2.1)</p> <p>【ステップ5】                      各建屋で発生する代表事象の解析結果等を踏まえ、代表事象の組合せごとに、重畳を考慮した場合にプラントに与える影響が厳しくなるか否かの分析を行い、解析の要否を整理する。</p>	<p>【女川】  <a href="#">記載方針の相違</a>                      女川は、「原子炉建屋」と「タービン建屋」間で影響を及ぼさないこととしており、泊は「1次系建屋」と「2次系建屋」間で影響を及ぼさないこととした。</p> <p>【女川】  <a href="#">記載表現の相違</a>  <a href="#">設備名称の相違</a></p> <p>【女川】  <a href="#">記載表現の相違</a></p>	





赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>【ステップ6】 各建屋での内部溢水の発生を想定した場合においても動作を期待できる緩和系を確認する。</p> <p>【ステップ7】 原子炉停止機能及び炉心冷却機能に単一故障を想定する。 なお、ここでは、内部溢水により溢水影響を受ける設備が機能喪失していることを前提に、溢水影響を受けない溢水区画にある設備に単一故障を更に重ねる。 ※：別添資料1「女川原子力発電所2号炉 内部溢水の影響評価について」にて評価されている設備の機能喪失が発生することを前提としている。</p> <p>【ステップ8】 ステップ7までの分析結果等を踏まえ、抽出した事象の解析を実施し、事象の収束ができることを確認する。</p>	<p>【ステップ6】 各建屋での内部溢水の発生を想定した場合においても動作を期待できる緩和系を確認する。</p> <p>【ステップ7】 原子炉停止機能及び炉心冷却機能に単一故障を想定する。 なお、原子炉停止機能及び炉心冷却機能を有する設備は、溢水防護対象設備として溢水により機能喪失しないことを確認しているため、多重化された設備の一方が単一故障するものとする。</p> <p>【ステップ8】 ステップ7までの分析結果等を踏まえ、抽出した事象の解析を実施し、事象の収束ができることを確認する。</p>	<p>【女川】 設計方針の相違 女川では「多重性又は多様性を有する防護対象設備は、同時に機能を喪失させない」方針としているが、泊では基本的に女川と同様に「同時に機能を喪失させない」方針としたうえで、更に保守的に「原子炉停止機能及び炉心冷却機能を有する防護対象設備は、多重性又は多様性を有していても溢水により機能を喪失させない」方針としている。 機能喪失しないことの確認結果については、溢水影響評価結果（添付資料17, 18, 19）を参照。</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>ステップ1 安全評価審査指針の評価事象の選定方法に従い、原子炉に有意な影響を与える主要な要因を抽出(図2.1参照)</p> <p>ステップ2 主要な要因に対する故障を抽出(図2.1参照)</p> <p>ステップ3 抽出された故障が各建屋において発生し得るかを分析(図2.1参照)</p> <p>ステップ4 各建屋について、分析結果を踏まえ代表事象を特定(図2.1参照)</p> <p>ステップ5 代表事象の重量を抽出(結果を厳しくする事象の組み合わせ)(本文3.(1)(2)参照)</p> <p>ステップ6 内部溢水においても動作を期待できる緩和系の確認(表4.2.1,表5.1参照)</p> <p>ステップ7 事象毎に単一故障想定を割り当てる(表5.2参照)</p> <p>ステップ8 解析実施</p>	 <p>ステップ1 安全評価審査指針の評価事象の選定方法に従い、原子炉に有意な影響を与える主要な要因を抽出(図2.1参照)</p> <p>ステップ2 主要な要因に対する故障を抽出(図2.1参照)</p> <p>ステップ3 抽出された故障が各建屋において発生し得るかを分析(図2.1参照)</p> <p>ステップ4 各建屋について、分析結果を踏まえ代表事象を特定(図2.1参照)</p> <p>ステップ5 代表事象の重量を抽出(結果を厳しくする事象の組み合わせ)(本文3.(1)(2)参照)</p> <p>ステップ6 内部溢水においても動作を期待できる緩和系の確認(表4.2.1,表5.1参照)</p> <p>ステップ7 事象ごとに単一故障想定を割り当てる(表5.2参照)</p> <p>ステップ8 解析実施</p>	<p>相違理由</p>
	<p>図1.1 評価プロセス</p> <p>2. 代表事象の抽出</p> <p>安全評価審査指針の評価事象の選定方法に従い、原子炉に有意な影響を与える主要な要因及びその要因に対する故障の抽出結果を図2.1に示す。また、同図において、抽出した故障が、<b>原子炉建屋及びタービン建屋</b>において発生し得るかを分析し、各建屋において抽出した代表事象を示す。</p> <p>図2.1において抽出された、<b>原子炉建屋及びタービン建屋</b>における内部溢水により発生する可能性のある代表事象を表2.1に示す。</p>	<p>図1.1 評価プロセス</p> <p>2. 代表事象の抽出</p> <p>安全評価審査指針の評価事象の選定方法に従い、原子炉に有意な影響を与える主要な要因及びその要因に対する故障の抽出結果を図2.1に示す。また、同図において、抽出した故障が、<b>1次系建屋及び2次系建屋</b>において発生し得るかを分析し、各建屋において抽出した代表事象を示す。</p> <p>図2.1において抽出された、<b>1次系建屋及び2次系建屋</b>における内部溢水により発生する可能性のある代表事象を表2.1に示す。</p>	<p>【女川】                  記載方針の相違                  女川は、「原子炉建屋」と「タービン建屋」間で影響を及ぼさないこととしており、泊は「1次系建屋」と「2次系建屋」間で影響を及ぼさないこととした。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																										
	<p>表 2.1 抽出された代表事象</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>抽出された代表事象</th> <th>R/B</th> <th>T/B</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>原子炉冷却材系の停止ループの誤起動</td><td>○</td><td>—</td></tr> <tr><td>原子炉冷却材流量の喪失</td><td>○</td><td>○<sup>※1</sup></td></tr> <tr><td>原子炉冷却材流量制御系の誤動作</td><td>○</td><td>—</td></tr> <tr><td>給水流量の全喪失+タービントリップ</td><td>○</td><td>—</td></tr> <tr><td>主蒸気隔離弁の誤閉止</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>逃がし弁開放</td><td>○</td><td>—</td></tr> <tr><td>給水制御系の故障（流量減少）</td><td>○</td><td>—<sup>※2</sup></td></tr> <tr><td>給水制御系の故障<sup>※3</sup></td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>高圧炉心スプレー系の誤起動</td><td>○</td><td>—</td></tr> <tr><td>原子炉隔離時冷却系の誤起動</td><td>○</td><td>—</td></tr> <tr><td>給水加熱喪失</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>負荷の喪失</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>原子炉圧力制御系の故障</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>給水流量の全喪失</td><td>—</td><td>○</td></tr> </tbody> </table> <p>※1 R/Bでは再循環ポンプ全台トリップ、T/Bでは部分台数トリップを想定                  ※2 T/Bではより厳しい給水流量の全喪失を想定                  ※3 原子炉給水制御系の誤信号等により、給水流量が増加する事象は、原子炉設置変更許可申請書に依り、単に「給水制御系の故障」という。</p>	抽出された代表事象	R/B	T/B	原子炉冷却材系の停止ループの誤起動	○	—	原子炉冷却材流量の喪失	○	○ <sup>※1</sup>	原子炉冷却材流量制御系の誤動作	○	—	給水流量の全喪失+タービントリップ	○	—	主蒸気隔離弁の誤閉止	○	○	逃がし弁開放	○	—	給水制御系の故障（流量減少）	○	— <sup>※2</sup>	給水制御系の故障 <sup>※3</sup>	○	○	高圧炉心スプレー系の誤起動	○	—	原子炉隔離時冷却系の誤起動	○	—	給水加熱喪失	—	○	負荷の喪失	—	○	原子炉圧力制御系の故障	—	○	給水流量の全喪失	—	○	<p>表 2.1 抽出された代表事象</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>抽出された代表事象</th> <th>1次系建屋</th> <th>2次系建屋</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>蒸気負荷の異常な増加</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>原子炉冷却材系の停止ループの誤起動</td><td>○</td><td>—</td></tr> <tr><td>蒸気発生器への過剰給水</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈</td><td>○</td><td>—</td></tr> <tr><td>原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>出力運転中の制御棒の異常な引き抜き</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>制御棒の落下及び不整合</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>2次冷却系の異常な減圧</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>主給水流量喪失</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>外部電源喪失</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>原子炉冷却材流量の部分喪失</td><td>○</td><td>—</td></tr> <tr><td>原子炉冷却材流量の喪失</td><td>○</td><td>—</td></tr> <tr><td>負荷の喪失</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>原子炉冷却材系の異常な減圧</td><td>○</td><td>—</td></tr> </tbody> </table>	抽出された代表事象	1次系建屋	2次系建屋	蒸気負荷の異常な増加	—	○	原子炉冷却材系の停止ループの誤起動	○	—	蒸気発生器への過剰給水	○	○	原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈	○	—	原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き	○	○	出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	○	○	制御棒の落下及び不整合	○	○	2次冷却系の異常な減圧	—	○	主給水流量喪失	○	○	外部電源喪失	○	○	原子炉冷却材流量の部分喪失	○	—	原子炉冷却材流量の喪失	○	—	負荷の喪失	○	○	原子炉冷却材系の異常な減圧	○	—	<p>【女川】                  記載方針の相違                  女川は安全評価審査指針のBWRの評価事象から選定しているが、泊はPWRの評価事象から選定した。</p>
抽出された代表事象	R/B	T/B																																																																																											
原子炉冷却材系の停止ループの誤起動	○	—																																																																																											
原子炉冷却材流量の喪失	○	○ <sup>※1</sup>																																																																																											
原子炉冷却材流量制御系の誤動作	○	—																																																																																											
給水流量の全喪失+タービントリップ	○	—																																																																																											
主蒸気隔離弁の誤閉止	○	○																																																																																											
逃がし弁開放	○	—																																																																																											
給水制御系の故障（流量減少）	○	— <sup>※2</sup>																																																																																											
給水制御系の故障 <sup>※3</sup>	○	○																																																																																											
高圧炉心スプレー系の誤起動	○	—																																																																																											
原子炉隔離時冷却系の誤起動	○	—																																																																																											
給水加熱喪失	—	○																																																																																											
負荷の喪失	—	○																																																																																											
原子炉圧力制御系の故障	—	○																																																																																											
給水流量の全喪失	—	○																																																																																											
抽出された代表事象	1次系建屋	2次系建屋																																																																																											
蒸気負荷の異常な増加	—	○																																																																																											
原子炉冷却材系の停止ループの誤起動	○	—																																																																																											
蒸気発生器への過剰給水	○	○																																																																																											
原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈	○	—																																																																																											
原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き	○	○																																																																																											
出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	○	○																																																																																											
制御棒の落下及び不整合	○	○																																																																																											
2次冷却系の異常な減圧	—	○																																																																																											
主給水流量喪失	○	○																																																																																											
外部電源喪失	○	○																																																																																											
原子炉冷却材流量の部分喪失	○	—																																																																																											
原子炉冷却材流量の喪失	○	—																																																																																											
負荷の喪失	○	○																																																																																											
原子炉冷却材系の異常な減圧	○	—																																																																																											

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>図 2.1 外乱分析図(1/3)</p>	<p>図 2.1 外乱分析図 (1/3)</p>	<p>【女川】                  記載方針の相違                  女川はBWRの特徴を踏まえて外乱分析を行っているが、泊はPWRの特徴を踏まえて外乱分析を行った。</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>大飯発電所3 / 4号炉</p>	<p>女川原子力発電所2号炉</p> <p>図 2.1 外乱分析図 (2/3)</p>	<p>泊発電所3号炉</p> <p>図 2.1 外乱分析図 (2/3)</p>	<p>相違理由</p> <p>【女川】                  記載方針の相違                  女川はBWRの特徴を踏まえて外乱分析を行っているが、泊はPWRの特徴を踏まえて外乱分析を行った。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>大飯発電所3 / 4号炉</p>	<p>女川原子力発電所2号炉</p> <p>図 2.1 外乱分析図 (3/3)</p>	<p>泊発電所3号炉</p> <p>図 2.1 外乱分析図 (3/3)</p>	<p>相違理由</p> <p>【女川】              記載方針の相違              女川はBWRの特徴を踏まえて外乱分析を行っているが、泊はPWRの特徴を踏まえて外乱分析を行った。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																													
<p>3. 重畳を考慮した内部溢水影響評価事象の抽出【ステップ5】</p> <p>(1) 重畳を考慮すべき事象の分析</p> <p>2. にて抽出した原子炉建屋及びタービン建屋における内部溢水により発生する可能性のある代表事象について、重畳を考慮した場合に、事象を厳しくする可能性について検討した。結果を表3.1及び表3.2に示す。</p> <p>重畳を考慮すべき事象として抽出された代表事象の概要を表3.3に示す。</p> <p>表 3.1 原子炉建屋における抽出事象及び重畳考慮の要否</p> <table border="1" data-bbox="696 555 1272 938"> <thead> <tr> <th>抽出された事象</th> <th>重畳</th> <th>重畳を考慮しない理由*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I 原子炉冷却材系の停止ループの誤起動</td> <td>—</td> <td>部分出力状態での発生事象であり重畳による影響が小さい</td> </tr> <tr> <td>II 原子炉冷却材流量の喪失</td> <td>—</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>III 原子炉冷却材流量制御系の誤動作</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>IV 給水流量の全喪失+タービントリップ</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>V 主蒸気隔離弁の誤閉止</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>VI 逃がし弁開放</td> <td>—</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>VII 給水制御系の故障（流量減少）</td> <td>—</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>VIII 給水制御系の故障（流量増加）</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>IX HPCSの誤起動</td> <td>—</td> <td>②（上部プレナムへの注水）</td> </tr> <tr> <td>X RCICの誤起動</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>表 3.2 タービン建屋における抽出事象及び重畳考慮の要否</p> <table border="1" data-bbox="696 991 1272 1189"> <thead> <tr> <th>代表事象</th> <th>重畳</th> <th>重畳を考慮しない理由*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I 給水加熱喪失</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>II 原子炉冷却材流量の喪失</td> <td>—</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>III 負荷の喪失</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>IV 主蒸気隔離弁の誤閉止</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>V 原子炉圧力制御系の故障</td> <td>—</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>VI 給水流量の全喪失</td> <td>—</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>VII 給水制御系の故障（流量増加）</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 重畳を考慮しない理由</p> <p>① 再循環流量が減少する事象は、BWR-5では再循環ポンプの慣性が大きく、炉心流量の減少による炉心の冷却能力低下に対し、原子炉出力の減少が早めに作用するため、重畳しても結果は厳しくならない。</p> <p>② 圧力が低下する事象は重畳しても結果は厳しくならない。</p> <p>③ 出力低下する事象は重畳しても結果は厳しくならない。</p>	抽出された事象	重畳	重畳を考慮しない理由*	I 原子炉冷却材系の停止ループの誤起動	—	部分出力状態での発生事象であり重畳による影響が小さい	II 原子炉冷却材流量の喪失	—	①	III 原子炉冷却材流量制御系の誤動作	考慮	—	IV 給水流量の全喪失+タービントリップ	考慮	—	V 主蒸気隔離弁の誤閉止	考慮	—	VI 逃がし弁開放	—	②	VII 給水制御系の故障（流量減少）	—	③	VIII 給水制御系の故障（流量増加）	考慮	—	IX HPCSの誤起動	—	②（上部プレナムへの注水）	X RCICの誤起動	考慮	—	代表事象	重畳	重畳を考慮しない理由*	I 給水加熱喪失	考慮	—	II 原子炉冷却材流量の喪失	—	①	III 負荷の喪失	考慮	—	IV 主蒸気隔離弁の誤閉止	考慮	—	V 原子炉圧力制御系の故障	—	②	VI 給水流量の全喪失	—	③	VII 給水制御系の故障（流量増加）	考慮	—	<p>3. 重畳を考慮した内部溢水影響評価事象の抽出【ステップ5】</p> <p>(1) 重畳を考慮すべき事象の分析</p> <p>2. にて抽出した1次系建屋及び2次系建屋における内部溢水により発生する可能性のある代表事象について、重畳を考慮した場合に、事象を厳しくする可能性について検討した。結果を表3.1及び表3.2に示す。</p> <p>重畳を考慮すべき事象として抽出された代表事象の概要を表3.3に示す。</p> <p>表 3.1 1次系建屋における抽出事象及び重畳考慮の要否</p> <table border="1" data-bbox="1279 555 1861 938"> <thead> <tr> <th>抽出された事象</th> <th>重畳</th> <th>重畳を考慮しない理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I 原子炉冷却材系の停止ループの誤起動</td> <td>—</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>II 蒸気発生器への過剰給水</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>III 原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>IV 原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>V 出力運転中の制御棒の異常な引き抜き</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>VI 制御棒の落下及び不整合</td> <td>—</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>VII 主給水流量喪失</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>VIII 外部電源喪失</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>IX 原子炉冷却材流量の部分喪失</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>X 原子炉冷却材流量の喪失</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>XI 負荷の喪失</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>XII 原子炉冷却材系の異常な減圧</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>表 3.2 2次系建屋における抽出事象及び重畳考慮の要否</p> <table border="1" data-bbox="1279 991 1861 1246"> <thead> <tr> <th>代表事象</th> <th>重畳</th> <th>重畳を考慮しない理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I 蒸気負荷の異常な増加</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>II 蒸気発生器への過剰給水</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>III 原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>IV 出力運転中の制御棒の異常な引き抜き</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>V 制御棒の落下及び不整合</td> <td>—</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>VI 2次冷却系の異常な減圧</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>VII 主給水流量喪失</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>VIII 外部電源喪失</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>IX 負荷の喪失</td> <td>考慮</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 重畳を考慮しない理由</p> <p>① 計画的なN-1ループ運転は想定していないため、重畳は考慮しない。</p> <p>② 溢水により制御棒の落下が生じる場合、全制御棒が落下する。この場合、原子炉出力は低下するのみであり、重畳は考慮しない。なお、溢水により制御棒の不整合は生じない。</p>	抽出された事象	重畳	重畳を考慮しない理由	I 原子炉冷却材系の停止ループの誤起動	—	①	II 蒸気発生器への過剰給水	考慮	—	III 原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈	考慮	—	IV 原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き	考慮	—	V 出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	考慮	—	VI 制御棒の落下及び不整合	—	②	VII 主給水流量喪失	考慮	—	VIII 外部電源喪失	考慮	—	IX 原子炉冷却材流量の部分喪失	考慮	—	X 原子炉冷却材流量の喪失	考慮	—	XI 負荷の喪失	考慮	—	XII 原子炉冷却材系の異常な減圧	考慮	—	代表事象	重畳	重畳を考慮しない理由	I 蒸気負荷の異常な増加	考慮	—	II 蒸気発生器への過剰給水	考慮	—	III 原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き	考慮	—	IV 出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	考慮	—	V 制御棒の落下及び不整合	—	②	VI 2次冷却系の異常な減圧	考慮	—	VII 主給水流量喪失	考慮	—	VIII 外部電源喪失	考慮	—	IX 負荷の喪失	考慮	—	<p>【女川】          記載方針の相違          女川は、「原子炉建屋」と「タービン建屋」間で影響を及ぼさないこととしており、泊は「1次系建屋」と「2次系建屋」間で影響を及ぼさないこととした。</p> <p>【女川】          記載方針の相違          女川はBWRの特徴を踏まえて外乱分析を行っているが、泊はPWRの特徴を踏まえて外乱分析を行った。</p> <p>【女川】          記載方針の相違          女川はBWRの特徴を踏まえて外乱分析を行っているが、泊はPWRの特徴を踏まえて外乱分析を行った。</p>
抽出された事象	重畳	重畳を考慮しない理由*																																																																																																																														
I 原子炉冷却材系の停止ループの誤起動	—	部分出力状態での発生事象であり重畳による影響が小さい																																																																																																																														
II 原子炉冷却材流量の喪失	—	①																																																																																																																														
III 原子炉冷却材流量制御系の誤動作	考慮	—																																																																																																																														
IV 給水流量の全喪失+タービントリップ	考慮	—																																																																																																																														
V 主蒸気隔離弁の誤閉止	考慮	—																																																																																																																														
VI 逃がし弁開放	—	②																																																																																																																														
VII 給水制御系の故障（流量減少）	—	③																																																																																																																														
VIII 給水制御系の故障（流量増加）	考慮	—																																																																																																																														
IX HPCSの誤起動	—	②（上部プレナムへの注水）																																																																																																																														
X RCICの誤起動	考慮	—																																																																																																																														
代表事象	重畳	重畳を考慮しない理由*																																																																																																																														
I 給水加熱喪失	考慮	—																																																																																																																														
II 原子炉冷却材流量の喪失	—	①																																																																																																																														
III 負荷の喪失	考慮	—																																																																																																																														
IV 主蒸気隔離弁の誤閉止	考慮	—																																																																																																																														
V 原子炉圧力制御系の故障	—	②																																																																																																																														
VI 給水流量の全喪失	—	③																																																																																																																														
VII 給水制御系の故障（流量増加）	考慮	—																																																																																																																														
抽出された事象	重畳	重畳を考慮しない理由																																																																																																																														
I 原子炉冷却材系の停止ループの誤起動	—	①																																																																																																																														
II 蒸気発生器への過剰給水	考慮	—																																																																																																																														
III 原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈	考慮	—																																																																																																																														
IV 原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き	考慮	—																																																																																																																														
V 出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	考慮	—																																																																																																																														
VI 制御棒の落下及び不整合	—	②																																																																																																																														
VII 主給水流量喪失	考慮	—																																																																																																																														
VIII 外部電源喪失	考慮	—																																																																																																																														
IX 原子炉冷却材流量の部分喪失	考慮	—																																																																																																																														
X 原子炉冷却材流量の喪失	考慮	—																																																																																																																														
XI 負荷の喪失	考慮	—																																																																																																																														
XII 原子炉冷却材系の異常な減圧	考慮	—																																																																																																																														
代表事象	重畳	重畳を考慮しない理由																																																																																																																														
I 蒸気負荷の異常な増加	考慮	—																																																																																																																														
II 蒸気発生器への過剰給水	考慮	—																																																																																																																														
III 原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き	考慮	—																																																																																																																														
IV 出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	考慮	—																																																																																																																														
V 制御棒の落下及び不整合	—	②																																																																																																																														
VI 2次冷却系の異常な減圧	考慮	—																																																																																																																														
VII 主給水流量喪失	考慮	—																																																																																																																														
VIII 外部電源喪失	考慮	—																																																																																																																														
IX 負荷の喪失	考慮	—																																																																																																																														



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																										
	<p>表 3.3 抽出された代表事象の概要</p> <table border="1" data-bbox="696 207 1272 742"> <thead> <tr> <th>抽出事象</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉冷却材流量制御系の誤動作</td> <td>原子炉の出力運転中に、再循環流量制御系の誤動作により再循環流量（炉心流量）が増加し、原子炉出力が上昇する事象。</td> </tr> <tr> <td>給水流量の全喪失+タービントリップ</td> <td>原子炉の出力運転中に、原子炉水位高（レベル8）信号の誤発生によりタービンがトリップするとともに、原子炉給水ポンプがトリップする事象。</td> </tr> <tr> <td>主蒸気隔離弁の誤閉止</td> <td>原子炉の出力運転中に、主蒸気隔離弁が閉止し、原子炉圧力が上昇する事象。</td> </tr> <tr> <td>給水制御系の故障</td> <td>原子炉の出力運転中に、給水流量が急激に増加し、炉心入口サブクーリングが増加して、原子炉出力が上昇する事象。</td> </tr> <tr> <td>RCICの誤起動</td> <td>原子炉の出力運転中に、原子炉隔離時冷却系が誤起動し、炉心入口サブクーリングが増加して、原子炉出力が上昇する事象。</td> </tr> <tr> <td>給水加熱喪失</td> <td>原子炉の出力運転中に、給水加熱器への蒸気流量が喪失して、給水温度が徐々に低下し、炉心入口サブクーリングが増加して、原子炉出力が上昇する事象。</td> </tr> <tr> <td>負荷の喪失</td> <td>原子炉の出力運転中に、発電機負荷遮断により蒸気加減弁が急速に閉止し、原子炉圧力が上昇する事象。</td> </tr> </tbody> </table>	抽出事象	概要	原子炉冷却材流量制御系の誤動作	原子炉の出力運転中に、再循環流量制御系の誤動作により再循環流量（炉心流量）が増加し、原子炉出力が上昇する事象。	給水流量の全喪失+タービントリップ	原子炉の出力運転中に、原子炉水位高（レベル8）信号の誤発生によりタービンがトリップするとともに、原子炉給水ポンプがトリップする事象。	主蒸気隔離弁の誤閉止	原子炉の出力運転中に、主蒸気隔離弁が閉止し、原子炉圧力が上昇する事象。	給水制御系の故障	原子炉の出力運転中に、給水流量が急激に増加し、炉心入口サブクーリングが増加して、原子炉出力が上昇する事象。	RCICの誤起動	原子炉の出力運転中に、原子炉隔離時冷却系が誤起動し、炉心入口サブクーリングが増加して、原子炉出力が上昇する事象。	給水加熱喪失	原子炉の出力運転中に、給水加熱器への蒸気流量が喪失して、給水温度が徐々に低下し、炉心入口サブクーリングが増加して、原子炉出力が上昇する事象。	負荷の喪失	原子炉の出力運転中に、発電機負荷遮断により蒸気加減弁が急速に閉止し、原子炉圧力が上昇する事象。	<p>表 3.3 抽出された代表事象の概要</p> <table border="1" data-bbox="1279 207 1861 742"> <thead> <tr> <th>抽出事象</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>蒸気負荷の異常な増加</td> <td>原子炉の出力運転中に、タービンバイパス弁、蒸気加減弁又は主蒸気逃がし弁の誤開放により主蒸気流量が異常増加し、1次冷却材の温度が低下して反応度が追加され、原子炉出力が上昇する事象。</td> </tr> <tr> <td>蒸気発生器への過剰給水</td> <td>原子炉の出力運転中に給水制御系の故障等により、蒸気発生器への給水が過剰となり、1次冷却材の温度が低下して反応度が追加され、原子炉出力が上昇する事象。</td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈</td> <td>原子炉の起動時又は出力運転中に、化学体積制御設備の故障等により、1次冷却材中に純水が注入され、1次冷却材中のほう素濃度が低下して反応度が追加される事象。</td> </tr> <tr> <td>原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き</td> <td>原子炉の起動時に、制御棒駆動装置の故障等により、制御棒クラスタが連続的に引き抜かれ、原子炉出力が上昇する事象。</td> </tr> <tr> <td>出力運転中の制御棒の異常な引き抜き</td> <td>原子炉の出力運転中に、制御棒駆動系の故障等により、制御棒クラスタが連続的に引き抜かれ、原子炉出力が上昇する事象。</td> </tr> <tr> <td>2次冷却系の異常な減圧</td> <td>原子炉の高圧停止中に、タービンバイパス弁、主蒸気逃がし弁等の2次冷却系の弁が誤開放し、1次冷却材の温度が低下して、反応度が追加される事象。</td> </tr> <tr> <td>主給水流量喪失</td> <td>原子炉の出力運転中に、主給水ポンプ、復水ポンプ又は給水制御系の故障等により、すべての蒸気発生器への給水が停止し、原子炉からの除熱能力が低下する事象。</td> </tr> <tr> <td>外部電源喪失</td> <td>原子炉の出力運転中に、送電系統又は市内主要電設備の故障等により外部電源が喪失する事象。</td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材流量の部分喪失</td> <td>原子炉の出力運転中に、1次冷却材を駆動する1次冷却材ポンプの故障等により、炉心の冷却材流量が減少する事象。</td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材流量の喪失</td> <td>原子炉の出力運転中に、1次冷却材の流量が定格出力時の流量から自然循環流量にまで大幅に減少する事象。</td> </tr> <tr> <td>負荷の喪失</td> <td>原子炉の出力運転中に、外部送電系統又は蒸気タービンの故障等により、蒸気タービンへの蒸気流量が急減し原子炉圧力が上昇する事象。</td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材系の異常な減圧</td> <td>原子炉の出力運転中に、1次冷却系の圧力制御系の故障等により、原子炉圧力が低下する事象。</td> </tr> </tbody> </table>	抽出事象	概要	蒸気負荷の異常な増加	原子炉の出力運転中に、タービンバイパス弁、蒸気加減弁又は主蒸気逃がし弁の誤開放により主蒸気流量が異常増加し、1次冷却材の温度が低下して反応度が追加され、原子炉出力が上昇する事象。	蒸気発生器への過剰給水	原子炉の出力運転中に給水制御系の故障等により、蒸気発生器への給水が過剰となり、1次冷却材の温度が低下して反応度が追加され、原子炉出力が上昇する事象。	原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈	原子炉の起動時又は出力運転中に、化学体積制御設備の故障等により、1次冷却材中に純水が注入され、1次冷却材中のほう素濃度が低下して反応度が追加される事象。	原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き	原子炉の起動時に、制御棒駆動装置の故障等により、制御棒クラスタが連続的に引き抜かれ、原子炉出力が上昇する事象。	出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	原子炉の出力運転中に、制御棒駆動系の故障等により、制御棒クラスタが連続的に引き抜かれ、原子炉出力が上昇する事象。	2次冷却系の異常な減圧	原子炉の高圧停止中に、タービンバイパス弁、主蒸気逃がし弁等の2次冷却系の弁が誤開放し、1次冷却材の温度が低下して、反応度が追加される事象。	主給水流量喪失	原子炉の出力運転中に、主給水ポンプ、復水ポンプ又は給水制御系の故障等により、すべての蒸気発生器への給水が停止し、原子炉からの除熱能力が低下する事象。	外部電源喪失	原子炉の出力運転中に、送電系統又は市内主要電設備の故障等により外部電源が喪失する事象。	原子炉冷却材流量の部分喪失	原子炉の出力運転中に、1次冷却材を駆動する1次冷却材ポンプの故障等により、炉心の冷却材流量が減少する事象。	原子炉冷却材流量の喪失	原子炉の出力運転中に、1次冷却材の流量が定格出力時の流量から自然循環流量にまで大幅に減少する事象。	負荷の喪失	原子炉の出力運転中に、外部送電系統又は蒸気タービンの故障等により、蒸気タービンへの蒸気流量が急減し原子炉圧力が上昇する事象。	原子炉冷却材系の異常な減圧	原子炉の出力運転中に、1次冷却系の圧力制御系の故障等により、原子炉圧力が低下する事象。	<p>相違理由</p> <p>【女川】  <a href="#">記載方針の相違</a>                  女川はBWRの特徴を踏まえて外乱分析を行っているが、泊はPWRの特徴を踏まえて外乱分析を行った。</p> <p>【女川】  <a href="#">記載表現の相違</a>                  BWRとPWRの表現の相違</p> <p>【女川】  <a href="#">設計方針の相違</a>                  女川では3つ以上の事象の重畳がなかったが、泊では3つ以上の事象の重畳があった。</p>
抽出事象	概要																																												
原子炉冷却材流量制御系の誤動作	原子炉の出力運転中に、再循環流量制御系の誤動作により再循環流量（炉心流量）が増加し、原子炉出力が上昇する事象。																																												
給水流量の全喪失+タービントリップ	原子炉の出力運転中に、原子炉水位高（レベル8）信号の誤発生によりタービンがトリップするとともに、原子炉給水ポンプがトリップする事象。																																												
主蒸気隔離弁の誤閉止	原子炉の出力運転中に、主蒸気隔離弁が閉止し、原子炉圧力が上昇する事象。																																												
給水制御系の故障	原子炉の出力運転中に、給水流量が急激に増加し、炉心入口サブクーリングが増加して、原子炉出力が上昇する事象。																																												
RCICの誤起動	原子炉の出力運転中に、原子炉隔離時冷却系が誤起動し、炉心入口サブクーリングが増加して、原子炉出力が上昇する事象。																																												
給水加熱喪失	原子炉の出力運転中に、給水加熱器への蒸気流量が喪失して、給水温度が徐々に低下し、炉心入口サブクーリングが増加して、原子炉出力が上昇する事象。																																												
負荷の喪失	原子炉の出力運転中に、発電機負荷遮断により蒸気加減弁が急速に閉止し、原子炉圧力が上昇する事象。																																												
抽出事象	概要																																												
蒸気負荷の異常な増加	原子炉の出力運転中に、タービンバイパス弁、蒸気加減弁又は主蒸気逃がし弁の誤開放により主蒸気流量が異常増加し、1次冷却材の温度が低下して反応度が追加され、原子炉出力が上昇する事象。																																												
蒸気発生器への過剰給水	原子炉の出力運転中に給水制御系の故障等により、蒸気発生器への給水が過剰となり、1次冷却材の温度が低下して反応度が追加され、原子炉出力が上昇する事象。																																												
原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈	原子炉の起動時又は出力運転中に、化学体積制御設備の故障等により、1次冷却材中に純水が注入され、1次冷却材中のほう素濃度が低下して反応度が追加される事象。																																												
原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き	原子炉の起動時に、制御棒駆動装置の故障等により、制御棒クラスタが連続的に引き抜かれ、原子炉出力が上昇する事象。																																												
出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	原子炉の出力運転中に、制御棒駆動系の故障等により、制御棒クラスタが連続的に引き抜かれ、原子炉出力が上昇する事象。																																												
2次冷却系の異常な減圧	原子炉の高圧停止中に、タービンバイパス弁、主蒸気逃がし弁等の2次冷却系の弁が誤開放し、1次冷却材の温度が低下して、反応度が追加される事象。																																												
主給水流量喪失	原子炉の出力運転中に、主給水ポンプ、復水ポンプ又は給水制御系の故障等により、すべての蒸気発生器への給水が停止し、原子炉からの除熱能力が低下する事象。																																												
外部電源喪失	原子炉の出力運転中に、送電系統又は市内主要電設備の故障等により外部電源が喪失する事象。																																												
原子炉冷却材流量の部分喪失	原子炉の出力運転中に、1次冷却材を駆動する1次冷却材ポンプの故障等により、炉心の冷却材流量が減少する事象。																																												
原子炉冷却材流量の喪失	原子炉の出力運転中に、1次冷却材の流量が定格出力時の流量から自然循環流量にまで大幅に減少する事象。																																												
負荷の喪失	原子炉の出力運転中に、外部送電系統又は蒸気タービンの故障等により、蒸気タービンへの蒸気流量が急減し原子炉圧力が上昇する事象。																																												
原子炉冷却材系の異常な減圧	原子炉の出力運転中に、1次冷却系の圧力制御系の故障等により、原子炉圧力が低下する事象。																																												
	<p>(2) 抽出事象に対する重畳の分析結果</p> <p>(1) で抽出された重畳を考慮した場合に事象を厳しくする可能性のある事象について、スクラムのタイミング等のプラント挙動について整理し、これらの観点から、重畳の組み合わせを考慮した場合に事象を厳しくする可能性があるかについて、更なる検討を行う。</p> <p>この検討においては、2つの事象の組み合わせについて、重畳を考慮したとしてもどちらか1つの事象に包絡される、重畳を考慮した場合には厳しい評価となる可能性がある、又は、重畳を考慮しない（単独の事象）方が厳しい評価となるかについて、定性的に評価を行う。</p> <p>なお、重畳を考慮した場合に厳しくなる事象の組み合わせが複数同定される場合には、更なる重畳を検討することが必要となるが、次に示すとおり、厳しくなる組み合わせが2つ以上はなかったことから、3つ以上の事象の重畳についても2つの事象の重畳に包含されることを確認した。</p>	<p>(2) 抽出事象に対する重畳の分析結果</p> <p>(1) で抽出された重畳を考慮した場合に事象を厳しくする可能性のある事象について、原子炉トリップのタイミング等のプラント挙動について整理し、これらの観点から、重畳の組合せを考慮した場合に事象を厳しくする可能性があるかについて、更なる検討を行う。</p> <p>この検討においては、2つの事象の組合せについて、重畳を考慮したとしてもどちらか1つの事象に包絡される、重畳を考慮した場合には厳しい評価となる可能性がある、又は、重畳を考慮しない（単独の事象）方が厳しい評価となるかについて、定性的に評価を行う。</p> <p>なお、重畳を考慮した場合に厳しくなる事象の組合せが複数同定される場合には、更なる重畳を検討することが必要となる。</p>																																											

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>a. 原子炉建屋における代表事象の重畳</p> <p>表 3.1 に抽出した重畳を考慮すべき事象について、スクラムのタイミング、蒸気遮断のタイミング等について表 3.4 に整理する。この整理した結果を踏まえ、プラント挙動の観点から抽出した事象の重畳考慮の可否について検討を行った。この検討の結果を表 3.6 に示す。</p> <p>以下に表 3.6 に記載の分析結果について示す。</p> <p>「給水流量の全喪失+タービントリップ」、「主蒸気隔離弁の誤閉止」、「給水制御系の故障（流量増加）」はいずれも主要弁の閉止を伴う圧力上昇事象である。</p> <p>「給水制御系の故障（流量増加）」と「主蒸気隔離弁の誤閉止」を比較すると、「給水制御系の故障（流量増加）」の方が弁の閉止速度が速いため、厳しい結果となる。また、「給水制御系の故障（流量増加）」と「給水流量の全喪失+タービントリップ」を比較すると「給水制御系の故障（流量増加）」の方が弁閉止時の出力が高くなるため厳しい結果となる。</p> <p>これらの事象のうち、「給水制御系の故障（流量増加）」が最もスクラム信号発生が遅い事象であるため、「主蒸気隔離弁の誤閉止」と「給水流量の全喪失+タービントリップ」とは組み合わせない方が結果を厳しくする。</p> <p>「給水制御系の故障（流量増加）」と「原子炉冷却材流量制御系の誤動作」を比較すると、「給水制御系の故障（流量増加）」の方</p>	<p>a. 1次系建屋における代表事象の重畳</p> <p>表 3.1 に抽出した重畳を考慮すべき事象について、原子炉トリップのタイミング等について表 3.4 に整理する。この整理した結果を踏まえ、プラント挙動の観点から抽出した事象の重畳考慮の可否について検討を行った。この検討の結果を表 3.6 に示す。</p> <p>以下に表 3.6 に記載の分析結果について示す。</p> <p>「蒸気発生器への過剰給水」は蒸気発生器による除熱が過大となり1次冷却材温度が低下する事象であり、「主給水流量喪失」及び「負荷の喪失」は蒸気発生器による除熱が喪失して1次冷却材温度が上昇する事象である。これらの外乱が同時に生じた場合、温度低下又は上昇を緩和する働きをするため、組み合わせない方が結果を厳しくする。「外部電源喪失」、「原子炉冷却材流量の部分喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」は外乱発生後早期に原子炉トリップする事象であり、他の外乱が同時に生じた場合でも事象進展に大きな影響を受けないため、単一事象で代表できる。</p> <p>「原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き」は原子炉起動時を想定している事象であるため、原子炉運転中を想定している他の外乱との組合せは考慮する必要がない。また、外乱発生後早期に原子炉トリップする事象であり、他の外乱が同時に生じた場合でも事象進展に大きな影響を受けないことから他の外乱と</p>	<p>【女川】                  記載方針の相違                  女川は、「原子炉建屋」と「タービン建屋」間で影響を及ぼさないこととしており、泊は「1次系建屋」と「2次系建屋」間で影響を及ぼさないこととした。</p> <p>【女川】                  記載表現の相違                  BWRとPWRの表現の相違</p> <p>【女川】                  設計方針の相違                  女川は、蒸気遮断のタイミングも重畳事象の分析に使っているが、泊は使っていない（PWRは1次系と2次系に分かれており蒸気遮断（タービントリップ機能）のタイミングが事象進展及び判断基準に関連するパラメータ（主に原子炉圧力）に与える影響がBWRに比べて大きくなることから考慮する必要はない）。</p> <p>【女川】                  設計方針の相違                  女川では、弁の閉止速度、スクラム信号発生タイミングを事象ごとに比較して厳しい事象、重畳事象を選定しているが、泊では1次冷却材の温度、圧力、反応度添加率を事象ごとに比較して厳しい事象、重畳事象を選定している。</p>	



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>が厳しい結果となる。また、「給水制御系の故障（流量増加）」と「原子炉冷却材流量制御系の誤動作」が重畳した場合、炉心流量の増加による出力上昇に伴い、タービントリップする前に短時間で中性子束高スクラムに至るため、「原子炉冷却材流量制御系の誤動作」とほぼ同様の事象になるため、組み合わせない方が結果を厳しくする。</p> <p>「RCICの誤起動」による注水流量の増加分は定格給水流量に対して約2%程度であり、「給水制御系の故障（流量増加）」による外乱としての増加分である約36%と比べると、注入量が小さいため、結果に大きな影響はない。</p> <p>以上より、原子炉建屋における内部溢水により発生する可能性のある事象の評価事象として、「給水制御系の故障（流量増加）」を評価する。</p> <p>b. タービン建屋における代表事象の重畳</p>	<p>の組合せは考慮する必要がない。</p> <p>以上の分析の結果、二つの事象の重畳を考慮した場合に厳しくなる事象の組合せが複数同定されたため、評価パラメータごとに更なる重畳を検討した結果を表3.8に示す。</p> <p>原子炉圧力の観点では、抽出された事象のうち、「負荷の喪失」が単独事象として最も厳しい事象である。ここで、「蒸気発生器への過剰給水」及び「原子炉冷却材系の異常な減圧」は原子炉圧力を低下させる外乱であり、圧力上昇の観点で厳しくならないため、組合せを考慮しない。「出力運転中の制御棒の異常な引き抜き」及び「主給水流量喪失」は1次冷却材温度の上昇により原子炉圧力上昇をもたらすため、組合せを考慮する。なお、「原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈」は反応度添加率（約<math>2 \times 10^{-5}(\Delta k/k)/s</math>）が「出力運転中の制御棒の異常な引き抜き」で想定する反応度添加率の範囲（<math>\sim 8.6 \times 10^{-4}(\Delta k/k)/s</math>）に包絡されるため、「出力運転中の制御棒の異常な引き抜き」に代表される。</p> <p>DNBRの観点では、抽出された事象のうち、「出力運転中の制御棒の異常な引き抜き」が単独事象として最も厳しい事象である。ここで、「負荷の喪失」は原子炉圧力が上昇すること、及び、早期に原子炉トリップすることから、DNBR低下の観点で厳しくならないため、組合せを考慮しない。なお、「蒸気発生器への過剰給水」の反応度添加率（最大で<math>2 \times 10^{-5}(\Delta k/k)/s</math>程度）、及び、「原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈」の反応度添加率（約<math>2.0 \times 10^{-5}(\Delta k/k)/s</math>）は、「出力運転中の制御棒の異常な引き抜き」で想定する反応度添加率の範囲（<math>\sim 8.6 \times 10^{-4}(\Delta k/k)/s</math>）に包絡されるため、「出力運転中の制御棒の異常な引き抜き」に代表される。</p> <p>以上より、1次系建屋溢水発生時に想定する重畳事象の評価ケースを表3.10に示す。</p> <p>b. 2次系建屋における代表事象の重畳</p>	<p>相違理由</p> <p>【女川】                  記載方針の相違                  女川は、「原子炉建屋」と「タービン建屋」間で影響を及ぼさないこととしており、泊は「1次系建屋」と「2次系建屋」間で影響を及ぼさないこととした。</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>表 3.2 に抽出した重畳を考慮すべき事象について、スクラムのタイミング、蒸気遮断のタイミング等について表 3.5 に整理する。この整理した結果を踏まえ、プラント挙動の観点から抽出した事象の重畳考慮の要否について検討を行った。この検討の結果を表 3.7 に示す。</p> <p>以下に表 3.7 に記載の分析結果について示す。</p> <p>「負荷の喪失」、「主蒸気隔離弁の誤閉止」、「給水制御系の故障（流量増加）」はいずれも主要弁の閉止を伴う圧力上昇事象である。</p> <p>「給水制御系の故障（流量増加）」と「主蒸気隔離弁の誤閉止」を比較すると、「給水制御系の故障（流量増加）」の方が厳しい結果となる。また、「給水制御系の故障（流量増加）」と「負荷の喪失」を比較すると、タービンバイパス弁の不作動を仮定した場合、「給水制御系の故障（流量増加）」の方が弁閉止時の出力が高くなるため厳しい結果となる。</p> <p>これらの事象のうち、「給水制御系の故障（流量増加）」が最もスクラム信号発生が遅い事象であるため、「負荷の喪失」と「主蒸気隔離弁の誤閉止」とは組み合わせない方が結果を厳しくする。</p> <p>「給水制御系の故障（流量増加）」と「給水加熱喪失」は事象開始時に同時に発生すると、「給水制御系の故障（流量増加）」が単独で発生した場合よりは出力が高い状態でタービントリップに至ると考えられる。</p> <p>以上から、タービン建屋における内部溢水により発生する可能性のある事象の評価事象として、「給水制御系の故障（流量増加）」と「給水加熱喪失」の重畳事象を評価する。</p>	<p>表 3.2 に抽出した重畳を考慮すべき事象について、原子炉トリップのタイミング等について表 3.5 に整理する。この整理した結果を踏まえ、プラント挙動の観点から抽出した事象の重畳考慮の要否について検討を行った。この検討の結果を表 3.7 に示す。</p> <p>以下に表 3.7 に記載の分析結果について示す。</p> <p>「蒸気負荷の異常な増加」及び「蒸気発生器への過剰給水」は蒸気発生器による除熱が過大となり1次冷却材温度が低下する事象であり、「主給水流量喪失」及び「負荷の喪失」は蒸気発生器による除熱が喪失して1次冷却材温度が上昇する事象である。これらの外乱が同時に生じた場合、温度低下又は上昇を緩和する働きをするため、組み合わせない方が結果を厳しくする。</p> <p>「外部電源喪失」は外乱発生後早期に原子炉トリップする事象であり、他の外乱が同時に生じた場合でも事象進展に大きな影響を受けないため、単独事象で代表できる。</p> <p>「原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き」及び「2次冷却系の異常な減圧」は原子炉起動時又は停止時を想定している事象であるため、原子炉の出力運転中を想定している他の外乱との組合せは考慮する必要がない。</p> <p>以上の分析の結果、二つの事象の重畳を考慮した場合に厳しくなる事象の組合せが複数同定されたため、評価パラメータごとに更なる重畳を検討した結果を表 3.9 に示す。</p> <p>原子炉圧力の観点では、抽出された事象のうち、「負荷の喪失」が単独事象として最も厳しい事象である。ここで、「蒸気負荷の異常な増加」及び「蒸気発生器への過剰給水」は原子炉圧力を低下させる外乱であり、圧力上昇の観点で厳しくならないため、組合せを考慮しない。「出力運転中の制御棒の異常な引き抜き」及び「主給水流量喪失」は1次冷却材温度の上昇により原子炉圧力上昇をもたらすため、組合せを考慮する。</p>	<p>【女川】 記載表現の相違 BWRとPWRの表現の相違</p> <p>【女川】 設計方針の相違</p> <p>女川は、蒸気遮断のタイミングも重畳事象の分析に使っているが、泊は使っていない（PWRは1次系と2次系に分かれており蒸気遮断（タービントリップ機能）のタイミングが事象進展及び判断基準に関連するパラメータ（主に原子炉圧力）に与える影響がBWRに比べて大きくならないことから考慮する必要はない）。</p> <p>【女川】 設計方針の相違</p> <p>女川では、弁の閉止速度、スクラム信号発生のタイミングを事象ごとに比較して厳しい事象、重畳事象を選定しているが、泊では1次冷却材の温度、圧力、反応度添加率を事象ごとに比較して厳しい事象、重畳事象を選定している。</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>DNBRの観点では、抽出された事象のうち、「出力運転中の制御棒の異常な引き抜き」が単独事象として最も厳しい事象である。ここで、「負荷の喪失」は原子炉圧力が上昇すること、及び、早期に原子炉トリップすることから、DNBR低下の観点で厳しくならないため、組合せを考慮しない。なお、「蒸気負荷の異常な増加」の反応度添加率（最大で<math>3 \times 10^{-5}(\Delta k/k)/s</math>程度）及び「蒸気発生器への過剰給水」による反応度添加率（最大で<math>2 \times 10^{-5}(\Delta k/k)/s</math>程度）は、「出力運転中の制御棒の異常な引き抜き」で想定する反応度添加率の範囲（<math>\sim 8.6 \times 10^{-4}(\Delta k/k)/s</math>）に包絡されるため、「出力運転中の制御棒の異常な引き抜き」に代表される。</p> <p>以上より、2次系建屋溢水発生時に想定する重畳事象の評価ケースを表3.11に示す。なお、抽出された重畳事象は1次系建屋溢水発生時に想定する重畳事象に包絡されるため、評価は不要である。</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																					
	<p>表 3.4 想定される代表事象（単独事象）の解析結果（<b>原子炉建屋溢水発生時を想定</b>）</p> <table border="1" data-bbox="703 252 1265 1289"> <thead> <tr> <th>スクラム タイミング</th> <th>蒸気遮断タイミン 及び 弁の閉止遅延</th> <th>蒸気遮断時 の出力</th> <th>原子炉圧力 ピーク値</th> <th>中性子束 ピーク値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉冷却材流量制 御系の誤動作</td> <td>原子炉停止手順に従い隔離</td> <td>—</td> <td>約 6.8MPa[gage]</td> <td>約 127%</td> </tr> <tr> <td>給水流量の全喪失 タービントリップ*</td> <td>TB トリップ (MSV閉)</td> <td>約 105%</td> <td>約 7.7MPa[gage]</td> <td>約 118%</td> </tr> <tr> <td>主蒸気隔離弁 の誤閉止</td> <td>0秒後 (MSIV閉(誤閉止))</td> <td>約 105%</td> <td>約 7.8MPa[gage]</td> <td>初期値 を超えない</td> </tr> <tr> <td>給水制御系の故障 (流量増加)</td> <td>約 9秒後 (MSV閉(LS TBトリップ))</td> <td>約 113%</td> <td>約 7.8MPa[gage]</td> <td>約 131%</td> </tr> </tbody> </table> <p>注 タービントリップが単独で発生した場合とほぼ同様の事象となるため、負荷の喪失事象の解析結果を参考に記載</p>	スクラム タイミング	蒸気遮断タイミン 及び 弁の閉止遅延	蒸気遮断時 の出力	原子炉圧力 ピーク値	中性子束 ピーク値	原子炉冷却材流量制 御系の誤動作	原子炉停止手順に従い隔離	—	約 6.8MPa[gage]	約 127%	給水流量の全喪失 タービントリップ*	TB トリップ (MSV閉)	約 105%	約 7.7MPa[gage]	約 118%	主蒸気隔離弁 の誤閉止	0秒後 (MSIV閉(誤閉止))	約 105%	約 7.8MPa[gage]	初期値 を超えない	給水制御系の故障 (流量増加)	約 9秒後 (MSV閉(LS TBトリップ))	約 113%	約 7.8MPa[gage]	約 131%	<p>表 3.4 想定される代表事象（単独事象）の解析結果（<b>1次系建屋溢水発生時を想定</b>）</p> <table border="1" data-bbox="1285 252 1848 1129"> <thead> <tr> <th>原子炉トリップタイミン グ</th> <th>原子炉圧力 ピーク値</th> <th>DNBR 最小値</th> <th>燃料エンタルピ ピーク値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>蒸気発生器への過剰給水</td> <td>圧力上昇幅 約 0.2MPa</td> <td>約 2.03</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材中のほう素の異常 な希釈</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>原子炉起動時における制御棒の 異常な引き抜き</td> <td>約 17.4MPa[gage]</td> <td>—</td> <td>約 344kJ/kg</td> </tr> <tr> <td>出力運転中の制御棒の異常な引 き抜き</td> <td>圧力上昇幅 約 0.8MPa</td> <td>約 1.56</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>主給水流量喪失</td> <td>約 17.3MPa[gage]</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>外部電源喪失</td> <td>「主給水流量喪失」、「原子炉冷却材流量の喪失」解析で包含される</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材流量の部分喪失</td> <td>圧力上昇幅 約 0.3MPa</td> <td>約 1.99</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材流量の喪失</td> <td>圧力上昇幅 約 0.6MPa</td> <td>約 1.75</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>負荷の喪失</td> <td>約 17.8MPa[gage]</td> <td>約 2.02</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材系の異常な減圧</td> <td>約 0.4秒後 (原子炉圧力低)</td> <td>約 1.86</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	原子炉トリップタイミン グ	原子炉圧力 ピーク値	DNBR 最小値	燃料エンタルピ ピーク値	蒸気発生器への過剰給水	圧力上昇幅 約 0.2MPa	約 2.03	—	原子炉冷却材中のほう素の異常 な希釈	—	—	—	原子炉起動時における制御棒の 異常な引き抜き	約 17.4MPa[gage]	—	約 344kJ/kg	出力運転中の制御棒の異常な引 き抜き	圧力上昇幅 約 0.8MPa	約 1.56	—	主給水流量喪失	約 17.3MPa[gage]	—	—	外部電源喪失	「主給水流量喪失」、「原子炉冷却材流量の喪失」解析で包含される	—	—	原子炉冷却材流量の部分喪失	圧力上昇幅 約 0.3MPa	約 1.99	—	原子炉冷却材流量の喪失	圧力上昇幅 約 0.6MPa	約 1.75	—	負荷の喪失	約 17.8MPa[gage]	約 2.02	—	原子炉冷却材系の異常な減圧	約 0.4秒後 (原子炉圧力低)	約 1.86	—	<p>【女川】                  記載方針の相違                  女川は、「原子炉建屋」と「ター                  ビン建屋」間で影響を及ぼさない                  こととしており、泊は「1次系建                  屋」と「2次系建屋」間で影響を                  及ぼさないこととした。</p> <p>【女川】                  設計方針の相違                  女川は、蒸気遮断のタイミング等                  も重畳事象の分析に使っている                  が、泊は使っていない（PWRは1                  次系と2次系に分かれており蒸気                  遮断（タービントリップ機能）の                  タイミングが事象進展及び判断基                  準に関連するパラメータ（主に原                  子炉圧力）に与える影響がBWRに                  比べて大きくならないことから考                  慮する必要はない。</p>
スクラム タイミング	蒸気遮断タイミン 及び 弁の閉止遅延	蒸気遮断時 の出力	原子炉圧力 ピーク値	中性子束 ピーク値																																																																				
原子炉冷却材流量制 御系の誤動作	原子炉停止手順に従い隔離	—	約 6.8MPa[gage]	約 127%																																																																				
給水流量の全喪失 タービントリップ*	TB トリップ (MSV閉)	約 105%	約 7.7MPa[gage]	約 118%																																																																				
主蒸気隔離弁 の誤閉止	0秒後 (MSIV閉(誤閉止))	約 105%	約 7.8MPa[gage]	初期値 を超えない																																																																				
給水制御系の故障 (流量増加)	約 9秒後 (MSV閉(LS TBトリップ))	約 113%	約 7.8MPa[gage]	約 131%																																																																				
原子炉トリップタイミン グ	原子炉圧力 ピーク値	DNBR 最小値	燃料エンタルピ ピーク値																																																																					
蒸気発生器への過剰給水	圧力上昇幅 約 0.2MPa	約 2.03	—																																																																					
原子炉冷却材中のほう素の異常 な希釈	—	—	—																																																																					
原子炉起動時における制御棒の 異常な引き抜き	約 17.4MPa[gage]	—	約 344kJ/kg																																																																					
出力運転中の制御棒の異常な引 き抜き	圧力上昇幅 約 0.8MPa	約 1.56	—																																																																					
主給水流量喪失	約 17.3MPa[gage]	—	—																																																																					
外部電源喪失	「主給水流量喪失」、「原子炉冷却材流量の喪失」解析で包含される	—	—																																																																					
原子炉冷却材流量の部分喪失	圧力上昇幅 約 0.3MPa	約 1.99	—																																																																					
原子炉冷却材流量の喪失	圧力上昇幅 約 0.6MPa	約 1.75	—																																																																					
負荷の喪失	約 17.8MPa[gage]	約 2.02	—																																																																					
原子炉冷却材系の異常な減圧	約 0.4秒後 (原子炉圧力低)	約 1.86	—																																																																					



赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																	
	<p>表 3.5 想定される代表事象 (単独事象) の解析結果 (タービン建屋溢水発生時を想定)</p> <table border="1" data-bbox="703 245 1272 1326"> <thead> <tr> <th>スクラム タイミング</th> <th>蒸気遮断タイミング 及び 弁の閉止速度</th> <th>蒸気遮断時の 出力</th> <th>原子炉圧力 ピーク値</th> <th>中性子束 ピーク値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>約 92 秒 (TPM)</td> <td>原子炉停止手順に従い、隔離</td> <td>—</td> <td>約 7.1MPa [gage]</td> <td>約 122%</td> </tr> <tr> <td>約 0.1 秒 (蒸気加減弁急閉)</td> <td>蒸気遮断 (蒸気加減弁急閉)</td> <td>約 105%</td> <td>約 7.7MPa [gage]</td> <td>約 118%</td> </tr> <tr> <td>約 0.3 秒後 (MSIV 閉)</td> <td>0 秒後 (MSIV 閉 (隔離止))</td> <td>約 105%</td> <td>約 7.8MPa [gage]</td> <td>初期値 を超えない</td> </tr> <tr> <td>約 9 秒後 (MSV 閉)</td> <td>約 9 秒後 (MSV 閉 (U.S TB トリップ))</td> <td>約 113%</td> <td>約 7.8MPa [gage]</td> <td>約 131%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 給水加熱器1段の喪失を想定。複数段の機能喪失時には、炉心入口サブコールドの増加量が大きくなり、スクラム時刻は早くなるが、スクラムする出力点は変わらず、スクラム後の評価は同様となると考えられる。</p>	スクラム タイミング	蒸気遮断タイミング 及び 弁の閉止速度	蒸気遮断時の 出力	原子炉圧力 ピーク値	中性子束 ピーク値	約 92 秒 (TPM)	原子炉停止手順に従い、隔離	—	約 7.1MPa [gage]	約 122%	約 0.1 秒 (蒸気加減弁急閉)	蒸気遮断 (蒸気加減弁急閉)	約 105%	約 7.7MPa [gage]	約 118%	約 0.3 秒後 (MSIV 閉)	0 秒後 (MSIV 閉 (隔離止))	約 105%	約 7.8MPa [gage]	初期値 を超えない	約 9 秒後 (MSV 閉)	約 9 秒後 (MSV 閉 (U.S TB トリップ))	約 113%	約 7.8MPa [gage]	約 131%	<p>表 3.5 想定される代表事象 (単独事象) の解析結果 (2次系建屋溢水発生時を想定)</p> <table border="1" data-bbox="1292 245 1861 1166"> <thead> <tr> <th>原子炉トリップタイミング</th> <th>原子炉圧力 ピーク値</th> <th>DNBR 最小値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉トリップしない</td> <td>圧力上昇幅 約 0.2MPa</td> <td>約 1.88</td> </tr> <tr> <td>約 56 秒後 (蒸気発生器水位異常高によるタービ ントリップ)</td> <td>圧力上昇幅 約 0.2MPa</td> <td>約 2.03</td> </tr> <tr> <td>約 9.5 秒後 (出力領域中性子束高 (低設定))</td> <td>約 17.4MPa [gage]</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>約 60 秒後 (過大温度 ΔT 高)</td> <td>圧力上昇幅 約 0.8MPa</td> <td>約 1.56</td> </tr> <tr> <td>— (高温停止状態)</td> <td>—</td> <td>臨界に至らない</td> </tr> <tr> <td>約 27 秒後 (原子炉圧力高)</td> <td>約 17.3MPa [gage]</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>「主給水流量喪失」, 「原子炉冷却材流量の喪失 (表 3.4)」 解析で包含される</td> <td>約 17.8MPa [gage]</td> <td>約 2.02</td> </tr> </tbody> </table>	原子炉トリップタイミング	原子炉圧力 ピーク値	DNBR 最小値	原子炉トリップしない	圧力上昇幅 約 0.2MPa	約 1.88	約 56 秒後 (蒸気発生器水位異常高によるタービ ントリップ)	圧力上昇幅 約 0.2MPa	約 2.03	約 9.5 秒後 (出力領域中性子束高 (低設定))	約 17.4MPa [gage]	—	約 60 秒後 (過大温度 ΔT 高)	圧力上昇幅 約 0.8MPa	約 1.56	— (高温停止状態)	—	臨界に至らない	約 27 秒後 (原子炉圧力高)	約 17.3MPa [gage]	—	「主給水流量喪失」, 「原子炉冷却材流量の喪失 (表 3.4)」 解析で包含される	約 17.8MPa [gage]	約 2.02	<p>【女川】          記載方針の相違          女川は、「原子炉建屋」と「タービン建屋」間で影響を及ぼさないこととしており、泊は「1次系建屋」と「2次系建屋」間で及ぼさないこととした。</p> <p>【女川】          設計方針の相違          女川は、蒸気遮断のタイミング等も重畳事象の分析に使っているが、泊は使っていない (PWRは1次系と2次系に分かれており蒸気遮断 (タービントリップ機能) のタイミングが事象進展及び判断基準に関連するパラメータ (主に原子炉圧力) に与える影響がBWRに比べて大きくならないことから考慮する必要はない)。</p>
スクラム タイミング	蒸気遮断タイミング 及び 弁の閉止速度	蒸気遮断時の 出力	原子炉圧力 ピーク値	中性子束 ピーク値																																																
約 92 秒 (TPM)	原子炉停止手順に従い、隔離	—	約 7.1MPa [gage]	約 122%																																																
約 0.1 秒 (蒸気加減弁急閉)	蒸気遮断 (蒸気加減弁急閉)	約 105%	約 7.7MPa [gage]	約 118%																																																
約 0.3 秒後 (MSIV 閉)	0 秒後 (MSIV 閉 (隔離止))	約 105%	約 7.8MPa [gage]	初期値 を超えない																																																
約 9 秒後 (MSV 閉)	約 9 秒後 (MSV 閉 (U.S TB トリップ))	約 113%	約 7.8MPa [gage]	約 131%																																																
原子炉トリップタイミング	原子炉圧力 ピーク値	DNBR 最小値																																																		
原子炉トリップしない	圧力上昇幅 約 0.2MPa	約 1.88																																																		
約 56 秒後 (蒸気発生器水位異常高によるタービ ントリップ)	圧力上昇幅 約 0.2MPa	約 2.03																																																		
約 9.5 秒後 (出力領域中性子束高 (低設定))	約 17.4MPa [gage]	—																																																		
約 60 秒後 (過大温度 ΔT 高)	圧力上昇幅 約 0.8MPa	約 1.56																																																		
— (高温停止状態)	—	臨界に至らない																																																		
約 27 秒後 (原子炉圧力高)	約 17.3MPa [gage]	—																																																		
「主給水流量喪失」, 「原子炉冷却材流量の喪失 (表 3.4)」 解析で包含される	約 17.8MPa [gage]	約 2.02																																																		

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																
	<p>表 3.6 重畳事象の分析 (原子炉建屋溢水発生時)</p> <table border="1"> <tr> <th data-bbox="696 212 757 515">①原子炉冷却材循環系の動作</th> <th data-bbox="696 515 757 738">②給水流量の全喪失 + タービントリップ</th> <th data-bbox="696 738 757 962">③主蒸気隔離弁の閉止</th> <th data-bbox="696 962 757 1185">④給水制御系の故障 (流量増加)</th> </tr> <tr> <td data-bbox="757 212 931 515">①原子炉冷却材循環系の動作</td> <td data-bbox="757 515 931 738">X スクラムタイミンが正しいが、②は圧力上昇の観点から厳しくプラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。</td> <td data-bbox="757 738 931 962">X 隔離弁の閉止タイミンが正しいが、③は圧力上昇の観点から厳しくプラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。</td> <td data-bbox="757 962 931 1185">X スクラムタイミンが正しいが、④は出力上昇が速く、かつ、③は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="931 212 1084 515">②給水流量の全喪失 タービントリップ</td> <td data-bbox="931 515 1084 738">X スクラムタイミンが正しいが、②は圧力上昇の観点から厳しくプラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。</td> <td data-bbox="931 738 1084 962">X 隔離弁の閉止タイミンが正しいが、③は圧力上昇の観点から厳しくプラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。</td> <td data-bbox="931 962 1084 1185">X スクラムタイミンが正しいが、④は出力上昇が速く、かつ、③は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1084 212 1272 515">③主蒸気隔離弁の閉止</td> <td data-bbox="1084 515 1272 738">X スクラムタイミンが正しいが、③は圧力上昇の観点から厳しくプラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。</td> <td data-bbox="1084 738 1272 962">X 隔離弁の閉止タイミンが正しいが、③は圧力上昇の観点から厳しくプラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。</td> <td data-bbox="1084 962 1272 1185">X スクラムタイミンが正しいが、④は出力上昇が速く、かつ、③は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1272 212 1279 1497">④給水制御系の故障 (流量増加)</td> <td data-bbox="1272 515 1279 1497">X スクラムタイミンが正しいが、④は出力上昇が速く、かつ、③は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。</td> <td data-bbox="1272 738 1279 1497">X スクラムタイミンが正しいが、④は出力上昇が速く、かつ、③は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。</td> <td data-bbox="1272 962 1279 1497">X スクラムタイミンが正しいが、④は出力上昇が速く、かつ、③は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。</td> </tr> </table>	①原子炉冷却材循環系の動作	②給水流量の全喪失 + タービントリップ	③主蒸気隔離弁の閉止	④給水制御系の故障 (流量増加)	①原子炉冷却材循環系の動作	X スクラムタイミンが正しいが、②は圧力上昇の観点から厳しくプラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	X 隔離弁の閉止タイミンが正しいが、③は圧力上昇の観点から厳しくプラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	X スクラムタイミンが正しいが、④は出力上昇が速く、かつ、③は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	②給水流量の全喪失 タービントリップ	X スクラムタイミンが正しいが、②は圧力上昇の観点から厳しくプラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	X 隔離弁の閉止タイミンが正しいが、③は圧力上昇の観点から厳しくプラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	X スクラムタイミンが正しいが、④は出力上昇が速く、かつ、③は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	③主蒸気隔離弁の閉止	X スクラムタイミンが正しいが、③は圧力上昇の観点から厳しくプラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	X 隔離弁の閉止タイミンが正しいが、③は圧力上昇の観点から厳しくプラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	X スクラムタイミンが正しいが、④は出力上昇が速く、かつ、③は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	④給水制御系の故障 (流量増加)	X スクラムタイミンが正しいが、④は出力上昇が速く、かつ、③は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	X スクラムタイミンが正しいが、④は出力上昇が速く、かつ、③は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	X スクラムタイミンが正しいが、④は出力上昇が速く、かつ、③は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	<p>表 3.6 重畳事象の分析 (1次系建屋溢水発生時) (1/5)</p> <table border="1"> <tr> <th data-bbox="1285 212 1346 515">①原子炉冷却材循環系の動作</th> <th data-bbox="1285 515 1346 738">②給水流量の全喪失 + タービントリップ</th> <th data-bbox="1285 738 1346 962">③主蒸気隔離弁の閉止</th> <th data-bbox="1285 962 1346 1185">④給水制御系の故障 (流量増加)</th> <th data-bbox="1346 212 1406 515">⑤原子炉冷却材循環系の動作</th> <th data-bbox="1346 515 1406 738">⑥外部電源喪失</th> <th data-bbox="1346 738 1406 962">⑦玉砕水流量喪失</th> <th data-bbox="1346 962 1406 1185">⑧出力運転中の初期降の真実引き抜き</th> <th data-bbox="1346 1185 1406 1497">⑨原子炉冷却材循環系の動作</th> <th data-bbox="1406 212 1467 515">⑩原子炉冷却材循環系の動作</th> <th data-bbox="1406 515 1467 738">⑪原子炉冷却材循環系の動作</th> <th data-bbox="1406 738 1467 962">⑫原子炉冷却材循環系の動作</th> <th data-bbox="1406 962 1467 1185">⑬原子炉冷却材循環系の動作</th> <th data-bbox="1406 1185 1467 1497">⑭原子炉冷却材循環系の動作</th> </tr> <tr> <td data-bbox="1467 212 1606 515">①原子炉冷却材循環系の動作</td> <td data-bbox="1467 515 1606 738">X スクラムタイミンが正しいが、②は圧力上昇の観点から厳しくプラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。</td> <td data-bbox="1467 738 1606 962">X スクラムタイミンが正しいが、③は圧力上昇の観点から厳しくプラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。</td> <td data-bbox="1467 962 1606 1185">X スクラムタイミンが正しいが、④は出力上昇が速く、かつ、③は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。</td> <td data-bbox="1467 1185 1606 1497">X スクラムタイミンが正しいが、④は出力上昇が速く、かつ、③は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。</td> <td data-bbox="1606 212 1767 515">X スクラムタイミンが正しいが、⑥は出力上昇が速く、かつ、⑤は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。</td> <td data-bbox="1606 515 1767 738">X スクラムタイミンが正しいが、⑦は出力上昇が速く、かつ、⑤は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。</td> <td data-bbox="1606 738 1767 962">X スクラムタイミンが正しいが、⑧は出力上昇が速く、かつ、⑤は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。</td> <td data-bbox="1606 962 1767 1185">X スクラムタイミンが正しいが、⑨は出力上昇が速く、かつ、⑤は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。</td> <td data-bbox="1606 1185 1767 1497">X スクラムタイミンが正しいが、⑩は出力上昇が速く、かつ、⑤は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。</td> <td data-bbox="1767 212 1928 515">X スクラムタイミンが正しいが、⑪は出力上昇が速く、かつ、⑤は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。</td> <td data-bbox="1767 515 1928 738">X スクラムタイミンが正しいが、⑫は出力上昇が速く、かつ、⑤は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。</td> <td data-bbox="1767 738 1928 962">X スクラムタイミンが正しいが、⑬は出力上昇が速く、かつ、⑤は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。</td> <td data-bbox="1767 962 1928 1497">X スクラムタイミンが正しいが、⑭は出力上昇が速く、かつ、⑤は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。</td> </tr> </table>	①原子炉冷却材循環系の動作	②給水流量の全喪失 + タービントリップ	③主蒸気隔離弁の閉止	④給水制御系の故障 (流量増加)	⑤原子炉冷却材循環系の動作	⑥外部電源喪失	⑦玉砕水流量喪失	⑧出力運転中の初期降の真実引き抜き	⑨原子炉冷却材循環系の動作	⑩原子炉冷却材循環系の動作	⑪原子炉冷却材循環系の動作	⑫原子炉冷却材循環系の動作	⑬原子炉冷却材循環系の動作	⑭原子炉冷却材循環系の動作	①原子炉冷却材循環系の動作	X スクラムタイミンが正しいが、②は圧力上昇の観点から厳しくプラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	X スクラムタイミンが正しいが、③は圧力上昇の観点から厳しくプラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	X スクラムタイミンが正しいが、④は出力上昇が速く、かつ、③は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	X スクラムタイミンが正しいが、④は出力上昇が速く、かつ、③は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	X スクラムタイミンが正しいが、⑥は出力上昇が速く、かつ、⑤は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	X スクラムタイミンが正しいが、⑦は出力上昇が速く、かつ、⑤は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	X スクラムタイミンが正しいが、⑧は出力上昇が速く、かつ、⑤は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	X スクラムタイミンが正しいが、⑨は出力上昇が速く、かつ、⑤は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	X スクラムタイミンが正しいが、⑩は出力上昇が速く、かつ、⑤は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	X スクラムタイミンが正しいが、⑪は出力上昇が速く、かつ、⑤は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	X スクラムタイミンが正しいが、⑫は出力上昇が速く、かつ、⑤は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	X スクラムタイミンが正しいが、⑬は出力上昇が速く、かつ、⑤は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	X スクラムタイミンが正しいが、⑭は出力上昇が速く、かつ、⑤は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	<p>相違理由</p> <p>【女川】      記載方針の相違      女川はBWRの特徴を踏まえて重畳分析を行っているが、泊はPWRの特徴を踏まえて重畳分析を行った。</p>
①原子炉冷却材循環系の動作	②給水流量の全喪失 + タービントリップ	③主蒸気隔離弁の閉止	④給水制御系の故障 (流量増加)																																																
①原子炉冷却材循環系の動作	X スクラムタイミンが正しいが、②は圧力上昇の観点から厳しくプラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	X 隔離弁の閉止タイミンが正しいが、③は圧力上昇の観点から厳しくプラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	X スクラムタイミンが正しいが、④は出力上昇が速く、かつ、③は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。																																																
②給水流量の全喪失 タービントリップ	X スクラムタイミンが正しいが、②は圧力上昇の観点から厳しくプラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	X 隔離弁の閉止タイミンが正しいが、③は圧力上昇の観点から厳しくプラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	X スクラムタイミンが正しいが、④は出力上昇が速く、かつ、③は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。																																																
③主蒸気隔離弁の閉止	X スクラムタイミンが正しいが、③は圧力上昇の観点から厳しくプラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	X 隔離弁の閉止タイミンが正しいが、③は圧力上昇の観点から厳しくプラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	X スクラムタイミンが正しいが、④は出力上昇が速く、かつ、③は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。																																																
④給水制御系の故障 (流量増加)	X スクラムタイミンが正しいが、④は出力上昇が速く、かつ、③は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	X スクラムタイミンが正しいが、④は出力上昇が速く、かつ、③は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	X スクラムタイミンが正しいが、④は出力上昇が速く、かつ、③は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。																																																
①原子炉冷却材循環系の動作	②給水流量の全喪失 + タービントリップ	③主蒸気隔離弁の閉止	④給水制御系の故障 (流量増加)	⑤原子炉冷却材循環系の動作	⑥外部電源喪失	⑦玉砕水流量喪失	⑧出力運転中の初期降の真実引き抜き	⑨原子炉冷却材循環系の動作	⑩原子炉冷却材循環系の動作	⑪原子炉冷却材循環系の動作	⑫原子炉冷却材循環系の動作	⑬原子炉冷却材循環系の動作	⑭原子炉冷却材循環系の動作																																						
①原子炉冷却材循環系の動作	X スクラムタイミンが正しいが、②は圧力上昇の観点から厳しくプラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	X スクラムタイミンが正しいが、③は圧力上昇の観点から厳しくプラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	X スクラムタイミンが正しいが、④は出力上昇が速く、かつ、③は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	X スクラムタイミンが正しいが、④は出力上昇が速く、かつ、③は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	X スクラムタイミンが正しいが、⑥は出力上昇が速く、かつ、⑤は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	X スクラムタイミンが正しいが、⑦は出力上昇が速く、かつ、⑤は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	X スクラムタイミンが正しいが、⑧は出力上昇が速く、かつ、⑤は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	X スクラムタイミンが正しいが、⑨は出力上昇が速く、かつ、⑤は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	X スクラムタイミンが正しいが、⑩は出力上昇が速く、かつ、⑤は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	X スクラムタイミンが正しいが、⑪は出力上昇が速く、かつ、⑤は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	X スクラムタイミンが正しいが、⑫は出力上昇が速く、かつ、⑤は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	X スクラムタイミンが正しいが、⑬は出力上昇が速く、かつ、⑤は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。	X スクラムタイミンが正しいが、⑭は出力上昇が速く、かつ、⑤は主蒸気停止手前で原子炉を保護する①に比べ原子炉圧力の観点から厳しく、プラント上で動作しては影響が大きい。重畳事象はタービントリップによる溢水に起因する。重畳事象である②により代表できる。																																						





赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																														
		<p>表 3.6 重畳事象の分析 (1次系建屋溢水発生時) (3/5)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1285 217 1352 252">①原反発 発生への 過剰給水</th> <th data-bbox="1359 217 1426 252">②原子炉冷却材 中のほう素の濃 常な濃度</th> <th data-bbox="1433 217 1500 252">③原子炉起動時に おける制御棒の高 常な引き抜き</th> <th data-bbox="1507 217 1574 252">④出力運転中に 制御棒の高常な 引き抜き</th> <th data-bbox="1581 217 1648 252">⑤主給水流量管 失</th> <th data-bbox="1655 217 1722 252">⑥外部電源喪失</th> <th data-bbox="1729 217 1796 252">⑦原子炉トリップの 流量の部分喪失</th> <th data-bbox="1803 217 1870 252">⑧原子炉トリップの 流量の喪失</th> <th data-bbox="1877 217 1944 252">⑨負荷の喪失</th> <th data-bbox="1951 217 2018 252">⑩原子炉冷却材 系の異常な減圧</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1285 256 1352 1201">-</td> <td data-bbox="1359 256 1426 1201">-</td> <td data-bbox="1433 256 1500 1201">-</td> <td data-bbox="1507 256 1574 1201">-</td> <td data-bbox="1581 256 1648 1201">-</td> <td data-bbox="1655 256 1722 1201">-</td> <td data-bbox="1729 256 1796 1201">-</td> <td data-bbox="1803 256 1870 1201">-</td> <td data-bbox="1877 256 1944 1201">-</td> <td data-bbox="1951 256 2018 1201">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1285 1206 1352 1497">⑥外掛 電源管 失</td> <td data-bbox="1359 1206 1426 1497">-</td> <td data-bbox="1433 1206 1500 1497">-</td> <td data-bbox="1507 1206 1574 1497">-</td> <td data-bbox="1581 1206 1648 1497">-</td> <td data-bbox="1655 1206 1722 1497">-</td> <td data-bbox="1729 1206 1796 1497">-</td> <td data-bbox="1803 1206 1870 1497">-</td> <td data-bbox="1877 1206 1944 1497">-</td> <td data-bbox="1951 1206 2018 1497">-</td> </tr> </tbody> </table>	①原反発 発生への 過剰給水	②原子炉冷却材 中のほう素の濃 常な濃度	③原子炉起動時に おける制御棒の高 常な引き抜き	④出力運転中に 制御棒の高常な 引き抜き	⑤主給水流量管 失	⑥外部電源喪失	⑦原子炉トリップの 流量の部分喪失	⑧原子炉トリップの 流量の喪失	⑨負荷の喪失	⑩原子炉冷却材 系の異常な減圧	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	⑥外掛 電源管 失	-	-	-	-	-	-	-	-	-	<p>相違理由</p> <p>【女川】  <a href="#">記載方針の相違</a>          女川はBWRの特徴を踏まえて重畳分析を行っているが、泊はPWRの特徴を踏まえて重畳分析を行った。</p>
①原反発 発生への 過剰給水	②原子炉冷却材 中のほう素の濃 常な濃度	③原子炉起動時に おける制御棒の高 常な引き抜き	④出力運転中に 制御棒の高常な 引き抜き	⑤主給水流量管 失	⑥外部電源喪失	⑦原子炉トリップの 流量の部分喪失	⑧原子炉トリップの 流量の喪失	⑨負荷の喪失	⑩原子炉冷却材 系の異常な減圧																								
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-																								
⑥外掛 電源管 失	-	-	-	-	-	-	-	-	-																								

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																												
		<p>表 3.6 重畳事象の分析（1次系建屋溢水発生時）(4/5)</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="1285 213 1350 316">⑧原子炉格納材 床の異常な配圧</td> <td data-bbox="1357 213 1422 316">X 原子炉トリップ 時のタイミンが 遅い等の原因 により、格納 材の配圧が異常 な値を示す。</td> <td data-bbox="1429 213 1494 316">X 原子炉トリップ 時のタイミンが 遅い等の原因 により、格納 材の配圧が異常 な値を示す。</td> <td data-bbox="1500 213 1565 316">X 原子炉トリップ 時のタイミンが 遅い等の原因 により、格納 材の配圧が異常 な値を示す。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1285 320 1350 422">⑨負荷の喪失</td> <td data-bbox="1357 320 1422 422">X 原子炉トリップ 時のタイミンが 遅い等の原因 により、格納 材の配圧が異常 な値を示す。</td> <td data-bbox="1429 320 1494 422">X 原子炉トリップ 時のタイミンが 遅い等の原因 により、格納 材の配圧が異常 な値を示す。</td> <td data-bbox="1500 320 1565 422">X 原子炉トリップ 時のタイミンが 遅い等の原因 により、格納 材の配圧が異常 な値を示す。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1285 427 1350 529">⑩原子炉格納材 位置の喪失</td> <td data-bbox="1357 427 1422 529">X ⑧は管の外径を 考慮して、 原子炉格納材 位置の喪失が 発生する。</td> <td data-bbox="1429 427 1494 529">X ⑧は管の外径を 考慮して、 原子炉格納材 位置の喪失が 発生する。</td> <td data-bbox="1500 427 1565 529">X ⑧は管の外径を 考慮して、 原子炉格納材 位置の喪失が 発生する。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1285 534 1350 636">⑪原子炉格納材 位置の部分的喪失</td> <td data-bbox="1357 534 1422 636">X ⑧は管の外径を 考慮して、 原子炉格納材 位置の喪失が 発生する。</td> <td data-bbox="1429 534 1494 636">X ⑧は管の外径を 考慮して、 原子炉格納材 位置の喪失が 発生する。</td> <td data-bbox="1500 534 1565 636">X ⑧は管の外径を 考慮して、 原子炉格納材 位置の喪失が 発生する。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1285 641 1350 743">⑫外部電源喪失</td> <td data-bbox="1357 641 1422 743">-</td> <td data-bbox="1429 641 1494 743">-</td> <td data-bbox="1500 641 1565 743">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1285 748 1350 850">⑬土砂水浸襲 発生</td> <td data-bbox="1357 748 1422 850">-</td> <td data-bbox="1429 748 1494 850">-</td> <td data-bbox="1500 748 1565 850">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1285 855 1350 957">⑭出力運転中の 制御棒の異常な 引き抜き</td> <td data-bbox="1357 855 1422 957">-</td> <td data-bbox="1429 855 1494 957">-</td> <td data-bbox="1500 855 1565 957">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1285 962 1350 1064">⑮原子炉起動時に おける制御棒の異 常な引き抜き</td> <td data-bbox="1357 962 1422 1064">-</td> <td data-bbox="1429 962 1494 1064">-</td> <td data-bbox="1500 962 1565 1064">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1285 1069 1350 1171">⑯原子炉格納材 中心のほり素の異 常な配配</td> <td data-bbox="1357 1069 1422 1171">-</td> <td data-bbox="1429 1069 1494 1171">-</td> <td data-bbox="1500 1069 1565 1171">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1285 1176 1350 1278">⑰格納材 左側への 漏れ排水</td> <td data-bbox="1357 1176 1422 1278">-</td> <td data-bbox="1429 1176 1494 1278">-</td> <td data-bbox="1500 1176 1565 1278">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1285 1283 1350 1385">⑱原子 炉格納 材位置 の喪失</td> <td data-bbox="1357 1283 1422 1385">-</td> <td data-bbox="1429 1283 1494 1385">-</td> <td data-bbox="1500 1283 1565 1385">⑳原子 炉格納 材位置 の喪失</td> </tr> </table>	⑧原子炉格納材 床の異常な配圧	X 原子炉トリップ 時のタイミンが 遅い等の原因 により、格納 材の配圧が異常 な値を示す。	X 原子炉トリップ 時のタイミンが 遅い等の原因 により、格納 材の配圧が異常 な値を示す。	X 原子炉トリップ 時のタイミンが 遅い等の原因 により、格納 材の配圧が異常 な値を示す。	⑨負荷の喪失	X 原子炉トリップ 時のタイミンが 遅い等の原因 により、格納 材の配圧が異常 な値を示す。	X 原子炉トリップ 時のタイミンが 遅い等の原因 により、格納 材の配圧が異常 な値を示す。	X 原子炉トリップ 時のタイミンが 遅い等の原因 により、格納 材の配圧が異常 な値を示す。	⑩原子炉格納材 位置の喪失	X ⑧は管の外径を 考慮して、 原子炉格納材 位置の喪失が 発生する。	X ⑧は管の外径を 考慮して、 原子炉格納材 位置の喪失が 発生する。	X ⑧は管の外径を 考慮して、 原子炉格納材 位置の喪失が 発生する。	⑪原子炉格納材 位置の部分的喪失	X ⑧は管の外径を 考慮して、 原子炉格納材 位置の喪失が 発生する。	X ⑧は管の外径を 考慮して、 原子炉格納材 位置の喪失が 発生する。	X ⑧は管の外径を 考慮して、 原子炉格納材 位置の喪失が 発生する。	⑫外部電源喪失	-	-	-	⑬土砂水浸襲 発生	-	-	-	⑭出力運転中の 制御棒の異常な 引き抜き	-	-	-	⑮原子炉起動時に おける制御棒の異 常な引き抜き	-	-	-	⑯原子炉格納材 中心のほり素の異 常な配配	-	-	-	⑰格納材 左側への 漏れ排水	-	-	-	⑱原子 炉格納 材位置 の喪失	-	-	⑳原子 炉格納 材位置 の喪失	<p>【女川】  <a href="#">記載方針の相違</a>          女川はBWRの特徴を踏まえて重畳          分析を行っているが、泊はPWRの          特徴を踏まえて重畳分析を行っ          た。</p>
⑧原子炉格納材 床の異常な配圧	X 原子炉トリップ 時のタイミンが 遅い等の原因 により、格納 材の配圧が異常 な値を示す。	X 原子炉トリップ 時のタイミンが 遅い等の原因 により、格納 材の配圧が異常 な値を示す。	X 原子炉トリップ 時のタイミンが 遅い等の原因 により、格納 材の配圧が異常 な値を示す。																																												
⑨負荷の喪失	X 原子炉トリップ 時のタイミンが 遅い等の原因 により、格納 材の配圧が異常 な値を示す。	X 原子炉トリップ 時のタイミンが 遅い等の原因 により、格納 材の配圧が異常 な値を示す。	X 原子炉トリップ 時のタイミンが 遅い等の原因 により、格納 材の配圧が異常 な値を示す。																																												
⑩原子炉格納材 位置の喪失	X ⑧は管の外径を 考慮して、 原子炉格納材 位置の喪失が 発生する。	X ⑧は管の外径を 考慮して、 原子炉格納材 位置の喪失が 発生する。	X ⑧は管の外径を 考慮して、 原子炉格納材 位置の喪失が 発生する。																																												
⑪原子炉格納材 位置の部分的喪失	X ⑧は管の外径を 考慮して、 原子炉格納材 位置の喪失が 発生する。	X ⑧は管の外径を 考慮して、 原子炉格納材 位置の喪失が 発生する。	X ⑧は管の外径を 考慮して、 原子炉格納材 位置の喪失が 発生する。																																												
⑫外部電源喪失	-	-	-																																												
⑬土砂水浸襲 発生	-	-	-																																												
⑭出力運転中の 制御棒の異常な 引き抜き	-	-	-																																												
⑮原子炉起動時に おける制御棒の異 常な引き抜き	-	-	-																																												
⑯原子炉格納材 中心のほり素の異 常な配配	-	-	-																																												
⑰格納材 左側への 漏れ排水	-	-	-																																												
⑱原子 炉格納 材位置 の喪失	-	-	⑳原子 炉格納 材位置 の喪失																																												

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																				
		<p>表 3.6 重畳事象の分析（1次系建屋溢水発生時）(5/5)</p> <table border="1" data-bbox="1285 231 1854 1460"> <tr> <td data-bbox="1317 247 1400 359">⑩原子炉冷却材系の異常な減圧</td> <td data-bbox="1406 247 1691 359">                     ×                      減圧によるDWR低下の観点では⑩が厳しいが、負荷の喪失による圧力上昇の観点では⑩が厳しい。阿事象はお互いの外相による影響を相殺するため、重畳は考慮しない                      【抽出事象：一】                 </td> <td data-bbox="1697 247 1792 359"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1317 363 1400 475">⑨負荷の喪失</td> <td data-bbox="1406 363 1691 475"></td> <td data-bbox="1697 363 1792 475">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1317 480 1400 592">⑧原子炉冷却材流量の喪失</td> <td data-bbox="1406 480 1691 592">-</td> <td data-bbox="1697 480 1792 592">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1317 596 1400 708">⑦原子炉冷却材流量の部分喪失</td> <td data-bbox="1406 596 1691 708">-</td> <td data-bbox="1697 596 1792 708">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1317 713 1400 825">⑥外部電源喪失</td> <td data-bbox="1406 713 1691 825">-</td> <td data-bbox="1697 713 1792 825">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1317 829 1400 941">⑤主給水流量喪失</td> <td data-bbox="1406 829 1691 941">-</td> <td data-bbox="1697 829 1792 941">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1317 946 1400 1058">④出力運転中の制御棒の異常な引き抜き</td> <td data-bbox="1406 946 1691 1058">-</td> <td data-bbox="1697 946 1792 1058">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1317 1062 1400 1174">③原子炉起動時に おける制御棒の異常な引き抜き</td> <td data-bbox="1406 1062 1691 1174">-</td> <td data-bbox="1697 1062 1792 1174">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1317 1179 1400 1291">②原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈</td> <td data-bbox="1406 1179 1691 1291">-</td> <td data-bbox="1697 1179 1792 1291">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1317 1295 1400 1407">①蒸気発生器への過剰給水</td> <td data-bbox="1406 1295 1691 1407">-</td> <td data-bbox="1697 1295 1792 1407">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1317 1412 1400 1460">⑩負荷の喪失</td> <td data-bbox="1406 1412 1691 1460"></td> <td data-bbox="1697 1412 1792 1460">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1317 1465 1400 1513">⑩原子炉冷却材系の異常な減圧</td> <td data-bbox="1406 1465 1691 1513"></td> <td data-bbox="1697 1465 1792 1513">-</td> </tr> </table> <p data-bbox="1787 1157 1814 1444">○：重畳事象が厳しい ×：単独事象が厳しい</p>	⑩原子炉冷却材系の異常な減圧	× 減圧によるDWR低下の観点では⑩が厳しいが、負荷の喪失による圧力上昇の観点では⑩が厳しい。阿事象はお互いの外相による影響を相殺するため、重畳は考慮しない 【抽出事象：一】		⑨負荷の喪失		-	⑧原子炉冷却材流量の喪失	-	-	⑦原子炉冷却材流量の部分喪失	-	-	⑥外部電源喪失	-	-	⑤主給水流量喪失	-	-	④出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	-	-	③原子炉起動時に おける制御棒の異常な引き抜き	-	-	②原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈	-	-	①蒸気発生器への過剰給水	-	-	⑩負荷の喪失		-	⑩原子炉冷却材系の異常な減圧		-	<p>【女川】                      記載方針の相違                      女川はBWRの特徴を踏まえて重畳分析を行っているが、泊はPWRの特徴を踏まえて重畳分析を行った。</p>
⑩原子炉冷却材系の異常な減圧	× 減圧によるDWR低下の観点では⑩が厳しいが、負荷の喪失による圧力上昇の観点では⑩が厳しい。阿事象はお互いの外相による影響を相殺するため、重畳は考慮しない 【抽出事象：一】																																						
⑨負荷の喪失		-																																					
⑧原子炉冷却材流量の喪失	-	-																																					
⑦原子炉冷却材流量の部分喪失	-	-																																					
⑥外部電源喪失	-	-																																					
⑤主給水流量喪失	-	-																																					
④出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	-	-																																					
③原子炉起動時に おける制御棒の異常な引き抜き	-	-																																					
②原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈	-	-																																					
①蒸気発生器への過剰給水	-	-																																					
⑩負荷の喪失		-																																					
⑩原子炉冷却材系の異常な減圧		-																																					



赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																								
	<p>表 3.7 重畳事象の分析 (タービン建屋溢水発生時)</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="696 212 920 300">④給水制御系の故障 (流量増加)</td> <td data-bbox="696 212 920 518">○</td> <td data-bbox="696 212 920 518">○</td> <td data-bbox="696 212 920 518">主蒸気止まり弁の閉止により反応度が増加される④の方が出力上昇が速いため、④の故障が単独で発生した場合よりも厳しい事象となる。 【抽出事象：①+④】</td> </tr> <tr> <td data-bbox="696 518 920 603">②負荷の喪失</td> <td data-bbox="696 518 920 603">×</td> <td data-bbox="696 518 920 603">×</td> <td data-bbox="696 518 920 603">スクラムタイミングが速い①が出力上昇が速いため、②により直ちにスクラムする④により代表できる。 【抽出事象：④】</td> </tr> <tr> <td data-bbox="696 603 920 687">①給水加熱喪失</td> <td data-bbox="696 603 920 687">-</td> <td data-bbox="696 603 920 687">-</td> <td data-bbox="696 603 920 687">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="696 687 920 772">①主蒸気隔離弁の閉閉止</td> <td data-bbox="696 687 920 772">×</td> <td data-bbox="696 687 920 772">-</td> <td data-bbox="696 687 920 772">スクラムタイミングが速い①が出力上昇が速いため、②により直ちにスクラムする④により代表できる。 【抽出事象：②】</td> </tr> <tr> <td data-bbox="696 772 920 857">②給水加熱喪失</td> <td data-bbox="696 772 920 857">-</td> <td data-bbox="696 772 920 857">-</td> <td data-bbox="696 772 920 857">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="696 857 920 941">①主蒸気隔離弁の閉閉止</td> <td data-bbox="696 857 920 941">-</td> <td data-bbox="696 857 920 941">-</td> <td data-bbox="696 857 920 941">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="696 941 920 1026">④給水制御系の故障 (流量増加)</td> <td data-bbox="696 941 920 1026">-</td> <td data-bbox="696 941 920 1026">-</td> <td data-bbox="696 941 920 1026">スクラムタイミングが速い①が出力上昇が速いため、④により直ちにスクラムする④により代表できる。 【抽出事象：④】</td> </tr> </table>	④給水制御系の故障 (流量増加)	○	○	主蒸気止まり弁の閉止により反応度が増加される④の方が出力上昇が速いため、④の故障が単独で発生した場合よりも厳しい事象となる。 【抽出事象：①+④】	②負荷の喪失	×	×	スクラムタイミングが速い①が出力上昇が速いため、②により直ちにスクラムする④により代表できる。 【抽出事象：④】	①給水加熱喪失	-	-	-	①主蒸気隔離弁の閉閉止	×	-	スクラムタイミングが速い①が出力上昇が速いため、②により直ちにスクラムする④により代表できる。 【抽出事象：②】	②給水加熱喪失	-	-	-	①主蒸気隔離弁の閉閉止	-	-	-	④給水制御系の故障 (流量増加)	-	-	スクラムタイミングが速い①が出力上昇が速いため、④により直ちにスクラムする④により代表できる。 【抽出事象：④】	<p>表 3.7 重畳事象の分析 (2次系建屋溢水発生時) (1/4)</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="1285 212 1361 300">①負荷の喪失</td> <td data-bbox="1285 212 1361 320">×</td> <td data-bbox="1285 212 1361 320">×</td> <td data-bbox="1285 212 1361 320">過剰に伴う出力上昇によるDNERで⑦が速い。負荷が速い方が、負荷が速い方が出力上昇の観点では⑦が速い。【抽出事象：①】</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1285 320 1361 405">②外部電源喪失</td> <td data-bbox="1285 320 1361 405">×</td> <td data-bbox="1285 320 1361 405">×</td> <td data-bbox="1285 320 1361 405">DNER低下の観点で⑦が速い。重畳事象は⑦により直ちに原子炉トリップする圧力上昇の観点では⑦が速い。【抽出事象：②】</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1285 405 1361 489">③主給水流量喪失</td> <td data-bbox="1285 405 1361 489">×</td> <td data-bbox="1285 405 1361 489">×</td> <td data-bbox="1285 405 1361 489">過剰に伴う出力上昇によるDNERで⑦が速い。負荷が速い方が、負荷が速い方が出力上昇の観点では⑦が速い。【抽出事象：③】</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1285 489 1361 574">⑤2次系冷却水の異常な減圧</td> <td data-bbox="1285 489 1361 574">×</td> <td data-bbox="1285 489 1361 574">×</td> <td data-bbox="1285 489 1361 574">①は出力運転時を想定しており、想定するプラント状態が③と異なるため、重畳は考慮しない。【抽出事象：①】</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1285 574 1361 659">④出力運転中の制御棒の異常な引き抜き</td> <td data-bbox="1285 574 1361 659">○</td> <td data-bbox="1285 574 1361 659">○</td> <td data-bbox="1285 574 1361 659">制御棒の引き抜きにより正の反応度が追加される④の方がDNER低下の観点で速い。重畳事象は過剰に追加の観点により速い事象となる。【抽出事象：④】</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1285 659 1361 743">③原子炉起動時に伴う制御棒の異常な引き抜き</td> <td data-bbox="1285 659 1361 743">×</td> <td data-bbox="1285 659 1361 743">×</td> <td data-bbox="1285 659 1361 743">①は出力運転時を想定しており、想定するプラント状態が③と異なるため、重畳は考慮しない。【抽出事象：①】</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1285 743 1361 828">②蒸気発生器への過剰給水</td> <td data-bbox="1285 743 1361 828">○</td> <td data-bbox="1285 743 1361 828">○</td> <td data-bbox="1285 743 1361 828">蒸気発生器への過剰給水により正の反応度が追加される②の方がDNER低下の観点で速い。重畳事象は過剰に追加の観点により速い事象となる。【抽出事象：②】</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1285 828 1361 912">①蒸気発生器への過剰給水</td> <td data-bbox="1285 828 1361 912">-</td> <td data-bbox="1285 828 1361 912">-</td> <td data-bbox="1285 828 1361 912">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1285 912 1361 997">②蒸気発生器への過剰給水</td> <td data-bbox="1285 912 1361 997">-</td> <td data-bbox="1285 912 1361 997">-</td> <td data-bbox="1285 912 1361 997">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1285 997 1361 1082">③蒸気発生器への過剰給水</td> <td data-bbox="1285 997 1361 1082">-</td> <td data-bbox="1285 997 1361 1082">-</td> <td data-bbox="1285 997 1361 1082">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1285 1082 1361 1166">④蒸気発生器への過剰給水</td> <td data-bbox="1285 1082 1361 1166">-</td> <td data-bbox="1285 1082 1361 1166">-</td> <td data-bbox="1285 1082 1361 1166">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1285 1166 1361 1251">⑤蒸気発生器への過剰給水</td> <td data-bbox="1285 1166 1361 1251">-</td> <td data-bbox="1285 1166 1361 1251">-</td> <td data-bbox="1285 1166 1361 1251">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1285 1251 1361 1335">⑥蒸気発生器への過剰給水</td> <td data-bbox="1285 1251 1361 1335">-</td> <td data-bbox="1285 1251 1361 1335">-</td> <td data-bbox="1285 1251 1361 1335">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1285 1335 1361 1420">⑦蒸気発生器への過剰給水</td> <td data-bbox="1285 1335 1361 1420">-</td> <td data-bbox="1285 1335 1361 1420">-</td> <td data-bbox="1285 1335 1361 1420">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1285 1420 1361 1505">⑧蒸気発生器への過剰給水</td> <td data-bbox="1285 1420 1361 1505">-</td> <td data-bbox="1285 1420 1361 1505">-</td> <td data-bbox="1285 1420 1361 1505">-</td> </tr> </table>	①負荷の喪失	×	×	過剰に伴う出力上昇によるDNERで⑦が速い。負荷が速い方が、負荷が速い方が出力上昇の観点では⑦が速い。【抽出事象：①】	②外部電源喪失	×	×	DNER低下の観点で⑦が速い。重畳事象は⑦により直ちに原子炉トリップする圧力上昇の観点では⑦が速い。【抽出事象：②】	③主給水流量喪失	×	×	過剰に伴う出力上昇によるDNERで⑦が速い。負荷が速い方が、負荷が速い方が出力上昇の観点では⑦が速い。【抽出事象：③】	⑤2次系冷却水の異常な減圧	×	×	①は出力運転時を想定しており、想定するプラント状態が③と異なるため、重畳は考慮しない。【抽出事象：①】	④出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	○	○	制御棒の引き抜きにより正の反応度が追加される④の方がDNER低下の観点で速い。重畳事象は過剰に追加の観点により速い事象となる。【抽出事象：④】	③原子炉起動時に伴う制御棒の異常な引き抜き	×	×	①は出力運転時を想定しており、想定するプラント状態が③と異なるため、重畳は考慮しない。【抽出事象：①】	②蒸気発生器への過剰給水	○	○	蒸気発生器への過剰給水により正の反応度が追加される②の方がDNER低下の観点で速い。重畳事象は過剰に追加の観点により速い事象となる。【抽出事象：②】	①蒸気発生器への過剰給水	-	-	-	②蒸気発生器への過剰給水	-	-	-	③蒸気発生器への過剰給水	-	-	-	④蒸気発生器への過剰給水	-	-	-	⑤蒸気発生器への過剰給水	-	-	-	⑥蒸気発生器への過剰給水	-	-	-	⑦蒸気発生器への過剰給水	-	-	-	⑧蒸気発生器への過剰給水	-	-	-	<p>相違理由</p> <p>【女川】      記載方針の相違      女川はBWRの特徴を踏まえて重畳分析を行っているが、泊はPWRの特徴を踏まえて重畳分析を行った。</p>
④給水制御系の故障 (流量増加)	○	○	主蒸気止まり弁の閉止により反応度が増加される④の方が出力上昇が速いため、④の故障が単独で発生した場合よりも厳しい事象となる。 【抽出事象：①+④】																																																																																								
②負荷の喪失	×	×	スクラムタイミングが速い①が出力上昇が速いため、②により直ちにスクラムする④により代表できる。 【抽出事象：④】																																																																																								
①給水加熱喪失	-	-	-																																																																																								
①主蒸気隔離弁の閉閉止	×	-	スクラムタイミングが速い①が出力上昇が速いため、②により直ちにスクラムする④により代表できる。 【抽出事象：②】																																																																																								
②給水加熱喪失	-	-	-																																																																																								
①主蒸気隔離弁の閉閉止	-	-	-																																																																																								
④給水制御系の故障 (流量増加)	-	-	スクラムタイミングが速い①が出力上昇が速いため、④により直ちにスクラムする④により代表できる。 【抽出事象：④】																																																																																								
①負荷の喪失	×	×	過剰に伴う出力上昇によるDNERで⑦が速い。負荷が速い方が、負荷が速い方が出力上昇の観点では⑦が速い。【抽出事象：①】																																																																																								
②外部電源喪失	×	×	DNER低下の観点で⑦が速い。重畳事象は⑦により直ちに原子炉トリップする圧力上昇の観点では⑦が速い。【抽出事象：②】																																																																																								
③主給水流量喪失	×	×	過剰に伴う出力上昇によるDNERで⑦が速い。負荷が速い方が、負荷が速い方が出力上昇の観点では⑦が速い。【抽出事象：③】																																																																																								
⑤2次系冷却水の異常な減圧	×	×	①は出力運転時を想定しており、想定するプラント状態が③と異なるため、重畳は考慮しない。【抽出事象：①】																																																																																								
④出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	○	○	制御棒の引き抜きにより正の反応度が追加される④の方がDNER低下の観点で速い。重畳事象は過剰に追加の観点により速い事象となる。【抽出事象：④】																																																																																								
③原子炉起動時に伴う制御棒の異常な引き抜き	×	×	①は出力運転時を想定しており、想定するプラント状態が③と異なるため、重畳は考慮しない。【抽出事象：①】																																																																																								
②蒸気発生器への過剰給水	○	○	蒸気発生器への過剰給水により正の反応度が追加される②の方がDNER低下の観点で速い。重畳事象は過剰に追加の観点により速い事象となる。【抽出事象：②】																																																																																								
①蒸気発生器への過剰給水	-	-	-																																																																																								
②蒸気発生器への過剰給水	-	-	-																																																																																								
③蒸気発生器への過剰給水	-	-	-																																																																																								
④蒸気発生器への過剰給水	-	-	-																																																																																								
⑤蒸気発生器への過剰給水	-	-	-																																																																																								
⑥蒸気発生器への過剰給水	-	-	-																																																																																								
⑦蒸気発生器への過剰給水	-	-	-																																																																																								
⑧蒸気発生器への過剰給水	-	-	-																																																																																								



赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																	
		<p>表 3.7 重畳事象の分析 (2次系建屋溢水発生時) (3/4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>①主給水配管の異常な減圧</th> <th>②二次冷却系の異常な減圧</th> <th>③二次冷却系の異常な減圧</th> <th>④二次冷却系の異常な減圧</th> <th>⑤二次冷却系の異常な減圧</th> <th>⑥二次冷却系の異常な減圧</th> <th>⑦二次冷却系の異常な減圧</th> <th>⑧二次冷却系の異常な減圧</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①主給水配管の異常な減圧</td> <td>X</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>②二次冷却系の異常な減圧</td> <td></td> <td>X</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③二次冷却系の異常な減圧</td> <td></td> <td></td> <td>X</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④二次冷却系の異常な減圧</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>X</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑤二次冷却系の異常な減圧</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>X</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑥二次冷却系の異常な減圧</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>X</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑦二次冷却系の異常な減圧</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>X</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑧二次冷却系の異常な減圧</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>X</td> </tr> </tbody> </table>		①主給水配管の異常な減圧	②二次冷却系の異常な減圧	③二次冷却系の異常な減圧	④二次冷却系の異常な減圧	⑤二次冷却系の異常な減圧	⑥二次冷却系の異常な減圧	⑦二次冷却系の異常な減圧	⑧二次冷却系の異常な減圧	①主給水配管の異常な減圧	X								②二次冷却系の異常な減圧		X							③二次冷却系の異常な減圧			X						④二次冷却系の異常な減圧				X					⑤二次冷却系の異常な減圧					X				⑥二次冷却系の異常な減圧						X			⑦二次冷却系の異常な減圧							X		⑧二次冷却系の異常な減圧								X	<p>【女川】                      記載方針の相違                      女川はBWRの特徴を踏まえて重畳分析を行っているが、泊はPWRの特徴を踏まえて重畳分析を行った。</p>
	①主給水配管の異常な減圧	②二次冷却系の異常な減圧	③二次冷却系の異常な減圧	④二次冷却系の異常な減圧	⑤二次冷却系の異常な減圧	⑥二次冷却系の異常な減圧	⑦二次冷却系の異常な減圧	⑧二次冷却系の異常な減圧																																																																												
①主給水配管の異常な減圧	X																																																																																			
②二次冷却系の異常な減圧		X																																																																																		
③二次冷却系の異常な減圧			X																																																																																	
④二次冷却系の異常な減圧				X																																																																																
⑤二次冷却系の異常な減圧					X																																																																															
⑥二次冷却系の異常な減圧						X																																																																														
⑦二次冷却系の異常な減圧							X																																																																													
⑧二次冷却系の異常な減圧								X																																																																												



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																		
		<p>表 3.7 重畳事象の分析（2次系建屋溢水発生時）(4/4)</p> <table border="1" data-bbox="1332 220 1720 1471"> <tr> <td data-bbox="1458 225 1543 368">⑤ 負荷の喪失</td> <td data-bbox="1543 225 1653 368">○</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1458 368 1543 512">⑦ 外部電源喪失</td> <td data-bbox="1543 368 1653 512">○</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1458 512 1543 655">⑥ 主給水流断喪失</td> <td data-bbox="1543 512 1653 655">○</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1458 655 1543 791">⑤ 2次冷却系の異常な減圧</td> <td data-bbox="1543 655 1653 791">○</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1458 791 1543 927">④ 出力運転中の制御体の異常な引き抜き</td> <td data-bbox="1543 791 1653 927">○</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1458 927 1543 1062">⑤ 原子炉超臨時における制御体の異常な引き抜き</td> <td data-bbox="1543 927 1653 1062">○</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1458 1062 1543 1198">② 蒸気発生器への過剰給水</td> <td data-bbox="1543 1062 1653 1198">○</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1458 1198 1543 1334">① 蒸気負荷の異常な増加</td> <td data-bbox="1543 1198 1653 1334">○</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1458 1334 1543 1469">⑧ 負荷の喪失</td> <td data-bbox="1543 1334 1653 1469">○</td> </tr> </table> <p>○：重畳事象が厳しい ×：単独事象が厳しい</p>	⑤ 負荷の喪失	○	⑦ 外部電源喪失	○	⑥ 主給水流断喪失	○	⑤ 2次冷却系の異常な減圧	○	④ 出力運転中の制御体の異常な引き抜き	○	⑤ 原子炉超臨時における制御体の異常な引き抜き	○	② 蒸気発生器への過剰給水	○	① 蒸気負荷の異常な増加	○	⑧ 負荷の喪失	○	<p>【女川】                  記載方針の相違                  女川はBWRの特徴を踏まえて重畳分析を行っているが、泊はPWRの特徴を踏まえて重畳分析を行った。</p>
⑤ 負荷の喪失	○																				
⑦ 外部電源喪失	○																				
⑥ 主給水流断喪失	○																				
⑤ 2次冷却系の異常な減圧	○																				
④ 出力運転中の制御体の異常な引き抜き	○																				
⑤ 原子炉超臨時における制御体の異常な引き抜き	○																				
② 蒸気発生器への過剰給水	○																				
① 蒸気負荷の異常な増加	○																				
⑧ 負荷の喪失	○																				

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																									
		<p>表 3.8 重畳を考慮した場合に厳しくなる事象の組合せ（1次系建屋溢水発生時）</p> <table border="1" data-bbox="1285 248 1854 416"> <thead> <tr> <th>組合せを考慮する事象</th> <th>圧力</th> <th>DNBR</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>蒸気発生器への過剰給水</td> <td>—</td> <td>—※1</td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈</td> <td>—※1</td> <td>—※1</td> </tr> <tr> <td>出力運転中の制御棒の異常な引き抜き</td> <td>○</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>主給水流量喪失</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>負荷の喪失</td> <td>◎</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材系の異常な減圧</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：反応度添加率の観点で「出力運転中の制御棒の異常な引き抜き」に代表される                  ◎：評価パラメータの観点で最も厳しい事象                  ○：重畳を考慮した場合に評価パラメータを厳しくする事象                  —：重畳を考慮しない事象</p> <p>表 3.9 重畳を考慮した場合に厳しくなる事象の組合せ（2次系建屋溢水発生時）</p> <table border="1" data-bbox="1285 584 1854 751"> <thead> <tr> <th>組合せを考慮する事象</th> <th>圧力</th> <th>DNBR</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>蒸気負荷の異常な増加</td> <td>—</td> <td>—※1</td> </tr> <tr> <td>蒸気発生器への過剰給水</td> <td>—</td> <td>—※1</td> </tr> <tr> <td>出力運転中の制御棒の異常な引き抜き</td> <td>○</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>主給水流量喪失</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>負荷の喪失</td> <td>◎</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：反応度添加率の観点で「出力運転中の制御棒の異常な引き抜き」に代表される                  ◎：評価パラメータの観点で最も厳しい事象                  ○：重畳を考慮した場合に評価パラメータを厳しくする事象                  —：重畳を考慮しない事象</p> <p>表 3.10 抽出された重畳事象（1次系建屋溢水発生時）</p> <table border="1" data-bbox="1285 903 1854 1110"> <thead> <tr> <th>重畳事象</th> <th>評価項目</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ケース：1次系建屋-I 出力運転中の制御棒の異常な引き抜き 主給水流量喪失 負荷の喪失</td> <td>圧力</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ケース：1次系建屋-II 出力運転中の制御棒の異常な引き抜き 主給水流量喪失 原子炉冷却材系の異常な減圧</td> <td>DNBR</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>表 3.11 抽出された重畳事象（2次系建屋溢水発生時）</p> <table border="1" data-bbox="1285 1206 1854 1453"> <thead> <tr> <th>重畳事象</th> <th>評価項目</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ケース：2次系建屋-I 出力運転中の制御棒の異常な引き抜き 負荷の喪失 主給水流量喪失</td> <td>圧力</td> <td>1次系建屋-Iと同一条件となる。</td> </tr> <tr> <td>ケース：2次系建屋-II 出力運転中の制御棒の異常な引き抜き 主給水流量喪失</td> <td>DNBR</td> <td>1次系の減圧によるDNBR悪化の観点で1次系建屋-IIに包絡される（1次系建屋-IIのケースで代表する）。</td> </tr> </tbody> </table>	組合せを考慮する事象	圧力	DNBR	蒸気発生器への過剰給水	—	—※1	原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈	—※1	—※1	出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	○	◎	主給水流量喪失	○	○	負荷の喪失	◎	—	原子炉冷却材系の異常な減圧	—	○	組合せを考慮する事象	圧力	DNBR	蒸気負荷の異常な増加	—	—※1	蒸気発生器への過剰給水	—	—※1	出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	○	◎	主給水流量喪失	○	○	負荷の喪失	◎	—	重畳事象	評価項目	備考	ケース：1次系建屋-I 出力運転中の制御棒の異常な引き抜き 主給水流量喪失 負荷の喪失	圧力		ケース：1次系建屋-II 出力運転中の制御棒の異常な引き抜き 主給水流量喪失 原子炉冷却材系の異常な減圧	DNBR		重畳事象	評価項目	備考	ケース：2次系建屋-I 出力運転中の制御棒の異常な引き抜き 負荷の喪失 主給水流量喪失	圧力	1次系建屋-Iと同一条件となる。	ケース：2次系建屋-II 出力運転中の制御棒の異常な引き抜き 主給水流量喪失	DNBR	1次系の減圧によるDNBR悪化の観点で1次系建屋-IIに包絡される（1次系建屋-IIのケースで代表する）。	<p>【女川】                  設計方針の相違                  女川では3つ以上の事象の重畳がなかったが、泊では3つ以上の事象の重畳があったため、評価パラメータの観点で最も厳しい事象を選定し、その結果を示した。</p> <p>【女川】                  設計方針の相違                  泊では重畳事象に対し評価項目の選定を行い、更に1次系建屋と2次系建屋のそれぞれで溢水発生した場合の条件や包絡性に対して、その結果を示した。</p>
組合せを考慮する事象	圧力	DNBR																																																										
蒸気発生器への過剰給水	—	—※1																																																										
原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈	—※1	—※1																																																										
出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	○	◎																																																										
主給水流量喪失	○	○																																																										
負荷の喪失	◎	—																																																										
原子炉冷却材系の異常な減圧	—	○																																																										
組合せを考慮する事象	圧力	DNBR																																																										
蒸気負荷の異常な増加	—	—※1																																																										
蒸気発生器への過剰給水	—	—※1																																																										
出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	○	◎																																																										
主給水流量喪失	○	○																																																										
負荷の喪失	◎	—																																																										
重畳事象	評価項目	備考																																																										
ケース：1次系建屋-I 出力運転中の制御棒の異常な引き抜き 主給水流量喪失 負荷の喪失	圧力																																																											
ケース：1次系建屋-II 出力運転中の制御棒の異常な引き抜き 主給水流量喪失 原子炉冷却材系の異常な減圧	DNBR																																																											
重畳事象	評価項目	備考																																																										
ケース：2次系建屋-I 出力運転中の制御棒の異常な引き抜き 負荷の喪失 主給水流量喪失	圧力	1次系建屋-Iと同一条件となる。																																																										
ケース：2次系建屋-II 出力運転中の制御棒の異常な引き抜き 主給水流量喪失	DNBR	1次系の減圧によるDNBR悪化の観点で1次系建屋-IIに包絡される（1次系建屋-IIのケースで代表する）。																																																										

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>4. 内部溢水発生時に期待できる緩和系の整理【ステップ6】</p> <p>4. 1 内部溢水による緩和設備に対する機能維持状態</p> <p>内部溢水の影響軽減対策として、原子炉の安全停止を達成し、維持するために必要な系統は、内部溢水によって同時に機能が喪失しないように系統分離等の対策を講じており、安全停止バスが確保可能であることについては、別添資料1 補足説明資料14「内部溢水影響評価における判定表」において詳細を説明している。</p> <p>その上で、除熱機能の2区分のうち、1区分は機能を維持するよう対策を実施しているものの、「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」の発生と同時に除熱機能（残留熱除去系停止時冷却モード）が喪失した場合、さらに、単一故障を想定すると、除熱機能が喪失する可能性がある。</p> <p>このため、残留熱除去系の制御系から実際の機器配置場所までを以下の区画及び建屋を対象に調査することで「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」の発生と同時に除熱機能が同時に喪失する状況にあるかについて網羅的に確認した。</p> <p>①中央制御室</p> <p>②電気品室</p> <p>③ケーブル処理室</p> <p>④建屋内（原子炉建屋/タービン建屋）溢水</p> <p>①中央制御室</p> <p>中央制御室については、中央制御室内に溢水源となりうる系統がなく、また、溢水影響を受ける隣接区画からの溢水による浸水がないため、緩和設備である除熱機能の喪失は発生しない。</p> <p>別添資料1 補足説明資料1「防護区画内の溢水源となりうる系統」において、溢水源となりうる系統がないこと、また、別添資料1 添付資料18, 20, 22, 26, 28において、溢水影響を受ける隣接区画からの溢水による浸水がないことを確認している。</p> <p>②電気品室</p> <p>電気品室については、電気品室内に溢水源となりうる系統はないが、溢水影響を受ける隣接区画からの溢水による浸水の可能性がある。しかしながら、想定される浸水により、「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」は発生しないため、「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」の発生と同時に緩和設備である除熱機能が喪失することはない。</p> <p>別添資料1 補足説明資料1「防護区画内の溢水源となりうる系統」において、溢水源となりうる系統がないこと、また、別添資料</p>	<p>4. 内部溢水発生時に期待できる緩和系の整理【ステップ6】</p>	<p><u>【女川】</u></p> <p><u>設計方針の相違</u></p> <p>女川では、内部溢水によって同時に機能が喪失しないように系統分離等の対策を講じているが、除熱機能が喪失する可能性があるため、網羅的に確認する方針としている。泊では「原子炉停止機能及び炉心冷却機能を有する防護対象設備は、（多重性又は多様性を有していても）溢水により機能を喪失させない」方針としているため、網羅的に確認する必要はない。</p> <p>（9-別添1-補3-48まで相違理由は同じ）</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>料1 添付資料 18, 20, 22, 26, 28 において、溢水影響を受ける隣接区画からの溢水による浸水の可能性があることを確認している。</p> <p>表 4.1.1 に溢水により発生の可能性のある事象を抽出し、事象発生の原因となりうる設備及びその設置場所（溢水防護区画）を整理し、溢水防護区画及び溢水の流下経路における「残留熱除去系関連機器」の設置有無を確認することで、「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」の発生と同時に残留熱除去系の機能喪失が発生することがなく、加えて、残留熱除去系に単一故障を想定した場合においても、低温停止が可能であることを確認した。</p> <p>事象発生の原因となりうる設備と「残留熱除去系関連機器」が同一区画又は溢水の流下経路に存在するが、個別に発生する事象の詳細確認を行い、スクラムしない事象であること、溢水を起因とした「原子炉冷却材流量の部分喪失」は発生しないことを確認しており、低温停止に対して影響はない。</p>		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																								
表 4.1.1 「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="703 1145 757 1209">場所</th> <th data-bbox="703 1098 757 1145">装置番号</th> <th data-bbox="703 959 757 1098">事業業主の起因 となりうる設備</th> <th data-bbox="703 852 757 959">発生の可能性 がある事象</th> <th data-bbox="703 571 757 852">関係 関連機器</th> <th data-bbox="703 496 757 571">場所<sup>※1</sup></th> <th data-bbox="703 400 757 496">図説の同時 機能喪失</th> <th data-bbox="703 261 757 400">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="757 1145 981 1209">R-BIF-6</td> <td data-bbox="757 1098 981 1145">MCC 2C-4</td> <td data-bbox="757 959 981 1098">原子炉再循環ポン プ(A)吐出弁 原子炉再循環ポン プ(A)吸込弁</td> <td data-bbox="757 852 981 959">原子炉冷却材 流量の部分喪 失</td> <td data-bbox="757 571 981 852">                     原子炉再循環冷却水ポンプ(A) (C)                      RW 原子炉冷却水供給配管分岐弁(A)                      RW 原子炉冷却水供給配管分岐弁(A)                      RW A主 冷却水供給配管分岐弁(A) 調整弁                      RW 冷却水供給配管分岐弁(A) 調整弁                      RW A主 冷却水供給配管分岐弁(A) 調整弁                      RW A主 レリーフ(A) (C) ブロー弁                      400V RB MCC 2C-1                      400V PIC 4-2C                      5.9kV スタクラ 6-2C                      非常用 D/G(A) 冷却水吐出弁(A) (C)                      原子炉再循環ポンプ(A) (C) 冷却水圧力調整弁                 </td> <td data-bbox="757 496 981 571">R-BIF-11  R-BIF-6 R-2IF-6</td> <td data-bbox="757 400 981 496">○</td> <td data-bbox="757 261 981 400">                     ・本過渡事象はスクラムしない事象である。加えて、MCC 2C-4が溢水影響を受け、電源を喪失した場合においても、弁の状態は維持されるため、原子炉冷却材流量の部分喪失は発生しない                 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="981 1145 1265 1209">R-BIF-12</td> <td data-bbox="981 1098 1265 1145">MCC 2D-4</td> <td data-bbox="981 959 1265 1098">原子炉再循環ポン プ(B)吐出弁 原子炉再循環ポン プ(B)吸込弁</td> <td data-bbox="981 852 1265 959">原子炉冷却材 流量の部分喪 失</td> <td data-bbox="981 571 1265 852">                     原子炉再循環冷却水ポンプ(B) (D)                      RW 原子炉冷却水供給配管分岐弁(B)                      RW B主 冷却水供給配管分岐弁(B)                      RW B主 冷却水供給配管分岐弁(B) 調整弁                      RW 冷却水供給配管分岐弁(B) 調整弁                      RW 冷却水供給配管分岐弁(B) 調整弁                      RW A主 冷却水供給配管分岐弁(B) 調整弁                      RW A主 レリーフ(B) (D) ブロー弁                      非常用 D/G(B) 冷却水吐出弁(B) (D)                      400V RB MCC 2D-1                      400V PIC 4-2D                      5.9kV スタクラ 6-2D                 </td> <td data-bbox="981 496 1265 571">R-BIF-14  R-BIF-12 R-2IF-10</td> <td data-bbox="981 400 1265 496">○</td> <td data-bbox="981 261 1265 400">                     ・本過渡事象はスクラムしない事象である。加えて、MCC 2D-4が溢水影響を受け、電源を喪失した場合においても、弁の状態は維持されるため、原子炉冷却材流量の部分喪失は発生しない                 </td> </tr> </tbody> </table>				場所	装置番号	事業業主の起因 となりうる設備	発生の可能性 がある事象	関係 関連機器	場所 <sup>※1</sup>	図説の同時 機能喪失	備考	R-BIF-6	MCC 2C-4	原子炉再循環ポン プ(A)吐出弁 原子炉再循環ポン プ(A)吸込弁	原子炉冷却材 流量の部分喪 失	原子炉再循環冷却水ポンプ(A) (C) RW 原子炉冷却水供給配管分岐弁(A) RW 原子炉冷却水供給配管分岐弁(A) RW A主 冷却水供給配管分岐弁(A) 調整弁 RW 冷却水供給配管分岐弁(A) 調整弁 RW A主 冷却水供給配管分岐弁(A) 調整弁 RW A主 レリーフ(A) (C) ブロー弁 400V RB MCC 2C-1 400V PIC 4-2C 5.9kV スタクラ 6-2C 非常用 D/G(A) 冷却水吐出弁(A) (C) 原子炉再循環ポンプ(A) (C) 冷却水圧力調整弁	R-BIF-11  R-BIF-6 R-2IF-6	○	・本過渡事象はスクラムしない事象である。加えて、MCC 2C-4が溢水影響を受け、電源を喪失した場合においても、弁の状態は維持されるため、原子炉冷却材流量の部分喪失は発生しない	R-BIF-12	MCC 2D-4	原子炉再循環ポン プ(B)吐出弁 原子炉再循環ポン プ(B)吸込弁	原子炉冷却材 流量の部分喪 失	原子炉再循環冷却水ポンプ(B) (D) RW 原子炉冷却水供給配管分岐弁(B) RW B主 冷却水供給配管分岐弁(B) RW B主 冷却水供給配管分岐弁(B) 調整弁 RW 冷却水供給配管分岐弁(B) 調整弁 RW 冷却水供給配管分岐弁(B) 調整弁 RW A主 冷却水供給配管分岐弁(B) 調整弁 RW A主 レリーフ(B) (D) ブロー弁 非常用 D/G(B) 冷却水吐出弁(B) (D) 400V RB MCC 2D-1 400V PIC 4-2D 5.9kV スタクラ 6-2D	R-BIF-14  R-BIF-12 R-2IF-10	○	・本過渡事象はスクラムしない事象である。加えて、MCC 2D-4が溢水影響を受け、電源を喪失した場合においても、弁の状態は維持されるため、原子炉冷却材流量の部分喪失は発生しない
場所	装置番号	事業業主の起因 となりうる設備	発生の可能性 がある事象	関係 関連機器	場所 <sup>※1</sup>	図説の同時 機能喪失	備考																				
R-BIF-6	MCC 2C-4	原子炉再循環ポン プ(A)吐出弁 原子炉再循環ポン プ(A)吸込弁	原子炉冷却材 流量の部分喪 失	原子炉再循環冷却水ポンプ(A) (C) RW 原子炉冷却水供給配管分岐弁(A) RW 原子炉冷却水供給配管分岐弁(A) RW A主 冷却水供給配管分岐弁(A) 調整弁 RW 冷却水供給配管分岐弁(A) 調整弁 RW A主 冷却水供給配管分岐弁(A) 調整弁 RW A主 レリーフ(A) (C) ブロー弁 400V RB MCC 2C-1 400V PIC 4-2C 5.9kV スタクラ 6-2C 非常用 D/G(A) 冷却水吐出弁(A) (C) 原子炉再循環ポンプ(A) (C) 冷却水圧力調整弁	R-BIF-11  R-BIF-6 R-2IF-6	○	・本過渡事象はスクラムしない事象である。加えて、MCC 2C-4が溢水影響を受け、電源を喪失した場合においても、弁の状態は維持されるため、原子炉冷却材流量の部分喪失は発生しない																				
R-BIF-12	MCC 2D-4	原子炉再循環ポン プ(B)吐出弁 原子炉再循環ポン プ(B)吸込弁	原子炉冷却材 流量の部分喪 失	原子炉再循環冷却水ポンプ(B) (D) RW 原子炉冷却水供給配管分岐弁(B) RW B主 冷却水供給配管分岐弁(B) RW B主 冷却水供給配管分岐弁(B) 調整弁 RW 冷却水供給配管分岐弁(B) 調整弁 RW 冷却水供給配管分岐弁(B) 調整弁 RW A主 冷却水供給配管分岐弁(B) 調整弁 RW A主 レリーフ(B) (D) ブロー弁 非常用 D/G(B) 冷却水吐出弁(B) (D) 400V RB MCC 2D-1 400V PIC 4-2D 5.9kV スタクラ 6-2D	R-BIF-14  R-BIF-12 R-2IF-10	○	・本過渡事象はスクラムしない事象である。加えて、MCC 2D-4が溢水影響を受け、電源を喪失した場合においても、弁の状態は維持されるため、原子炉冷却材流量の部分喪失は発生しない																				
※1 溢水の流下経路を含め配置確認 ※2 ○：機能喪失無、×：機能喪失有																											
<p>③ケーブル処理室</p> <p>電気品室については、電気品室内に溢水源となりうる系統はないが、溢水影響を受ける隣接区画からの溢水による浸水の可能性がある。しかしながら、ケーブル処理室には、「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生の起因となる設備及び動力ケーブルが配置されていないため、「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」は発生しない。</p>																											

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>別添資料1 補足説明資料1「防護区画内の溢水源となりうる系統」において、溢水源となりうる系統がないこと、また、別添資料1 添付資料18, 20, 22, 26, 28において、溢水影響を受ける隣接区画からの溢水による浸水の可能性があることを確認している。</p> <p>④建屋内（原子炉建屋／タービン建屋）溢水</p> <p>建屋内（原子炉建屋／タービン建屋）の各区画については、溢水源となる系統があり、また、溢水影響を受ける隣接区画からの溢水による浸水の可能性があるため、「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」の発生と同時に緩和設備である除熱機能が喪失することがないか確認する。</p> <p>表4.1.2に残留熱除去系による原子炉低温停止の可否を確認する観点から、残留熱除去系の機能のうち、停止時冷却モードに必要な主要なフロント系及びサポート系機器を抽出した。</p> <p>表4.1.3に溢水により発生の可能性がある事象を抽出し、事象発生の起因となりうる設備及びその設置場所（溢水防護区画）を整理し、溢水防護区画及び溢水の流下経路における「残留熱除去系関連機器」の設置有無を確認することで、「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」の発生と同時に残留熱除去系の機能喪失が発生することがなく、加えて、残留熱除去系に単一故障を想定した場合においても、低温停止が可能であることを確認した。</p> <p>事象発生の起因となりうる設備と「残留熱除去系関連機器」が同一区画又は溢水の流下経路に存在する場合もあるが、個別に発生する事象の詳細確認を行い、スクラムしない事象であること、原子炉格納容器内で発生する溢水としては原子炉冷却材喪失事故が考えられるが、溢水を起因とした原子炉冷却材喪失事故は想定されないこと等を確認しており、低温停止に対して影響はない。</p> <p>図4.1.1～図4.1.10において、溢水防護区画の設定の状況を示す。</p> <p>以上より、「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」の発生と同時に残留熱除去系が機能喪失する事象がないことを確認した。この結果より、主要建屋における溢水において、単一故障を想定した場合においても残留熱除去系停止時冷却モードにより、原子炉の低温停止が可能であることを確認した。</p>		



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																										
	<p style="text-align: center;">表 4.1.2 残留熱除去系フロント系及びサポート系機器(1/4)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 15%;">系統</th> <th style="width: 45%;">機器</th> <th style="width: 30%;">設置場所*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td rowspan="20">フロント系</td><td>RHR A系S/Cスプレイ隔離弁</td><td>R-B3F-10</td></tr> <tr><td></td><td>RHR B系S/Cスプレイ隔離弁</td><td>R-B3F-10</td></tr> <tr><td></td><td>RHR A系試験用調整弁</td><td>R-B3F-10</td></tr> <tr><td></td><td>RHR B系試験用調整弁</td><td>R-B3F-10</td></tr> <tr><td></td><td>RHR A系停止時冷却吸込第二隔離弁</td><td>R-B3F-10</td></tr> <tr><td></td><td>RHR B系停止時冷却吸込第二隔離弁</td><td>R-B3F-10</td></tr> <tr><td></td><td>RHR A系停止時冷却注入隔離弁</td><td>R-B3F-10</td></tr> <tr><td></td><td>RHR B系停止時冷却注入隔離弁</td><td>R-B3F-10</td></tr> <tr><td></td><td>RHR ポンプ(A)ミニマムフロー弁</td><td>R-B3F-10</td></tr> <tr><td></td><td>RHR ポンプ(B)ミニマムフロー弁</td><td>R-B3F-10</td></tr> <tr><td></td><td>RHR A系RW 連絡第一弁</td><td>R-B3F-10</td></tr> <tr><td></td><td>RHR B系RW 連絡第一弁</td><td>R-B3F-10</td></tr> <tr><td></td><td>RHR A系系統緩機弁</td><td>R-B3F-10</td></tr> <tr><td></td><td>RHR B系系統緩機弁</td><td>R-B3F-10</td></tr> <tr><td></td><td>残留熱除去系ポンプ(B)</td><td>R-B3F-6</td></tr> <tr><td></td><td>RHR ポンプ(B)S/C吸込弁</td><td>R-B3F-6</td></tr> <tr><td></td><td>RHR ポンプ(B)停止時冷却吸込弁</td><td>R-B3F-6</td></tr> <tr><td></td><td>残留熱除去系ポンプ(A)</td><td>R-B3F-3</td></tr> <tr><td></td><td>RHR ポンプ(A)S/C吸込弁</td><td>R-B3F-3</td></tr> <tr><td></td><td>RHR ポンプ(A)停止時冷却吸込弁</td><td>R-B3F-3</td></tr> <tr><td></td><td>RHR ポンプ(A)出口流量</td><td>R-B2F-1</td></tr> <tr><td></td><td>RHR ポンプ(B)出口流量</td><td>R-B2F-1</td></tr> <tr><td></td><td>RHR A系LPCI 注入隔離弁</td><td>R-MB1F-1</td></tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center; font-size: small;">※別添資料1 添付7に記載の区画番号</p>		系統	機器	設置場所*		フロント系	RHR A系S/Cスプレイ隔離弁	R-B3F-10		RHR B系S/Cスプレイ隔離弁	R-B3F-10		RHR A系試験用調整弁	R-B3F-10		RHR B系試験用調整弁	R-B3F-10		RHR A系停止時冷却吸込第二隔離弁	R-B3F-10		RHR B系停止時冷却吸込第二隔離弁	R-B3F-10		RHR A系停止時冷却注入隔離弁	R-B3F-10		RHR B系停止時冷却注入隔離弁	R-B3F-10		RHR ポンプ(A)ミニマムフロー弁	R-B3F-10		RHR ポンプ(B)ミニマムフロー弁	R-B3F-10		RHR A系RW 連絡第一弁	R-B3F-10		RHR B系RW 連絡第一弁	R-B3F-10		RHR A系系統緩機弁	R-B3F-10		RHR B系系統緩機弁	R-B3F-10		残留熱除去系ポンプ(B)	R-B3F-6		RHR ポンプ(B)S/C吸込弁	R-B3F-6		RHR ポンプ(B)停止時冷却吸込弁	R-B3F-6		残留熱除去系ポンプ(A)	R-B3F-3		RHR ポンプ(A)S/C吸込弁	R-B3F-3		RHR ポンプ(A)停止時冷却吸込弁	R-B3F-3		RHR ポンプ(A)出口流量	R-B2F-1		RHR ポンプ(B)出口流量	R-B2F-1		RHR A系LPCI 注入隔離弁	R-MB1F-1		
	系統	機器	設置場所*																																																																										
	フロント系	RHR A系S/Cスプレイ隔離弁	R-B3F-10																																																																										
		RHR B系S/Cスプレイ隔離弁	R-B3F-10																																																																										
		RHR A系試験用調整弁	R-B3F-10																																																																										
		RHR B系試験用調整弁	R-B3F-10																																																																										
		RHR A系停止時冷却吸込第二隔離弁	R-B3F-10																																																																										
		RHR B系停止時冷却吸込第二隔離弁	R-B3F-10																																																																										
		RHR A系停止時冷却注入隔離弁	R-B3F-10																																																																										
		RHR B系停止時冷却注入隔離弁	R-B3F-10																																																																										
		RHR ポンプ(A)ミニマムフロー弁	R-B3F-10																																																																										
		RHR ポンプ(B)ミニマムフロー弁	R-B3F-10																																																																										
		RHR A系RW 連絡第一弁	R-B3F-10																																																																										
		RHR B系RW 連絡第一弁	R-B3F-10																																																																										
		RHR A系系統緩機弁	R-B3F-10																																																																										
		RHR B系系統緩機弁	R-B3F-10																																																																										
		残留熱除去系ポンプ(B)	R-B3F-6																																																																										
		RHR ポンプ(B)S/C吸込弁	R-B3F-6																																																																										
		RHR ポンプ(B)停止時冷却吸込弁	R-B3F-6																																																																										
		残留熱除去系ポンプ(A)	R-B3F-3																																																																										
		RHR ポンプ(A)S/C吸込弁	R-B3F-3																																																																										
		RHR ポンプ(A)停止時冷却吸込弁	R-B3F-3																																																																										
	RHR ポンプ(A)出口流量	R-B2F-1																																																																											
	RHR ポンプ(B)出口流量	R-B2F-1																																																																											
	RHR A系LPCI 注入隔離弁	R-MB1F-1																																																																											

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																
	<p style="text-align: center;">表 4.1.2 残留熱除去系フロント系及びサポート系機器(2/4)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 15%;">系統</th> <th style="width: 55%;">機器</th> <th style="width: 20%;">設置場所*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="14" style="text-align: center; vertical-align: middle;">フロント系</td> <td rowspan="14" style="text-align: center; vertical-align: middle;">RHR</td> <td>RHR B系 LPCI 注入隔離弁</td> <td>R-MB1F-3</td> </tr> <tr> <td>RHR A系格納容器スプレイ流量調整弁</td> <td>R-1F-9</td> </tr> <tr> <td>RHR B系格納容器スプレイ流量調整弁</td> <td>R-M2F-6</td> </tr> <tr> <td>RHR ヘッドスプレイ注入隔離弁</td> <td>E-1F-9</td> </tr> <tr> <td>RHR 熱交換器(A)バイパス弁</td> <td>R-1F-1</td> </tr> <tr> <td>RHR 熱交換器(B)バイパス弁</td> <td>R-1F-11</td> </tr> <tr> <td>RHR 熱交換器(A)出口弁</td> <td>E-1F-1</td> </tr> <tr> <td>RHR 熱交換器(B)出口弁</td> <td>R-1F-11</td> </tr> <tr> <td>RHR A系試料採取第一弁</td> <td>R-1F-1</td> </tr> <tr> <td>RHR B系試料採取第一弁</td> <td>E-1F-11</td> </tr> <tr> <td>事故後 RHR サンプルング第一弁</td> <td>R-1F-1</td> </tr> <tr> <td>RHR A系停止時冷却吸込第一隔離弁</td> <td>PCV 内</td> </tr> <tr> <td>RHR B系停止時冷却吸込第一隔離弁</td> <td>PCV 内</td> </tr> <tr> <td rowspan="14" style="text-align: center; vertical-align: middle;">サポート系</td> <td rowspan="14" style="text-align: center; vertical-align: middle;">RCW</td> <td>原子炉補機冷却水ポンプ(A)</td> <td>R-B3F-11</td> </tr> <tr> <td>原子炉補機冷却水ポンプ(C)</td> <td>R-B3F-11</td> </tr> <tr> <td>RCW 熱交換器(A)冷却水出口弁</td> <td>R-B3F-11</td> </tr> <tr> <td>RCW 熱交換器(C)冷却水出口弁</td> <td>R-B3F-11</td> </tr> <tr> <td>RCW 常用冷却水供給側分離弁(A)</td> <td>R-B3F-11</td> </tr> <tr> <td>RCW A系 冷却水供給圧力</td> <td>R-B3F-11</td> </tr> <tr> <td>RCW 冷却水供給温度熱交換器(A)側調節弁</td> <td>R-B3F-11</td> </tr> <tr> <td>RCW 冷却水供給温度ポンプ(A)側調節弁</td> <td>R-B3F-11</td> </tr> <tr> <td>RCW A系 冷却水供給温度</td> <td>R-B3F-11</td> </tr> <tr> <td>非常用 D/G(A)冷却水出口弁(A)</td> <td>R-B1F-6</td> </tr> <tr> <td>非常用 D/G(A)冷却水出口弁(C)</td> <td>R-B1F-6</td> </tr> <tr> <td>RHR 熱交換器(A)冷却水出口弁</td> <td>R-1F-1</td> </tr> <tr> <td>HECW 冷凍機(A)冷却水圧力調節弁</td> <td>E-2F-5</td> </tr> <tr> <td>HECW 冷凍機(C)冷却水圧力調節弁</td> <td>R-2F-5</td> </tr> <tr> <td>RCW サージタンク(A)水位</td> <td>R-3F-1</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center; font-size: small;">※別添資料1 添付7に記載の区画番号</p>		系統	機器	設置場所*	フロント系	RHR	RHR B系 LPCI 注入隔離弁	R-MB1F-3	RHR A系格納容器スプレイ流量調整弁	R-1F-9	RHR B系格納容器スプレイ流量調整弁	R-M2F-6	RHR ヘッドスプレイ注入隔離弁	E-1F-9	RHR 熱交換器(A)バイパス弁	R-1F-1	RHR 熱交換器(B)バイパス弁	R-1F-11	RHR 熱交換器(A)出口弁	E-1F-1	RHR 熱交換器(B)出口弁	R-1F-11	RHR A系試料採取第一弁	R-1F-1	RHR B系試料採取第一弁	E-1F-11	事故後 RHR サンプルング第一弁	R-1F-1	RHR A系停止時冷却吸込第一隔離弁	PCV 内	RHR B系停止時冷却吸込第一隔離弁	PCV 内	サポート系	RCW	原子炉補機冷却水ポンプ(A)	R-B3F-11	原子炉補機冷却水ポンプ(C)	R-B3F-11	RCW 熱交換器(A)冷却水出口弁	R-B3F-11	RCW 熱交換器(C)冷却水出口弁	R-B3F-11	RCW 常用冷却水供給側分離弁(A)	R-B3F-11	RCW A系 冷却水供給圧力	R-B3F-11	RCW 冷却水供給温度熱交換器(A)側調節弁	R-B3F-11	RCW 冷却水供給温度ポンプ(A)側調節弁	R-B3F-11	RCW A系 冷却水供給温度	R-B3F-11	非常用 D/G(A)冷却水出口弁(A)	R-B1F-6	非常用 D/G(A)冷却水出口弁(C)	R-B1F-6	RHR 熱交換器(A)冷却水出口弁	R-1F-1	HECW 冷凍機(A)冷却水圧力調節弁	E-2F-5	HECW 冷凍機(C)冷却水圧力調節弁	R-2F-5	RCW サージタンク(A)水位	R-3F-1		
	系統	機器	設置場所*																																																																
フロント系	RHR	RHR B系 LPCI 注入隔離弁	R-MB1F-3																																																																
		RHR A系格納容器スプレイ流量調整弁	R-1F-9																																																																
		RHR B系格納容器スプレイ流量調整弁	R-M2F-6																																																																
		RHR ヘッドスプレイ注入隔離弁	E-1F-9																																																																
		RHR 熱交換器(A)バイパス弁	R-1F-1																																																																
		RHR 熱交換器(B)バイパス弁	R-1F-11																																																																
		RHR 熱交換器(A)出口弁	E-1F-1																																																																
		RHR 熱交換器(B)出口弁	R-1F-11																																																																
		RHR A系試料採取第一弁	R-1F-1																																																																
		RHR B系試料採取第一弁	E-1F-11																																																																
		事故後 RHR サンプルング第一弁	R-1F-1																																																																
		RHR A系停止時冷却吸込第一隔離弁	PCV 内																																																																
		RHR B系停止時冷却吸込第一隔離弁	PCV 内																																																																
		サポート系	RCW	原子炉補機冷却水ポンプ(A)	R-B3F-11																																																														
原子炉補機冷却水ポンプ(C)	R-B3F-11																																																																		
RCW 熱交換器(A)冷却水出口弁	R-B3F-11																																																																		
RCW 熱交換器(C)冷却水出口弁	R-B3F-11																																																																		
RCW 常用冷却水供給側分離弁(A)	R-B3F-11																																																																		
RCW A系 冷却水供給圧力	R-B3F-11																																																																		
RCW 冷却水供給温度熱交換器(A)側調節弁	R-B3F-11																																																																		
RCW 冷却水供給温度ポンプ(A)側調節弁	R-B3F-11																																																																		
RCW A系 冷却水供給温度	R-B3F-11																																																																		
非常用 D/G(A)冷却水出口弁(A)	R-B1F-6																																																																		
非常用 D/G(A)冷却水出口弁(C)	R-B1F-6																																																																		
RHR 熱交換器(A)冷却水出口弁	R-1F-1																																																																		
HECW 冷凍機(A)冷却水圧力調節弁	E-2F-5																																																																		
HECW 冷凍機(C)冷却水圧力調節弁	R-2F-5																																																																		
RCW サージタンク(A)水位	R-3F-1																																																																		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																	
	表 4.1.2 残留熱除去系フロント系及びサポート系機器(3/4)																																																																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>系統</th> <th>機器</th> <th>設置場所*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="14">RCW</td><td>原子炉補機冷却水ポンプ(B)</td><td>R-B3F-14</td></tr> <tr><td>原子炉補機冷却水ポンプ(D)</td><td>R-B3F-14</td></tr> <tr><td>RCW 熱交換器(B)冷却水出口弁</td><td>R-B3F-14</td></tr> <tr><td>RCW 熱交換器(D)冷却水出口弁</td><td>R-B3F-14</td></tr> <tr><td>RCW 常用冷却水供給側分離弁(B)</td><td>R-B3F-14</td></tr> <tr><td>RCW B系 冷却水供給圧力</td><td>R-B3F-14</td></tr> <tr><td>RCW 冷却水供給温度熱交換器(B)側調節弁</td><td>R-B3F-14</td></tr> <tr><td>RCW 冷却水供給温度ポンプ(B)側調節弁</td><td>R-B3F-14</td></tr> <tr><td>RCW B系 冷却水供給温度</td><td>R-B3F-14</td></tr> <tr><td>非常用 D/G(B)冷却水出口弁(B)</td><td>R-B1F-11</td></tr> <tr><td>非常用 D/G(B)冷却水出口弁(D)</td><td>R-B1F-11</td></tr> <tr><td>RHR 熱交換器(B)冷却水出口弁</td><td>R-1F-11</td></tr> <tr><td>HECW 冷凍機(B)冷却水圧力調節弁</td><td>R-2F-4</td></tr> <tr><td>HECW 冷凍機(D)冷却水圧力調節弁</td><td>R-2F-4</td></tr> <tr><td rowspan="14">サポート系</td><td>RCW サージタンク(B)水位</td><td>R-3F-1</td></tr> <tr><td rowspan="4">RSW ストレーナ(A)ブロー弁</td><td>RSW ストレーナ(A)ブロー弁</td><td>R-B3F-11</td></tr> <tr><td>RSW ストレーナ(B)ブロー弁</td><td>R-B3F-14</td></tr> <tr><td>RSW ストレーナ(C)ブロー弁</td><td>R-B3F-11</td></tr> <tr><td>RSW ストレーナ(D)ブロー弁</td><td>R-B3F-14</td></tr> <tr><td rowspan="10">RSW</td><td>原子炉補機冷却海水ポンプ(A)</td><td>SW-1F-2</td></tr> <tr><td>原子炉補機冷却海水ポンプ(B)</td><td>SW-1F-5</td></tr> <tr><td>原子炉補機冷却海水ポンプ(C)</td><td>SW-1F-2</td></tr> <tr><td>原子炉補機冷却海水ポンプ(D)</td><td>SW-1F-5</td></tr> <tr><td>RSW ポンプ(A)吐出弁</td><td>SW-1F-2</td></tr> <tr><td>RSW ポンプ(B)吐出弁</td><td>SW-1F-5</td></tr> <tr><td>RSW ポンプ(C)吐出弁</td><td>SW-1F-2</td></tr> <tr><td>RSW ポンプ(D)吐出弁</td><td>SW-1F-5</td></tr> <tr><td>RSW ポンプ吐出連絡管(A)止め弁</td><td>SW-1F-2</td></tr> <tr><td>RSW ポンプ吐出連絡管(B)止め弁</td><td>SW-1F-5</td></tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">※別添資料1 添付7に記載の区画番号</p>	系統	機器	設置場所*	RCW	原子炉補機冷却水ポンプ(B)	R-B3F-14	原子炉補機冷却水ポンプ(D)	R-B3F-14	RCW 熱交換器(B)冷却水出口弁	R-B3F-14	RCW 熱交換器(D)冷却水出口弁	R-B3F-14	RCW 常用冷却水供給側分離弁(B)	R-B3F-14	RCW B系 冷却水供給圧力	R-B3F-14	RCW 冷却水供給温度熱交換器(B)側調節弁	R-B3F-14	RCW 冷却水供給温度ポンプ(B)側調節弁	R-B3F-14	RCW B系 冷却水供給温度	R-B3F-14	非常用 D/G(B)冷却水出口弁(B)	R-B1F-11	非常用 D/G(B)冷却水出口弁(D)	R-B1F-11	RHR 熱交換器(B)冷却水出口弁	R-1F-11	HECW 冷凍機(B)冷却水圧力調節弁	R-2F-4	HECW 冷凍機(D)冷却水圧力調節弁	R-2F-4	サポート系	RCW サージタンク(B)水位	R-3F-1	RSW ストレーナ(A)ブロー弁	RSW ストレーナ(A)ブロー弁	R-B3F-11	RSW ストレーナ(B)ブロー弁	R-B3F-14	RSW ストレーナ(C)ブロー弁	R-B3F-11	RSW ストレーナ(D)ブロー弁	R-B3F-14	RSW	原子炉補機冷却海水ポンプ(A)	SW-1F-2	原子炉補機冷却海水ポンプ(B)	SW-1F-5	原子炉補機冷却海水ポンプ(C)	SW-1F-2	原子炉補機冷却海水ポンプ(D)	SW-1F-5	RSW ポンプ(A)吐出弁	SW-1F-2	RSW ポンプ(B)吐出弁	SW-1F-5	RSW ポンプ(C)吐出弁	SW-1F-2	RSW ポンプ(D)吐出弁	SW-1F-5	RSW ポンプ吐出連絡管(A)止め弁	SW-1F-2	RSW ポンプ吐出連絡管(B)止め弁	SW-1F-5		
系統	機器	設置場所*																																																																		
RCW	原子炉補機冷却水ポンプ(B)	R-B3F-14																																																																		
	原子炉補機冷却水ポンプ(D)	R-B3F-14																																																																		
	RCW 熱交換器(B)冷却水出口弁	R-B3F-14																																																																		
	RCW 熱交換器(D)冷却水出口弁	R-B3F-14																																																																		
	RCW 常用冷却水供給側分離弁(B)	R-B3F-14																																																																		
	RCW B系 冷却水供給圧力	R-B3F-14																																																																		
	RCW 冷却水供給温度熱交換器(B)側調節弁	R-B3F-14																																																																		
	RCW 冷却水供給温度ポンプ(B)側調節弁	R-B3F-14																																																																		
	RCW B系 冷却水供給温度	R-B3F-14																																																																		
	非常用 D/G(B)冷却水出口弁(B)	R-B1F-11																																																																		
	非常用 D/G(B)冷却水出口弁(D)	R-B1F-11																																																																		
	RHR 熱交換器(B)冷却水出口弁	R-1F-11																																																																		
	HECW 冷凍機(B)冷却水圧力調節弁	R-2F-4																																																																		
	HECW 冷凍機(D)冷却水圧力調節弁	R-2F-4																																																																		
サポート系	RCW サージタンク(B)水位	R-3F-1																																																																		
	RSW ストレーナ(A)ブロー弁	RSW ストレーナ(A)ブロー弁	R-B3F-11																																																																	
		RSW ストレーナ(B)ブロー弁	R-B3F-14																																																																	
		RSW ストレーナ(C)ブロー弁	R-B3F-11																																																																	
		RSW ストレーナ(D)ブロー弁	R-B3F-14																																																																	
	RSW	原子炉補機冷却海水ポンプ(A)	SW-1F-2																																																																	
		原子炉補機冷却海水ポンプ(B)	SW-1F-5																																																																	
		原子炉補機冷却海水ポンプ(C)	SW-1F-2																																																																	
		原子炉補機冷却海水ポンプ(D)	SW-1F-5																																																																	
		RSW ポンプ(A)吐出弁	SW-1F-2																																																																	
		RSW ポンプ(B)吐出弁	SW-1F-5																																																																	
		RSW ポンプ(C)吐出弁	SW-1F-2																																																																	
		RSW ポンプ(D)吐出弁	SW-1F-5																																																																	
		RSW ポンプ吐出連絡管(A)止め弁	SW-1F-2																																																																	
RSW ポンプ吐出連絡管(B)止め弁		SW-1F-5																																																																		
	表 4.1.2 残留熱除去系フロント系及びサポート系機器(4/4)																																																																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>系統</th> <th>機器</th> <th>設置場所*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="2">HVAC</td><td>RHR ポンプ(A)真空調機</td><td>R-B3F-3</td></tr> <tr><td>RHR ポンプ(B)真空調機</td><td>R-B3F-6</td></tr> <tr><td rowspan="9">サポート系</td><td rowspan="9">電源</td><td>460V R/B MCC 2C-1</td><td>R-B1F-6</td></tr> <tr><td>460V R/B MCC 2D-1</td><td>R-B1F-10</td></tr> <tr><td>460V P/C 4-2C</td><td>R-B1F-6</td></tr> <tr><td>460V P/C 4-2D</td><td>R-B1F-10</td></tr> <tr><td>6.9kV メタクラ 6-2C</td><td>R-B1F-6</td></tr> <tr><td>6.9kV メタクラ 6-2D</td><td>R-B1F-10</td></tr> <tr><td>125V 直流分電盤 2A-1</td><td>C-B1F-3</td></tr> <tr><td>125V 直流分電盤 2B-1</td><td>C-B1F-5</td></tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">※別添資料1 添付7に記載の区画番号</p>	系統	機器	設置場所*	HVAC	RHR ポンプ(A)真空調機	R-B3F-3	RHR ポンプ(B)真空調機	R-B3F-6	サポート系	電源	460V R/B MCC 2C-1	R-B1F-6	460V R/B MCC 2D-1	R-B1F-10	460V P/C 4-2C	R-B1F-6	460V P/C 4-2D	R-B1F-10	6.9kV メタクラ 6-2C	R-B1F-6	6.9kV メタクラ 6-2D	R-B1F-10	125V 直流分電盤 2A-1	C-B1F-3	125V 直流分電盤 2B-1	C-B1F-5																																									
系統	機器	設置場所*																																																																		
HVAC	RHR ポンプ(A)真空調機	R-B3F-3																																																																		
	RHR ポンプ(B)真空調機	R-B3F-6																																																																		
サポート系	電源	460V R/B MCC 2C-1	R-B1F-6																																																																	
		460V R/B MCC 2D-1	R-B1F-10																																																																	
		460V P/C 4-2C	R-B1F-6																																																																	
		460V P/C 4-2D	R-B1F-10																																																																	
		6.9kV メタクラ 6-2C	R-B1F-6																																																																	
		6.9kV メタクラ 6-2D	R-B1F-10																																																																	
		125V 直流分電盤 2A-1	C-B1F-3																																																																	
		125V 直流分電盤 2B-1	C-B1F-5																																																																	





赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																										
<p>表 4.1.3 「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生                  の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)</p>																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="696 245 862 375">表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)</th> <th data-bbox="696 375 862 504">機器の名称</th> <th data-bbox="696 504 862 649">機器の機能</th> <th data-bbox="696 649 862 778">機器の設置場所</th> <th data-bbox="696 778 862 908">機器の仕様</th> <th data-bbox="696 908 862 1037">機器の材質</th> <th data-bbox="696 1037 862 1166">機器の寸法</th> <th data-bbox="696 1166 862 1295">機器の重量</th> <th data-bbox="696 1295 862 1385">機器の設置位置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)</td> <td>表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)</td> <td>表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)</td> <td>表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)</td> <td>表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)</td> <td>表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)</td> <td>表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)</td> <td>表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)</td> <td>表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)</td> </tr> <tr> <td>表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)</td> <td>表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)</td> <td>表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)</td> <td>表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)</td> <td>表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)</td> <td>表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)</td> <td>表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)</td> <td>表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)</td> </tr> </tbody> </table>				表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)	機器の名称	機器の機能	機器の設置場所	機器の仕様	機器の材質	機器の寸法	機器の重量	機器の設置位置	表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)	表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)	表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)	表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)	表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)	表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)	表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)	表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)	表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)	表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)	表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)	表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)	表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)	表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)	表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)	表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)	表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)
表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)	機器の名称	機器の機能	機器の設置場所	機器の仕様	機器の材質	機器の寸法	機器の重量	機器の設置位置																					
表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)	表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)	表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)	表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)	表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)	表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)	表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)	表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)	表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)																					
	表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)	表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)	表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)	表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)	表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)	表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)	表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)	表4.1.3「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生 の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(2/6)																					
<p>注1 図中の機器は、図中の機器と同一の機器を指す。                  注2 図中の機器は、図中の機器と同一の機器を指す。                  注3 PCV内では発生する過水として、LOCAが考えられるが、過水の原因として、LOCAは想定されないため、原子炉冷却材循環系機器の設置位置は発生しない。                  注4 本通風機は、システム上の事故である。加えて事故発生時の原因となりうる設備が過水を受けるとも想定は起こらない。                  注5 過水原因の結果、事故発生時の原因となりうる設備は発生しないため、過水防止の措置は取らない。                  注6 過水を想定した場合、事故発生時の原因となりうる設備の設置位置は想定されないため、主要な機器の設置位置は発生しない。</p>																													





赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

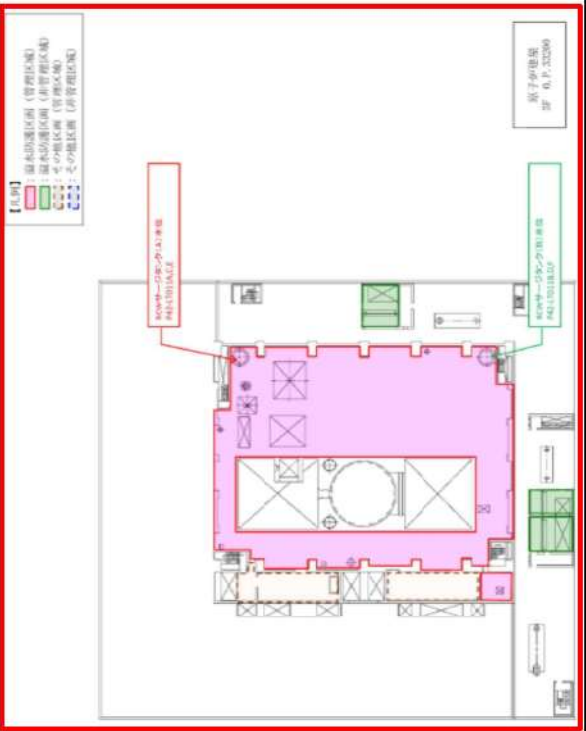
大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																															
<p>表 4.1.3 「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生                  の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(4/6)</p>																																																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="696 240 741 1465">項目</th> <th data-bbox="741 240 786 1465">機器</th> <th data-bbox="786 240 831 1465">機器の位置</th> <th data-bbox="831 240 875 1465">機器の機能</th> <th data-bbox="875 240 920 1465">機器の仕様</th> <th data-bbox="920 240 965 1465">機器の型式</th> <th data-bbox="965 240 1010 1465">機器の寸法</th> <th data-bbox="1010 240 1055 1465">機器の重量</th> <th data-bbox="1055 240 1099 1465">機器の材質</th> <th data-bbox="1099 240 1144 1465">機器の製造</th> <th data-bbox="1144 240 1189 1465">機器の検査</th> <th data-bbox="1189 240 1234 1465">機器の取組</th> <th data-bbox="1234 240 1279 1465">機器の運用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> </tr> <tr> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> </tr> <tr> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> <td>再循環ポンプの駆動機</td> </tr> </tbody> </table>				項目	機器	機器の位置	機器の機能	機器の仕様	機器の型式	機器の寸法	機器の重量	機器の材質	機器の製造	機器の検査	機器の取組	機器の運用	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機
項目	機器	機器の位置	機器の機能	機器の仕様	機器の型式	機器の寸法	機器の重量	機器の材質	機器の製造	機器の検査	機器の取組	機器の運用																																																						
再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機																																																						
	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機																																																						
再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機																																																						
	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機	再循環ポンプの駆動機																																																						
<p>注1 図本の流下経路を含む配管経路                  注2 図本の流下経路を含む配管経路                  注3 図本で発生する過渡変化としてLOCAが考慮されるが、図本を参照としたLOCAは想定されないため、原子炉冷却材循環制御系の駆動機は発生しない                  注4 図本図面の番号、ポンプ駆動機が図本しないことから、RHRは機能喪失しない</p>																																																																		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																	
	<p>表 4.1.3 「運転時の異常な過渡変化」又は「設計基準事故」発生                  の可能性がある機器と残留熱除去系関連機器の関係(5/6)</p>																																																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>機器名</th> <th>機器の機能</th> <th>機器の設置場所</th> <th>機器の材質</th> <th>機器の寸法</th> <th>機器の重量</th> <th>機器の取付方法</th> <th>機器の取付位置</th> <th>機器の取付角度</th> <th>機器の取付高さ</th> <th>機器の取付強度</th> <th>機器の取付耐力</th> <th>機器の取付寿命</th> <th>機器の取付検点</th> <th>機器の取付記録</th> <th>機器の取付点検</th> <th>機器の取付点検周期</th> <th>機器の取付点検項目</th> <th>機器の取付点検方法</th> <th>機器の取付点検結果</th> <th>機器の取付点検担当者</th> <th>機器の取付点検日</th> <th>機器の取付点検回数</th> <th>機器の取付点検履歴</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 図表の添字は、図表の添字と一致する場合は「○」、異なる場合は「△」、記載されていない場合は「-」を示す。                  ※2 〇：機能相違、△：機能相違あり                  ※3 RV内で発生する現象としてはLOGAsが考えられるが、図表を参照したLOGAは想定されないため、原子力規制庁が定める基準を満たしているかを確認する必要がある。                  ※4 図表の添字は、図表の添字と一致する場合は「○」、異なる場合は「△」、記載されていない場合は「-」を示す。                  ※5 図表の添字は、図表の添字と一致する場合は「○」、異なる場合は「△」、記載されていない場合は「-」を示す。</p>		機器名	機器の機能	機器の設置場所	機器の材質	機器の寸法	機器の重量	機器の取付方法	機器の取付位置	機器の取付角度	機器の取付高さ	機器の取付強度	機器の取付耐力	機器の取付寿命	機器の取付検点	機器の取付記録	機器の取付点検	機器の取付点検周期	機器の取付点検項目	機器の取付点検方法	機器の取付点検結果	機器の取付点検担当者	機器の取付点検日	機器の取付点検回数	機器の取付点検履歴	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	
機器名	機器の機能	機器の設置場所	機器の材質	機器の寸法	機器の重量	機器の取付方法	機器の取付位置	機器の取付角度	機器の取付高さ	機器の取付強度	機器の取付耐力	機器の取付寿命	機器の取付検点	機器の取付記録	機器の取付点検	機器の取付点検周期	機器の取付点検項目	機器の取付点検方法	機器の取付点検結果	機器の取付点検担当者	機器の取付点検日	機器の取付点検回数	機器の取付点検履歴																													
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...																												

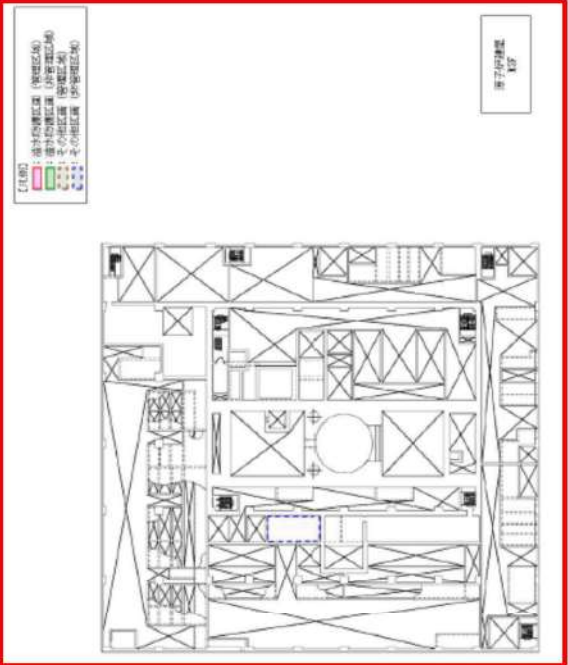


赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

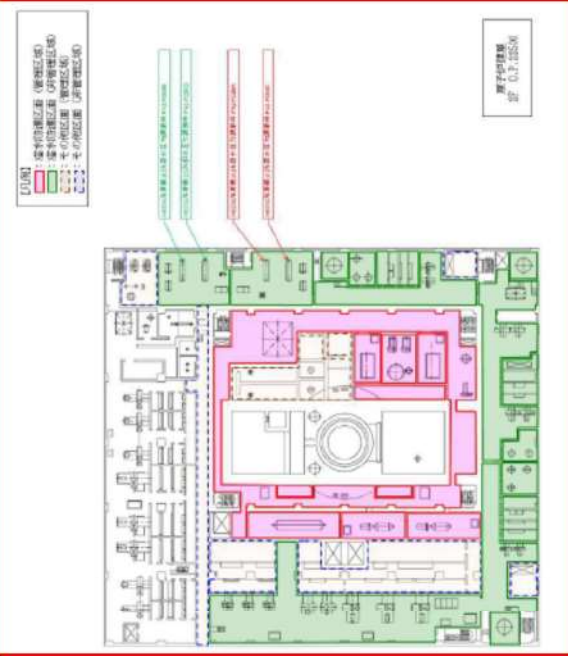
大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p data-bbox="757 928 1214 960">図 4.1.1 溢水防護区画の設定（原子炉建屋 その1）</p>		



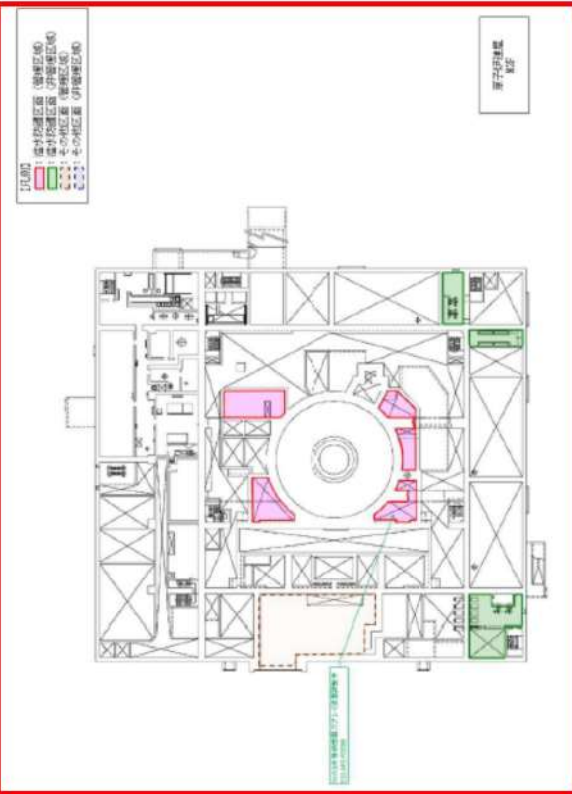
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p data-bbox="757 861 1209 885">図 4.1.2 溢水防護区画の設定（原子炉建屋 その2）</p>		

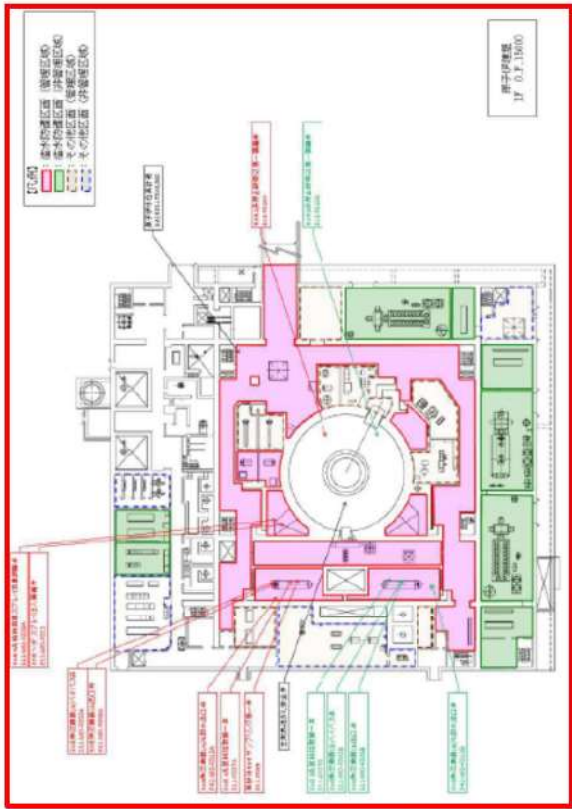
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p data-bbox="757 863 1211 884">図 4.1.3 溢水防護区画の設定（原子炉建屋 その3）</p>		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

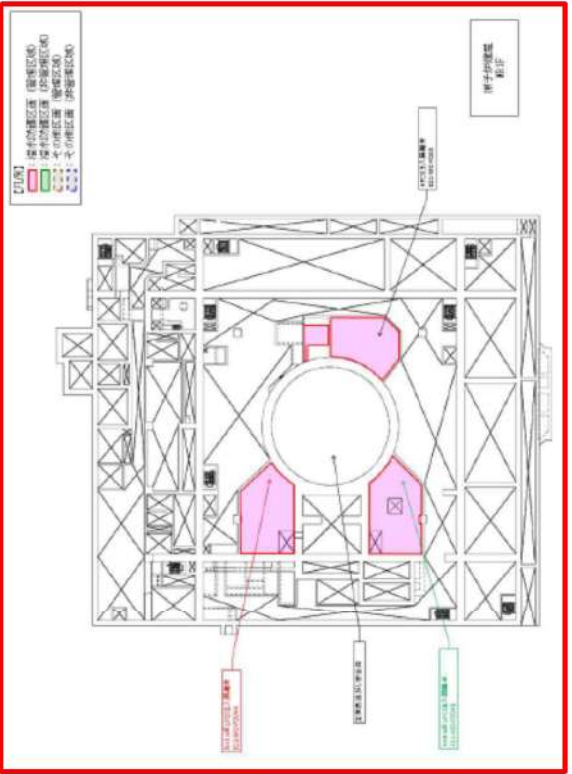
大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p data-bbox="757 997 1214 1024">図 4.1.4 溢水防護区画の設定（原子炉建屋 その4）</p>		

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

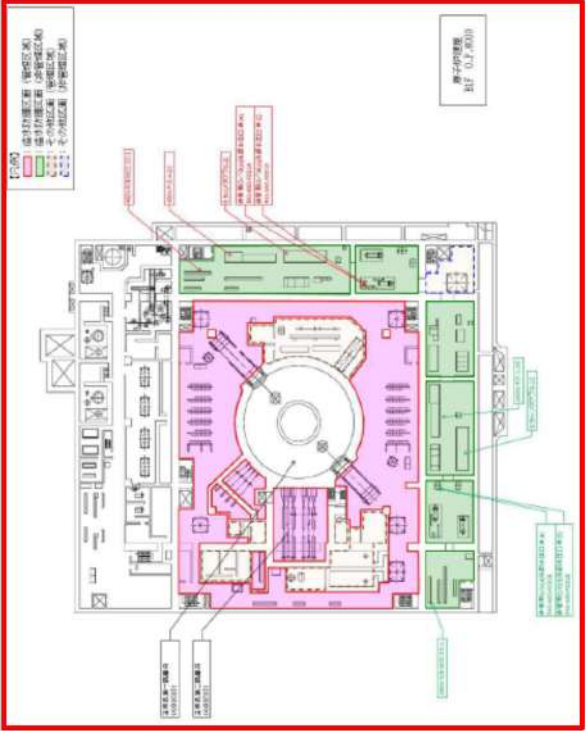
大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p data-bbox="757 997 1211 1023">図 4.1.5 溢水防護区画の設定 (原子炉建屋 その5)</p>		



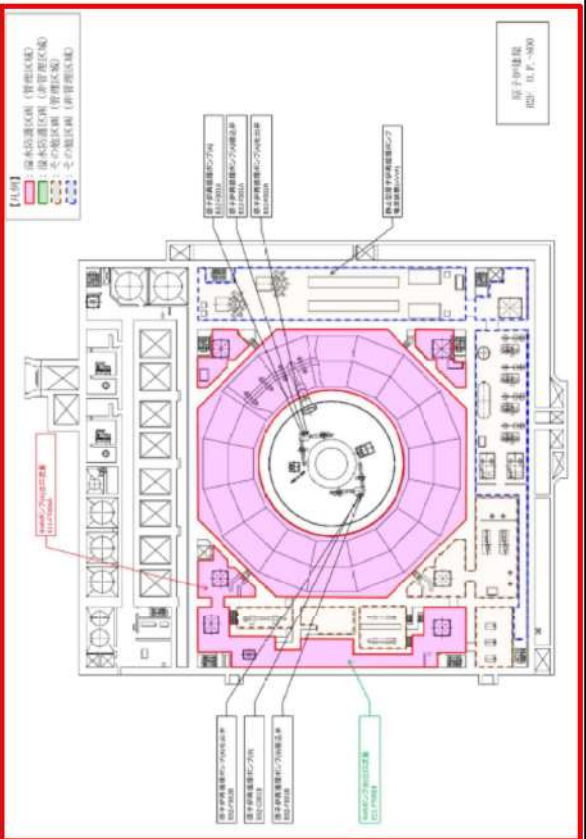
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p data-bbox="757 965 1214 989">図 4.1.6 溢水防護区画の設定（原子炉建屋 その6）</p>		

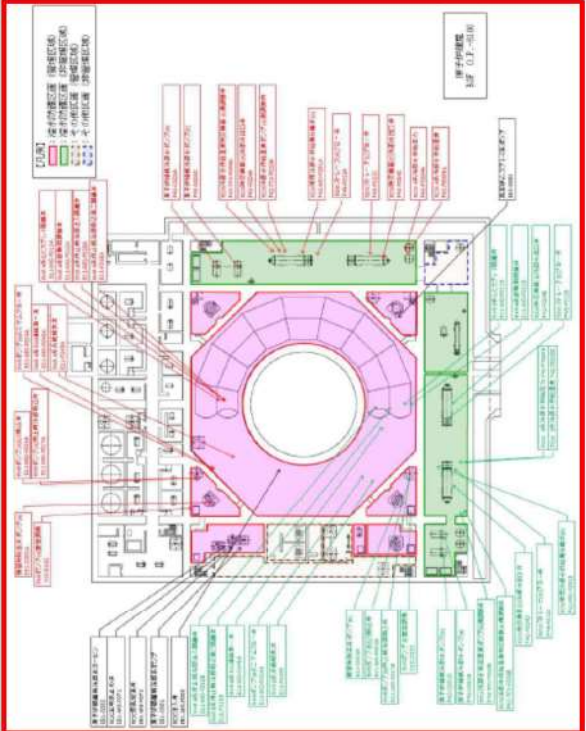
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p data-bbox="757 928 1211 957">図 4.1.7 溢水防護区画の設定（原子炉建屋 その7）</p>		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

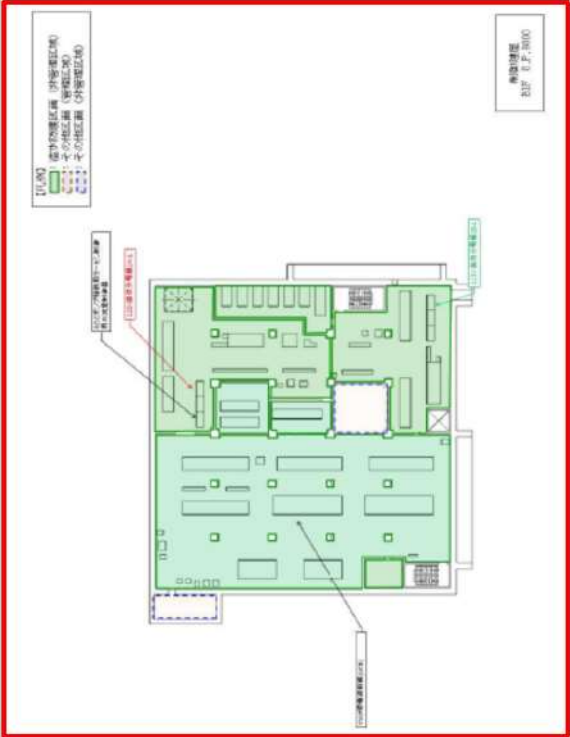
大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p data-bbox="750 1029 1209 1061">図 4.1.8 溢水防護区画の設定（原子炉建屋 その8）</p>		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p data-bbox="757 928 1214 957">図 4.1.9 溢水防護区画の設定（原子炉建屋 その9）</p>		



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p data-bbox="790 930 1167 954">図 4.1.10 溢水防護区画の設定 (制御建屋)</p>		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																			
<p>4.2 内部溢水発生時に期待できる緩和設備</p> <p>原子炉建屋又はタービン建屋における内部溢水において、動作を期待できる緩和機能を表4.2.1に示す。</p> <p style="text-align: center;">表 4.2.1 内部溢水発生時に期待できる緩和系</p> <table border="1" data-bbox="696 512 1272 970"> <thead> <tr> <th rowspan="2">緩和機能</th> <th colspan="2">溢水発生建屋</th> </tr> <tr> <th>R/B</th> <th>T/B</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉停止機能</td> <td>原子炉保護系 (中性子束高等のスクラム機能は多重化され、かつ2区分機能維持できる設計としている。また、T/B側RPSは機能喪失しない)</td> <td>原子炉保護系 (R/B側RPS)</td> </tr> <tr> <td>炉心冷却機能</td> <td>RCIC及びECCS (3区分に多重化されており、1区分溢水で機能喪失しても2区分は機能維持される) RHIR (停止時冷却モード) (2区分に多重化されており、1区分溢水で機能喪失しても1区分は機能維持される)</td> <td>RCIC及びECCS (3区分とも機能維持) RHIR (停止時冷却モード) (2区分とも機能維持)</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">その他機能</td> <td>主蒸気隔離弁</td> <td>主蒸気隔離弁</td> </tr> <tr> <td>逃がし安全弁 (安全弁)</td> <td>逃がし安全弁 (安全弁)</td> </tr> <tr> <td>タービンバイパス弁</td> <td>逃がし安全弁 (逃がし弁機能)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>5. 解析における機能喪失の仮定</p> <p>(1) 内部溢水による機能喪失の仮定</p> <p>4.で示した動作を期待できる緩和機能を前提に、溢水影響により解析において機能喪失を仮定する緩和系を表5.1に示す。MS-3機能については、内部溢水が発生する建屋ごとに機能喪失を仮定する。タービン系の原子炉保護系（RPS）（主蒸気止め弁閉スクラム・加減弁急閉スクラム）については、タービン建屋における内部溢水に対して機能喪失すると仮定する。</p> <p style="text-align: center;">表 5.1 機能喪失を仮定する緩和機能</p> <table border="1" data-bbox="696 1294 1272 1481"> <thead> <tr> <th>緩和機能</th> <th>R/B内で内部溢水</th> <th>T/B内で内部溢水</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>再循環ポンプトリップ</td> <td>喪失を仮定</td> <td>喪失を仮定</td> </tr> <tr> <td>逃がし安全弁 (逃がし弁機能)</td> <td>喪失を仮定</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>タービンバイパス弁</td> <td>—</td> <td>喪失を仮定</td> </tr> <tr> <td>タービン系RPS</td> <td>—</td> <td>喪失を仮定</td> </tr> </tbody> </table>	緩和機能	溢水発生建屋		R/B	T/B	原子炉停止機能	原子炉保護系 (中性子束高等のスクラム機能は多重化され、かつ2区分機能維持できる設計としている。また、T/B側RPSは機能喪失しない)	原子炉保護系 (R/B側RPS)	炉心冷却機能	RCIC及びECCS (3区分に多重化されており、1区分溢水で機能喪失しても2区分は機能維持される) RHIR (停止時冷却モード) (2区分に多重化されており、1区分溢水で機能喪失しても1区分は機能維持される)	RCIC及びECCS (3区分とも機能維持) RHIR (停止時冷却モード) (2区分とも機能維持)	その他機能	主蒸気隔離弁	主蒸気隔離弁	逃がし安全弁 (安全弁)	逃がし安全弁 (安全弁)	タービンバイパス弁	逃がし安全弁 (逃がし弁機能)			緩和機能	R/B内で内部溢水	T/B内で内部溢水	再循環ポンプトリップ	喪失を仮定	喪失を仮定	逃がし安全弁 (逃がし弁機能)	喪失を仮定	—	タービンバイパス弁	—	喪失を仮定	タービン系RPS	—	喪失を仮定	<p>4.2 内部溢水発生時に期待できる緩和設備</p> <p>原子炉建屋又はタービン建屋における内部溢水において、動作を期待できる緩和機能を表4.2.1に示す。</p> <p style="text-align: center;">表 4 内部溢水発生時に期待できる緩和系</p> <table border="1" data-bbox="1285 512 1861 842"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能</th> <th>系统及び機器 (すべて1次系建屋に設置)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">MS-1</td> <td>原子炉の緊急停止機能</td> <td>制御棒クラスタ及び制御棒駆動装置 (トリップ機能)</td> </tr> <tr> <td>未臨界維持機能</td> <td>制御棒 非常用炉心冷却設備 (高圧注入系)</td> </tr> <tr> <td>工学的安全施設及び原子炉停止系への作動信号の発生機能</td> <td>安全保護系</td> </tr> <tr> <td>炉心冷却機能</td> <td>原子炉停止後の除熱機能</td> <td>補助給水設備 主蒸気安全弁</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>原子炉冷却材圧力バウンダリの加圧防止機能</td> <td>加圧器安全弁 (開機能)</td> </tr> </tbody> </table> <p>5. 解析における機能喪失の仮定</p> <p>(1) 内部溢水による機能喪失の仮定</p> <p>溢水影響による解析において事象収束に期待する緩和系は、4.で示すとおり健全であり、緩和系の機能喪失を考慮する必要はない。</p>	分類	機能	系统及び機器 (すべて1次系建屋に設置)	MS-1	原子炉の緊急停止機能	制御棒クラスタ及び制御棒駆動装置 (トリップ機能)	未臨界維持機能	制御棒 非常用炉心冷却設備 (高圧注入系)	工学的安全施設及び原子炉停止系への作動信号の発生機能	安全保護系	炉心冷却機能	原子炉停止後の除熱機能	補助給水設備 主蒸気安全弁	その他	原子炉冷却材圧力バウンダリの加圧防止機能	加圧器安全弁 (開機能)	<p>1次系建屋又は2次系建屋における内部溢水において、動作を期待できる緩和機能を表4に示す。</p> <p style="text-align: center;">表 4 内部溢水発生時に期待できる緩和系</p> <table border="1" data-bbox="1285 512 1861 842"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能</th> <th>系统及び機器 (すべて1次系建屋に設置)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">MS-1</td> <td>原子炉の緊急停止機能</td> <td>制御棒クラスタ及び制御棒駆動装置 (トリップ機能)</td> </tr> <tr> <td>未臨界維持機能</td> <td>制御棒 非常用炉心冷却設備 (高圧注入系)</td> </tr> <tr> <td>工学的安全施設及び原子炉停止系への作動信号の発生機能</td> <td>安全保護系</td> </tr> <tr> <td>炉心冷却機能</td> <td>原子炉停止後の除熱機能</td> <td>補助給水設備 主蒸気安全弁</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>原子炉冷却材圧力バウンダリの加圧防止機能</td> <td>加圧器安全弁 (開機能)</td> </tr> </tbody> </table>	分類	機能	系统及び機器 (すべて1次系建屋に設置)	MS-1	原子炉の緊急停止機能	制御棒クラスタ及び制御棒駆動装置 (トリップ機能)	未臨界維持機能	制御棒 非常用炉心冷却設備 (高圧注入系)	工学的安全施設及び原子炉停止系への作動信号の発生機能	安全保護系	炉心冷却機能	原子炉停止後の除熱機能	補助給水設備 主蒸気安全弁	その他	原子炉冷却材圧力バウンダリの加圧防止機能	加圧器安全弁 (開機能)	<p>相違理由</p> <p>【女川】 記載方針の相違 女川は、「原子炉建屋」と「タービン建屋」間で影響を及ぼさないこととしており、泊は「1次系建屋」と「2次系建屋」間で影響を及ぼさないこととした。</p> <p>【女川】 記載表現の相違 【女川】 記載方針の相違 女川はBWRの緩和機能を整理しており、泊はPWRの緩和機能を整理した。</p> <p>【女川】 設計方針の相違 女川では、MS-3設備について機能喪失を仮定しているが、泊はMS-3設備に溢水影響による解析において事象収束に期待する緩和系がないため、仮定は不要である。</p>
緩和機能		溢水発生建屋																																																																				
	R/B	T/B																																																																				
原子炉停止機能	原子炉保護系 (中性子束高等のスクラム機能は多重化され、かつ2区分機能維持できる設計としている。また、T/B側RPSは機能喪失しない)	原子炉保護系 (R/B側RPS)																																																																				
炉心冷却機能	RCIC及びECCS (3区分に多重化されており、1区分溢水で機能喪失しても2区分は機能維持される) RHIR (停止時冷却モード) (2区分に多重化されており、1区分溢水で機能喪失しても1区分は機能維持される)	RCIC及びECCS (3区分とも機能維持) RHIR (停止時冷却モード) (2区分とも機能維持)																																																																				
その他機能	主蒸気隔離弁	主蒸気隔離弁																																																																				
	逃がし安全弁 (安全弁)	逃がし安全弁 (安全弁)																																																																				
	タービンバイパス弁	逃がし安全弁 (逃がし弁機能)																																																																				
緩和機能	R/B内で内部溢水	T/B内で内部溢水																																																																				
再循環ポンプトリップ	喪失を仮定	喪失を仮定																																																																				
逃がし安全弁 (逃がし弁機能)	喪失を仮定	—																																																																				
タービンバイパス弁	—	喪失を仮定																																																																				
タービン系RPS	—	喪失を仮定																																																																				
分類	機能	系统及び機器 (すべて1次系建屋に設置)																																																																				
MS-1	原子炉の緊急停止機能	制御棒クラスタ及び制御棒駆動装置 (トリップ機能)																																																																				
	未臨界維持機能	制御棒 非常用炉心冷却設備 (高圧注入系)																																																																				
	工学的安全施設及び原子炉停止系への作動信号の発生機能	安全保護系																																																																				
炉心冷却機能	原子炉停止後の除熱機能	補助給水設備 主蒸気安全弁																																																																				
その他	原子炉冷却材圧力バウンダリの加圧防止機能	加圧器安全弁 (開機能)																																																																				
分類	機能	系统及び機器 (すべて1次系建屋に設置)																																																																				
MS-1	原子炉の緊急停止機能	制御棒クラスタ及び制御棒駆動装置 (トリップ機能)																																																																				
	未臨界維持機能	制御棒 非常用炉心冷却設備 (高圧注入系)																																																																				
	工学的安全施設及び原子炉停止系への作動信号の発生機能	安全保護系																																																																				
炉心冷却機能	原子炉停止後の除熱機能	補助給水設備 主蒸気安全弁																																																																				
その他	原子炉冷却材圧力バウンダリの加圧防止機能	加圧器安全弁 (開機能)																																																																				

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																									
<p>(2) 単一故障の仮定【ステップ7】</p> <p>解析を行うに際し、安全評価審査指針に従い、想定した事象に加え、原子炉停止、炉心冷却及び放射能閉じ込めの各基本的安全機能別に、解析の結果を厳しくする機器の単一故障を仮定する。具体的な単一故障の想定と解析への影響を表5.2に示す。なお、<a href="#">原子炉建屋</a>、<a href="#">タービン建屋</a>での解析を実施する事象発生時に期待する緩和系は表4.2.1のとおりである。</p> <p style="text-align: center;">表 5.2 単一故障の仮定と解析への影響</p> <table border="1" data-bbox="703 662 1265 909"> <thead> <tr> <th>単一故障を仮定する機能</th> <th>解析への影響</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉停止機能</td> <td>・安全保護系に単一故障を仮定（多重化されているため影響なし）</td> </tr> <tr> <td>炉心冷却機能</td> <td>・<a href="#">BCC</a>及び<a href="#">ECCS</a> ・内部溢水により1区分、単一故障により更に1区分喪失しても、残りの区分により炉心冷却可能【<a href="#">RHR</a>（停止時冷却モード）】 ・単一故障により1区分喪失しても、残りの区分により除熱が可能（溢水により過渡事象の発生と類似の機能喪失は同時に発生しない）</td> </tr> <tr> <td>放射能閉じ込め機能</td> <td>・評価事象において燃料は破損しない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>6. 解析コード及び解析条件</p> <p>(1) 使用する解析コード</p> <p>解析に当たっては、表6.1に示すとおり、設置許可申請解析において使用しているプラント動特性解析コード（<a href="#">REDY</a>）及び単チャンネル熱水力学解析コード（<a href="#">SCAT</a>）を使用している。</p> <p style="text-align: center;">表 6.1 解析コード</p> <table border="1" data-bbox="703 1204 1265 1388"> <thead> <tr> <th>解析項目</th> <th>コード名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プラント動特性挙動 ・中性子束 ・原子炉圧力 ・<a href="#">原子炉冷却材圧力バウンダリ圧力</a></td> <td><a href="#">REDY</a></td> </tr> <tr> <td>単チャンネル熱水力学挙動 ・<a href="#">燃料被覆管温度</a></td> <td><a href="#">SCAT</a></td> </tr> </tbody> </table>	単一故障を仮定する機能	解析への影響	原子炉停止機能	・安全保護系に単一故障を仮定（多重化されているため影響なし）	炉心冷却機能	・ <a href="#">BCC</a> 及び <a href="#">ECCS</a> ・内部溢水により1区分、単一故障により更に1区分喪失しても、残りの区分により炉心冷却可能【 <a href="#">RHR</a> （停止時冷却モード）】 ・単一故障により1区分喪失しても、残りの区分により除熱が可能（溢水により過渡事象の発生と類似の機能喪失は同時に発生しない）	放射能閉じ込め機能	・評価事象において燃料は破損しない。	解析項目	コード名	プラント動特性挙動 ・中性子束 ・原子炉圧力 ・ <a href="#">原子炉冷却材圧力バウンダリ圧力</a>	<a href="#">REDY</a>	単チャンネル熱水力学挙動 ・ <a href="#">燃料被覆管温度</a>	<a href="#">SCAT</a>	<p>(2) 単一故障の仮定【ステップ7】</p> <p>解析を行うに際し、安全評価審査指針に従い、想定した事象に加え、原子炉停止、炉心冷却及び放射能閉じ込めの各基本的安全機能別に、解析の結果を厳しくする機器の単一故障を仮定する。具体的な単一故障の想定と解析への影響を表5に示す。なお、<a href="#">1次系建屋</a>、<a href="#">2次系建屋</a>での解析を実施する事象発生時に期待する緩和系は表4のとおりである。</p> <p style="text-align: center;">表 5 単一故障の仮定と解析への影響</p> <table border="1" data-bbox="1285 662 1848 774"> <thead> <tr> <th>単一故障を仮定する機能</th> <th>解析への影響</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉停止機能</td> <td>・安全保護系に単一故障を仮定（多重化されているため影響なし）</td> </tr> <tr> <td>炉心冷却機能</td> <td>・<a href="#">補助給水</a>に単一故障を仮定する</td> </tr> <tr> <td>放射能閉じ込め機能</td> <td>・評価事象において燃料は破損しない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>6. 解析コード及び解析条件</p> <p>(1) 使用する解析コード</p> <p>解析に当たっては、表6.1に示すとおり、設置許可申請解析において使用しているプラント動特性解析コード（<a href="#">MARVEL</a>）を使用している。</p> <p style="text-align: center;">表 6.1 解析コード</p> <table border="1" data-bbox="1285 1204 1848 1324"> <thead> <tr> <th>解析項目</th> <th>コード名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プラント動特性挙動 ・中性子束 ・<a href="#">1次冷却材温度</a> ・原子炉圧力</td> <td><a href="#">MARVEL</a></td> </tr> </tbody> </table>	単一故障を仮定する機能	解析への影響	原子炉停止機能	・安全保護系に単一故障を仮定（多重化されているため影響なし）	炉心冷却機能	・ <a href="#">補助給水</a> に単一故障を仮定する	放射能閉じ込め機能	・評価事象において燃料は破損しない。	解析項目	コード名	プラント動特性挙動 ・中性子束 ・ <a href="#">1次冷却材温度</a> ・原子炉圧力	<a href="#">MARVEL</a>	<p>相違理由</p> <p><a href="#">【女川】</a>  <a href="#">記載方針の相違</a>          女川は、「<a href="#">原子炉建屋</a>」と「<a href="#">タービン建屋</a>」間で影響を及ぼさないこととしており、泊は「<a href="#">1次系建屋</a>」と「<a href="#">2次系建屋</a>」間で影響を及ぼさないこととした。</p> <p><a href="#">【女川】</a>  <a href="#">設計方針の相違</a>          女川は、炉心冷却機能として3区分あるが、泊は炉心冷却機能として補助給水系に期待しているため、補助給水系の単一故障を仮定した。</p> <p><a href="#">【女川】</a>  <a href="#">設計方針の相違</a>          安全解析における解析項目の違いによる解析コードの相違</p>
単一故障を仮定する機能	解析への影響																											
原子炉停止機能	・安全保護系に単一故障を仮定（多重化されているため影響なし）																											
炉心冷却機能	・ <a href="#">BCC</a> 及び <a href="#">ECCS</a> ・内部溢水により1区分、単一故障により更に1区分喪失しても、残りの区分により炉心冷却可能【 <a href="#">RHR</a> （停止時冷却モード）】 ・単一故障により1区分喪失しても、残りの区分により除熱が可能（溢水により過渡事象の発生と類似の機能喪失は同時に発生しない）																											
放射能閉じ込め機能	・評価事象において燃料は破損しない。																											
解析項目	コード名																											
プラント動特性挙動 ・中性子束 ・原子炉圧力 ・ <a href="#">原子炉冷却材圧力バウンダリ圧力</a>	<a href="#">REDY</a>																											
単チャンネル熱水力学挙動 ・ <a href="#">燃料被覆管温度</a>	<a href="#">SCAT</a>																											
単一故障を仮定する機能	解析への影響																											
原子炉停止機能	・安全保護系に単一故障を仮定（多重化されているため影響なし）																											
炉心冷却機能	・ <a href="#">補助給水</a> に単一故障を仮定する																											
放射能閉じ込め機能	・評価事象において燃料は破損しない。																											
解析項目	コード名																											
プラント動特性挙動 ・中性子束 ・ <a href="#">1次冷却材温度</a> ・原子炉圧力	<a href="#">MARVEL</a>																											

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																												
	<p>(2) 解析条件</p> <p>プラントの初期状態等を設計基準事象である過渡事象における前提条件を踏襲する。主な解析条件を表6.2に示す。</p> <p>表 6.2 主な解析条件</p> <table border="1" data-bbox="696 359 1272 496"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>解析条件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉熱出力</td> <td>2,540 MW</td> </tr> <tr> <td>炉心入口流量</td> <td><math>30.3 \times 10^3</math> t/h</td> </tr> <tr> <td>原子炉圧力</td> <td>7.03 MPa[gage]</td> </tr> <tr> <td>原子炉水位</td> <td>通常水位</td> </tr> <tr> <td>外部電源</td> <td>あり</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 判断基準</p> <p>内部溢水を起因として発生する代表事象に対して、単一故障を想定しても、影響緩和系により事象は収束することを確認する。</p>	項目	解析条件	原子炉熱出力	2,540 MW	炉心入口流量	$30.3 \times 10^3$ t/h	原子炉圧力	7.03 MPa[gage]	原子炉水位	通常水位	外部電源	あり	<p>(2) 解析条件</p> <p>プラントの初期状態等を設計基準事象である過渡事象における前提条件を踏襲する。主な解析条件を表6.2に示す。</p> <p>表 6.2 主な解析条件</p> <table border="1" data-bbox="1279 347 1861 715"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">解析条件</th> </tr> <tr> <th>DNBR評価</th> <th>圧力評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">初期条件</td> <td>原子炉出力</td> <td>2660MWt (100%)</td> <td>2660MWt (100%) +2%</td> </tr> <tr> <td>1次冷却材平均温度</td> <td>306.6℃</td> <td>306.6℃+2.2℃</td> </tr> <tr> <td>原子炉圧力</td> <td>15.41MPa[gage]</td> <td>15.41MPa[gage] - 0.21MPa</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">外乱条件</td> <td>制御棒の異常な引き抜き</td> <td><math>8.6 \times 10^{-4} (\Delta k/k)/s</math>を最大反応度追加率とし、結果が最も厳しくなる値を考慮</td> <td>同左</td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材系の異常な減圧</td> <td>加圧器逃がし弁1弁誤開</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>主給水流量喪失</td> <td>すべての蒸気発生器への給水停止</td> <td>同左</td> </tr> <tr> <td>負荷の喪失</td> <td>-</td> <td>蒸気タービンへの蒸気流量がゼロ</td> </tr> <tr> <td>外部電源</td> <td>あり</td> <td>あり</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 判断基準</p> <p>内部溢水を起因として発生する代表事象に対して、単一故障を想定しても、影響緩和系により事象は収束することを確認する。</p>	項目	解析条件		DNBR評価	圧力評価	初期条件	原子炉出力	2660MWt (100%)	2660MWt (100%) +2%	1次冷却材平均温度	306.6℃	306.6℃+2.2℃	原子炉圧力	15.41MPa[gage]	15.41MPa[gage] - 0.21MPa	外乱条件	制御棒の異常な引き抜き	$8.6 \times 10^{-4} (\Delta k/k)/s$ を最大反応度追加率とし、結果が最も厳しくなる値を考慮	同左	原子炉冷却材系の異常な減圧	加圧器逃がし弁1弁誤開	-	主給水流量喪失	すべての蒸気発生器への給水停止	同左	負荷の喪失	-	蒸気タービンへの蒸気流量がゼロ	外部電源	あり	あり		<p>【女川】                  設計方針の相違                  DWRとPWRの解析条件の相違</p>
項目	解析条件																																														
原子炉熱出力	2,540 MW																																														
炉心入口流量	$30.3 \times 10^3$ t/h																																														
原子炉圧力	7.03 MPa[gage]																																														
原子炉水位	通常水位																																														
外部電源	あり																																														
項目	解析条件																																														
	DNBR評価	圧力評価																																													
初期条件	原子炉出力	2660MWt (100%)	2660MWt (100%) +2%																																												
	1次冷却材平均温度	306.6℃	306.6℃+2.2℃																																												
	原子炉圧力	15.41MPa[gage]	15.41MPa[gage] - 0.21MPa																																												
外乱条件	制御棒の異常な引き抜き	$8.6 \times 10^{-4} (\Delta k/k)/s$ を最大反応度追加率とし、結果が最も厳しくなる値を考慮	同左																																												
	原子炉冷却材系の異常な減圧	加圧器逃がし弁1弁誤開	-																																												
	主給水流量喪失	すべての蒸気発生器への給水停止	同左																																												
	負荷の喪失	-	蒸気タービンへの蒸気流量がゼロ																																												
外部電源	あり	あり																																													



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>7. 解析結果</p> <p>解析を実施する事象について、解析結果を表 7.1～表 7.2 表及び図 7.1～図 7.4、図 7.6～図 7.9 に、事象の推移を図 7.5 及び図 7.10 に示す。</p> <p>(1) 原子炉建屋での内部溢水に起因する事象</p> <p>原子炉建屋での内部溢水に起因する事象の解析結果について以下に示す。</p> <p>給水制御系の故障</p> <p>a. 原子炉停止状態</p> <p>給水流量の増加による炉心入口サブクールの増加によってボイドが減少し、原子炉出力が上昇する。原子炉水位が上昇し、原子炉水位高（レベル8）に達するとタービントリップし、主蒸気止め弁閉信号が発生する。主蒸気止め弁の閉止により、原子炉はスクラムする。</p> <p>b. 炉心冷却状態</p> <p>原子炉水位高（レベル8）到達により、給水ポンプがトリップするため、原子炉水位は徐々に低下するが、高圧炉心スプレイ系等により注水は維持される。また、原子炉圧力はタービントリップに伴う主蒸気止め弁閉止とともに上昇するが、逃がし安全弁（安全弁機能）の作動により抑制が可能である。</p> <p>c. 安全停止状態</p> <p>原子炉スクラム及び炉心冷却により原子炉の安全停止の維持は可能である。</p>	<p>7. 解析結果</p> <p>解析を実施する事象について、解析結果を表 7.1～表 7.2 表及び図 7.1、図 7.3 に、事象の推移を図 7.2 及び図 7.4 に示す。</p> <p>(1) 1次系建屋での内部溢水に起因する事象</p> <p>1次系建屋での内部溢水に起因する事象の解析結果について以下に示す。</p> <p>a. 圧力評価（負荷の喪失+出力運転中の制御棒の異常な引き抜き+主給水流量喪失）</p> <p>(a) 原子炉停止状態</p> <p>制御棒の引き抜きにより原子炉出力が上昇し、主給水流量喪失及び負荷の喪失による2次側除熱の悪化も相まって、1次冷却材温度、原子炉圧力も上昇する。原子炉圧力が上昇し、「原子炉圧力高」の設定値に到達して原子炉トリップする。</p> <p>(b) 炉心冷却状態</p> <p>原子炉トリップにより原子炉出力が低下し、主蒸気安全弁作動による2次側除熱促進により1次冷却材温度、原子炉圧力は低下に転じる。解析上は仮定していないが、その後補助給水ポンプが起動し、炉心崩壊熱を除熱し炉心冷却を継続する。</p> <p>(c) 安全停止状態</p> <p>原子炉トリップ及び炉心冷却により原子炉の安全停止の維持は可能である。</p>	<p>【女川】 記載表現の相違</p> <p>【女川】 記載方針の相違 女川は、「原子炉建屋」と「タービン建屋」間で影響を及ぼさないこととしており、泊は「1次系建屋」と「2次系建屋」間で影響を及ぼさないこととした。</p> <p>【女川】 記載方針の相違 重畳事象が異なるため解析結果に相違があるが、原子炉の安全停止の維持は可能であることに相違はない。</p> <p>【女川】 記載表現の相違 BWRとPWRの表現の相違</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>(2) タービン建屋での内部溢水に起因する事象                      タービン建屋での内部溢水に起因する事象の解析結果について以下に示す。</p> <p>給水加熱喪失+給水制御系の故障</p> <p>a. 原子炉停止状態                      給水流量の増加と給水加熱喪失による炉心入口サブクールの増加によってボイドが減少し、原子炉出力が上昇する。また、給水流量の増加により原子炉水位が上昇し、原子炉水位高（レベル8）に達するとタービントリップし、主蒸気止め弁閉信号が発生するが、タービン系 RPS の機能喪失を仮定するため、この時点ではスクラムしない。主蒸気止め弁の閉止により原子炉圧力が上昇し、炉心内のボイドの減少により原子炉出力が上昇するため、中性子束高信号が発生し、原子炉はスクラムする。</p>	<p>b. DNBR 評価（出力運転中の制御棒の異常な引き抜き+主給水流量喪失+原子炉冷却材系の異常な減圧）</p> <p>(a) 原子炉停止状態                      制御棒の引き抜きにより原子炉出力が上昇し、主給水流量喪失による2次側除熱の悪化も相まって、1次冷却材温度も上昇する。また、原子炉冷却材系の異常な減圧により、1次冷却材温度上昇による圧力上昇効果を打ち消して、原子炉圧力は低下する。原子炉出力及び1次冷却材温度が上昇し、「過大温度ΔT高」の設定値に到達すると原子炉トリップする。</p> <p>(b) 炉心冷却状態                      原子炉トリップにより原子炉出力が低下し、1次冷却材温度は低下に転じる。解析上は仮定していないが、その後補助給水ポンプが起動し、炉心崩壊熱を除熱し炉心冷却を継続する。</p> <p>(c) 安全停止状態                      原子炉トリップ及び炉心冷却により原子炉の安全停止の維持は可能である。</p> <p>(2) 2次系建屋での内部溢水に起因する事象                      2次系建屋での内部溢水に起因する事象は1次系建屋での内部溢水に起因する事象で代表できる。</p>	<p>【女川】                      記載方針の相違                      重量事象が異なるため解析結果に相違があるが、原子炉の安全停止の維持は可能であることに相違はない。</p> <p>【女川】                      記載方針の相違                      女川は、「原子炉建屋」と「タービン建屋」間で影響を及ぼさないこととしており、泊は「1次系建屋」と「2次系建屋」間で影響を及ぼさないこととした。</p> <p>【女川】                      記載方針の相違                      泊は表3.11で2次系建屋での内部溢水に起因する事象は1次系建屋での内部溢水に起因する事象で代表できることを示したため、記載しない。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

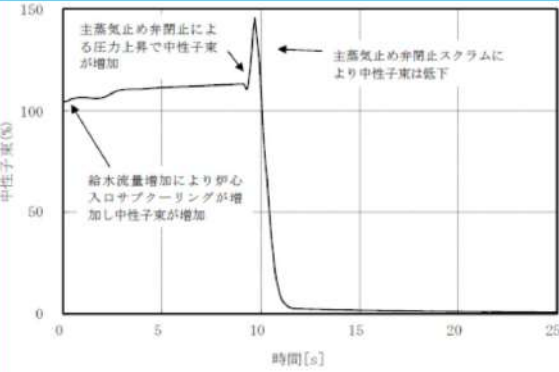
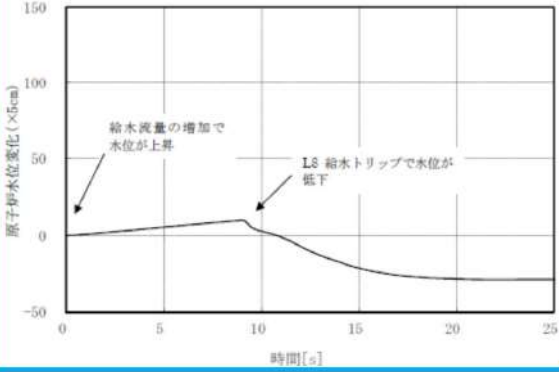
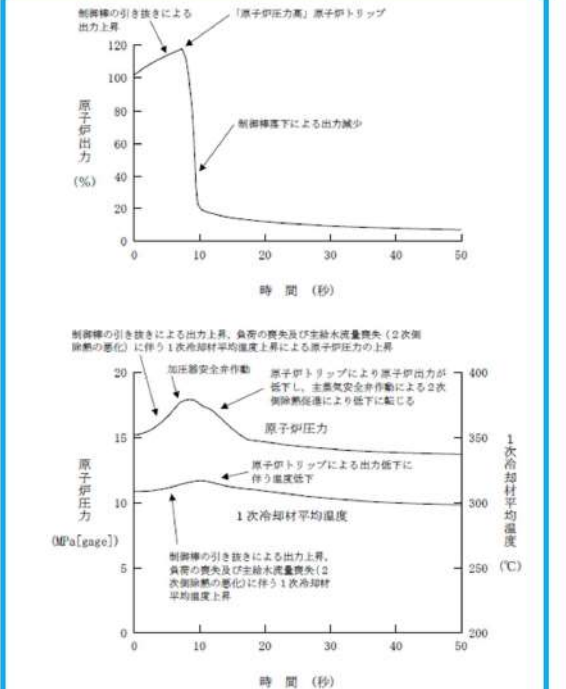
大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																										
	<p>b. 炉心冷却状態</p> <p>原子炉水位高（レベル8）到達により、給水ポンプがトリップするため、原子炉水位は徐々に低下するが、高圧炉心スプレイ系等により注水は維持される。また、原子炉圧力はタービントリップに伴う主蒸気止め弁閉止とともに上昇するが、逃がし安全弁（逃がし弁機能）の作動により抑制が可能である。</p> <p>c. 安全停止状態</p> <p>原子炉スクラム及び炉心冷却により原子炉の安全停止の維持は可能である。</p> <p>以上より、内部溢水を起因として発生する可能性のある過渡的な事象に対して、単一故障を想定しても、影響緩和系により事象は収束し、原子炉が安全停止を維持できることを確認した。</p> <p style="text-align: center;">表 7.1 解析結果まとめ表（原子炉建屋）</p> <table border="1" data-bbox="698 826 1272 1120"> <thead> <tr> <th>重畳事象</th> <th>項目</th> <th>解析結果 () 内は判断目安</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">給水制御系の故障（主蒸気止め弁閉スクラム）</td> <td>中性子束 (%)</td> <td>146 (-)</td> </tr> <tr> <td>原子炉圧力 (MPa[gage])</td> <td>8.29 (10.34)</td> </tr> <tr> <td>燃料被覆管温度 (°C)</td> <td>沸騰遷移しない (1200)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">発生事象</td> <td>時刻 (秒)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">給水制御系故障発生</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">原子炉スクラム（主蒸気止め弁閉）</td> <td>9.0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">安全弁閉開始</td> <td>10.8</td> </tr> </tbody> </table>	重畳事象	項目	解析結果 () 内は判断目安	給水制御系の故障（主蒸気止め弁閉スクラム）	中性子束 (%)	146 (-)	原子炉圧力 (MPa[gage])	8.29 (10.34)	燃料被覆管温度 (°C)	沸騰遷移しない (1200)	発生事象		時刻 (秒)	給水制御系故障発生		0	原子炉スクラム（主蒸気止め弁閉）		9.0	安全弁閉開始		10.8	<p>以上より、内部溢水を起因として発生する可能性のある過渡的な事象に対して、プラントパラメータの悪化を顕著にする傾向があるものの、パラメータ悪化を検知して影響緩和系が自動動作し、単一故障を想定しても、影響緩和系により事象は収束し、原子炉が安全停止を維持できることを確認した。</p> <p style="text-align: center;">表 7.1 解析結果まとめ表（1次系建屋 / 2次系建屋共通 圧力評価）</p> <table border="1" data-bbox="1281 826 1863 1225"> <thead> <tr> <th>重畳事象</th> <th>項目</th> <th>解析結果 () 内は判断目安</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>負荷の喪失 +出力運転中の制御棒の異常な引き抜き +主給水流量喪失</td> <td>原子炉圧力 (MPa[gage])</td> <td>17.91 (20.592)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">事象発生</td> <td>時刻 (秒)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">負荷の喪失 制御棒引き抜き<sup>※1</sup> 主給水流量喪失</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">「原子炉圧力高」原子炉トリップ限界値到達</td> <td>5.3</td> </tr> <tr> <td colspan="2">加圧器安全弁作動</td> <td>6.5</td> </tr> <tr> <td colspan="2">「出力領域中性子束高」原子炉トリップ限界値到達</td> <td>6.9</td> </tr> <tr> <td colspan="2">制御棒クランク棒下開始</td> <td>7.3</td> </tr> <tr> <td colspan="2">原子炉出力最大（約118%）</td> <td>7.3</td> </tr> <tr> <td colspan="2">主蒸気安全弁作動</td> <td>8.4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">原子炉圧力最大（約17.91 MPa[gage]）</td> <td>8.6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">1次冷却材平均温度最大（約317.2°C）</td> <td>10.2</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right; font-size: small;">※1 反応度係数加率：2.2×10<sup>-4</sup>(Δk/k)/s</p>	重畳事象	項目	解析結果 () 内は判断目安	負荷の喪失 +出力運転中の制御棒の異常な引き抜き +主給水流量喪失	原子炉圧力 (MPa[gage])	17.91 (20.592)	事象発生		時刻 (秒)	負荷の喪失 制御棒引き抜き <sup>※1</sup> 主給水流量喪失		0	「原子炉圧力高」原子炉トリップ限界値到達		5.3	加圧器安全弁作動		6.5	「出力領域中性子束高」原子炉トリップ限界値到達		6.9	制御棒クランク棒下開始		7.3	原子炉出力最大（約118%）		7.3	主蒸気安全弁作動		8.4	原子炉圧力最大（約17.91 MPa[gage]）		8.6	1次冷却材平均温度最大（約317.2°C）		10.2	<p>相違理由</p> <p>【女川】 記載方針の相違 泊はプラントパラメータの挙動に対して考察した内容を追記した。</p> <p>【女川】 記載方針の相違 女川は建屋ごとに解析結果を示したが、泊は評価項目ごとに解析結果を示す。</p>
重畳事象	項目	解析結果 () 内は判断目安																																																											
給水制御系の故障（主蒸気止め弁閉スクラム）	中性子束 (%)	146 (-)																																																											
	原子炉圧力 (MPa[gage])	8.29 (10.34)																																																											
	燃料被覆管温度 (°C)	沸騰遷移しない (1200)																																																											
発生事象		時刻 (秒)																																																											
給水制御系故障発生		0																																																											
原子炉スクラム（主蒸気止め弁閉）		9.0																																																											
安全弁閉開始		10.8																																																											
重畳事象	項目	解析結果 () 内は判断目安																																																											
負荷の喪失 +出力運転中の制御棒の異常な引き抜き +主給水流量喪失	原子炉圧力 (MPa[gage])	17.91 (20.592)																																																											
事象発生		時刻 (秒)																																																											
負荷の喪失 制御棒引き抜き <sup>※1</sup> 主給水流量喪失		0																																																											
「原子炉圧力高」原子炉トリップ限界値到達		5.3																																																											
加圧器安全弁作動		6.5																																																											
「出力領域中性子束高」原子炉トリップ限界値到達		6.9																																																											
制御棒クランク棒下開始		7.3																																																											
原子炉出力最大（約118%）		7.3																																																											
主蒸気安全弁作動		8.4																																																											
原子炉圧力最大（約17.91 MPa[gage]）		8.6																																																											
1次冷却材平均温度最大（約317.2°C）		10.2																																																											

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

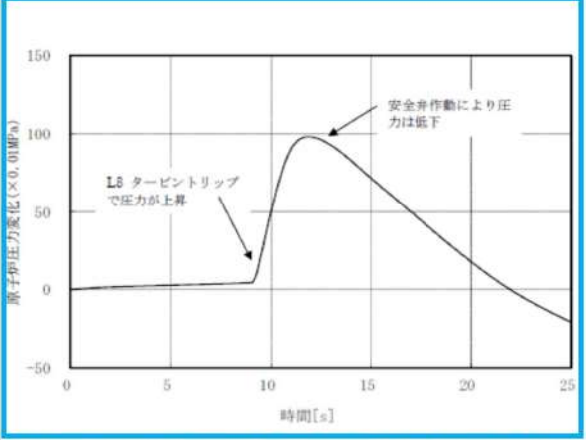
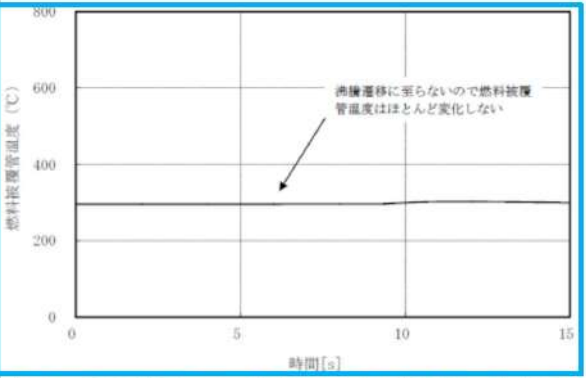
大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																				
	<p>表7.2 解析結果まとめ表（タービン建屋）</p> <table border="1" data-bbox="698 245 1272 580"> <thead> <tr> <th>重畳事象</th> <th>項目</th> <th>解析結果 ( ) 内は判断目安</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">給水加熱喪失+給水制御系の故障</td> <td>中性子束 (%)</td> <td>369 (-)</td> </tr> <tr> <td>原子炉圧力 (MPa[gage])</td> <td>8.38 (10.34)</td> </tr> <tr> <td>燃料被覆管温度 (°C)</td> <td>615 (1200)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">発生事象</td> <td>時刻 (秒)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">給水加熱喪失+給水制御系の故障発生</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">原子炉水位LS (給水ポンプトリップ)</td> <td>9.0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">原子炉スタラム (中性子束高)</td> <td>9.4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">逃がし弁開開始</td> <td>9.8</td> </tr> </tbody> </table>	重畳事象	項目	解析結果 ( ) 内は判断目安	給水加熱喪失+給水制御系の故障	中性子束 (%)	369 (-)	原子炉圧力 (MPa[gage])	8.38 (10.34)	燃料被覆管温度 (°C)	615 (1200)	発生事象		時刻 (秒)	給水加熱喪失+給水制御系の故障発生		0	原子炉水位LS (給水ポンプトリップ)		9.0	原子炉スタラム (中性子束高)		9.4	逃がし弁開開始		9.8	<p>表7.2 解析結果まとめ表（1次系建屋 / 2次系建屋共通 DNB評価）</p> <table border="1" data-bbox="1281 245 1863 625"> <thead> <tr> <th>重畳事象</th> <th>項目</th> <th>解析結果 () 内は判断目安</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>出力運転中の制御棒の異常な引き抜き + 原子炉冷却材系の異常な減圧 + 主給水流量喪失</td> <td>最小 DNB</td> <td>1.53 (1.42)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">事象発生</td> <td>時刻 (秒)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">制御棒引き抜き<sup>※2</sup> 主給水流量喪失 加圧器逃がし弁1個全開</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">「過大温度ΔT高」原子炉トリップ限界値到達</td> <td>18.6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">原子炉出力最大 (約118%)</td> <td>24.6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">制御棒クラスタ落下開始</td> <td>24.6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">DNB 最小 (約1.53)</td> <td>24.7</td> </tr> <tr> <td colspan="2">1次冷却材平均温度最大 (約313.2°C)</td> <td>26.9</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">※2 反応度増加率: <math>5.4 \times 10^{-4} (\Delta k/k)/s</math></p>	重畳事象	項目	解析結果 () 内は判断目安	出力運転中の制御棒の異常な引き抜き + 原子炉冷却材系の異常な減圧 + 主給水流量喪失	最小 DNB	1.53 (1.42)	事象発生		時刻 (秒)	制御棒引き抜き <sup>※2</sup> 主給水流量喪失 加圧器逃がし弁1個全開		0	「過大温度ΔT高」原子炉トリップ限界値到達		18.6	原子炉出力最大 (約118%)		24.6	制御棒クラスタ落下開始		24.6	DNB 最小 (約1.53)		24.7	1次冷却材平均温度最大 (約313.2°C)		26.9	<p>【女川】                      記載方針の相違                      女川は建屋ごとに解析結果を示したが、泊は評価項目ごとに解析結果を示す。</p>
重畳事象	項目	解析結果 ( ) 内は判断目安																																																					
給水加熱喪失+給水制御系の故障	中性子束 (%)	369 (-)																																																					
	原子炉圧力 (MPa[gage])	8.38 (10.34)																																																					
	燃料被覆管温度 (°C)	615 (1200)																																																					
発生事象		時刻 (秒)																																																					
給水加熱喪失+給水制御系の故障発生		0																																																					
原子炉水位LS (給水ポンプトリップ)		9.0																																																					
原子炉スタラム (中性子束高)		9.4																																																					
逃がし弁開開始		9.8																																																					
重畳事象	項目	解析結果 () 内は判断目安																																																					
出力運転中の制御棒の異常な引き抜き + 原子炉冷却材系の異常な減圧 + 主給水流量喪失	最小 DNB	1.53 (1.42)																																																					
事象発生		時刻 (秒)																																																					
制御棒引き抜き <sup>※2</sup> 主給水流量喪失 加圧器逃がし弁1個全開		0																																																					
「過大温度ΔT高」原子炉トリップ限界値到達		18.6																																																					
原子炉出力最大 (約118%)		24.6																																																					
制御棒クラスタ落下開始		24.6																																																					
DNB 最小 (約1.53)		24.7																																																					
1次冷却材平均温度最大 (約313.2°C)		26.9																																																					



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>図 7.1 原子炉建屋における内部溢水による事象変化（中性子束）</p>  <p>図 7.2 原子炉建屋における内部溢水による事象変化（原子炉水位）</p>	 <p>図 7.1 1次系建屋 / 2次系建屋における溢水による事象変化（圧力評価）</p>	<p>【女川】  <a href="#">記載方針の相違</a>                  女川は建屋ごとに解析結果を示したが、泊は評価項目ごとに解析結果を示す。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p data-bbox="696 624 1279 687">図 7.3 原子炉建屋における内部溢水による事象変化（原子炉圧力）</p>  <p data-bbox="696 1102 1279 1166">図 7.4 原子炉建屋における内部溢水による事象変化（燃料被覆管温度）</p>		<p data-bbox="1874 177 2136 336">【女川】 記載方針の相違 女川は建屋ごとに解析結果を示したが、泊は評価項目ごとに解析結果を示す。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

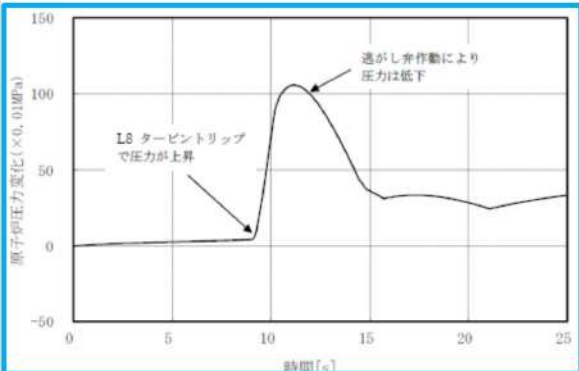
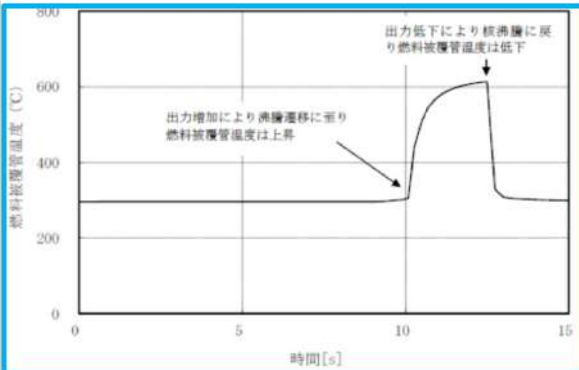
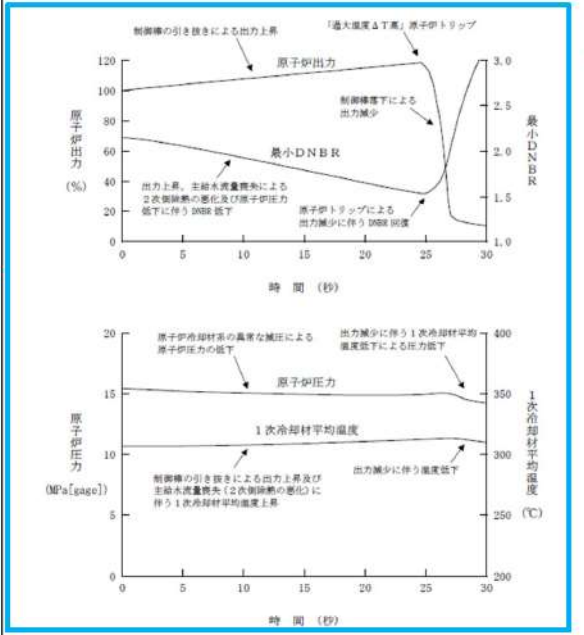
大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>図 7.5 原子炉建屋における事象推移のフローチャート</p>	<p>図 7.2 1次系建屋 / 2次系建屋における事象推移のフローチャート（圧力評価）</p>	<p>【女川】                  記載方針の相違                  重複事象の相違により事象推移が異なる。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>図 7.6 タービン建屋における内部溢水による事象変化（中性子束）</p> <p>図 7.7 タービン建屋における内部溢水による事象変化（原子炉水位）</p>		<p>【女川】                  記載方針の相違                  女川は建屋ごとに解析結果を示したが、泊は評価項目ごとに解析結果を示す。</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>図 7.8 タービン建屋における内部溢水による事象変化（原子炉圧力）</p>  <p>図 7.9 タービン建屋における内部溢水による事象変化（燃料被覆管温度）</p>	 <p>図 7.3 1次系建屋 / 2次系建屋における溢水による事象変化（DNBR 評価）</p>	<p>【女川】                  記載方針の相違                  女川は建屋ごとに解析結果を示したが、泊は評価項目ごとに解析結果を示す。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p>【女川】          記載方針の相違          重畳事象の相違により事象推移が異なる。</p>
	<p>図 7.10 タービン建屋における事象推移のフローチャート</p>	<p>図 7.4 1次系建屋/2次系建屋における事象推移のフローチャート (DNBR 評価)</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料4）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">補足説明資料 1-1</p> <p>防護対象設備の選定について</p> <p>1. はじめに</p> <p>溢水の影響評価に当たっては、発電所内で発生した溢水に対して技術基準規則第12条に定める重要度の特に高い安全機能を有する系統が、その安全機能を適切に維持すること並びに使用済燃料ピットの冷却機能及び給水機能を適切に維持すること(多重化又は多様化された系統が同時にその機能を失わないこと)を確認することとしているが、原子炉に外乱が生じ、かつ、安全保護系、原子炉停止系の作動を要求される場合には、その影響(溢水)を考慮する必要がある。</p> <p>本資料は「原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド」に基づく評価を実施するにあたり防護対象設備の具体的な選定方針についてまとめたものである。</p> <p>2. 防護対象設備の選定方針について</p> <p>「原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド」に基づき、技術基準規則第12条に定める重要度の特に高い安全機能を有する系統が、その安全機能を適切に維持するために必要な設備並びに使用済燃料ピットの冷却機能及び給水機能を適切に維持するために必要な設備についても防護対象設備とする。</p> <p>また、防護対象設備は重要度の特に高い安全機能を有する設備が内部溢水により原子炉に外乱が生じ、かつ、安全保護系、原子炉停止系の作動を要求される場合に、それを達成するために必要な設備についても抽出する。</p>	<p>女川原子力発電所2号炉</p> <p>【女川】まとめ資料 p.9条-別添 1-3-1 (抜粋)</p> <p>3. 1 溢水防護上必要な機能を有する系統の抽出</p> <p>溢水防護上必要な機能を有する系統として、安全施設のうち、原子炉を高温停止でき、引き続き低温停止、及び放射性物質の閉じ込め機能を維持するため、また、停止状態にある場合は、引き続きその状態を維持するため、並びに使用済燃料プールにおいてはプール冷却機能及びプールへの給水機能を維持するために必要となる、発電用軽水型原子炉施設の安全機能の重要度分類に関する審査指針(以下「重要度分類審査指針」という。)における分類でクラス1及び2に属する構築物、系統及び機器に加え、安全評価上その機能を期待するクラス3に属する構築物、系統及び機器を抽出する。</p> <p>【女川】まとめ資料 p.9条-別添 1-1-2 (抜粋)</p> <p>さらに、溢水の影響により原子炉に外乱が及び、かつ、安全保護系、原子炉停止系の作動を要求される場合には、その溢水の影響を考慮した上で、「発電用軽水型原子炉施設の安全評価に関する審査指針」(以下、「安全評価指針」という。)に基づき発生が予想される運転時の異常な過渡変化又は設計基準事故について安全解析を行い、炉心が損傷に至ることなく当該事象を収束できる設計とする。</p>	<p style="text-align: right;">補足説明資料 4</p> <p>防護対象設備の選定について</p> <p>1. はじめに</p> <p>本資料は「原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド」に基づく評価を実施するにあたり防護対象設備の具体的な選定方針についてまとめたものである。</p> <p>2. 防護対象設備の選定方針について</p> <p>「原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド」に基づき、溢水防護上必要な機能を有する系統として、安全施設のうち、原子炉を高温停止でき、引き続き低温停止、及び放射性物質の閉じ込め機能を維持するため、また、停止状態にある場合は、引き続きその状態を維持するため、並びに使用済燃料ピットにおいてはピット冷却機能及びピットへの給水機能を維持するために必要となる、発電用軽水型原子炉施設の安全機能の重要度分類に関する審査指針(以下「重要度分類審査指針」という)における分類でクラス1及び2に属する構築物、系統及び機器に加え、安全評価上その機能を期待するクラス3に属する構築物、系統及び機器を抽出する。</p> <p>抽出した結果は、「3. 原子炉の高温停止及び低温停止に必要な設備」、「4. 原子炉外乱に対処するために必要な設備」、「5. 使用済燃料ピットの冷却機能及び給水機能の維持に必要な系統」に記載する。</p> <p>また、内部溢水により原子炉に外乱が生じ、かつ、安全保護系、原子炉停止系の作動を要求される場合には、その溢水の影響を考慮した上で、「発電用軽水型原子炉施設の安全評価に関する審査指針」(以下「安全評価審査指針」という)に基づき発生が予想される運転時の異常な過渡変化又は設計基準事故について安全解析を行い、炉心が損傷に至ることなく当該事象を収束できる設計とするため、それを達成するために必要な設備についても抽出する必要がある。</p>	<p>【女川・大飯】 記載方針の相違</p> <p>・大飯審査実績の反映</p> <p>・泊の防護対象設備の選定は、先行PWRと同等であることから、評価実績のある大飯の補足資料と比較した上で相違理由を明確にする。</p> <p>【大飯】 記載方針の相違</p> <p>溢水の影響評価の考慮については、「2. 防護対象設備の選定方針について」に示されていることから省略した。</p> <p>【大飯】 記載方針の相違</p> <p>溢水影響評価ガイドの要求と女川審査実績を踏まえ、記載を充実した。</p> <p>【大飯】 記載方針の相違</p> <p>抽出した結果の項番を明確にした。</p> <p>【大飯】 記載方針の相違</p> <p>女川審査実績の反映</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>次に、溢水影響により機能喪失する可能性があるか否かについて「5. 溢水影響評価の対象のスクリーニングについて」により抽出する。なお、電気、計装設備等の関連系の設備のスクリーニングの考え方については、「6. 計装設備」、「7. 電気設備」に記載する。</p> <p>3. 原子炉の高温停止及び低温停止に必要な設備</p> <p>図1に原子炉を低温停止に移行する際のフローを示す。原子炉の高温停止及び低温停止に必要な機能、系統は以下のとおりであり、これらの機能を達成するために必要な設備を防護対象設備に選定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原子炉停止：原子炉停止系</li> <li>・ほう酸添加：原子炉停止系 (化学体積制御系のほう酸水注入機能等)</li> <li>・崩壊熱除去：補助給水系、主蒸気系、余熱除去系</li> <li>・1次系減圧：1次冷却系統の減圧機能</li> <li>・上記系統の関連系 ：原子炉補機冷却系、制御用空気系、換気空調系、非常用電源系、冷水系、電気盤</li> </ul>	<p>そのため、内部溢水により原子炉に外乱が及ぶ場合について、安全評価審査指針に基づく運転時の異常な過渡変化及び設計基準事故の重畳事象を含め、どのような事象が起こる可能性があるかを分析し、その重畳事象が発生した場合に「4. 原子炉外乱に対処するために必要な設備」で整理した防護対象設備にて事象が収束できることを確認する。(確認結果については補足説明資料3に示す。)</p> <p>次に、溢水影響により機能喪失する可能性があるか否かについて「6. 溢水影響評価の対象のスクリーニングについて」により抽出する。なお、電気、計装設備等の関連系の設備のスクリーニングの考え方については、「7. 計装設備の選定の考え方について」、「8. 電気設備の選定の考え方について」に記載する。</p> <p>選定された防護対象設備の機能要求を整理した結果については、「9. 防護対象設備の機能要求について」に記載する。</p> <p>3. 原子炉の高温停止及び低温停止に必要な設備</p> <p>図1に原子炉を低温停止に移行する際のフローを示す。原子炉の高温停止及び低温停止に必要な機能、系統は以下のとおりであり、これらの機能を達成するために必要な設備を防護対象設備に選定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原子炉停止：原子炉停止系</li> <li>・ほう酸添加：原子炉停止系 (化学体積制御系のほう酸水注入機能等)</li> <li>・崩壊熱除去：補助給水系、主蒸気系、余熱除去系</li> <li>・1次系減圧：1次冷却系の減圧機能</li> <li>・上記系統の関連系： 原子炉補機冷却水系、原子炉補機冷却海水系、制御用空気系、換気空調系、非常用所内電源系、空調用冷水系、電気盤</li> </ul>	<p>【大飯】  <u>設計方針の相違</u>                  ・女川審査実績の反映                  ・内部溢水により原子炉外乱が発生するかどうか重畳事象を含めて分析し、その重畳事象が原子炉外乱に対処するために必要な設備（防護対象設備）にて収束可能か確認した結果の資料先を示す</p> <p>【大飯】  <u>記載表現の相違</u></p> <p>【大飯】  <u>記載方針の相違</u></p> <p>【大飯】  <u>記載表現の相違</u></p>	



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>大飯発電所3/4号炉</p> <p>図1 プラントの停止の流れ</p> <p>※1 以下の事象による溢水を考慮          ・地震による（その際は地震を起因とする外乱（主給水喪失、外部電源喪失等）の発生を考慮し、）          ・安定化措置（ヒートレグ、低エネルギー配管）による溢水</p> <p>※2 破線の枠内は溢水影響評価にて、高温停止達成のために期待する範囲          ①蒸気負荷の急増又は2次系の異常な減圧          ②1次冷却系の異常な減圧          ③主蒸気管破断          ④原子炉冷却材喪失（LOCA）及び「原子炉停止」の発生          ⑤「原子炉停止」の発生は、高圧注入系等他設備が必要。</p> <p>※3 原子炉保護系による原子炉トリップ</p>	<p>女川原子力発電所2号炉</p> <p>図1 プラントの停止の流れ</p> <p>※1 以下の事象による溢水を考慮          ・地震による（その際は地震を起因とする外乱（主給水喪失、外部電源喪失等）の発生を考慮し、）          ・安定化措置（ヒートレグ、低エネルギー配管）による溢水</p> <p>※2 破線の枠内は溢水影響評価にて、高温停止達成のために期待する範囲          ①蒸気負荷の急増又は2次系の異常な減圧          ②1次冷却系の異常な減圧          ③主蒸気管破断          ④原子炉冷却材喪失（LOCA）及び「原子炉停止」の発生          ⑤「原子炉停止」の発生は、高圧注入系等他設備が必要。</p> <p>※3 原子炉保護系による原子炉トリップ</p>	<p>泊発電所3号炉</p> <p>図1 プラントの停止の流れ</p> <p>※1 以下の事象による溢水を考慮          ・地震による（その際は地震を起因とする外乱（主給水喪失、外部電源喪失等）の発生を考慮し、）          ・安定化措置（ヒートレグ、低エネルギー配管）による溢水</p> <p>※2 破線の枠内は溢水影響評価にて、高温停止達成のために期待する範囲          ①蒸気負荷の急増又は2次系の異常な減圧          ②1次冷却系の異常な減圧          ③主蒸気管破断          ④原子炉冷却材喪失（LOCA）及び「原子炉停止」の発生          ⑤「原子炉停止」の発生は、高圧注入系等他設備が必要。</p> <p>※3 原子炉保護系による原子炉トリップ</p>	<p>相違理由</p> <p>【大飯】  <u>設計方針の相違</u>          プラント設計の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>4. 原子炉外乱に対処するために必要な設備</p> <p>(1) 原子炉外乱</p> <p>原子炉施設の安全評価に関する審査指針に基づき、運転時の異常な過渡変化及び設計基準事故を対象として、原子炉外乱を表1及び表2に整理する。</p> <p>(2) 原子炉外乱に対処するための設備</p> <p>表1及び表2に示す事象と溢水の関係から溢水影響評価上想定する事象とその対処系統を表3に示す。</p> <p>表3の①～⑨の起因事象で原子炉が自動停止する場合は通常の高温停止に必要な系統（安全保護系、原子炉停止系及び補助給水系）により原子炉を冷却していくため、これらの機能を達成するために必要な設備を防護対象設備に選定する。</p> <p>一方、⑩～⑬のような過冷却事象及び1次系の減圧事象では1次系の圧力低下等を伴うため、高圧注入系が自動で動作する可能性があり前述の原子炉を高温停止まで冷却する系統に高圧注入系を加えて防護対象設備に選定する。</p> <p>また、⑬原子炉冷却材喪失（以下、「LOCA」という）等では、炉心の冷却並びに原子炉格納容器の冷却、減圧及び隔離のため、低圧注入系、格納容器スプレイ系及び原子炉格納容器隔離弁を加えて防護対象設備に選定する。なお、これらの系統により事象を収束させた後にはLOCA等1次冷却系の健全性が損なわれる事象を除き、余熱除去系を用いて低温停止に移行する（図1参照）。</p> <p>この一連の対応により原子炉を「止める」、「冷やす」、「閉じ込める」の機能が果たされる。</p>		<p>4. 原子炉外乱に対処するために必要な設備</p> <p>(1) 原子炉外乱</p> <p>安全評価審査指針に基づき、運転時の異常な過渡変化及び設計基準事故を対象として、原子炉外乱を表1及び表2に整理する。</p> <p>(2) 原子炉外乱に対処するための設備</p> <p>表1及び表2に示す事象と溢水の関係から溢水影響評価上想定する事象とその対処系統を表3に示す。</p> <p>表3の①～⑨の起因事象で原子炉が自動停止する場合は通常の高温停止に必要な系統（安全保護系、原子炉停止系及び補助給水系）により原子炉を冷却していくため、これらの機能を達成するために必要な設備を防護対象設備に選定する。</p> <p>一方、⑩～⑬のような過冷却事象及び1次系の減圧事象では1次系の圧力低下等を伴うため、高圧注入系が自動で動作する可能性があり前述の原子炉を高温停止まで冷却する系統に高圧注入系を加えて防護対象設備に選定する。</p> <p>また、⑬原子炉冷却材喪失（以下「LOCA」という）等では、炉心の冷却並びに原子炉格納容器の冷却、減圧及び隔離のため、低圧注入系、原子炉格納容器スプレイ系及び原子炉格納容器隔離弁を加えて防護対象設備に選定する。なお、これらの系統により事象を収束させた後にはLOCA等1次冷却系の健全性が損なわれる事象を除き、余熱除去系を用いて低温停止に移行する（図1参照）。</p> <p>この一連の対応により原子炉を「止める」、「冷やす」、「閉じ込める」の機能が果たされる。</p>	<p>【大阪】  <a href="#">記載表現の相違</a></p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																							
<p>表1 運転時の異常な過渡変化と溢水の関係</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>原子炉外乱の事象</th> <th>考慮要否</th> <th>スクリーンアウトする理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出力運転中の制御棒の異常な引き抜き</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>制御棒の落下及び不整合</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材流量の部分喪失</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材系の停止ループの誤起動</td> <td>-</td> <td>誤起動の場合、停止ループの低温の冷却材が炉心に注入され、炉心に正の反応度が添加された後の反応度フィードバック効果により原子炉出力は低下し整定する。このように、本事象では対処設備は不要であるため、溢水影響評価上考慮不要</td> </tr> <tr> <td>外部電源喪失</td> <td>○</td> <td>外部電源喪失により常用電源が喪失するが、常用電源喪失は「主給水流量喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」に包絡</td> </tr> <tr> <td>主給水流量喪失</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>蒸気負荷の異常な増加</td> <td>-</td> <td>蒸気負荷が増加した場合、炉心に正の反応度が添加された後の反応度フィードバック効果により原子炉出力は抑制され整定する。このように、本事象では対処設備は不要であるため、溢水影響評価上考慮不要</td> </tr> <tr> <td>2次冷却系の異常な減圧</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>蒸気発生器への過剰給水</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>負荷の喪失</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却系の異常な減圧</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	原子炉外乱の事象	考慮要否	スクリーンアウトする理由	原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き	○		出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	○		制御棒の落下及び不整合	○		原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈	○		原子炉冷却材流量の部分喪失	○		原子炉冷却材系の停止ループの誤起動	-	誤起動の場合、停止ループの低温の冷却材が炉心に注入され、炉心に正の反応度が添加された後の反応度フィードバック効果により原子炉出力は低下し整定する。このように、本事象では対処設備は不要であるため、溢水影響評価上考慮不要	外部電源喪失	○	外部電源喪失により常用電源が喪失するが、常用電源喪失は「主給水流量喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」に包絡	主給水流量喪失	○		蒸気負荷の異常な増加	-	蒸気負荷が増加した場合、炉心に正の反応度が添加された後の反応度フィードバック効果により原子炉出力は抑制され整定する。このように、本事象では対処設備は不要であるため、溢水影響評価上考慮不要	2次冷却系の異常な減圧	○		蒸気発生器への過剰給水	○		負荷の喪失	○		原子炉冷却系の異常な減圧	○		出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動	○		<p>表1 運転時の異常な過渡変化と溢水の関係</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>原子炉外乱の事象</th> <th>考慮要否</th> <th>スクリーンアウトする理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出力運転中の制御棒の異常な引き抜き</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>制御棒の落下及び不整合</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材流量の部分喪失</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材系の停止ループの誤起動</td> <td>-</td> <td>誤起動の場合、停止ループの低温の冷却材が炉心に注入され、炉心に正の反応度が添加された後の反応度フィードバック効果により原子炉出力は低下し整定する。このように、本事象では対処設備は不要であるため、溢水影響評価上考慮不要</td> </tr> <tr> <td>外部電源喪失</td> <td>○</td> <td>外部電源喪失により常用電源が喪失するが、常用電源喪失は「主給水流量喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」に包絡される。</td> </tr> <tr> <td>主給水流量喪失</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>蒸気負荷の異常な増加</td> <td>-</td> <td>蒸気負荷が増加した場合、炉心に正の反応度が添加された後の反応度フィードバック効果により原子炉出力は抑制され整定する。このように、本事象では対処設備は不要であるため、溢水影響評価上考慮不要</td> </tr> <tr> <td>2次冷却系の異常な減圧</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>蒸気発生器への過剰給水</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>負荷の喪失</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却系の異常な減圧</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	原子炉外乱の事象	考慮要否	スクリーンアウトする理由	原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き	○		出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	○		制御棒の落下及び不整合	○		原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈	○		原子炉冷却材流量の部分喪失	○		原子炉冷却材系の停止ループの誤起動	-	誤起動の場合、停止ループの低温の冷却材が炉心に注入され、炉心に正の反応度が添加された後の反応度フィードバック効果により原子炉出力は低下し整定する。このように、本事象では対処設備は不要であるため、溢水影響評価上考慮不要	外部電源喪失	○	外部電源喪失により常用電源が喪失するが、常用電源喪失は「主給水流量喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」に包絡される。	主給水流量喪失	○		蒸気負荷の異常な増加	-	蒸気負荷が増加した場合、炉心に正の反応度が添加された後の反応度フィードバック効果により原子炉出力は抑制され整定する。このように、本事象では対処設備は不要であるため、溢水影響評価上考慮不要	2次冷却系の異常な減圧	○		蒸気発生器への過剰給水	○		負荷の喪失	○		原子炉冷却系の異常な減圧	○		出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動	○		<p>表1 運転時の異常な過渡変化と溢水の関係</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>原子炉外乱の事象</th> <th>考慮要否</th> <th>スクリーンアウトする理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出力運転中の制御棒の異常な引き抜き</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>制御棒の落下及び不整合</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材流量の部分喪失</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材系の停止ループの誤起動</td> <td>-</td> <td>誤起動の場合、停止ループの低温の冷却材が炉心に注入され、炉心に正の反応度が添加された後の反応度フィードバック効果により原子炉出力は低下し整定する。このように、本事象では対処設備は不要であるため、溢水影響評価上考慮不要</td> </tr> <tr> <td>外部電源喪失</td> <td>○</td> <td>外部電源喪失により常用電源が喪失するが、常用電源喪失は「主給水流量喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」に包絡される。</td> </tr> <tr> <td>主給水流量喪失</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>蒸気負荷の異常な増加</td> <td>-</td> <td>蒸気負荷が増加した場合、炉心に正の反応度が添加された後の反応度フィードバック効果により原子炉出力は抑制され整定する。このように、本事象では対処設備は不要であるため、溢水影響評価上考慮不要</td> </tr> <tr> <td>2次冷却系の異常な減圧</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>蒸気発生器への過剰給水</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>負荷の喪失</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却系の異常な減圧</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	原子炉外乱の事象	考慮要否	スクリーンアウトする理由	原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き	○		出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	○		制御棒の落下及び不整合	○		原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈	○		原子炉冷却材流量の部分喪失	○		原子炉冷却材系の停止ループの誤起動	-	誤起動の場合、停止ループの低温の冷却材が炉心に注入され、炉心に正の反応度が添加された後の反応度フィードバック効果により原子炉出力は低下し整定する。このように、本事象では対処設備は不要であるため、溢水影響評価上考慮不要	外部電源喪失	○	外部電源喪失により常用電源が喪失するが、常用電源喪失は「主給水流量喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」に包絡される。	主給水流量喪失	○		蒸気負荷の異常な増加	-	蒸気負荷が増加した場合、炉心に正の反応度が添加された後の反応度フィードバック効果により原子炉出力は抑制され整定する。このように、本事象では対処設備は不要であるため、溢水影響評価上考慮不要	2次冷却系の異常な減圧	○		蒸気発生器への過剰給水	○		負荷の喪失	○		原子炉冷却系の異常な減圧	○		出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動	○		<p>相違理由</p>
原子炉外乱の事象	考慮要否	スクリーンアウトする理由																																																																																																																																								
原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き	○																																																																																																																																									
出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	○																																																																																																																																									
制御棒の落下及び不整合	○																																																																																																																																									
原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈	○																																																																																																																																									
原子炉冷却材流量の部分喪失	○																																																																																																																																									
原子炉冷却材系の停止ループの誤起動	-	誤起動の場合、停止ループの低温の冷却材が炉心に注入され、炉心に正の反応度が添加された後の反応度フィードバック効果により原子炉出力は低下し整定する。このように、本事象では対処設備は不要であるため、溢水影響評価上考慮不要																																																																																																																																								
外部電源喪失	○	外部電源喪失により常用電源が喪失するが、常用電源喪失は「主給水流量喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」に包絡																																																																																																																																								
主給水流量喪失	○																																																																																																																																									
蒸気負荷の異常な増加	-	蒸気負荷が増加した場合、炉心に正の反応度が添加された後の反応度フィードバック効果により原子炉出力は抑制され整定する。このように、本事象では対処設備は不要であるため、溢水影響評価上考慮不要																																																																																																																																								
2次冷却系の異常な減圧	○																																																																																																																																									
蒸気発生器への過剰給水	○																																																																																																																																									
負荷の喪失	○																																																																																																																																									
原子炉冷却系の異常な減圧	○																																																																																																																																									
出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動	○																																																																																																																																									
原子炉外乱の事象	考慮要否	スクリーンアウトする理由																																																																																																																																								
原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き	○																																																																																																																																									
出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	○																																																																																																																																									
制御棒の落下及び不整合	○																																																																																																																																									
原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈	○																																																																																																																																									
原子炉冷却材流量の部分喪失	○																																																																																																																																									
原子炉冷却材系の停止ループの誤起動	-	誤起動の場合、停止ループの低温の冷却材が炉心に注入され、炉心に正の反応度が添加された後の反応度フィードバック効果により原子炉出力は低下し整定する。このように、本事象では対処設備は不要であるため、溢水影響評価上考慮不要																																																																																																																																								
外部電源喪失	○	外部電源喪失により常用電源が喪失するが、常用電源喪失は「主給水流量喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」に包絡される。																																																																																																																																								
主給水流量喪失	○																																																																																																																																									
蒸気負荷の異常な増加	-	蒸気負荷が増加した場合、炉心に正の反応度が添加された後の反応度フィードバック効果により原子炉出力は抑制され整定する。このように、本事象では対処設備は不要であるため、溢水影響評価上考慮不要																																																																																																																																								
2次冷却系の異常な減圧	○																																																																																																																																									
蒸気発生器への過剰給水	○																																																																																																																																									
負荷の喪失	○																																																																																																																																									
原子炉冷却系の異常な減圧	○																																																																																																																																									
出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動	○																																																																																																																																									
原子炉外乱の事象	考慮要否	スクリーンアウトする理由																																																																																																																																								
原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き	○																																																																																																																																									
出力運転中の制御棒の異常な引き抜き	○																																																																																																																																									
制御棒の落下及び不整合	○																																																																																																																																									
原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈	○																																																																																																																																									
原子炉冷却材流量の部分喪失	○																																																																																																																																									
原子炉冷却材系の停止ループの誤起動	-	誤起動の場合、停止ループの低温の冷却材が炉心に注入され、炉心に正の反応度が添加された後の反応度フィードバック効果により原子炉出力は低下し整定する。このように、本事象では対処設備は不要であるため、溢水影響評価上考慮不要																																																																																																																																								
外部電源喪失	○	外部電源喪失により常用電源が喪失するが、常用電源喪失は「主給水流量喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」に包絡される。																																																																																																																																								
主給水流量喪失	○																																																																																																																																									
蒸気負荷の異常な増加	-	蒸気負荷が増加した場合、炉心に正の反応度が添加された後の反応度フィードバック効果により原子炉出力は抑制され整定する。このように、本事象では対処設備は不要であるため、溢水影響評価上考慮不要																																																																																																																																								
2次冷却系の異常な減圧	○																																																																																																																																									
蒸気発生器への過剰給水	○																																																																																																																																									
負荷の喪失	○																																																																																																																																									
原子炉冷却系の異常な減圧	○																																																																																																																																									
出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動	○																																																																																																																																									
<p>表2 設計基準事象と溢水の関係</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>原子炉外乱の事象</th> <th>考慮要否</th> <th>スクリーンアウトする理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉冷却材喪失（LOCA）</td> <td>○*</td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材流量の喪失</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材ポンプの軸固着</td> <td>-</td> <td>溢水の発生によって原子炉冷却材ポンプの回転軸は固着しない。</td> </tr> <tr> <td>主給水管破断</td> <td>○*</td> <td></td> </tr> <tr> <td>主蒸気管破断</td> <td>○*</td> <td></td> </tr> <tr> <td>制御棒飛び出し</td> <td>○*</td> <td></td> </tr> <tr> <td>蒸気発生器伝熱管破損</td> <td>-</td> <td>溢水の発生によって蒸気発生器の伝熱管は破損しない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>※溢水事象であるため対象として考慮する。</p>	原子炉外乱の事象	考慮要否	スクリーンアウトする理由	原子炉冷却材喪失（LOCA）	○*		原子炉冷却材流量の喪失	○		原子炉冷却材ポンプの軸固着	-	溢水の発生によって原子炉冷却材ポンプの回転軸は固着しない。	主給水管破断	○*		主蒸気管破断	○*		制御棒飛び出し	○*		蒸気発生器伝熱管破損	-	溢水の発生によって蒸気発生器の伝熱管は破損しない。	<p>表2 設計基準事故と溢水の関係</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>原子炉外乱の事象</th> <th>考慮要否</th> <th>スクリーンアウトする理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉冷却材喪失（LOCA）</td> <td>○*</td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材流量の喪失</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材ポンプの軸固着</td> <td>-</td> <td>溢水の発生によって1次冷却材ポンプの回転軸は固着しない。</td> </tr> <tr> <td>主給水管破断</td> <td>○*</td> <td></td> </tr> <tr> <td>主蒸気管破断</td> <td>○*</td> <td></td> </tr> <tr> <td>制御棒飛び出し</td> <td>○*</td> <td></td> </tr> <tr> <td>蒸気発生器伝熱管破損</td> <td>-</td> <td>溢水の発生によって蒸気発生器の伝熱管は破損しない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 溢水事象であるため対象として考慮する。</p>	原子炉外乱の事象	考慮要否	スクリーンアウトする理由	原子炉冷却材喪失（LOCA）	○*		原子炉冷却材流量の喪失	○		原子炉冷却材ポンプの軸固着	-	溢水の発生によって1次冷却材ポンプの回転軸は固着しない。	主給水管破断	○*		主蒸気管破断	○*		制御棒飛び出し	○*		蒸気発生器伝熱管破損	-	溢水の発生によって蒸気発生器の伝熱管は破損しない。	<p>表2 設計基準事故と溢水の関係</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>原子炉外乱の事象</th> <th>考慮要否</th> <th>スクリーンアウトする理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉冷却材喪失（LOCA）</td> <td>○*</td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材流量の喪失</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材ポンプの軸固着</td> <td>-</td> <td>溢水の発生によって1次冷却材ポンプの回転軸は固着しない。</td> </tr> <tr> <td>主給水管破断</td> <td>○*</td> <td></td> </tr> <tr> <td>主蒸気管破断</td> <td>○*</td> <td></td> </tr> <tr> <td>制御棒飛び出し</td> <td>○*</td> <td></td> </tr> <tr> <td>蒸気発生器伝熱管破損</td> <td>-</td> <td>溢水の発生によって蒸気発生器の伝熱管は破損しない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 溢水事象であるため対象として考慮する。</p>	原子炉外乱の事象	考慮要否	スクリーンアウトする理由	原子炉冷却材喪失（LOCA）	○*		原子炉冷却材流量の喪失	○		原子炉冷却材ポンプの軸固着	-	溢水の発生によって1次冷却材ポンプの回転軸は固着しない。	主給水管破断	○*		主蒸気管破断	○*		制御棒飛び出し	○*		蒸気発生器伝熱管破損	-	溢水の発生によって蒸気発生器の伝熱管は破損しない。	<p>【大飯】          記載表現の相違          記載の適正化</p>																																																															
原子炉外乱の事象	考慮要否	スクリーンアウトする理由																																																																																																																																								
原子炉冷却材喪失（LOCA）	○*																																																																																																																																									
原子炉冷却材流量の喪失	○																																																																																																																																									
原子炉冷却材ポンプの軸固着	-	溢水の発生によって原子炉冷却材ポンプの回転軸は固着しない。																																																																																																																																								
主給水管破断	○*																																																																																																																																									
主蒸気管破断	○*																																																																																																																																									
制御棒飛び出し	○*																																																																																																																																									
蒸気発生器伝熱管破損	-	溢水の発生によって蒸気発生器の伝熱管は破損しない。																																																																																																																																								
原子炉外乱の事象	考慮要否	スクリーンアウトする理由																																																																																																																																								
原子炉冷却材喪失（LOCA）	○*																																																																																																																																									
原子炉冷却材流量の喪失	○																																																																																																																																									
原子炉冷却材ポンプの軸固着	-	溢水の発生によって1次冷却材ポンプの回転軸は固着しない。																																																																																																																																								
主給水管破断	○*																																																																																																																																									
主蒸気管破断	○*																																																																																																																																									
制御棒飛び出し	○*																																																																																																																																									
蒸気発生器伝熱管破損	-	溢水の発生によって蒸気発生器の伝熱管は破損しない。																																																																																																																																								
原子炉外乱の事象	考慮要否	スクリーンアウトする理由																																																																																																																																								
原子炉冷却材喪失（LOCA）	○*																																																																																																																																									
原子炉冷却材流量の喪失	○																																																																																																																																									
原子炉冷却材ポンプの軸固着	-	溢水の発生によって1次冷却材ポンプの回転軸は固着しない。																																																																																																																																								
主給水管破断	○*																																																																																																																																									
主蒸気管破断	○*																																																																																																																																									
制御棒飛び出し	○*																																																																																																																																									
蒸気発生器伝熱管破損	-	溢水の発生によって蒸気発生器の伝熱管は破損しない。																																																																																																																																								



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																				
<p>表3 溢水評価上想定する事象とその対処系統</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>溢水評価上想定する事象</th> <th>左記事象に対する対処機能</th> <th>対処系統</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①「原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き」「出力運転中の制御棒の異常な引き抜き」「制御棒の落下及び不整合」</td> <td>・原子炉トリップ ・補助給水</td> <td>・安全保護系 ・原子炉停止系 ・補助給水系</td> </tr> <tr> <td>②「原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈（ほう素濃度制御系異常）」</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③「原子炉冷却材流量の部分喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」（1次冷却材ポンプ停止）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④蒸気発生器への過剰給水（主給水制御弁開他<sup>※1</sup>）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑤主給水流量喪失（主給水ポンプ停止他<sup>※2</sup>）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑥負荷の喪失（主蒸気隔離弁開他<sup>※3</sup>）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑦出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑧主給水管破断</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑨外部電源喪失</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑩2次冷却系の異常な減圧（タービンバイパス弁開他<sup>※4</sup>）</td> <td>上記機能に加え、 ・高圧注入</td> <td>上記系統に加え、 ・高圧注入系</td> </tr> <tr> <td>⑪原子炉冷却材系の異常な減圧（加圧器逃がし弁開他<sup>※5</sup>）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑫主蒸気管破断</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑬「原子炉冷却材喪失（LOCA）」及び「制御棒飛び出し」</td> <td>上記機能に加え、 ・低圧注入 ・格納容器スプレイ ・格納容器隔離</td> <td>上記系統に加え、 ・低圧注入系 ・格納容器スプレイ系 ・原子炉格納容器スプレイ系 ・格納容器隔離弁 ・換気空調系 （アニュラス空気浄化設備）</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 主給水バイパス制御弁開                  ※2 復水ポンプ停止、主給水制御弁・隔離弁開                  ※3 タービントリップ                  ※4 主蒸気逃がし弁開、タービン蒸気加減弁開                  ※5 加圧器スプレイ弁開、加圧器補助スプレイ弁開</p> <p>(3) 使用済燃料ピットの冷却機能及び給水機能の維持に必要な系統                  使用済燃料ピットの冷却機能は燃料ピット冷却浄化系が該当し、保安規定で定めた水温（65℃以下）に維持することが可能である。                  また、使用済燃料ピットの給水機能は燃料取替用水系が該当し、使用済燃料ピットからの放射線を遮蔽するために必要な水量を維持することが可能である。                  選定フローを図2に示す。</p>	溢水評価上想定する事象	左記事象に対する対処機能	対処系統	①「原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き」「出力運転中の制御棒の異常な引き抜き」「制御棒の落下及び不整合」	・原子炉トリップ ・補助給水	・安全保護系 ・原子炉停止系 ・補助給水系	②「原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈（ほう素濃度制御系異常）」			③「原子炉冷却材流量の部分喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」（1次冷却材ポンプ停止）			④蒸気発生器への過剰給水（主給水制御弁開他 <sup>※1</sup> ）			⑤主給水流量喪失（主給水ポンプ停止他 <sup>※2</sup> ）			⑥負荷の喪失（主蒸気隔離弁開他 <sup>※3</sup> ）			⑦出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動			⑧主給水管破断			⑨外部電源喪失			⑩2次冷却系の異常な減圧（タービンバイパス弁開他 <sup>※4</sup> ）	上記機能に加え、 ・高圧注入	上記系統に加え、 ・高圧注入系	⑪原子炉冷却材系の異常な減圧（加圧器逃がし弁開他 <sup>※5</sup> ）			⑫主蒸気管破断			⑬「原子炉冷却材喪失（LOCA）」及び「制御棒飛び出し」	上記機能に加え、 ・低圧注入 ・格納容器スプレイ ・格納容器隔離	上記系統に加え、 ・低圧注入系 ・格納容器スプレイ系 ・原子炉格納容器スプレイ系 ・格納容器隔離弁 ・換気空調系 （アニュラス空気浄化設備）	<p>女川原子力発電所2号炉</p>	<p>表3 溢水評価上想定する事象とその対処系統</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>溢水評価上想定する事象</th> <th>左記事象に対する対処機能</th> <th>対処系統</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①「原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き」「出力運転中の制御棒の異常な引き抜き」及び「制御棒の落下及び不整合」</td> <td>・原子炉トリップ ・補助給水</td> <td>・安全保護系 ・原子炉停止系 ・補助給水系</td> </tr> <tr> <td>②原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈（ほう素濃度制御系異常）」</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③「原子炉冷却材流量の部分喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」（1次冷却材ポンプ停止）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④蒸気発生器への過剰給水（主給水制御弁開他<sup>※1</sup>）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑤主給水流量喪失（主給水ポンプ停止他<sup>※2</sup>）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑥負荷の喪失（主蒸気隔離弁開他<sup>※3</sup>）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑦出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑧主給水管破断</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑨外部電源喪失</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑩2次冷却系の異常な減圧（タービンバイパス弁開他<sup>※4</sup>）</td> <td>上記機能に加え、 ・高圧注入</td> <td>上記系統に加え、 ・高圧注入系</td> </tr> <tr> <td>⑪原子炉冷却材系の異常な減圧（加圧器逃がし弁開他<sup>※5</sup>）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑫主蒸気管破断</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑬「原子炉冷却材喪失（LOCA）」及び「制御棒飛び出し」</td> <td>上記機能に加え、 ・低圧注入 ・格納容器スプレイ ・格納容器隔離</td> <td>上記系統に加え、 ・低圧注入系 ・原子炉格納容器スプレイ系 ・格納容器隔離弁 ・換気空調系 （アニュラス空気浄化設備）</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 主給水バイパス制御弁開                  ※2 復水ポンプ停止、主給水制御弁・隔離弁開                  ※3 蒸気タービン停止                  ※4 主蒸気逃がし弁開、タービン蒸気加減弁開                  ※5 加圧器スプレイ弁開、加圧器補助スプレイ弁開</p> <p>5. 使用済燃料ピットの冷却機能及び給水機能の維持に必要な系統                  使用済燃料ピットの冷却機能は使用済燃料ピット水浄化冷却系が該当し、保安規定で定めた水温（65℃以下）に維持することが可能である。                  また、使用済燃料ピットの給水機能は燃料取替用水系が該当し、使用済燃料ピットからの放射線を遮蔽するために必要な水量を維持することが可能である。                  選定フローを図2に示す。</p>	溢水評価上想定する事象	左記事象に対する対処機能	対処系統	①「原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き」「出力運転中の制御棒の異常な引き抜き」及び「制御棒の落下及び不整合」	・原子炉トリップ ・補助給水	・安全保護系 ・原子炉停止系 ・補助給水系	②原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈（ほう素濃度制御系異常）」			③「原子炉冷却材流量の部分喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」（1次冷却材ポンプ停止）			④蒸気発生器への過剰給水（主給水制御弁開他 <sup>※1</sup> ）			⑤主給水流量喪失（主給水ポンプ停止他 <sup>※2</sup> ）			⑥負荷の喪失（主蒸気隔離弁開他 <sup>※3</sup> ）			⑦出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動			⑧主給水管破断			⑨外部電源喪失			⑩2次冷却系の異常な減圧（タービンバイパス弁開他 <sup>※4</sup> ）	上記機能に加え、 ・高圧注入	上記系統に加え、 ・高圧注入系	⑪原子炉冷却材系の異常な減圧（加圧器逃がし弁開他 <sup>※5</sup> ）			⑫主蒸気管破断			⑬「原子炉冷却材喪失（LOCA）」及び「制御棒飛び出し」	上記機能に加え、 ・低圧注入 ・格納容器スプレイ ・格納容器隔離	上記系統に加え、 ・低圧注入系 ・原子炉格納容器スプレイ系 ・格納容器隔離弁 ・換気空調系 （アニュラス空気浄化設備）	<p>相違理由</p> <p>【大飯】                  記載表現の相違</p>
溢水評価上想定する事象	左記事象に対する対処機能	対処系統																																																																																					
①「原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き」「出力運転中の制御棒の異常な引き抜き」「制御棒の落下及び不整合」	・原子炉トリップ ・補助給水	・安全保護系 ・原子炉停止系 ・補助給水系																																																																																					
②「原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈（ほう素濃度制御系異常）」																																																																																							
③「原子炉冷却材流量の部分喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」（1次冷却材ポンプ停止）																																																																																							
④蒸気発生器への過剰給水（主給水制御弁開他 <sup>※1</sup> ）																																																																																							
⑤主給水流量喪失（主給水ポンプ停止他 <sup>※2</sup> ）																																																																																							
⑥負荷の喪失（主蒸気隔離弁開他 <sup>※3</sup> ）																																																																																							
⑦出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動																																																																																							
⑧主給水管破断																																																																																							
⑨外部電源喪失																																																																																							
⑩2次冷却系の異常な減圧（タービンバイパス弁開他 <sup>※4</sup> ）	上記機能に加え、 ・高圧注入	上記系統に加え、 ・高圧注入系																																																																																					
⑪原子炉冷却材系の異常な減圧（加圧器逃がし弁開他 <sup>※5</sup> ）																																																																																							
⑫主蒸気管破断																																																																																							
⑬「原子炉冷却材喪失（LOCA）」及び「制御棒飛び出し」	上記機能に加え、 ・低圧注入 ・格納容器スプレイ ・格納容器隔離	上記系統に加え、 ・低圧注入系 ・格納容器スプレイ系 ・原子炉格納容器スプレイ系 ・格納容器隔離弁 ・換気空調系 （アニュラス空気浄化設備）																																																																																					
溢水評価上想定する事象	左記事象に対する対処機能	対処系統																																																																																					
①「原子炉起動時における制御棒の異常な引き抜き」「出力運転中の制御棒の異常な引き抜き」及び「制御棒の落下及び不整合」	・原子炉トリップ ・補助給水	・安全保護系 ・原子炉停止系 ・補助給水系																																																																																					
②原子炉冷却材中のほう素の異常な希釈（ほう素濃度制御系異常）」																																																																																							
③「原子炉冷却材流量の部分喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」（1次冷却材ポンプ停止）																																																																																							
④蒸気発生器への過剰給水（主給水制御弁開他 <sup>※1</sup> ）																																																																																							
⑤主給水流量喪失（主給水ポンプ停止他 <sup>※2</sup> ）																																																																																							
⑥負荷の喪失（主蒸気隔離弁開他 <sup>※3</sup> ）																																																																																							
⑦出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動																																																																																							
⑧主給水管破断																																																																																							
⑨外部電源喪失																																																																																							
⑩2次冷却系の異常な減圧（タービンバイパス弁開他 <sup>※4</sup> ）	上記機能に加え、 ・高圧注入	上記系統に加え、 ・高圧注入系																																																																																					
⑪原子炉冷却材系の異常な減圧（加圧器逃がし弁開他 <sup>※5</sup> ）																																																																																							
⑫主蒸気管破断																																																																																							
⑬「原子炉冷却材喪失（LOCA）」及び「制御棒飛び出し」	上記機能に加え、 ・低圧注入 ・格納容器スプレイ ・格納容器隔離	上記系統に加え、 ・低圧注入系 ・原子炉格納容器スプレイ系 ・格納容器隔離弁 ・換気空調系 （アニュラス空気浄化設備）																																																																																					



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料4）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>図2 使用済燃料ピットの冷却機能及び給水機能を有する系統</p>		<p>図2 使用済燃料ピットの冷却機能及び給水機能を有する系統</p>	<p>【大飯】  <a href="#">記載表現の相違</a></p>
<p>5. 溢水影響評価対象のスクリーニングについて</p> <p>(1) 溢水影響評価対象の選定フローについて</p> <p>防護対象設備として選定した以下の設備のうち、溢水影響評価を行う設備のスクリーニングの考え方について図3に溢水影響評価対象の選定フローを、表4に溢水影響評価の対象外とする理由についてまとめた。</p> <p>防護対象設備としては、LOCAのような溢水事象そのものの事象によって安全解析上の事故、過渡変化が発生した場合に、プラントを安全停止させるために必要な設備は、防護対象設備として抽出しているが、LOCAのように原子炉格納容器内で発生した事象についても評価した。</p> <p>なお、防護対象設備リストにはプラント停止の対処設備を明確にするために該当する系統の容器（タンク）、熱交換器、フィルタ等の主要な静的機器についても記載したが、これらの設備は溢水影響を受けないため、機能喪失高さは「-」と記載した。</p>		<p>6. 溢水影響評価対象のスクリーニングについて</p> <p>3., 4., 5. から選定された防護対象設備から、溢水による設備機能への影響の有無（設備の種別、耐環境仕様等）を考慮したスクリーニングを行い、溢水影響評価上の防護対象設備として選定する。「別添1 3. 3 溢水影響評価上の防護対象設備の選定」に従いスクリーニングを実施して溢水影響評価対象外とした設備については、「別添1 添付資料6 表2 溢水影響評価から対象外とした設備一覧」に示す。</p>	<p>【大飯】  <a href="#">記載方針の相違</a>          ・女川審査実績の反映          ・溢水影響評価対象のスクリーニングについて、「別添1 3.3 溢水影響評価上の防護対象設備の選定」に示している。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料4）

大飯発電所3号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由										
<p>図3 防護対象設備のうち溢水影響評価対象の選定フロー</p>			<p>【大飯】  <a href="#">記載方針の相違</a>                      ・女川審査実績の反映                      ・「別添1 3.3 溢水影響評価上の防護対象設備の選定」に示している。</p>										
<p>表4 溢水影響評価の対象外とする理由</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>各ステップの項目</th> <th>理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①フェイルポジションで安全機能に影響しない設備</td> <td>「フェイルアズイズ」でも安全機能に影響しない電動弁、「フェイルポジション」でも安全機能に影響しない空気作動弁等、動作機能喪失によっても安全機能へ影響しない設備は溢水影響がないと評価した。</td> </tr> <tr> <td>②原子炉格納容器内の設置</td> <td>原子炉格納容器内に設置される設備のうち、重要度の特に高い安全機能を有する系統設備は、原子炉冷却材喪失（L O C A）時の原子炉格納容器内の状態（温度、圧力及び溢水影響）を考慮した耐環境仕様としているため、溢水影響はないと評価した。                      又は溢水事象が発生した場合のプラント停止操作において必ずしも必要でないものは溢水影響がないと評価した。</td> </tr> <tr> <td>③水の影響を受けない設備</td> <td>容器、熱交換器、フィルタ、逆止弁、手動弁、配管等の静的機器は、外部からの電源供給等が不要であることから、溢水の影響により外部からの電源供給や電気信号を喪失しても機能喪失はしないため、静的機器は溢水影響がないと評価した。</td> </tr> <tr> <td>④他の設備で代替できる設備</td> <td>他の設備により機能が代替できる設備は機能喪失しても安全機能に影響しない。具体的には、補助給水隔離弁が機能喪失しても上流側に設置されている補助給水流量調節弁は補助給水隔離弁と別区画にあり隔離機能を有する。</td> </tr> </tbody> </table>	各ステップの項目	理由	①フェイルポジションで安全機能に影響しない設備	「フェイルアズイズ」でも安全機能に影響しない電動弁、「フェイルポジション」でも安全機能に影響しない空気作動弁等、動作機能喪失によっても安全機能へ影響しない設備は溢水影響がないと評価した。	②原子炉格納容器内の設置	原子炉格納容器内に設置される設備のうち、重要度の特に高い安全機能を有する系統設備は、原子炉冷却材喪失（L O C A）時の原子炉格納容器内の状態（温度、圧力及び溢水影響）を考慮した耐環境仕様としているため、溢水影響はないと評価した。 又は溢水事象が発生した場合のプラント停止操作において必ずしも必要でないものは溢水影響がないと評価した。	③水の影響を受けない設備	容器、熱交換器、フィルタ、逆止弁、手動弁、配管等の静的機器は、外部からの電源供給等が不要であることから、溢水の影響により外部からの電源供給や電気信号を喪失しても機能喪失はしないため、静的機器は溢水影響がないと評価した。	④他の設備で代替できる設備	他の設備により機能が代替できる設備は機能喪失しても安全機能に影響しない。具体的には、補助給水隔離弁が機能喪失しても上流側に設置されている補助給水流量調節弁は補助給水隔離弁と別区画にあり隔離機能を有する。			<p>【大飯】  <a href="#">記載方針の相違</a>                      ・女川審査実績の反映                      ・「別添1 3.3 溢水影響評価上の防護対象設備の選定」に示している。</p>
各ステップの項目	理由												
①フェイルポジションで安全機能に影響しない設備	「フェイルアズイズ」でも安全機能に影響しない電動弁、「フェイルポジション」でも安全機能に影響しない空気作動弁等、動作機能喪失によっても安全機能へ影響しない設備は溢水影響がないと評価した。												
②原子炉格納容器内の設置	原子炉格納容器内に設置される設備のうち、重要度の特に高い安全機能を有する系統設備は、原子炉冷却材喪失（L O C A）時の原子炉格納容器内の状態（温度、圧力及び溢水影響）を考慮した耐環境仕様としているため、溢水影響はないと評価した。 又は溢水事象が発生した場合のプラント停止操作において必ずしも必要でないものは溢水影響がないと評価した。												
③水の影響を受けない設備	容器、熱交換器、フィルタ、逆止弁、手動弁、配管等の静的機器は、外部からの電源供給等が不要であることから、溢水の影響により外部からの電源供給や電気信号を喪失しても機能喪失はしないため、静的機器は溢水影響がないと評価した。												
④他の設備で代替できる設備	他の設備により機能が代替できる設備は機能喪失しても安全機能に影響しない。具体的には、補助給水隔離弁が機能喪失しても上流側に設置されている補助給水流量調節弁は補助給水隔離弁と別区画にあり隔離機能を有する。												

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>6. 計装設備の選定の考え方について</p> <p>サポート系の計装設備については、系統及び設備の状態を監視する設備並びに事故時のプラント状態を把握する設備を防護対象設備とする。</p> <p>ただし、原子炉格納容器内に設置された計器の内、事故時のプラント状態を把握する計器設備（検出器）には耐環境性があることから溢水影響はないと評価した。</p> <p>以下に計装設備（監視パラメータ）の選定結果を示す。なお、原子炉格納容器内の計装設備であっても安全停止の達成に必要な監視パラメータ、事故時監視パラメータを整理した。具体的な方法は、本章の（4）にまとめる。</p> <p>（1）原子炉の高温停止及び低温停止に必要な計装設備</p> <p>高温停止に関して、原子炉トリップ、補助給水、高圧注入及び低圧注入の作動信号を期待するパラメータは以下である。</p> <p>原子炉トリップ：出力領域中性子束、<b>過大温度</b> <math>\Delta T</math>、<b>過大出力</b> <math>\Delta T</math>、加圧器圧力、1次冷却材流量、<b>1次冷却材ポンプ回転数低</b>、蒸気発生器水位（狭域）</p> <p>補助給水：蒸気発生器水位（狭域）、<b>（復水ビット水位：監視パラメータとして期待）</b></p> <p>高圧注入：加圧器圧力、<b>主蒸気圧力</b>、格納容器圧力、  （格納容器再循環サンプ水位：監視パラメータとして期待）</p> <p>また、安全系による低温停止操作を行うための監視パラメータは、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1次冷却材温度（広域）</li> <li>・1次冷却材圧力</li> <li>・蒸気発生器水位（広域）</li> <li>・<b>主蒸気圧力</b></li> <li>・<b>蒸気発生器補助給水流量</b></li> <li>・ほう酸タンク水位</li> <li>・燃料取替用水ビット水位</li> <li>・加圧器水位</li> </ul>		<p>7. 計装設備の選定の考え方について</p> <p>サポート系の計装設備については、系統及び設備の状態を監視する設備並びに事故時のプラント状態を把握する設備を防護対象設備とする。</p> <p>ただし、原子炉格納容器内に設置された計器の内、事故時のプラント状態を把握する計器設備（検出器）には耐環境性があることから溢水影響はないと評価した。</p> <p>以下に計装設備（監視パラメータ）の選定結果を示す。なお、原子炉格納容器内の計装設備であっても安全停止の達成に必要な監視パラメータ、事故時監視パラメータを整理した。具体的な方法は、本章の（4）にまとめる。</p> <p>（1）原子炉の高温停止及び低温停止に必要な計装設備</p> <p>高温停止に関して、原子炉トリップ、補助給水、高圧注入及び低圧注入の作動信号を期待するパラメータは以下である。</p> <p>原子炉トリップ：出力領域中性子束、<b>Tavg</b>、<math>\Delta T</math>、加圧器圧力、1次冷却材流量、<b>1次冷却材ポンプ電源電圧</b>、蒸気発生器水位（狭域）</p> <p>補助給水：蒸気発生器水位（狭域）、<b>（補助給水ビット水位：監視パラメータとして期待）</b></p> <p>高圧注入：加圧器圧力、<b>主蒸気ライン圧力</b>、格納容器圧力、<b>加圧器水位</b>、  （格納容器再循環サンプ水位：監視パラメータとして期待）</p> <p>また、安全系による低温停止操作を行うための監視パラメータは、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1次冷却材温度（広域）</li> <li>・1次冷却材圧力</li> <li>・蒸気発生器水位（広域）</li> <li>・<b>主蒸気ライン圧力</b></li> <li>・<b>補助給水ライン流量</b></li> <li>・ほう酸タンク水位</li> <li>・燃料取替用水ビット水位</li> <li>・加圧器水位</li> </ul>	<p>相違理由</p> <p>【大飯】 <a href="#">記載表現の相違</a></p> <p>【大飯】 <a href="#">記載方針の相違</a></p> <p>採用ロジックの違い</p> <p>【大飯】 <a href="#">記載表現の相違</a></p> <p>【大飯】 <a href="#">記載方針の相違</a></p> <p>採用ロジックの違い</p> <p>【大飯】 <a href="#">記載表現の相違</a></p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(2) 原子炉外乱への対処に必要な計装設備</p> <p>原子炉外乱への対処機能として、以下のパラメータによる作動信号発信を期待する。</p> <p>原子炉トリップ：(1)と同じ                      補助給水：(1)と同じ                      高圧注入：(1)と同じ                      低圧注入：加圧器圧力、主蒸気圧力、格納容器圧力、</p> <p>(格納容器再循環サンプル水位、余熱除去ポンプ出口流量：監視パラメータとして期待)</p> <p>格納容器スプレイ：格納容器圧力                      格納容器隔離：高圧注入、格納容器スプレイと同じ</p> <p>溢水影響評価上想定する事象は設計想定事故(LOCA及び制御棒飛び出し)を含むことから、以下の事故時監視パラメータを選定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中性子源領域中性子束</li> <li>・原子炉トリップ遮断器の状態</li> <li>・1次冷却材温度(広域)</li> <li>・1次冷却材圧力</li> <li>・加圧器水位</li> <li>・蒸気発生器水位(狭域)</li> <li>・蒸気発生器水位(広域)</li> <li>・主蒸気圧力</li> <li>・格納容器圧力</li> <li>・ほう酸タンク水位</li> <li>・燃料取替用水ビット水位</li> <li>・復水ビット水位</li> <li>・格納容器再循環サンプル水位</li> <li>・蒸気発生器補助給水流量</li> <li>・格納容器高レンジエリアモニタ</li> </ul> <p>上記に加え、安全上特に重要な関連機能に必要な情報を監視するパラメータとして、以下のパラメータを選定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原子炉補機冷却水サージタンク水位</li> <li>・制御用空気供給母管圧力</li> </ul>	<p>(2) 原子炉外乱への対処に必要な計装設備</p> <p>原子炉外乱への対処機能として、以下のパラメータによる作動信号発信を期待する。</p> <p>原子炉トリップ：(1)と同じ                      補助給水：(1)と同じ                      高圧注入：(1)と同じ                      低圧注入：加圧器圧力、主蒸気ライン圧力、格納容器圧力、</p> <p>(格納容器再循環サンプル水位、余熱除去ポンプ出口流量：監視パラメータとして期待)</p> <p>格納容器スプレイ：格納容器圧力                      格納容器隔離：高圧注入、格納容器スプレイと同じ</p> <p>溢水影響評価上想定する事象は設計基準事故(「LOCA」及び「制御棒飛び出し」)を含むことから、以下の事故時監視パラメータを選定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中性子源領域中性子束</li> <li>・原子炉トリップ遮断器の状態</li> <li>・1次冷却材温度(広域)</li> <li>・1次冷却材圧力</li> <li>・加圧器水位</li> <li>・蒸気発生器水位(狭域)</li> <li>・蒸気発生器水位(広域)</li> <li>・主蒸気圧力</li> <li>・格納容器圧力</li> <li>・ほう酸タンク水位</li> <li>・燃料取替用水ビット水位</li> <li>・補助給水ビット水位</li> <li>・格納容器再循環サンプル水位</li> <li>・補助給水ライン流量</li> <li>・格納容器高レンジエリアモニタ</li> </ul> <p>上記に加え、安全上特に重要な関連機能に必要な情報を監視するパラメータとして、以下のパラメータを選定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原子炉補機冷却水サージタンク水位</li> <li>・制御用空気ヘッド圧力</li> </ul>	<p>【大飯】 記載表現の相違</p> <p>【大飯】 記載表現の相違</p> <p>【大飯】 記載表現の相違</p>	



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由												
<p>(3) 使用済燃料ピットの冷却機能及び給水機能に必要な計装設備</p> <p>水温、水位の変化は急激なものではないと考えられることから運転員による計測に期待するものとし既存の設備には期待しないものとする。</p> <p>(4) 溢水影響評価対象計装設備のスクリーニングについて</p> <p>原子炉格納容器内に設置される計装設備(検知器)のうち、LOCA時のみ機能要求がある設備については耐環境性を有しており機能を喪失することはない。一方、原子炉格納容器外の溢水事象においては、図1プラントの停止フローにしたがって高温停止、低温停止に移行するために必ずしも必要とならない設備(例えば、状態監視のみの現場指示計等、溢水により機能喪失しても安全は確保されるもの)については溢水影響はないと評価した。表5に計装設備の考え方を示す。</p>		<p>(3) 使用済燃料ピットの冷却機能及び給水機能に必要な計装設備</p> <p>水温、水位の変化は急激なものではないと考えられることから運転員による計測に期待するものとし既存の設備には期待しないものとする。</p> <p>(4) 溢水影響評価対象計装設備のスクリーニングについて</p> <p>原子炉格納容器内に設置される計装設備(検知器)のうち、LOCA時のみ機能要求がある設備については耐環境性を有しており機能を喪失することはない。一方、原子炉格納容器外の溢水事象においては、図1プラントの停止フローに従って高温停止、低温停止に移行するために必ずしも必要とならない設備(例えば、状態監視のみの現場指示計等、溢水により機能喪失しても安全は確保されるもの)については溢水影響はないと評価した。表5に計装設備の考え方を示す。</p>													
<p>表5 溢水影響評価対象外とする計装設備</p> <table border="1" data-bbox="120 798 636 1348"> <thead> <tr> <th>溢水影響はないと評価した計装設備</th> <th>理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>出力領域中性子束、<b>過大温度<math>\Delta T</math></b>、<b>過大出力<math>\Delta T</math></b>、加圧器圧力、1次冷却材流量、<b>1次冷却材ポンプ回転数低</b>、蒸気発生器水位(狭域)</td> <td>プラント健全性確保するために必要なパラメータであるが、溢水事象が発生した場合のプラント停止操作において必ずしも必要でないパラメータである</td> </tr> <tr> <td>加圧器圧力、蒸気発生器水位(狭域)、蒸気発生器水位(広域)、格納容器高レンジエアモニタ、1次冷却材温度(広域)、格納容器再循環サンプル水位、格納容器圧力、加圧器水位、1次冷却材圧力、中性子源領域中性子束</td> <td>事故時のプラント状態を把握する計装設備(検出器)であり、耐環境性があること、LOCA時のみ機能要求がある設備に関連する計装設備(PAM)であり、原子炉格納容器内で発生した溢水(LOCA)により機能喪失することはない。又は、溢水事象が発生した場合のプラント停止操作において必ずしも必要でないもの。</td> </tr> </tbody> </table>	溢水影響はないと評価した計装設備	理由	出力領域中性子束、 <b>過大温度<math>\Delta T</math></b> 、 <b>過大出力<math>\Delta T</math></b> 、加圧器圧力、1次冷却材流量、 <b>1次冷却材ポンプ回転数低</b> 、蒸気発生器水位(狭域)	プラント健全性確保するために必要なパラメータであるが、溢水事象が発生した場合のプラント停止操作において必ずしも必要でないパラメータである	加圧器圧力、蒸気発生器水位(狭域)、蒸気発生器水位(広域)、格納容器高レンジエアモニタ、1次冷却材温度(広域)、格納容器再循環サンプル水位、格納容器圧力、加圧器水位、1次冷却材圧力、中性子源領域中性子束	事故時のプラント状態を把握する計装設備(検出器)であり、耐環境性があること、LOCA時のみ機能要求がある設備に関連する計装設備(PAM)であり、原子炉格納容器内で発生した溢水(LOCA)により機能喪失することはない。又は、溢水事象が発生した場合のプラント停止操作において必ずしも必要でないもの。		<p>表5 溢水影響評価対象外とする計装設備</p> <table border="1" data-bbox="1285 798 1854 1077"> <thead> <tr> <th>溢水影響はないと評価した計装設備</th> <th>理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>出力領域中性子束、<b>Tavg、<math>\Delta T</math></b>、加圧器圧力、<b>1次冷却材流量</b>、<b>1次冷却材ポンプ電源電圧</b>、蒸気発生器水位(狭域)</td> <td>プラント健全性確保するために必要なパラメータであるが、溢水事象が発生した場合のプラント停止操作において必ずしも必要でないパラメータである</td> </tr> <tr> <td>加圧器圧力、蒸気発生器水位(狭域)、蒸気発生器水位(広域)、格納容器高レンジエアモニタ、1次冷却材温度(広域)、格納容器再循環サンプル水位、格納容器圧力、加圧器水位、1次冷却材圧力、中性子源領域中性子束</td> <td>事故時のプラント状態を把握する計装設備(検出器)であり、耐環境性があること、LOCA時のみ機能要求がある設備に関連する計装設備(PAM)であり、原子炉格納容器内で発生した溢水(LOCA)により機能喪失することはない。又は、溢水事象が発生した場合のプラント停止操作において必ずしも必要でないもの。</td> </tr> </tbody> </table>	溢水影響はないと評価した計装設備	理由	出力領域中性子束、 <b>Tavg、<math>\Delta T</math></b> 、加圧器圧力、 <b>1次冷却材流量</b> 、 <b>1次冷却材ポンプ電源電圧</b> 、蒸気発生器水位(狭域)	プラント健全性確保するために必要なパラメータであるが、溢水事象が発生した場合のプラント停止操作において必ずしも必要でないパラメータである	加圧器圧力、蒸気発生器水位(狭域)、蒸気発生器水位(広域)、格納容器高レンジエアモニタ、1次冷却材温度(広域)、格納容器再循環サンプル水位、格納容器圧力、加圧器水位、1次冷却材圧力、中性子源領域中性子束	事故時のプラント状態を把握する計装設備(検出器)であり、耐環境性があること、LOCA時のみ機能要求がある設備に関連する計装設備(PAM)であり、原子炉格納容器内で発生した溢水(LOCA)により機能喪失することはない。又は、溢水事象が発生した場合のプラント停止操作において必ずしも必要でないもの。	<p>【大飯】  <a href="#">記載表現の相違</a>          【大飯】  <a href="#">記載方針の相違</a>  <a href="#">採用ロジックの違い</a></p>
溢水影響はないと評価した計装設備	理由														
出力領域中性子束、 <b>過大温度<math>\Delta T</math></b> 、 <b>過大出力<math>\Delta T</math></b> 、加圧器圧力、1次冷却材流量、 <b>1次冷却材ポンプ回転数低</b> 、蒸気発生器水位(狭域)	プラント健全性確保するために必要なパラメータであるが、溢水事象が発生した場合のプラント停止操作において必ずしも必要でないパラメータである														
加圧器圧力、蒸気発生器水位(狭域)、蒸気発生器水位(広域)、格納容器高レンジエアモニタ、1次冷却材温度(広域)、格納容器再循環サンプル水位、格納容器圧力、加圧器水位、1次冷却材圧力、中性子源領域中性子束	事故時のプラント状態を把握する計装設備(検出器)であり、耐環境性があること、LOCA時のみ機能要求がある設備に関連する計装設備(PAM)であり、原子炉格納容器内で発生した溢水(LOCA)により機能喪失することはない。又は、溢水事象が発生した場合のプラント停止操作において必ずしも必要でないもの。														
溢水影響はないと評価した計装設備	理由														
出力領域中性子束、 <b>Tavg、<math>\Delta T</math></b> 、加圧器圧力、 <b>1次冷却材流量</b> 、 <b>1次冷却材ポンプ電源電圧</b> 、蒸気発生器水位(狭域)	プラント健全性確保するために必要なパラメータであるが、溢水事象が発生した場合のプラント停止操作において必ずしも必要でないパラメータである														
加圧器圧力、蒸気発生器水位(狭域)、蒸気発生器水位(広域)、格納容器高レンジエアモニタ、1次冷却材温度(広域)、格納容器再循環サンプル水位、格納容器圧力、加圧器水位、1次冷却材圧力、中性子源領域中性子束	事故時のプラント状態を把握する計装設備(検出器)であり、耐環境性があること、LOCA時のみ機能要求がある設備に関連する計装設備(PAM)であり、原子炉格納容器内で発生した溢水(LOCA)により機能喪失することはない。又は、溢水事象が発生した場合のプラント停止操作において必ずしも必要でないもの。														

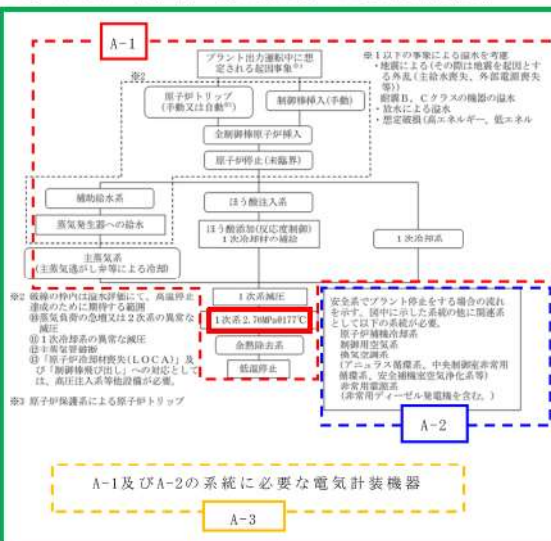
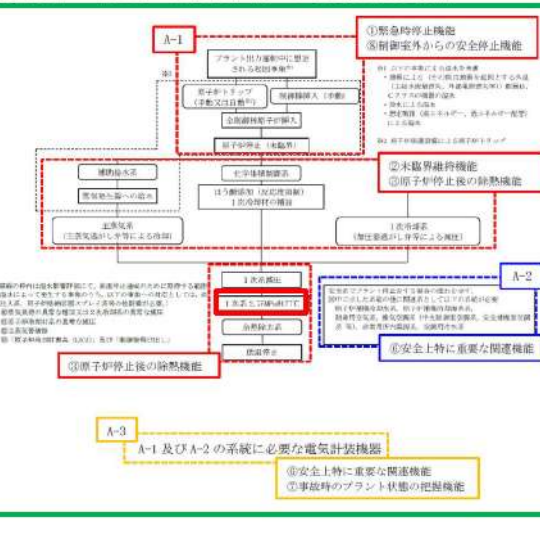
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料4）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>7. 電気設備の選定の考え方について</p> <p>電気設備は選定された防護対象設備及び計装設備に関連する電気設備（制御盤、電源盤等）を防護対象設備とする。</p> <p style="text-align: right;">補足資料2-2</p> <p>防護対象設備の機能要求について</p> <p>大飯3号炉及び4号炉の内部溢水影響評価においては、防護対象設備として次の設備を抽出している。</p> <p>(1)重要度の特に高い安全機能を有する系統設備                  (2)使用済燃料ピットの冷却機能及び給水機能の維持に必要な設備                  (3)電源盤等の関連設備も含む</p> <p>また、前項「2-1 防護対象設備の抽出の考え方」のうち、下記の設備を「添付資料1.2-1のうち防護対象設備リスト」に記載した。</p> <p>「○」：溢水影響評価対象の防護対象設備                  「×*」：プラントの停止の対処設備を明確にするために防護対象設備リストに追加した設備(溢水影響評価は対象外の設備)</p> <p>以降は、防護対象設備リストに記載された設備の機能要求を明確化するため、高温停止、低温停止及び閉じ込め機能の確保に必要な系統設備について、それぞれに1.（フロント系）直接系、2.（サポート系）間接系、3.（サポート系）電気計装機器が存在することから、下記のフローにて機能区分を整理した。</p> <div data-bbox="134 1117 683 1332" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> </div> <p style="text-align: center;">図1 機能区分の分類フロー</p>	<p>8. 電気設備の選定の考え方について</p> <p>電気設備は選定された防護対象設備及び計装設備に関連する電気設備（制御盤、電源盤等）を防護対象設備とする。</p> <p>9. 防護対象設備の機能要求について</p> <p>「別添1 添付資料4 表1 防護対象設備一覧」に記載された設備の機能要求を明確化するため、高温停止、低温停止及び閉じ込め機能の確保並びに使用済燃料ピットの冷却・給水に必要な系統設備について、それぞれに1.（フロント系）直接系、2.（サポート系）間接系、3.（サポート系）電気計装機器が存在することから、図3のフローにて機能区分を整理した。さらに、機能区分に含まれる安全機能については、表6に整理した。</p> <div data-bbox="1288 1093 1859 1380" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> </div> <p style="text-align: center;">図3 機能区分の分離フロー</p>	<p>相違理由</p> <p>【大飯】  <u>記載表現の相違</u>                  【大飯】  <u>記載方針の相違</u>                  ・女川審査実績の反映                  ・大飯では、溢水影響評価は対象外の設備についても機能区分を整理しているが、女川では溢水影響評価対象の防護対象設備の安全機能を整理していることから、泊は女川に合わせて溢水影響評価対象設備の安全機能の要求を整理する。(女川まとめ資料添付資料4が防護対象設備に対して安全機能を整理した表としているため)</p> <p>【大飯】  <u>記載表現の相違</u>                  【大飯】  <u>記載方針の相違</u>                  図3のフローの記載に合わせた                  【大飯】  <u>記載方針の相違</u>                  女川では安全機能を整理していることから、大飯の整理方法である機能区分と安全機能との対比をわかりやすくするため整理した</p> <p>【大飯】  <u>記載表現の相違</u></p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料4）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																				
<p>上記フローにおける各項目は、「大飯3号炉及び4号炉内部溢水の影響評価について」（以下溢水影響評価書という）添付資料1.2-1の記載から、次のとおり判断できる。</p> <p>① 原子炉の高温停止及び低温停止に必要な系統設備</p>  <p>A-1及びA-2の系統に必要な電気計装機器</p>		<p>表6 機能区分に含まれる安全機能</p> <table border="1" data-bbox="1377 199 1758 678"> <thead> <tr> <th>機能区分</th> <th>安全機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A-1</td> <td>①緊急時停止機能 ②未臨界維持機能 ③原子炉停止後の除熱機能 ⑧制御室外からの安全停止機能</td> </tr> <tr> <td>A-2</td> <td>⑥安全上特に重要な関連機能</td> </tr> <tr> <td>A-3</td> <td>⑥安全上特に重要な関連機能 ⑦事故時のプラント状態の把握機能</td> </tr> <tr> <td>B-1</td> <td>④炉心冷却機能 ⑤放射性物質の閉じ込め機能 ⑥安全上特に重要な関連機能</td> </tr> <tr> <td>B-2</td> <td>⑥安全上特に重要な関連機能</td> </tr> <tr> <td>B-3</td> <td>⑥安全上特に重要な関連機能 ⑦事故時のプラント状態の把握機能</td> </tr> <tr> <td>C-1</td> <td>⑨ビッド冷却機能 ⑩ビッド給水機能</td> </tr> <tr> <td>C-2</td> <td>(A-2に包絡されている)</td> </tr> <tr> <td>C-3</td> <td>(A-3に包絡されている)</td> </tr> </tbody> </table> <p>機能区分及び安全機能は、2.～8.の記載から、次のとおり判断できる。</p> <p>①原子炉の高温停止及び低温停止に必要な系統設備</p> 	機能区分	安全機能	A-1	①緊急時停止機能 ②未臨界維持機能 ③原子炉停止後の除熱機能 ⑧制御室外からの安全停止機能	A-2	⑥安全上特に重要な関連機能	A-3	⑥安全上特に重要な関連機能 ⑦事故時のプラント状態の把握機能	B-1	④炉心冷却機能 ⑤放射性物質の閉じ込め機能 ⑥安全上特に重要な関連機能	B-2	⑥安全上特に重要な関連機能	B-3	⑥安全上特に重要な関連機能 ⑦事故時のプラント状態の把握機能	C-1	⑨ビッド冷却機能 ⑩ビッド給水機能	C-2	(A-2に包絡されている)	C-3	(A-3に包絡されている)	<p>【大飯】  <a href="#">記載方針の相違</a>                  女川では安全機能を整理していることから、機能区分と安全機能との対比を整理して記載した</p> <p>【大飯】  <a href="#">記載方針の相違</a>                  女川では安全機能を整理していることから、機能区分と安全機能との対比を整理して記載した</p> <p>【大飯】  <a href="#">記載表現の相違</a></p> <p>【大飯】  <a href="#">設計方針の相違</a>                  プラント設計の相違</p>
機能区分	安全機能																						
A-1	①緊急時停止機能 ②未臨界維持機能 ③原子炉停止後の除熱機能 ⑧制御室外からの安全停止機能																						
A-2	⑥安全上特に重要な関連機能																						
A-3	⑥安全上特に重要な関連機能 ⑦事故時のプラント状態の把握機能																						
B-1	④炉心冷却機能 ⑤放射性物質の閉じ込め機能 ⑥安全上特に重要な関連機能																						
B-2	⑥安全上特に重要な関連機能																						
B-3	⑥安全上特に重要な関連機能 ⑦事故時のプラント状態の把握機能																						
C-1	⑨ビッド冷却機能 ⑩ビッド給水機能																						
C-2	(A-2に包絡されている)																						
C-3	(A-3に包絡されている)																						



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

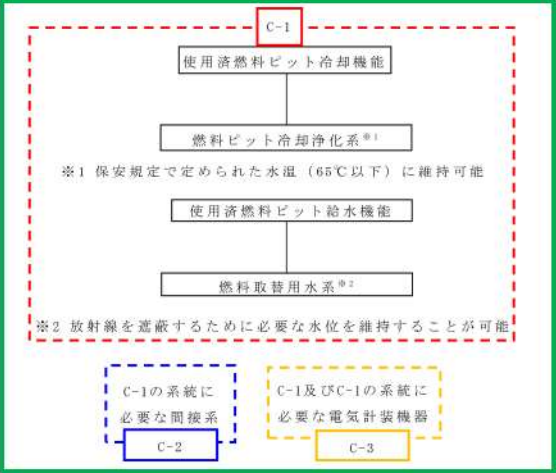
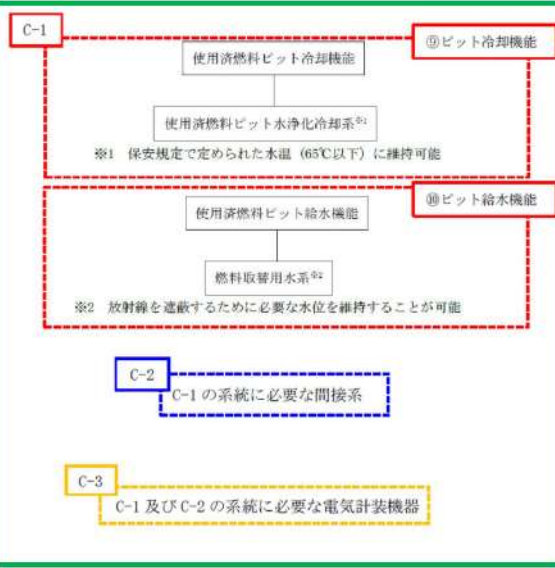
第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																														
<p>② 原子炉外乱に対処するために必要な系統設備</p> <table border="1" data-bbox="123 199 660 917"> <thead> <tr> <th>① 原子炉起動時における制御体の異常な引き抜き</th> <th>上記事象に対する対応機能</th> <th>対応系統</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①「原子炉起動時における制御体の異常な引き抜き」 【出力運転中の制御体の異常な引き抜き】「制御体の落下及び不整合」</td> <td>・原子炉トリップ ・補助給水</td> <td>・安全保護系 ・原子炉停止系 ・補助給水系</td> </tr> <tr> <td>②「原子炉冷却材中のほう素の異常な蓄積」 （ほう素濃度制御系異常）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③「原子炉冷却材流量の部分喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」 （1次冷却材ポンプ停止）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④「蒸気発生器への過剰給水」 （主給水制御系閉鎖）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑤「主給水流量喪失（主給水ポンプ停止）」</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑥「負荷の喪失」 （主蒸気隔離弁閉鎖）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑦「出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動」</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑧「主給水管破断」</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑨「外部電源喪失」</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑩「2次冷却系の異常な減圧（タービンバイパス弁閉鎖）」</td> <td>上記機能に加え、 ・高圧注入</td> <td>上記系統に加え、 ・高圧注入系</td> </tr> <tr> <td>⑪「原子炉冷却材系の異常な減圧（圧力調整弁閉鎖）」</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑫「原子炉冷却材喪失（LOCA）」及び「制御棒飛び出し」</td> <td>上記機能に加え、 ・低圧注入 ・格納容器スプレイ ・格納容器隔離弁 ・原子炉格納容器隔離弁 ・原子炉格納容器隔離弁</td> <td>上記系統に加え、 ・低圧注入系 ・原子炉格納容器スプレイ系 ・格納容器隔離弁 ・換気空調系 （アニュラス空気浄化設備）</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 主給水バイパス制御弁閉          ※2 復水ポンプ停止、主給水制御弁・隔離弁閉          ※3 タービントリップ          ※4 主蒸気透かし弁閉、タービン蒸気加減弁閉          ※5 加圧器スプレイ弁閉、加圧器補助スプレイ弁閉</p> <p>「② 原子炉外乱に対処するために必要な系統設備」の機能区分となる系統は黄色の四角で囲った系統設備。</p> <p>B-1</p> <p>B-2</p> <p>B-3</p> <p>B-1及びB-2の系統に必要な電気計装機器</p>	① 原子炉起動時における制御体の異常な引き抜き	上記事象に対する対応機能	対応系統	①「原子炉起動時における制御体の異常な引き抜き」 【出力運転中の制御体の異常な引き抜き】「制御体の落下及び不整合」	・原子炉トリップ ・補助給水	・安全保護系 ・原子炉停止系 ・補助給水系	②「原子炉冷却材中のほう素の異常な蓄積」 （ほう素濃度制御系異常）			③「原子炉冷却材流量の部分喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」 （1次冷却材ポンプ停止）			④「蒸気発生器への過剰給水」 （主給水制御系閉鎖）			⑤「主給水流量喪失（主給水ポンプ停止）」			⑥「負荷の喪失」 （主蒸気隔離弁閉鎖）			⑦「出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動」			⑧「主給水管破断」			⑨「外部電源喪失」			⑩「2次冷却系の異常な減圧（タービンバイパス弁閉鎖）」	上記機能に加え、 ・高圧注入	上記系統に加え、 ・高圧注入系	⑪「原子炉冷却材系の異常な減圧（圧力調整弁閉鎖）」			⑫「原子炉冷却材喪失（LOCA）」及び「制御棒飛び出し」	上記機能に加え、 ・低圧注入 ・格納容器スプレイ ・格納容器隔離弁 ・原子炉格納容器隔離弁 ・原子炉格納容器隔離弁	上記系統に加え、 ・低圧注入系 ・原子炉格納容器スプレイ系 ・格納容器隔離弁 ・換気空調系 （アニュラス空気浄化設備）		<p>② 原子炉外乱に対処するために必要な系統設備</p> <table border="1" data-bbox="1299 199 1836 798"> <thead> <tr> <th>① 原子炉起動時における制御体の異常な引き抜き</th> <th>上記事象に対する対応機能</th> <th>対応系統</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①「原子炉起動時における制御体の異常な引き抜き」 【出力運転中の制御体の異常な引き抜き】「制御体の落下及び不整合」</td> <td>・原子炉トリップ ・補助給水</td> <td>・安全保護系 ・原子炉停止系 ・補助給水系</td> </tr> <tr> <td>②「原子炉冷却材中のほう素の異常な蓄積」 （ほう素濃度制御系異常）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③「原子炉冷却材流量の部分喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」 （1次冷却材ポンプ停止）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④「蒸気発生器への過剰給水」 （主給水制御系閉鎖）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑤「主給水流量喪失（主給水ポンプ停止）」</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑥「負荷の喪失」 （主蒸気隔離弁閉鎖）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑦「出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動」</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑧「主給水管破断」</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑨「外部電源喪失」</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑩「2次冷却系の異常な減圧（タービンバイパス弁閉鎖）」</td> <td>上記機能に加え、 ・高圧注入</td> <td>上記系統に加え、 ・高圧注入系</td> </tr> <tr> <td>⑪「原子炉冷却材系の異常な減圧（加圧器透かし弁閉鎖）」</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑫「主蒸気管破断」</td> <td>上記機能に加え、 ・低圧注入 ・格納容器スプレイ ・格納容器隔離弁</td> <td>上記系統に加え、 ・低圧注入系 ・原子炉格納容器スプレイ系 ・格納容器隔離弁 ・換気空調系 （アニュラス空気浄化設備）</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 主給水バイパス制御弁閉          ※2 復水ポンプ停止、主給水制御弁・隔離弁閉          ※3 蒸気タービン停止          ※4 主蒸気透かし弁閉、タービン蒸気加減弁閉          ※5 加圧器スプレイ弁閉、加圧器補助スプレイ弁閉</p> <p>「② 原子炉外乱に対処するために必要な系統設備」の機能区分となる系統は黄色の四角で囲った系統設備。</p> <p>B-1</p> <p>B-2</p> <p>B-3</p> <p>B-1及びB-2の系統に必要な電気計装機器</p> <p>※安全上特に重要な関連機能</p> <p>※安全上特に重要な関連機能</p> <p>※事故時のプラント状態の把握機能</p>	① 原子炉起動時における制御体の異常な引き抜き	上記事象に対する対応機能	対応系統	①「原子炉起動時における制御体の異常な引き抜き」 【出力運転中の制御体の異常な引き抜き】「制御体の落下及び不整合」	・原子炉トリップ ・補助給水	・安全保護系 ・原子炉停止系 ・補助給水系	②「原子炉冷却材中のほう素の異常な蓄積」 （ほう素濃度制御系異常）			③「原子炉冷却材流量の部分喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」 （1次冷却材ポンプ停止）			④「蒸気発生器への過剰給水」 （主給水制御系閉鎖）			⑤「主給水流量喪失（主給水ポンプ停止）」			⑥「負荷の喪失」 （主蒸気隔離弁閉鎖）			⑦「出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動」			⑧「主給水管破断」			⑨「外部電源喪失」			⑩「2次冷却系の異常な減圧（タービンバイパス弁閉鎖）」	上記機能に加え、 ・高圧注入	上記系統に加え、 ・高圧注入系	⑪「原子炉冷却材系の異常な減圧（加圧器透かし弁閉鎖）」			⑫「主蒸気管破断」	上記機能に加え、 ・低圧注入 ・格納容器スプレイ ・格納容器隔離弁	上記系統に加え、 ・低圧注入系 ・原子炉格納容器スプレイ系 ・格納容器隔離弁 ・換気空調系 （アニュラス空気浄化設備）	<p>【大飯】          記載表現の相違</p>
① 原子炉起動時における制御体の異常な引き抜き	上記事象に対する対応機能	対応系統																																																																															
①「原子炉起動時における制御体の異常な引き抜き」 【出力運転中の制御体の異常な引き抜き】「制御体の落下及び不整合」	・原子炉トリップ ・補助給水	・安全保護系 ・原子炉停止系 ・補助給水系																																																																															
②「原子炉冷却材中のほう素の異常な蓄積」 （ほう素濃度制御系異常）																																																																																	
③「原子炉冷却材流量の部分喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」 （1次冷却材ポンプ停止）																																																																																	
④「蒸気発生器への過剰給水」 （主給水制御系閉鎖）																																																																																	
⑤「主給水流量喪失（主給水ポンプ停止）」																																																																																	
⑥「負荷の喪失」 （主蒸気隔離弁閉鎖）																																																																																	
⑦「出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動」																																																																																	
⑧「主給水管破断」																																																																																	
⑨「外部電源喪失」																																																																																	
⑩「2次冷却系の異常な減圧（タービンバイパス弁閉鎖）」	上記機能に加え、 ・高圧注入	上記系統に加え、 ・高圧注入系																																																																															
⑪「原子炉冷却材系の異常な減圧（圧力調整弁閉鎖）」																																																																																	
⑫「原子炉冷却材喪失（LOCA）」及び「制御棒飛び出し」	上記機能に加え、 ・低圧注入 ・格納容器スプレイ ・格納容器隔離弁 ・原子炉格納容器隔離弁 ・原子炉格納容器隔離弁	上記系統に加え、 ・低圧注入系 ・原子炉格納容器スプレイ系 ・格納容器隔離弁 ・換気空調系 （アニュラス空気浄化設備）																																																																															
① 原子炉起動時における制御体の異常な引き抜き	上記事象に対する対応機能	対応系統																																																																															
①「原子炉起動時における制御体の異常な引き抜き」 【出力運転中の制御体の異常な引き抜き】「制御体の落下及び不整合」	・原子炉トリップ ・補助給水	・安全保護系 ・原子炉停止系 ・補助給水系																																																																															
②「原子炉冷却材中のほう素の異常な蓄積」 （ほう素濃度制御系異常）																																																																																	
③「原子炉冷却材流量の部分喪失」及び「原子炉冷却材流量の喪失」 （1次冷却材ポンプ停止）																																																																																	
④「蒸気発生器への過剰給水」 （主給水制御系閉鎖）																																																																																	
⑤「主給水流量喪失（主給水ポンプ停止）」																																																																																	
⑥「負荷の喪失」 （主蒸気隔離弁閉鎖）																																																																																	
⑦「出力運転中の非常用炉心冷却系の誤起動」																																																																																	
⑧「主給水管破断」																																																																																	
⑨「外部電源喪失」																																																																																	
⑩「2次冷却系の異常な減圧（タービンバイパス弁閉鎖）」	上記機能に加え、 ・高圧注入	上記系統に加え、 ・高圧注入系																																																																															
⑪「原子炉冷却材系の異常な減圧（加圧器透かし弁閉鎖）」																																																																																	
⑫「主蒸気管破断」	上記機能に加え、 ・低圧注入 ・格納容器スプレイ ・格納容器隔離弁	上記系統に加え、 ・低圧注入系 ・原子炉格納容器スプレイ系 ・格納容器隔離弁 ・換気空調系 （アニュラス空気浄化設備）																																																																															



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料4）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>③ 使用済燃料ピットの冷却機能及び給水機能に必要な設備</p>  <p>※1 保安規定で定められた水温（65℃以下）に維持可能</p> <p>※2 放射線を遮蔽するために必要な水位を維持することが可能</p> <p>C-1の系統に必要な間接系 C-2</p> <p>C-1及びC-2の系統に必要な電気計装機器 C-3</p> <p>次ページ以降に機能要求区分を示した防護対象設備リストを示す。</p>		<p>③使用済燃料ピットの冷却機能及び給水機能に必要な設備</p>  <p>※1 保安規定で定められた水温（65℃以下）に維持可能</p> <p>※2 放射線を遮蔽するために必要な水位を維持することが可能</p> <p>C-2 C-1の系統に必要な間接系</p> <p>C-3 C-1及びC-2の系統に必要な電気計装機器</p> <p>安全機能を示した防護対象設備リストは、「別添1 添付資料4 表1 防護対象設備一覧」に示す。</p>	<p>【大飯】 記載表現の相違</p> <p>【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映 （女川では安全機能を整理して防護対象設備一覧に記載していることから、泊では「別添1 添付資料4 表1 防護対象設備一覧」に示し、ここでの記載は割愛した。）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大飯発電所3 / 4号炉					女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
3号炉防護対象設備機能要求リスト（原子炉格納容器内設置設備除く）（1/9）							【大飯】 記載方針の相違 泊では「別添1添付資料4表1 防護対象設備一覧」に示し、ここで の記載は割愛した。
系統	設備	設置建屋	機能区分*	機能要求			
補助給水系	3A, 3B電動補助給水ポンプ	原子炉 周辺建屋	A-1	補助給水機能			
補助給水系	3タービン動補助給水ポンプ	原子炉 周辺建屋	A-1	補助給水機能			
補助給水系	3タービン動補助給水ポンプ 駆動弁A, B (3V-MS-570A, B)	原子炉 周辺建屋	A-1	補助給水機能			
補助給水系	3タービン動補助給水ポンプ 駆動弁A, B (3V-MS-A, B)	原子炉 周辺建屋	A-0	補助給水機能			
補助給水系	3A, 3B, 3C, 3D蒸気発生器補助 給水流量 (3FT-3716, 3726, 3736, 3746)	原子炉 周辺建屋	A-0	補助給水機能			
補助給水系	3復水ビット水位Ⅲ, IV (3LT-3760, 3761)	原子炉 周辺建屋	A-0	補助給水機能			
補助給水系	3復水ビット	原子炉 周辺建屋	A-1	補助給水機能 (溢水影響評価対象外)			
化学体積 制御系	3A, 3B充てんポンプ	原子炉 周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能			
化学体積 制御系	3C充てんポンプ	原子炉 周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能			
化学体積 制御系	3C充てんポンプ速度制御盤 (3CSC)	原子炉 周辺建屋	A-0	ほう酸注入機能			
化学体積 制御系	3C充てんポンプ速度制御補助 盤 (3CSAC)	原子炉 周辺建屋	A-0	ほう酸注入機能			
化学体積 制御系	3A, 3B, 3C1, 3C2充てんポンプ 現場操作盤 (3LB-5, 6, 7, 8)	原子炉 周辺建屋	A-0	ほう酸注入機能			
化学体積 制御系	3充てんポンプ入口燃料取替 用水ビット側補給弁A, B (3LCV-121B, E)	原子炉 周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能			
化学体積 制御系	3A, 3Bほう酸ポンプ	原子炉 周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能			
化学体積 制御系	3A, 3Bほう酸ポンプ現場操作 盤 (3LB-9, 10)	原子炉 周辺建屋	A-0	ほう酸注入機能			
化学体積 制御系	3充てんライン止め弁 (3V-CS-155)	原子炉 周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能			
化学体積 制御系	3体積制御タンク出口第1止め 弁 (3LCV-121B)	原子炉 周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能			
化学体積 制御系	3体積制御タンク出口第2止め 弁 (3LCV-121C)	原子炉 周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能			
化学体積 制御系	3緊急ほう酸注入ライン補給 弁 (3V-CS-573)	原子炉 周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能			
化学体積 制御系	3充てんライン格納容器隔離 弁 (3V-CS-157)	原子炉 周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能			
化学体積 制御系	3-1次冷却材ポンプ封水戻り ライン格納容器第2隔離弁 (3V-CS-312)	原子炉 周辺建屋	B-1	格納容器隔離機能			
化学体積 制御系	3封水冷却器	原子炉 周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能 (溢水影響評価対象外)			
化学体積 制御系	3A, 3B封水注入フィルタ	原子炉 周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能 (溢水影響評価対象外)			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大飯発電所3／4号炉					女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
3号炉防護対象設備機能要求リスト（原子炉格納容器内設置設備除く）(2/9)							【大飯】 記載方針の相違 泊では「別添1添付資料4表1 防護対象設備一覧」に示し、ここで の記載は割愛した。
系統	設 備	設置建屋	機能区分*	機能要求			
化学体積制御系	3封水ストレーナ	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能 (溢水影響評価対象外)			
化学体積制御系	3体積制御タンク	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能 (溢水影響評価対象外)			
化学体積制御系	3A, 3Bほう酸タンク水位 (3LT-206, 208)	原子炉周辺建屋	A-3	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	3A, 3Bほう酸タンク	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能 (溢水影響評価対象外)			
化学体積制御系	3ほう酸フィルタ	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能 (溢水影響評価対象外)			
余熱除去系	3A, 3B余熱除去ポンプ	原子炉周辺建屋	A-1	余熱除去機能			
余熱除去系	3A, 3B余熱除去ポンプ現場操作箱 (3IB-14, 15)	原子炉周辺建屋	A-3	余熱除去機能			
余熱除去系	3A, 3B余熱除去ポンプ出口流量 (3PT-601, 611)	原子炉周辺建屋	A-3	余熱除去機能			
余熱除去系	3A, 3B余熱除去ポンプミニマムフローライン止め弁 (3PCV-601, 611)	原子炉周辺建屋	A-1	余熱除去機能			
余熱除去系	3A, 3B余熱除去冷却器	原子炉周辺建屋	A-1	余熱除去機能 (溢水影響評価対象外)			
制御用空気系	3A, 3B制御用空気圧縮機制御盤 (3IAC-A, B)	原子炉周辺建屋	A-3	主蒸気系統のサポート機能			
制御用空気系	3A, 3B制御用空気圧縮機	原子炉周辺建屋	A-2	主蒸気系統のサポート機能			
制御用空気系	3A, 3B制御用空気乾燥器 (3IAH1A, B)	原子炉周辺建屋	A-2	主蒸気系統のサポート機能 (溢水影響評価対象外)			
制御用空気系	3A, 3B制御用空気だめ (3IAT1A, B)	原子炉周辺建屋	A-2	主蒸気系統のサポート機能 (溢水影響評価対象外)			
制御用空気系	3A-C, 3B-C制御用空気母管連絡弁 (3V-1A-501A, B)	原子炉周辺建屋	A-1	主蒸気系統のサポート機能			
制御用空気系	3A, 3B制御用空気主蒸気逃がし弁等供給ライン止め弁 (3V-1A-505A, B)	原子炉周辺建屋	A-1	主蒸気系統のサポート機能			
制御用空気系	3A, 3B 制御用空気格納容器隔離弁 (3V-1A-508A, B)	原子炉周辺建屋	B-1	格納容器隔離機能			
制御用空気系	3A, 3B制御用空気供給母管圧力 (3PT-1800, 1810)	原子炉周辺建屋	A-3	主蒸気系統のサポート機能			
原子炉補機冷却系	3A, 3B余熱除去冷却器冷却水止め弁 (3V-CC-114A, B)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
原子炉補機冷却系	3原子炉補機冷却水サージタンク水位III, IV (3LT-1200, 1201)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
原子炉補機冷却系	3原子炉補機冷却水サージタンク	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能 (溢水影響評価対象外)			
原子炉補機冷却系	3A, 3B原子炉補機冷却水冷却器	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能 (溢水影響評価対象外)			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大飯発電所3／4号炉					女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
3号炉防護対象設備機能要求リスト（原子炉格納容器内設置設備除く）(3/9)							【大飯】 記載方針の相違 泊では「別添1添付資料4表1 防護対象設備一覧」に示し、ここで記載は割愛した。
系統	設備	設置建屋	機能区分	機能要求			
原子炉補機冷却系	3A, 3B, 3C, 3D原子炉補機冷却水ポンプ	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
原子炉補機冷却系	3A, 3B, 3C, 3D原子炉補機冷却水ポンプ現場操作箱 (31B-20, 21, 22, 23)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
原子炉補機冷却系	3A・C, 3B・C原子炉補機冷却水戻り母管速給弁 (3V-CC-043A, B)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
原子炉補機冷却系	3A・C, 3B・C原子炉補機冷却水供給母管速給弁 (3V-CC-056A, B)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
原子炉補機冷却系	34廃棄物処理建屋冷却水供給ライン第1, 2止め弁 (3号機側) (34V-CC-600, 601)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
原子炉補機冷却系	3A, 3B格納容器スフレイ冷却器冷却水止め弁 (3V-CC-178A, B)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
原子炉補機冷却系	3-1次冷却材ポンプ冷却水供給ライン格納容器隔離弁 (3V-CC-403)	原子炉周辺建屋	B-1	格納容器隔離機能			
原子炉補機冷却系	3-1次冷却材ポンプ冷却水戻りライン格納容器第2隔離弁 (3V-CC-429)	原子炉周辺建屋	B-1	格納容器隔離機能			
原子炉補機冷却系	3-CRDM冷却ユニット・余剰抽出冷却器冷却水供給ラインCV隔離弁 (3V-CC-342)	原子炉周辺建屋	B-1	格納容器隔離機能			
原子炉補機冷却系	3-CRDM冷却ユニット・余剰抽出冷却器冷却水戻りラインCV隔離弁 (3V-CC-365)	原子炉周辺建屋	B-1	格納容器隔離機能			
原子炉補機冷却系	3A・D, 3B・C 格納容器再循環ユニット冷却水供給ライン格納容器隔離弁 (3V-CC-189A, B)	原子炉周辺建屋	B-1	格納容器隔離機能			
原子炉補機冷却系	3A, 3B, 3C, 3D 格納容器再循環ユニット冷却水戻りライン格納容器隔離弁 (3V-CC-198A, B, C, D)	原子炉周辺建屋	B-1	格納容器隔離機能			
原子炉補機冷却系	3A, 3B原子炉補機冷却水冷却器海水止め弁 (3V-SW-570A, B)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
原子炉補機冷却系	3海水ポンプ出口3A, 3B, 3C, 3D海水ストレーナ (3S-SW-01A, B, C, D)	海水ポンプエリア	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能 (溢水影響評価対象外)			
原子炉補機冷却系	3A, 3B, 3C海水ポンプ	海水ポンプエリア	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
原子炉補機冷却系	3A, 3B1, 3B2, 3C海水ポンプ現場操作箱 (31B-26, 27, 28, 29)	海水ポンプエリア	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	3主盤 (原子炉盤) (3M3B)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大飯発電所3／4号炉					女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
3号炉防護対象設備機能要求リスト（原子炉格納容器内設置設備除く）（4／9）							【大飯】 記載方針の相違 泊では「別添1添付資料4表1 防護対象設備一覧」に示し、ここでの記載は割愛した。
系統	設備	設置建屋	機能区分*	機能要求			
電気盤	3原子炉補助盤 (3RAB)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	3原子炉安全保護計装盤 I, II, III, IV (3RPR-I, II, III, IV)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	3A, 3B, 3C, 3D原子炉安全保護ロジック盤 (3RPL-A, B, C, D)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	3安全保護シーケンス盤 AG1, AG2, BG1, BG2 (3SFS-A1, A2, B1, B2)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	3所内盤 (3ISB)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	事故時放射線監視盤 3RMS (3PRMS-III, IV)	制御建屋	B-3	事故時のプラント状態の把握			
電気盤	3原子炉トリップ遮断器 (3RTS)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	3A1, 3A2, 3A3, 3A4, 3B1, 3B2, 3B3, 3B4ソレノイド分電盤 (3SD-A1, A2, A3, A4, B1, B2, B3, B4)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	3A, 3Bドロップ盤 (3BCP-A-DRP, 3BCP-B-DRP)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	3A, 3B直流き電盤 (3IMP-A, B)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	3A, 3B直流分電盤 (3DDP-A, B)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	3A, 3B蓄電池	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	3A, 3B充電器盤 (3BCP-A, B)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	3A1, 3A2, 3B1, 3B2メタルラッドスイッチギア (3MC-A1, A2, B1, B2)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	3A1, 3A2, 3B1, 3B2パワーセンタ (3PC-A1, A2, B1, B2)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	3A1, 3A2, 3B1, 3B2原子炉コントロールセンタ (3RCC-A1, A2, B1, B2)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	3A, 3B, 3C, 3D計装用電源盤 (1)～(3) (3IBC-A, B, C, D)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	3A1, 3A2, 3B1, 3B2, 3C1, 3C2, 3D1, 3D2計装用分電盤 (3IFD-A1, A2, B1, B2, C1, C2, D1, D2)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	3A, 3B, 3C, 3D計装用交流電源切替盤 (3ISP-A, B, C, D)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	3AC, 3BD計装用後備分電盤 (3IBD-AC, BD)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
非常用電源系	3A, 3Bディーゼル発電機コントロールセンタ (3GCC-A, B)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大飯発電所3／4号炉					女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
3号炉防護対象設備機能要求リスト（原子炉格納容器内設置設備除く）（5／9）							【大飯】 記載方針の相違 泊では「別添1添付資料4表1 防護対象設備一覧」に示し、ここでの記載は割愛した。
系統	設備	設置建屋	機能区分*	機能要求			
非常用電源系	3A, 3Bディーゼル機関	原子炉 周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
非常用電源系	3A, 3Bディーゼル発電機	原子炉 周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
非常用電源系	3A, 3Bディーゼル発電機制御盤 (3DGC-A, B)	原子炉 周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
格納容器スプレイス	3A, 3B格納容器スプレイス冷却器	原子炉 周辺建屋	B-1	格納容器スプレイス機能 (溢水影響評価対象外)			
格納容器スプレイス	3よう素除去薬品タンク	原子炉 周辺建屋	B-1	格納容器スプレイス機能 (溢水影響評価対象外)			
格納容器スプレイス	3格納容器圧力 (広域) I, II, III, IV (3PT-950, 951, 952, 953)	原子炉 周辺建屋	B-0	格納容器スプレイス機能			
格納容器スプレイス	3A, 3B格納容器スプレイスポンプ	原子炉 周辺建屋	B-1	格納容器スプレイス機能			
格納容器スプレイス	3A, 3B格納容器スプレイスポンプ現場操作箱 (3LB-18, 19)	原子炉 周辺建屋	B-0	格納容器スプレイス機能			
格納容器スプレイス	3A, 3B格納容器スプレイスポンプ燃料取替用水ピット側入口止め弁 (3V-CP-001A, B)	原子炉 周辺建屋	B-1	格納容器スプレイス機能			
格納容器スプレイス	3A, 3B格納容器スプレイスポンプ再循環サンプ側入口格納容器隔離弁 (3V-CP-003A, B)	原子炉 周辺建屋	B-1	格納容器スプレイス機能			
格納容器スプレイス	3A, 3B格納容器スプレイスヘッダ冷却器出口格納容器隔離弁 (3V-CP-024A, B)	原子炉 周辺建屋	B-1	格納容器スプレイス機能			
格納容器スプレイス	3A, 3Bよう素除去薬品注入ライン第1止め弁 (3V-CP-054A, B)	原子炉 周辺建屋	B-1	格納容器スプレイス機能			
格納容器スプレイス	3A, 3Bよう素除去薬品注入ライン第2止め弁 (3V-CP-056A, B)	原子炉 周辺建屋	B-1	格納容器スプレイス機能			
安全注入系	3A, 3B高圧注入ポンプ	原子炉 周辺建屋	B-1	高圧注入機能			
安全注入系	3A, 3B高圧注入ポンプ現場操作箱 (3LB-12, 13)	原子炉 周辺建屋	B-0	高圧注入機能			
安全注入系	3A, 3B高圧注入ポンプ燃料取替用水ピット側入口弁 (3V-SI-002A, B)	原子炉 周辺建屋	B-1	高圧注入機能			
安全注入系	3A, 3B高圧注入ポンプミニマムフローライン第1止め弁 (3V-SI-015A, B)	原子炉 周辺建屋	B-1	高圧注入機能			
安全注入系	3A, 3B高圧注入ポンプミニマムフローライン第2止め弁 (3V-SI-016A, B)	原子炉 周辺建屋	B-1	高圧注入機能			
安全注入系	3A, 3B高圧注入ポンプ格納容器再循環サンプ側入口格納容器隔離弁 (3V-SI-093A, B)	原子炉 周辺建屋	B-1	高圧注入機能			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大飯発電所3 / 4号炉					女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
3号炉防護対象設備機能要求リスト（原子炉格納容器内設置設備除く）(6/9)							【大飯】 記載方針の相違 泊では「別添1添付資料4表1 防護対象設備一覧」に示し、ここでの記載は割愛した。
系統	設備	設置建屋	機能区分 <sup>①</sup>	機能要求			
安全注入系	3A, 3B余熱除去ポンプRWSピット及び再循環サンプ側入口弁 (3V-51-090A, B)	原子炉周辺建屋	B-1	高圧注入機能			
安全注入系	3A高圧注入流量(I), 3B高圧注入流量(II) (3FT-962, 963)	原子炉周辺建屋	B-3	高圧注入機能			
安全注入系	3燃料取替用水ピット水位I, II, III, IV (3LT-1400, 1401, 1402, 1403)	原子炉周辺建屋	B-3 / C-3	高圧注入機能/使用済燃料ピットの冷却機能			
安全注入系、燃料取替用水系	3燃料取替用水ピット	原子炉周辺建屋	B-1 / C-1	高圧注入機能/使用済燃料ピットの冷却機能 (漏水影響評価対象外)			
燃料取替用水系	3A, 3B燃料取替用水ポンプ	原子炉周辺建屋	C-1	使用済燃料ピットの冷却機能			
燃料取替用水系	3A, 3B燃料取替用水ポンプ現場操作箱 (3LB-33, 34)	原子炉周辺建屋	C-3	使用済燃料ピットの冷却機能			
燃料ピット冷却浄化系	3A, 3B使用済燃料ピット冷却器	原子炉周辺建屋	C-1	使用済燃料ピットの冷却機能 (漏水影響評価対象外)			
燃料ピット冷却浄化系	3A, 3B使用済燃料ピット	原子炉周辺建屋	C-1	使用済燃料ピットの冷却機能 (漏水影響評価対象外)			
燃料ピット冷却浄化系	3A, 3B使用済燃料ピットポンプ	原子炉周辺建屋	C-1	使用済燃料ピットの冷却機能			
燃料ピット冷却浄化系	3A, 3B使用済燃料ピットポンプ現場操作箱 (3LB-24, 25)	原子炉周辺建屋	C-3	使用済燃料ピットの冷却機能			
主蒸気系	3A, 3B, 3C, 3D主蒸気逃がし弁 (3PCV-3610, 3620, 3630, 3640)	原子炉周辺建屋	A-1	主蒸気逃がし機能			
主蒸気系	I, II, III, IV, 3A, 3B, 3C, 3D主蒸気圧力 (3PT-465, 466, 467, 468, 475, 476, 477, 478, 485, 486, 487, 488, 495, 496, 497, 498)	原子炉周辺建屋	A-3	主蒸気逃がし機能			
主蒸気系	3A, 3B, 3C, 3D主蒸気隔離弁 (3V-MS-533A, B, C, D)	原子炉周辺建屋	A-1	主蒸気逃がし機能			
主蒸気系	3A, 3B, 3C, 3D主蒸気隔離弁 (3V-MS-533A, B, C, D 付属パネル)	原子炉周辺建屋	A-3	主蒸気逃がし機能			
冷水系	3A, 3B, 3C, 3D空調用冷凍機	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
冷水系	3A, 3B, 3C, 3D空調用冷水ポンプ	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
冷水系	3A, 3B, 3C, 3D空調用冷水ポンプ現場操作箱 (3LB-103, 104, 105, 106)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
冷水系	3空調用冷水Nヘッダ供給、戻りライン止め弁 (3V-CH-032, 033)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大飯発電所3／4号炉					女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
3号炉防護対象設備機能要求リスト（原子炉格納容器内設置設備除く）（7/9）							<p>【大飯】</p> <p><a href="#">記載方針の相違</a></p> <p>泊では「別添1添付資料4表1 防護対象設備一覧」に示し、ここでの記載は割愛した。</p>
系統	設備	設置建屋	機能区分 <sup>※</sup>	機能要求			
冷水系	3A, 3B中央制御室空調ユニット冷水温度制御弁 (3TCV-2878, 2879)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
冷水系	34C, 34D安全補機開閉器室空調ユニット冷水温度制御弁 (34TCV-2800, 2801)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3換気空調盤 (3VB)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B中央制御室空調ファン	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B中央制御室空調ファン現場操作箱 (3LB-101, 102)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B中央制御室空調ファン出口ダンパ (3D-VS-603A, B)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B中央制御室空調ファン出口流量 (3FS-2910, 2911)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3中央制御室温度(1), (2) (3TS-2908, 2909)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B中央制御室循環ファン	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B中央制御室循環ファン現場操作箱 (3LB-95, 96)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B中央制御室循環ファン入口ダンパ (3D-VS-604A, B)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B中央制御室循環流量調節ダンパ (3HD-2885, 2886)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B中央制御室循環ダンパ流量設定 (3HC-2885, 2886)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	34A, 34B安全補機開閉器室空調ファン	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	34C, 34D安全補機開閉器室空調ファン	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	34A, 34B, 34C, 34D安全補機開閉器室空調ファン現場操作箱 (3LB-13, 14, 20, 21)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3安全系電気盤室給気止めダンパA, B (3D-VS-532, 533)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3安全系電気盤室排気止めダンパA (3D-VS-536)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3安全系電気盤室排気止めダンパB (3D-VS-537)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B安全補機開閉器室温度 (3TS-2817, 2818)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B制御用空気圧縮機室給気ファン	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B制御用空気圧縮機室給気ファン現場操作箱 (3LB-90, 91)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3制御用空気圧縮機室排気ダンパA, B (3D-VS-431A, B)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大飯発電所3 / 4号炉					女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
3号炉防護対象設備機能要求リスト（原子炉格納容器内設置設備除く）(8/9)							【大飯】 記載方針の相違 泊では「別添1添付資料4表1 防護対象設備一覧」に示し、ここでの記載は割愛した。
系統	設 備	設置建屋	機能区分*	機能要求			
換気空調系	3制御用空気圧縮機室温度(1),(2),(3),(4) (3TS-2771, 2772, 2773, 2774)	原子炉 周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B電動補助給水ポンプ室給気ファン	原子炉 周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B電動補助給水ポンプ室給気ファン現場操作箱 (3LB-86, 87)	原子炉 周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3電動補助給水ポンプ室排気タンクA, B (3D-VS-411A, B)	原子炉 周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B電動補助給水ポンプ室温度(1),(2) (3TS-2741, 2742, 2743, 2744)	原子炉 周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A1, 3A2, 3B1, 3B2ディーゼル発電機室給気ファン	原子炉 周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A1・A2, 3B1・B2ディーゼル発電機室給気ファン現場操作箱 (3LB-84, 85)	原子炉 周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3ディーゼル発電機室排気タンクA1, A2, B1, B2 (3D-VS-401A, B, 403A, B)	原子炉 周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3Bディーゼル発電機室温度(1),(2),(3),(4) (3TS-2701, 2702, 2703, 2704, 2711, 2712, 2713, 2714)	原子炉 周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B安全補機室冷却ファン	原子炉 周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B安全補機室冷却ファン現場操作箱 (3LB-82, 83)	原子炉 周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B安全補機室温度(1),(2) (3TS-2680, 2681, 2690, 2691)	原子炉 周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B安全補機室排気タンク (3D-VS-105A, B)	原子炉 周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3Bほう酸ポンプ室空調ファン	原子炉 周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3Bほう酸ポンプ室空調ファン現場操作箱 (3LB-77, 78)	原子炉 周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3Bほう酸ポンプ室空調ファン給気加熱コイル	原子炉 周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3Bほう酸ポンプ室温度調節計 (3TC-2601, 2611)	原子炉 周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3ほう酸タンク室温度(1),(2),(3),(4) (3TS-2602, 2603, 2612, 2613)	原子炉 周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B中央制御室非常用循環ファン	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大飯発電所3／4号炉					女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
3号炉防護対象設備機能要求リスト（原子炉格納容器内設置設備除く）（9／9）							【大飯】 記載方針の相違 泊では「別添1添付資料4表1 防護対象設備一覧」に示し、ここで の記載は割愛した。
系統	設備	設置建屋	機能区分*	機能要求			
換気空調系	3A, B中央制御室非常用循環ファン現場操作箱 (3LB-97, 98)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B中央制御室非常用循環ファン入口ダンパ (3D-VS-602A, B)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B中央制御室外気取入流量調節ダンパ (3HC-D-2874, 2875)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B中央制御室事故時外気取入流量調節ダンパ (3HC-D-2889, 2890)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B中央制御室事故時循環流量調節ダンパ (3HC-D-2891, 2892)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B中央制御室非常用循環ファン出口流量 (3FS-2904, 2905)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B中央制御室外気取入調節ダンパ流量設定 (3HC-2874, 2875)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B中央制御室事故時外気取入調節ダンパ流量設定 (3HC-2889, 2890)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3B中央制御室事故時循環ダンパ流量設定 (3HC-2891, 2892)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3Bエアニューラス空気浄化ファン (3VSE9A, B)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3Bエアニューラス空気浄化ファン現場操作箱 (3LB-52, 53)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3Bエアニューラス排気ダンパ (3D-VS-101A, B)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3Bエアニューラス戻りダンパ (3D-VS-104A, B)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3Bエアニューラス全量排気弁 (3V-VS-102A, B)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	3A, 3Bエアニューラス少量排気弁 (3V-VS-103A, B)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大飯発電所3 / 4号炉					女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
4号炉防護対象設備機能要求リスト（原子炉格納容器内設置設備除く）（1/9）							【大飯】 記載方針の相違 泊では「別添1添付資料4表1 防護対象設備一覧」に示し、ここでの記載は割愛した。
系統	設備	設置建屋	機能区分*	機能要求			
補助給水系	4A, 4B電動補助給水ポンプ	原子炉周辺建屋	A-1	補助給水機能			
補助給水系	4タービン動補助給水ポンプ	原子炉周辺建屋	A-1	補助給水機能			
補助給水系	4タービン動補助給水ポンプ起動弁A, B (4V-MS-570A, B)	原子炉周辺建屋	A-1	補助給水機能			
補助給水系	4タービン動補助給水ポンプ起動弁A, B (4TDF-A, B)	原子炉周辺建屋	A-3	補助給水機能			
補助給水系	4A, 4B, 4C, 4D蒸気発生器補助給水流量 (4FT-3716, 3726, 3736, 3746)	原子炉周辺建屋	A-3	補助給水機能			
補助給水系	4復水ビット水位Ⅲ, IV (4LI-3760, 3761)	原子炉周辺建屋	A-3	補助給水機能			
補助給水系	4復水ビット	原子炉周辺建屋	A-1	補助給水機能 (溢水影響評価対象外)			
化学体積制御系	4A, 4B充てんポンプ	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	4C充てんポンプ	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	4C充てんポンプ速度制御調整 (4CSC)	原子炉周辺建屋	A-3	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	4C充てんポンプ速度制御補助盤 (4CSAC)	原子炉周辺建屋	A-3	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	4A, 4B, 4C1, 4C2充てんポンプ現場操作箱 (4LB-5, 6, 7, 8)	原子炉周辺建屋	A-3	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	4充てんポンプ入口燃料取替用水ビット側補給弁A, B (4LCV-121D, E)	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	4A, 4Bほう酸ポンプ	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	4A, 4Bほう酸ポンプ現場操作箱 (4LB-9, 10)	原子炉周辺建屋	A-3	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	4充てんライン止め弁 (4V-CS-155)	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	4体積制御タンク出口第1止め弁 (4LCV-121B)	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	4体積制御タンク出口第2止め弁 (4LCV-121C)	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	4緊急ほう酸注入ライン補給弁 (4V-CS-573)	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	4充てんライン格納容器隔離弁 (4V-CS-157)	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	4-1次冷却材ポンプ封水戻りライン格納容器第2隔離弁 (4V-CS-312)	原子炉周辺建屋	B-1	格納容器隔離機能			
化学体積制御系	4封水冷却器	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能 (溢水影響評価対象外)			
化学体積制御系	4A, 4B封水注入フィルタ	原子炉周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能 (溢水影響評価対象外)			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料4）

大飯発電所3 / 4号炉					女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
4号炉防護対象設備機能要求リスト（原子炉格納容器内設置設備除く）（2/9）							【大飯】 記載方針の相違 泊では「別添1 添付資料4 表1 防護対象設備一覧」に示し、ここでの記載は割愛した。
系統	設備	設置建屋	機能区分*	機能要求			
化学体積制御系	4封水ストレーナ	原子炉 周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能 (溢水影響評価対象外)			
化学体積制御系	4体積制御タンク	原子炉 周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能 (溢水影響評価対象外)			
化学体積制御系	4A, 4Bほう酸タンク水位 (4LT-206, 208)	原子炉 周辺建屋	A-3	ほう酸注入機能			
化学体積制御系	4A, 4Bほう酸タンク	原子炉 周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能 (溢水影響評価対象外)			
化学体積制御系	4ほう酸フィルタ	原子炉 周辺建屋	A-1	ほう酸注入機能 (溢水影響評価対象外)			
余熱除去系	4A, 4B余熱除去ポンプ	原子炉 周辺建屋	A-1	余熱除去機能			
余熱除去系	4A, 4B余熱除去ポンプ現場操作音 (4IB-14, 15)	原子炉 周辺建屋	A-3	余熱除去機能			
余熱除去系	4A, 4B余熱除去ポンプ出口流量 (4ET-60L, 61L)	原子炉 周辺建屋	A-3	余熱除去機能			
余熱除去系	4A, 4B余熱除去ポンプミニマムフローアイン止め弁 (4FCV-60L, 61L)	原子炉 周辺建屋	A-1	余熱除去機能			
余熱除去系	4A, 4B余熱除去冷却器	原子炉 周辺建屋	A-1	余熱除去機能 (溢水影響評価対象外)			
制御用空気系	4A, 4B制御用空気圧縮機制御盤 (4IAC-A, B)	原子炉 周辺建屋	A-3	主蒸気系統のサポート機能			
制御用空気系	4A, 4B制御用空気圧縮機	原子炉 周辺建屋	A-2	主蒸気系統のサポート機能			
制御用空気系	4A, 4B制御用空気乾燥器 (4IAHA, B)	原子炉 周辺建屋	A-2	主蒸気系統のサポート機能 (溢水影響評価対象外)			
制御用空気系	4A, 4B制御用空気ため (4IATIA, B)	原子炉 周辺建屋	A-2	主蒸気系統のサポート機能 (溢水影響評価対象外)			
制御用空気系	4A-C, 4B-C制御用空気母管連絡弁 (4V-1A-501A, B)	原子炉 周辺建屋	A-1	主蒸気系統のサポート機能			
制御用空気系	4A, 4B制御用空気主蒸気逃がし弁等供給ライン止め弁 (4V-1A-505A, B)	原子炉 周辺建屋	A-1	主蒸気系統のサポート機能			
制御用空気系	4A, 4B 制御用空気格納容器隔離弁 (4V-1A-508A, B)	原子炉 周辺建屋	B-1	格納容器隔離機能			
制御用空気系	4A, 4B制御用空気供給母管圧力 (4PT-1800, 1810)	原子炉 周辺建屋	A-3	主蒸気系統のサポート機能			
原子炉補機冷却系	4A, 4B余熱除去冷却器冷却水止め弁 (4V-CC-114A, B)	原子炉 周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
原子炉補機冷却系	4原子炉補機冷却水サージタンク水位Ⅲ, IV (4LT-1200, 1201)	原子炉 周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
原子炉補機冷却系	4原子炉補機冷却水サージタンク	原子炉 周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能 (溢水影響評価対象外)			
原子炉補機冷却系	4A, 4B原子炉補機冷却水冷却器	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能 (溢水影響評価対象外)			



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大飯発電所3 / 4号炉					女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
4号炉防護対象設備機能要求リスト（原子炉格納容器内設置設備除く）(3/9)							【大飯】 記載方針の相違 泊では「別添1添付資料4表1防護対象設備一覧」に示し、ここでの記載は割愛した。
系統	設備	設置建屋	機能区分 <sup>※</sup>	機能要求			
原子炉補機冷却系	4A, 4B, 4C, 4D原子炉補機冷却水ポンプ	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
原子炉補機冷却系	4A, 4B, 4C, 4D原子炉補機冷却水ポンプ現場操作箱 (41B-20, 21, 22, 23)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
原子炉補機冷却系	4A・C, 4B・C原子炉補機冷却水戻り母管連絡弁 (4V-CC-043A, B)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
原子炉補機冷却系	4A・C, 4B・C原子炉補機冷却水供給母管連絡弁 (4V-CC-056A, B)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
原子炉補機冷却系	4廃棄物処理建屋冷却水供給ライン第1, 2止め弁 (4号機側) (4V-CC-605, 606)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
原子炉補機冷却系	4A, 4B格納容器スプレイ冷却器冷却水止め弁 (4V-CC-178A, B)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
原子炉補機冷却系	4-1次冷却器ポンプ/冷却水供給ライン格納容器隔離弁 (4V-CC-403)	原子炉周辺建屋	B-1	格納容器隔離機能			
原子炉補機冷却系	4-1次冷却器ポンプ冷却水戻りライン格納容器第2隔離弁 (4V-CC-429)	原子炉周辺建屋	B-1	格納容器隔離機能			
原子炉補機冷却系	4 CRDM冷却ユニット・余剰抽出冷却器冷却水供給ラインCV隔離弁 (4V-CC-342)	原子炉周辺建屋	B-1	格納容器隔離機能			
原子炉補機冷却系	4 CRDM冷却ユニット・余剰抽出冷却器冷却水戻りラインCV隔離弁 (4V-CC-365)	原子炉周辺建屋	B-1	格納容器隔離機能			
原子炉補機冷却系	4A・D, 4B・C 格納容器再循環ユニット冷却水供給ライン格納容器隔離弁 (4V-CC-189A, B)	原子炉周辺建屋	B-1	格納容器隔離機能			
原子炉補機冷却系	4A, 4B, 4C, 4D 格納容器再循環ユニット冷却水戻りライン格納容器隔離弁 (4V-CC-188A, B, C, D)	原子炉周辺建屋	B-1	格納容器隔離機能			
原子炉補機冷却系	4A, 4B原子炉補機冷却水冷却器海水止め弁 (4V-SW-570A, B)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
原子炉補機冷却系	4海水ポンプ出口4A, 4B, 4C, 4D海水ストレーナ (4S-SW-01A, B, C, D)	海水ポンプエリア	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能 (溢水影響評価対象外)			
原子炉補機冷却系	4A, 4B, 4C海水ポンプ	海水ポンプエリア	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
原子炉補機冷却系	4A, 4B1, 4B2, 4C海水ポンプ現場操作箱 (41B-26, 27, 28, 29)	海水ポンプエリア	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	4主盤 (原子炉盤) (4MCB)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大飯発電所3 / 4号炉					女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
4号炉防護対象設備機能要求リスト（原子炉格納容器内設置設備除く）（4/9）							【大飯】 記載方針の相違 泊では「別添1添付資料4表1 防護対象設備一覧」に示し、ここでの記載は割愛した。
系統	設備	設置建屋	機能区分*	機能要求			
電気盤	4原子炉補助盤 (4RAB)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	4原子炉安全保護計装盤 I, II, III, IV (4RPR-I, II, III, IV)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	4A, 4B, 4C, 4D原子炉安全保護ロジック盤 (4RPL-A, B, C, D)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	4安全保護シーケンス盤 AG1, AG2, BG1, BG2 (4SPS-A1, A2, B1, B2)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	4所内盤 (4HSB)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	事故時放射線監視盤 4RMS (4PRMS-III, IV)	制御建屋	B-3	事故時のプラント状態の把握機能			
電気盤	4原子炉トリップ遮断器盤 (4RTS)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	4A1, 4A2, 4A3, 4A4, 4B1, 4B2, 4B3, 4B4フレイド分電盤 (4SD-A1, A2, A3, A4, B1, B2, B3, B4)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	4A, 4Bドロップ盤 (4BCP-A-DRP, 4BCP-B-DRP)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	4A, 4B直流分電盤 (4DMP-A, B)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	4A, 4B直流分電盤 (4DDP-A, B)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	4A, 4B蓄電池	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	4A, 4B充電器盤 (4DCP-A, B)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	4A1, 4A2, 4B1, 4B2メタルクランプスイッチギア (4MC-A1, A2, B1, B2)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	4A1, 4A2, 4B1, 4B2パワーセンタ (4PC-A1, A2, B1, B2)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	4A1, 4A2, 4B1, 4B2原子炉コントロールセンタ (4RCC-A1, A2, B1, B2)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	4A, 4B, 4C, 4D計装用電源盤 (1)~(3) (4IBC-A, B, C, D)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	4A1, 4A2, 4B1, 4B2, 4C1, 4C2, 4D1, 4D2計装用分電盤 (4IPD-A1, A2, B1, B2, C1, C2, D1, D2)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	4A, 4B, 4C, 4D計装用交流電源切替盤 (4ISP-A, B, C, D)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
電気盤	4AC, 4BD計装用後備分電盤 (4IBD-AC, BD)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
非常用電源系	4A, 4Bディーゼル発電機コントロールセンタ (4GCC-A, B)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大飯発電所3／4号炉					女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
4号炉防護対象設備機能要求リスト（原子炉格納容器内設置設備除く）（5／9）							【大飯】 記載方針の相違 泊では「別添1添付資料4表1 防護対象設備一覧」に示し、ここでの記載は割愛した。
系統	設備	設置建屋	機能区分*	機能要求			
非常用電源系	4A, 4Bディーゼル機関	原子炉 周辺建屋	A-2	フランク停止に必要な 系統設備のサポート機能			
非常用電源系	4A, 4Bディーゼル発電機	原子炉 周辺建屋	A-2	フランク停止に必要な 系統設備のサポート機能			
非常用電源系	4A, 4Bディーゼル発電機制御盤 (4DG-C-A, B)	原子炉 周辺建屋	A-3	フランク停止に必要な 系統設備のサポート機能			
格納容器スプレイ系	4A, 4B格納容器スプレイ冷却器	原子炉 周辺建屋	B-1	格納容器スプレイ機能 (溢水影響評価対象外)			
格納容器スプレイ系	4よう素除去薬品タンク	原子炉 周辺建屋	B-1	格納容器スプレイ機能 (溢水影響評価対象外)			
格納容器スプレイ系	4格納容器圧力 (広域) I, II, III, IV (4PT-950, 951, 952, 953)	原子炉 周辺建屋	B-3	格納容器スプレイ機能			
格納容器スプレイ系	4A, 4B格納容器スプレイポンプ	原子炉 周辺建屋	B-1	格納容器スプレイ機能			
格納容器スプレイ系	4A, 4B格納容器スプレイポンプ現場操作箱 (4LB-18, 19)	原子炉 周辺建屋	B-3	格納容器スプレイ機能			
格納容器スプレイ系	4A, 4B格納容器スプレイポンプ燃料取替用水ビット側入口止め弁 (4V-CP-001A, B)	原子炉 周辺建屋	B-1	格納容器スプレイ機能			
格納容器スプレイ系	4A, 4B格納容器スプレイポンプ再循環サンプ側入口格納容器隔離弁 (4V-CP-003A, B)	原子炉 周辺建屋	B-1	格納容器スプレイ機能			
格納容器スプレイ系	4A, 4B格納容器スプレイヘッド冷却器出口格納容器隔離弁 (4V-CP-024A, B)	原子炉 周辺建屋	B-1	格納容器スプレイ機能			
格納容器スプレイ系	4A, 4Bよう素除去薬品注入ライン第1止め弁 (4V-CP-054A, B)	原子炉 周辺建屋	B-1	格納容器スプレイ機能			
格納容器スプレイ系	4A, 4Bよう素除去薬品注入ライン第2止め弁 (4V-CP-056A, B)	原子炉 周辺建屋	B-1	格納容器スプレイ機能			
安全注入系	4A, 4B高圧注入ポンプ	原子炉 周辺建屋	B-1	高圧注入機能			
安全注入系	4A, 4B高圧注入ポンプ現場操作箱 (4LB-12, 13)	原子炉 周辺建屋	B-3	高圧注入機能			
安全注入系	4A, 4B高圧注入ポンプ燃料取替用水ビット側入口弁 (4V-SI-002A, B)	原子炉 周辺建屋	B-1	高圧注入機能			
安全注入系	4A, 4B高圧注入ポンプミニマムフローライン第1止め弁 (4V-SI-015A, B)	原子炉 周辺建屋	B-1	高圧注入機能			
安全注入系	4A, 4B高圧注入ポンプミニマムフローライン第2止め弁 (4V-SI-016A, B)	原子炉 周辺建屋	B-1	高圧注入機能			
安全注入系	4A, 4B高圧注入ポンプ格納容器再循環サンプ側入口格納容器隔離弁 (4V-SI-093A, B)	原子炉 周辺建屋	B-1	高圧注入機能			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大飯発電所3 / 4号炉					女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
4号炉防護対象設備機能要求リスト（原子炉格納容器内設置設備除く）(6/9)							【大飯】 記載方針の相違 泊では「別添1添付資料4表1 防護対象設備一覧」に示し、ここでの記載は割愛した。
系統	設備	設置建屋	機能区分*	機能要求			
安全注入系	4A, 4B余熱除去ポンプRWSピット及び再循環サンプ側入口弁 (4V-S1-098A, B)	原子炉周辺建屋	B-1	高圧注入機能			
安全注入系	4A高圧注入流量(I), 4B高圧注入流量(II) (4LT-962, 963)	原子炉周辺建屋	B-3	高圧注入機能			
安全注入系	4燃料取替用水ピット水位I, II, III, IV (4LT-1400, 1401, 1402, 1403)	原子炉周辺建屋	B-3 / C-3	高圧注入機能/SFPの冷却機能			
安全注入系、燃料取替用水系	4燃料取替用水ピット	原子炉周辺建屋	B-1 / C-1	高圧注入機能/使用済燃料ピットの冷却機能 (溢水影響評価対象外)			
燃料取替用水系	4A, 4B燃料取替用水ポンプ	原子炉周辺建屋	C-1	使用済燃料ピットの冷却機能			
燃料取替用水系	4A, 4B燃料取替用水ポンプ現場操作箱 (4LB-33, 34)	原子炉周辺建屋	C-3	使用済燃料ピットの冷却機能			
燃料ピット冷却浄化系	4A, 4B使用済燃料ピット冷却器	原子炉周辺建屋	C-1	使用済燃料ピットの冷却機能 (溢水影響評価対象外)			
燃料ピット冷却浄化系	4A, 4B使用済燃料ピット	原子炉周辺建屋	C-1	使用済燃料ピットの冷却機能 (溢水影響評価対象外)			
燃料ピット冷却浄化系	4A, 4B使用済燃料ピットポンプ	原子炉周辺建屋	C-1	SFPの冷却機能			
燃料ピット冷却浄化系	4A, 4B使用済燃料ピットポンプ現場操作箱 (4LB-24, 25)	原子炉周辺建屋	C-3	SFPの冷却機能			
主蒸気系	4A, 4B, 4C, 4D主蒸気逃がし弁 (4PCV-3610, 3620, 3630, 3640)	原子炉周辺建屋	A-1	主蒸気逃がし機能			
主蒸気系	I, II, III, IV, 4A, 4B, 4C, 4D主蒸気圧力 (4PT-465, 466, 467, 468, 475, 476, 477, 478, 485, 486, 487, 488, 495, 496, 497, 498)	原子炉周辺建屋	A-3	主蒸気逃がし機能			
主蒸気系	4A, 4B, 4C, 4D主蒸気隔離弁 (4V-MS-533A, B, C, D)	原子炉周辺建屋	A-1	主蒸気逃がし機能			
主蒸気系	4A, 4B, 4C, 4D主蒸気隔離弁 (4V-MS-533A, B, C, D 付属パネル)	原子炉周辺建屋	A-3	主蒸気逃がし機能			
冷水系	4A, 4B, 4C, 4D空調用冷凍機	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
冷水系	4A, 4B, 4C, 4D空調用冷水ポンプ	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
冷水系	4A, 4B, 4C, 4D空調用冷水ポンプ現場操作箱 (4LB-103, 104, 105, 106)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
冷水系	4空調用冷水Nヘッダ供給、戻りライン止め弁 (4V-CH-032, 033)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大飯発電所3／4号炉					女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
4号炉防護対象設備機能要求リスト（原子炉格納容器内設置設備除く）（7/9）							【大飯】 記載方針の相違 泊では「別添1添付資料4表1 防護対象設備一覧」に示し、ここでの記載は割愛した。
系統	設備	設置建屋	機能区分 <sup>※</sup>	機能要求			
冷水系	4A, 4B中央制御室空調ユニット冷水温度制御弁 (4TCY-2878, 2879)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
冷水系	34A, 34B安全補機開閉器室空調ユニット冷水温度制御弁 (34TCY-2798, 2799)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4換気空調盤 (4VB)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B中央制御室空調ファン	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B中央制御室空調ファン現場操作箱 (4LB-101, 102)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B中央制御室空調ファン出口ダンパ (4D-VS-603A, B)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B中央制御室空調ファン出口流量 (4FS-2910, 2911)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4中央制御室温度(1), (2) (4TS-2908, 2909)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B中央制御室循環ファン	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B中央制御室循環ファン現場操作箱 (4LB-95, 96)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B中央制御室循環ファン入口ダンパ (4D-VS-604A, B)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B中央制御室循環流量調節ダンパ (4HCD-2885, 2886)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B中央制御室循環ダンパ流量設定 (4HC-2885, 2886)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	34A, 34B安全補機開閉器室空調ファン	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	34C, 34D安全補機開閉器室空調ファン	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	34A, 34B, 34C, 34D安全補機開閉器室空調ファン現場操作箱 (34LB-13, 14, 20, 21)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4安全系電気盤室給気止めダンパA, B (4D-VS-532, 533)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4安全系電気盤室排気止めダンパA (4D-VS-536)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4安全系電気盤室排気止めダンパB (4D-VS-537)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B安全補機開閉器室温度 (4TS-2817, 2818)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B制御用空気圧縮機室給気ファン	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B制御用空気圧縮機室給気ファン現場操作箱 (4LB-90, 91)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4制御用空気圧縮機室排気ダンパA, B (4D-VS-431A, B)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大飯発電所3／4号炉					女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
4号炉防護対象設備機能要求リスト（原子炉格納容器内設置設備除く）(8/9)							【大飯】 記載方針の相違 泊では「別添1添付資料4表1防護対象設備一覧」に示し、ここでの記載は割愛した。
系統	設備	設置建屋	機能区分*	機能要求			
換気空調系	4制御用空気圧縮機室温度(1),(2),(3),(4) (4TS-2771,2772,2773,2774)	原子炉周辺建屋	A-0	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A,4B電動補助給水ポンプ室給気ファン	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A,4B電動補助給水ポンプ室給気ファン現場操作箱(4LB-86,87)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4電動補助給水ポンプ室排気ダンパA,B (4D-VS-411A,B)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A,4B電動補助給水ポンプ室温度(1),(2) (4TS-2741,2742,2743,2744)	原子炉周辺建屋	A-0	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A1,4A2,4B1,4B2ディーゼル発電機室給気ファン	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A1・A2,4B1・B2ディーゼル発電機室給気ファン現場操作箱(4LB-84,85)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4ディーゼル発電機室排気ダンパA1,A2,B1,B2 (4D-VS-401A,B,403A,B)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A,4Bディーゼル発電機室温度(1),(2),(3),(4) (4TS-2701,2702,2703,2704,2711,2712,2713,2714)	原子炉周辺建屋	A-0	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A,4B安全補機室冷却ファン	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A,4B安全補機室冷却ファン現場操作箱(4LB-82,83)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A,4B安全補機室温度(1),(2) (4TS-2680,2681,2690,2691)	原子炉周辺建屋	A-0	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A,4B安全補機室排気ダンパ(4D-VS-105A,B)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A,4Bほう酸ポンプ室空調ファン	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A,4Bほう酸ポンプ室空調ファン現場操作箱(4LB-77,78)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A,4Bほう酸ポンプ室空調ファン給気加熱コイル	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A,4Bほう酸ポンプ室温度調節計(4TC-2601,2611)	原子炉周辺建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4ほう酸タンク室温度(1),(2),(3),(4) (4TS-2602,2603,2612,2613)	原子炉周辺建屋	A-0	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A,4B中央制御室非常用循環ファン	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料4）

大飯発電所3 / 4号炉					女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
4号炉防護対象設備機能要求リスト（原子炉格納容器内設置設備除く）（9/9）							【大飯】 記載方針の相違 泊では「別添1添付資料4表1 防護対象設備一覧」に示し、ここでの記載は割愛した。
系統	設備	設置建屋	機能区分*	機能要求			
換気空調系	4A, 4B中央制御室非常用循環ファン現場操作箱 (4I-B-97, 98)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B中央制御室非常用循環ファン入口ダンパ (4I-VS-602A, B)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B中央制御室外気取入流量調節ダンパ (4HCD-2874, 2875)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B中央制御室事故時外気取入流量調節ダンパ (4HCD-2889, 2890)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B中央制御室事故時循環流量調節ダンパ (4HCD-2891, 2892)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B中央制御室非常用循環ファン出口流量 (4FS-2004, 2005)	制御建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B中央制御室外気取入調節ダンパ流量設定 (4HC-2874, 2875)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B中央制御室事故時外気取入調節ダンパ流量設定 (4HC-2889, 2890)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4B中央制御室事故時循環ダンパ流量設定 (4HC-2891, 2892)	制御建屋	A-3	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4Bアニュラス空気浄化ファン (4VSF9A, B)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4Bアニュラス空気浄化ファン現場操作箱 (4I-B-52, 53)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4Bアニュラス排気ダンパ (4D-VS-101A, B)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4Bアニュラス戻りダンパ (4D-VS-104A, B)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4Bアニュラス全量排気弁 (4V-VS-102A, B)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			
換気空調系	4A, 4Bアニュラス少量排気弁 (4V-VS-103A, B)	原子炉周辺建屋	A-2	プラント停止に必要な系統設備のサポート機能			



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

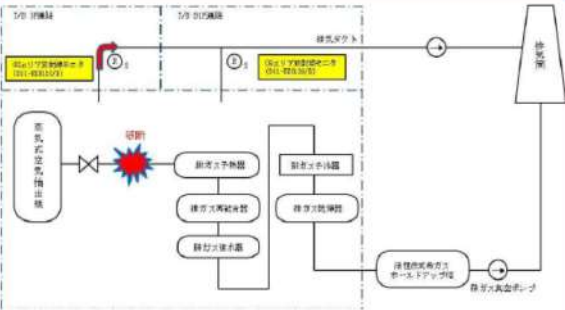
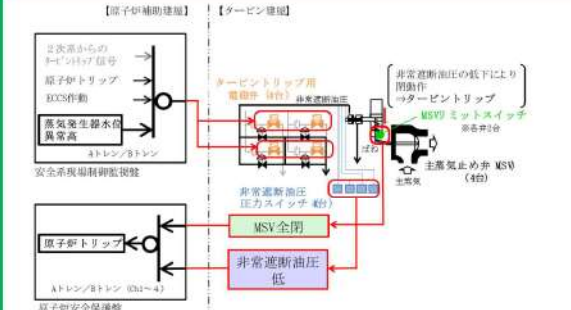
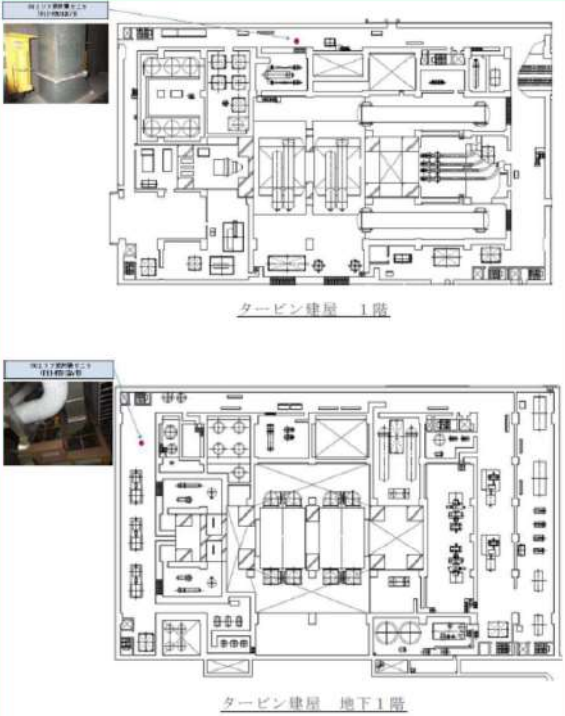
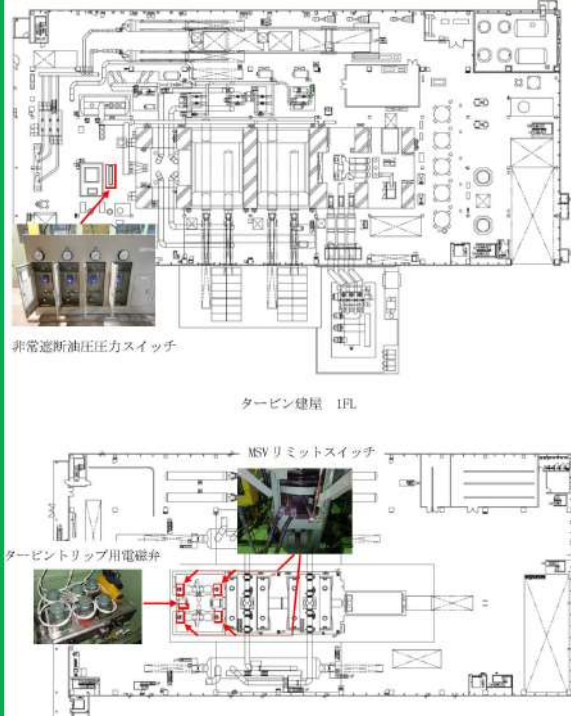
大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p style="text-align: right;">補足説明資料 37</p> <p>気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタの内部溢水に対する防護について</p> <p>女川原子力発電所2号炉における、気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタを対象とした内部溢水に対する防護について以下に示す。</p> <p>1. 溢水防護の方針</p> <p>気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタの内部溢水に対する防護においては、「原子力発電所の内部溢水影響評価ガイド」（以下「ガイド」という。）に従い、「内部溢水に対して、重要度の特に高い安全機能を有する系統が、その安全機能を失わないこと（多重性又は多様性を有する系統が同時にその機能を失わないこと）」を実現する。ここで、気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタが有する安全機能とは、気体廃棄物処理系の破断事故を検知するための「緊急時対策上重要なもの及び異常状態の把握機能」のことをいう。</p> <p>2. 気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタの設備概要</p> <p>気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタは、気体廃棄物処理系設備エリア内（空気抽出器から活性炭式希ガスホールドアップ塔までの室）の機器からの漏えいを検出するため、気体廃棄物処理系設備エリアの雰囲気放射線レベルを監視することを目的として設置されたものである。</p> <p>同モニタはタービン建屋内の二箇所を設置されており、各設置箇所において2チャンネルを有する構成とされている。また、検出器には半導体検出器が用いられている。</p>	<p style="text-align: right;">補足説明資料 5</p> <p>タービントリップ機能を有する MS-3 設備の内部溢水に対する防護について</p> <p>泊発電所3号炉における、タービントリップ機能を有する MS-3 設備を対象とした内部溢水に対する防護について以下に示す。</p> <p>1. 溢水防護の方針</p> <p>タービントリップ機能を有する MS-3 設備の内部溢水に対する防護においては、設置許可基準規則の要求事項を踏まえ、「溢水が発生した場合でも、原子炉を高温停止でき、引き続き低温停止、及び放射性物質の閉じ込め機能を維持できること、停止状態にある場合は、引き続きその状態を維持できること」を確認する。ここで、タービントリップ機能を有する MS-3 設備の安全機能とは、運転時の異常な過渡変化があっても、タービンをトリップさせ、MS-1、MS-2 とあいまって事象を緩和する機能のことをいう。</p> <p>2. タービントリップ機能を有する MS-3 設備概要</p> <p>タービントリップ機能を有する MS-3 設備は、タービン保安装置及び主蒸気止め弁（閉機能）である。タービントリップ機能は、「発電用軽水型原子炉施設の安全評価に関する審査指針」の運転時の異常な過渡変化事象における「蒸気発生器への過剰給水」事象で影響緩和のための安全機能として期待している。この事象は、原子炉の出力運転中に蒸気発生器1基に主給水制御弁全開容量で給水され、蒸気発生器水位異常高によるタービントリップ、タービントリップによる原子炉トリップという事象進展となる。具体的には、「蒸気発生器水位異常高」信号が発信されると、タービン保安装置内のタービントリップ用電磁弁を作動させて、タービン油系の圧力を開放することにより、主蒸気止め弁（以下「MSV」という）を閉止することによりタービントリップとなる。タービントリップは、MSV リミットスイッチによる全開か、タービン保安装置内の非常遮断油圧圧力スイッチ</p>	<p>【女川】 記載表現の相違</p> <p>【女川】 設備名称の相違</p> <p>【女川】 設備名称の相違</p> <p>【女川】 設計方針の相違 女川では、ガイドに従い設備そのものを防護する方針としているが、泊では、設置許可基準規則の要求事項を踏まえ、対象設備の安全機能が必要かどうかの判断をしている。</p> <p>【女川】 記載方針の相違 安全機能の相違</p> <p>【女川】 設備名称の相違</p> <p>【女川】 記載方針の相違 設備の相違</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタの設備概要及び設置箇所をそれぞれ図1及び図2に示す。また、設置位置（没水に対する機能喪失高さ）及び耐環境仕様の一覧を表1に示す。</p>	<p>による油圧低で検出される。このどちらかが検出されることで原子炉トリップ信号を発信し、原子炉トリップ遮断器を開放することになる。</p> <p>タービントリップ用電磁弁への信号は二重化された設計となっており、タービントリップ用電磁弁及び非常遮断油圧圧カスイッチも多重化された設計となっている。また、蒸気発生器水位異常高によるタービントリップ信号のロジック回路は定期事業者検査ごとに確認され、タービン保安装置によるタービントリップ用電磁弁動作までのロジック回路は通常運転中に毎月1回確認されている。更に、これらへの供給電源は非常用所内電源から給電されている。また、タービントリップ用電磁弁動作によるMSV閉止動作も定期事業者検査ごとに確認されていること、MSVが全閉（1弁ずつ）することを毎月1回確認されていることから、タービントリップ用電磁弁、MSVリミットスイッチ及び非常遮断油圧圧カスイッチは、十分な信頼性があるMS-3としている。</p> <p>なお、「蒸気発生器への過剰給水」事象以外の運転時の異常な過渡変化及び設計基準事故においても原子炉トリップによるタービントリップを考慮している事象があるが、これは原子炉トリップ後の炉心の過冷却による正の反応度添加を防止するためであり、安全評価上、MS-1、MS-2とあいまって、事象を緩和する機能としての要求はない。</p> <p>タービントリップ機能を有するMS-3設備（タービントリップ用電磁弁、MSVリミットスイッチ及び非常遮断油圧圧カスイッチ）の設備概要及び設置箇所をそれぞれ図1及び図2に示す。</p>	<p>【女川】  <u>設備名称の相違</u>                  【女川】  <u>記載方針の相違</u>                  泊では、対象設備の防護ではなく、対象設備の安全機能が必要かを判断するため、設置位置、耐環境仕様の一覧は不要。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>図1 気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタ設備概要図</p>	 <p>図1 タービントリップ機能を有するMS-3設備の概要図</p>	<p>【女川】 設備名称の相違</p>
 <p>タービン建屋 1階</p> <p>タービン建屋 地下1階</p> <p>図2 気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタ設置箇所</p>		 <p>非常遮断油圧圧力スイッチ</p> <p>タービン建屋 1FL</p> <p>MSVリミットスイッチ</p> <p>タービントリップ用電磁弁</p> <p>タービン建屋 2FL</p> <p>図2 タービントリップ機能を有するMS-3設備の配置場所</p>	<p>【女川】 設備名称の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																											
	<p>表1 気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタ設置位置及び耐環境仕様</p> <table border="1" data-bbox="696 240 1279 1390"> <thead> <tr> <th rowspan="2">系統</th> <th rowspan="2">設備</th> <th colspan="2">設置位置</th> <th rowspan="2">耐環境仕様 仕様温度範囲〔℃〕/ 使用湿度範囲〔%RH〕</th> </tr> <tr> <th>設置建屋</th> <th>設置高さ〔m〕</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プロセス放射線 モニタ系</td> <td>気体廃棄物処理設備エリア 排気放射線モニタ (A) (D11 - RE012A)</td> <td>T-B1F-1</td> <td>3.0以上</td> <td>0～60℃ / 10～95%RH</td> </tr> <tr> <td>プロセス放射線 モニタ系</td> <td>気体廃棄物処理設備エリア 排気放射線モニタ (B) (D11 - RE012B)</td> <td>T-B1F-1</td> <td>3.0以上</td> <td>0～60℃ / 10～95%RH</td> </tr> <tr> <td>プロセス放射線 モニタ系</td> <td>気体廃棄物処理設備エリア 排気放射線モニタ (C) (D11 - RE012C)</td> <td>T-1F-1</td> <td>3.0以上</td> <td>0～60℃ / 10～95%RH</td> </tr> <tr> <td>プロセス放射線 モニタ系</td> <td>気体廃棄物処理設備エリア 排気放射線モニタ (D) (D11 - RE012D)</td> <td>T-1F-1</td> <td>3.0以上</td> <td>0～60℃ / 10～95%RH</td> </tr> </tbody> </table>	系統	設備	設置位置		耐環境仕様 仕様温度範囲〔℃〕/ 使用湿度範囲〔%RH〕	設置建屋	設置高さ〔m〕	プロセス放射線 モニタ系	気体廃棄物処理設備エリア 排気放射線モニタ (A) (D11 - RE012A)	T-B1F-1	3.0以上	0～60℃ / 10～95%RH	プロセス放射線 モニタ系	気体廃棄物処理設備エリア 排気放射線モニタ (B) (D11 - RE012B)	T-B1F-1	3.0以上	0～60℃ / 10～95%RH	プロセス放射線 モニタ系	気体廃棄物処理設備エリア 排気放射線モニタ (C) (D11 - RE012C)	T-1F-1	3.0以上	0～60℃ / 10～95%RH	プロセス放射線 モニタ系	気体廃棄物処理設備エリア 排気放射線モニタ (D) (D11 - RE012D)	T-1F-1	3.0以上	0～60℃ / 10～95%RH		<p>【女川】  <a href="#">記載方針の相違</a>                      泊では、対象設備の防護ではなく、対象設備の安全機能が必要かを判断するため、設置位置、耐環境仕様の一覧は不要。</p>
系統	設備			設置位置			耐環境仕様 仕様温度範囲〔℃〕/ 使用湿度範囲〔%RH〕																							
		設置建屋	設置高さ〔m〕																											
プロセス放射線 モニタ系	気体廃棄物処理設備エリア 排気放射線モニタ (A) (D11 - RE012A)	T-B1F-1	3.0以上	0～60℃ / 10～95%RH																										
プロセス放射線 モニタ系	気体廃棄物処理設備エリア 排気放射線モニタ (B) (D11 - RE012B)	T-B1F-1	3.0以上	0～60℃ / 10～95%RH																										
プロセス放射線 モニタ系	気体廃棄物処理設備エリア 排気放射線モニタ (C) (D11 - RE012C)	T-1F-1	3.0以上	0～60℃ / 10～95%RH																										
プロセス放射線 モニタ系	気体廃棄物処理設備エリア 排気放射線モニタ (D) (D11 - RE012D)	T-1F-1	3.0以上	0～60℃ / 10～95%RH																										

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由								
	<p>3. 想定する溢水の発生要因</p> <p>気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタはタービン建屋内における気体廃棄物処理系設備の破損を検出することにより、気体廃棄物処理系の内包流体の漏えいを速やかに隔離し、環境への放射性物質の放出を防止する機能を担うものである。</p> <p>一方、当該モニタが設置されるタービン建屋は、気体廃棄物処理系を含む建屋内の主要設備が耐震重要度Bクラスに分類・設計されており、基準地震動が生じるような地震発生時における環境への放射性物質の放出防止機能としては、気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタではなく、主蒸気隔離弁が担うことになる。</p> <p>以上の放出防止機能の分担の考え方を踏まえ、気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタの「溢水による損傷の防止」においては、ガイドで示されている溢水の発生要因のうち「想定破損による溢水」及び「消火水による溢水」を想定するものとする。</p> <p>想定する溢水の発生要因の想定確認結果を表2に示す。</p> <p style="text-align: center;">表2 想定する溢水の発生要因</p> <table border="1" data-bbox="696 758 1272 909"> <thead> <tr> <th>溢水の発生要因</th> <th>想定要否</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>想定破損による溢水</td> <td>想定する</td> </tr> <tr> <td>消火水による溢水</td> <td>想定する</td> </tr> <tr> <td>地震に起因する溢水</td> <td>想定しない (他の設備(主蒸気隔離弁)により放射性物質放出防止機能を代替する)</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. 溢水影響評価</p> <p>4.1 蒸気による影響評価及び対策</p> <p>4.1.1 影響評価</p> <p>気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタは気体廃棄物処理系設備の破損時に発生する蒸気に含まれる放射性物質を検出できるように設計されている。ここでは、他の系統の単一機器の破損による蒸気の発生を想定した際の、気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタの機能に与える影響について評価する。</p> <p>(i) 蒸気源</p> <p>気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタへの影響を評価すべき蒸気源としては、タービン建屋にある、機器破損時に蒸気の発生を伴う高エネルギー系統を対象とする。ただし、蒸気発生後の事象進展として、直接的に設置許可申請書添付資料十(添十)に記載の解析(気体廃棄物処理系破断を除く)で考慮</p>	溢水の発生要因	想定要否	想定破損による溢水	想定する	消火水による溢水	想定する	地震に起因する溢水	想定しない (他の設備(主蒸気隔離弁)により放射性物質放出防止機能を代替する)	<p>3. 溢水の発生に伴う運転時の異常な過渡変件事象の発生時の考察</p> <p>タービントリップ機能が期待される「蒸気発生器への過剰給水」事象については、原子炉の出力運転中に、給水制御系の故障、誤操作等により、主給水制御弁が1個全開し、蒸気発生器への給水が過剰となり、1次冷却材の温度が低下して反応度が添加され、原子炉出力が上昇する事象を想定している。</p> <p>主給水制御弁は原子炉建屋内の主蒸気管室に設置されており、タービン建屋内で溢水が発生した場合においても物理的に隔離されているため、主給水制御弁の全開は起こらない。</p>	<p>【女川】</p> <p><a href="#">記載方針の相違</a></p> <p>泊では、対象設備の安全機能が必要かを判断する。(泊3設置許可添付書類十の「蒸気発生器への過剰給水」の原因、防止対策、拡大防止対策より抜粋)</p> <p>【女川】</p> <p><a href="#">記載方針の相違</a></p> <p>女川では、設備そのものを防護する方針であるため、泊では記載不要。</p>
溢水の発生要因	想定要否										
想定破損による溢水	想定する										
消火水による溢水	想定する										
地震に起因する溢水	想定しない (他の設備(主蒸気隔離弁)により放射性物質放出防止機能を代替する)										



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																								
	<p>される事象に至る場合においては、原子炉停止につながることであり、その後、主蒸気隔離弁の閉止により気体廃棄物処理系を含めタービン建屋への蒸気の流入が停止することで、気体廃棄物処理系からの放射性物質放出の想定が不要となる。したがって、気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタの担う放射性物質の放出防止機能は、主蒸気隔離弁によって代替されることとなる。このため、機器の破損による蒸気発生後の事象進展として、これに該当しない系統を蒸気源として抽出する。</p> <p>以上により抽出された、気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタへの影響を評価すべき蒸気源を表3に示す。また、抽出された蒸気源における内部流体の状態を表4に整理する。</p> <p>なお、表3にて抽出された加熱蒸気及び復水戻り系以外の系統における小規模な蒸気発生の際には原子炉停止に至らないケースも想定されるが、このような場合における蒸気影響は軽微であり、加熱蒸気及び復水戻り系における蒸気発生の影響に包含されるものとする。</p> <p>表3 気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタへの影響を評価すべき蒸気源</p> <table border="1" data-bbox="698 826 1281 1353"> <thead> <tr> <th>系統</th> <th colspan="2">蒸気発生後の添付記載の事象への進展有無/事象例</th> <th>評価要否</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>主蒸気系 (MS)</td> <td>有り</td> <td>主蒸気管破断</td> <td>否<sup>※1</sup></td> </tr> <tr> <td>復水及び給水系 (C/FDW)</td> <td>有り</td> <td>給水流量の全喪失</td> <td>否<sup>※1</sup></td> </tr> <tr> <td>給水加熱器ドレン系 (HD)</td> <td>有り</td> <td>給水加熱喪失</td> <td>否<sup>※1</sup></td> </tr> <tr> <td>給水加熱器ベント系 (HV)</td> <td>有り</td> <td>給水加熱喪失</td> <td>否<sup>※1</sup></td> </tr> <tr> <td>タービンランド蒸気系 (TGS)</td> <td>有り</td> <td>主復水器の真空度低下</td> <td>否<sup>※1</sup></td> </tr> <tr> <td>抽気系 (ES)</td> <td>有り</td> <td>給水加熱喪失</td> <td>否<sup>※1</sup></td> </tr> <tr> <td>タービン補助蒸気系 (AS)</td> <td>有り</td> <td>給水加熱喪失</td> <td>否<sup>※1</sup></td> </tr> <tr> <td>加熱蒸気系 (HS)</td> <td>無し</td> <td>系統破断によるプラントへの直接的な影響はなし</td> <td>要</td> </tr> <tr> <td>復水戻り系 (HSCR)</td> <td>無し</td> <td>系統破断によるプラントへの直接的な影響はなし</td> <td>要</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 当該系統における小規模な蒸気発生による影響は HS/HSCR における蒸気発生の影響に包含される</p>	系統	蒸気発生後の添付記載の事象への進展有無/事象例		評価要否	主蒸気系 (MS)	有り	主蒸気管破断	否 <sup>※1</sup>	復水及び給水系 (C/FDW)	有り	給水流量の全喪失	否 <sup>※1</sup>	給水加熱器ドレン系 (HD)	有り	給水加熱喪失	否 <sup>※1</sup>	給水加熱器ベント系 (HV)	有り	給水加熱喪失	否 <sup>※1</sup>	タービンランド蒸気系 (TGS)	有り	主復水器の真空度低下	否 <sup>※1</sup>	抽気系 (ES)	有り	給水加熱喪失	否 <sup>※1</sup>	タービン補助蒸気系 (AS)	有り	給水加熱喪失	否 <sup>※1</sup>	加熱蒸気系 (HS)	無し	系統破断によるプラントへの直接的な影響はなし	要	復水戻り系 (HSCR)	無し	系統破断によるプラントへの直接的な影響はなし	要		<p>【女川】  <a href="#">記載方針の相違</a>                      女川では、設備そのものを防護する方針であるため、泊では記載不要。</p>
系統	蒸気発生後の添付記載の事象への進展有無/事象例		評価要否																																								
主蒸気系 (MS)	有り	主蒸気管破断	否 <sup>※1</sup>																																								
復水及び給水系 (C/FDW)	有り	給水流量の全喪失	否 <sup>※1</sup>																																								
給水加熱器ドレン系 (HD)	有り	給水加熱喪失	否 <sup>※1</sup>																																								
給水加熱器ベント系 (HV)	有り	給水加熱喪失	否 <sup>※1</sup>																																								
タービンランド蒸気系 (TGS)	有り	主復水器の真空度低下	否 <sup>※1</sup>																																								
抽気系 (ES)	有り	給水加熱喪失	否 <sup>※1</sup>																																								
タービン補助蒸気系 (AS)	有り	給水加熱喪失	否 <sup>※1</sup>																																								
加熱蒸気系 (HS)	無し	系統破断によるプラントへの直接的な影響はなし	要																																								
復水戻り系 (HSCR)	無し	系統破断によるプラントへの直接的な影響はなし	要																																								

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																							
	<p style="text-align: center;">表4 蒸気源の内部流体の状態</p> <table border="1" data-bbox="703 209 1272 363"> <thead> <tr> <th>蒸気源</th> <th>最高使用温度 (°C)</th> <th>最高使用圧力 (MPa)</th> <th>流体</th> <th>放射性 あり/なし</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">HS</td> <td>188</td> <td>0.97</td> <td>蒸気</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>204</td> <td>1.57</td> <td>蒸気</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">HSCR</td> <td>188</td> <td>0.97</td> <td>凝縮水</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>204</td> <td>1.57</td> <td>凝縮水</td> <td>なし</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 考慮すべき環境条件</p> <p>前項で示した蒸気源に対し、気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタの「溢水による損傷の防止」において考慮すべき環境条件（温度/湿度、継続時間）の設定に当たっての考え方を以下に示す。</p> <p>・温度/湿度</p> <p>蒸気発生時の温度は保守的に、内包する流体が建屋内（大気圧下）に流出する際に考えられる最高温度とする。また、ガイドにおける「蒸気評価に用いる拡散範囲の算出方法」の規定のうち「評価手法を用いて拡散範囲の算出を行わない場合には、保守側に連通した複数の区画全体に蒸気が拡散するものとする」の要求を適用し、保守的に、発生箇所の近傍だけでなく気体廃棄物処理系を設置するエリア内が一様に上記の温度になるものとする。</p> <p>具体的には「4.1.1(1)」で示した蒸気源のうち、最も厳しい条件を与える加熱蒸気及び復水戻り系の破損による蒸気発生を考慮した条件とする。</p> <p>・継続時間</p> <p>上記の環境条件（温度/湿度）は、蒸気源を隔離するまでの期間、継続するものとする。具体的には、「4.1.1(1)」で示した加熱蒸気及び復水戻り系における蒸気発生時の隔離を想定し、タービン建屋での蒸気の発生、各種系統のパラメータの異常や警報の発生による漏えいの検知、現場移動・確認、補助ボイラーの停止、隔離といった対応により、合計で1時間程度の隔離時間となると考えられるが、隔離後の内部インベントリの放出継続等を考慮し、保守的に3時間とする。</p> <p>なお、蒸気源の隔離後は、非常状態における原子炉格納容器外の設計環境条件（66℃、90%RH）に至るものとし、この状態が12時間継続するものとする。</p>	蒸気源	最高使用温度 (°C)	最高使用圧力 (MPa)	流体	放射性 あり/なし	HS	188	0.97	蒸気	なし	204	1.57	蒸気	なし	HSCR	188	0.97	凝縮水	なし	204	1.57	凝縮水	なし		<p>【女川】  <u>記載方針の相違</u>                  女川では、設備そのものを防護する方針であるため、泊では記載不要。</p> <p>【女川】  <u>記載方針の相違</u>                  女川では、設備そのものを防護する方針であるため、泊では記載不要。</p>
蒸気源	最高使用温度 (°C)	最高使用圧力 (MPa)	流体	放射性 あり/なし																						
HS	188	0.97	蒸気	なし																						
	204	1.57	蒸気	なし																						
HSCR	188	0.97	凝縮水	なし																						
	204	1.57	凝縮水	なし																						

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>(3) 評価結果</p> <p>表1に示した耐環境仕様と、「4.1.1(2)」で設定した環境条件を比較することにより、多重化された気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタは蒸気の影響に対して同時にその安全機能を喪失し得るものと評価する。</p> <p>4.1.2 対策</p> <p>「4.1.1」の影響評価の結果を受けて、気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタに対し以下に示す蒸気防護措置を講ずることとする。</p> <p>(1) 蒸気防護措置の設計要件</p> <p>「4.1.1(2)」で設定した環境条件下において、気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタ部における環境を、気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタが機能維持することを確認した環境の範囲内に維持する。また、気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタに求められる放射線の監視性能に有意な影響を与えない。</p> <p>(2) 蒸気防護措置の設計方針</p> <p>前項の設計要件を満足するにあたり、以下の二種類の蒸気防護措置を組み合わせ、蒸気防護措置を模擬した実証試験を行い、気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタ部における環境維持性能にかかわる要件を満足するものを設置する。対策概要は図3のとおり。</p> <p>a. 温度影響緩和</p> <p>気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタにおける温度低減措置として、気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタ周囲に遮熱板等の断熱材を設置する。</p> <p>b. 湿度影響緩和</p> <p>気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタ内部への湿分の浸入防止措置として、モニタケースの隙間部にシール処理を実施する。</p>	<p>なお、タービン建屋内で溢水が発生した場合において給水制御系の故障が仮に発生した場合においても、以下の防止対策、拡大防止対策を講じている。</p> <p>(1) 防止対策</p> <p>主給水制御弁は、誤動作による過渡変化を抑制するために、弁1個当たりの最大容量を適切な値にしており、また、制御系の単一の故障によって、これらの弁が二つ以上同時に全開とならない設計としている。</p> <p>(2) 拡大防止対策</p> <p>a. 通常運転中は、中央制御室で「蒸気発生器水位」、「主給水流量」等の監視を行い、また、警報として「蒸気発生器水位偏差大」を設けており、早期に異常現象の発生が検知できる。</p> <p>b. 蒸気発生器の水位が異常に上昇した場合には、「蒸気発生器水位高」信号により主給水制御弁を全閉する。また、同時に中央制御室に警報を発信し、運転員の注意を喚起する。</p> <p>4. 結論</p> <p>内部溢水により「蒸気発生器への過剰給水」事象の発生のおそれはなく、仮に発生した場合においても防止対策がとられていることから、溢水防護上、タービントリップ機能は原子炉の高温停止及び低温停止を達成し、維持するために必要な機能には該当しない。</p> <p>以上より、タービントリップ機能を有するMS-3設備については溢水による影響評価の対象から除外する。</p>	<p>【女川】</p> <p><u>記載方針の相違</u></p> <p>女川では、設備そのものの防護措置を講じるが、泊では既に防止対策、拡大措置を講じている。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

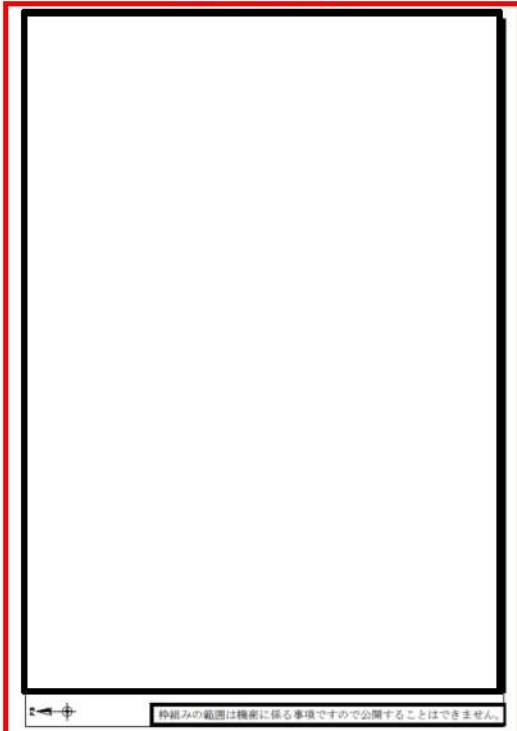
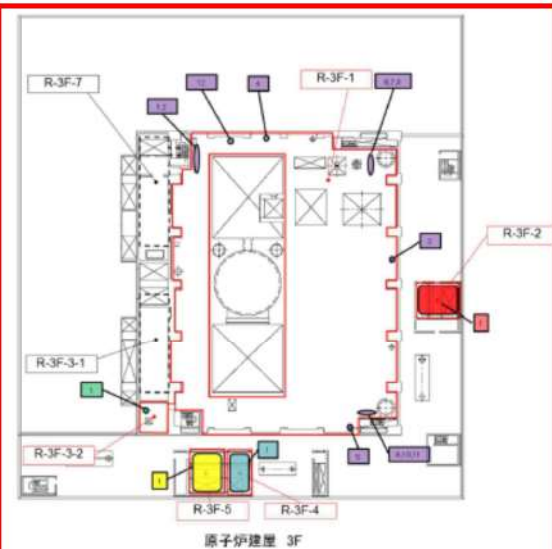

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="696 185 1279 504" data-label="Image"> <p>半導体検出器</p> <p>断熱材等</p> </div> <p data-bbox="875 517 1099 539">図3 蒸気防護措置概要図</p> <p data-bbox="696 587 920 609">4.2 没水による影響評価</p> <p data-bbox="696 622 1279 778">想定破損又は消火活動に伴う放水による溢水が発生した場合に、各気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタが設置されている区画での没水水位と各気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタの機能喪失高さを比較し、安全機能への影響を評価する。</p> <p data-bbox="696 791 1279 1050">各気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタの設置されている区画はタービン建屋1階又は地下1階の通路部であり、これらの区画は階段室の扉が開放されていることから、溢水が発生した場合でも大幅な水位の上昇は起こらない。これに対し、各気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタは空間上部に設置されたダクトに併設されており、設置高さは表2で示したとおり3.0m以上となっていることから、没水により機能喪失することはない。</p> <p data-bbox="696 1062 1279 1155">したがって、多重化された気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタが没水の影響により同時にその安全機能を損なうことはない。</p>		<p data-bbox="1870 178 1937 201">【女川】</p> <p data-bbox="1870 213 1995 236">記載方針の相違</p> <p data-bbox="1870 248 2130 335">女川では、設備そのものを防護する方針であるため、泊では記載不要。</p>



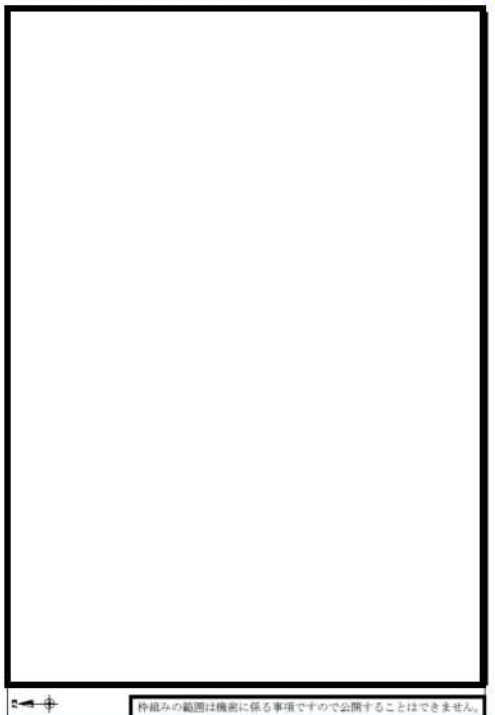
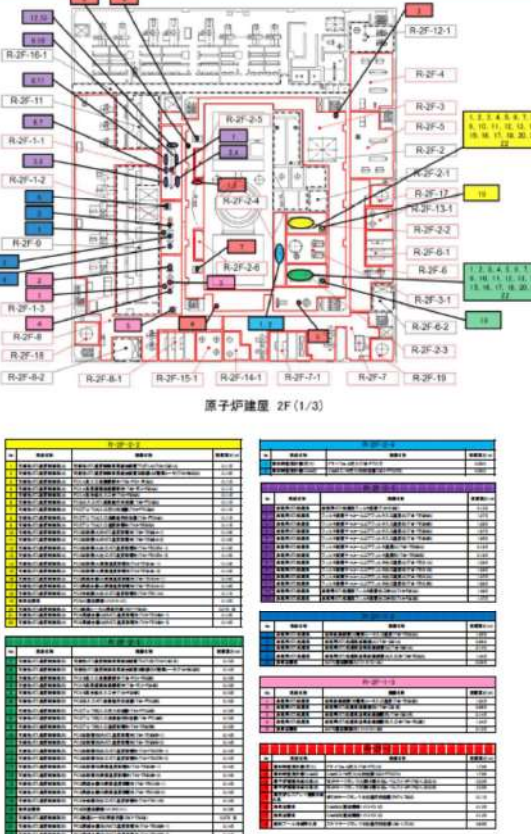
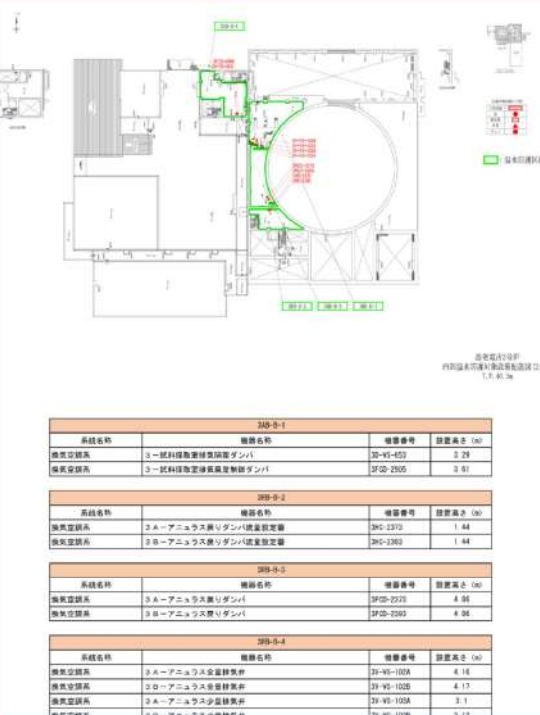
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>4.3 被水による影響評価</p> <p>溢水源を内包する単一機器の破損又は消火活動に伴う放水による被水の発生を想定し、それによる気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタへの影響を評価する。また上層階で溢水が発生し、各気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタの上部に貫通部等の開口部が存在する場合は、上方からの伝播による被水の影響も考慮する。</p> <p>これらの被水が発生した場合、気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタへの影響としては湿度による影響と同等と考えられるため、「4.1.2(2)b.」に示した防護対策を実施することで、被水による影響を防止できる。</p> <p>したがって、多重化された気体廃棄物処理設備エリア排気放射線モニタが被水の影響により同時にその安全機能を損なうことはない。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>		<p>【女川】</p> <p><u>記載方針の相違</u></p> <p>女川では、設備そのものを防護する方針であるため、泊では記載不要。</p>

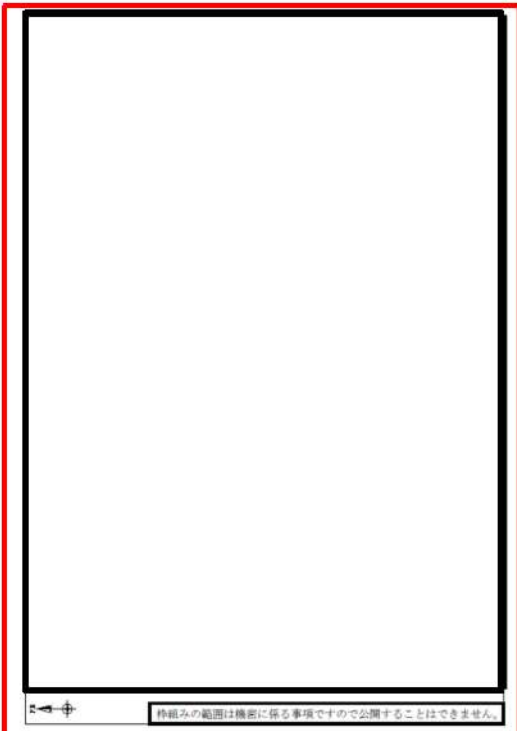
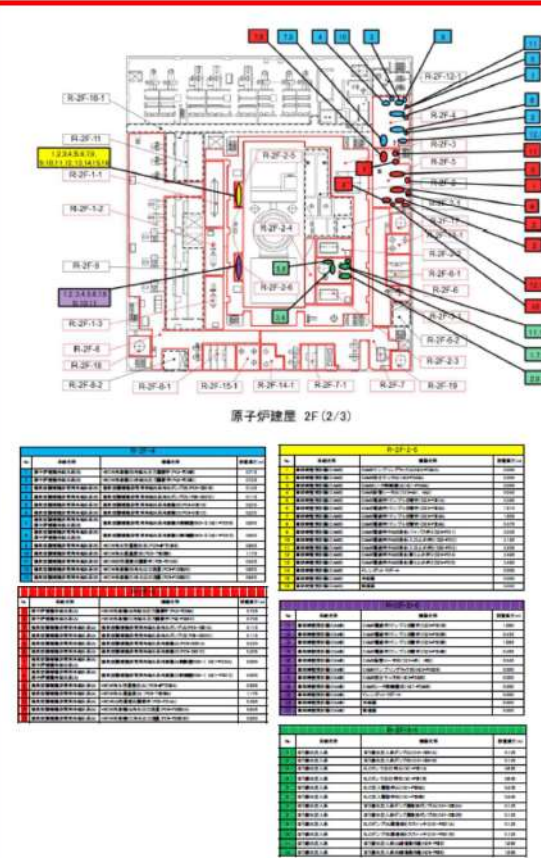

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																																																																																																																								
<p style="text-align: right;">添付資料 1.3-1</p> <p style="text-align: center;">溢水防護区画の設定</p>  <p style="font-size: small;">詳細みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p>	<p style="text-align: right;">補足説明資料 2</p> <p>溢水影響評価上の防護対象設備の配置について</p> <p>1. 溢水影響評価上の防護対象設備の配置について                  添付資料4表1にて抽出された溢水影響評価上の防護対象設備が、添付資料7で設定した区画上のどこに配置されているかについて、防護対象設備の配置について図1に示す。</p>  <p style="text-align: center;">原子炉建屋 3F</p> <table border="1" data-bbox="705 1053 1254 1452"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>品名</th> <th>設備名称</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>非常用圧入機</td> <td>SUTSレインレジスタ (T48-F700) A</td> <td>1,247</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>非常用圧入機</td> <td>SUTSレインレジスタ (T48-F700) B</td> <td>1,250</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>非常用圧入機</td> <td>原子炉建屋内非常用圧入機 (T48-F700) A</td> <td>1,230</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>非常用圧入機</td> <td>原子炉建屋内非常用圧入機 (T48-F700) B</td> <td>1,230</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>非常用圧入機</td> <td>原子炉建屋内非常用圧入機 (T48-F700) C</td> <td>3,420</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) A</td> <td>0,110</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) B</td> <td>0,108</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) C</td> <td>0,108</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) D</td> <td>0,110</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) E</td> <td>0,110</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) F</td> <td>0,110</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) G</td> <td>0,110</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) H</td> <td>0,110</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) I</td> <td>0,110</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) J</td> <td>0,110</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) K</td> <td>0,110</td> </tr> <tr> <td>17</td> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) L</td> <td>0,110</td> </tr> <tr> <td>18</td> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) M</td> <td>0,110</td> </tr> <tr> <td>19</td> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) N</td> <td>0,110</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) O</td> <td>0,110</td> </tr> <tr> <td>21</td> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) P</td> <td>0,110</td> </tr> <tr> <td>22</td> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) Q</td> <td>0,110</td> </tr> <tr> <td>23</td> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) R</td> <td>0,110</td> </tr> <tr> <td>24</td> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) S</td> <td>0,110</td> </tr> <tr> <td>25</td> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) T</td> <td>0,110</td> </tr> <tr> <td>26</td> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) U</td> <td>0,110</td> </tr> <tr> <td>27</td> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) V</td> <td>0,110</td> </tr> <tr> <td>28</td> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) W</td> <td>0,110</td> </tr> <tr> <td>29</td> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) X</td> <td>0,110</td> </tr> <tr> <td>30</td> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) Y</td> <td>0,110</td> </tr> <tr> <td>31</td> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) Z</td> <td>0,110</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">図1 防護対象設備配置図 (1/23)</p>	No.	品名	設備名称	数量	1	非常用圧入機	SUTSレインレジスタ (T48-F700) A	1,247	2	非常用圧入機	SUTSレインレジスタ (T48-F700) B	1,250	3	非常用圧入機	原子炉建屋内非常用圧入機 (T48-F700) A	1,230	4	非常用圧入機	原子炉建屋内非常用圧入機 (T48-F700) B	1,230	5	非常用圧入機	原子炉建屋内非常用圧入機 (T48-F700) C	3,420	6	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) A	0,110	7	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) B	0,108	8	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) C	0,108	9	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) D	0,110	10	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) E	0,110	11	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) F	0,110	12	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) G	0,110	13	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) H	0,110	14	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) I	0,110	15	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) J	0,110	16	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) K	0,110	17	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) L	0,110	18	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) M	0,110	19	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) N	0,110	20	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) O	0,110	21	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) P	0,110	22	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) Q	0,110	23	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) R	0,110	24	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) S	0,110	25	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) T	0,110	26	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) U	0,110	27	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) V	0,110	28	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) W	0,110	29	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) X	0,110	30	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) Y	0,110	31	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) Z	0,110	<p style="text-align: right;">補足説明資料 6</p> <p>溢水影響評価上の防護対象設備の配置について</p> <p>1. 溢水影響評価上の防護対象設備の配置について                  添付資料4表1にて抽出された溢水影響評価上の防護対象設備が、添付資料7で設定した区画上のどこに配置されているかについて、防護対象設備の配置について図1に示す。</p>  <table border="1" data-bbox="1288 933 1848 1109"> <thead> <tr> <th>品名</th> <th>設備名称</th> <th>数量</th> <th>設置高さ (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>3号炉建屋内非常用圧入機 (T48-F700) A</td> <td>1,230</td> <td>3.00</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>3号炉建屋内非常用圧入機 (T48-F700) B</td> <td>1,230</td> <td>3.00</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>3号炉建屋内非常用圧入機 (T48-F700) C</td> <td>3,420</td> <td>3.00</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) A</td> <td>0,110</td> <td>2.40</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) B</td> <td>0,108</td> <td>2.40</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) C</td> <td>0,108</td> <td>2.40</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) D</td> <td>0,110</td> <td>2.40</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) E</td> <td>0,110</td> <td>2.40</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) F</td> <td>0,110</td> <td>2.40</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) G</td> <td>0,110</td> <td>2.40</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) H</td> <td>0,110</td> <td>2.40</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) I</td> <td>0,110</td> <td>2.40</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) J</td> <td>0,110</td> <td>2.40</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) K</td> <td>0,110</td> <td>2.40</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) L</td> <td>0,110</td> <td>2.40</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) M</td> <td>0,110</td> <td>2.40</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) N</td> <td>0,110</td> <td>2.40</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) O</td> <td>0,110</td> <td>2.40</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) P</td> <td>0,110</td> <td>2.40</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) Q</td> <td>0,110</td> <td>2.40</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) R</td> <td>0,110</td> <td>2.40</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) S</td> <td>0,110</td> <td>2.40</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) T</td> <td>0,110</td> <td>2.40</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) U</td> <td>0,110</td> <td>2.40</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) V</td> <td>0,110</td> <td>2.40</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) W</td> <td>0,110</td> <td>2.40</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) X</td> <td>0,110</td> <td>2.40</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) Y</td> <td>0,110</td> <td>2.40</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋内非常用圧入機</td> <td>RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) Z</td> <td>0,110</td> <td>2.40</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">図1 防護対象設備配置図 (1/15)</p>	品名	設備名称	数量	設置高さ (m)	原子炉建屋内非常用圧入機	3号炉建屋内非常用圧入機 (T48-F700) A	1,230	3.00	原子炉建屋内非常用圧入機	3号炉建屋内非常用圧入機 (T48-F700) B	1,230	3.00	原子炉建屋内非常用圧入機	3号炉建屋内非常用圧入機 (T48-F700) C	3,420	3.00	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) A	0,110	2.40	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) B	0,108	2.40	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) C	0,108	2.40	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) D	0,110	2.40	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) E	0,110	2.40	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) F	0,110	2.40	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) G	0,110	2.40	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) H	0,110	2.40	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) I	0,110	2.40	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) J	0,110	2.40	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) K	0,110	2.40	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) L	0,110	2.40	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) M	0,110	2.40	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) N	0,110	2.40	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) O	0,110	2.40	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) P	0,110	2.40	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) Q	0,110	2.40	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) R	0,110	2.40	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) S	0,110	2.40	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) T	0,110	2.40	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) U	0,110	2.40	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) V	0,110	2.40	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) W	0,110	2.40	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) X	0,110	2.40	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) Y	0,110	2.40	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) Z	0,110	2.40	<p>【女川・大飯】                  記載表現の相違</p> <p>【大飯】                  記載方針の相違                  女川審査実績の反映</p> <p>【女川・大飯】                  設計方針の相違                  プラント構成（配置）の相違</p> <p>【女川】                  記載表現の相違</p>
No.	品名	設備名称	数量																																																																																																																																																																																																																																																								
1	非常用圧入機	SUTSレインレジスタ (T48-F700) A	1,247																																																																																																																																																																																																																																																								
2	非常用圧入機	SUTSレインレジスタ (T48-F700) B	1,250																																																																																																																																																																																																																																																								
3	非常用圧入機	原子炉建屋内非常用圧入機 (T48-F700) A	1,230																																																																																																																																																																																																																																																								
4	非常用圧入機	原子炉建屋内非常用圧入機 (T48-F700) B	1,230																																																																																																																																																																																																																																																								
5	非常用圧入機	原子炉建屋内非常用圧入機 (T48-F700) C	3,420																																																																																																																																																																																																																																																								
6	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) A	0,110																																																																																																																																																																																																																																																								
7	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) B	0,108																																																																																																																																																																																																																																																								
8	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) C	0,108																																																																																																																																																																																																																																																								
9	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) D	0,110																																																																																																																																																																																																																																																								
10	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) E	0,110																																																																																																																																																																																																																																																								
11	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) F	0,110																																																																																																																																																																																																																																																								
12	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) G	0,110																																																																																																																																																																																																																																																								
13	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) H	0,110																																																																																																																																																																																																																																																								
14	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) I	0,110																																																																																																																																																																																																																																																								
15	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) J	0,110																																																																																																																																																																																																																																																								
16	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) K	0,110																																																																																																																																																																																																																																																								
17	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) L	0,110																																																																																																																																																																																																																																																								
18	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) M	0,110																																																																																																																																																																																																																																																								
19	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) N	0,110																																																																																																																																																																																																																																																								
20	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) O	0,110																																																																																																																																																																																																																																																								
21	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) P	0,110																																																																																																																																																																																																																																																								
22	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) Q	0,110																																																																																																																																																																																																																																																								
23	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) R	0,110																																																																																																																																																																																																																																																								
24	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) S	0,110																																																																																																																																																																																																																																																								
25	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) T	0,110																																																																																																																																																																																																																																																								
26	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) U	0,110																																																																																																																																																																																																																																																								
27	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) V	0,110																																																																																																																																																																																																																																																								
28	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) W	0,110																																																																																																																																																																																																																																																								
29	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) X	0,110																																																																																																																																																																																																																																																								
30	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) Y	0,110																																																																																																																																																																																																																																																								
31	原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) Z	0,110																																																																																																																																																																																																																																																								
品名	設備名称	数量	設置高さ (m)																																																																																																																																																																																																																																																								
原子炉建屋内非常用圧入機	3号炉建屋内非常用圧入機 (T48-F700) A	1,230	3.00																																																																																																																																																																																																																																																								
原子炉建屋内非常用圧入機	3号炉建屋内非常用圧入機 (T48-F700) B	1,230	3.00																																																																																																																																																																																																																																																								
原子炉建屋内非常用圧入機	3号炉建屋内非常用圧入機 (T48-F700) C	3,420	3.00																																																																																																																																																																																																																																																								
原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) A	0,110	2.40																																																																																																																																																																																																																																																								
原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) B	0,108	2.40																																																																																																																																																																																																																																																								
原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) C	0,108	2.40																																																																																																																																																																																																																																																								
原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) D	0,110	2.40																																																																																																																																																																																																																																																								
原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) E	0,110	2.40																																																																																																																																																																																																																																																								
原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) F	0,110	2.40																																																																																																																																																																																																																																																								
原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) G	0,110	2.40																																																																																																																																																																																																																																																								
原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) H	0,110	2.40																																																																																																																																																																																																																																																								
原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) I	0,110	2.40																																																																																																																																																																																																																																																								
原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) J	0,110	2.40																																																																																																																																																																																																																																																								
原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) K	0,110	2.40																																																																																																																																																																																																																																																								
原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) L	0,110	2.40																																																																																																																																																																																																																																																								
原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) M	0,110	2.40																																																																																																																																																																																																																																																								
原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) N	0,110	2.40																																																																																																																																																																																																																																																								
原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) O	0,110	2.40																																																																																																																																																																																																																																																								
原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) P	0,110	2.40																																																																																																																																																																																																																																																								
原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) Q	0,110	2.40																																																																																																																																																																																																																																																								
原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) R	0,110	2.40																																																																																																																																																																																																																																																								
原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) S	0,110	2.40																																																																																																																																																																																																																																																								
原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) T	0,110	2.40																																																																																																																																																																																																																																																								
原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) U	0,110	2.40																																																																																																																																																																																																																																																								
原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) V	0,110	2.40																																																																																																																																																																																																																																																								
原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) W	0,110	2.40																																																																																																																																																																																																																																																								
原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) X	0,110	2.40																																																																																																																																																																																																																																																								
原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) Y	0,110	2.40																																																																																																																																																																																																																																																								
原子炉建屋内非常用圧入機	RCW用圧入機 (RCW用圧入機) (P42-L700) Z	0,110	2.40																																																																																																																																																																																																																																																								

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

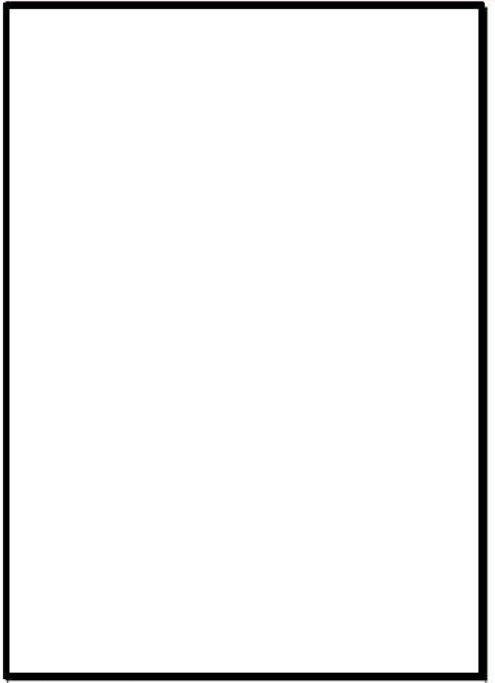
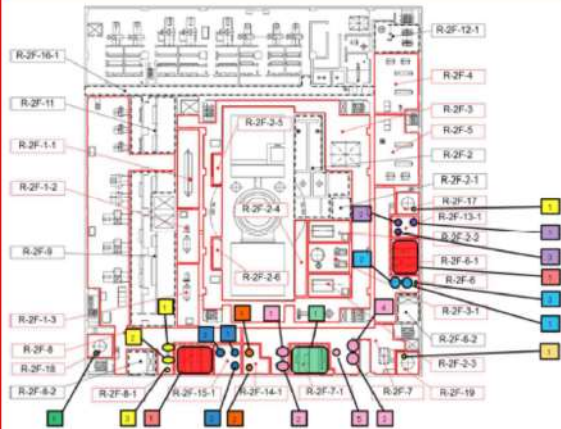
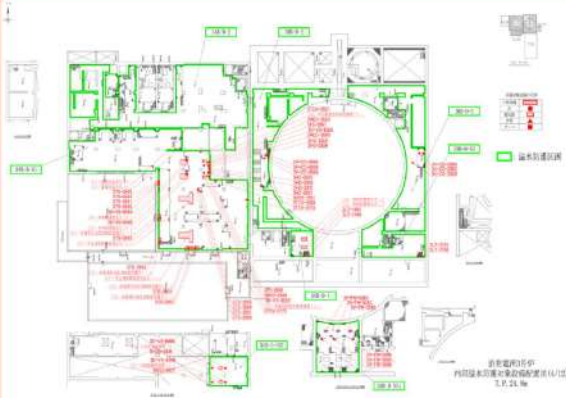
大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p>特記の範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p>	 <p>原子炉建屋 2F (1/3)</p>	 <p>図1 防護対象設備配置図 (2/15)</p>	<p>【女川・大飯】                  設計方針の相違                  プラント構成（配置）の相違</p> <p>【女川】                  記載表現の相違</p>
	<p>図1 防護対象設備配置図 (2/23)</p>		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

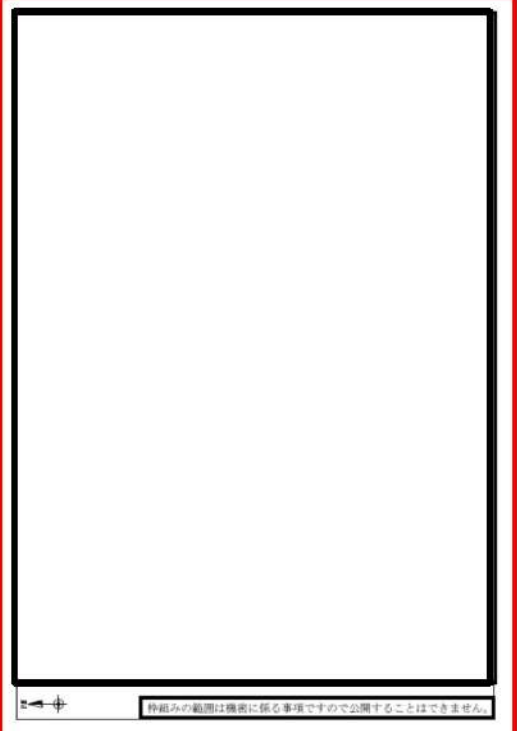
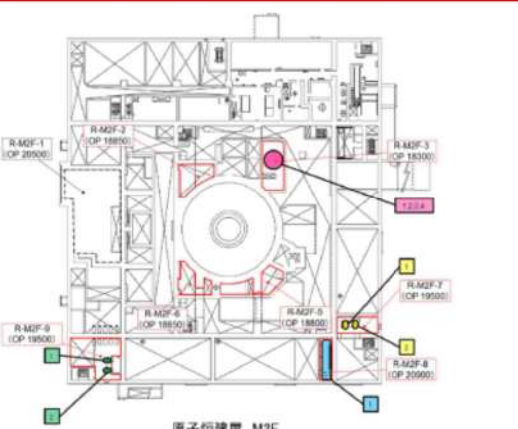
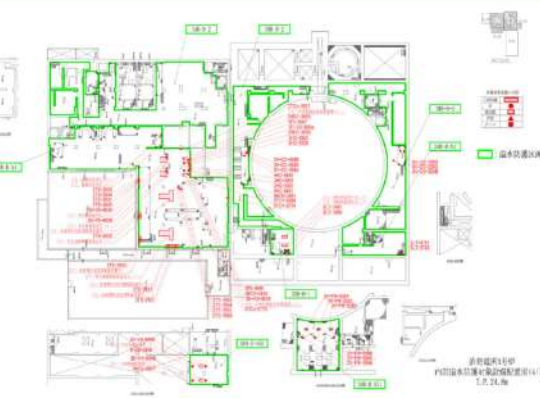
大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																
 <p>特記の範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p>	 <p>原子炉建屋 2F (2/3)</p> <table border="1" data-bbox="728 622 974 766"> <thead> <tr> <th>設備名称</th> <th>種別</th> <th>設置数</th> <th>設置位置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="985 622 1243 766"> <thead> <tr> <th>設備名称</th> <th>種別</th> <th>設置数</th> <th>設置位置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="728 774 974 909"> <thead> <tr> <th>設備名称</th> <th>種別</th> <th>設置数</th> <th>設置位置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="985 774 1243 909"> <thead> <tr> <th>設備名称</th> <th>種別</th> <th>設置数</th> <th>設置位置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> </tr> </tbody> </table>	設備名称	種別	設置数	設置位置	...	...	...	...	設備名称	種別	設置数	設置位置	...	...	...	...	設備名称	種別	設置数	設置位置	...	...	...	...	設備名称	種別	設置数	設置位置	...	...	...	...	 <p>図1 防護対象設備配置図 (3/15)</p> <table border="1" data-bbox="1310 638 1556 782"> <thead> <tr> <th>設備名称</th> <th>種別</th> <th>設置数</th> <th>設置位置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1568 638 1814 782"> <thead> <tr> <th>設備名称</th> <th>種別</th> <th>設置数</th> <th>設置位置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> </tr> </tbody> </table>	設備名称	種別	設置数	設置位置	...	...	...	...	設備名称	種別	設置数	設置位置	...	...	...	...	<p>【女川・大飯】                  設計方針の相違                  プラント構成（配置）の相違</p> <p>【女川】                  記載表現の相違</p>
設備名称	種別	設置数	設置位置																																																
...	...	...	...																																																
設備名称	種別	設置数	設置位置																																																
...	...	...	...																																																
設備名称	種別	設置数	設置位置																																																
...	...	...	...																																																
設備名称	種別	設置数	設置位置																																																
...	...	...	...																																																
設備名称	種別	設置数	設置位置																																																
...	...	...	...																																																
設備名称	種別	設置数	設置位置																																																
...	...	...	...																																																



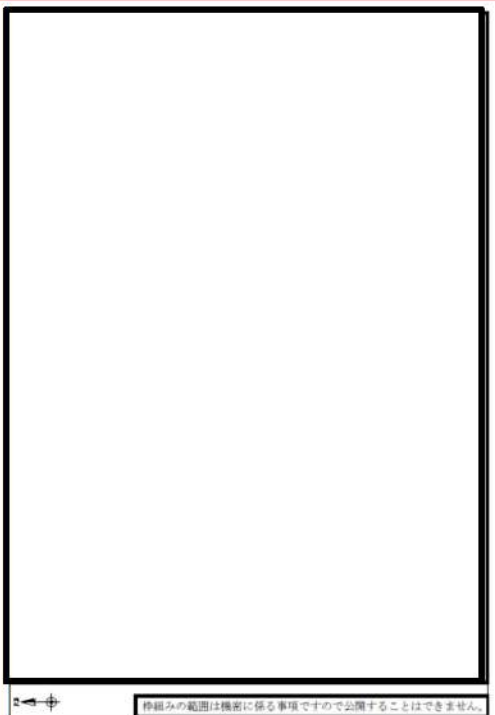
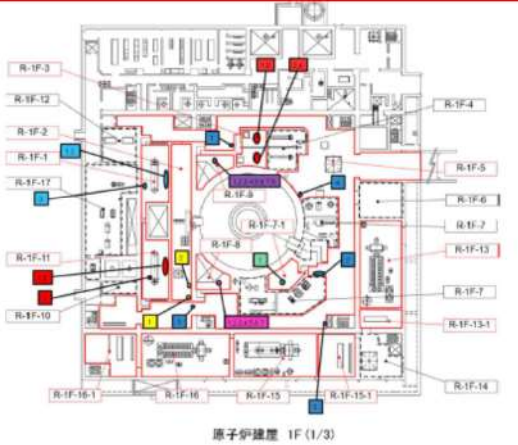
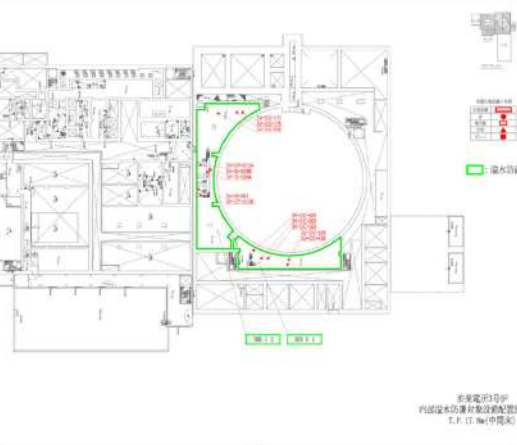
赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																								
 <p>特記の範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p>	 <p>原子炉建屋 2F (3/3)</p> <table border="1" data-bbox="750 678 1243 1021"> <thead> <tr> <th>設備名称</th> <th>機軸名称</th> <th>数量(台)</th> <th>設備名称</th> <th>機軸名称</th> <th>数量(台)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> </tr> </tbody> </table>	設備名称	機軸名称	数量(台)	設備名称	機軸名称	数量(台)	...	...	...	...	...	...	 <table border="1" data-bbox="1400 590 1736 1021"> <thead> <tr> <th>設備名称</th> <th>機軸名称</th> <th>数量(台)</th> <th>設備名称</th> <th>機軸名称</th> <th>数量(台)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> </tr> </tbody> </table>	設備名称	機軸名称	数量(台)	設備名称	機軸名称	数量(台)	...	...	...	...	...	...	<p>【女川・大飯】                  設計方針の相違                  プラント構成 (配置) の相違</p> <p>【女川】                  記載表現の相違</p>
設備名称	機軸名称	数量(台)	設備名称	機軸名称	数量(台)																						
...	...	...	...	...	...																						
設備名称	機軸名称	数量(台)	設備名称	機軸名称	数量(台)																						
...	...	...	...	...	...																						
	<p>図1 防護対象設備配置図(4/23)</p>	<p>図1 防護対象設備配置図 (4/15)</p>																									

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																																																																																												
 <p>枠組みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p>	 <p>原子炉建屋 M2F</p> <table border="1" data-bbox="728 678 1243 782"> <caption>R-M2F-1</caption> <thead> <tr> <th>No</th> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>設置高さ (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>燃料プールの冷却装置</td> <td>FFC5冷却装置入口第一弁(G41-F026A)</td> <td>0.403</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>燃料プールの冷却装置</td> <td>FFC5冷却装置/Aイ/CS弁(G41-F026A)</td> <td>0.403</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>燃料プールの冷却装置</td> <td>FFC5冷却装置/Bイ/CS弁(G41-F026B)</td> <td>0.403</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>燃料プールの補給装置</td> <td>FFM2M燃料プール注入弁(F024)</td> <td>0.025</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="728 798 1243 869"> <caption>R-M2F-2</caption> <thead> <tr> <th>No</th> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>設置高さ (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>補給装置</td> <td>原子炉建屋A(注)補給機(A)(W11-0262A)</td> <td>0.725</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>補給装置</td> <td>原子炉建屋A(注)補給機(B)(W11-0262B)</td> <td>0.746</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="728 885 1243 949"> <caption>R-M2F-3</caption> <thead> <tr> <th>No</th> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>設置高さ (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>非常用DC電源</td> <td>125V 24極電源(F-3)</td> <td>0.000</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="728 965 1243 1037"> <caption>R-M2F-4</caption> <thead> <tr> <th>No</th> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>設置高さ (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>補給装置</td> <td>原子炉建屋B(注)補給機(A)(W12-0262A)</td> <td>0.525</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>補給装置</td> <td>原子炉建屋B(注)補給機(B)(W12-0262B)</td> <td>0.525</td> </tr> </tbody> </table>	No	系統名称	機器名称	設置高さ (m)	1	燃料プールの冷却装置	FFC5冷却装置入口第一弁(G41-F026A)	0.403	2	燃料プールの冷却装置	FFC5冷却装置/Aイ/CS弁(G41-F026A)	0.403	3	燃料プールの冷却装置	FFC5冷却装置/Bイ/CS弁(G41-F026B)	0.403	4	燃料プールの補給装置	FFM2M燃料プール注入弁(F024)	0.025	No	系統名称	機器名称	設置高さ (m)	1	補給装置	原子炉建屋A(注)補給機(A)(W11-0262A)	0.725	2	補給装置	原子炉建屋A(注)補給機(B)(W11-0262B)	0.746	No	系統名称	機器名称	設置高さ (m)	1	非常用DC電源	125V 24極電源(F-3)	0.000	No	系統名称	機器名称	設置高さ (m)	1	補給装置	原子炉建屋B(注)補給機(A)(W12-0262A)	0.525	2	補給装置	原子炉建屋B(注)補給機(B)(W12-0262B)	0.525	 <p>図1 防護対象設備配置図 (5/15)</p> <table border="1" data-bbox="1400 598 1758 678"> <caption>機組別</caption> <thead> <tr> <th>機器名称</th> <th>設置高さ</th> <th>設置場所</th> <th>設置高さ (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>燃料貯蔵庫</td> <td>2.4</td> <td>中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)</td> <td>2.4</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵庫</td> <td>2.4</td> <td>中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)</td> <td>2.4</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵庫</td> <td>2.4</td> <td>中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)</td> <td>2.4</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵庫</td> <td>2.4</td> <td>中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)</td> <td>2.4</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵庫</td> <td>2.4</td> <td>中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)</td> <td>2.4</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵庫</td> <td>2.4</td> <td>中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)</td> <td>2.4</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1400 694 1758 774"> <caption>機組別</caption> <thead> <tr> <th>機器名称</th> <th>設置高さ</th> <th>設置場所</th> <th>設置高さ (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>燃料貯蔵庫</td> <td>2.4</td> <td>中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)</td> <td>2.4</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵庫</td> <td>2.4</td> <td>中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)</td> <td>2.4</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵庫</td> <td>2.4</td> <td>中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)</td> <td>2.4</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵庫</td> <td>2.4</td> <td>中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)</td> <td>2.4</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵庫</td> <td>2.4</td> <td>中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)</td> <td>2.4</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵庫</td> <td>2.4</td> <td>中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)</td> <td>2.4</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1400 790 1758 837"> <caption>機組別</caption> <thead> <tr> <th>機器名称</th> <th>設置高さ</th> <th>設置場所</th> <th>設置高さ (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>燃料貯蔵庫</td> <td>2.4</td> <td>中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)</td> <td>2.4</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵庫</td> <td>2.4</td> <td>中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)</td> <td>2.4</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵庫</td> <td>2.4</td> <td>中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)</td> <td>2.4</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵庫</td> <td>2.4</td> <td>中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)</td> <td>2.4</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵庫</td> <td>2.4</td> <td>中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)</td> <td>2.4</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵庫</td> <td>2.4</td> <td>中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)</td> <td>2.4</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1400 853 1758 901"> <caption>機組別</caption> <thead> <tr> <th>機器名称</th> <th>設置高さ</th> <th>設置場所</th> <th>設置高さ (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>燃料貯蔵庫</td> <td>2.4</td> <td>中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)</td> <td>2.4</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵庫</td> <td>2.4</td> <td>中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)</td> <td>2.4</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵庫</td> <td>2.4</td> <td>中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)</td> <td>2.4</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵庫</td> <td>2.4</td> <td>中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)</td> <td>2.4</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵庫</td> <td>2.4</td> <td>中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)</td> <td>2.4</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵庫</td> <td>2.4</td> <td>中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)</td> <td>2.4</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1400 917 1758 965"> <caption>機組別</caption> <thead> <tr> <th>機器名称</th> <th>設置高さ</th> <th>設置場所</th> <th>設置高さ (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>燃料貯蔵庫</td> <td>2.4</td> <td>中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)</td> <td>2.4</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵庫</td> <td>2.4</td> <td>中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)</td> <td>2.4</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵庫</td> <td>2.4</td> <td>中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)</td> <td>2.4</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵庫</td> <td>2.4</td> <td>中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)</td> <td>2.4</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵庫</td> <td>2.4</td> <td>中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)</td> <td>2.4</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵庫</td> <td>2.4</td> <td>中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)</td> <td>2.4</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1400 981 1758 1029"> <caption>機組別</caption> <thead> <tr> <th>機器名称</th> <th>設置高さ</th> <th>設置場所</th> <th>設置高さ (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>燃料貯蔵庫</td> <td>2.4</td> <td>中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)</td> <td>2.4</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵庫</td> <td>2.4</td> <td>中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)</td> <td>2.4</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵庫</td> <td>2.4</td> <td>中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)</td> <td>2.4</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵庫</td> <td>2.4</td> <td>中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)</td> <td>2.4</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵庫</td> <td>2.4</td> <td>中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)</td> <td>2.4</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵庫</td> <td>2.4</td> <td>中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)</td> <td>2.4</td> </tr> </tbody> </table>	機器名称	設置高さ	設置場所	設置高さ (m)	燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4	燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4	燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4	燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4	燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4	燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4	機器名称	設置高さ	設置場所	設置高さ (m)	燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4	燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4	燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4	燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4	燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4	燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4	機器名称	設置高さ	設置場所	設置高さ (m)	燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4	燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4	燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4	燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4	燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4	燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4	機器名称	設置高さ	設置場所	設置高さ (m)	燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4	燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4	燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4	燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4	燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4	燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4	機器名称	設置高さ	設置場所	設置高さ (m)	燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4	燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4	燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4	燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4	燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4	燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4	機器名称	設置高さ	設置場所	設置高さ (m)	燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4	燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4	燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4	燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4	燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4	燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4	<p>【女川・大飯】          設計方針の相違          プラント構成（配置）の相違</p> <p>【女川】          記載表現の相違</p>
No	系統名称	機器名称	設置高さ (m)																																																																																																																																																																																																																												
1	燃料プールの冷却装置	FFC5冷却装置入口第一弁(G41-F026A)	0.403																																																																																																																																																																																																																												
2	燃料プールの冷却装置	FFC5冷却装置/Aイ/CS弁(G41-F026A)	0.403																																																																																																																																																																																																																												
3	燃料プールの冷却装置	FFC5冷却装置/Bイ/CS弁(G41-F026B)	0.403																																																																																																																																																																																																																												
4	燃料プールの補給装置	FFM2M燃料プール注入弁(F024)	0.025																																																																																																																																																																																																																												
No	系統名称	機器名称	設置高さ (m)																																																																																																																																																																																																																												
1	補給装置	原子炉建屋A(注)補給機(A)(W11-0262A)	0.725																																																																																																																																																																																																																												
2	補給装置	原子炉建屋A(注)補給機(B)(W11-0262B)	0.746																																																																																																																																																																																																																												
No	系統名称	機器名称	設置高さ (m)																																																																																																																																																																																																																												
1	非常用DC電源	125V 24極電源(F-3)	0.000																																																																																																																																																																																																																												
No	系統名称	機器名称	設置高さ (m)																																																																																																																																																																																																																												
1	補給装置	原子炉建屋B(注)補給機(A)(W12-0262A)	0.525																																																																																																																																																																																																																												
2	補給装置	原子炉建屋B(注)補給機(B)(W12-0262B)	0.525																																																																																																																																																																																																																												
機器名称	設置高さ	設置場所	設置高さ (m)																																																																																																																																																																																																																												
燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4																																																																																																																																																																																																																												
燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4																																																																																																																																																																																																																												
燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4																																																																																																																																																																																																																												
燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4																																																																																																																																																																																																																												
燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4																																																																																																																																																																																																																												
燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4																																																																																																																																																																																																																												
機器名称	設置高さ	設置場所	設置高さ (m)																																																																																																																																																																																																																												
燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4																																																																																																																																																																																																																												
燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4																																																																																																																																																																																																																												
燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4																																																																																																																																																																																																																												
燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4																																																																																																																																																																																																																												
燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4																																																																																																																																																																																																																												
燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4																																																																																																																																																																																																																												
機器名称	設置高さ	設置場所	設置高さ (m)																																																																																																																																																																																																																												
燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4																																																																																																																																																																																																																												
燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4																																																																																																																																																																																																																												
燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4																																																																																																																																																																																																																												
燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4																																																																																																																																																																																																																												
燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4																																																																																																																																																																																																																												
燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4																																																																																																																																																																																																																												
機器名称	設置高さ	設置場所	設置高さ (m)																																																																																																																																																																																																																												
燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4																																																																																																																																																																																																																												
燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4																																																																																																																																																																																																																												
燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4																																																																																																																																																																																																																												
燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4																																																																																																																																																																																																																												
燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4																																																																																																																																																																																																																												
燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4																																																																																																																																																																																																																												
機器名称	設置高さ	設置場所	設置高さ (m)																																																																																																																																																																																																																												
燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4																																																																																																																																																																																																																												
燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4																																																																																																																																																																																																																												
燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4																																																																																																																																																																																																																												
燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4																																																																																																																																																																																																																												
燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4																																																																																																																																																																																																																												
燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4																																																																																																																																																																																																																												
機器名称	設置高さ	設置場所	設置高さ (m)																																																																																																																																																																																																																												
燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4																																																																																																																																																																																																																												
燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4																																																																																																																																																																																																																												
燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4																																																																																																																																																																																																																												
燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4																																																																																																																																																																																																																												
燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4																																																																																																																																																																																																																												
燃料貯蔵庫	2.4	中央貯蔵庫(燃料貯蔵庫)	2.4																																																																																																																																																																																																																												
	<p>図1 防護対象設備配置図 (5/23)</p>																																																																																																																																																																																																																														

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																												
 <p>詳細の範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p>	 <p>原子炉建屋 1F (1/3)</p> <table border="1" data-bbox="712 678 974 758"> <thead> <tr> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>設置高さ (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉建屋冷却水</td> <td>3-1冷却材ポンプ</td> <td>1.12</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋冷却水</td> <td>3-2冷却材ポンプ</td> <td>1.12</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋冷却水</td> <td>3-3冷却材ポンプ</td> <td>1.12</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="996 678 1258 758"> <thead> <tr> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>設置高さ (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉建屋冷却水</td> <td>3-4冷却材ポンプ</td> <td>1.12</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋冷却水</td> <td>3-5冷却材ポンプ</td> <td>1.12</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋冷却水</td> <td>3-6冷却材ポンプ</td> <td>1.12</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="712 766 974 845"> <thead> <tr> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>設置高さ (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉建屋冷却水</td> <td>3-7冷却材ポンプ</td> <td>1.12</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋冷却水</td> <td>3-8冷却材ポンプ</td> <td>1.12</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋冷却水</td> <td>3-9冷却材ポンプ</td> <td>1.12</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="996 766 1258 845"> <thead> <tr> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>設置高さ (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉建屋冷却水</td> <td>3-10冷却材ポンプ</td> <td>1.12</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋冷却水</td> <td>3-11冷却材ポンプ</td> <td>1.12</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋冷却水</td> <td>3-12冷却材ポンプ</td> <td>1.12</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="712 853 974 933"> <thead> <tr> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>設置高さ (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉建屋冷却水</td> <td>3-13冷却材ポンプ</td> <td>1.12</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋冷却水</td> <td>3-14冷却材ポンプ</td> <td>1.12</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋冷却水</td> <td>3-15冷却材ポンプ</td> <td>1.12</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="996 853 1258 933"> <thead> <tr> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>設置高さ (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉建屋冷却水</td> <td>3-16冷却材ポンプ</td> <td>1.12</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋冷却水</td> <td>3-17冷却材ポンプ</td> <td>1.12</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋冷却水</td> <td>3-18冷却材ポンプ</td> <td>1.12</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="712 941 974 1021"> <thead> <tr> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>設置高さ (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉建屋冷却水</td> <td>3-19冷却材ポンプ</td> <td>1.12</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋冷却水</td> <td>3-20冷却材ポンプ</td> <td>1.12</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋冷却水</td> <td>3-21冷却材ポンプ</td> <td>1.12</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="996 941 1258 1021"> <thead> <tr> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>設置高さ (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉建屋冷却水</td> <td>3-22冷却材ポンプ</td> <td>1.12</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋冷却水</td> <td>3-23冷却材ポンプ</td> <td>1.12</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋冷却水</td> <td>3-24冷却材ポンプ</td> <td>1.12</td> </tr> </tbody> </table>	系統名称	機器名称	設置高さ (m)	原子炉建屋冷却水	3-1冷却材ポンプ	1.12	原子炉建屋冷却水	3-2冷却材ポンプ	1.12	原子炉建屋冷却水	3-3冷却材ポンプ	1.12	系統名称	機器名称	設置高さ (m)	原子炉建屋冷却水	3-4冷却材ポンプ	1.12	原子炉建屋冷却水	3-5冷却材ポンプ	1.12	原子炉建屋冷却水	3-6冷却材ポンプ	1.12	系統名称	機器名称	設置高さ (m)	原子炉建屋冷却水	3-7冷却材ポンプ	1.12	原子炉建屋冷却水	3-8冷却材ポンプ	1.12	原子炉建屋冷却水	3-9冷却材ポンプ	1.12	系統名称	機器名称	設置高さ (m)	原子炉建屋冷却水	3-10冷却材ポンプ	1.12	原子炉建屋冷却水	3-11冷却材ポンプ	1.12	原子炉建屋冷却水	3-12冷却材ポンプ	1.12	系統名称	機器名称	設置高さ (m)	原子炉建屋冷却水	3-13冷却材ポンプ	1.12	原子炉建屋冷却水	3-14冷却材ポンプ	1.12	原子炉建屋冷却水	3-15冷却材ポンプ	1.12	系統名称	機器名称	設置高さ (m)	原子炉建屋冷却水	3-16冷却材ポンプ	1.12	原子炉建屋冷却水	3-17冷却材ポンプ	1.12	原子炉建屋冷却水	3-18冷却材ポンプ	1.12	系統名称	機器名称	設置高さ (m)	原子炉建屋冷却水	3-19冷却材ポンプ	1.12	原子炉建屋冷却水	3-20冷却材ポンプ	1.12	原子炉建屋冷却水	3-21冷却材ポンプ	1.12	系統名称	機器名称	設置高さ (m)	原子炉建屋冷却水	3-22冷却材ポンプ	1.12	原子炉建屋冷却水	3-23冷却材ポンプ	1.12	原子炉建屋冷却水	3-24冷却材ポンプ	1.12	 <p>原子炉建屋 1F (1/3)</p> <table border="1" data-bbox="1310 638 1814 742"> <thead> <tr> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>機器番号</th> <th>設置高さ (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉建屋冷却水</td> <td>3-1冷却材ポンプ</td> <td>3V-02-422</td> <td>1.38</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋冷却水</td> <td>3-2冷却材ポンプ</td> <td>3V-02-426</td> <td>0.88</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋冷却水</td> <td>3-1冷却材ポンプ</td> <td>3V-02-501</td> <td>1.12</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋冷却水</td> <td>3-1冷却材ポンプ</td> <td>3V-02-502</td> <td>1.12</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋冷却水</td> <td>3-1冷却材ポンプ</td> <td>3V-02-520</td> <td>1.12</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1310 750 1814 909"> <thead> <tr> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>機器番号</th> <th>設置高さ (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>化学体積制御系</td> <td>3-1冷却材ポンプ</td> <td>3V-03-175</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>化学体積制御系</td> <td>3-1冷却材ポンプ</td> <td>3V-03-177</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>化学体積制御系</td> <td>3-1冷却材ポンプ</td> <td>3V-03-255</td> <td>0.86</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋冷却水</td> <td>3-A-1冷却材ポンプ</td> <td>3V-04-013A</td> <td>1.12</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋冷却水</td> <td>3-B-1冷却材ポンプ</td> <td>3V-04-013B</td> <td>1.12</td> </tr> <tr> <td>高圧注入系</td> <td>3-1冷却材ポンプ</td> <td>3V-01-009A</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>高圧注入系</td> <td>3-1冷却材ポンプ</td> <td>3V-01-009B</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>高圧注入系</td> <td>3-1冷却材ポンプ</td> <td>3V-01-051</td> <td>0.6</td> </tr> </tbody> </table>	系統名称	機器名称	機器番号	設置高さ (m)	原子炉建屋冷却水	3-1冷却材ポンプ	3V-02-422	1.38	原子炉建屋冷却水	3-2冷却材ポンプ	3V-02-426	0.88	原子炉建屋冷却水	3-1冷却材ポンプ	3V-02-501	1.12	原子炉建屋冷却水	3-1冷却材ポンプ	3V-02-502	1.12	原子炉建屋冷却水	3-1冷却材ポンプ	3V-02-520	1.12	系統名称	機器名称	機器番号	設置高さ (m)	化学体積制御系	3-1冷却材ポンプ	3V-03-175	0.6	化学体積制御系	3-1冷却材ポンプ	3V-03-177	0.6	化学体積制御系	3-1冷却材ポンプ	3V-03-255	0.86	原子炉建屋冷却水	3-A-1冷却材ポンプ	3V-04-013A	1.12	原子炉建屋冷却水	3-B-1冷却材ポンプ	3V-04-013B	1.12	高圧注入系	3-1冷却材ポンプ	3V-01-009A	0.6	高圧注入系	3-1冷却材ポンプ	3V-01-009B	0.6	高圧注入系	3-1冷却材ポンプ	3V-01-051	0.6	<p>【女川・大飯】          設計方針の相違          プラント構成（配置）の相違</p> <p>【女川】          記載表現の相違</p>
系統名称	機器名称	設置高さ (m)																																																																																																																																																													
原子炉建屋冷却水	3-1冷却材ポンプ	1.12																																																																																																																																																													
原子炉建屋冷却水	3-2冷却材ポンプ	1.12																																																																																																																																																													
原子炉建屋冷却水	3-3冷却材ポンプ	1.12																																																																																																																																																													
系統名称	機器名称	設置高さ (m)																																																																																																																																																													
原子炉建屋冷却水	3-4冷却材ポンプ	1.12																																																																																																																																																													
原子炉建屋冷却水	3-5冷却材ポンプ	1.12																																																																																																																																																													
原子炉建屋冷却水	3-6冷却材ポンプ	1.12																																																																																																																																																													
系統名称	機器名称	設置高さ (m)																																																																																																																																																													
原子炉建屋冷却水	3-7冷却材ポンプ	1.12																																																																																																																																																													
原子炉建屋冷却水	3-8冷却材ポンプ	1.12																																																																																																																																																													
原子炉建屋冷却水	3-9冷却材ポンプ	1.12																																																																																																																																																													
系統名称	機器名称	設置高さ (m)																																																																																																																																																													
原子炉建屋冷却水	3-10冷却材ポンプ	1.12																																																																																																																																																													
原子炉建屋冷却水	3-11冷却材ポンプ	1.12																																																																																																																																																													
原子炉建屋冷却水	3-12冷却材ポンプ	1.12																																																																																																																																																													
系統名称	機器名称	設置高さ (m)																																																																																																																																																													
原子炉建屋冷却水	3-13冷却材ポンプ	1.12																																																																																																																																																													
原子炉建屋冷却水	3-14冷却材ポンプ	1.12																																																																																																																																																													
原子炉建屋冷却水	3-15冷却材ポンプ	1.12																																																																																																																																																													
系統名称	機器名称	設置高さ (m)																																																																																																																																																													
原子炉建屋冷却水	3-16冷却材ポンプ	1.12																																																																																																																																																													
原子炉建屋冷却水	3-17冷却材ポンプ	1.12																																																																																																																																																													
原子炉建屋冷却水	3-18冷却材ポンプ	1.12																																																																																																																																																													
系統名称	機器名称	設置高さ (m)																																																																																																																																																													
原子炉建屋冷却水	3-19冷却材ポンプ	1.12																																																																																																																																																													
原子炉建屋冷却水	3-20冷却材ポンプ	1.12																																																																																																																																																													
原子炉建屋冷却水	3-21冷却材ポンプ	1.12																																																																																																																																																													
系統名称	機器名称	設置高さ (m)																																																																																																																																																													
原子炉建屋冷却水	3-22冷却材ポンプ	1.12																																																																																																																																																													
原子炉建屋冷却水	3-23冷却材ポンプ	1.12																																																																																																																																																													
原子炉建屋冷却水	3-24冷却材ポンプ	1.12																																																																																																																																																													
系統名称	機器名称	機器番号	設置高さ (m)																																																																																																																																																												
原子炉建屋冷却水	3-1冷却材ポンプ	3V-02-422	1.38																																																																																																																																																												
原子炉建屋冷却水	3-2冷却材ポンプ	3V-02-426	0.88																																																																																																																																																												
原子炉建屋冷却水	3-1冷却材ポンプ	3V-02-501	1.12																																																																																																																																																												
原子炉建屋冷却水	3-1冷却材ポンプ	3V-02-502	1.12																																																																																																																																																												
原子炉建屋冷却水	3-1冷却材ポンプ	3V-02-520	1.12																																																																																																																																																												
系統名称	機器名称	機器番号	設置高さ (m)																																																																																																																																																												
化学体積制御系	3-1冷却材ポンプ	3V-03-175	0.6																																																																																																																																																												
化学体積制御系	3-1冷却材ポンプ	3V-03-177	0.6																																																																																																																																																												
化学体積制御系	3-1冷却材ポンプ	3V-03-255	0.86																																																																																																																																																												
原子炉建屋冷却水	3-A-1冷却材ポンプ	3V-04-013A	1.12																																																																																																																																																												
原子炉建屋冷却水	3-B-1冷却材ポンプ	3V-04-013B	1.12																																																																																																																																																												
高圧注入系	3-1冷却材ポンプ	3V-01-009A	0.6																																																																																																																																																												
高圧注入系	3-1冷却材ポンプ	3V-01-009B	0.6																																																																																																																																																												
高圧注入系	3-1冷却材ポンプ	3V-01-051	0.6																																																																																																																																																												
	<p>図1 防護対象設備配置図(6/23)</p>	<p>図1 防護対象設備配置図 (6/15)</p>																																																																																																																																																													

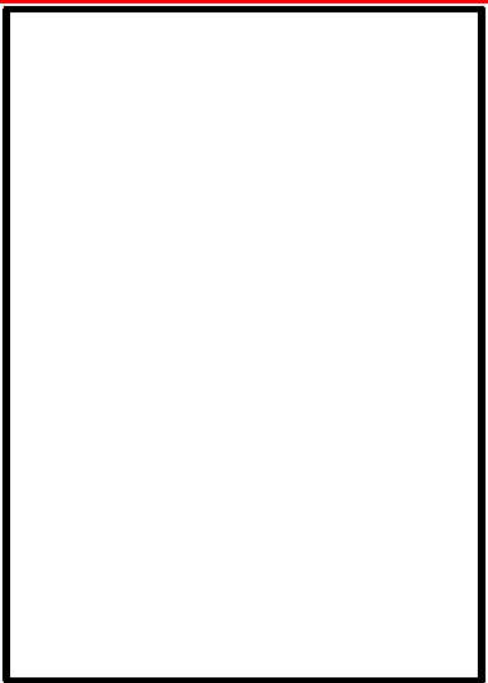
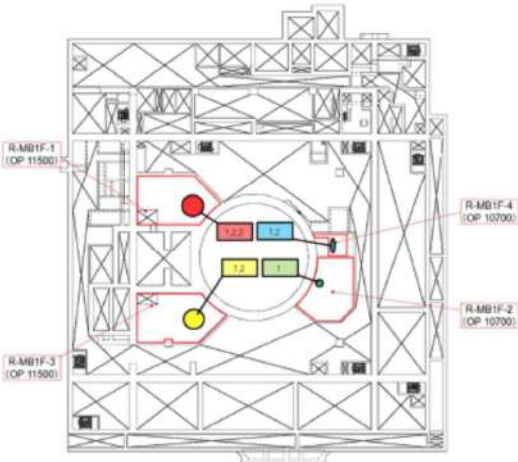





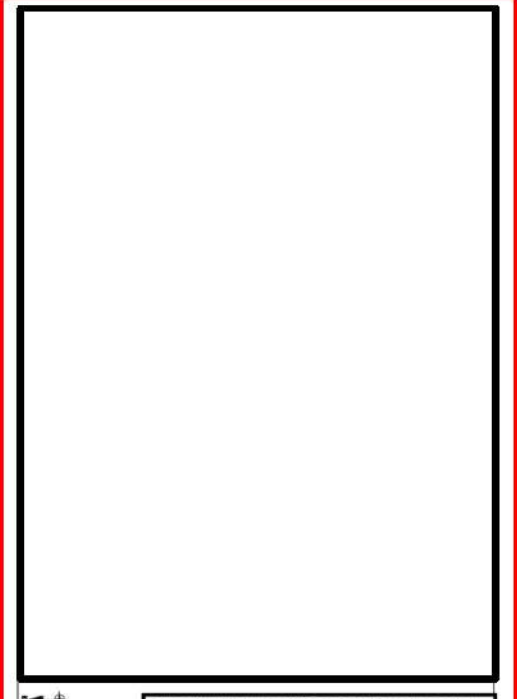

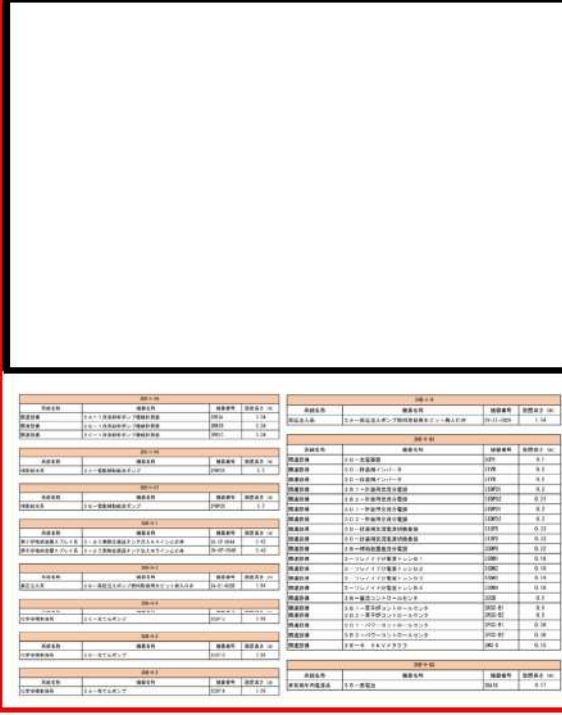




赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																
 <p style="text-align: center;">枠組みの範囲は機密に係る事項ですので公開できません。</p>	 <p style="text-align: center;">原子炉建屋 MB1F</p> <table border="1" data-bbox="748 762 1234 1034"> <thead> <tr> <th colspan="4">R-MB1F-1</th> </tr> <tr> <th>No.</th> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>設置量[m]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>保安炉駆動弁(CMB1)</td> <td>CMB1駆動弁(C)・PAC11217・WAT・PAC</td> <td>0.000</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>保安炉駆動弁(A)</td> <td>RMR-A高LPC注入調整弁(14-F16A4)</td> <td>0.040</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>保安炉駆動弁(B)</td> <td>CMB2 S-Cランブルガス調整弁(12E)・TDR18A1</td> <td>1.000</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="748 847 1234 895"> <thead> <tr> <th colspan="4">R-MB1F-2</th> </tr> <tr> <th>No.</th> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>設置量[m]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>高圧炉心スプレイ系</td> <td>HPG2注入調整弁(122-F16B1)</td> <td>0.040</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="748 903 1234 951"> <thead> <tr> <th colspan="4">R-MB1F-3</th> </tr> <tr> <th>No.</th> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>設置量[m]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>保安炉駆動弁(A)</td> <td>RMR-A高LPC注入調整弁(14-F16A4)</td> <td>0.040</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>保安炉駆動弁(B)</td> <td>RMR-B高LPC注入調整弁(14-F16B4)</td> <td>0.040</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="748 959 1234 1023"> <thead> <tr> <th colspan="4">R-MB1F-4</th> </tr> <tr> <th>No.</th> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>設置量[m]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>保安炉駆動弁(C)</td> <td>RMR-C高LPC注入調整弁(14-F16C4)</td> <td>0.040</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>高圧炉心スプレイ系</td> <td>LPC2注入調整弁(121-F16B1)</td> <td>0.040</td> </tr> </tbody> </table>	R-MB1F-1				No.	系統名称	機器名称	設置量[m]	1	保安炉駆動弁(CMB1)	CMB1駆動弁(C)・PAC11217・WAT・PAC	0.000	2	保安炉駆動弁(A)	RMR-A高LPC注入調整弁(14-F16A4)	0.040	3	保安炉駆動弁(B)	CMB2 S-Cランブルガス調整弁(12E)・TDR18A1	1.000	R-MB1F-2				No.	系統名称	機器名称	設置量[m]	1	高圧炉心スプレイ系	HPG2注入調整弁(122-F16B1)	0.040	R-MB1F-3				No.	系統名称	機器名称	設置量[m]	1	保安炉駆動弁(A)	RMR-A高LPC注入調整弁(14-F16A4)	0.040	2	保安炉駆動弁(B)	RMR-B高LPC注入調整弁(14-F16B4)	0.040	R-MB1F-4				No.	系統名称	機器名称	設置量[m]	1	保安炉駆動弁(C)	RMR-C高LPC注入調整弁(14-F16C4)	0.040	2	高圧炉心スプレイ系	LPC2注入調整弁(121-F16B1)	0.040	 <table border="1" data-bbox="1285 595 1854 874"> <thead> <tr> <th colspan="4">保安炉系</th> <th colspan="4">保安炉系</th> </tr> <tr> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>設置量</th> <th>単位</th> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>設置量</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保安炉駆動弁(A)</td> <td>CMB1駆動弁(C)・PAC11217・WAT・PAC</td> <td>0.000</td> <td>個</td> <td>保安炉駆動弁(A)</td> <td>RMR-A高LPC注入調整弁(14-F16A4)</td> <td>0.040</td> <td>個</td> </tr> <tr> <td>保安炉駆動弁(B)</td> <td>CMB2 S-Cランブルガス調整弁(12E)・TDR18A1</td> <td>1.000</td> <td>個</td> <td>保安炉駆動弁(B)</td> <td>RMR-B高LPC注入調整弁(14-F16B4)</td> <td>0.040</td> <td>個</td> </tr> <tr> <td>保安炉駆動弁(C)</td> <td>RMR-C高LPC注入調整弁(14-F16C4)</td> <td>0.040</td> <td>個</td> <td>保安炉駆動弁(C)</td> <td>RMR-C高LPC注入調整弁(14-F16C4)</td> <td>0.040</td> <td>個</td> </tr> <tr> <td>高圧炉心スプレイ系</td> <td>HPG2注入調整弁(122-F16B1)</td> <td>0.040</td> <td>個</td> <td>高圧炉心スプレイ系</td> <td>LPC2注入調整弁(121-F16B1)</td> <td>0.040</td> <td>個</td> </tr> </tbody> </table>	保安炉系				保安炉系				系統名称	機器名称	設置量	単位	系統名称	機器名称	設置量	単位	保安炉駆動弁(A)	CMB1駆動弁(C)・PAC11217・WAT・PAC	0.000	個	保安炉駆動弁(A)	RMR-A高LPC注入調整弁(14-F16A4)	0.040	個	保安炉駆動弁(B)	CMB2 S-Cランブルガス調整弁(12E)・TDR18A1	1.000	個	保安炉駆動弁(B)	RMR-B高LPC注入調整弁(14-F16B4)	0.040	個	保安炉駆動弁(C)	RMR-C高LPC注入調整弁(14-F16C4)	0.040	個	保安炉駆動弁(C)	RMR-C高LPC注入調整弁(14-F16C4)	0.040	個	高圧炉心スプレイ系	HPG2注入調整弁(122-F16B1)	0.040	個	高圧炉心スプレイ系	LPC2注入調整弁(121-F16B1)	0.040	個	<p>【女川・大飯】                  設計方針の相違                  プラント構成（配置）の相違</p> <p>【女川】                  記載表現の相違</p>
R-MB1F-1																																																																																																																			
No.	系統名称	機器名称	設置量[m]																																																																																																																
1	保安炉駆動弁(CMB1)	CMB1駆動弁(C)・PAC11217・WAT・PAC	0.000																																																																																																																
2	保安炉駆動弁(A)	RMR-A高LPC注入調整弁(14-F16A4)	0.040																																																																																																																
3	保安炉駆動弁(B)	CMB2 S-Cランブルガス調整弁(12E)・TDR18A1	1.000																																																																																																																
R-MB1F-2																																																																																																																			
No.	系統名称	機器名称	設置量[m]																																																																																																																
1	高圧炉心スプレイ系	HPG2注入調整弁(122-F16B1)	0.040																																																																																																																
R-MB1F-3																																																																																																																			
No.	系統名称	機器名称	設置量[m]																																																																																																																
1	保安炉駆動弁(A)	RMR-A高LPC注入調整弁(14-F16A4)	0.040																																																																																																																
2	保安炉駆動弁(B)	RMR-B高LPC注入調整弁(14-F16B4)	0.040																																																																																																																
R-MB1F-4																																																																																																																			
No.	系統名称	機器名称	設置量[m]																																																																																																																
1	保安炉駆動弁(C)	RMR-C高LPC注入調整弁(14-F16C4)	0.040																																																																																																																
2	高圧炉心スプレイ系	LPC2注入調整弁(121-F16B1)	0.040																																																																																																																
保安炉系				保安炉系																																																																																																															
系統名称	機器名称	設置量	単位	系統名称	機器名称	設置量	単位																																																																																																												
保安炉駆動弁(A)	CMB1駆動弁(C)・PAC11217・WAT・PAC	0.000	個	保安炉駆動弁(A)	RMR-A高LPC注入調整弁(14-F16A4)	0.040	個																																																																																																												
保安炉駆動弁(B)	CMB2 S-Cランブルガス調整弁(12E)・TDR18A1	1.000	個	保安炉駆動弁(B)	RMR-B高LPC注入調整弁(14-F16B4)	0.040	個																																																																																																												
保安炉駆動弁(C)	RMR-C高LPC注入調整弁(14-F16C4)	0.040	個	保安炉駆動弁(C)	RMR-C高LPC注入調整弁(14-F16C4)	0.040	個																																																																																																												
高圧炉心スプレイ系	HPG2注入調整弁(122-F16B1)	0.040	個	高圧炉心スプレイ系	LPC2注入調整弁(121-F16B1)	0.040	個																																																																																																												
	<p>図1 防護対象設備配置図(9/23)</p>	<p>図1 防護対象設備配置図(9/15)</p> <p>枠組みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>																																																																																																																	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

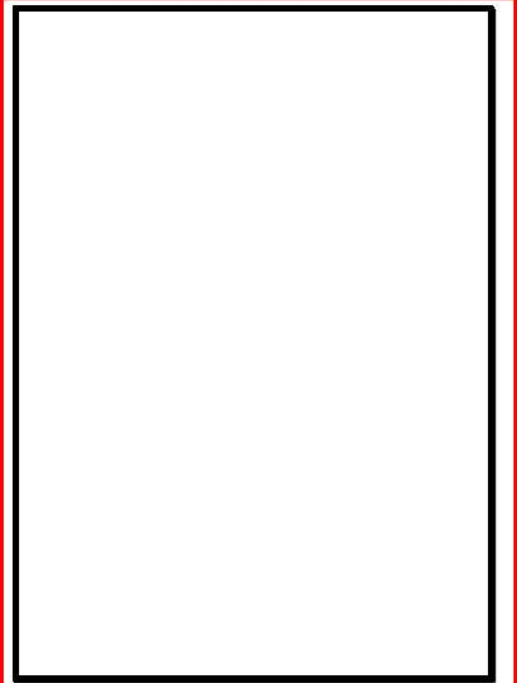
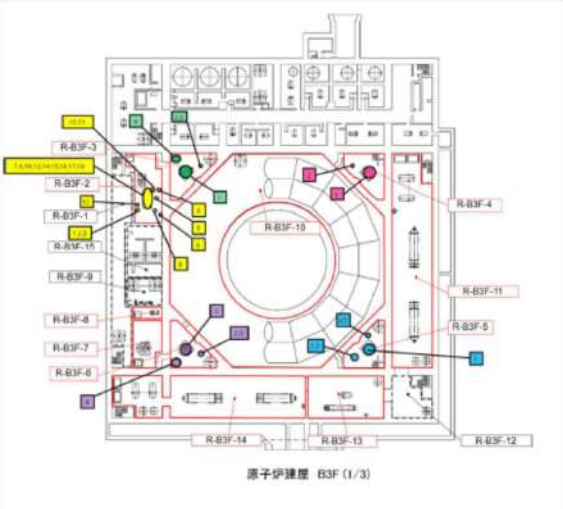
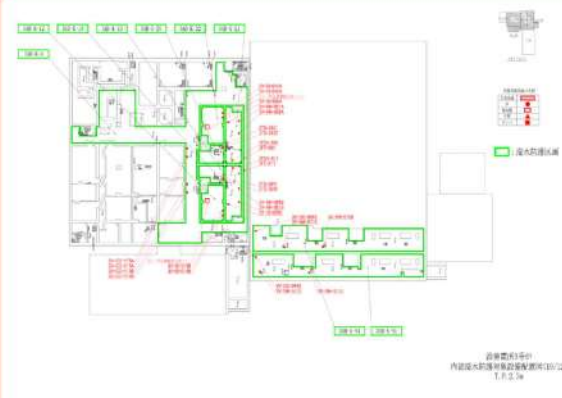
大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p>枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開できません。</p>	 <p>図1 防護対象設備配置図(10/23)</p>	 <p>図1 防護対象設備配置図 (10/15)</p> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	<p>【女川・大飯】                  設計方針の相違                  プラント構成（配置）の相違</p> <p>【女川】                  記載表現の相違</p>





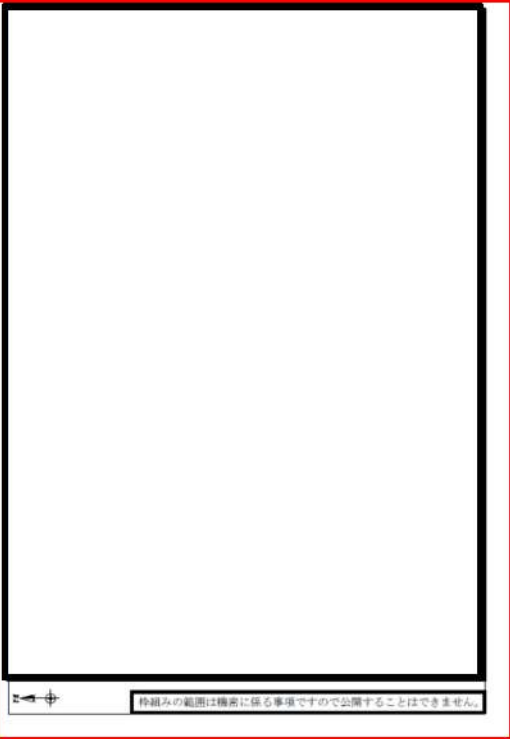

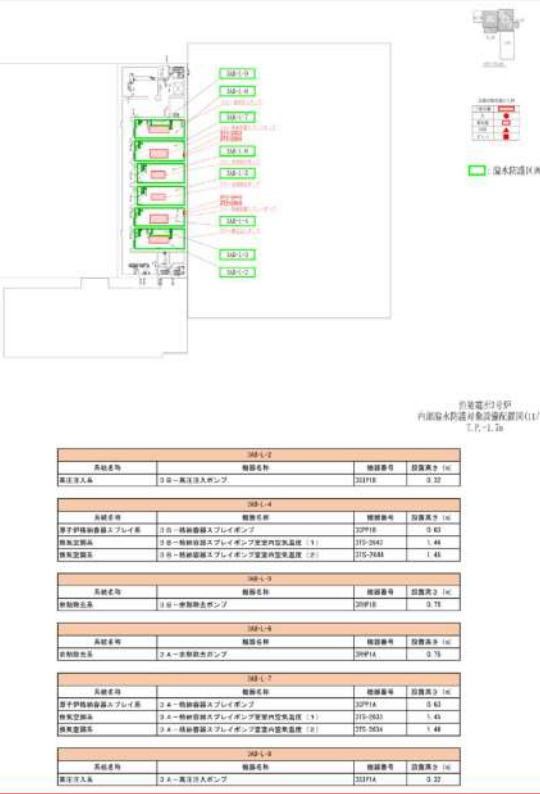


赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																
 <p data-bbox="280 877 638 901">枠組みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p>	 <p data-bbox="952 646 1086 670">原子伊建屋 B3F (1/3)</p> <table border="1" data-bbox="728 718 985 949"> <thead> <tr> <th>設備名称</th> <th>機能</th> <th>設置数</th> <th>設置位置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="996 718 1254 949"> <thead> <tr> <th>設備名称</th> <th>機能</th> <th>設置数</th> <th>設置位置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="840 1061 1131 1085">図1 防護対象設備配置図 (13/23)</p>	設備名称	機能	設置数	設置位置	...	...	...	...	設備名称	機能	設置数	設置位置	...	...	...	...	 <p data-bbox="1758 534 1848 566">泊発電所3号炉 内訳図(防護対象設備配置図)13/15 1.3.2.3a</p> <table border="1" data-bbox="1288 590 1579 901"> <thead> <tr> <th>設備名称</th> <th>機能</th> <th>設置数</th> <th>設置位置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1579 590 1848 901"> <thead> <tr> <th>設備名称</th> <th>機能</th> <th>設置数</th> <th>設置位置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1422 925 1713 949">図1 防護対象設備配置図 (13/15)</p>	設備名称	機能	設置数	設置位置	...	...	...	...	設備名称	機能	設置数	設置位置	...	...	...	...	<p data-bbox="1870 183 1982 207">【女川・大飯】</p> <p data-bbox="1870 215 2004 239">設計方針の相違</p> <p data-bbox="1870 247 2105 271">プラント構成（配置）の相違</p> <p data-bbox="1870 279 1937 303">【女川】</p> <p data-bbox="1870 311 2004 335">記載表現の相違</p>
設備名称	機能	設置数	設置位置																																
...	...	...	...																																
設備名称	機能	設置数	設置位置																																
...	...	...	...																																
設備名称	機能	設置数	設置位置																																
...	...	...	...																																
設備名称	機能	設置数	設置位置																																
...	...	...	...																																

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

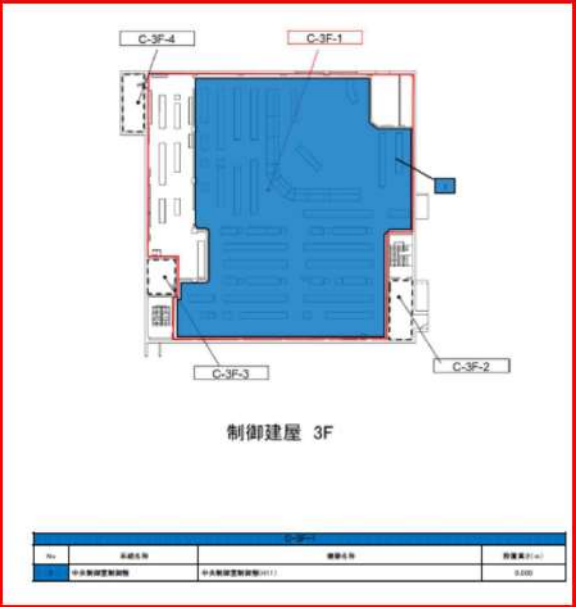
第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料6）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p>特記の範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p>	 <p>原子炉建屋 B3F (2/3)</p>	 <p>図1 防護対象設備配置図 (14/15)</p>	<p>【女川・大飯】                  設計方針の相違                  プラント構成（配置）の相違</p> <p>【女川】                  記載表現の相違</p>

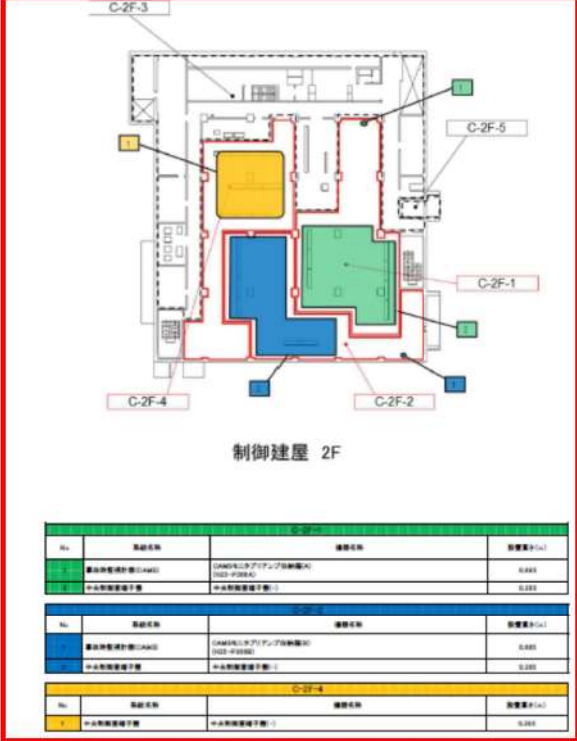




赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p style="text-align: center;">制御建屋 3F</p> <p style="text-align: center;">図1 防護対象設備配置図(16/23)</p>		<p>【女川】</p> <p>記載表現の相違</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント構成（配置）の相違</p>

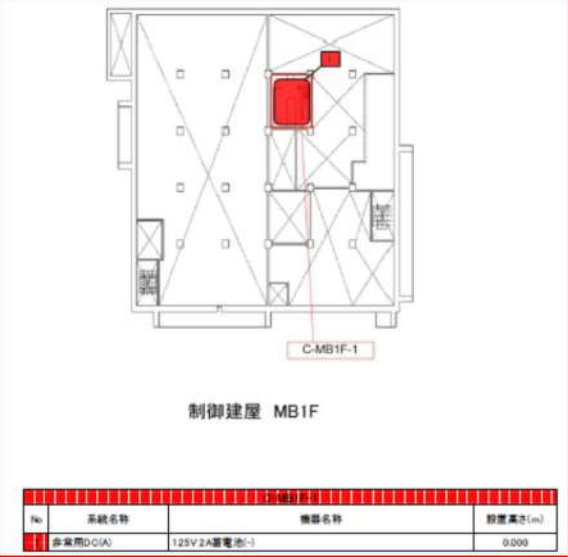
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																
	 <p style="text-align: center;">制御建屋 2F</p> <table border="1" data-bbox="739 702 1254 774"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>設置量数[台]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>保安対象機子機(C-2F-1)</td> <td>COMPAQコンピュータ制御装置(C-2F-1) (2002-F100A)</td> <td>0.000</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>保安対象機子機</td> <td>保安対象機子機(-)</td> <td>0.000</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="739 782 1254 853"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>設置量数[台]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>保安対象機子機(C-2F-2)</td> <td>COMPAQコンピュータ制御装置(C-2F-2) (2002-F100B)</td> <td>0.000</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>保安対象機子機</td> <td>保安対象機子機(-)</td> <td>0.000</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="739 861 1254 909"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>系統名称</th> <th>機器名称</th> <th>設置量数[台]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>保安対象機子機</td> <td>保安対象機子機(-)</td> <td>0.000</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">図1 防護対象設備配置図(17/23)</p>	No.	系統名称	機器名称	設置量数[台]	1	保安対象機子機(C-2F-1)	COMPAQコンピュータ制御装置(C-2F-1) (2002-F100A)	0.000	2	保安対象機子機	保安対象機子機(-)	0.000	No.	系統名称	機器名称	設置量数[台]	1	保安対象機子機(C-2F-2)	COMPAQコンピュータ制御装置(C-2F-2) (2002-F100B)	0.000	2	保安対象機子機	保安対象機子機(-)	0.000	No.	系統名称	機器名称	設置量数[台]	1	保安対象機子機	保安対象機子機(-)	0.000		<p>【女川】</p> <p>記載表現の相違                  設計方針の相違                  プラント構成（配置）の相違</p>
No.	系統名称	機器名称	設置量数[台]																																
1	保安対象機子機(C-2F-1)	COMPAQコンピュータ制御装置(C-2F-1) (2002-F100A)	0.000																																
2	保安対象機子機	保安対象機子機(-)	0.000																																
No.	系統名称	機器名称	設置量数[台]																																
1	保安対象機子機(C-2F-2)	COMPAQコンピュータ制御装置(C-2F-2) (2002-F100B)	0.000																																
2	保安対象機子機	保安対象機子機(-)	0.000																																
No.	系統名称	機器名称	設置量数[台]																																
1	保安対象機子機	保安対象機子機(-)	0.000																																

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="701 178 1274 986" style="border: 2px solid red; height: 500px; width: 100%;"></div> <div data-bbox="840 997 1131 1021" style="text-align: center;"> <p>図1 防護対象設備配置図(18/23)</p> </div> <div data-bbox="701 1040 1263 1077" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;"> <p>枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。</p> </div>		<p>【女川】</p> <p>記載表現の相違</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント構成（配置）の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p style="text-align: center;">制御建屋 MB1F</p> <p style="text-align: center;">図1 防護対象設備配置図(19/23)</p>		<p>【女川】</p> <p>記載表現の相違</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント構成（配置）の相違</p>

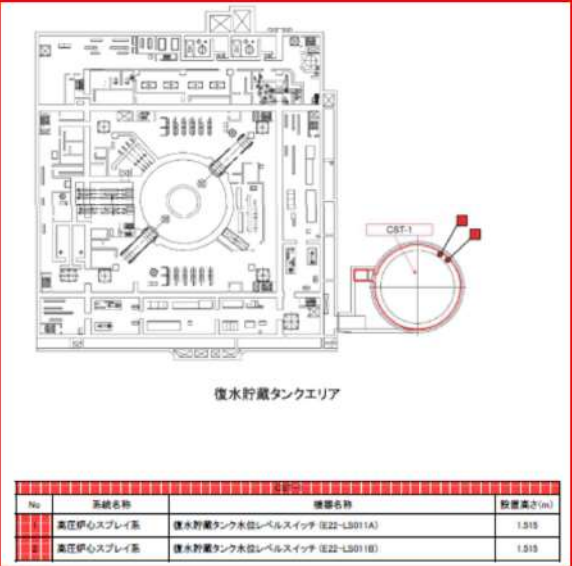
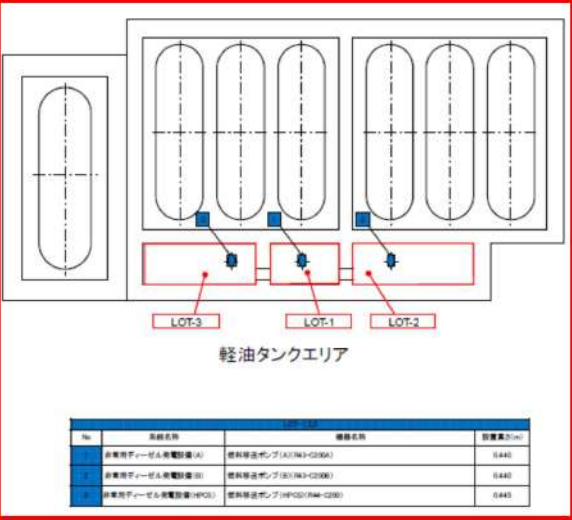




赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="701 175 1274 957" style="border: 2px solid red; height: 490px; width: 256px;"></div> <p data-bbox="840 962 1128 986">図1 防護対象設備配置図(21/23)</p> <div data-bbox="707 1008 1263 1046" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p data-bbox="779 1018 1178 1038">枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。</p> </div>		<p data-bbox="1877 180 1933 201">【女川】</p> <p data-bbox="1877 217 1995 237">記載表現の相違</p> <p data-bbox="1877 253 1995 274">設計方針の相違</p> <p data-bbox="1877 290 2096 311">プラント構成（配置）の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																
	 <p style="text-align: center;">復水貯蔵タンクエリア</p> <table border="1" data-bbox="712 662 1263 742"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>設備名称</th> <th>機器名称</th> <th>設置高さ(m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>高圧炉心スプレイ系</td> <td>復水貯蔵タンク水位レベルスイッチ (E22-LS011A)</td> <td>1.515</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>高圧炉心スプレイ系</td> <td>復水貯蔵タンク水位レベルスイッチ (E22-LS011B)</td> <td>1.515</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">図1 防護対象設備配置図 (22/23)</p>	No.	設備名称	機器名称	設置高さ(m)	1	高圧炉心スプレイ系	復水貯蔵タンク水位レベルスイッチ (E22-LS011A)	1.515	2	高圧炉心スプレイ系	復水貯蔵タンク水位レベルスイッチ (E22-LS011B)	1.515		<p>【女川】</p> <p><u>記載表現の相違</u></p> <p><u>設計方針の相違</u></p> <p>プラント構成 (配置) の相違</p>				
No.	設備名称	機器名称	設置高さ(m)																
1	高圧炉心スプレイ系	復水貯蔵タンク水位レベルスイッチ (E22-LS011A)	1.515																
2	高圧炉心スプレイ系	復水貯蔵タンク水位レベルスイッチ (E22-LS011B)	1.515																
	 <p style="text-align: center;">軽油タンクエリア</p> <table border="1" data-bbox="770 1252 1227 1340"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>設備名称</th> <th>機器名称</th> <th>設置高さ(m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>非常用ディーゼル発電機 (A)</td> <td>燃料移送ポンプ (A)(763-G266A)</td> <td>0.440</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>非常用ディーゼル発電機 (B)</td> <td>燃料移送ポンプ (B)(763-G266B)</td> <td>0.440</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>非常用ディーゼル発電機 (PCS)</td> <td>燃料移送ポンプ (PCS)(764-G267)</td> <td>0.440</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">図1 防護対象設備配置図 (23/23)</p>	No.	設備名称	機器名称	設置高さ(m)	1	非常用ディーゼル発電機 (A)	燃料移送ポンプ (A)(763-G266A)	0.440	2	非常用ディーゼル発電機 (B)	燃料移送ポンプ (B)(763-G266B)	0.440	3	非常用ディーゼル発電機 (PCS)	燃料移送ポンプ (PCS)(764-G267)	0.440		<p>【女川】</p> <p><u>記載表現の相違</u></p> <p><u>設計方針の相違</u></p> <p>プラント構成 (配置) の相違</p>
No.	設備名称	機器名称	設置高さ(m)																
1	非常用ディーゼル発電機 (A)	燃料移送ポンプ (A)(763-G266A)	0.440																
2	非常用ディーゼル発電機 (B)	燃料移送ポンプ (B)(763-G266B)	0.440																
3	非常用ディーゼル発電機 (PCS)	燃料移送ポンプ (PCS)(764-G267)	0.440																

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">補足資料 4-2</p> <p>4-2 原子炉格納容器内防護対象設備の溢水影響について</p> <p>2. 原子炉格納容器内防護対象設備の保守管理について</p> <p>耐環境性仕様である原子炉格納容器内の防護対象設備については、定期点検及び定期取替えを実施し、プラントの安全機能に影響のないようにしている。</p> <p>定期点検については、外観点検及び絶縁抵抗測定その他、各設備に応じた特性試験及び入出力試験を実施している。</p> <p>また、定期取替えについては、検証寿命等を考慮して取替えの周期を定め、この周期内での取替えを実施している。</p>	<p style="text-align: right;">補足説明資料 3</p> <p>溢水影響評価の対象外とした設備に関する補足</p> <p>1. 溢水影響評価から対象外とした設備</p> <p>添付資料6（溢水影響評価の対象外とする設備について）にて整理した結果の補足について示す。</p> <p>2. 「PCV内耐環境仕様の設備」についての補足</p> <p>(1) 原子炉格納容器内防護対象設備の保全状況</p> <p>原子炉冷却材喪失事故時に機能要求がある原子炉格納容器内防護対象設備については、以下のとおり保全を行っており耐環境性能の維持が図れている。</p> <p>a. 弁駆動部及び計器</p> <p>長期使用に伴いOリング等の熱劣化によるシール性能の低下や放射線の影響による計測値誤差の増加等が懸念されることから、点検周期を設定し定期的に点検を実施している。</p> <p>b. ケーブル及びケーブル接続部</p> <p>長期使用に伴い絶縁体等に経年劣化による絶縁性能の低下が懸念されるが、電力用ケーブルは定期的な絶縁抵抗測定により、許容値以上であることを確認している。</p> <p>制御・計装用ケーブルについては、系統機器の動作、又は計器の指示値等に異常がないことを確認し、絶縁低下による機能低下がないことを確認している。</p> <p>原子炉格納容器内防護対象設備の溢水影響の確認結果、並びに耐環境性機能維持に係る保全状況を表1に示す。</p> <p>また、ケーブルの被水影響について評価し、影響ないと評価した。その結果について別紙に示す。</p>	<p style="text-align: right;">補足説明資料 7</p> <p>溢水影響評価の対象外とした設備に関する補足</p> <p>1. 溢水影響評価から対象外とした設備</p> <p>添付資料6（溢水影響評価の対象外とする設備について）にて整理した結果の補足について示す。</p> <p>2. 「原子炉格納容器内耐環境仕様の設備」についての補足</p> <p>(1) 原子炉格納容器内防護対象設備の保全状況</p> <p>原子炉冷却材喪失事故時に機能要求がある原子炉格納容器内防護対象設備については、以下のとおり保全を行っており耐環境性能の維持が図れている。</p> <p>a. 弁駆動部及び計器</p> <p>長期使用に伴いOリング等の熱劣化によるシール性能の低下や放射線の影響による計測値誤差の増加等が懸念されることから、点検周期を設定し定期的に点検を実施している。</p> <p>b. ケーブル及びケーブル接続部</p> <p>長期使用に伴い絶縁体等に経年劣化による絶縁性能の低下が懸念されるが、電力用ケーブルは定期的な絶縁抵抗測定により、許容値以上であることを確認している。</p> <p>制御・計装用ケーブルについては、系統機器の動作、又は計器の指示値等に異常がないことを確認し、絶縁低下による機能低下がないことを確認している。</p> <p>原子炉格納容器内防護対象設備の溢水影響の確認結果、並びに耐環境性機能維持に係る保全状況を表1に示す。</p> <p>また、ケーブルの被水影響について評価し、影響ないと評価した。その結果について別紙に示す。</p>	<p>【女川・大飯】</p> <p><a href="#">記載表現の相違</a></p> <p>【大飯】</p> <p><a href="#">記載方針の相違</a></p> <p>女川審査実績の反映</p> <p>【女川】</p> <p><a href="#">設備名称の相違</a></p> <p>【大飯】</p> <p><a href="#">記載方針の相違</a></p> <p>女川審査実績の反映</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉		女川原子力発電所2号炉				泊発電所3号炉				相違理由																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
表1 格納容器内高レンジエリアモニタの保守管理の例		表1 原子炉格納容器内防護対象設備リスト(1/7)				表1 原子炉格納容器内防護対象設備リスト(1/4)				【大阪】 <a href="#">記載方針の相違</a> 女川審査実績の反映 【女川】 <a href="#">設計方針の相違</a> プラント設計の相違 <a href="#">記載表現の相違</a>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>点検内容</th> <th>点検周期 [回/定検]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外観点検</td> <td>1/1</td> </tr> <tr> <td>絶縁抵抗測定</td> <td>1/1</td> </tr> <tr> <td>静電容量測定</td> <td>1/1</td> </tr> <tr> <td>特性試験</td> <td>1/1</td> </tr> <tr> <td>入出力試験</td> <td>1/1</td> </tr> <tr> <td>定期取替</td> <td>1/30</td> </tr> </tbody> </table>	点検内容	点検周期 [回/定検]	外観点検	1/1	絶縁抵抗測定	1/1	静電容量測定	1/1	特性試験		1/1	入出力試験	1/1	定期取替	1/30	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">機器番号</th> <th rowspan="2">機能喪失高さ (O.P.)</th> <th rowspan="2">PCV内環境条件の適合性</th> <th colspan="3">保全状況</th> </tr> <tr> <th>点検部位</th> <th>周期</th> <th>保全内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>サブプレッションプール 水温度(11°)</td><td>T11-TE001A</td><td>-1600</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr><td>サブプレッションプール 水温度(13°)</td><td>T11-TE002A</td><td>-1600</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr><td>サブプレッションプール 水温度(56°)</td><td>T11-TE003A</td><td>-1600</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr><td>サブプレッションプール 水温度(79°)</td><td>T11-TE004A</td><td>-1600</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr><td>サブプレッションプール 水温度(11°)</td><td>T11-TE001B</td><td>-1595</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr><td>サブプレッションプール 水温度(13°)</td><td>T11-TE002B</td><td>-1595</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr><td>サブプレッションプール 水温度(56°)</td><td>T11-TE003B</td><td>-1595</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr><td>サブプレッションプール 水温度(79°)</td><td>T11-TE004B</td><td>-1595</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr><td>サブプレッションプール 水温度(101°)</td><td>T11-TE005A</td><td>-1600</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr><td>サブプレッションプール 水温度(124°)</td><td>T11-TE006A</td><td>-1600</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr><td>サブプレッションプール 水温度(146°)</td><td>T11-TE007A</td><td>-1600</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr><td>サブプレッションプール 水温度(169°)</td><td>T11-TE008A</td><td>-1600</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr><td>サブプレッションプール 水温度(101°)</td><td>T11-TE005B</td><td>-1595</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr><td>サブプレッションプール 水温度(124°)</td><td>T11-TE006B</td><td>-1595</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr><td>サブプレッションプール 水温度(146°)</td><td>T11-TE007B</td><td>-1595</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr><td>サブプレッションプール 水温度(169°)</td><td>T11-TE008B</td><td>-1595</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr><td>サブプレッションプール 水温度(191°)</td><td>T11-TE009A</td><td>-1600</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr><td>サブプレッションプール 水温度(214°)</td><td>T11-TE010A</td><td>-1600</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr><td>サブプレッションプール 水温度(236°)</td><td>T11-TE011A</td><td>-1600</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr><td>サブプレッションプール 水温度(259°)</td><td>T11-TE012A</td><td>-1600</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr><td>サブプレッションプール 水温度(191°)</td><td>T11-TE009B</td><td>-1595</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> </tbody> </table>				機器名称	機器番号	機能喪失高さ (O.P.)	PCV内環境条件の適合性	保全状況			点検部位	周期	保全内容	サブプレッションプール 水温度(11°)	T11-TE001A	-1600	○	本体	1C	特性試験	サブプレッションプール 水温度(13°)	T11-TE002A	-1600	○	本体	1C	特性試験	サブプレッションプール 水温度(56°)	T11-TE003A	-1600	○	本体	1C	特性試験	サブプレッションプール 水温度(79°)	T11-TE004A	-1600	○	本体	1C	特性試験	サブプレッションプール 水温度(11°)	T11-TE001B	-1595	○	本体	1C	特性試験	サブプレッションプール 水温度(13°)	T11-TE002B	-1595	○	本体	1C	特性試験	サブプレッションプール 水温度(56°)	T11-TE003B	-1595	○	本体	1C	特性試験	サブプレッションプール 水温度(79°)	T11-TE004B	-1595	○	本体	1C	特性試験	サブプレッションプール 水温度(101°)	T11-TE005A	-1600	○	本体	1C	特性試験	サブプレッションプール 水温度(124°)	T11-TE006A	-1600	○	本体	1C	特性試験	サブプレッションプール 水温度(146°)	T11-TE007A	-1600	○	本体	1C	特性試験	サブプレッションプール 水温度(169°)	T11-TE008A	-1600	○	本体	1C	特性試験	サブプレッションプール 水温度(101°)	T11-TE005B	-1595	○	本体	1C	特性試験	サブプレッションプール 水温度(124°)	T11-TE006B	-1595	○	本体	1C	特性試験	サブプレッションプール 水温度(146°)	T11-TE007B	-1595	○	本体	1C	特性試験	サブプレッションプール 水温度(169°)	T11-TE008B	-1595	○	本体	1C	特性試験	サブプレッションプール 水温度(191°)	T11-TE009A	-1600	○	本体	1C	特性試験	サブプレッションプール 水温度(214°)	T11-TE010A	-1600	○	本体	1C	特性試験	サブプレッションプール 水温度(236°)	T11-TE011A	-1600	○	本体	1C	特性試験	サブプレッションプール 水温度(259°)	T11-TE012A	-1600	○	本体	1C	特性試験	サブプレッションプール 水温度(191°)	T11-TE009B	-1595	○	本体	1C	特性試験	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">機器番号</th> <th rowspan="2">機能喪失高さ (I.P.)</th> <th rowspan="2">C/V内環境条件の適合性</th> <th colspan="3">保全状況</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>点検部位</th> <th>周期</th> <th>保全内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">加圧器水位</td> <td rowspan="2">3LT-451, 452, 453, 454</td> <td rowspan="2">18.8m</td> <td rowspan="2">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>外観点検</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>特性試験</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">加圧器圧力</td> <td rowspan="2">3PT-451, 452, 453, 454</td> <td rowspan="2">25.8m</td> <td rowspan="2">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>外観点検</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>特性試験</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">1次冷却器圧力</td> <td rowspan="2">3PT-410, 430</td> <td rowspan="2">18.8m</td> <td rowspan="2">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>外観点検</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>特性試験</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">1次冷却材高温側温度(狭域)</td> <td rowspan="2">3TE-411A, 413A, 415A, 421A, 423A, 425A, 431A, 433A, 435A, 441A, 443A, 445A</td> <td rowspan="2">22.0m</td> <td rowspan="2">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>外観点検</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>特性試験</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">1次冷却材低温側温度(狭域)</td> <td rowspan="2">3TE-411B, 421B, 431B, 441B</td> <td rowspan="2">22.0m</td> <td rowspan="2">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>外観点検</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>特性試験</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">1次冷却材高温側温度(広域)</td> <td rowspan="2">3TE-410, 420, 430</td> <td rowspan="2">23.0m</td> <td rowspan="2">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>外観点検</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>特性試験</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">1次冷却材低温側温度(広域)</td> <td rowspan="2">3TE-417, 427, 437</td> <td rowspan="2">22.2m</td> <td rowspan="2">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>外観点検</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>特性試験</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">1次冷却材流量</td> <td rowspan="2">3FT-412, 413, 414, 415, 422, 423, 424, 425, 432, 433, 435, 435</td> <td rowspan="2">-</td> <td rowspan="2">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>外観点検</td> <td rowspan="2">※1</td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>特性試験</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">格納容器再循環ポンプ水位(狭域)</td> <td rowspan="2">3LT-620, 630</td> <td rowspan="2">16.5m</td> <td rowspan="2">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>外観点検</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>特性試験</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">格納容器再循環ポンプ水位(広域)</td> <td rowspan="2">3LT-621, 631</td> <td rowspan="2">15.5m</td> <td rowspan="2">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>外観点検</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>特性試験</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">蒸気発生器水位(狭域)</td> <td rowspan="2">3LT-469, 461, 462, 463, 470, 471, 472, 473, 480, 481, 482, 483</td> <td rowspan="2">25.8m</td> <td rowspan="2">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>外観点検</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>特性試験</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">蒸気発生器水位(広域)</td> <td rowspan="2">3LT-464, 474, 484</td> <td rowspan="2">18.8m</td> <td rowspan="2">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>外観点検</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>特性試験</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中性子検出器</td> <td rowspan="2">3NE31, 32</td> <td rowspan="2">17.5m</td> <td rowspan="2">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>特性試験</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>検出器</td> <td>26M</td> <td>取替</td> </tr> </tbody> </table>				機器名称	機器番号	機能喪失高さ (I.P.)	C/V内環境条件の適合性	保全状況			備考	点検部位	周期	保全内容	加圧器水位	3LT-451, 452, 453, 454	18.8m	○	本体	13M	外観点検		本体	13M	特性試験	加圧器圧力	3PT-451, 452, 453, 454	25.8m	○	本体	13M	外観点検		本体	13M	特性試験	1次冷却器圧力	3PT-410, 430	18.8m	○	本体	13M	外観点検		本体	13M	特性試験	1次冷却材高温側温度(狭域)	3TE-411A, 413A, 415A, 421A, 423A, 425A, 431A, 433A, 435A, 441A, 443A, 445A	22.0m	○	本体	13M	外観点検		本体	13M	特性試験	1次冷却材低温側温度(狭域)	3TE-411B, 421B, 431B, 441B	22.0m	○	本体	13M	外観点検		本体	13M	特性試験	1次冷却材高温側温度(広域)	3TE-410, 420, 430	23.0m	○	本体	13M	外観点検		本体	13M	特性試験	1次冷却材低温側温度(広域)	3TE-417, 427, 437	22.2m	○	本体	13M	外観点検		本体	13M	特性試験	1次冷却材流量	3FT-412, 413, 414, 415, 422, 423, 424, 425, 432, 433, 435, 435	-	○	本体	13M	外観点検	※1	本体	13M	特性試験	格納容器再循環ポンプ水位(狭域)	3LT-620, 630	16.5m	○	本体	13M	外観点検		本体	13M	特性試験	格納容器再循環ポンプ水位(広域)	3LT-621, 631	15.5m	○	本体	13M	外観点検		本体	13M	特性試験	蒸気発生器水位(狭域)	3LT-469, 461, 462, 463, 470, 471, 472, 473, 480, 481, 482, 483	25.8m	○	本体	13M	外観点検		本体	13M	特性試験	蒸気発生器水位(広域)	3LT-464, 474, 484	18.8m	○	本体	13M	外観点検		本体	13M	特性試験	中性子検出器	3NE31, 32	17.5m	○	本体	13M	特性試験		検出器	26M
点検内容	点検周期 [回/定検]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
外観点検	1/1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
絶縁抵抗測定	1/1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
静電容量測定	1/1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
特性試験	1/1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
入出力試験	1/1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
定期取替	1/30																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
機器名称	機器番号	機能喪失高さ (O.P.)	PCV内環境条件の適合性	保全状況																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
				点検部位	周期	保全内容																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
サブプレッションプール 水温度(11°)	T11-TE001A	-1600	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
サブプレッションプール 水温度(13°)	T11-TE002A	-1600	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
サブプレッションプール 水温度(56°)	T11-TE003A	-1600	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
サブプレッションプール 水温度(79°)	T11-TE004A	-1600	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
サブプレッションプール 水温度(11°)	T11-TE001B	-1595	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
サブプレッションプール 水温度(13°)	T11-TE002B	-1595	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
サブプレッションプール 水温度(56°)	T11-TE003B	-1595	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
サブプレッションプール 水温度(79°)	T11-TE004B	-1595	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
サブプレッションプール 水温度(101°)	T11-TE005A	-1600	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
サブプレッションプール 水温度(124°)	T11-TE006A	-1600	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
サブプレッションプール 水温度(146°)	T11-TE007A	-1600	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
サブプレッションプール 水温度(169°)	T11-TE008A	-1600	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
サブプレッションプール 水温度(101°)	T11-TE005B	-1595	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
サブプレッションプール 水温度(124°)	T11-TE006B	-1595	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
サブプレッションプール 水温度(146°)	T11-TE007B	-1595	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
サブプレッションプール 水温度(169°)	T11-TE008B	-1595	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
サブプレッションプール 水温度(191°)	T11-TE009A	-1600	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
サブプレッションプール 水温度(214°)	T11-TE010A	-1600	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
サブプレッションプール 水温度(236°)	T11-TE011A	-1600	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
サブプレッションプール 水温度(259°)	T11-TE012A	-1600	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
サブプレッションプール 水温度(191°)	T11-TE009B	-1595	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
機器名称	機器番号	機能喪失高さ (I.P.)	C/V内環境条件の適合性	保全状況			備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
				点検部位	周期	保全内容																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
加圧器水位	3LT-451, 452, 453, 454	18.8m	○	本体	13M	外観点検																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
				本体	13M	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
加圧器圧力	3PT-451, 452, 453, 454	25.8m	○	本体	13M	外観点検																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
				本体	13M	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
1次冷却器圧力	3PT-410, 430	18.8m	○	本体	13M	外観点検																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
				本体	13M	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
1次冷却材高温側温度(狭域)	3TE-411A, 413A, 415A, 421A, 423A, 425A, 431A, 433A, 435A, 441A, 443A, 445A	22.0m	○	本体	13M	外観点検																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
				本体	13M	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
1次冷却材低温側温度(狭域)	3TE-411B, 421B, 431B, 441B	22.0m	○	本体	13M	外観点検																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
				本体	13M	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
1次冷却材高温側温度(広域)	3TE-410, 420, 430	23.0m	○	本体	13M	外観点検																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
				本体	13M	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
1次冷却材低温側温度(広域)	3TE-417, 427, 437	22.2m	○	本体	13M	外観点検																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
				本体	13M	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
1次冷却材流量	3FT-412, 413, 414, 415, 422, 423, 424, 425, 432, 433, 435, 435	-	○	本体	13M	外観点検	※1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
				本体	13M	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
格納容器再循環ポンプ水位(狭域)	3LT-620, 630	16.5m	○	本体	13M	外観点検																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
				本体	13M	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
格納容器再循環ポンプ水位(広域)	3LT-621, 631	15.5m	○	本体	13M	外観点検																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
				本体	13M	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
蒸気発生器水位(狭域)	3LT-469, 461, 462, 463, 470, 471, 472, 473, 480, 481, 482, 483	25.8m	○	本体	13M	外観点検																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
				本体	13M	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
蒸気発生器水位(広域)	3LT-464, 474, 484	18.8m	○	本体	13M	外観点検																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
				本体	13M	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
中性子検出器	3NE31, 32	17.5m	○	本体	13M	特性試験																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
				検出器	26M	取替																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
表2 原子炉格納容器内防護対象設備の定期取替周期																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>設備</th> <th>取替周期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電動弁駆動装置</td> <td>- ※1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">空気制御弁</td> <td>リミットスイッチ</td> <td>~17.6年</td> </tr> <tr> <td>電磁弁</td> <td>~4年</td> </tr> <tr> <td>伝送器</td> <td>~19.8年</td> </tr> <tr> <td>温度計</td> <td>~35.5年</td> </tr> <tr> <td>中性子束検出器</td> <td>~5年</td> </tr> <tr> <td>格納容器内高レンジエリアモニタ</td> <td>~30年</td> </tr> </tbody> </table>		設備	取替周期	電動弁駆動装置	- ※1	空気制御弁	リミットスイッチ	~17.6年	電磁弁	~4年	伝送器	~19.8年	温度計	~35.5年	中性子束検出器	~5年	格納容器内高レンジエリアモニタ	~30年																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
設備	取替周期																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
電動弁駆動装置	- ※1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
空気制御弁	リミットスイッチ	~17.6年																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	電磁弁	~4年																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
伝送器	~19.8年																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
温度計	~35.5年																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
中性子束検出器	~5年																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
格納容器内高レンジエリアモニタ	~30年																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
※1 60年の健全性を確認済み																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
						※1 LOCA時に機能要求なし																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料7）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																																																																																																																		
	<p>表1 原子炉格納容器内防護対象設備リスト(2/7)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">機器番号</th> <th rowspan="2">機能喪失高さ (O.P.)</th> <th rowspan="2">PCV内環境条件の適合性</th> <th colspan="3">保全状況</th> </tr> <tr> <th>点検部位</th> <th>周期</th> <th>保全内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>サブプレッシャブル水温度(214°)</td><td>T11-TE010B</td><td>-1595</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr><td>サブプレッシャブル水温度(236°)</td><td>T11-TE011B</td><td>-1595</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr><td>サブプレッシャブル水温度(259°)</td><td>T11-TE012B</td><td>-1595</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr><td>サブプレッシャブル水温度(281°)</td><td>T11-TE013A</td><td>-1600</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr><td>サブプレッシャブル水温度(304°)</td><td>T11-TE014A</td><td>-1600</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr><td>サブプレッシャブル水温度(326°)</td><td>T11-TE015A</td><td>-1600</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr><td>サブプレッシャブル水温度(349°)</td><td>T11-TE016A</td><td>-1600</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr><td>サブプレッシャブル水温度(281°)</td><td>T11-TE013B</td><td>-1595</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr><td>サブプレッシャブル水温度(304°)</td><td>T11-TE014B</td><td>-1595</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr><td>サブプレッシャブル水温度(326°)</td><td>T11-TE015B</td><td>-1595</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr><td>サブプレッシャブル水温度(349°)</td><td>T11-TE016B</td><td>-1595</td><td>○</td><td>本体</td><td>1C</td><td>特性試験</td></tr> <tr> <td rowspan="4">主蒸気第一隔離弁(A)</td> <td rowspan="4">R21-F002A</td> <td rowspan="4">9107</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>1C</td> <td>機能・性能試験</td> </tr> <tr> <td>コントロールパネル</td> <td>13M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>リミットスイッチ</td> <td>26M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td>電磁弁</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主蒸気第一隔離弁(B)</td> <td rowspan="4">R21-F002B</td> <td rowspan="4">9110</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>1C</td> <td>機能・性能試験</td> </tr> <tr> <td>コントロールパネル</td> <td>13M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>リミットスイッチ</td> <td>26M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td>電磁弁</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> </tbody> </table>	機器名称	機器番号	機能喪失高さ (O.P.)	PCV内環境条件の適合性	保全状況			点検部位	周期	保全内容	サブプレッシャブル水温度(214°)	T11-TE010B	-1595	○	本体	1C	特性試験	サブプレッシャブル水温度(236°)	T11-TE011B	-1595	○	本体	1C	特性試験	サブプレッシャブル水温度(259°)	T11-TE012B	-1595	○	本体	1C	特性試験	サブプレッシャブル水温度(281°)	T11-TE013A	-1600	○	本体	1C	特性試験	サブプレッシャブル水温度(304°)	T11-TE014A	-1600	○	本体	1C	特性試験	サブプレッシャブル水温度(326°)	T11-TE015A	-1600	○	本体	1C	特性試験	サブプレッシャブル水温度(349°)	T11-TE016A	-1600	○	本体	1C	特性試験	サブプレッシャブル水温度(281°)	T11-TE013B	-1595	○	本体	1C	特性試験	サブプレッシャブル水温度(304°)	T11-TE014B	-1595	○	本体	1C	特性試験	サブプレッシャブル水温度(326°)	T11-TE015B	-1595	○	本体	1C	特性試験	サブプレッシャブル水温度(349°)	T11-TE016B	-1595	○	本体	1C	特性試験	主蒸気第一隔離弁(A)	R21-F002A	9107	○	本体	1C	機能・性能試験	コントロールパネル	13M	分解点検	リミットスイッチ	26M	取替	電磁弁	39M	取替	主蒸気第一隔離弁(B)	R21-F002B	9110	○	本体	1C	機能・性能試験	コントロールパネル	13M	分解点検	リミットスイッチ	26M	取替	電磁弁	39M	取替	<p>表1 原子炉格納容器内防護対象設備リスト(2/4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">機器番号</th> <th rowspan="2">機能喪失高さ (O.P.)</th> <th rowspan="2">C/V内環境条件の適合性</th> <th colspan="3">保全状況</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>点検部位</th> <th>周期</th> <th>保全内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">出力領域検出器</td> <td rowspan="2">3NE41A, B, 42A, B, 43A, B, 44A, B</td> <td rowspan="2">17.5m</td> <td rowspan="2">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>特性試験</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>検出器</td> <td>52M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">格納容器高レンジエリアモニタ(低レンジ)</td> <td rowspan="3">3RE-91A, 92A</td> <td rowspan="3">40.2m</td> <td rowspan="3">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>外観点検</td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>特性試験</td> </tr> <tr> <td>検出器</td> <td>117M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">格納容器高レンジエリアモニタ(高レンジ)</td> <td rowspan="3">3RE-91B, 92B</td> <td rowspan="3">40.2m</td> <td rowspan="3">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>外観点検</td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>特性試験</td> </tr> <tr> <td>検出器</td> <td>117M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">加圧器遮がし弁</td> <td rowspan="4">3PCV-452A, B</td> <td rowspan="4">39.1m</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>機能・性能試験</td> <td rowspan="4"></td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>26M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>リミットスイッチ</td> <td>130M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td>電磁弁</td> <td>52M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">1次冷却材ポンプ封水戻りラインC/V内側隔離弁</td> <td rowspan="3">3V-CS-254</td> <td rowspan="3">18.3m</td> <td rowspan="3">○</td> <td>本体</td> <td>15M</td> <td>外観点検</td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>78M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>39M</td> <td>動作試験</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">高圧注入ポンプ出口C/V内側隔離弁</td> <td rowspan="3">3V-S1-061A, B</td> <td rowspan="3">18.3m</td> <td rowspan="3">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>外観点検</td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>78M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>39M</td> <td>動作試験</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">高圧側高圧注入A(B)ライン止め弁</td> <td rowspan="3">3V-S1-062A, B</td> <td rowspan="3">18.3m</td> <td rowspan="3">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>外観点検</td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>78M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>39M</td> <td>動作試験</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">余熱除去A(B)ライン入口止め弁</td> <td rowspan="3">3PCV-410, 430</td> <td rowspan="3">20.6m</td> <td rowspan="3">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>外観点検</td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>78M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>39M</td> <td>動作試験</td> </tr> </tbody> </table>	機器名称	機器番号	機能喪失高さ (O.P.)	C/V内環境条件の適合性	保全状況			備考	点検部位	周期	保全内容	出力領域検出器	3NE41A, B, 42A, B, 43A, B, 44A, B	17.5m	○	本体	13M	特性試験		検出器	52M	取替	格納容器高レンジエリアモニタ(低レンジ)	3RE-91A, 92A	40.2m	○	本体	13M	外観点検		本体	13M	特性試験	検出器	117M	取替	格納容器高レンジエリアモニタ(高レンジ)	3RE-91B, 92B	40.2m	○	本体	13M	外観点検		本体	13M	特性試験	検出器	117M	取替	加圧器遮がし弁	3PCV-452A, B	39.1m	○	本体	13M	機能・性能試験		本体	26M	分解点検	リミットスイッチ	130M	取替	電磁弁	52M	取替	1次冷却材ポンプ封水戻りラインC/V内側隔離弁	3V-CS-254	18.3m	○	本体	15M	外観点検		本体	78M	分解点検	駆動部	39M	動作試験	高圧注入ポンプ出口C/V内側隔離弁	3V-S1-061A, B	18.3m	○	本体	13M	外観点検		本体	78M	分解点検	駆動部	39M	動作試験	高圧側高圧注入A(B)ライン止め弁	3V-S1-062A, B	18.3m	○	本体	13M	外観点検		本体	78M	分解点検	駆動部	39M	動作試験	余熱除去A(B)ライン入口止め弁	3PCV-410, 430	20.6m	○	本体	13M	外観点検		本体	78M	分解点検	駆動部	39M	動作試験	<p>【女川】</p> <p>設計方針の相違          プラント設計の相違          記載表現の相違</p>
機器名称	機器番号					機能喪失高さ (O.P.)	PCV内環境条件の適合性	保全状況																																																																																																																																																																																																																																													
		点検部位	周期	保全内容																																																																																																																																																																																																																																																	
サブプレッシャブル水温度(214°)	T11-TE010B	-1595	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																															
サブプレッシャブル水温度(236°)	T11-TE011B	-1595	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																															
サブプレッシャブル水温度(259°)	T11-TE012B	-1595	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																															
サブプレッシャブル水温度(281°)	T11-TE013A	-1600	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																															
サブプレッシャブル水温度(304°)	T11-TE014A	-1600	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																															
サブプレッシャブル水温度(326°)	T11-TE015A	-1600	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																															
サブプレッシャブル水温度(349°)	T11-TE016A	-1600	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																															
サブプレッシャブル水温度(281°)	T11-TE013B	-1595	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																															
サブプレッシャブル水温度(304°)	T11-TE014B	-1595	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																															
サブプレッシャブル水温度(326°)	T11-TE015B	-1595	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																															
サブプレッシャブル水温度(349°)	T11-TE016B	-1595	○	本体	1C	特性試験																																																																																																																																																																																																																																															
主蒸気第一隔離弁(A)	R21-F002A	9107	○	本体	1C	機能・性能試験																																																																																																																																																																																																																																															
				コントロールパネル	13M	分解点検																																																																																																																																																																																																																																															
				リミットスイッチ	26M	取替																																																																																																																																																																																																																																															
				電磁弁	39M	取替																																																																																																																																																																																																																																															
主蒸気第一隔離弁(B)	R21-F002B	9110	○	本体	1C	機能・性能試験																																																																																																																																																																																																																																															
				コントロールパネル	13M	分解点検																																																																																																																																																																																																																																															
				リミットスイッチ	26M	取替																																																																																																																																																																																																																																															
				電磁弁	39M	取替																																																																																																																																																																																																																																															
機器名称	機器番号	機能喪失高さ (O.P.)	C/V内環境条件の適合性	保全状況			備考																																																																																																																																																																																																																																														
				点検部位	周期	保全内容																																																																																																																																																																																																																																															
出力領域検出器	3NE41A, B, 42A, B, 43A, B, 44A, B	17.5m	○	本体	13M	特性試験																																																																																																																																																																																																																																															
				検出器	52M	取替																																																																																																																																																																																																																																															
格納容器高レンジエリアモニタ(低レンジ)	3RE-91A, 92A	40.2m	○	本体	13M	外観点検																																																																																																																																																																																																																																															
				本体	13M	特性試験																																																																																																																																																																																																																																															
				検出器	117M	取替																																																																																																																																																																																																																																															
格納容器高レンジエリアモニタ(高レンジ)	3RE-91B, 92B	40.2m	○	本体	13M	外観点検																																																																																																																																																																																																																																															
				本体	13M	特性試験																																																																																																																																																																																																																																															
				検出器	117M	取替																																																																																																																																																																																																																																															
加圧器遮がし弁	3PCV-452A, B	39.1m	○	本体	13M	機能・性能試験																																																																																																																																																																																																																																															
				本体	26M	分解点検																																																																																																																																																																																																																																															
				リミットスイッチ	130M	取替																																																																																																																																																																																																																																															
				電磁弁	52M	取替																																																																																																																																																																																																																																															
1次冷却材ポンプ封水戻りラインC/V内側隔離弁	3V-CS-254	18.3m	○	本体	15M	外観点検																																																																																																																																																																																																																																															
				本体	78M	分解点検																																																																																																																																																																																																																																															
				駆動部	39M	動作試験																																																																																																																																																																																																																																															
高圧注入ポンプ出口C/V内側隔離弁	3V-S1-061A, B	18.3m	○	本体	13M	外観点検																																																																																																																																																																																																																																															
				本体	78M	分解点検																																																																																																																																																																																																																																															
				駆動部	39M	動作試験																																																																																																																																																																																																																																															
高圧側高圧注入A(B)ライン止め弁	3V-S1-062A, B	18.3m	○	本体	13M	外観点検																																																																																																																																																																																																																																															
				本体	78M	分解点検																																																																																																																																																																																																																																															
				駆動部	39M	動作試験																																																																																																																																																																																																																																															
余熱除去A(B)ライン入口止め弁	3PCV-410, 430	20.6m	○	本体	13M	外観点検																																																																																																																																																																																																																																															
				本体	78M	分解点検																																																																																																																																																																																																																																															
				駆動部	39M	動作試験																																																																																																																																																																																																																																															

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料7）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																																																																																			
	<p>表1 原子炉格納容器内防護対象設備リスト(3/7)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">機器番号</th> <th rowspan="2">機能喪失高さ (O.P.)</th> <th rowspan="2">C/V内環境条件の適合性</th> <th colspan="3">保全状況</th> </tr> <tr> <th>点検部位</th> <th>周期</th> <th>保全内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">主蒸気第一隔離弁 (C)</td> <td rowspan="4">B21-F002C</td> <td rowspan="4">9110</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>1C</td> <td>機能・性能試験</td> </tr> <tr> <td>コントロールパネル</td> <td>13M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>リミットスイッチ</td> <td>20M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td>電磁弁</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主蒸気第一隔離弁 (D)</td> <td rowspan="4">B21-F002D</td> <td rowspan="4">9107</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>1C</td> <td>機能・性能試験</td> </tr> <tr> <td>コントロールパネル</td> <td>13M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>リミットスイッチ</td> <td>20M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td>電磁弁</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">主蒸気ドレンライン第一隔離弁</td> <td rowspan="2">B21-F004</td> <td rowspan="2">6707</td> <td rowspan="2">○</td> <td>駆動部</td> <td>65M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1C</td> <td>絶縁抵抗測定</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">事故後炉水サンプリング第一隔離弁</td> <td rowspan="2">B21-F061</td> <td rowspan="2">8611</td> <td rowspan="2">○</td> <td>駆動部</td> <td>65M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1C</td> <td>絶縁抵抗測定</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">原子炉再循環ポンプ (A) 吐出弁</td> <td rowspan="2">B32-F002A</td> <td rowspan="2">2970</td> <td rowspan="2">○</td> <td>駆動部</td> <td>65M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1C</td> <td>絶縁抵抗測定</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">原子炉再循環ポンプ (B) 吐出弁</td> <td rowspan="2">B32-F002B</td> <td rowspan="2">2970</td> <td rowspan="2">○</td> <td>駆動部</td> <td>65M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1C</td> <td>絶縁抵抗測定</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">P.L.R サンプルライン第一隔離弁</td> <td rowspan="4">B32-F013</td> <td rowspan="4">10779</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>1C</td> <td>機能・性能試験</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>39M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>リミットスイッチ</td> <td>65M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td>電磁弁</td> <td>52M</td> <td>取替</td> </tr> </tbody> </table>	機器名称	機器番号	機能喪失高さ (O.P.)	C/V内環境条件の適合性	保全状況			点検部位	周期	保全内容	主蒸気第一隔離弁 (C)	B21-F002C	9110	○	本体	1C	機能・性能試験	コントロールパネル	13M	分解点検	リミットスイッチ	20M	取替	電磁弁	39M	取替	主蒸気第一隔離弁 (D)	B21-F002D	9107	○	本体	1C	機能・性能試験	コントロールパネル	13M	分解点検	リミットスイッチ	20M	取替	電磁弁	39M	取替	主蒸気ドレンライン第一隔離弁	B21-F004	6707	○	駆動部	65M	分解点検		1C	絶縁抵抗測定	事故後炉水サンプリング第一隔離弁	B21-F061	8611	○	駆動部	65M	分解点検		1C	絶縁抵抗測定	原子炉再循環ポンプ (A) 吐出弁	B32-F002A	2970	○	駆動部	65M	分解点検		1C	絶縁抵抗測定	原子炉再循環ポンプ (B) 吐出弁	B32-F002B	2970	○	駆動部	65M	分解点検		1C	絶縁抵抗測定	P.L.R サンプルライン第一隔離弁	B32-F013	10779	○	本体	1C	機能・性能試験	駆動部	39M	分解点検	リミットスイッチ	65M	取替	電磁弁	52M	取替	<p>表1 原子炉格納容器内防護対象設備リスト (3/4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">機器番号</th> <th rowspan="2">機能喪失高さ (T.P.)</th> <th rowspan="2">C/V内環境条件の適合性</th> <th colspan="3">保全状況</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>点検部位</th> <th>周期</th> <th>保全内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">余熱除去ポンプ入口 C/V 内側隔離弁</td> <td rowspan="4">3V-SH-002A, B</td> <td rowspan="4">15.1m</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>外観点検</td> <td rowspan="4">※2</td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>78M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>39M</td> <td>動作試験</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>156M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">余熱除去冷却器出口 C/V 内側隔離弁</td> <td rowspan="4">3V-SH-033A, B</td> <td rowspan="4">18.3m</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>外観点検</td> <td rowspan="4"></td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>78M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>39M</td> <td>動作試験</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>156M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">高濃度低圧注入ライン止め弁</td> <td rowspan="4">3V-SH-034A, B</td> <td rowspan="4">18.3m</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>外観点検</td> <td rowspan="4"></td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>78M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>39M</td> <td>動作試験</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>156M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">1次冷却材ポンプ補機冷却水出口 C/V 内側隔離弁</td> <td rowspan="4">3V-CC-326</td> <td rowspan="4">18.3m</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>外観点検</td> <td rowspan="4"></td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>78M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>39M</td> <td>動作試験</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>156M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">Bループ高濃度サンプリングライン C/V 内側隔離弁</td> <td rowspan="4">3V-SS-514</td> <td rowspan="4">21.0m</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>外観点検</td> <td rowspan="4"></td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>78M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>39M</td> <td>動作試験</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>156M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">Cループ高濃度サンプリングライン C/V 内側隔離弁</td> <td rowspan="4">3V-SS-519</td> <td rowspan="4">21.0m</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>外観点検</td> <td rowspan="4"></td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>78M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>39M</td> <td>動作試験</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>156M</td> <td>分解点検</td> </tr> </tbody> </table> <p>※2 詳細な機能喪失高さは T.P. 15.185m であり、没水評価で示す LOCA 時の C/V 内水位 15.1m（「添付資料 6 溢水影響評価の対象外とした設備について」※照）を上回っていることから、余熱除去ポンプ入口 C/V 内側隔離弁は機能喪失しないと評価している。なお、C/V 外の防護対象設備の没水評価では、盤等で被水対策を施していないものがあるため、水面の揺らぎの影響で機能喪失に至る可能性を考慮し、被水対策を施している設備も含めて一律 10cm の裕度を設定して評価しているが、C/V 内の防護対象設備は耐環境仕様であることから、水面の揺らぎにより被水影響が及んだ場合でも機能喪失に至ることはないため、その溢水に対する耐性の評価では裕度を考慮せずに評価を実施している。</p>	機器名称	機器番号	機能喪失高さ (T.P.)	C/V内環境条件の適合性	保全状況			備考	点検部位	周期	保全内容	余熱除去ポンプ入口 C/V 内側隔離弁	3V-SH-002A, B	15.1m	○	本体	13M	外観点検	※2	本体	78M	分解点検	駆動部	39M	動作試験	駆動部	156M	分解点検	余熱除去冷却器出口 C/V 内側隔離弁	3V-SH-033A, B	18.3m	○	本体	13M	外観点検		本体	78M	分解点検	駆動部	39M	動作試験	駆動部	156M	分解点検	高濃度低圧注入ライン止め弁	3V-SH-034A, B	18.3m	○	本体	13M	外観点検		本体	78M	分解点検	駆動部	39M	動作試験	駆動部	156M	分解点検	1次冷却材ポンプ補機冷却水出口 C/V 内側隔離弁	3V-CC-326	18.3m	○	本体	13M	外観点検		本体	78M	分解点検	駆動部	39M	動作試験	駆動部	156M	分解点検	Bループ高濃度サンプリングライン C/V 内側隔離弁	3V-SS-514	21.0m	○	本体	13M	外観点検		本体	78M	分解点検	駆動部	39M	動作試験	駆動部	156M	分解点検	Cループ高濃度サンプリングライン C/V 内側隔離弁	3V-SS-519	21.0m	○	本体	13M	外観点検		本体	78M	分解点検	駆動部	39M	動作試験	駆動部	156M	分解点検	<p>【女川】</p> <p>設計方針の相違          プラント設計の相違          記載表現の相違</p>
機器名称	機器番号					機能喪失高さ (O.P.)	C/V内環境条件の適合性	保全状況																																																																																																																																																																																																														
		点検部位	周期	保全内容																																																																																																																																																																																																																		
主蒸気第一隔離弁 (C)	B21-F002C	9110	○	本体	1C	機能・性能試験																																																																																																																																																																																																																
				コントロールパネル	13M	分解点検																																																																																																																																																																																																																
				リミットスイッチ	20M	取替																																																																																																																																																																																																																
				電磁弁	39M	取替																																																																																																																																																																																																																
主蒸気第一隔離弁 (D)	B21-F002D	9107	○	本体	1C	機能・性能試験																																																																																																																																																																																																																
				コントロールパネル	13M	分解点検																																																																																																																																																																																																																
				リミットスイッチ	20M	取替																																																																																																																																																																																																																
				電磁弁	39M	取替																																																																																																																																																																																																																
主蒸気ドレンライン第一隔離弁	B21-F004	6707	○	駆動部	65M	分解点検																																																																																																																																																																																																																
					1C	絶縁抵抗測定																																																																																																																																																																																																																
事故後炉水サンプリング第一隔離弁	B21-F061	8611	○	駆動部	65M	分解点検																																																																																																																																																																																																																
					1C	絶縁抵抗測定																																																																																																																																																																																																																
原子炉再循環ポンプ (A) 吐出弁	B32-F002A	2970	○	駆動部	65M	分解点検																																																																																																																																																																																																																
					1C	絶縁抵抗測定																																																																																																																																																																																																																
原子炉再循環ポンプ (B) 吐出弁	B32-F002B	2970	○	駆動部	65M	分解点検																																																																																																																																																																																																																
					1C	絶縁抵抗測定																																																																																																																																																																																																																
P.L.R サンプルライン第一隔離弁	B32-F013	10779	○	本体	1C	機能・性能試験																																																																																																																																																																																																																
				駆動部	39M	分解点検																																																																																																																																																																																																																
				リミットスイッチ	65M	取替																																																																																																																																																																																																																
				電磁弁	52M	取替																																																																																																																																																																																																																
機器名称	機器番号	機能喪失高さ (T.P.)	C/V内環境条件の適合性	保全状況			備考																																																																																																																																																																																																															
				点検部位	周期	保全内容																																																																																																																																																																																																																
余熱除去ポンプ入口 C/V 内側隔離弁	3V-SH-002A, B	15.1m	○	本体	13M	外観点検	※2																																																																																																																																																																																																															
				本体	78M	分解点検																																																																																																																																																																																																																
				駆動部	39M	動作試験																																																																																																																																																																																																																
				駆動部	156M	分解点検																																																																																																																																																																																																																
余熱除去冷却器出口 C/V 内側隔離弁	3V-SH-033A, B	18.3m	○	本体	13M	外観点検																																																																																																																																																																																																																
				本体	78M	分解点検																																																																																																																																																																																																																
				駆動部	39M	動作試験																																																																																																																																																																																																																
				駆動部	156M	分解点検																																																																																																																																																																																																																
高濃度低圧注入ライン止め弁	3V-SH-034A, B	18.3m	○	本体	13M	外観点検																																																																																																																																																																																																																
				本体	78M	分解点検																																																																																																																																																																																																																
				駆動部	39M	動作試験																																																																																																																																																																																																																
				駆動部	156M	分解点検																																																																																																																																																																																																																
1次冷却材ポンプ補機冷却水出口 C/V 内側隔離弁	3V-CC-326	18.3m	○	本体	13M	外観点検																																																																																																																																																																																																																
				本体	78M	分解点検																																																																																																																																																																																																																
				駆動部	39M	動作試験																																																																																																																																																																																																																
				駆動部	156M	分解点検																																																																																																																																																																																																																
Bループ高濃度サンプリングライン C/V 内側隔離弁	3V-SS-514	21.0m	○	本体	13M	外観点検																																																																																																																																																																																																																
				本体	78M	分解点検																																																																																																																																																																																																																
				駆動部	39M	動作試験																																																																																																																																																																																																																
				駆動部	156M	分解点検																																																																																																																																																																																																																
Cループ高濃度サンプリングライン C/V 内側隔離弁	3V-SS-519	21.0m	○	本体	13M	外観点検																																																																																																																																																																																																																
				本体	78M	分解点検																																																																																																																																																																																																																
				駆動部	39M	動作試験																																																																																																																																																																																																																
				駆動部	156M	分解点検																																																																																																																																																																																																																

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																					
	<p>表1 原子炉格納容器内防護対象設備リスト(4/7)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">機器番号</th> <th rowspan="2">機能喪失高さ (O.P.)</th> <th rowspan="2">CV内環境条件の適合性</th> <th colspan="3">保全状況</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>点検部位</th> <th>周期</th> <th>保全内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">主蒸気逃がし安全弁 (A) ADS</td> <td rowspan="4">B21-F001A</td> <td rowspan="4">17363</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>1C</td> <td>機能・性能試験</td> <td rowspan="4"></td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>13M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>リミットスイッチ</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td>電磁弁</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主蒸気逃がし安全弁 (B)</td> <td rowspan="4">B21-F001B</td> <td rowspan="4">17363</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>1C</td> <td>機能・性能試験</td> <td rowspan="4"></td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>13M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>リミットスイッチ</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td>電磁弁</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主蒸気逃がし安全弁 (C) ADS</td> <td rowspan="4">B21-F001C</td> <td rowspan="4">17363</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>1C</td> <td>機能・性能試験</td> <td rowspan="4"></td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>13M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>リミットスイッチ</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td>電磁弁</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主蒸気逃がし安全弁 (D)</td> <td rowspan="4">B21-F001D</td> <td rowspan="4">17363</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>1C</td> <td>機能・性能試験</td> <td rowspan="4"></td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>13M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>リミットスイッチ</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td>電磁弁</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主蒸気逃がし安全弁 (E) ADS</td> <td rowspan="4">B21-F001E</td> <td rowspan="4">17346</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>1C</td> <td>機能・性能試験</td> <td rowspan="4"></td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>13M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>リミットスイッチ</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td>電磁弁</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> </tbody> </table>	機器名称	機器番号	機能喪失高さ (O.P.)	CV内環境条件の適合性	保全状況			備考	点検部位	周期	保全内容	主蒸気逃がし安全弁 (A) ADS	B21-F001A	17363	○	本体	1C	機能・性能試験		駆動部	13M	分解点検	リミットスイッチ	39M	取替	電磁弁	39M	取替	主蒸気逃がし安全弁 (B)	B21-F001B	17363	○	本体	1C	機能・性能試験		駆動部	13M	分解点検	リミットスイッチ	39M	取替	電磁弁	39M	取替	主蒸気逃がし安全弁 (C) ADS	B21-F001C	17363	○	本体	1C	機能・性能試験		駆動部	13M	分解点検	リミットスイッチ	39M	取替	電磁弁	39M	取替	主蒸気逃がし安全弁 (D)	B21-F001D	17363	○	本体	1C	機能・性能試験		駆動部	13M	分解点検	リミットスイッチ	39M	取替	電磁弁	39M	取替	主蒸気逃がし安全弁 (E) ADS	B21-F001E	17346	○	本体	1C	機能・性能試験		駆動部	13M	分解点検	リミットスイッチ	39M	取替	電磁弁	39M	取替	<p>表1 原子炉格納容器内防護対象設備リスト (4/4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">機器番号</th> <th rowspan="2">機能喪失高さ (T.P.)</th> <th rowspan="2">CV内環境条件の適合性</th> <th colspan="3">保全状況</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>点検部位</th> <th>周期</th> <th>保全内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">格納容器減圧ライン格納容器内側隔離弁</td> <td rowspan="3">3V-DP-001A, B</td> <td rowspan="3">36.1m</td> <td rowspan="3">○</td> <td>本体</td> <td>78M</td> <td>分解点検</td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>39M</td> <td>動作試験</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>156M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">格納容器空気サンプル取出し格納容器内側隔離弁</td> <td rowspan="3">3V-001</td> <td rowspan="3">36.8m</td> <td rowspan="3">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>外観点検</td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>78M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>39M</td> <td>動作試験</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">制御用空気原子炉格納容器内供給弁</td> <td rowspan="3">3V-1A-514A, B</td> <td rowspan="3">18.3m</td> <td rowspan="3">○</td> <td>本体</td> <td>13M</td> <td>外観点検</td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td>本体</td> <td>130M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>39M</td> <td>動作試験</td> </tr> </tbody> </table>	機器名称	機器番号	機能喪失高さ (T.P.)	CV内環境条件の適合性	保全状況			備考	点検部位	周期	保全内容	格納容器減圧ライン格納容器内側隔離弁	3V-DP-001A, B	36.1m	○	本体	78M	分解点検		駆動部	39M	動作試験	駆動部	156M	分解点検	格納容器空気サンプル取出し格納容器内側隔離弁	3V-001	36.8m	○	本体	13M	外観点検		本体	78M	分解点検	駆動部	39M	動作試験	制御用空気原子炉格納容器内供給弁	3V-1A-514A, B	18.3m	○	本体	13M	外観点検		本体	130M	分解点検	駆動部	39M	動作試験	<p>【女川】</p> <p>設計方針の相違                      プラント設計の相違                      記載表現の相違</p>
機器名称	機器番号					機能喪失高さ (O.P.)	CV内環境条件の適合性	保全状況			備考																																																																																																																																													
		点検部位	周期	保全内容																																																																																																																																																				
主蒸気逃がし安全弁 (A) ADS	B21-F001A	17363	○	本体	1C	機能・性能試験																																																																																																																																																		
				駆動部	13M	分解点検																																																																																																																																																		
				リミットスイッチ	39M	取替																																																																																																																																																		
				電磁弁	39M	取替																																																																																																																																																		
主蒸気逃がし安全弁 (B)	B21-F001B	17363	○	本体	1C	機能・性能試験																																																																																																																																																		
				駆動部	13M	分解点検																																																																																																																																																		
				リミットスイッチ	39M	取替																																																																																																																																																		
				電磁弁	39M	取替																																																																																																																																																		
主蒸気逃がし安全弁 (C) ADS	B21-F001C	17363	○	本体	1C	機能・性能試験																																																																																																																																																		
				駆動部	13M	分解点検																																																																																																																																																		
				リミットスイッチ	39M	取替																																																																																																																																																		
				電磁弁	39M	取替																																																																																																																																																		
主蒸気逃がし安全弁 (D)	B21-F001D	17363	○	本体	1C	機能・性能試験																																																																																																																																																		
				駆動部	13M	分解点検																																																																																																																																																		
				リミットスイッチ	39M	取替																																																																																																																																																		
				電磁弁	39M	取替																																																																																																																																																		
主蒸気逃がし安全弁 (E) ADS	B21-F001E	17346	○	本体	1C	機能・性能試験																																																																																																																																																		
				駆動部	13M	分解点検																																																																																																																																																		
				リミットスイッチ	39M	取替																																																																																																																																																		
				電磁弁	39M	取替																																																																																																																																																		
機器名称	機器番号	機能喪失高さ (T.P.)	CV内環境条件の適合性	保全状況			備考																																																																																																																																																	
				点検部位	周期	保全内容																																																																																																																																																		
格納容器減圧ライン格納容器内側隔離弁	3V-DP-001A, B	36.1m	○	本体	78M	分解点検																																																																																																																																																		
				駆動部	39M	動作試験																																																																																																																																																		
				駆動部	156M	分解点検																																																																																																																																																		
格納容器空気サンプル取出し格納容器内側隔離弁	3V-001	36.8m	○	本体	13M	外観点検																																																																																																																																																		
				本体	78M	分解点検																																																																																																																																																		
				駆動部	39M	動作試験																																																																																																																																																		
制御用空気原子炉格納容器内供給弁	3V-1A-514A, B	18.3m	○	本体	13M	外観点検																																																																																																																																																		
				本体	130M	分解点検																																																																																																																																																		
				駆動部	39M	動作試験																																																																																																																																																		



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																										
	<p>表1 原子炉格納容器内防護対象設備リスト(5/7)</p> <table border="1" data-bbox="698 210 1281 1046"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">機器番号</th> <th rowspan="2">機能喪失高さ(O.P.)</th> <th rowspan="2">PCV内環境条件の適合性</th> <th colspan="3">保全状況</th> </tr> <tr> <th>点検部位</th> <th>周期</th> <th>保全内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">主蒸気逃がし安全弁(F)</td> <td rowspan="4">B21-F001F</td> <td rowspan="4">17346</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>1C</td> <td>機能・性能試験</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>13M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>リミットスイッチ</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td>電磁弁</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主蒸気逃がし安全弁(G)</td> <td rowspan="4">B21-F001G</td> <td rowspan="4">17346</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>1C</td> <td>機能・性能試験</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>13M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>リミットスイッチ</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td>電磁弁</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主蒸気逃がし安全弁(H) ADS</td> <td rowspan="4">B21-F001H</td> <td rowspan="4">17346</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>1C</td> <td>機能・性能試験</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>13M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>リミットスイッチ</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td>電磁弁</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主蒸気逃がし安全弁(J) ADS</td> <td rowspan="4">B21-F001J</td> <td rowspan="4">17363</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>1C</td> <td>機能・性能試験</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>13M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>リミットスイッチ</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td>電磁弁</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主蒸気逃がし安全弁(K)</td> <td rowspan="4">B21-F001K</td> <td rowspan="4">17363</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>1C</td> <td>機能・性能試験</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>13M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>リミットスイッチ</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td>電磁弁</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> </tbody> </table>	機器名称	機器番号	機能喪失高さ(O.P.)	PCV内環境条件の適合性	保全状況			点検部位	周期	保全内容	主蒸気逃がし安全弁(F)	B21-F001F	17346	○	本体	1C	機能・性能試験	駆動部	13M	分解点検	リミットスイッチ	39M	取替	電磁弁	39M	取替	主蒸気逃がし安全弁(G)	B21-F001G	17346	○	本体	1C	機能・性能試験	駆動部	13M	分解点検	リミットスイッチ	39M	取替	電磁弁	39M	取替	主蒸気逃がし安全弁(H) ADS	B21-F001H	17346	○	本体	1C	機能・性能試験	駆動部	13M	分解点検	リミットスイッチ	39M	取替	電磁弁	39M	取替	主蒸気逃がし安全弁(J) ADS	B21-F001J	17363	○	本体	1C	機能・性能試験	駆動部	13M	分解点検	リミットスイッチ	39M	取替	電磁弁	39M	取替	主蒸気逃がし安全弁(K)	B21-F001K	17363	○	本体	1C	機能・性能試験	駆動部	13M	分解点検	リミットスイッチ	39M	取替	電磁弁	39M	取替		<p>【女川】</p> <p>設計方針の相違                      プラント設計の相違                      記載表現の相違</p>
機器名称	機器番号					機能喪失高さ(O.P.)	PCV内環境条件の適合性	保全状況																																																																																					
		点検部位	周期	保全内容																																																																																									
主蒸気逃がし安全弁(F)	B21-F001F	17346	○	本体	1C	機能・性能試験																																																																																							
				駆動部	13M	分解点検																																																																																							
				リミットスイッチ	39M	取替																																																																																							
				電磁弁	39M	取替																																																																																							
主蒸気逃がし安全弁(G)	B21-F001G	17346	○	本体	1C	機能・性能試験																																																																																							
				駆動部	13M	分解点検																																																																																							
				リミットスイッチ	39M	取替																																																																																							
				電磁弁	39M	取替																																																																																							
主蒸気逃がし安全弁(H) ADS	B21-F001H	17346	○	本体	1C	機能・性能試験																																																																																							
				駆動部	13M	分解点検																																																																																							
				リミットスイッチ	39M	取替																																																																																							
				電磁弁	39M	取替																																																																																							
主蒸気逃がし安全弁(J) ADS	B21-F001J	17363	○	本体	1C	機能・性能試験																																																																																							
				駆動部	13M	分解点検																																																																																							
				リミットスイッチ	39M	取替																																																																																							
				電磁弁	39M	取替																																																																																							
主蒸気逃がし安全弁(K)	B21-F001K	17363	○	本体	1C	機能・性能試験																																																																																							
				駆動部	13M	分解点検																																																																																							
				リミットスイッチ	39M	取替																																																																																							
				電磁弁	39M	取替																																																																																							

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																			
	<p style="text-align: center;">表1 原子炉格納容器内防護対象設備リスト(6/7)</p> <table border="1" data-bbox="698 207 1281 1013"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">機器番号</th> <th rowspan="2">機能喪失高さ(O.P.)</th> <th rowspan="2">PCV内環境条件の適合性</th> <th colspan="3">保全状況</th> </tr> <tr> <th>点検部位</th> <th>周期</th> <th>保全内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">主蒸気逃がし安全弁(L) ADS</td> <td rowspan="4">B21-F001L</td> <td rowspan="4">17363</td> <td rowspan="4">○</td> <td>本体</td> <td>1C</td> <td>機能・性能試験</td> </tr> <tr> <td>駆動部</td> <td>13M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>リミットスイッチ</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td>電磁弁</td> <td>39M</td> <td>取替</td> </tr> <tr> <td>C UW入口ライン第一隔離弁</td> <td>G31-F002</td> <td>3350</td> <td>○</td> <td>駆動部</td> <td>65M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">RHR A系停止時冷却吸込第一隔離弁</td> <td rowspan="2">E11-F015A</td> <td rowspan="2">3350</td> <td rowspan="2">○</td> <td rowspan="2">駆動部</td> <td>65M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>1C</td> <td>絶縁抵抗測定</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">RHR B系停止時冷却吸込第一隔離弁</td> <td rowspan="2">E11-F015B</td> <td rowspan="2">3350</td> <td rowspan="2">○</td> <td rowspan="2">駆動部</td> <td>65M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>1C</td> <td>絶縁抵抗測定</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">RCICタービン入口蒸気ライン第一隔離弁</td> <td rowspan="2">E51-F007</td> <td rowspan="2">16322</td> <td rowspan="2">○</td> <td rowspan="2">駆動部</td> <td>65M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>1C</td> <td>絶縁抵抗測定</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">RCW戻り側第一隔離弁(A)</td> <td rowspan="2">P42-F115A</td> <td rowspan="2">1650</td> <td rowspan="2">○</td> <td rowspan="2">駆動部</td> <td>65M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>1C</td> <td>絶縁抵抗測定</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">RCW戻り側第一隔離弁(B)</td> <td rowspan="2">P42-F115B</td> <td rowspan="2">1650</td> <td rowspan="2">○</td> <td rowspan="2">駆動部</td> <td>65M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>1C</td> <td>絶縁抵抗測定</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">HNCW 戻りライン第一隔離弁</td> <td rowspan="2">P24-F107</td> <td rowspan="2">11200</td> <td rowspan="2">○</td> <td rowspan="2">駆動部</td> <td>65M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>1C</td> <td>絶縁抵抗測定</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">D/W LCW サンプ第一隔離弁</td> <td rowspan="2">K11-F003</td> <td rowspan="2">1650</td> <td rowspan="2">○</td> <td rowspan="2">駆動部</td> <td>65M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>1C</td> <td>絶縁抵抗測定</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">表1 原子炉格納容器内防護対象設備リスト(7/7)</p> <table border="1" data-bbox="698 1101 1281 1260"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">機器番号</th> <th rowspan="2">機能喪失高さ(O.P.)</th> <th rowspan="2">PCV内環境条件の適合性</th> <th colspan="3">保全状況</th> </tr> <tr> <th>点検部位</th> <th>周期</th> <th>保全内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">D/W HCW サンプ第一隔離弁</td> <td rowspan="2">K11-F103</td> <td rowspan="2">1650</td> <td rowspan="2">○</td> <td rowspan="2">駆動部</td> <td>65M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>1C</td> <td>絶縁抵抗測定</td> </tr> </tbody> </table>	機器名称	機器番号	機能喪失高さ(O.P.)	PCV内環境条件の適合性	保全状況			点検部位	周期	保全内容	主蒸気逃がし安全弁(L) ADS	B21-F001L	17363	○	本体	1C	機能・性能試験	駆動部	13M	分解点検	リミットスイッチ	39M	取替	電磁弁	39M	取替	C UW入口ライン第一隔離弁	G31-F002	3350	○	駆動部	65M	分解点検	RHR A系停止時冷却吸込第一隔離弁	E11-F015A	3350	○	駆動部	65M	分解点検	1C	絶縁抵抗測定	RHR B系停止時冷却吸込第一隔離弁	E11-F015B	3350	○	駆動部	65M	分解点検	1C	絶縁抵抗測定	RCICタービン入口蒸気ライン第一隔離弁	E51-F007	16322	○	駆動部	65M	分解点検	1C	絶縁抵抗測定	RCW戻り側第一隔離弁(A)	P42-F115A	1650	○	駆動部	65M	分解点検	1C	絶縁抵抗測定	RCW戻り側第一隔離弁(B)	P42-F115B	1650	○	駆動部	65M	分解点検	1C	絶縁抵抗測定	HNCW 戻りライン第一隔離弁	P24-F107	11200	○	駆動部	65M	分解点検	1C	絶縁抵抗測定	D/W LCW サンプ第一隔離弁	K11-F003	1650	○	駆動部	65M	分解点検	1C	絶縁抵抗測定	機器名称	機器番号	機能喪失高さ(O.P.)	PCV内環境条件の適合性	保全状況			点検部位	周期	保全内容	D/W HCW サンプ第一隔離弁	K11-F103	1650	○	駆動部	65M	分解点検	1C	絶縁抵抗測定		<p>【女川】</p> <p><a href="#">設計方針の相違</a></p> <p><a href="#">プラント設計の相違</a></p> <p><a href="#">記載表現の相違</a></p>
機器名称	機器番号					機能喪失高さ(O.P.)	PCV内環境条件の適合性	保全状況																																																																																																														
		点検部位	周期	保全内容																																																																																																																		
主蒸気逃がし安全弁(L) ADS	B21-F001L	17363	○	本体	1C	機能・性能試験																																																																																																																
				駆動部	13M	分解点検																																																																																																																
				リミットスイッチ	39M	取替																																																																																																																
				電磁弁	39M	取替																																																																																																																
C UW入口ライン第一隔離弁	G31-F002	3350	○	駆動部	65M	分解点検																																																																																																																
RHR A系停止時冷却吸込第一隔離弁	E11-F015A	3350	○	駆動部	65M	分解点検																																																																																																																
					1C	絶縁抵抗測定																																																																																																																
RHR B系停止時冷却吸込第一隔離弁	E11-F015B	3350	○	駆動部	65M	分解点検																																																																																																																
					1C	絶縁抵抗測定																																																																																																																
RCICタービン入口蒸気ライン第一隔離弁	E51-F007	16322	○	駆動部	65M	分解点検																																																																																																																
					1C	絶縁抵抗測定																																																																																																																
RCW戻り側第一隔離弁(A)	P42-F115A	1650	○	駆動部	65M	分解点検																																																																																																																
					1C	絶縁抵抗測定																																																																																																																
RCW戻り側第一隔離弁(B)	P42-F115B	1650	○	駆動部	65M	分解点検																																																																																																																
					1C	絶縁抵抗測定																																																																																																																
HNCW 戻りライン第一隔離弁	P24-F107	11200	○	駆動部	65M	分解点検																																																																																																																
					1C	絶縁抵抗測定																																																																																																																
D/W LCW サンプ第一隔離弁	K11-F003	1650	○	駆動部	65M	分解点検																																																																																																																
					1C	絶縁抵抗測定																																																																																																																
機器名称	機器番号	機能喪失高さ(O.P.)	PCV内環境条件の適合性	保全状況																																																																																																																		
				点検部位	周期	保全内容																																																																																																																
D/W HCW サンプ第一隔離弁	K11-F103	1650	○	駆動部	65M	分解点検																																																																																																																
					1C	絶縁抵抗測定																																																																																																																

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>1-1 防護対象設備の選定について より抜粋</p> <p>(3) 使用済燃料ピットの冷却機能及び給水機能に必要な計装設備</p> <p>水温、水位の変化は急激なものではないと考えられることから運転員による計測に期待するものとし既存の設備には期待しないものとする。</p>	<p>3. 「動作機能の喪失により安全機能に影響しない」についての補足</p> <p>3.1 状態監視のみの現場指示計</p> <p>使用済燃料プールの冷却・給水機能を適切に維持するために必要な設備を防護対象設備とし抽出しており、これらの防護対象設備の機能が維持されていれば、保安規定等で要求される使用済燃料プールの水位及び水温についても満足できる。なお、使用済燃料プールの水位及び水温を監視する設備については、状態監視のみの計器であることから溢水影響評価から除外している。これらの考え方を下記に示す。</p> <p>(1) 使用済燃料プール水温</p> <p>燃料プール冷却浄化系は、プール水がプールからスキマ堰を通り、スキマサージタンクを経て燃料プール冷却浄化系ポンプによって加圧され、熱交換器を通して冷却されてプールに戻る系統構成となっている。また当該系統の設計仕様について、ポンプ定格流量が確保されれば、熱交換器によりプール水温を通常52℃以下、動的機器の単一故障時においても保安規定で定める65℃以下に維持できる設計としている。したがって、当該ポンプの機能維持（ポンプ出口流量が定格流量であること）を確認することで、間接的にプール水温が適切に維持されていることを確認できる。なお当該ポンプ出口流量計は防護対象設備として抽出している。</p> <p>(2) 使用済燃料プール水位</p> <p>地震後の使用済燃料プール水位は一時的にオーバーフロー水位を下回るが、プール水位が低下した際には、スキマサージタンク水位計によって検知できる（スキマサージタンク水位計は防護対象設備として抽出している）。なお、使用済燃料プールへの水の補給については、残留熱除去系による補給が可能である。</p>	<p>3. 「動作機能の喪失により安全機能に影響しない」についての補足</p> <p>3. 1 状態監視のみの現場指示計</p> <p>使用済燃料ピットの冷却・給水機能を適切に維持するために必要な設備を防護対象設備とし抽出しており、これらの防護対象設備の機能が維持されていれば、保安規定等で要求される使用済燃料ピットの水位及び水温についても満足できる。なお、使用済燃料ピットの水位及び水温を監視する設備については、状態監視のみの計器であることから溢水影響評価から除外している。</p> <p>また、水温、水位の変化は急激なものではないと考えられることから運転員による計測に期待するものとし既存の設備には期待しないものとする。</p>	<p>相違理由</p> <p>【大阪】  <a href="#">記載方針の相違</a>                      女川審査実績の反映</p> <p>【女川】  <a href="#">設備名称の相違</a>  <a href="#">記載方針の相違</a>                      女川は使用済燃料プールのスロッシング後に、プールの冷却・給水手順を定めているが、泊では、スロッシングにより使用済燃料ピットの冷却に必要な水位を下回らないことを確認することとしている。よって、使用済燃料ピットの状態監視計器については、運転員による計測に期待することのみを記載している。（大阪と同じ）</p>

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料7）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																																																																																	
	<p>3.2 フェイル・セーフ機能により溢水影響評価対象外とした設備</p> <p>フェイル・セーフ機能により溢水影響評価対象外とした設備について、表2に示す。</p>	<p>3.2 フェイル・セーフ機能により溢水影響評価対象外とした設備</p> <p>フェイル・セーフ機能により溢水影響評価対象外とした設備について、表2に示す。</p>	<p>【大飯】</p> <p><a href="#">記載方針の相違</a></p> <p>女川審査実績の反映</p>																																																																																																																																																																																																																	
	<p>表2 フェイル・セーフ機能により溢水影響評価対象外とした設備(1/3)</p>	<p>表2 フェイル・セーフ機能により溢水影響評価対象外とした設備(1/3)</p>	<p>【女川】</p> <p><a href="#">設計方針の相違</a></p>																																																																																																																																																																																																																	
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>系統</th> <th>機器番号</th> <th>設備</th> <th>分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>AC</td><td>T48-F001</td><td>バージ用空気供給側隔離弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-F002</td><td>D/W バージ用入口隔離弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-F003</td><td>S/C バージ用入口隔離弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-F005A</td><td>格納容器外真空逃がし隔離弁(A)</td><td>AO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-F005B</td><td>格納容器外真空逃がし隔離弁(B)</td><td>AO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-F010</td><td>補給用窒素ガス供給側第二隔離弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-F011</td><td>D/W 補給用窒素ガス供給用第一隔離弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-F012</td><td>S/C 補給用窒素ガス供給用第一隔離弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-F016</td><td>バージ用窒素ガス供給側第二隔離弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-F019</td><td>D/W ベント用出口隔離弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-F020</td><td>ベント用 SGTS 側隔離弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-F021</td><td>ベント用 HVAC 側隔離弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-F022</td><td>S/C ベント用出口隔離弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-F023</td><td>D/W ベント用出口隔離弁バイパス弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-F024</td><td>S/C ベント用出口隔離弁バイパス弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-S0-F042A</td><td>真空破壊弁(A)計装用空気配管隔離弁</td><td>SO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-S0-F042B</td><td>真空破壊弁(B)計装用空気配管隔離弁</td><td>SO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-S0-F042C</td><td>真空破壊弁(C)計装用空気配管隔離弁</td><td>SO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-S0-F042D</td><td>真空破壊弁(D)計装用空気配管隔離弁</td><td>SO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-S0-F042E</td><td>真空破壊弁(E)計装用空気配管隔離弁</td><td>SO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-S0-F042F</td><td>真空破壊弁(F)計装用空気配管隔離弁</td><td>SO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-S0-F708</td><td>LS015 D/W 冠水水位計装配管(H)側隔離弁</td><td>SO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-S0-F710</td><td>LS015 D/W 冠水水位計装配管(L)側隔離弁</td><td>SO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-S0-F721</td><td>露点サンプリング入口第一隔離弁</td><td>SO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-S0-F722</td><td>露点サンプリング入口第二隔離弁</td><td>SO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-S0-F723</td><td>露点サンプリング戻り第二隔離弁</td><td>SO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-S0-F724</td><td>露点サンプリング戻り第一隔離弁</td><td>SO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-S0-F727</td><td>漏えい検出系放射線モニタ入口第一隔離弁</td><td>SO</td></tr> </tbody> </table>	系統	機器番号	設備	分類	AC	T48-F001	バージ用空気供給側隔離弁	AO	AC	T48-F002	D/W バージ用入口隔離弁	AO	AC	T48-F003	S/C バージ用入口隔離弁	AO	AC	T48-F005A	格納容器外真空逃がし隔離弁(A)	AO	AC	T48-F005B	格納容器外真空逃がし隔離弁(B)	AO	AC	T48-F010	補給用窒素ガス供給側第二隔離弁	AO	AC	T48-F011	D/W 補給用窒素ガス供給用第一隔離弁	AO	AC	T48-F012	S/C 補給用窒素ガス供給用第一隔離弁	AO	AC	T48-F016	バージ用窒素ガス供給側第二隔離弁	AO	AC	T48-F019	D/W ベント用出口隔離弁	AO	AC	T48-F020	ベント用 SGTS 側隔離弁	AO	AC	T48-F021	ベント用 HVAC 側隔離弁	AO	AC	T48-F022	S/C ベント用出口隔離弁	AO	AC	T48-F023	D/W ベント用出口隔離弁バイパス弁	AO	AC	T48-F024	S/C ベント用出口隔離弁バイパス弁	AO	AC	T48-S0-F042A	真空破壊弁(A)計装用空気配管隔離弁	SO	AC	T48-S0-F042B	真空破壊弁(B)計装用空気配管隔離弁	SO	AC	T48-S0-F042C	真空破壊弁(C)計装用空気配管隔離弁	SO	AC	T48-S0-F042D	真空破壊弁(D)計装用空気配管隔離弁	SO	AC	T48-S0-F042E	真空破壊弁(E)計装用空気配管隔離弁	SO	AC	T48-S0-F042F	真空破壊弁(F)計装用空気配管隔離弁	SO	AC	T48-S0-F708	LS015 D/W 冠水水位計装配管(H)側隔離弁	SO	AC	T48-S0-F710	LS015 D/W 冠水水位計装配管(L)側隔離弁	SO	AC	T48-S0-F721	露点サンプリング入口第一隔離弁	SO	AC	T48-S0-F722	露点サンプリング入口第二隔離弁	SO	AC	T48-S0-F723	露点サンプリング戻り第二隔離弁	SO	AC	T48-S0-F724	露点サンプリング戻り第一隔離弁	SO	AC	T48-S0-F727	漏えい検出系放射線モニタ入口第一隔離弁	SO	<table border="1"> <thead> <tr> <th>系統</th> <th>機器番号</th> <th>設備</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1次冷却系</td><td>3V-RC-054A,B</td><td>A-加圧器逃がし弁弁弁</td></tr> <tr><td>1次冷却系</td><td>3LCV-451,452</td><td>抽出ライン第1(2)止め弁</td></tr> <tr><td>1次冷却系</td><td>3V-RC-077</td><td>加圧器逃がしタンク自動ガス分析ラインC/V内側隔離弁</td></tr> <tr><td>1次冷却系</td><td>3V-RC-078</td><td>加圧器逃がしタンク自動ガス分析ラインC/V外側隔離弁</td></tr> <tr><td>1次冷却系</td><td>3V-RC-084</td><td>加圧器逃がしタンク窒素供給ラインC/V外側隔離弁</td></tr> <tr><td>1次冷却系</td><td>3V-RC-093</td><td>加圧器逃がしタンク補給水ラインC/V外側隔離弁</td></tr> <tr><td>化学体積制御系</td><td>3FCV-138</td><td>充てん流量制御弁</td></tr> <tr><td>化学体積制御系</td><td>3V-CS-167</td><td>充てんライン流量制御弁補助オリフィスバイパス弁</td></tr> <tr><td>化学体積制御系</td><td>3V-CS-191</td><td>充てんライン止め弁</td></tr> <tr><td>化学体積制御系</td><td>3V-CS-186</td><td>加圧器補助スプレイ弁</td></tr> <tr><td>化学体積制御系</td><td>3V-CS-455A,B</td><td>ほう酸タンク出口弁</td></tr> <tr><td>化学体積制御系</td><td>3V-CS-466A,B</td><td>ほう酸ポンプ出口補給ライン切替弁</td></tr> <tr><td>化学体積制御系</td><td>3V-CS-473A,B</td><td>ほう酸ポンプ出口循環ライン切替弁</td></tr> <tr><td>化学体積制御系</td><td>3V-CS-474A,B</td><td>ほう酸フィルタ出口A(B)ほう酸タンク戻り弁</td></tr> <tr><td>化学体積制御系</td><td>3V-CS-499A,B</td><td>ほう酸ポンプ入口切替弁</td></tr> <tr><td>化学体積制御系</td><td>3V-CS-004A,B,C</td><td>抽出オリフィス出口C/V内側隔離弁</td></tr> <tr><td>化学体積制御系</td><td>3V-CS-006</td><td>抽出ライン格納容器外側隔離弁</td></tr> <tr><td>化学体積制御系</td><td>3V-CS-224A,B,C</td><td>1次冷却材ポンプ封水注入ラインC/V外側隔離弁</td></tr> <tr><td>化学体積制御系</td><td>3V-CS-242A,B,C</td><td>1次冷却材ポンプ封水戻りオリフィスバイパス弁</td></tr> <tr><td>安全注入系</td><td>3V-SI-141</td><td>ほう酸注入タンク循環ライン入口止め弁</td></tr> <tr><td>安全注入系</td><td>3V-SI-145,146</td><td>ほう酸注入タンク循環ライン出口第1(2)止め弁</td></tr> <tr><td>安全注入系</td><td>3V-SI-132A,B,C</td><td>蓄圧タンク出口弁</td></tr> <tr><td>安全注入系</td><td>3V-SI-123A,B,C</td><td>蓄圧タンクサンプリングラインC/V内側隔離弁</td></tr> <tr><td>安全注入系</td><td>3V-SI-124</td><td>蓄圧タンクサンプリングラインC/V外側隔離弁</td></tr> <tr><td>安全注入系</td><td>3V-SI-164</td><td>蓄圧タンク窒素供給ラインC/V外側隔離弁</td></tr> <tr><td>安全注入系</td><td>3V-SI-184</td><td>安全注入逆止弁テストラインC/V内側隔離弁</td></tr> <tr><td>安全注入系</td><td>3V-SI-185</td><td>蓄圧タンク補給ラインC/V外側隔離弁</td></tr> <tr><td>安全注入系</td><td>3V-SI-186</td><td>安全注入逆止弁テストラインC/V外側隔離弁</td></tr> <tr><td>余熱除去系</td><td>3HKV-603,613</td><td>余熱除去冷却器出口流量制御弁</td></tr> <tr><td>余熱除去系</td><td>3FCV-604,614</td><td>余熱除去A(B)ライン流量制御弁</td></tr> </tbody> </table>	系統	機器番号	設備	1次冷却系	3V-RC-054A,B	A-加圧器逃がし弁弁弁	1次冷却系	3LCV-451,452	抽出ライン第1(2)止め弁	1次冷却系	3V-RC-077	加圧器逃がしタンク自動ガス分析ラインC/V内側隔離弁	1次冷却系	3V-RC-078	加圧器逃がしタンク自動ガス分析ラインC/V外側隔離弁	1次冷却系	3V-RC-084	加圧器逃がしタンク窒素供給ラインC/V外側隔離弁	1次冷却系	3V-RC-093	加圧器逃がしタンク補給水ラインC/V外側隔離弁	化学体積制御系	3FCV-138	充てん流量制御弁	化学体積制御系	3V-CS-167	充てんライン流量制御弁補助オリフィスバイパス弁	化学体積制御系	3V-CS-191	充てんライン止め弁	化学体積制御系	3V-CS-186	加圧器補助スプレイ弁	化学体積制御系	3V-CS-455A,B	ほう酸タンク出口弁	化学体積制御系	3V-CS-466A,B	ほう酸ポンプ出口補給ライン切替弁	化学体積制御系	3V-CS-473A,B	ほう酸ポンプ出口循環ライン切替弁	化学体積制御系	3V-CS-474A,B	ほう酸フィルタ出口A(B)ほう酸タンク戻り弁	化学体積制御系	3V-CS-499A,B	ほう酸ポンプ入口切替弁	化学体積制御系	3V-CS-004A,B,C	抽出オリフィス出口C/V内側隔離弁	化学体積制御系	3V-CS-006	抽出ライン格納容器外側隔離弁	化学体積制御系	3V-CS-224A,B,C	1次冷却材ポンプ封水注入ラインC/V外側隔離弁	化学体積制御系	3V-CS-242A,B,C	1次冷却材ポンプ封水戻りオリフィスバイパス弁	安全注入系	3V-SI-141	ほう酸注入タンク循環ライン入口止め弁	安全注入系	3V-SI-145,146	ほう酸注入タンク循環ライン出口第1(2)止め弁	安全注入系	3V-SI-132A,B,C	蓄圧タンク出口弁	安全注入系	3V-SI-123A,B,C	蓄圧タンクサンプリングラインC/V内側隔離弁	安全注入系	3V-SI-124	蓄圧タンクサンプリングラインC/V外側隔離弁	安全注入系	3V-SI-164	蓄圧タンク窒素供給ラインC/V外側隔離弁	安全注入系	3V-SI-184	安全注入逆止弁テストラインC/V内側隔離弁	安全注入系	3V-SI-185	蓄圧タンク補給ラインC/V外側隔離弁	安全注入系	3V-SI-186	安全注入逆止弁テストラインC/V外側隔離弁	余熱除去系	3HKV-603,613	余熱除去冷却器出口流量制御弁	余熱除去系	3FCV-604,614	余熱除去A(B)ライン流量制御弁	<p><a href="#">プラント設計の相違</a></p> <p><a href="#">記載表現の相違</a></p>
系統	機器番号	設備	分類																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-F001	バージ用空気供給側隔離弁	AO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-F002	D/W バージ用入口隔離弁	AO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-F003	S/C バージ用入口隔離弁	AO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-F005A	格納容器外真空逃がし隔離弁(A)	AO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-F005B	格納容器外真空逃がし隔離弁(B)	AO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-F010	補給用窒素ガス供給側第二隔離弁	AO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-F011	D/W 補給用窒素ガス供給用第一隔離弁	AO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-F012	S/C 補給用窒素ガス供給用第一隔離弁	AO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-F016	バージ用窒素ガス供給側第二隔離弁	AO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-F019	D/W ベント用出口隔離弁	AO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-F020	ベント用 SGTS 側隔離弁	AO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-F021	ベント用 HVAC 側隔離弁	AO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-F022	S/C ベント用出口隔離弁	AO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-F023	D/W ベント用出口隔離弁バイパス弁	AO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-F024	S/C ベント用出口隔離弁バイパス弁	AO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-S0-F042A	真空破壊弁(A)計装用空気配管隔離弁	SO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-S0-F042B	真空破壊弁(B)計装用空気配管隔離弁	SO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-S0-F042C	真空破壊弁(C)計装用空気配管隔離弁	SO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-S0-F042D	真空破壊弁(D)計装用空気配管隔離弁	SO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-S0-F042E	真空破壊弁(E)計装用空気配管隔離弁	SO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-S0-F042F	真空破壊弁(F)計装用空気配管隔離弁	SO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-S0-F708	LS015 D/W 冠水水位計装配管(H)側隔離弁	SO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-S0-F710	LS015 D/W 冠水水位計装配管(L)側隔離弁	SO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-S0-F721	露点サンプリング入口第一隔離弁	SO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-S0-F722	露点サンプリング入口第二隔離弁	SO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-S0-F723	露点サンプリング戻り第二隔離弁	SO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-S0-F724	露点サンプリング戻り第一隔離弁	SO																																																																																																																																																																																																																	
AC	T48-S0-F727	漏えい検出系放射線モニタ入口第一隔離弁	SO																																																																																																																																																																																																																	
系統	機器番号	設備																																																																																																																																																																																																																		
1次冷却系	3V-RC-054A,B	A-加圧器逃がし弁弁弁																																																																																																																																																																																																																		
1次冷却系	3LCV-451,452	抽出ライン第1(2)止め弁																																																																																																																																																																																																																		
1次冷却系	3V-RC-077	加圧器逃がしタンク自動ガス分析ラインC/V内側隔離弁																																																																																																																																																																																																																		
1次冷却系	3V-RC-078	加圧器逃がしタンク自動ガス分析ラインC/V外側隔離弁																																																																																																																																																																																																																		
1次冷却系	3V-RC-084	加圧器逃がしタンク窒素供給ラインC/V外側隔離弁																																																																																																																																																																																																																		
1次冷却系	3V-RC-093	加圧器逃がしタンク補給水ラインC/V外側隔離弁																																																																																																																																																																																																																		
化学体積制御系	3FCV-138	充てん流量制御弁																																																																																																																																																																																																																		
化学体積制御系	3V-CS-167	充てんライン流量制御弁補助オリフィスバイパス弁																																																																																																																																																																																																																		
化学体積制御系	3V-CS-191	充てんライン止め弁																																																																																																																																																																																																																		
化学体積制御系	3V-CS-186	加圧器補助スプレイ弁																																																																																																																																																																																																																		
化学体積制御系	3V-CS-455A,B	ほう酸タンク出口弁																																																																																																																																																																																																																		
化学体積制御系	3V-CS-466A,B	ほう酸ポンプ出口補給ライン切替弁																																																																																																																																																																																																																		
化学体積制御系	3V-CS-473A,B	ほう酸ポンプ出口循環ライン切替弁																																																																																																																																																																																																																		
化学体積制御系	3V-CS-474A,B	ほう酸フィルタ出口A(B)ほう酸タンク戻り弁																																																																																																																																																																																																																		
化学体積制御系	3V-CS-499A,B	ほう酸ポンプ入口切替弁																																																																																																																																																																																																																		
化学体積制御系	3V-CS-004A,B,C	抽出オリフィス出口C/V内側隔離弁																																																																																																																																																																																																																		
化学体積制御系	3V-CS-006	抽出ライン格納容器外側隔離弁																																																																																																																																																																																																																		
化学体積制御系	3V-CS-224A,B,C	1次冷却材ポンプ封水注入ラインC/V外側隔離弁																																																																																																																																																																																																																		
化学体積制御系	3V-CS-242A,B,C	1次冷却材ポンプ封水戻りオリフィスバイパス弁																																																																																																																																																																																																																		
安全注入系	3V-SI-141	ほう酸注入タンク循環ライン入口止め弁																																																																																																																																																																																																																		
安全注入系	3V-SI-145,146	ほう酸注入タンク循環ライン出口第1(2)止め弁																																																																																																																																																																																																																		
安全注入系	3V-SI-132A,B,C	蓄圧タンク出口弁																																																																																																																																																																																																																		
安全注入系	3V-SI-123A,B,C	蓄圧タンクサンプリングラインC/V内側隔離弁																																																																																																																																																																																																																		
安全注入系	3V-SI-124	蓄圧タンクサンプリングラインC/V外側隔離弁																																																																																																																																																																																																																		
安全注入系	3V-SI-164	蓄圧タンク窒素供給ラインC/V外側隔離弁																																																																																																																																																																																																																		
安全注入系	3V-SI-184	安全注入逆止弁テストラインC/V内側隔離弁																																																																																																																																																																																																																		
安全注入系	3V-SI-185	蓄圧タンク補給ラインC/V外側隔離弁																																																																																																																																																																																																																		
安全注入系	3V-SI-186	安全注入逆止弁テストラインC/V外側隔離弁																																																																																																																																																																																																																		
余熱除去系	3HKV-603,613	余熱除去冷却器出口流量制御弁																																																																																																																																																																																																																		
余熱除去系	3FCV-604,614	余熱除去A(B)ライン流量制御弁																																																																																																																																																																																																																		



泊発電所3号炉 D B基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1 補足説明資料7)

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																																																														
	表2 フェイル・セーフ機能により溢水影響評価対象外とした設備 (2/3)	表2 フェイル・セーフ機能により溢水影響評価対象外とした設備 (2/3)	<p>【大飯】  <a href="#">記載方針の相違</a>                      女川審査実績の反映</p> <p>【女川】  <a href="#">設計方針の相違</a>                      プラント設計の相違  <a href="#">記載表現の相違</a></p>																																																																																																																																																																																														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>系統</th> <th>機器番号</th> <th>設備</th> <th>分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>AC</td><td>T48-S0-F728</td><td>漏えい検出系放射線モニタ入口第二隔離弁</td><td>SO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-S0-F729</td><td>漏えい検出系放射線モニタ戻り第二隔離弁</td><td>SO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-S0-F730</td><td>漏えい検出系放射線モニタ戻り第一隔離弁</td><td>SO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-S0-F772</td><td>T48-LS025 D/W 水位計装配管(L)側隔離弁</td><td>SO</td></tr> <tr><td>AC</td><td>T48-S0-F774</td><td>T48-LS025 D/W 水位計装配管(H)側隔離弁</td><td>SO</td></tr> <tr><td>CRD</td><td>C12-D001-126</td><td>スクラム入口弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>CRD</td><td>C12-D001-139</td><td>スクラムパイロット弁</td><td>SO</td></tr> <tr><td>FDW</td><td>B21-F052A</td><td>FDW 第二隔離弁(A)</td><td>AO</td></tr> <tr><td>FDW</td><td>B21-F052B</td><td>FDW 第二隔離弁(B)</td><td>AO</td></tr> <tr><td>HECW</td><td>P25-F007A</td><td>中央制御室給気冷却コイル(A)温度調節弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>HECW</td><td>P25-F007B</td><td>中央制御室給気冷却コイル(B)温度調節弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>HECW</td><td>P25-F018A</td><td>計測制御電源(A)室給気冷却コイル温度調節弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>HECW</td><td>P25-F018B</td><td>計測制御電源(B)室給気冷却コイル温度調節弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>HECW</td><td>P25-F024A</td><td>原子炉補機(A)室給気冷却コイル温度調節弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>HECW</td><td>P25-F024B</td><td>原子炉補機(B)室給気冷却コイル温度調節弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>HVAC</td><td>V10-D201A</td><td>CAMS(A)室非常用給気隔離ダンパ</td><td>AO</td></tr> <tr><td>HVAC</td><td>V10-D201B</td><td>CAMS(B)室非常用給気隔離ダンパ</td><td>AO</td></tr> <tr><td>HVAC</td><td>V10-D202A</td><td>CAMS(A)室非常用排気隔離ダンパ</td><td>AO</td></tr> <tr><td>HVAC</td><td>V10-D202B</td><td>CAMS(B)室非常用排気隔離ダンパ</td><td>AO</td></tr> <tr><td>HVAC</td><td>V10-D203</td><td>DC-MCC 2A 室非常用給気隔離ダンパ</td><td>AO</td></tr> <tr><td>HVAC</td><td>V10-D204</td><td>DC-MCC 2A 室非常用排気隔離ダンパ</td><td>AO</td></tr> <tr><td>HVAC</td><td>V10-F001A</td><td>原子炉棟給気隔離弁(A)</td><td>AO</td></tr> <tr><td>HVAC</td><td>V10-F001B</td><td>原子炉棟給気隔離弁(B)</td><td>AO</td></tr> <tr><td>HVAC</td><td>V10-F002A</td><td>原子炉棟排気隔離弁(A)</td><td>AO</td></tr> <tr><td>HVAC</td><td>V10-F002B</td><td>原子炉棟排気隔離弁(B)</td><td>AO</td></tr> <tr><td>HVAC</td><td>V10-F522A</td><td>原子炉棟給気隔離弁(A)用アキュムレータ(電磁弁)</td><td>SO</td></tr> <tr><td>HVAC</td><td>V10-F522B</td><td>原子炉棟給気隔離弁(B)用アキュムレータ(電磁弁)</td><td>SO</td></tr> <tr><td>HVAC</td><td>V10-F530A</td><td>原子炉棟排気隔離弁(A)用アキュムレータ(電磁弁)</td><td>SO</td></tr> </tbody> </table>	系統	機器番号	設備	分類	AC	T48-S0-F728	漏えい検出系放射線モニタ入口第二隔離弁	SO	AC	T48-S0-F729	漏えい検出系放射線モニタ戻り第二隔離弁	SO	AC	T48-S0-F730	漏えい検出系放射線モニタ戻り第一隔離弁	SO	AC	T48-S0-F772	T48-LS025 D/W 水位計装配管(L)側隔離弁	SO	AC	T48-S0-F774	T48-LS025 D/W 水位計装配管(H)側隔離弁	SO	CRD	C12-D001-126	スクラム入口弁	AO	CRD	C12-D001-139	スクラムパイロット弁	SO	FDW	B21-F052A	FDW 第二隔離弁(A)	AO	FDW	B21-F052B	FDW 第二隔離弁(B)	AO	HECW	P25-F007A	中央制御室給気冷却コイル(A)温度調節弁	AO	HECW	P25-F007B	中央制御室給気冷却コイル(B)温度調節弁	AO	HECW	P25-F018A	計測制御電源(A)室給気冷却コイル温度調節弁	AO	HECW	P25-F018B	計測制御電源(B)室給気冷却コイル温度調節弁	AO	HECW	P25-F024A	原子炉補機(A)室給気冷却コイル温度調節弁	AO	HECW	P25-F024B	原子炉補機(B)室給気冷却コイル温度調節弁	AO	HVAC	V10-D201A	CAMS(A)室非常用給気隔離ダンパ	AO	HVAC	V10-D201B	CAMS(B)室非常用給気隔離ダンパ	AO	HVAC	V10-D202A	CAMS(A)室非常用排気隔離ダンパ	AO	HVAC	V10-D202B	CAMS(B)室非常用排気隔離ダンパ	AO	HVAC	V10-D203	DC-MCC 2A 室非常用給気隔離ダンパ	AO	HVAC	V10-D204	DC-MCC 2A 室非常用排気隔離ダンパ	AO	HVAC	V10-F001A	原子炉棟給気隔離弁(A)	AO	HVAC	V10-F001B	原子炉棟給気隔離弁(B)	AO	HVAC	V10-F002A	原子炉棟排気隔離弁(A)	AO	HVAC	V10-F002B	原子炉棟排気隔離弁(B)	AO	HVAC	V10-F522A	原子炉棟給気隔離弁(A)用アキュムレータ(電磁弁)	SO	HVAC	V10-F522B	原子炉棟給気隔離弁(B)用アキュムレータ(電磁弁)	SO	HVAC	V10-F530A	原子炉棟排気隔離弁(A)用アキュムレータ(電磁弁)	SO	<table border="1"> <thead> <tr> <th>系統</th> <th>機器番号</th> <th>設備</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>余熱除去系</td><td>3V-BH-029A, B</td><td>余熱除去A (B) ラインC/V 外側隔離弁</td></tr> <tr><td>主蒸気系</td><td>3HKV-3616, 3626, 3636</td><td>主蒸気バイパス隔離弁</td></tr> <tr><td>主蒸気系</td><td>3V-MS-575A, B</td><td>タービン動補助給水ポンプ駆動蒸気B (C) 主蒸気ライン弁弁</td></tr> <tr><td>主蒸気系</td><td>3V-MS-518A, B, C</td><td>主蒸気過かし弁弁弁</td></tr> <tr><td>主蒸気系</td><td>3V-MS-581</td><td>非常用タービンワンド蒸気元弁</td></tr> <tr><td>主蒸気系</td><td>3V-MS-601A, B, C</td><td>主蒸気隔離弁上流ドレンライン隔離弁</td></tr> <tr><td>原子炉格納容器スプレッド系</td><td>3V-CP-056A, B</td><td>よう素除去薬品タンク注入A (B) ライン止め弁復弁</td></tr> <tr><td>原子炉補機冷却水系</td><td>3V-CC-054A, B, C, D</td><td>原子炉補機冷却水冷却器補機冷却水出口弁</td></tr> <tr><td>液体廃棄物処理系</td><td>3V-ML-005</td><td>CVDT 自動ガス分析ラインC/V 内側隔離弁</td></tr> <tr><td>液体廃棄物処理系</td><td>3V-ML-006</td><td>CVDT 自動ガス分析ラインC/V 外側隔離弁</td></tr> <tr><td>液体廃棄物処理系</td><td>3V-ML-010</td><td>格納容器冷却材ドレンタンクベントラインC/V 内側隔離弁</td></tr> <tr><td>液体廃棄物処理系</td><td>3V-ML-011</td><td>格納容器冷却材ドレンタンクベントラインC/V 外側隔離弁</td></tr> <tr><td>液体廃棄物処理系</td><td>3V-ML-017</td><td>格納容器冷却材ドレンタンク薬素供給C/V 隔離弁</td></tr> <tr><td>液体廃棄物処理系</td><td>3V-ML-031</td><td>格納容器冷却材ドレンポンプ出口C/V 内側隔離弁</td></tr> <tr><td>液体廃棄物処理系</td><td>3V-ML-032</td><td>格納容器冷却材ドレンポンプ出口C/V 外側隔離弁</td></tr> <tr><td>液体廃棄物処理系</td><td>3V-ML-113</td><td>格納容器サンプポンプ出口C/V 内側隔離弁</td></tr> <tr><td>液体廃棄物処理系</td><td>3V-ML-114</td><td>格納容器サンプポンプ出口C/V 外側隔離弁</td></tr> <tr><td>試料採取系</td><td>3V-SS-504</td><td>加圧器気相部サンプリングラインC/V 内側隔離弁</td></tr> <tr><td>試料採取系</td><td>3V-SS-509</td><td>加圧器液相部サンプリングラインC/V 内側隔離弁</td></tr> <tr><td>試料採取系</td><td>3V-SS-521A</td><td>Bループ高温側、加圧器サンプリングラインC/V 外側隔離弁</td></tr> <tr><td>試料採取系</td><td>3V-SS-521B</td><td>Cループ高温側サンプリングラインC/V 内側隔離弁</td></tr> <tr><td>試料採取系</td><td>3V-SS-718</td><td>PASS1 次冷却材サンプリングラインC/V 外側隔離弁</td></tr> <tr><td>格納容器減圧設備および格納容器水素制御設備</td><td>3V-BP-002A, B</td><td>格納容器純Hライン格納容器外側隔離弁</td></tr> <tr><td>格納容器減圧設備および格納容器水素制御設備</td><td>3V-BC-304A, B</td><td>格納容器水素バーージ給気ライン格納容器外側隔離弁</td></tr> </tbody> </table>	系統	機器番号	設備	余熱除去系	3V-BH-029A, B	余熱除去A (B) ラインC/V 外側隔離弁	主蒸気系	3HKV-3616, 3626, 3636	主蒸気バイパス隔離弁	主蒸気系	3V-MS-575A, B	タービン動補助給水ポンプ駆動蒸気B (C) 主蒸気ライン弁弁	主蒸気系	3V-MS-518A, B, C	主蒸気過かし弁弁弁	主蒸気系	3V-MS-581	非常用タービンワンド蒸気元弁	主蒸気系	3V-MS-601A, B, C	主蒸気隔離弁上流ドレンライン隔離弁	原子炉格納容器スプレッド系	3V-CP-056A, B	よう素除去薬品タンク注入A (B) ライン止め弁復弁	原子炉補機冷却水系	3V-CC-054A, B, C, D	原子炉補機冷却水冷却器補機冷却水出口弁	液体廃棄物処理系	3V-ML-005	CVDT 自動ガス分析ラインC/V 内側隔離弁	液体廃棄物処理系	3V-ML-006	CVDT 自動ガス分析ラインC/V 外側隔離弁	液体廃棄物処理系	3V-ML-010	格納容器冷却材ドレンタンクベントラインC/V 内側隔離弁	液体廃棄物処理系	3V-ML-011	格納容器冷却材ドレンタンクベントラインC/V 外側隔離弁	液体廃棄物処理系	3V-ML-017	格納容器冷却材ドレンタンク薬素供給C/V 隔離弁	液体廃棄物処理系	3V-ML-031	格納容器冷却材ドレンポンプ出口C/V 内側隔離弁	液体廃棄物処理系	3V-ML-032	格納容器冷却材ドレンポンプ出口C/V 外側隔離弁	液体廃棄物処理系	3V-ML-113	格納容器サンプポンプ出口C/V 内側隔離弁	液体廃棄物処理系	3V-ML-114	格納容器サンプポンプ出口C/V 外側隔離弁	試料採取系	3V-SS-504	加圧器気相部サンプリングラインC/V 内側隔離弁	試料採取系	3V-SS-509	加圧器液相部サンプリングラインC/V 内側隔離弁	試料採取系	3V-SS-521A	Bループ高温側、加圧器サンプリングラインC/V 外側隔離弁	試料採取系	3V-SS-521B	Cループ高温側サンプリングラインC/V 内側隔離弁	試料採取系	3V-SS-718	PASS1 次冷却材サンプリングラインC/V 外側隔離弁	格納容器減圧設備および格納容器水素制御設備	3V-BP-002A, B	格納容器純Hライン格納容器外側隔離弁	格納容器減圧設備および格納容器水素制御設備	3V-BC-304A, B	格納容器水素バーージ給気ライン格納容器外側隔離弁
系統	機器番号	設備	分類																																																																																																																																																																																														
AC	T48-S0-F728	漏えい検出系放射線モニタ入口第二隔離弁	SO																																																																																																																																																																																														
AC	T48-S0-F729	漏えい検出系放射線モニタ戻り第二隔離弁	SO																																																																																																																																																																																														
AC	T48-S0-F730	漏えい検出系放射線モニタ戻り第一隔離弁	SO																																																																																																																																																																																														
AC	T48-S0-F772	T48-LS025 D/W 水位計装配管(L)側隔離弁	SO																																																																																																																																																																																														
AC	T48-S0-F774	T48-LS025 D/W 水位計装配管(H)側隔離弁	SO																																																																																																																																																																																														
CRD	C12-D001-126	スクラム入口弁	AO																																																																																																																																																																																														
CRD	C12-D001-139	スクラムパイロット弁	SO																																																																																																																																																																																														
FDW	B21-F052A	FDW 第二隔離弁(A)	AO																																																																																																																																																																																														
FDW	B21-F052B	FDW 第二隔離弁(B)	AO																																																																																																																																																																																														
HECW	P25-F007A	中央制御室給気冷却コイル(A)温度調節弁	AO																																																																																																																																																																																														
HECW	P25-F007B	中央制御室給気冷却コイル(B)温度調節弁	AO																																																																																																																																																																																														
HECW	P25-F018A	計測制御電源(A)室給気冷却コイル温度調節弁	AO																																																																																																																																																																																														
HECW	P25-F018B	計測制御電源(B)室給気冷却コイル温度調節弁	AO																																																																																																																																																																																														
HECW	P25-F024A	原子炉補機(A)室給気冷却コイル温度調節弁	AO																																																																																																																																																																																														
HECW	P25-F024B	原子炉補機(B)室給気冷却コイル温度調節弁	AO																																																																																																																																																																																														
HVAC	V10-D201A	CAMS(A)室非常用給気隔離ダンパ	AO																																																																																																																																																																																														
HVAC	V10-D201B	CAMS(B)室非常用給気隔離ダンパ	AO																																																																																																																																																																																														
HVAC	V10-D202A	CAMS(A)室非常用排気隔離ダンパ	AO																																																																																																																																																																																														
HVAC	V10-D202B	CAMS(B)室非常用排気隔離ダンパ	AO																																																																																																																																																																																														
HVAC	V10-D203	DC-MCC 2A 室非常用給気隔離ダンパ	AO																																																																																																																																																																																														
HVAC	V10-D204	DC-MCC 2A 室非常用排気隔離ダンパ	AO																																																																																																																																																																																														
HVAC	V10-F001A	原子炉棟給気隔離弁(A)	AO																																																																																																																																																																																														
HVAC	V10-F001B	原子炉棟給気隔離弁(B)	AO																																																																																																																																																																																														
HVAC	V10-F002A	原子炉棟排気隔離弁(A)	AO																																																																																																																																																																																														
HVAC	V10-F002B	原子炉棟排気隔離弁(B)	AO																																																																																																																																																																																														
HVAC	V10-F522A	原子炉棟給気隔離弁(A)用アキュムレータ(電磁弁)	SO																																																																																																																																																																																														
HVAC	V10-F522B	原子炉棟給気隔離弁(B)用アキュムレータ(電磁弁)	SO																																																																																																																																																																																														
HVAC	V10-F530A	原子炉棟排気隔離弁(A)用アキュムレータ(電磁弁)	SO																																																																																																																																																																																														
系統	機器番号	設備																																																																																																																																																																																															
余熱除去系	3V-BH-029A, B	余熱除去A (B) ラインC/V 外側隔離弁																																																																																																																																																																																															
主蒸気系	3HKV-3616, 3626, 3636	主蒸気バイパス隔離弁																																																																																																																																																																																															
主蒸気系	3V-MS-575A, B	タービン動補助給水ポンプ駆動蒸気B (C) 主蒸気ライン弁弁																																																																																																																																																																																															
主蒸気系	3V-MS-518A, B, C	主蒸気過かし弁弁弁																																																																																																																																																																																															
主蒸気系	3V-MS-581	非常用タービンワンド蒸気元弁																																																																																																																																																																																															
主蒸気系	3V-MS-601A, B, C	主蒸気隔離弁上流ドレンライン隔離弁																																																																																																																																																																																															
原子炉格納容器スプレッド系	3V-CP-056A, B	よう素除去薬品タンク注入A (B) ライン止め弁復弁																																																																																																																																																																																															
原子炉補機冷却水系	3V-CC-054A, B, C, D	原子炉補機冷却水冷却器補機冷却水出口弁																																																																																																																																																																																															
液体廃棄物処理系	3V-ML-005	CVDT 自動ガス分析ラインC/V 内側隔離弁																																																																																																																																																																																															
液体廃棄物処理系	3V-ML-006	CVDT 自動ガス分析ラインC/V 外側隔離弁																																																																																																																																																																																															
液体廃棄物処理系	3V-ML-010	格納容器冷却材ドレンタンクベントラインC/V 内側隔離弁																																																																																																																																																																																															
液体廃棄物処理系	3V-ML-011	格納容器冷却材ドレンタンクベントラインC/V 外側隔離弁																																																																																																																																																																																															
液体廃棄物処理系	3V-ML-017	格納容器冷却材ドレンタンク薬素供給C/V 隔離弁																																																																																																																																																																																															
液体廃棄物処理系	3V-ML-031	格納容器冷却材ドレンポンプ出口C/V 内側隔離弁																																																																																																																																																																																															
液体廃棄物処理系	3V-ML-032	格納容器冷却材ドレンポンプ出口C/V 外側隔離弁																																																																																																																																																																																															
液体廃棄物処理系	3V-ML-113	格納容器サンプポンプ出口C/V 内側隔離弁																																																																																																																																																																																															
液体廃棄物処理系	3V-ML-114	格納容器サンプポンプ出口C/V 外側隔離弁																																																																																																																																																																																															
試料採取系	3V-SS-504	加圧器気相部サンプリングラインC/V 内側隔離弁																																																																																																																																																																																															
試料採取系	3V-SS-509	加圧器液相部サンプリングラインC/V 内側隔離弁																																																																																																																																																																																															
試料採取系	3V-SS-521A	Bループ高温側、加圧器サンプリングラインC/V 外側隔離弁																																																																																																																																																																																															
試料採取系	3V-SS-521B	Cループ高温側サンプリングラインC/V 内側隔離弁																																																																																																																																																																																															
試料採取系	3V-SS-718	PASS1 次冷却材サンプリングラインC/V 外側隔離弁																																																																																																																																																																																															
格納容器減圧設備および格納容器水素制御設備	3V-BP-002A, B	格納容器純Hライン格納容器外側隔離弁																																																																																																																																																																																															
格納容器減圧設備および格納容器水素制御設備	3V-BC-304A, B	格納容器水素バーージ給気ライン格納容器外側隔離弁																																																																																																																																																																																															

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

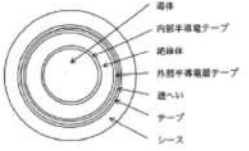

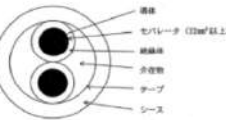
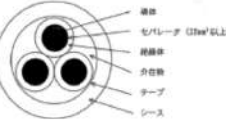


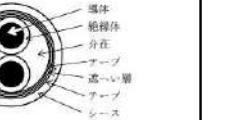

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料7）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																												
	<p>表2 フェイル・セーフ機能により溢水影響評価対象外とした設備(3/3)</p> <table border="1" data-bbox="698 245 1274 743"> <thead> <tr> <th>系統</th> <th>機器番号</th> <th>設備</th> <th>分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>HVAC</td><td>V10-F530B</td><td>原子炉棟排気隔離弁(B)用アキュムレータ(電磁弁)</td><td>SO</td></tr> <tr><td>MS</td><td>B21-F003A</td><td>主蒸気第二隔離弁(A)</td><td>AO</td></tr> <tr><td>MS</td><td>B21-F003B</td><td>主蒸気第二隔離弁(B)</td><td>AO</td></tr> <tr><td>MS</td><td>B21-F003C</td><td>主蒸気第二隔離弁(C)</td><td>AO</td></tr> <tr><td>MS</td><td>B21-F003D</td><td>主蒸気第二隔離弁(D)</td><td>AO</td></tr> <tr><td>PLR</td><td>B32-F014</td><td>PLR サンプルライン第二隔離弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>RCW</td><td>F42-F006A</td><td>RCW 冷却水供給温度熱交換器(A)側調節弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>RCW</td><td>F42-F006B</td><td>RCW 冷却水供給温度熱交換器(B)側調節弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>RCW</td><td>F42-F010A</td><td>RCW 冷却水供給温度ポンプ(A)側調節弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>RCW</td><td>F42-F010B</td><td>RCW 冷却水供給温度ポンプ(B)側調節弁</td><td>AO</td></tr> <tr><td>RCW</td><td>F42-F089A</td><td>RCW 常用冷却水緊急しゝ断弁(A)</td><td>AO</td></tr> <tr><td>RCW</td><td>F42-F089B</td><td>RCW 常用冷却水緊急しゝ断弁(B)</td><td>AO</td></tr> <tr><td>RCW</td><td>F42-F089C</td><td>RCW 常用冷却水緊急しゝ断弁(C)</td><td>AO</td></tr> <tr><td>RCW</td><td>F42-F089D</td><td>RCW 常用冷却水緊急しゝ断弁(D)</td><td>AO</td></tr> <tr><td>SGTS</td><td>T46-F001A</td><td>非常用ガス処理系入口弁(A)</td><td>AO</td></tr> <tr><td>SGTS</td><td>T46-F001B</td><td>非常用ガス処理系入口弁(B)</td><td>AO</td></tr> <tr><td>TIP</td><td>C51-F083</td><td>TIP バーージ隔離弁</td><td>SO</td></tr> </tbody> </table>	系統	機器番号	設備	分類	HVAC	V10-F530B	原子炉棟排気隔離弁(B)用アキュムレータ(電磁弁)	SO	MS	B21-F003A	主蒸気第二隔離弁(A)	AO	MS	B21-F003B	主蒸気第二隔離弁(B)	AO	MS	B21-F003C	主蒸気第二隔離弁(C)	AO	MS	B21-F003D	主蒸気第二隔離弁(D)	AO	PLR	B32-F014	PLR サンプルライン第二隔離弁	AO	RCW	F42-F006A	RCW 冷却水供給温度熱交換器(A)側調節弁	AO	RCW	F42-F006B	RCW 冷却水供給温度熱交換器(B)側調節弁	AO	RCW	F42-F010A	RCW 冷却水供給温度ポンプ(A)側調節弁	AO	RCW	F42-F010B	RCW 冷却水供給温度ポンプ(B)側調節弁	AO	RCW	F42-F089A	RCW 常用冷却水緊急しゝ断弁(A)	AO	RCW	F42-F089B	RCW 常用冷却水緊急しゝ断弁(B)	AO	RCW	F42-F089C	RCW 常用冷却水緊急しゝ断弁(C)	AO	RCW	F42-F089D	RCW 常用冷却水緊急しゝ断弁(D)	AO	SGTS	T46-F001A	非常用ガス処理系入口弁(A)	AO	SGTS	T46-F001B	非常用ガス処理系入口弁(B)	AO	TIP	C51-F083	TIP バーージ隔離弁	SO	<p>表2 フェイル・セーフ機能により溢水影響評価対象外とした設備(3/3)</p> <table border="1" data-bbox="1281 245 1865 967"> <thead> <tr> <th>系統</th> <th>機器番号</th> <th>設備</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>放射線監視設備空気サンプリング系</td><td>3Y-3M-002</td><td>格納容器空気サンブル取出し格納容器外側隔離弁</td></tr> <tr><td>放射線監視設備空気サンプリング系</td><td>3Y-3M-015</td><td>格納容器空気サンブル戻り格納容器外側隔離弁</td></tr> <tr><td>蒸気発生器ブローダウン系</td><td>3Y-3D-028A, B, C</td><td>ブローダウン止め弁</td></tr> <tr><td>蒸気発生器ブローダウン系</td><td>3Y-3D-008A, B, C</td><td>蒸気発生器サンプルライン C/V 外側隔離弁</td></tr> <tr><td>蒸気発生器ブローダウン系</td><td>3Y-3D-026A, B, C</td><td>ブローダウン C/V 外側隔離弁</td></tr> <tr><td>換気空調系</td><td>3D-VS-291A, B</td><td>燃料取扱棟事故時排気ライン 隔離ダンパ</td></tr> <tr><td>換気空調系</td><td>3Y-VS-055</td><td>格納容器給気ライン格納容器外側隔離弁</td></tr> <tr><td>換気空調系</td><td>3Y-VS-056</td><td>格納容器給気ライン格納容器内側隔離弁</td></tr> <tr><td>換気空調系</td><td>3Y-VS-061</td><td>格納容器排気ライン格納容器内側隔離弁</td></tr> <tr><td>換気空調系</td><td>3Y-VS-062</td><td>格納容器排気ライン格納容器外側隔離弁</td></tr> <tr><td>換気空調系</td><td>3D-VS-301A, B</td><td>安全補機室給気第1隔離ダンパ</td></tr> <tr><td>換気空調系</td><td>3D-VS-302A, B</td><td>安全補機室給気第2隔離ダンパ</td></tr> <tr><td>換気空調系</td><td>3D-VS-303A, B</td><td>安全補機室排気第1隔離ダンパ</td></tr> <tr><td>換気空調系</td><td>3D-VS-304A, B</td><td>安全補機室排気第2隔離ダンパ</td></tr> <tr><td>換気空調系</td><td>3D-VS-402A, B, C, D</td><td>ディーゼル発電機室排気ダンパ</td></tr> <tr><td>換気空調系</td><td>3D-VS-601A, B</td><td>中央制御室外気取入ダンパ</td></tr> <tr><td>換気空調系</td><td>3D-VS-611, 612</td><td>中央制御室排気第1(2)隔離ダンパ</td></tr> <tr><td>換気空調系</td><td>3HCD-2838, 2839</td><td>中央制御室排気風量調節ダンパ</td></tr> <tr><td>換気空調系</td><td>3D-VS-053</td><td>格納容器給気密閉ダンパ</td></tr> <tr><td>換気空調系</td><td>3D-VS-064</td><td>格納容器排気密閉ダンパ</td></tr> <tr><td>換気空調系</td><td>3D-VS-065A, B</td><td>格納容器排気ファン出口ダンパ</td></tr> <tr><td>換気空調系</td><td>3D-VS-232</td><td>補助建屋排気隔離ダンパ</td></tr> <tr><td>換気空調系</td><td>3PCD-2526</td><td>補助建屋排気風量調節ダンパ</td></tr> <tr><td>水消火系</td><td>3Y-FS-504</td><td>消火水 C/V 外側隔離弁</td></tr> <tr><td>炉内核計装置ガスバーージ設備</td><td>3Y-IG-008</td><td>炉内核計装置二酸化炭素バーージライン C/V 外側隔離弁</td></tr> <tr><td>炉内核計装置ガスバーージ設備</td><td>3Y-IG-009</td><td>炉内核計装置二酸化炭素バーージライン C/V 内側隔離弁</td></tr> <tr><td>原子炉格納容器真空逃がし装置</td><td>3Y-VR-001A, B</td><td>真空逃がし装置 C/V 外側隔離弁</td></tr> </tbody> </table>	系統	機器番号	設備	放射線監視設備空気サンプリング系	3Y-3M-002	格納容器空気サンブル取出し格納容器外側隔離弁	放射線監視設備空気サンプリング系	3Y-3M-015	格納容器空気サンブル戻り格納容器外側隔離弁	蒸気発生器ブローダウン系	3Y-3D-028A, B, C	ブローダウン止め弁	蒸気発生器ブローダウン系	3Y-3D-008A, B, C	蒸気発生器サンプルライン C/V 外側隔離弁	蒸気発生器ブローダウン系	3Y-3D-026A, B, C	ブローダウン C/V 外側隔離弁	換気空調系	3D-VS-291A, B	燃料取扱棟事故時排気ライン 隔離ダンパ	換気空調系	3Y-VS-055	格納容器給気ライン格納容器外側隔離弁	換気空調系	3Y-VS-056	格納容器給気ライン格納容器内側隔離弁	換気空調系	3Y-VS-061	格納容器排気ライン格納容器内側隔離弁	換気空調系	3Y-VS-062	格納容器排気ライン格納容器外側隔離弁	換気空調系	3D-VS-301A, B	安全補機室給気第1隔離ダンパ	換気空調系	3D-VS-302A, B	安全補機室給気第2隔離ダンパ	換気空調系	3D-VS-303A, B	安全補機室排気第1隔離ダンパ	換気空調系	3D-VS-304A, B	安全補機室排気第2隔離ダンパ	換気空調系	3D-VS-402A, B, C, D	ディーゼル発電機室排気ダンパ	換気空調系	3D-VS-601A, B	中央制御室外気取入ダンパ	換気空調系	3D-VS-611, 612	中央制御室排気第1(2)隔離ダンパ	換気空調系	3HCD-2838, 2839	中央制御室排気風量調節ダンパ	換気空調系	3D-VS-053	格納容器給気密閉ダンパ	換気空調系	3D-VS-064	格納容器排気密閉ダンパ	換気空調系	3D-VS-065A, B	格納容器排気ファン出口ダンパ	換気空調系	3D-VS-232	補助建屋排気隔離ダンパ	換気空調系	3PCD-2526	補助建屋排気風量調節ダンパ	水消火系	3Y-FS-504	消火水 C/V 外側隔離弁	炉内核計装置ガスバーージ設備	3Y-IG-008	炉内核計装置二酸化炭素バーージライン C/V 外側隔離弁	炉内核計装置ガスバーージ設備	3Y-IG-009	炉内核計装置二酸化炭素バーージライン C/V 内側隔離弁	原子炉格納容器真空逃がし装置	3Y-VR-001A, B	真空逃がし装置 C/V 外側隔離弁	<p>【大飯】  <a href="#">記載方針の相違</a>          女川審査実績の反映</p> <p>【女川】  <a href="#">設計方針の相違</a>          プラント設計の相違  <a href="#">記載表現の相違</a></p>
系統	機器番号	設備	分類																																																																																																																																																												
HVAC	V10-F530B	原子炉棟排気隔離弁(B)用アキュムレータ(電磁弁)	SO																																																																																																																																																												
MS	B21-F003A	主蒸気第二隔離弁(A)	AO																																																																																																																																																												
MS	B21-F003B	主蒸気第二隔離弁(B)	AO																																																																																																																																																												
MS	B21-F003C	主蒸気第二隔離弁(C)	AO																																																																																																																																																												
MS	B21-F003D	主蒸気第二隔離弁(D)	AO																																																																																																																																																												
PLR	B32-F014	PLR サンプルライン第二隔離弁	AO																																																																																																																																																												
RCW	F42-F006A	RCW 冷却水供給温度熱交換器(A)側調節弁	AO																																																																																																																																																												
RCW	F42-F006B	RCW 冷却水供給温度熱交換器(B)側調節弁	AO																																																																																																																																																												
RCW	F42-F010A	RCW 冷却水供給温度ポンプ(A)側調節弁	AO																																																																																																																																																												
RCW	F42-F010B	RCW 冷却水供給温度ポンプ(B)側調節弁	AO																																																																																																																																																												
RCW	F42-F089A	RCW 常用冷却水緊急しゝ断弁(A)	AO																																																																																																																																																												
RCW	F42-F089B	RCW 常用冷却水緊急しゝ断弁(B)	AO																																																																																																																																																												
RCW	F42-F089C	RCW 常用冷却水緊急しゝ断弁(C)	AO																																																																																																																																																												
RCW	F42-F089D	RCW 常用冷却水緊急しゝ断弁(D)	AO																																																																																																																																																												
SGTS	T46-F001A	非常用ガス処理系入口弁(A)	AO																																																																																																																																																												
SGTS	T46-F001B	非常用ガス処理系入口弁(B)	AO																																																																																																																																																												
TIP	C51-F083	TIP バーージ隔離弁	SO																																																																																																																																																												
系統	機器番号	設備																																																																																																																																																													
放射線監視設備空気サンプリング系	3Y-3M-002	格納容器空気サンブル取出し格納容器外側隔離弁																																																																																																																																																													
放射線監視設備空気サンプリング系	3Y-3M-015	格納容器空気サンブル戻り格納容器外側隔離弁																																																																																																																																																													
蒸気発生器ブローダウン系	3Y-3D-028A, B, C	ブローダウン止め弁																																																																																																																																																													
蒸気発生器ブローダウン系	3Y-3D-008A, B, C	蒸気発生器サンプルライン C/V 外側隔離弁																																																																																																																																																													
蒸気発生器ブローダウン系	3Y-3D-026A, B, C	ブローダウン C/V 外側隔離弁																																																																																																																																																													
換気空調系	3D-VS-291A, B	燃料取扱棟事故時排気ライン 隔離ダンパ																																																																																																																																																													
換気空調系	3Y-VS-055	格納容器給気ライン格納容器外側隔離弁																																																																																																																																																													
換気空調系	3Y-VS-056	格納容器給気ライン格納容器内側隔離弁																																																																																																																																																													
換気空調系	3Y-VS-061	格納容器排気ライン格納容器内側隔離弁																																																																																																																																																													
換気空調系	3Y-VS-062	格納容器排気ライン格納容器外側隔離弁																																																																																																																																																													
換気空調系	3D-VS-301A, B	安全補機室給気第1隔離ダンパ																																																																																																																																																													
換気空調系	3D-VS-302A, B	安全補機室給気第2隔離ダンパ																																																																																																																																																													
換気空調系	3D-VS-303A, B	安全補機室排気第1隔離ダンパ																																																																																																																																																													
換気空調系	3D-VS-304A, B	安全補機室排気第2隔離ダンパ																																																																																																																																																													
換気空調系	3D-VS-402A, B, C, D	ディーゼル発電機室排気ダンパ																																																																																																																																																													
換気空調系	3D-VS-601A, B	中央制御室外気取入ダンパ																																																																																																																																																													
換気空調系	3D-VS-611, 612	中央制御室排気第1(2)隔離ダンパ																																																																																																																																																													
換気空調系	3HCD-2838, 2839	中央制御室排気風量調節ダンパ																																																																																																																																																													
換気空調系	3D-VS-053	格納容器給気密閉ダンパ																																																																																																																																																													
換気空調系	3D-VS-064	格納容器排気密閉ダンパ																																																																																																																																																													
換気空調系	3D-VS-065A, B	格納容器排気ファン出口ダンパ																																																																																																																																																													
換気空調系	3D-VS-232	補助建屋排気隔離ダンパ																																																																																																																																																													
換気空調系	3PCD-2526	補助建屋排気風量調節ダンパ																																																																																																																																																													
水消火系	3Y-FS-504	消火水 C/V 外側隔離弁																																																																																																																																																													
炉内核計装置ガスバーージ設備	3Y-IG-008	炉内核計装置二酸化炭素バーージライン C/V 外側隔離弁																																																																																																																																																													
炉内核計装置ガスバーージ設備	3Y-IG-009	炉内核計装置二酸化炭素バーージライン C/V 内側隔離弁																																																																																																																																																													
原子炉格納容器真空逃がし装置	3Y-VR-001A, B	真空逃がし装置 C/V 外側隔離弁																																																																																																																																																													

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																				
	<p>4. 「他の設備で代替できる」についての補足</p> <p>他の設備により機能が代替できる防護対象設備について、対象設備、要求事項、代替設備及びその設備の保全状況について表3に示す。</p>		<p>【女川】</p> <p><a href="#">設計方針の相違</a></p> <p>添付資料6に記載したとおり、泊では「他の設備で代替できる」との基準により溢水評価対象外とした設備は無いことから、当該項目について記載していない。</p> <p>【大飯】</p> <p><a href="#">記載方針の相違</a></p> <p>女川審査実績の反映</p>																																																				
	<p>表3 他の設備により機能を代替する防護対象設備</p> <table border="1" data-bbox="698 724 1272 1428"> <thead> <tr> <th rowspan="2">溢水影響評価対象外とした設備</th> <th rowspan="2">要求機能</th> <th rowspan="2">代替する設備</th> <th colspan="2">代替する設備の保全状況</th> </tr> <tr> <th>周期</th> <th>保全内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>FPCろ過脱塩装置出口弁 (G41-F013)</td> <td>使用済燃料プールの冷却機能</td> <td>FPCろ過脱塩装置出口逆止弁 (G41-F012)</td> <td>39M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>HNCW供給ライン第二隔離弁 (P24-F102)</td> <td>放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）</td> <td>HNCW供給ライン第一隔離弁 (P24-F103)</td> <td>65M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>1A第二隔離弁 (P52-F111)</td> <td>放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）</td> <td>1A第一隔離弁 (P52-F112)</td> <td>65M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>HP1N常用第二隔離弁 (P54-F015)</td> <td>放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）</td> <td>HP1N常用第一隔離弁 (P54-F020)</td> <td>39M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>HP1N非常用第二隔離弁 (A) (P54-F068A)</td> <td>放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）</td> <td>HP1N非常用第一隔離弁 (A) (P54-F070A)</td> <td>39M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>HP1N非常用第二隔離弁 (B) (P54-F068B)</td> <td>放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）</td> <td>HP1N非常用第一隔離弁 (B) (P54-F070B)</td> <td>39M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>主蒸気第二隔離弁 リークオフライン隔離弁 (B21-F045)</td> <td>放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）</td> <td>主蒸気第二隔離弁 リークオフライン逆止弁 (B21-F044)</td> <td>65M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>RCW供給側第二隔離弁 (A) (P42-F112A)</td> <td>放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）</td> <td>RCW供給側第一隔離弁逆止弁 (A) (P42-F113A)</td> <td>39M</td> <td>分解点検</td> </tr> <tr> <td>RCW供給側第二隔離弁 (B) (P42-F112B)</td> <td>放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）</td> <td>RCW供給側第一隔離弁逆止弁 (B) (P42-F113B)</td> <td>39M</td> <td>分解点検</td> </tr> </tbody> </table>	溢水影響評価対象外とした設備	要求機能	代替する設備	代替する設備の保全状況		周期	保全内容	FPCろ過脱塩装置出口弁 (G41-F013)	使用済燃料プールの冷却機能	FPCろ過脱塩装置出口逆止弁 (G41-F012)	39M	分解点検	HNCW供給ライン第二隔離弁 (P24-F102)	放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）	HNCW供給ライン第一隔離弁 (P24-F103)	65M	分解点検	1A第二隔離弁 (P52-F111)	放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）	1A第一隔離弁 (P52-F112)	65M	分解点検	HP1N常用第二隔離弁 (P54-F015)	放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）	HP1N常用第一隔離弁 (P54-F020)	39M	分解点検	HP1N非常用第二隔離弁 (A) (P54-F068A)	放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）	HP1N非常用第一隔離弁 (A) (P54-F070A)	39M	分解点検	HP1N非常用第二隔離弁 (B) (P54-F068B)	放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）	HP1N非常用第一隔離弁 (B) (P54-F070B)	39M	分解点検	主蒸気第二隔離弁 リークオフライン隔離弁 (B21-F045)	放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）	主蒸気第二隔離弁 リークオフライン逆止弁 (B21-F044)	65M	分解点検	RCW供給側第二隔離弁 (A) (P42-F112A)	放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）	RCW供給側第一隔離弁逆止弁 (A) (P42-F113A)	39M	分解点検	RCW供給側第二隔離弁 (B) (P42-F112B)	放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）	RCW供給側第一隔離弁逆止弁 (B) (P42-F113B)	39M	分解点検		
溢水影響評価対象外とした設備	要求機能				代替する設備	代替する設備の保全状況																																																	
		周期	保全内容																																																				
FPCろ過脱塩装置出口弁 (G41-F013)	使用済燃料プールの冷却機能	FPCろ過脱塩装置出口逆止弁 (G41-F012)	39M	分解点検																																																			
HNCW供給ライン第二隔離弁 (P24-F102)	放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）	HNCW供給ライン第一隔離弁 (P24-F103)	65M	分解点検																																																			
1A第二隔離弁 (P52-F111)	放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）	1A第一隔離弁 (P52-F112)	65M	分解点検																																																			
HP1N常用第二隔離弁 (P54-F015)	放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）	HP1N常用第一隔離弁 (P54-F020)	39M	分解点検																																																			
HP1N非常用第二隔離弁 (A) (P54-F068A)	放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）	HP1N非常用第一隔離弁 (A) (P54-F070A)	39M	分解点検																																																			
HP1N非常用第二隔離弁 (B) (P54-F068B)	放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）	HP1N非常用第一隔離弁 (B) (P54-F070B)	39M	分解点検																																																			
主蒸気第二隔離弁 リークオフライン隔離弁 (B21-F045)	放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）	主蒸気第二隔離弁 リークオフライン逆止弁 (B21-F044)	65M	分解点検																																																			
RCW供給側第二隔離弁 (A) (P42-F112A)	放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）	RCW供給側第一隔離弁逆止弁 (A) (P42-F113A)	39M	分解点検																																																			
RCW供給側第二隔離弁 (B) (P42-F112B)	放射性物質の閉じ込め機能（原子炉格納容器隔離弁）	RCW供給側第一隔離弁逆止弁 (B) (P42-F113B)	39M	分解点検																																																			

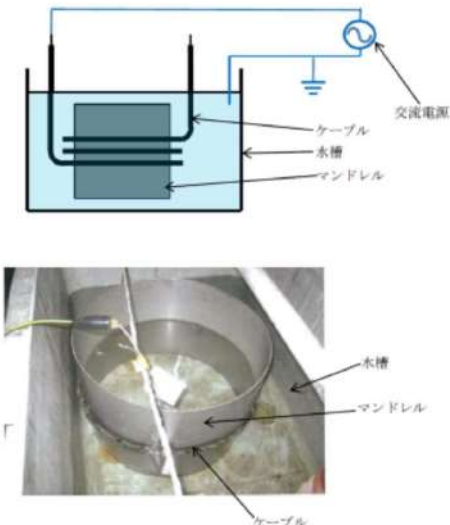
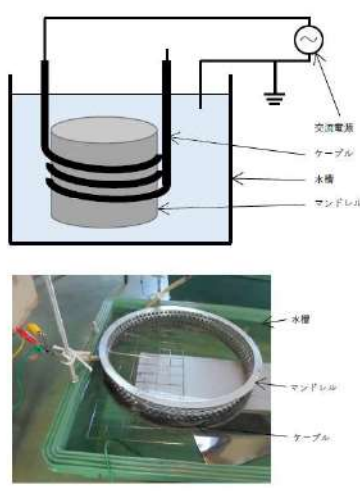
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p style="text-align: right;">別紙</p> <p>ケーブルの被水影響について</p> <p>1. はじめに</p> <p>図1にケーブルの断面図を示す。ケーブルは充電部となる導体の周りが絶縁体で覆われ、さらに外皮が耐水性・絶縁性の高いシースで覆われていることから、被水による機能影響は受けない。ここで、ケーブルが被水により機能影響を受けるケースとしては、絶縁体の割れ等によりケーブルの絶縁性能が低下している状態で被水する場合が考えられる。以下に、ケーブルの形式試験からその被水影響について評価した結果を示す。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="705 662 974 861"> <p>(高圧動力ケーブルの例)</p>  </div> <div data-bbox="985 662 1265 861"> <p>(低圧動力ケーブルの例)</p> <p>単心</p>  <p>2心</p>  <p>3心</p>  </div> </div> <p style="text-align: center;">図1 ケーブル断面図</p>	<p style="text-align: right;">別紙</p> <p>ケーブルの被水影響について</p> <p>1. はじめに</p> <p>図1にケーブルの断面図を示す。ケーブルは充電部となる導体の周りが絶縁体で覆われ、さらに外皮が耐水性・絶縁性の高いシースで覆われていることから、被水による機能影響は受けない。ここで、ケーブルが被水により機能影響を受けるケースとしては、絶縁体の割れ等によりケーブルの絶縁性能が低下している状態で被水する場合が考えられる。以下に、ケーブルの型式試験からその被水影響について評価した結果を示す。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="1332 662 1601 861"> <p>(高圧動力ケーブルの例)</p>  </div> <div data-bbox="1612 662 1892 861"> <p>(低圧動力ケーブルの例)</p> <p>単心</p>  <p>2心</p>  <p>3心</p>  </div> </div> <p style="text-align: center;">図1 ケーブル断面図</p>	<p>【大阪】</p> <p><a href="#">記載方針の相違</a></p> <p>女川審査実績の反映</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>2. 建設時の試験（原子炉格納容器内ケーブル）</p> <p>(1) 劣化模擬試験</p> <p>運転期間（40年）相当の劣化及び原子炉冷却材喪失事故時の劣化を模擬する。詳細条件を図2に示す。</p> <p>試験条件：熱老化（121℃，7日）</p> <p>放射線照射（<math>7.6 \times 10^6 \text{Gy}</math>）</p> <p>原子炉冷却材喪失事故模擬（171℃，427kPa，9時間）</p> <div data-bbox="703 437 1265 1098" style="border: 2px solid black; height: 414px; width: 251px; margin: 10px 0;"></div> <p>図2 原子炉格納容器内原子炉冷却材喪失事故条件</p> <div data-bbox="703 1145 1265 1182" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 10px 0;">枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</div> <p>(2) 40倍マンドレル耐電圧試験</p> <p>原子炉冷却材喪失事故模擬試験を実施したケーブルに対して、下記の条件で試験を実施する。</p> <p>試験条件：試験後の試料を、ケーブル外径の40倍の内径で金属製マンドレルに巻きつけ、室温の水に浸漬させた状態で電圧（例として高圧動力ケーブルの場合AC 12.6kV/mm）を5分間印加。試験装置の例は図3を参照。</p> <p>判定基準：絶縁破壊を生じないこと。</p>	<p>2. 建設時の試験（原子炉格納容器内ケーブル）</p> <p>(1) 劣化模擬試験</p> <p>運転期間（40年）相当の劣化及び原子炉冷却材喪失事故時の劣化を模擬する。詳細条件を図2に示す。</p> <p>試験条件：熱老化（<span style="border: 1px solid black; padding: 0 10px;"> </span>）</p> <p>放射線照射（<span style="border: 1px solid black; padding: 0 10px;"> </span>）</p> <p>原子炉冷却材喪失事故模擬（図2のとおり）</p> <div data-bbox="1285 437 1848 858" style="border: 2px solid black; height: 264px; width: 251px; margin: 10px 0;"></div> <p>図2 原子炉格納容器内原子炉冷却材喪失事故条件</p> <div data-bbox="1285 1158 1848 1182" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 10px 0;"><span style="border: 1px solid black; padding: 0 10px;"> </span> 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</div> <p>(2) 40倍マンドレル耐電圧試験</p> <p>原子炉冷却材喪失事故模擬試験を実施したケーブルに対して、下記の条件で試験を実施する。</p> <p>試験条件：試験後の試料を、ケーブル外径の40倍の内径で金属製マンドレルに巻きつけ、室温の水に浸漬させた状態で電圧（例として低圧（制御）ケーブルの場合AC3.2kV/mm）を5分間印加。試験装置の例は図3を参照。</p> <p>判定条件：絶縁破壊を生じないこと。</p>	<p>【大阪】</p> <p><a href="#">記載方針の相違</a></p> <p>女川審査実績の反映</p> <p>【女川】</p> <p><a href="#">記載方針の相違</a></p> <p>原子炉冷却材喪失事故時の環境条件が異なるため、試験条件が異なる。</p> <p>【女川】</p> <p><a href="#">記載方針の相違</a></p> <p>女川と泊で例として示しているケーブルが異なる。</p>

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p data-bbox="840 726 1153 750">図3 マンドレル耐電圧試験装置例</p> <p data-bbox="705 821 1265 981">3. ケーブル導入後の定期点検について                      前述のとおり、ケーブルはプラント内で想定される経年劣化により、被水による機能影響を受けるような絶縁性能の低下が起こらないことを導入時に確認しているが、導入後も定期点検により異常が生じていないことを確認している。                      具体的に、電力用ケーブルは定期的な絶縁抵抗測定により、絶縁抵抗に有意な変動が無いことを確認している。                      また、制御・計装用ケーブルについては、定期検査時の点検・検査、運転中の定例試験時等において、系統機器の動作又は計器の指示値等を確認することで、ケーブルの異常が無いことを確認している。</p> <p data-bbox="705 1236 1265 1460">4. まとめ                      以上から、運転期間相当（40年）を模擬した劣化に加え、原子炉冷却材喪失事故時を模擬した劣化を与えたケーブルに対しマンドレル耐電圧試験を実施し、浸水時における機械的・電気的裕度を確認していること、及び導入後においても定期点検により有意な劣化が無いことを確認していることから、ケーブルの被水影響はないと評価する。</p>	 <p data-bbox="1422 726 1736 750">図3 マンドレル耐電圧試験装置例</p> <p data-bbox="1288 821 1848 981">3. ケーブル導入後の定期点検について                      前述のとおり、ケーブルはプラント内で想定される経年劣化により、被水による機能影響を受けるような絶縁性能の低下が起こらないことを導入時に確認しているが、導入後も定期点検により異常が生じていないことを確認している。                      具体的に、動力用ケーブルは定期的な絶縁抵抗測定により、絶縁抵抗に有意な変動が無いことを確認している。                      また、制御・計装用ケーブルについては、定期事業者検査時の点検・検査、運転中の定例試験時等において、系統機器の動作又は計器の指示値等を確認することで、ケーブルの異常が無いことを確認している。</p> <p data-bbox="1288 1236 1848 1460">4. まとめ                      以上から、運転期間相当（40年）を模擬した劣化に加え、原子炉冷却材喪失事故時を模擬した劣化を与えたケーブルに対しマンドレル耐電圧試験を実施し、浸水時における機械的・電気的裕度を確認していること、及び導入後においても定期点検により有意な劣化が無いことを確認していることから、ケーブルの被水影響はないと評価する。</p>	<p data-bbox="1881 1029 2004 1093">【女川】                      記載表現の相違</p>

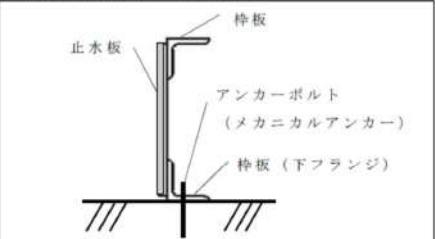




赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																			
<p>添付資料 1.3-3</p> <p>溢水影響評価で止水を期待できる設備</p> <p>添付資料 1.3-3 別紙1</p> <table border="1" data-bbox="123 686 660 1037"> <caption>表7 ⑦水密扉（新設）</caption> <tr> <th>名称</th> <th colspan="2">水密扉</th> </tr> <tr> <th>種類</th> <th colspan="2">片開扉</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">主要寸法 (mm)</th> <td>3号炉</td> <td>4号炉</td> </tr> <tr> <td>たて：1,827 横：2,003</td> <td>たて：2,207 横：2,003</td> </tr> <tr> <th>材料(原)</th> <td colspan="2">SS400</td> </tr> <tr> <th>取付箇所 (3号1箇所) (4号1箇所)</th> <td colspan="2">原子炉周辺建屋 E.L.+10.0m 通路</td> </tr> <tr> <th>止水性能</th> <td colspan="2">判定基準：20t/m<sup>2</sup>・hr 以下 検査圧力：21.0kN/m<sup>2</sup> 検査結果：合格(0t/m<sup>2</sup>・hr)</td> </tr> <tr> <th>耐圧強度</th> <td colspan="2">静水圧 20.4kN/m<sup>2</sup>にて強度評価を行い、水密扉の強度を確認</td> </tr> </table>  <p>図7 ⑦水密扉（新設）</p>	名称	水密扉		種類	片開扉		主要寸法 (mm)	3号炉	4号炉	たて：1,827 横：2,003	たて：2,207 横：2,003	材料(原)	SS400		取付箇所 (3号1箇所) (4号1箇所)	原子炉周辺建屋 E.L.+10.0m 通路		止水性能	判定基準：20t/m <sup>2</sup> ・hr 以下 検査圧力：21.0kN/m <sup>2</sup> 検査結果：合格(0t/m <sup>2</sup> ・hr)		耐圧強度	静水圧 20.4kN/m <sup>2</sup> にて強度評価を行い、水密扉の強度を確認		<p>補足説明資料 16</p> <p>止水を期待する設備の止水性能等について</p> <p>1. 止水を期待する設備について</p> <p>溢水影響評価で止水を期待する設備としては水密扉、堰、逆止弁等があり、本設備の止水性能等については以下のとおりである。</p> <p>(1) 水密扉<sup>※1</sup>（代表例）</p> <table border="1" data-bbox="705 726 1265 885"> <tr> <th>主要寸法</th> <td>高さ：2,000 (mm) 幅：999 (mm)</td> </tr> <tr> <th>主要材料</th> <td>鋼材 (SS400)</td> </tr> <tr> <th>止水性能</th> <td></td> </tr> </table> <p>※1 今後の検討により仕様の変更もありうる。          なお、本事項は後段規則での対応が必要となる事項である。(別添2参照)</p>  <p>図1 水密扉概要図</p> <p>枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p>	主要寸法	高さ：2,000 (mm) 幅：999 (mm)	主要材料	鋼材 (SS400)	止水性能		<p>補足説明資料 8</p> <p>止水を期待する設備の止水性能等について</p> <p>1. 止水を期待する設備について</p> <p>溢水影響評価で止水を期待する設備としては水密扉、堰、逆止弁等があり、本設備の止水性能等については以下のとおりである。          今後新たに設置する設備の止水性能等については詳細設計段階で示す。</p> <p>(1) 水密扉<sup>※1</sup>（代表例）</p> <table border="1" data-bbox="1288 726 1848 885"> <tr> <th>主要寸法</th> <td>高さ：1,980 (mm) 幅：1,020 (mm)</td> </tr> <tr> <th>主要材料</th> <td>鋼材 (SS400)</td> </tr> <tr> <th>止水性能</th> <td></td> </tr> </table> <p>※1 今後の検討により仕様の変更もありうる。          なお、本事項は後段規則での対応が必要となる事項である。(別添2参照)</p>  <p>(参考図) (参考写真)</p> <p>図1 水密扉概要図</p> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	主要寸法	高さ：1,980 (mm) 幅：1,020 (mm)	主要材料	鋼材 (SS400)	止水性能		<p>相違理由</p> <p>【女川・大飯】  <a href="#">記載表現の相違</a>  <a href="#">記載方針の相違</a>              止水を期待する設備のうち、湧水ビット設置床に設置されるハッチの止水処置については設計検討中であるため、止水性については詳細設計段階で示す方針としている。</p> <p>【大飯】  <a href="#">記載方針の相違</a>              女川審査実績の反映</p> <p>【大飯】  <a href="#">記載表現の相違</a>  <a href="#">記載方針の相違</a>              女川審査実績の反映</p>
名称	水密扉																																					
種類	片開扉																																					
主要寸法 (mm)	3号炉	4号炉																																				
	たて：1,827 横：2,003	たて：2,207 横：2,003																																				
材料(原)	SS400																																					
取付箇所 (3号1箇所) (4号1箇所)	原子炉周辺建屋 E.L.+10.0m 通路																																					
止水性能	判定基準：20t/m <sup>2</sup> ・hr 以下 検査圧力：21.0kN/m <sup>2</sup> 検査結果：合格(0t/m <sup>2</sup> ・hr)																																					
耐圧強度	静水圧 20.4kN/m <sup>2</sup> にて強度評価を行い、水密扉の強度を確認																																					
主要寸法	高さ：2,000 (mm) 幅：999 (mm)																																					
主要材料	鋼材 (SS400)																																					
止水性能																																						
主要寸法	高さ：1,980 (mm) 幅：1,020 (mm)																																					
主要材料	鋼材 (SS400)																																					
止水性能																																						



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

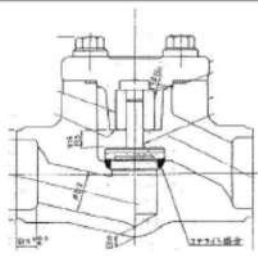



第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料8）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																										
<p style="text-align: center;">添付資料 1.3-3 別紙 1</p> <p style="text-align: center;">表 8 ⑤堰（新設）</p> <table border="1" data-bbox="138 252 645 539"> <tr><td>名称</td><td>溢水防護堰</td></tr> <tr><td>種類</td><td>堰</td></tr> <tr><td>主要寸法<sup>※1</sup></td><td>床面より250mm以上</td></tr> <tr><td>材料</td><td>炭素鋼</td></tr> <tr><td>取付箇所<sup>※2</sup></td><td>3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+17.5m 通路 (3号3箇所) E.L.+26.0m 通路 (2箇所) (4号4箇所) 4号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+17.5m 通路 E.L.+23.0m 通路 E.L.+26.0m 通路 (2箇所)</td></tr> <tr><td>止水性能</td><td>鋼板の位置、高さ、仕上り状態を外観検査で確認</td></tr> <tr><td>耐圧強度</td><td>堰高さまでの浸水深に対して強度評価を行い、堰の健全性を確認</td></tr> </table> <p>※1 主要寸法は、廃棄物処理建屋の各階段堰高さを基準として算出</p> <p>※2 取付箇所は、原子炉周辺建屋</p>  <p style="text-align: center;">図 8 ⑤堰（新設）</p>	名称	溢水防護堰	種類	堰	主要寸法 <sup>※1</sup>	床面より250mm以上	材料	炭素鋼	取付箇所 <sup>※2</sup>	3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+17.5m 通路 (3号3箇所) E.L.+26.0m 通路 (2箇所) (4号4箇所) 4号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+17.5m 通路 E.L.+23.0m 通路 E.L.+26.0m 通路 (2箇所)	止水性能	鋼板の位置、高さ、仕上り状態を外観検査で確認	耐圧強度	堰高さまでの浸水深に対して強度評価を行い、堰の健全性を確認	<p>(2) 堰<sup>※1</sup>（代表例）</p> <table border="1" data-bbox="705 220 1265 370"> <tr><td>主要寸法</td><td>堰高さ：400mm</td></tr> <tr><td>主要材料</td><td>鋼材 (SS400)</td></tr> <tr><td>止水性能</td><td></td></tr> </table> <p>※1 今後の検討により仕様の変更もありうる。</p>  <p style="text-align: center;">(参考図)</p>  <p style="text-align: center;">(参考写真)</p> <p style="text-align: center;">図 2 堰概要図</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p> </div>	主要寸法	堰高さ：400mm	主要材料	鋼材 (SS400)	止水性能		<p>(2) 堰及び止水板<sup>※1</sup>（代表例）</p> <table border="1" data-bbox="1288 220 1848 370"> <tr><td>主要寸法</td><td>堰高さ：240 (mm)</td></tr> <tr><td>主要材料</td><td>アルミ材</td></tr> <tr><td>止水性能</td><td></td></tr> </table> <p>※1 今後の検討により仕様の変更もありうる。</p>  <p style="text-align: center;">(参考図)</p>  <p style="text-align: center;">(参考写真)</p> <p style="text-align: center;">図 2 堰及び止水板概要図</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p> </div>	主要寸法	堰高さ：240 (mm)	主要材料	アルミ材	止水性能		<p>【女川】</p> <p><a href="#">記載表現の相違</a>  <a href="#">設備名称の相違</a></p> <p>泊においては止水に期待する堰と止水板を設定しているが、設置目的に相違はないことから実質的な相違はない。</p> <p>【大飯】</p> <p><a href="#">記載表現の相違</a>  <a href="#">記載方針の相違</a></p> <p>女川審査実績の反映</p>
名称	溢水防護堰																												
種類	堰																												
主要寸法 <sup>※1</sup>	床面より250mm以上																												
材料	炭素鋼																												
取付箇所 <sup>※2</sup>	3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+17.5m 通路 (3号3箇所) E.L.+26.0m 通路 (2箇所) (4号4箇所) 4号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+17.5m 通路 E.L.+23.0m 通路 E.L.+26.0m 通路 (2箇所)																												
止水性能	鋼板の位置、高さ、仕上り状態を外観検査で確認																												
耐圧強度	堰高さまでの浸水深に対して強度評価を行い、堰の健全性を確認																												
主要寸法	堰高さ：400mm																												
主要材料	鋼材 (SS400)																												
止水性能																													
主要寸法	堰高さ：240 (mm)																												
主要材料	アルミ材																												
止水性能																													



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料8）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																										
<p style="text-align: center;">添付資料 1.3-3 別紙 1</p> <p style="text-align: center;">表 1 ①機器ドレン逆止弁（既設）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">名称</td> <td>溢水防護リフト式逆止弁</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>リフト式</td> </tr> <tr> <td>主要寸法 (mm)</td> <td>1. 呼び径：20 弁箱厚さ：8 弁蓋厚さ：7.5 2, 3. 呼び径：25 弁箱厚さ：7.5 弁蓋厚さ：10</td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td>SUSF316</td> </tr> <tr> <td>取付箇所 (3号5箇所)</td> <td>3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+10.0m 1.A,B安全補機室空調ユニットドレンライン 2. サンプルシンクドレンライン (1箇所) 原子炉周辺建屋 E.L.+3.5m 3. サンプルシンクドレンライン (2箇所)</td> </tr> <tr> <td>止水性能</td> <td>1. 判定基準：37.5cc/min<sup>※</sup> 検査圧力：0.549MPa (気圧) 検査結果：合格 2, 3. 判定基準：50cc/min<sup>※</sup> 検査圧力：0.549MPa (気圧) 検査結果：合格</td> </tr> <tr> <td>耐圧強度</td> <td>判定基準：各部の変形漏えいがないこと 検査圧力：15.49MPa (水圧) 検査結果：合格</td> </tr> </table> <p>※メーカー基準は50cc/min/inch (dia)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>水圧試験は15.49MPa (水圧) で行い、判定基準は 弁各部の変形及び漏えいがないこと ⇒ 合格</p> <p>気圧試験は0.549MPa (気圧) で行い、判定基準は 呼び径20：37.5cc/min ⇒ 合格 呼び径25：50cc/min ⇒ 合格</p> </div> <p style="text-align: center;">図 1 ①機器ドレン逆止弁（既設）</p>	名称	溢水防護リフト式逆止弁	種類	リフト式	主要寸法 (mm)	1. 呼び径：20 弁箱厚さ：8 弁蓋厚さ：7.5 2, 3. 呼び径：25 弁箱厚さ：7.5 弁蓋厚さ：10	材料	SUSF316	取付箇所 (3号5箇所)	3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+10.0m 1.A,B安全補機室空調ユニットドレンライン 2. サンプルシンクドレンライン (1箇所) 原子炉周辺建屋 E.L.+3.5m 3. サンプルシンクドレンライン (2箇所)	止水性能	1. 判定基準：37.5cc/min <sup>※</sup> 検査圧力：0.549MPa (気圧) 検査結果：合格 2, 3. 判定基準：50cc/min <sup>※</sup> 検査圧力：0.549MPa (気圧) 検査結果：合格	耐圧強度	判定基準：各部の変形漏えいがないこと 検査圧力：15.49MPa (水圧) 検査結果：合格	<p style="text-align: center;">(3) 逆流防止ファンネル<sup>※1</sup></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">主要寸法</td> <td>80A</td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td>鋼材 (SUS303) フッ素ゴム<sup>※2</sup> (シート面)</td> </tr> <tr> <td>止水性能</td> <td></td> </tr> </table> <p>※1 今後の検討により仕様の変更もありうる。          ※2 止水に用いるシート面には難燃性のフッ素ゴムを選定することとしている。</p> <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 100px; margin-right: 10px;"></div>  </div> <p style="text-align: center;">(参考写真)</p> <p style="text-align: center;">(参考図)</p> <p style="text-align: center;">図 3 逆流防止ファンネル概要図</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;">             枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。         </div>	主要寸法	80A	主要材料	鋼材 (SUS303) フッ素ゴム <sup>※2</sup> (シート面)	止水性能		<p style="text-align: center;">(3) 逆止弁<sup>※1</sup> (代表例)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">主要寸法</td> <td>呼び径：100A (4B)</td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td>SUS303 (本体) フッ素ゴム (シート面)</td> </tr> <tr> <td>止水性能</td> <td></td> </tr> </table> <p>※1 今後の検討により仕様の変更もありうる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 100px;"></div> </div> <p style="text-align: center;">(参考写真) (参考図)</p> <p style="text-align: center;">図 3 逆止弁構造図</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;">             枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。         </div>	主要寸法	呼び径：100A (4B)	主要材料	SUS303 (本体) フッ素ゴム (シート面)	止水性能		<p>【女川・大飯】</p> <p>記載表現の相違</p> <p>設計方針の相違</p> <p>女川はファンネルからの逆流を防ぐ目的に対し、泊はドレンラインの最下端に逆止弁（ドレンライン逆止弁）を設置している。</p> <p>大飯においても逆止弁による逆流防止としており、弁種が異なるものの目的及び機能に相違はない。</p> <p>(大飯と同様)</p>
名称	溢水防護リフト式逆止弁																												
種類	リフト式																												
主要寸法 (mm)	1. 呼び径：20 弁箱厚さ：8 弁蓋厚さ：7.5 2, 3. 呼び径：25 弁箱厚さ：7.5 弁蓋厚さ：10																												
材料	SUSF316																												
取付箇所 (3号5箇所)	3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+10.0m 1.A,B安全補機室空調ユニットドレンライン 2. サンプルシンクドレンライン (1箇所) 原子炉周辺建屋 E.L.+3.5m 3. サンプルシンクドレンライン (2箇所)																												
止水性能	1. 判定基準：37.5cc/min <sup>※</sup> 検査圧力：0.549MPa (気圧) 検査結果：合格 2, 3. 判定基準：50cc/min <sup>※</sup> 検査圧力：0.549MPa (気圧) 検査結果：合格																												
耐圧強度	判定基準：各部の変形漏えいがないこと 検査圧力：15.49MPa (水圧) 検査結果：合格																												
主要寸法	80A																												
主要材料	鋼材 (SUS303) フッ素ゴム <sup>※2</sup> (シート面)																												
止水性能																													
主要寸法	呼び径：100A (4B)																												
主要材料	SUS303 (本体) フッ素ゴム (シート面)																												
止水性能																													

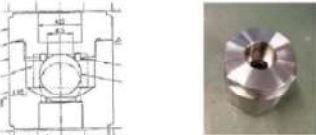
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料8）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由														
<p align="center">表2 ②機器ドレン逆止弁（新設）</p>																	
<table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>溢水防護リフト式逆止弁</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>リフト式</td> </tr> <tr> <td>主要寸法(mm)</td> <td>呼び径：20 弁箱厚さ：8 弁蓋厚さ：7.5</td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td>SUSF316</td> </tr> <tr> <td>取付箇所 (3号 14箇所)</td> <td>3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+10.0m A,B使用済燃料ビットポンプドレンライン A,B充てんポンプドレンライン（各2箇所） A,Bほう酸ポンプドレンライン 原子炉周辺建屋 E.L.+3.5m A,B高圧注入ポンプドレンライン A,B格納容器スプレイポンプドレンライン A,B余熱除去ポンプドレンライン</td> </tr> <tr> <td>止水性能</td> <td>判定基準：7.5cc/min<sup>※</sup> 検査圧力：0.59MPa（気圧） 検査結果：合格</td> </tr> <tr> <td>耐圧強度</td> <td>判定基準：各部の変形漏えいがないこと 検査圧力：15.0MPa（水圧） 検査結果：合格</td> </tr> </table> <p>※メーカー基準は10cc/min/inch（dia）</p>	名称	溢水防護リフト式逆止弁	種類	リフト式	主要寸法(mm)	呼び径：20 弁箱厚さ：8 弁蓋厚さ：7.5	材料	SUSF316	取付箇所 (3号 14箇所)	3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+10.0m A,B使用済燃料ビットポンプドレンライン A,B充てんポンプドレンライン（各2箇所） A,Bほう酸ポンプドレンライン 原子炉周辺建屋 E.L.+3.5m A,B高圧注入ポンプドレンライン A,B格納容器スプレイポンプドレンライン A,B余熱除去ポンプドレンライン	止水性能	判定基準：7.5cc/min <sup>※</sup> 検査圧力：0.59MPa（気圧） 検査結果：合格	耐圧強度	判定基準：各部の変形漏えいがないこと 検査圧力：15.0MPa（水圧） 検査結果：合格			<p>【大飯】  <u>設計方針の相違</u>                  女川はファンネルからの逆流を防ぐ目的に対し、泊はドレンラインの最下端に逆止弁（ドレンライン逆止弁）を設置している。                  大飯においても逆止弁による逆流防止としており、弁種が異なるものの目的及び機能に相違はない。                  （大飯と同様）</p>
名称	溢水防護リフト式逆止弁																
種類	リフト式																
主要寸法(mm)	呼び径：20 弁箱厚さ：8 弁蓋厚さ：7.5																
材料	SUSF316																
取付箇所 (3号 14箇所)	3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+10.0m A,B使用済燃料ビットポンプドレンライン A,B充てんポンプドレンライン（各2箇所） A,Bほう酸ポンプドレンライン 原子炉周辺建屋 E.L.+3.5m A,B高圧注入ポンプドレンライン A,B格納容器スプレイポンプドレンライン A,B余熱除去ポンプドレンライン																
止水性能	判定基準：7.5cc/min <sup>※</sup> 検査圧力：0.59MPa（気圧） 検査結果：合格																
耐圧強度	判定基準：各部の変形漏えいがないこと 検査圧力：15.0MPa（水圧） 検査結果：合格																
 <p>弁座漏えい試験は0.59MPa（気圧）で行い、判定基準は7.5cc/min ⇒ 合格                  耐圧試験は15.0MPa（水圧）で行い、判定基準は弁各部の変形及び漏えいがないこと ⇒ 合格</p>																	
<p align="center">図2 ②機器ドレン逆止弁（新設）</p>																	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料8）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由														
<p style="text-align: center;"><b>表3 ③機器ドレン逆止弁（新設）</b></p> <table border="1" data-bbox="116 215 658 582"> <tr> <td>名称</td> <td>溢水防護フロート式逆止弁</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>フロート式（配管タイプ）*</td> </tr> <tr> <td>主要寸法(mm)</td> <td>呼び径：20 弁箱厚さ：4.95</td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td>SUS304</td> </tr> <tr> <td>取付箇所 (3号5箇所)</td> <td>3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+10.0m C充てんポンプドレンライン 原子炉周辺建屋 E.L.+3.5m サンプルシンクドレンベントライン(2箇所) A,B原子炉周辺建屋サンプポンプ</td> </tr> <tr> <td>止水性能</td> <td>判定基準：0cc/min 検査圧力：0.02MPa 検査結果：合格(0cc/min)</td> </tr> <tr> <td>耐圧強度</td> <td>判定基準：各部の変形漏えいがないこと 検査圧力：0.9MPa 検査結果：合格</td> </tr> </table> <p>※フロート式はフロートが浮力により押し上げられ、上部のシート面と接触することにより止まる構造。</p> <div data-bbox="116 694 683 1093" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p style="text-align: center;"><b>図3 ③機器ドレン逆止弁（新設）</b></p> </div>	名称	溢水防護フロート式逆止弁	種類	フロート式（配管タイプ）*	主要寸法(mm)	呼び径：20 弁箱厚さ：4.95	材料	SUS304	取付箇所 (3号5箇所)	3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+10.0m C充てんポンプドレンライン 原子炉周辺建屋 E.L.+3.5m サンプルシンクドレンベントライン(2箇所) A,B原子炉周辺建屋サンプポンプ	止水性能	判定基準：0cc/min 検査圧力：0.02MPa 検査結果：合格(0cc/min)	耐圧強度	判定基準：各部の変形漏えいがないこと 検査圧力：0.9MPa 検査結果：合格			<p><b>【大飯】</b>  <u>設計方針の相違</u>                  女川はファンネルからの逆流を防ぐ目的に対し、泊はドレンラインの最下端に逆止弁（ドレンライン逆止弁）を設置している。                  大飯においても逆止弁による逆流防止としており、弁種が異なるものの目的及び機能に相違はない。                  （大飯と同様）</p>
名称	溢水防護フロート式逆止弁																
種類	フロート式（配管タイプ）*																
主要寸法(mm)	呼び径：20 弁箱厚さ：4.95																
材料	SUS304																
取付箇所 (3号5箇所)	3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+10.0m C充てんポンプドレンライン 原子炉周辺建屋 E.L.+3.5m サンプルシンクドレンベントライン(2箇所) A,B原子炉周辺建屋サンプポンプ																
止水性能	判定基準：0cc/min 検査圧力：0.02MPa 検査結果：合格(0cc/min)																
耐圧強度	判定基準：各部の変形漏えいがないこと 検査圧力：0.9MPa 検査結果：合格																

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）


第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料8）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由														
<p style="text-align: center;">表4 ④ベント逆止弁（新設）</p> <table border="1" data-bbox="116 215 658 518"> <tr> <td>名称</td> <td>溢水防護フロート式逆止弁</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>フロート式（配管タイプ）*</td> </tr> <tr> <td>主要寸法（mm）</td> <td>呼び径：50 弁箱厚さ：4.8</td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td>SCS13A</td> </tr> <tr> <td>取付箇所 （3号1箇所）</td> <td>3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+3.5m 原子炉周辺建屋サブタンクベントライン</td> </tr> <tr> <td>止水性能</td> <td>判定基準：0cc/min 検査圧力：0.02MPa 検査結果：合格（0cc/min）</td> </tr> <tr> <td>耐圧強度</td> <td>判定基準：各部の変形漏えいがないこと 検査圧力：1.5MPa 検査結果：合格</td> </tr> </table> <p>※フロート式はフロートが浮力により押し上げられ、上部のシート面と接触することにより止まる構造。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> 	名称	溢水防護フロート式逆止弁	種類	フロート式（配管タイプ）*	主要寸法（mm）	呼び径：50 弁箱厚さ：4.8	材料	SCS13A	取付箇所 （3号1箇所）	3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+3.5m 原子炉周辺建屋サブタンクベントライン	止水性能	判定基準：0cc/min 検査圧力：0.02MPa 検査結果：合格（0cc/min）	耐圧強度	判定基準：各部の変形漏えいがないこと 検査圧力：1.5MPa 検査結果：合格			<p>【大飯】</p> <p><u>設計方針の相違</u></p> <p>女川はファンネルからの逆流を防ぐ目的に対し、泊はドレンラインの最下端に逆止弁（ドレンライン逆止弁）を設置している。</p> <p>大飯においても逆止弁による逆流防止としており、弁種が異なるものの目的及び機能に相違はない。</p> <p>（大飯と同様）</p>
名称	溢水防護フロート式逆止弁																
種類	フロート式（配管タイプ）*																
主要寸法（mm）	呼び径：50 弁箱厚さ：4.8																
材料	SCS13A																
取付箇所 （3号1箇所）	3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+3.5m 原子炉周辺建屋サブタンクベントライン																
止水性能	判定基準：0cc/min 検査圧力：0.02MPa 検査結果：合格（0cc/min）																
耐圧強度	判定基準：各部の変形漏えいがないこと 検査圧力：1.5MPa 検査結果：合格																
<p style="text-align: center;">図4 ④ベント逆止弁（新設）</p>																	





赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料8）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由														
<p>表5 ⑤目皿逆止弁（新設）</p>																	
<table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>溢水防護フロート式逆止弁</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>フロート式（目皿タイプ）<sup>※</sup></td> </tr> <tr> <td>主要寸法（mm）</td> <td>1、3.呼び径：100 2、4.呼び径：80</td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td>SUS303</td> </tr> <tr> <td>取付箇所 （3号25箇所）</td> <td>3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+10.0m 1.A,B使用済燃料ピット冷却器室 A,B,C充てんポンプ室 ほう酸タンク室 ほう酸ポンプ室 充てんポンプバルブ室 2.B使用済燃料ピット冷却器室前通路 温水器洗濯脱水機室 西側通路 B充てんポンプ室前通路 A格納容器スプレイ冷却器室西側通路 B格納容器スプレイ冷却器室東側通路  原子炉周辺建屋 E.L.+3.5m 3.原子炉周辺建屋サンプタンク室 A,B 高压注入ポンプ室 A,B 格納容器スプレイポンプ室 A,B 余熱除去ポンプ室 4.A,B 高压注入ポンプ室前通路 A,B 余熱除去ポンプ室前通路</td> </tr> <tr> <td>止水性能</td> <td>判定基準：10cc/min 検査圧力：0.01MPa 検査結果：合格（0cc/min）</td> </tr> <tr> <td>耐圧強度</td> <td>判定基準：各部の変形漏えいがないこと 検査圧力：0.45MPa 検査結果：合格</td> </tr> </table>	名称	溢水防護フロート式逆止弁	種類	フロート式（目皿タイプ） <sup>※</sup>	主要寸法（mm）	1、3.呼び径：100 2、4.呼び径：80	材料	SUS303	取付箇所 （3号25箇所）	3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+10.0m 1.A,B使用済燃料ピット冷却器室 A,B,C充てんポンプ室 ほう酸タンク室 ほう酸ポンプ室 充てんポンプバルブ室 2.B使用済燃料ピット冷却器室前通路 温水器洗濯脱水機室 西側通路 B充てんポンプ室前通路 A格納容器スプレイ冷却器室西側通路 B格納容器スプレイ冷却器室東側通路  原子炉周辺建屋 E.L.+3.5m 3.原子炉周辺建屋サンプタンク室 A,B 高压注入ポンプ室 A,B 格納容器スプレイポンプ室 A,B 余熱除去ポンプ室 4.A,B 高压注入ポンプ室前通路 A,B 余熱除去ポンプ室前通路	止水性能	判定基準：10cc/min 検査圧力：0.01MPa 検査結果：合格（0cc/min）	耐圧強度	判定基準：各部の変形漏えいがないこと 検査圧力：0.45MPa 検査結果：合格			<p>【大飯】  <u>設計方針の相違</u>                  女川はファンネルからの逆流を防ぐ目的に対し、泊はドレンラインの最下端に逆止弁（ドレンライン逆止弁）を設置している。                  大飯においても逆止弁による逆流防止としており、弁種が異なるものの目的及び機能に相違はない。                  （大飯と同様）</p>
名称	溢水防護フロート式逆止弁																
種類	フロート式（目皿タイプ） <sup>※</sup>																
主要寸法（mm）	1、3.呼び径：100 2、4.呼び径：80																
材料	SUS303																
取付箇所 （3号25箇所）	3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+10.0m 1.A,B使用済燃料ピット冷却器室 A,B,C充てんポンプ室 ほう酸タンク室 ほう酸ポンプ室 充てんポンプバルブ室 2.B使用済燃料ピット冷却器室前通路 温水器洗濯脱水機室 西側通路 B充てんポンプ室前通路 A格納容器スプレイ冷却器室西側通路 B格納容器スプレイ冷却器室東側通路  原子炉周辺建屋 E.L.+3.5m 3.原子炉周辺建屋サンプタンク室 A,B 高压注入ポンプ室 A,B 格納容器スプレイポンプ室 A,B 余熱除去ポンプ室 4.A,B 高压注入ポンプ室前通路 A,B 余熱除去ポンプ室前通路																
止水性能	判定基準：10cc/min 検査圧力：0.01MPa 検査結果：合格（0cc/min）																
耐圧強度	判定基準：各部の変形漏えいがないこと 検査圧力：0.45MPa 検査結果：合格																
<p>※フロート式はフロートが浮力により押し上げられ、上部のシート面と接触することにより止まる構造。</p>																	
																	
<p>図5 ⑤目皿逆止弁（新設）</p>																	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

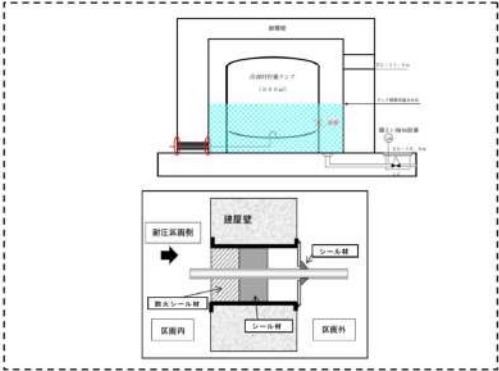


第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料8）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																														
<p style="text-align: center;">表6 ⑥サンプタンク（既設）</p> <table border="1" data-bbox="116 210 680 502"> <tr> <td>名称</td> <td>原子炉周辺建屋サンプタンク</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>埋込たて蓋円筒形</td> </tr> <tr> <td>主要寸法(mm)</td> <td>胴内径：2400 胴板厚さ：4 底板厚さ：20 全高：2860</td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td>胴板：SUS304 底板：SUS304</td> </tr> <tr> <td>取付箇所 (3号1箇所)</td> <td>3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+3.5m 原子炉周辺建屋サンプタンク室</td> </tr> <tr> <td>耐圧強度</td> <td>E.L.+12.0m 水頭圧にて強度評価を行い、 タンクの健全性を確認。</td> </tr> </table> <div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <table border="1" data-bbox="392 566 672 893"> <thead> <tr> <th>評価部位</th> <th>水頭圧 (m)</th> <th>心厚板厚 (mm)</th> <th>実効使用最小厚さ (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>胴板</td> <td>11.139</td> <td>1.7</td> <td>4.0</td> </tr> <tr> <td>底板</td> <td>11.139</td> <td>5.0</td> <td>20.9</td> </tr> <tr> <td>No.1ベント 置台</td> <td>8.3</td> <td>2.7</td> <td>7.8</td> </tr> <tr> <td>No.2水飽計 置台</td> <td>8.3</td> <td>3.5</td> <td>6.0</td> </tr> <tr> <td>No.3非リシン 入ロ置台</td> <td>9.9</td> <td>3.5</td> <td>3.4</td> </tr> <tr> <td>No.4機器ドレ ン入ロ置台</td> <td>9.5</td> <td>3.5</td> <td>3.4</td> </tr> <tr> <td>No.6ドレン入 ロ置台</td> <td>8.3</td> <td>3.5</td> <td>6.0</td> </tr> <tr> <td>No.7排気機 置台</td> <td>8.3</td> <td>2.2</td> <td>6.35</td> </tr> <tr> <td>No.8サンプ取 付座</td> <td>8.3</td> <td>3.5</td> <td>50.9</td> </tr> <tr> <td>No.1マンホー 小室</td> <td>8.3</td> <td>3.5</td> <td>40.0</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">水位 E.L.+12mでの強度評価結果</p> <table border="1" data-bbox="392 917 672 965"> <thead> <tr> <th>評価部位</th> <th>発生応力(MPa)</th> <th>許容応力(MPa)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>胴板</td> <td>153</td> <td>199</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">水位 E.L.+12mでのFEM解析結果</p>  </div>	名称	原子炉周辺建屋サンプタンク	種類	埋込たて蓋円筒形	主要寸法(mm)	胴内径：2400 胴板厚さ：4 底板厚さ：20 全高：2860	材料	胴板：SUS304 底板：SUS304	取付箇所 (3号1箇所)	3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+3.5m 原子炉周辺建屋サンプタンク室	耐圧強度	E.L.+12.0m 水頭圧にて強度評価を行い、 タンクの健全性を確認。	評価部位	水頭圧 (m)	心厚板厚 (mm)	実効使用最小厚さ (mm)	胴板	11.139	1.7	4.0	底板	11.139	5.0	20.9	No.1ベント 置台	8.3	2.7	7.8	No.2水飽計 置台	8.3	3.5	6.0	No.3非リシン 入ロ置台	9.9	3.5	3.4	No.4機器ドレ ン入ロ置台	9.5	3.5	3.4	No.6ドレン入 ロ置台	8.3	3.5	6.0	No.7排気機 置台	8.3	2.2	6.35	No.8サンプ取 付座	8.3	3.5	50.9	No.1マンホー 小室	8.3	3.5	40.0	評価部位	発生応力(MPa)	許容応力(MPa)	胴板	153	199			<p>【大飯】</p> <p><u>設計方針の相違</u></p> <p>女川はファンネルからの逆流を防ぐ目的に対し、泊はドレンラインの最下端に逆止弁（ドレンライン逆止弁）を設置している。</p> <p>大飯においても逆止弁による逆流防止としており、弁種が異なるものの目的及び機能に相違はない。</p> <p>（大飯と同様）</p>
名称	原子炉周辺建屋サンプタンク																																																																
種類	埋込たて蓋円筒形																																																																
主要寸法(mm)	胴内径：2400 胴板厚さ：4 底板厚さ：20 全高：2860																																																																
材料	胴板：SUS304 底板：SUS304																																																																
取付箇所 (3号1箇所)	3号炉 原子炉周辺建屋 E.L.+3.5m 原子炉周辺建屋サンプタンク室																																																																
耐圧強度	E.L.+12.0m 水頭圧にて強度評価を行い、 タンクの健全性を確認。																																																																
評価部位	水頭圧 (m)	心厚板厚 (mm)	実効使用最小厚さ (mm)																																																														
胴板	11.139	1.7	4.0																																																														
底板	11.139	5.0	20.9																																																														
No.1ベント 置台	8.3	2.7	7.8																																																														
No.2水飽計 置台	8.3	3.5	6.0																																																														
No.3非リシン 入ロ置台	9.9	3.5	3.4																																																														
No.4機器ドレ ン入ロ置台	9.5	3.5	3.4																																																														
No.6ドレン入 ロ置台	8.3	3.5	6.0																																																														
No.7排気機 置台	8.3	2.2	6.35																																																														
No.8サンプ取 付座	8.3	3.5	50.9																																																														
No.1マンホー 小室	8.3	3.5	40.0																																																														
評価部位	発生応力(MPa)	許容応力(MPa)																																																															
胴板	153	199																																																															
<p>図6 ⑥サンプタンク（既設）</p>																																																																	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																									
<p>【伊方3号炉】まとめ資料 添付資料12                      9条-別添1-添12-11より抜粋                      溢水影響評価において期待することができる設備について                      壁貫通部浸水対策施工例①</p> <table border="1" data-bbox="152 336 651 379"> <tr> <td>3号機</td> <td>配管名</td> <td>SWS 高水供給母管A</td> </tr> <tr> <td>貫通部No.</td> <td>3RE-B-1</td> <td>場所</td> </tr> <tr> <td colspan="3">A/B側・屋外側</td> </tr> </table> <p>写真</p> <p>A/B側</p>  <p>屋外側</p>  <p>特記事項</p>  <p>※1 今後の検討により仕様の変更もありうる。                      ※2 止水に用いるシール材には難燃性のシリコンシール材を選定することとしている。</p>	3号機	配管名	SWS 高水供給母管A	貫通部No.	3RE-B-1	場所	A/B側・屋外側			<p>(4) 貫通部シール材施工※1（シリコンシール：押さえ板有り）</p> <table border="1" data-bbox="703 240 1256 395"> <tr> <td>主要寸法</td> <td>100A～500A</td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td>シリコンシール材※</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>止水性能</td> <td></td> </tr> </table> <p>※1 今後の検討により仕様の変更もありうる。                      ※2 止水に用いるシール材には難燃性のシリコンシール材を選定することとしている。</p>  <p>(参考図)</p>  <p>(参考写真)</p> <p>図4 シリコンシール（押さえ板有り）概要図</p> <p>特記事項の内容は商業機密の観点から公開できません。</p>	主要寸法	100A～500A	主要材料	シリコンシール材※	最高使用温度		止水性能		<p>(4) 貫通部シール材施工※1（代表例）（シールプレート+シリコンシーラント）</p> <table border="1" data-bbox="1285 240 1854 395"> <tr> <td>主要寸法</td> <td>200A</td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td>シールプレート+シリコンシーラント</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>止水性能</td> <td></td> </tr> </table> <p>※1 今後の検討により仕様の変更もありうる。</p>  <p>(参考写真)</p>  <p>(参考図)</p> <p>図4 シールプレート+シリコンシーラント概要図</p> <p>特記事項の内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	主要寸法	200A	主要材料	シールプレート+シリコンシーラント	最高使用温度		止水性能		<p>相違理由</p> <p>【女川】                      記載表現の相違                      設計方針の相違                      貫通部シールの施工方法の違いによる。（伊方と同様）</p> <p>【大飯】                      記載方針の相違                      女川審査実績の反映</p>
3号機	配管名	SWS 高水供給母管A																										
貫通部No.	3RE-B-1	場所																										
A/B側・屋外側																												
主要寸法	100A～500A																											
主要材料	シリコンシール材※																											
最高使用温度																												
止水性能																												
主要寸法	200A																											
主要材料	シールプレート+シリコンシーラント																											
最高使用温度																												
止水性能																												

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由								
<p>【玄海3/4号炉】まとめ資料 添付資料5-3                      9条-別添1-補5-3-4より抜粋</p>  <p>図-2 水密コンパートメント貫通部概要施工例</p>		<p>(5) 貫通部シール材施工<sup>※1</sup>（代表例）（シールプレート+充てんシール材）</p> <table border="1" data-bbox="1288 287 1852 475"> <tr> <td>主要寸法</td> <td>150A</td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td>シールプレート+充てんシール材（シリコンゴム）</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>止水性能</td> <td></td> </tr> </table> <p>※1 今後の検討により仕様の変更もありうる。</p>  <p>(参考写真)</p>  <p>(参考図)</p> <p>図5 シールプレート+充てんシール材</p> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	主要寸法	150A	主要材料	シールプレート+充てんシール材（シリコンゴム）	最高使用温度		止水性能		<p>【女川】  <u>設計方針の相違</u>                      貫通部シールの施工方法の違いによる。（先行PWRと同様）</p> <p>【大飯】  <u>記載方針の相違</u>                      女川審査実績の反映</p>
主要寸法	150A										
主要材料	シールプレート+充てんシール材（シリコンゴム）										
最高使用温度											
止水性能											





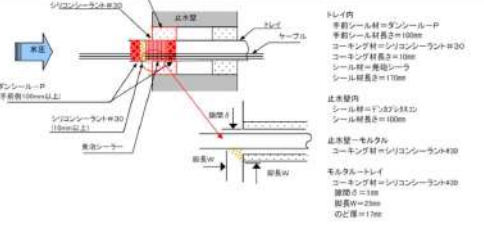




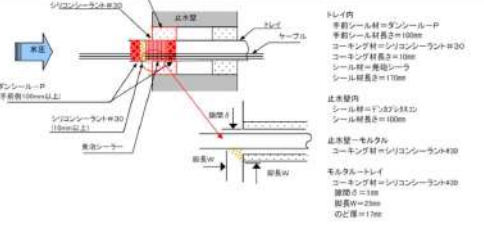






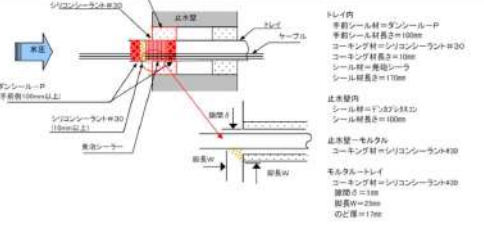


赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																				
<p>【島根2号炉】まとめ資料 添付資料4                      9条-別添1-添4-12より抜粋                      溢水影響評価において期待することができる設備                      (6) 貫通部止水処置</p> <table border="1" data-bbox="152 343 638 686"> <tr> <td>種類</td> <td>シリコン</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">  </td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">図2-7 貫通部止水処置（シリコン）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center; margin-top: 10px;">                 ※資料のつくり、枠囲みの内容は機密情報に該当するため公開できません。             </div>	種類	シリコン			<p>(5) 貫通部シール材施工<sup>※1</sup>（シリコンシール：押さえ板無し）</p> <table border="1" data-bbox="705 255 1263 406"> <tr> <td>主要寸法</td> <td>100A～500A</td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td>シリコンシール材<sup>※2</sup></td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>耐水圧性能</td> <td></td> </tr> </table> <p>※1 今後の検討により仕様の変更もありうる。                  ※2 止水に用いるシール材には難燃性のシリコンシール材を選定することとしている。</p> <div style="text-align: center;">  <p>(参考図)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>(参考写真)</p> </div> <p style="text-align: center;">図5 シリコンシール（押さえ板無し）概要図</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center; margin-top: 10px;">                 ※枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。             </div>	主要寸法	100A～500A	主要材料	シリコンシール材 <sup>※2</sup>	最高使用温度		耐水圧性能		<p>(6) 貫通部シール材施工<sup>※1</sup>（代表例）（充てんシール材）</p> <table border="1" data-bbox="1288 247 1852 438"> <tr> <td>主要寸法</td> <td>300A</td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td>充てんシール材（シリコンゴム）</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>止水性能</td> <td></td> </tr> </table> <p>※1 今後の検討により仕様の変更もありうる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>(参考写真)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>(参考図)</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">図6 充てんシール概要図</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center; margin-top: 10px;">                 ※枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。             </div>	主要寸法	300A	主要材料	充てんシール材（シリコンゴム）	最高使用温度		止水性能		<p>【女川】  <span style="color: green;">記載表現の相違</span>  <span style="color: red;">設計方針の相違</span>                      貫通部シールの施工方法の違いによる。（島根と同様）</p> <p>【大飯】  <span style="color: red;">記載方針の相違</span>                      女川審査実績の反映</p>
種類	シリコン																						
																							
主要寸法	100A～500A																						
主要材料	シリコンシール材 <sup>※2</sup>																						
最高使用温度																							
耐水圧性能																							
主要寸法	300A																						
主要材料	充てんシール材（シリコンゴム）																						
最高使用温度																							
止水性能																							

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料8）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																						
<p>【伊方3号炉】まとめ資料 添付資料12                      9条-別添1-添12-17より抜粋                      溢水影響評価において期待することができる設備について                      壁貫通部浸水対策施工例⑦</p> <table border="1" data-bbox="123 359 638 1133"> <thead> <tr> <th>3号機</th> <th>シールド層</th> <th>トレイ</th> </tr> <tr> <th>貫通部No.</th> <th>3TB-E-5 施工前 全量</th> <th>TR-E-30M 施工後 全量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="3"> <p>特記事項</p>  <p>レイ内                      半割シールド材=ダンシールドP                      半割シールド材長さ=100mm                      コーキング材=シリコンシーラントW30                      コーキング材長さ=100mm                      シールド=黄銅シーラ                      シールド長さ=170mm</p> <p>止水壁内                      シールド材=ドブシタEX                      シールド長さ=100mm</p> <p>止水壁-モルタル                      コーキング材=シリコンシーラントW30</p> <p>モルタル-トレイ                      コーキング材=シリコンシーラントW30                      隙間厚=10mm                      隙間W=20mm                      のど厚=170mm</p> </td> </tr> </tbody> </table>	3号機	シールド層	トレイ	貫通部No.	3TB-E-5 施工前 全量	TR-E-30M 施工後 全量							<p>特記事項</p>  <p>レイ内                      半割シールド材=ダンシールドP                      半割シールド材長さ=100mm                      コーキング材=シリコンシーラントW30                      コーキング材長さ=100mm                      シールド=黄銅シーラ                      シールド長さ=170mm</p> <p>止水壁内                      シールド材=ドブシタEX                      シールド長さ=100mm</p> <p>止水壁-モルタル                      コーキング材=シリコンシーラントW30</p> <p>モルタル-トレイ                      コーキング材=シリコンシーラントW30                      隙間厚=10mm                      隙間W=20mm                      のど厚=170mm</p>			<table border="1" data-bbox="1288 175 1848 375"> <tr> <td>主要寸法</td> <td>□300×150</td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td>充てんシール材（DFシール）</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>止水性能</td> <td></td> </tr> </table> <p>※1 今後の検討により仕様の変更もありうる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="1299 430 1568 638">  <p>(参考写真)</p> </div> <div data-bbox="1579 422 1848 630">  <p>(参考図)</p> </div> </div> <p>図7 充てんシール（ケーブルトレイ）概要図</p> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	主要寸法	□300×150	主要材料	充てんシール材（DFシール）	最高使用温度		止水性能		<p>【女川】  <u>設計方針の相違</u>                      貫通部シールの施工方法の違いによる。(伊方と同様)</p> <p>【大飯】  <u>記載方針の相違</u>                      女川審査実績の反映</p>
3号機	シールド層	トレイ																							
貫通部No.	3TB-E-5 施工前 全量	TR-E-30M 施工後 全量																							
																									
																									
<p>特記事項</p>  <p>レイ内                      半割シールド材=ダンシールドP                      半割シールド材長さ=100mm                      コーキング材=シリコンシーラントW30                      コーキング材長さ=100mm                      シールド=黄銅シーラ                      シールド長さ=170mm</p> <p>止水壁内                      シールド材=ドブシタEX                      シールド長さ=100mm</p> <p>止水壁-モルタル                      コーキング材=シリコンシーラントW30</p> <p>モルタル-トレイ                      コーキング材=シリコンシーラントW30                      隙間厚=10mm                      隙間W=20mm                      のど厚=170mm</p>																									
主要寸法	□300×150																								
主要材料	充てんシール材（DFシール）																								
最高使用温度																									
止水性能																									

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由								
	<p>(6) 貫通部ブーツラバー施工<sup>※1</sup></p> <table border="1" data-bbox="705 207 1265 383"> <tr> <td>主要寸法</td> <td>100A～</td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td>ブーツラバー (FPM, シリコン系) 調整リング (セメント系材料)</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>止水性能</td> <td></td> </tr> </table> <p>※1 今後の検討により仕様の変更もありうる。</p> <div data-bbox="705 462 1265 798" style="border: 1px solid black; height: 210px; width: 250px; margin: 10px auto;"></div> <p style="text-align: center;">(参考図)</p> <div data-bbox="840 853 1142 1085" style="border: 1px solid black; height: 145px; width: 135px; margin: 10px auto; text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">(参考写真)</p> <p style="text-align: center;">図6 ブーツラバー概要図</p> <div data-bbox="705 1204 1265 1252" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p> </div>	主要寸法	100A～	主要材料	ブーツラバー (FPM, シリコン系) 調整リング (セメント系材料)	最高使用温度		止水性能			<p><b>【女川】</b></p> <p><u>記載方針の相違</u></p> <p>泊における止水に期待する設備のうちブーツラバーを用いた貫通部シールはすべて高温用であり、次ページ以降に詳細を記載する。</p>
主要寸法	100A～										
主要材料	ブーツラバー (FPM, シリコン系) 調整リング (セメント系材料)										
最高使用温度											
止水性能											


赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料8）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																												
<p>【伊方3号炉】まとめ資料 添付資料12                      9条-別添1-添12-14より抜粋                      溢水影響評価において期待することができる設備について                      壁貫通部浸水対策施工例④</p> <table border="1" data-bbox="129 331 629 368"> <tr> <td>3号機</td> <td>配管名</td> <td>ASS/ASP レンダクボフよびV/S/G給水配管</td> </tr> <tr> <td>貫通部No.</td> <td>3TB-T-a</td> <td>場所</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>設置</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>T/B 3.8m</td> </tr> </table> <div data-bbox="143 379 620 576"> </div> <div data-bbox="143 596 620 826"> </div> <p>特記事項                      ・ターピン側は、処理なし。                      ・A/B側は、ブーツで処理</p> <div data-bbox="210 884 501 1123"> </div>	3号機	配管名	ASS/ASP レンダクボフよびV/S/G給水配管	貫通部No.	3TB-T-a	場所			設置			T/B 3.8m	<p>(7) 貫通部ブーツラバー施工 (高温) ※1</p> <table border="1" data-bbox="703 245 1263 480"> <tr> <td>主要寸法</td> <td>100A~1000A</td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td>高水頭ブーツラバー (シリコン系) 調整リング (セメント系材料)</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>止水性能</td> <td></td> </tr> </table> <p>※1 今後の検討により仕様の変更もありうる。</p> <div data-bbox="752 571 1211 906"> </div> <p>(参考図)</p> <div data-bbox="848 954 1144 1198"> </div> <p>(参考写真)</p> <p>図7 高温ブーツラバー概要図</p> <div data-bbox="703 1315 1263 1353"> <p>枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p> </div>	主要寸法	100A~1000A	主要材料	高水頭ブーツラバー (シリコン系) 調整リング (セメント系材料)	最高使用温度		止水性能		<p>(7) 貫通部ブーツラバー施工 (高温) ※1</p> <table border="1" data-bbox="1285 245 1854 480"> <tr> <td>主要寸法</td> <td>300A</td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td>高耐圧ブーツラバー 調整リング (セメント系材料)</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>止水性能</td> <td></td> </tr> </table> <p>※1 今後の検討により仕様の変更もありうる。</p> <div data-bbox="1323 544 1839 746"> </div> <p>(参考写真) (参考図)</p> <p>図8 ブーツラバー (高温) 概要図</p> <div data-bbox="1285 970 1854 995"> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p> </div>	主要寸法	300A	主要材料	高耐圧ブーツラバー 調整リング (セメント系材料)	最高使用温度		止水性能		<p>【大飯】  <a href="#">記載方針の相違</a>                      女川審査実績の反映</p>
3号機	配管名	ASS/ASP レンダクボフよびV/S/G給水配管																													
貫通部No.	3TB-T-a	場所																													
		設置																													
		T/B 3.8m																													
主要寸法	100A~1000A																														
主要材料	高水頭ブーツラバー (シリコン系) 調整リング (セメント系材料)																														
最高使用温度																															
止水性能																															
主要寸法	300A																														
主要材料	高耐圧ブーツラバー 調整リング (セメント系材料)																														
最高使用温度																															
止水性能																															



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由						
	<p>(8) ハッチへの止水処置<sup>※1</sup></p> <table border="1" data-bbox="705 223 1265 383"> <tr> <td>主要寸法</td> <td>(ハッチ開口部寸法) 幅：約0.8m 奥行き：約0.8m</td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td>鋼材 (SUS304) クロロブレンゴム (シート面) <sup>※2</sup></td> </tr> <tr> <td>耐水圧性能</td> <td></td> </tr> </table> <p>※1 今後の検討により仕様の変更もありうる。                  ※2 火災による影響からシール部を防護するために断熱カバーを設置する。</p> <div data-bbox="719 496 1247 719" style="border: 1px solid black; height: 140px; margin: 10px 0;"></div> <p style="text-align: center;">(参考図)</p> <div data-bbox="851 820 1128 979" style="border: 1px solid black; height: 100px; margin: 10px 0; text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">(参考写真)</p> <p style="text-align: center; color: red;">図8 ハッチへの止水処置概要図</p> <div data-bbox="705 1107 1265 1145" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p> </div>	主要寸法	(ハッチ開口部寸法) 幅：約0.8m 奥行き：約0.8m	主要材料	鋼材 (SUS304) クロロブレンゴム (シート面) <sup>※2</sup>	耐水圧性能			<p>【女川】</p> <p>設計方針の相違                  対策設備の相違</p>
主要寸法	(ハッチ開口部寸法) 幅：約0.8m 奥行き：約0.8m								
主要材料	鋼材 (SUS304) クロロブレンゴム (シート面) <sup>※2</sup>								
耐水圧性能									

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料8）

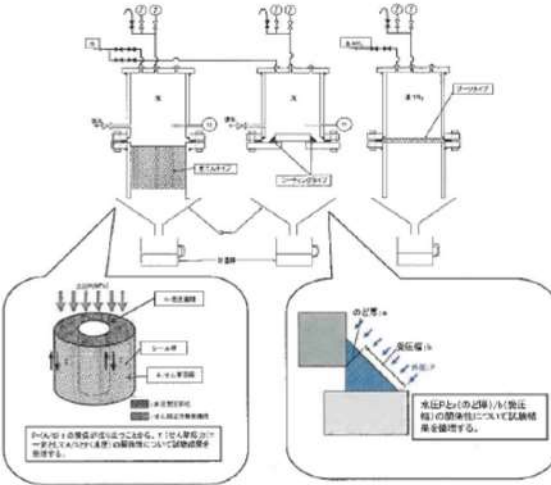

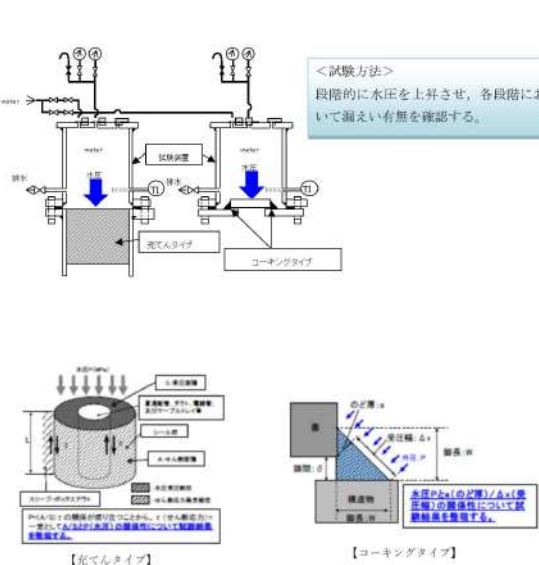
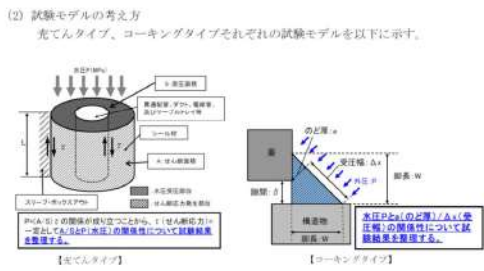
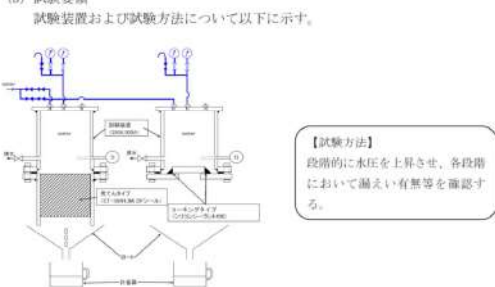
大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由								
<p style="text-align: right;">添付資料5.2 別紙4</p> <p>配管、電線管等貫通部シール材の強度及び止水性能について</p> <p>配管、電線管等貫通部シール材の強度及び止水性能については、表1及び図1に示す耐圧試験及び漏水試験により、20m静水圧に耐えられる施工条件に基づき施工している。</p> <p>また、水密シール材を充てんしている配管、電線管等貫通部について、図2に示すとおり、配管等が両側で同じ建屋に支持されている等、地震時に配管とシール材の相対変位が発生しにくく、シール材への影響は軽微であり、地震後に止水性能が低下する可能性は低いと考えている。</p> <p style="text-align: center;">表1 耐圧試験及び漏水試験を行ったシール材</p> <table border="1" data-bbox="114 762 678 903"> <thead> <tr> <th>シールタイプ</th> <th>材質</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>充てんタイプ</td> <td>ポリウレタン</td> </tr> <tr> <td>コーティングタイプ</td> <td>シリコン</td> </tr> <tr> <td>ブーツタイプ（ブーツラバー）</td> <td>シリコンゴム</td> </tr> </tbody> </table>	シールタイプ	材質	充てんタイプ	ポリウレタン	コーティングタイプ	シリコン	ブーツタイプ（ブーツラバー）	シリコンゴム	<p>2. 壁貫通部止水対策の耐水圧性能試験について</p> <p>壁貫通部止水対策の耐水圧性能について、下記のとおり耐水圧性能試験を実施し、影響がないことを確認した。</p> <p>(1) シリコンシールの耐水圧試験について</p> <p>以下にシリコンシールの耐水圧試験結果を示す。また、試験概要図を図9に示す。</p>	<p>2. 貫通部止水対策の耐水圧性能試験について</p> <p>貫通部止水対策の耐水圧性能について、下記のとおり耐水圧性能試験を実施し、影響がないことを確認した。</p> <p>(1) シリコンシーラント及び充てんシール材の耐水圧試験について</p> <p>以下にシリコンシーラント及び充てんシール材の耐水圧試験結果を示す。また、試験概要図を図9に示す。</p>	<p>【女川・大阪】 記載表現の相違</p> <p>【大阪】 記載方針の相違 女川審査実績の反映</p> <p>【女川】 設計方針の相違 貫通部シールの施工方法の違いによる。</p> <p>【大阪】 記載表現の相違 女川審査実績の反映</p>
シールタイプ	材質										
充てんタイプ	ポリウレタン										
コーティングタイプ	シリコン										
ブーツタイプ（ブーツラバー）	シリコンゴム										

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>a. シリコンシーラントの場合</p> <p>シリコンシーラントによる貫通部シール施工箇所の耐水性については、試験結果より「のど厚/受圧幅 (a / Δ x)」の比を 0.131以上確保することにより 0.196MPa (20m 静水頭) の耐水性を有することを確認した。</p> <p>なお、配管変位量が大きい貫通部シール施工箇所については、必要に応じて貫通部シール保護を目的としたサポートを設置する。</p>	<p>【女川】</p> <p>記載方針の相違</p> <p>試験方法は異なるものの、貫通部シール施工の耐水圧性能を試験によって確認し、必要耐水圧性能を確保している。</p>
	<p>枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p>	<p>b. 充てんシール材の場合</p> <p>充てんシール材による貫通部シール施工箇所の耐水性については、試験結果より「せん断面積/受圧面積 (A/S) =0.196MPa」となるよう充てんシール材の施工を行うことで 0.196MPa (20m 静水頭) の耐水性を有することを確認した。</p> <p>なお、配管変位量が大きい貫通部シール施工箇所については、必要に応じて貫通部シール保護を目的としたサポートを設置する。</p>	<p>【女川】</p> <p>記載方針の相違</p> <p>試験方法は異なるものの、貫通部シール施工の耐水圧性能を試験によって確認し、必要耐水圧性能を確保している。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料8）

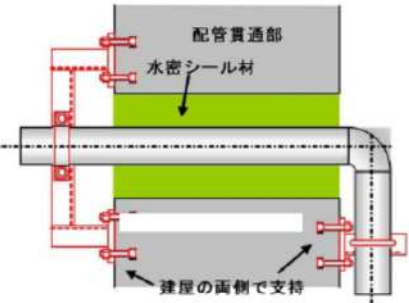
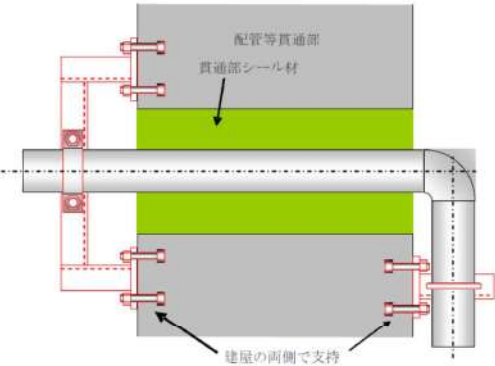
大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p>図1 シール材の耐圧試験及び漏水試験</p>	 <p>図9 シリコンシールの耐水圧試験概要図</p> <p>枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p>	 <p>図9 シリコンシーラント及び充てんシール材の耐水圧試験概要図</p>	<p>【大飯】                  記載表現の相違</p> <p>【女川】                  記載方針の相違</p> <p>試験方法の違いによる相違（PWR共通の試験を実施。参考として伊方3も掲載した。）</p>
<p>【伊方3号炉】</p> <p>添付資料1-2 溢水影響評価において期待することができる設備について（別紙1）より                  9条-別添1-添12-19 抜粋</p> <p>(2) 試験モデルの考え方                  充てんタイプ、コーキングタイプそれぞれの試験モデルを以下に示す。</p>  <p>(3) 試験要領                  試験装置および試験方法について以下に示す。</p>  <p>【試験方法】                  段階的に水圧を上昇させ、各段階において漏えい有無等を確認する。</p>			



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）


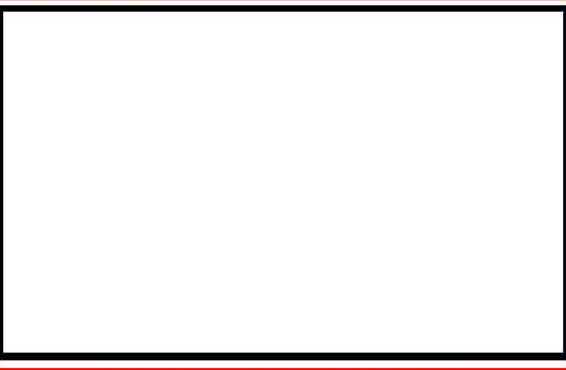
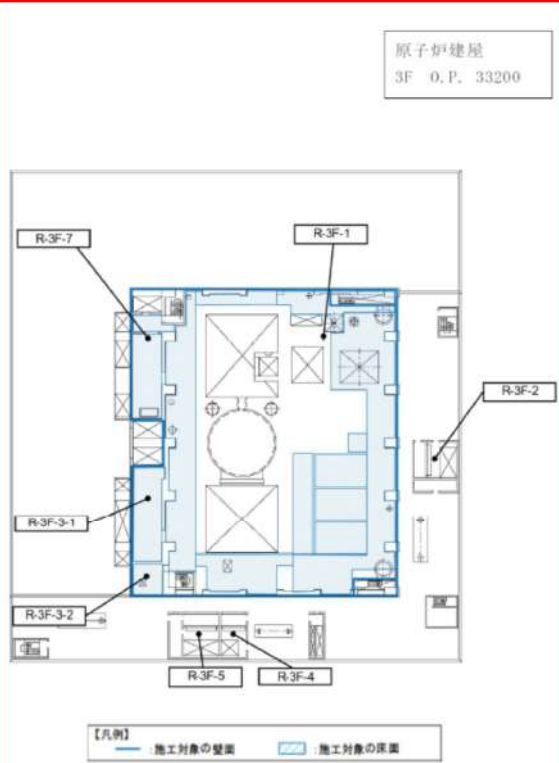
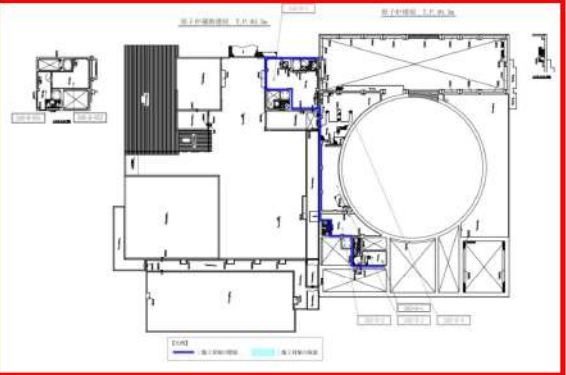
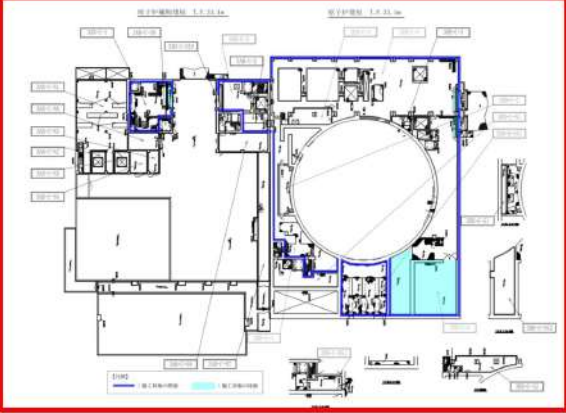
大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>(2) ブーツラバーの耐水圧試験について</p> <p>以下にブーツラバーの耐水圧試験結果を示す。また、試験概要図を図10に示す。</p> <div data-bbox="696 312 1272 703" style="border: 1px solid black; height: 245px;"></div> <div data-bbox="696 719 1272 1086" style="border: 1px solid black; height: 230px;"></div> <p style="text-align: center;">図10 ブーツラバーの耐水圧試験概要図</p> <div data-bbox="696 1139 1272 1187" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p style="text-align: center;">枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p> </div>	<p>(2) ブーツラバーの耐水圧試験について</p> <p>以下にブーツラバーの耐水圧試験結果を示す。また、試験概要図を図10に示す。</p> <p>a. ブーツラバーの場合</p> <p>ブーツラバーによる貫通部シール施工の耐水性については、試験結果より「0.196MPa（20m 静水頭）」の耐水性を有することを確認した。</p> <p>なお、配管変位量が大きい貫通部シール施工箇所については、必要に応じてブーツラバーの保護を目的としたサポートを設置する。</p> <div data-bbox="1317 715 1839 1091" style="border: 1px solid black; text-align: center;"> </div> <p style="text-align: center;">図10 ブーツラバーの耐水圧試験概要図</p>	<p>【大阪】  <a href="#">記載方針の相違</a>                  女川審査実績の反映</p> <p>【女川】  <a href="#">記載方針の相違</a>                  記載内容は異なるものの、貫通部シール施工の耐水圧性能を試験によって確認し、必要耐水圧性能を確保している。</p> <p>【女川】  <a href="#">記載方針の相違</a>                  試験方法の違いによる相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）


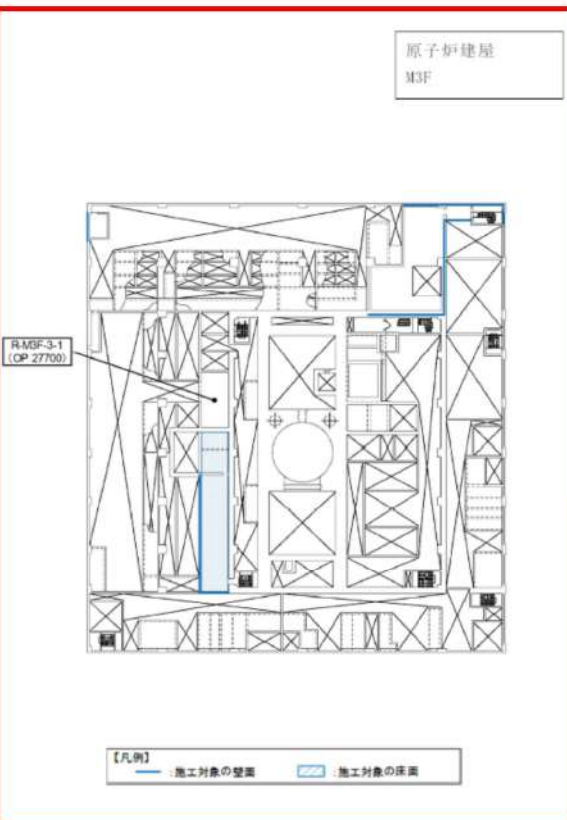
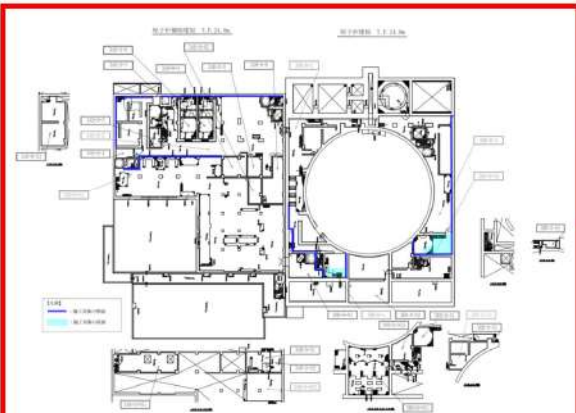


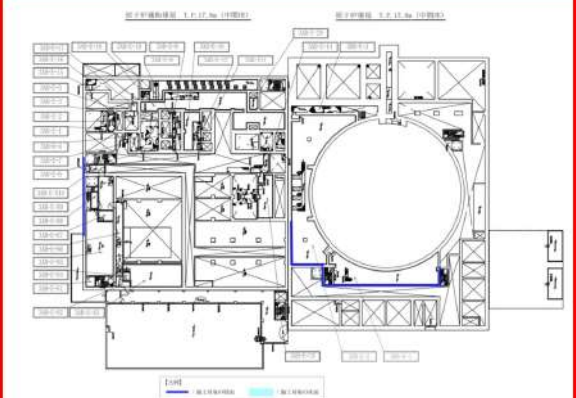
大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>水密シール材を充てんしている配管、電線管等貫通部について、<a href="#">図2</a>に示すとおり、<a href="#">配管等</a>が両側で同じ建屋に支持されている等、地震時に配管とシール材の相対変位が発生しにくく、シール材への影響は軽微であり、地震後に止水性能が低下する可能性は低いと考えている。</p>  <p>図2 配管支持構造物概念</p>		<p>(3) 貫通部シール材の地震時の健全性について</p> <p>貫通部シール材を充てんしている配管、電線管等貫通部について、<a href="#">図11</a>に示すとおり、<a href="#">配管等</a>が両側で同じ建屋に支持されており、地震時に配管とシール材の相対変位が発生しにくく、貫通部シール材への影響は軽微であり、地震後に止水性能が低下する可能性は低いと考えている。</p>  <p>図11 配管支持構造物概念図</p>	<p>【女川】  <a href="#">記載方針の相違</a>                      大阪審査実績の反映                      （大阪欄記載の文章については再掲載）</p> <p>【大阪】  <a href="#">記載表現の相違</a></p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料9）

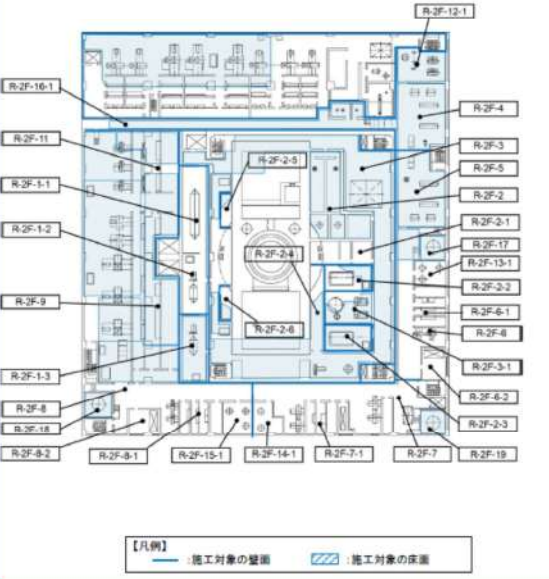

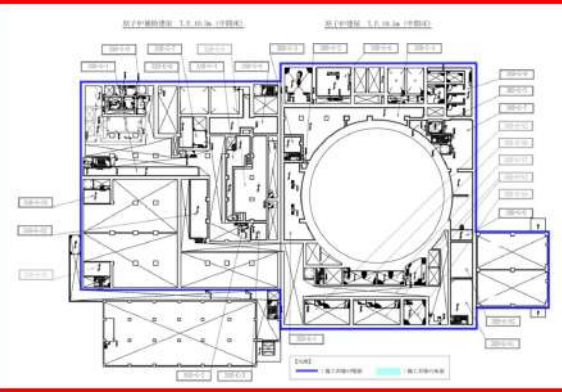
大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p data-bbox="510 178 689 204">添付資料5.2 別紙3</p> <p data-bbox="107 418 273 443">1. 水密扉設置箇所</p>  <p data-bbox="295 826 501 852">図4 水密扉の設置位置</p> <p data-bbox="107 861 273 887">2. 貫通部対策箇所</p>  <p data-bbox="224 1270 564 1295">図6 貫通部対策配置図 (E.L. +10.0m)</p> <p data-bbox="116 1321 680 1347">枠囲みの範囲は機密に係る次項ですので公開することはできません。</p>	<p data-bbox="1128 178 1272 204">補足説明資料17</p> <p data-bbox="698 213 1016 239">溢水防護対策の主要な施工対象範囲</p> 	<p data-bbox="1720 178 1863 204">補足説明資料9</p> <p data-bbox="1281 213 1599 239">溢水防護対策の主要な施工対象範囲</p>  <p data-bbox="1326 893 1818 919">図1 溢水防護対策施工対象の壁及び扉の配置図 (1/11)</p>  <p data-bbox="1326 1404 1818 1430">図1 溢水防護対策施工対象の壁及び扉の配置図 (2/11)</p>	<p data-bbox="1872 178 1998 204">【女川・大飯】</p> <p data-bbox="1872 213 1998 239">記載表現の相違</p> <p data-bbox="1872 248 1998 274">設計方針の相違</p> <p data-bbox="1872 284 2101 309">プラント設計（配置）の相違</p> <p data-bbox="1872 319 1935 344">【大飯】</p> <p data-bbox="1872 354 1998 379">記載方針の相違</p> <p data-bbox="1872 389 2033 414">女川審査実績の反映</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

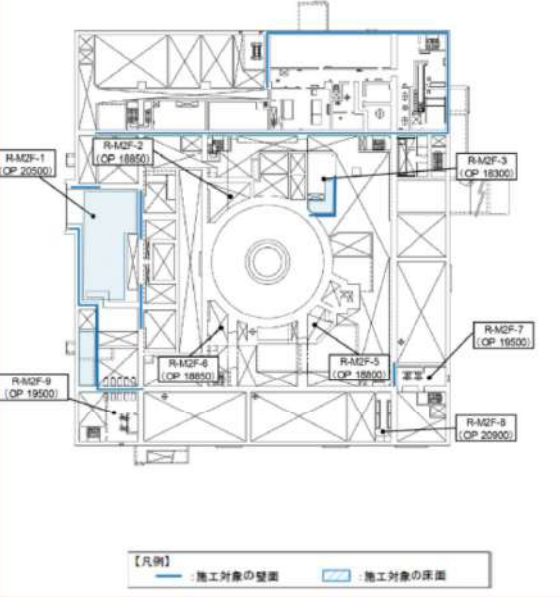
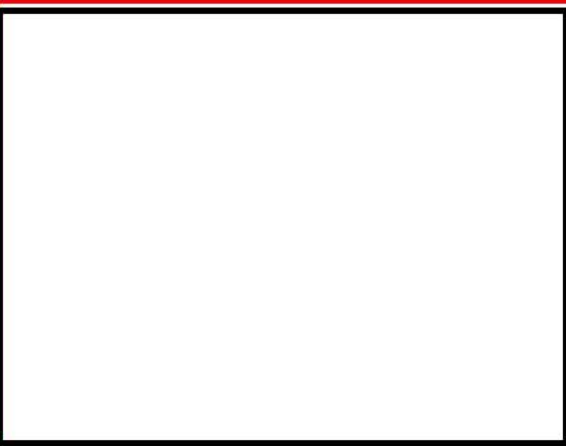
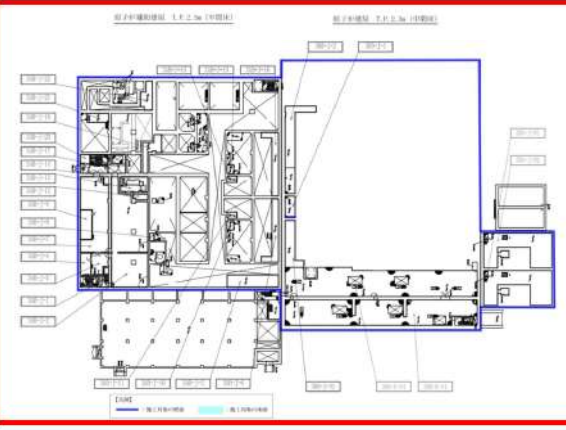
大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p>【女川・大飯】                  設計方針の相違                  プラント設計（配置）の相違</p> <p>【女川】                  記載表現の相違</p> <p>【大飯】                  記載方針の相違</p> <p>女川審査実績の反映</p>
<p>図7 貫通部対策配置図 (E. L. +6.6、E. L. +7.0m)</p>		<p>図1 溢水防護対策施工対象の壁及び床の配置図 (3/11)</p>	
			
<p>図8 貫通部対策配置図 (E. L. +3.5m)</p>		<p>図1 溢水防護対策施工対象の壁及び床の配置図 (4/11)</p>	
<p>枠囲みの範囲は機密に係る次項ですので公開することはできません。</p>			



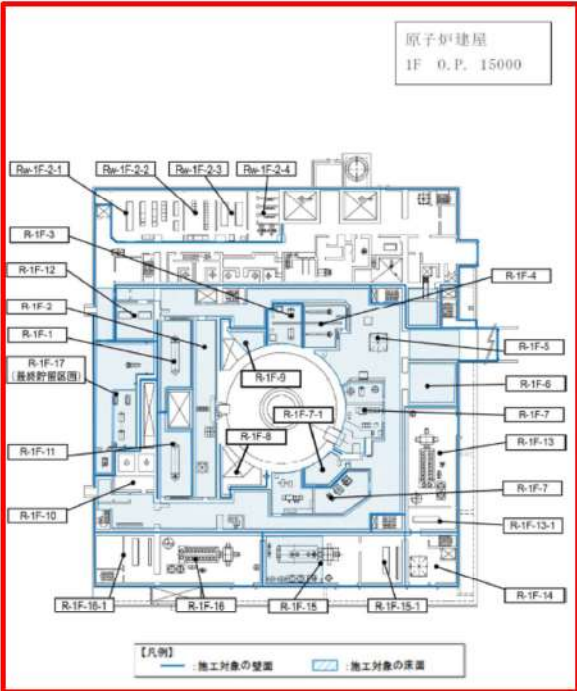
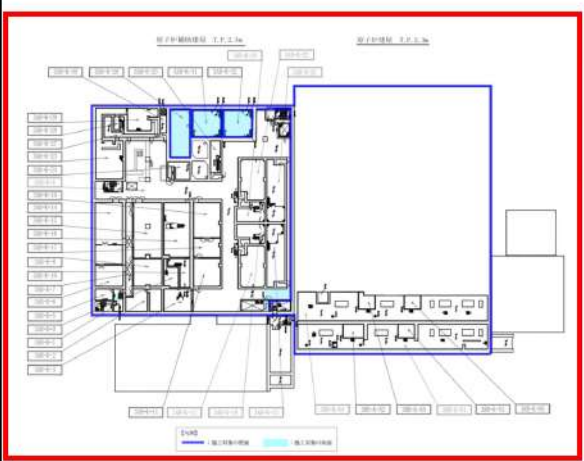
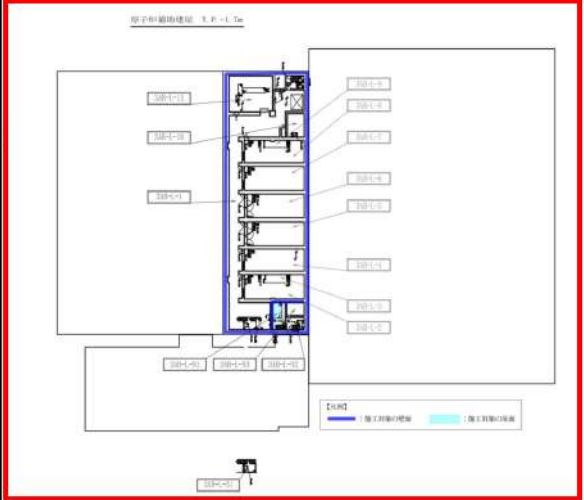
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p data-bbox="1102 204 1249 258">原子炉建屋 2F O.P. 22500</p> 	 <p data-bbox="1317 657 1818 683">図1 溢水防護対策施工対象の壁及び床の配置図 (5/11)</p>  <p data-bbox="1317 1136 1818 1161">図1 溢水防護対策施工対象の壁及び床の配置図 (6/11)</p> <p data-bbox="1294 1209 1854 1235">枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	<p data-bbox="1877 178 1930 204">【女川】</p> <p data-bbox="1877 220 1998 245">設計方針の相違</p> <p data-bbox="1877 261 2101 287">プラント設計（配置）の相違</p> <p data-bbox="1877 303 1998 328">記載表現の相違</p> <p data-bbox="1877 344 1930 370">【大阪】</p> <p data-bbox="1877 386 1998 411">記載方針の相違</p> <p data-bbox="1877 427 2033 453">女川審査実績の反映</p>

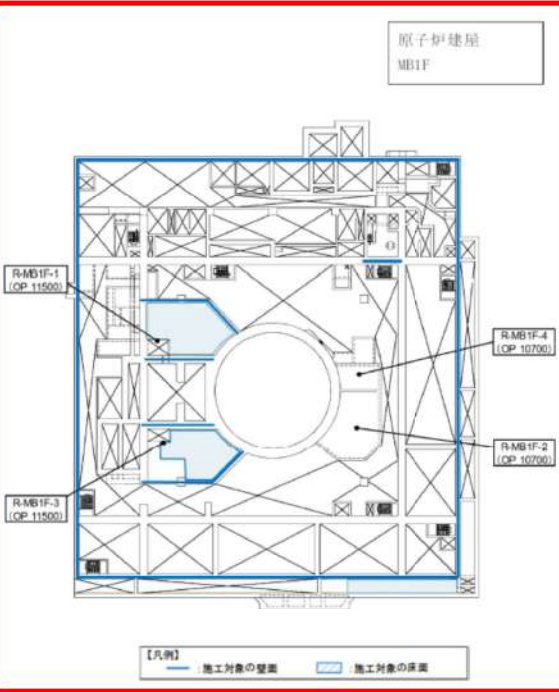
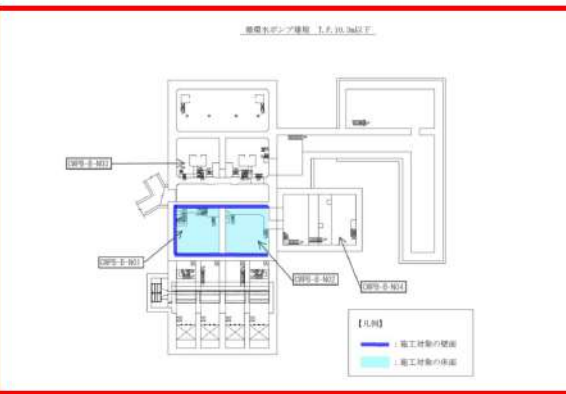
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p data-bbox="1093 204 1263 261">原子炉建屋 M2F</p> 	 <p data-bbox="1317 657 1814 683">図1 溢水防護対策施工対象の壁及び床の配置図 (7/11)</p>  <p data-bbox="1317 1168 1814 1193">図1 溢水防護対策施工対象の壁及び床の配置図 (8/11)</p> <p data-bbox="1290 1241 1854 1267">枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	<p data-bbox="1872 178 1935 204">【女川】</p> <p data-bbox="1872 217 1998 242">設計方針の相違</p> <p data-bbox="1872 248 2096 274">プラント設計（配置）の相違</p> <p data-bbox="1872 280 1998 306">記載表現の相違</p> <p data-bbox="1872 312 1935 338">【大飯】</p> <p data-bbox="1872 344 1998 370">記載方針の相違</p> <p data-bbox="1872 376 2033 402">女川審査実績の反映</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

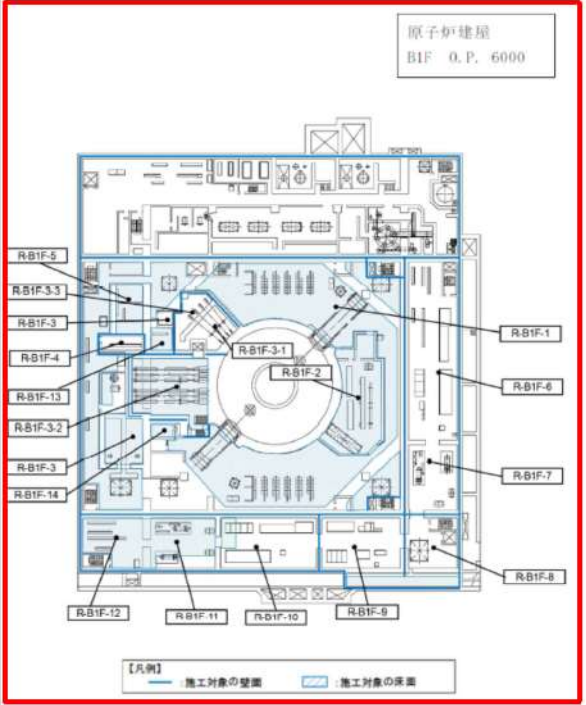
大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		 <p data-bbox="1317 654 1818 678">図1 溢水防護対策施工対象の壁及び床の配置図 (9/11)</p>  <p data-bbox="1317 1268 1818 1292">図1 溢水防護対策施工対象の壁及び床の配置図 (10/11)</p>	<p data-bbox="1872 183 1937 199">【女川】</p> <p data-bbox="1872 215 2004 231">設計方針の相違</p> <p data-bbox="1872 247 2094 263">プラント設計（配置）の相違</p> <p data-bbox="1872 279 2004 295">記載表現の相違</p> <p data-bbox="1872 311 1937 327">【大飯】</p> <p data-bbox="1872 343 2004 359">記載方針の相違</p> <p data-bbox="1872 375 2027 391">女川審査実績の反映</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

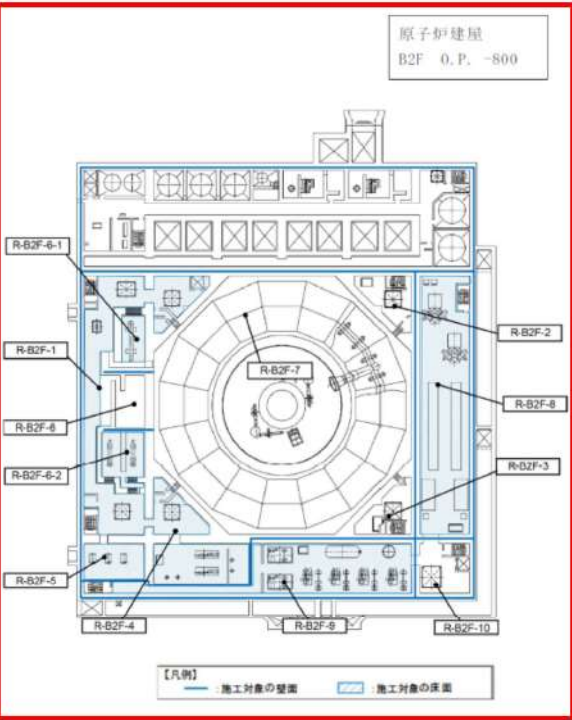
大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		 <p data-bbox="1317 625 1818 647">図1 溢水防護対策施工対象の壁及び床の配置図（11/11）</p>	<p>【女川】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント設計（配置）の相違</p> <p>記載表現の相違</p> <p>【大飯】</p> <p>記載方針の相違</p> <p>女川審査実績の反映</p>



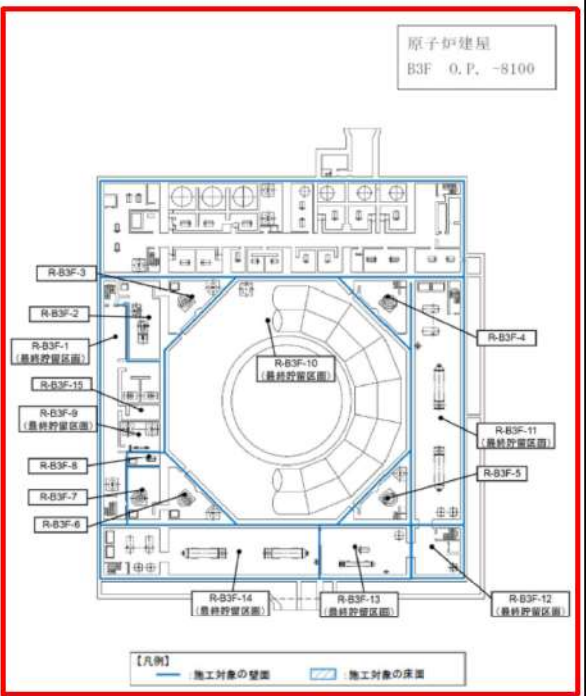
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p>【女川】  <a href="#">設計方針の相違</a>                      プラント設計（配置）の相違</p> <p>【大阪】  <a href="#">記載方針の相違</a>                      女川審査実績の反映</p>

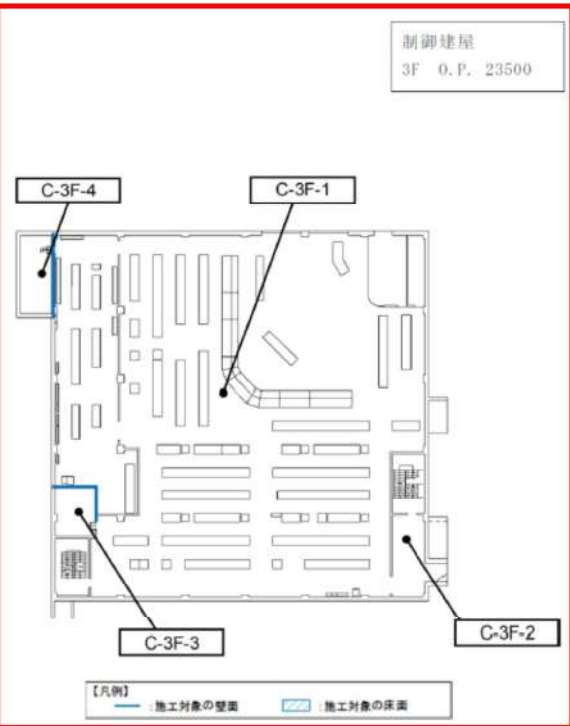
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p>【女川】  <a href="#">設計方針の相違</a>  <a href="#">プラント設計（配置）の相違</a></p> <p>【大飯】  <a href="#">記載方針の相違</a>                      女川審査実績の反映</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

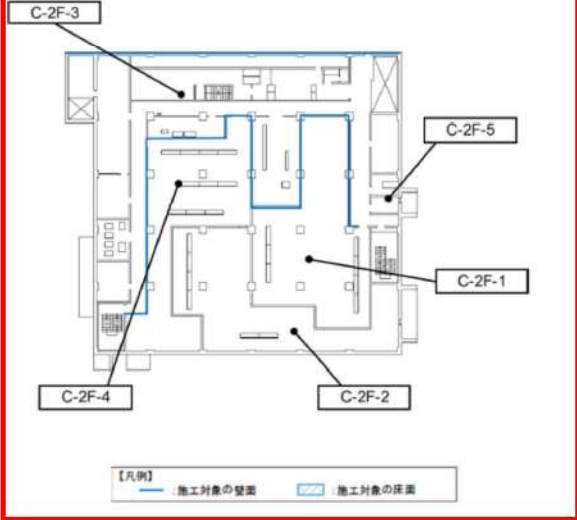
大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>原子炉建屋 B3F 0.P. -8100</p> <p>【凡例】  <span style="border-bottom: 1px solid blue; width: 20px; display: inline-block;"></span> 施工対象の壁面  <span style="border-bottom: 1px dashed blue; width: 20px; display: inline-block;"></span> 施工対象の床面</p>		<p>【女川】  <a href="#">設計方針の相違</a>                      プラント設計（配置）の相違</p> <p>【大阪】  <a href="#">記載方針の相違</a>                      女川審査実績の反映</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

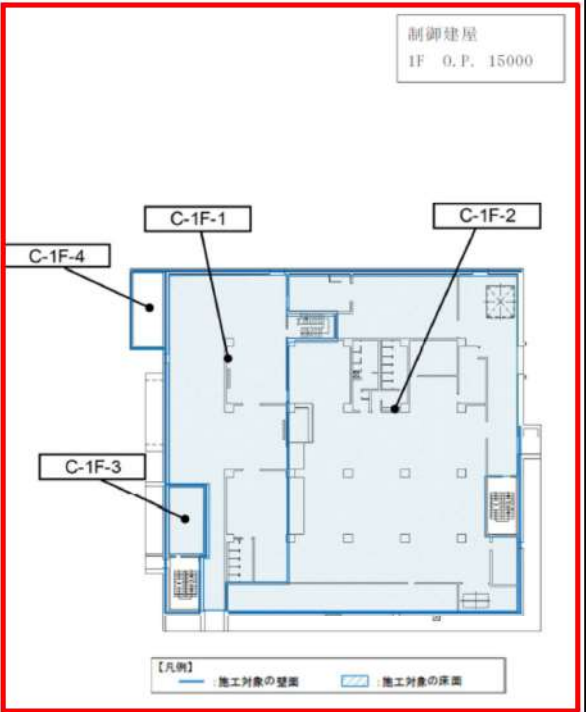
大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p>【女川】  <a href="#">設計方針の相違</a>  <a href="#">プラント設計 (配置) の相違</a></p> <p>【大阪】  <a href="#">記載方針の相違</a>  <a href="#">女川審査実績の反映</a></p>



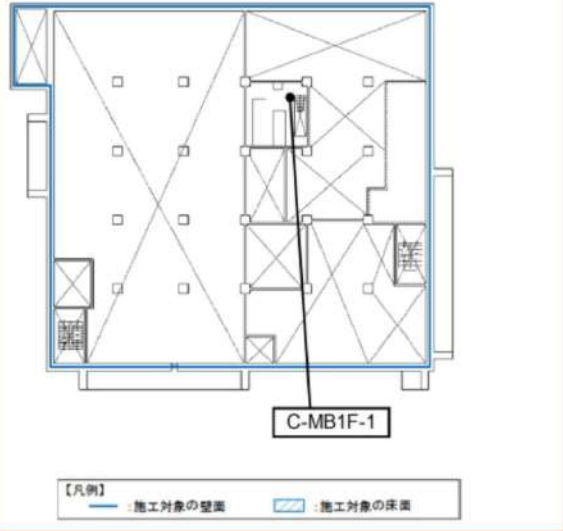
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="1093 193 1256 256" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     制御建屋                      2F 0.P. 19500                 </div> 		<p>【女川】  <a href="#">設計方針の相違</a>  <a href="#">プラント設計（配置）の相違</a></p> <p>【大阪】  <a href="#">記載方針の相違</a>                      女川審査実績の反映</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p>【女川】  <a href="#">設計方針の相違</a>  <a href="#">プラント設計（配置）の相違</a></p> <p>【大阪】  <a href="#">記載方針の相違</a>  <a href="#">女川審査実績の反映</a></p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

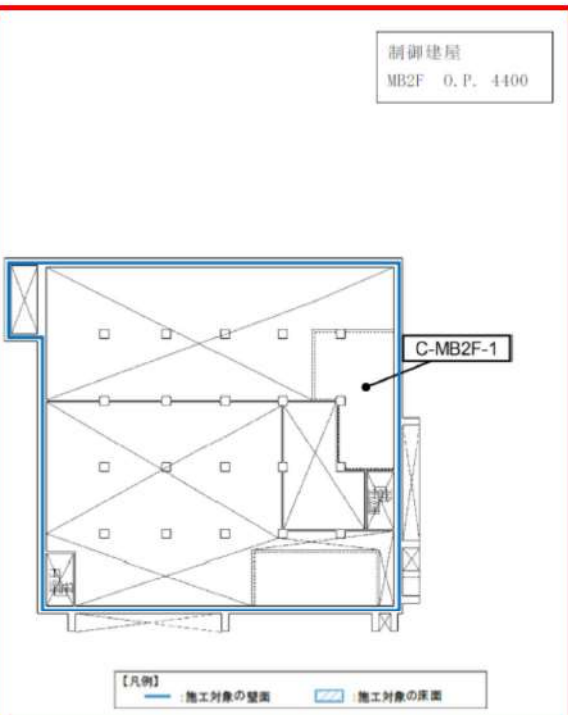
大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p data-bbox="1070 209 1256 268">制御建屋 MB1F O.P. 11400</p>  <p data-bbox="981 847 1099 874">C-MB1F-1</p> <p data-bbox="770 922 1167 959">【凡例】  <span style="color: blue;">—</span> : 施工対象の壁面    <span style="background-color: #e0e0ff; border: 1px solid blue; display: inline-block; width: 10px; height: 10px;"></span> : 施工対象の床面</p>		<p data-bbox="1877 180 1933 201">【女川】</p> <p data-bbox="1877 217 1995 237">設計方針の相違</p> <p data-bbox="1877 248 2092 269">プラント設計（配置）の相違</p> <p data-bbox="1877 284 1933 304">【大阪】</p> <p data-bbox="1877 319 1995 339">記載方針の相違</p> <p data-bbox="1877 354 2024 375">女川審査実績の反映</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

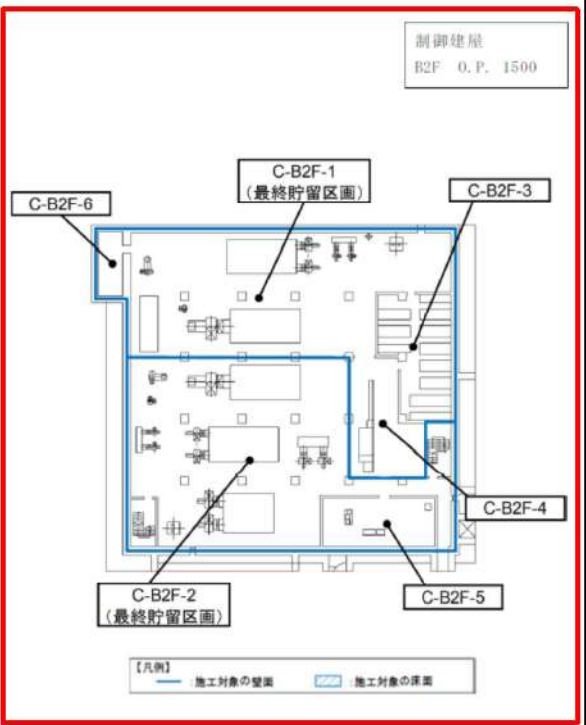
大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="1086 209 1216 256" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     制御建屋                      B1F O.P. 8000                 </div> <div data-bbox="707 304 1263 791" style="border: 1px solid black; height: 300px; margin: 10px 0;"></div> <div data-bbox="831 863 1218 895" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">                     枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。                 </div>		<p>【女川】  <a href="#">設計方針の相違</a>                      プラント設計（配置）の相違</p> <p>【大阪】  <a href="#">記載方針の相違</a>                      女川審査実績の反映</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p>【女川】  <a href="#">設計方針の相違</a>  <a href="#">プラント設計（配置）の相違</a></p> <p>【大阪】  <a href="#">記載方針の相違</a>                      女川審査実績の反映</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p>【女川】  <a href="#">設計方針の相違</a>  <a href="#">プラント設計（配置）の相違</a></p> <p>【大阪】  <a href="#">記載方針の相違</a>                  女川審査実績の反映</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

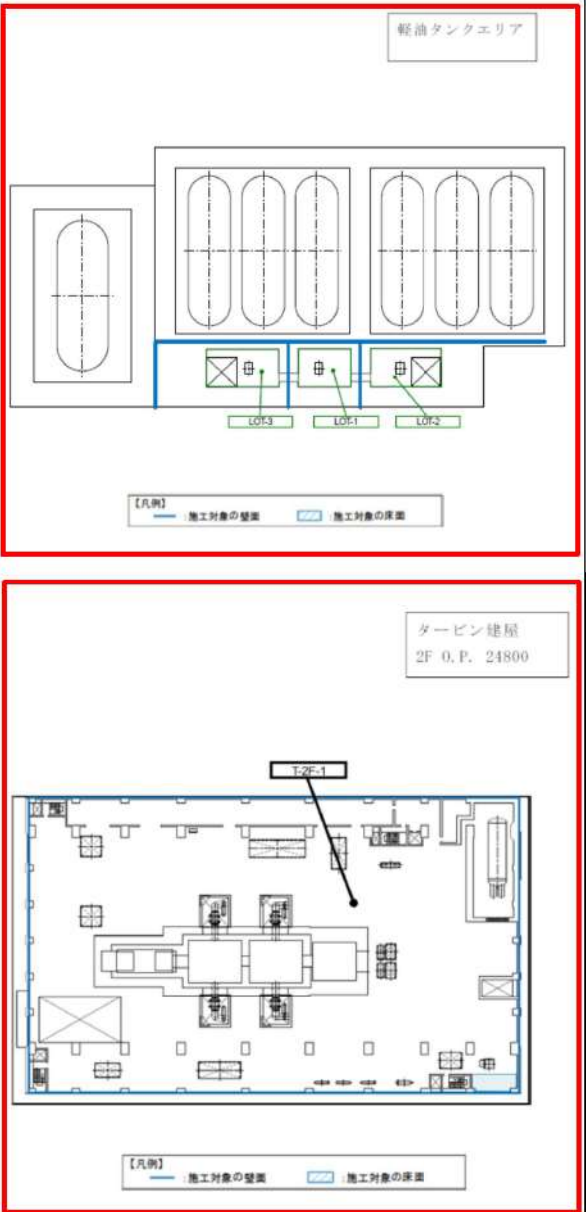
大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="1077 204 1218 261" style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;">海水ポンプ室 上部</div> <div data-bbox="712 304 1256 759" style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; margin: 10px auto;"></div> <div data-bbox="801 895 1249 932" style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;">枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。</div>		<p>【女川】  <a href="#">設計方針の相違</a>  <a href="#">プラント設計（配置）の相違</a></p> <p>【大阪】  <a href="#">記載方針の相違</a>                      女川審査実績の反映</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

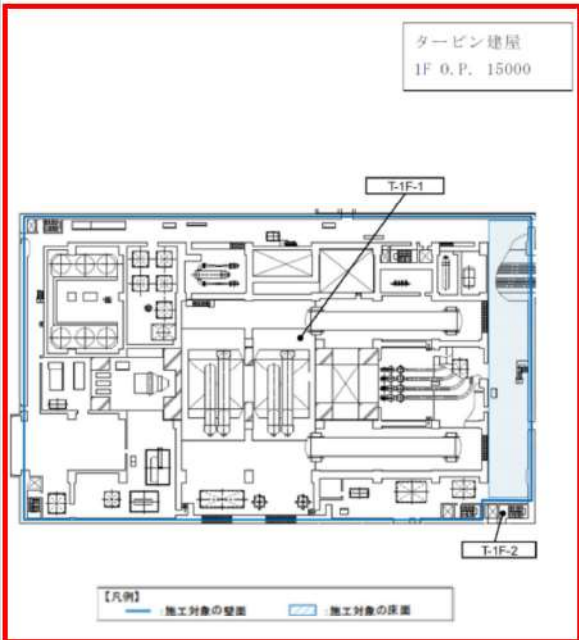
大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div style="border: 2px solid red; padding: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; margin: 0 auto; padding: 2px;">海水ポンプ室 下部</div> <div style="border: 1px solid black; width: 200px; height: 250px; margin: 10px auto;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 150px; margin: 10px auto; padding: 2px;">枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。</div> </div>		<p>【女川】  <a href="#">設計方針の相違</a>  <a href="#">プラント設計（配置）の相違</a></p> <p>【大阪】  <a href="#">記載方針の相違</a>                      女川審査実績の反映</p>



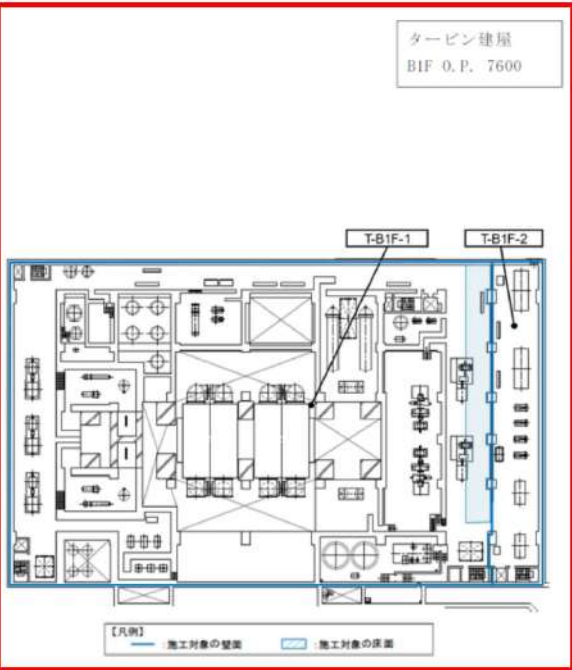
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p><b>【女川】</b>  <a href="#">設計方針の相違</a>                      プラント設計（配置）の相違</p> <p><b>【大阪】</b>  <a href="#">記載方針の相違</a>                      女川審査実績の反映</p>

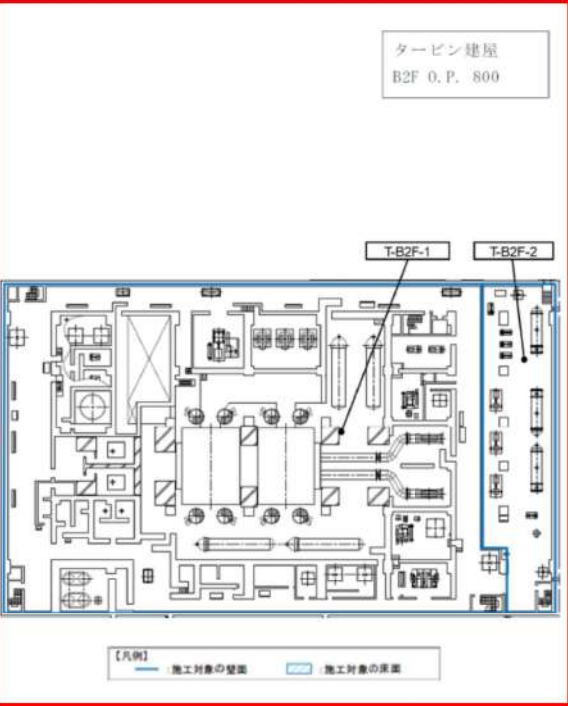
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p>【女川】  <u>設計方針の相違</u>                      プラント設計（配置）の相違</p> <p>【大阪】  <u>記載方針の相違</u>                      女川審査実績の反映</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p>【女川】  <a href="#">設計方針の相違</a>  <a href="#">プラント設計 (配置) の相違</a></p> <p>【大飯】  <a href="#">記載方針の相違</a>                      女川審査実績の反映</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p>【女川】  <u>設計方針の相違</u>                  プラント設計（配置）の相違</p> <p>【大阪】  <u>記載方針の相違</u>                  女川審査実績の反映</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料10）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">補足資料3-1 別紙18</p> <p>A、B、C充てんポンプの没水影響評価</p> <p>添付資料1.4.1-2:「想定破損による溢水影響評価」の備考欄「※トレン分離されており同時に機能喪失しない。隣接する別区画のポンプは機能喪失しない。」について以下に説明する。</p> <p>充てんポンプが設置された各区画には破損を想定する配管が敷設されており、溢水量44.7m<sup>3</sup>が流出すると溢水水位はポンプの機能喪失高さを超えるため、破損した区画のポンプが没水する。</p>		<p style="text-align: right;">補足説明資料10</p> <p>A、B、C充てんポンプの没水影響評価</p> <p>添付資料17「想定破損による没水影響評価結果」の備考欄「※トレン分離されており同時に機能喪失しない。隣接する別区画のポンプは機能喪失しない。」について以下に説明する。</p> <p>充てんポンプが設置された各区画には破損を想定する配管が敷設されており、溢水量37.6m<sup>3</sup>が流出すると溢水水位はポンプの機能喪失高さを超えるため、破損した区画のポンプが没水する。</p>	<p>【女川】  <u>設計方針の相違</u>                      ・女川は炉型の相違により、充てんポンプは設置されていないため、以降、先行審査実績として、大飯3号炉の記載を参照し、相違理由について説明する。</p> <p>【大飯】  <u>記載表現の相違</u></p> <p>【大飯】  <u>設計方針の相違</u>                      想定破損評価結果における溢水量の違い。溢水影響評価方法については、大飯と同様である。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料10）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="114 245 696 539" style="border: 2px solid black; height: 184px; width: 260px; margin-bottom: 10px;"></div> <p data-bbox="235 587 562 609">図1 A、B、C充てんポンプの配置</p> <p data-bbox="114 655 680 711">しかし1つの区画内の破損によって3つの区画の溢水水位がポンプの機能喪失高さを同時に超えることはない。</p> <p data-bbox="114 724 685 815">以上により、充てんポンプは設計上多重性を有しており、かつ、別々の区画に設置されていることから、トレン分離されており同時に機能喪失しない。</p> <div data-bbox="159 879 647 906" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;"> <p data-bbox="159 879 647 906">枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p> </div>		<div data-bbox="1290 233 1865 555" style="border: 2px solid black; height: 202px; width: 257px; margin-bottom: 10px;"></div> <p data-bbox="1402 587 1738 609">図1 A、B、C充てんポンプの配置</p> <p data-bbox="1290 655 1856 711">しかし1つの区画内の破損によって3つの区画の溢水水位がポンプの機能喪失高さを同時に超えることはない。</p> <p data-bbox="1290 724 1859 815">以上により、充てんポンプは設計上多重性を有しており、かつ、別々の区画に設置されていることから、トレン分離されており同時に機能喪失しない。</p> <div data-bbox="1290 863 1859 890" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;"> <p data-bbox="1290 863 1859 890">枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p> </div>	<p data-bbox="1877 213 1935 236">【大阪】</p> <p data-bbox="1877 248 1995 271">記載表現の相違</p> <p data-bbox="1877 284 2029 306">プラント設計の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">補足資料 15</p> <p>運転員のアクセス性（温度、放射線、薬品及び漂流物）</p>	<p style="text-align: right;">補足説明資料 9</p> <p>運転員のアクセス性</p> <p>1. 運転員のアクセスが必要となる溢水事象</p> <p>女川2号炉の内部溢水影響評価では、以下のとおり評価を実施しており、運転員のアクセス性に関して評価が必要となるのは、想定破損による溢水影響評価のみである。</p> <p>(1) 想定破損による溢水</p> <p>溢水発生時に現場の温度を上昇させるような高温の溢水源としては、給復水系、原子炉冷却材浄化系があるが、これらについては、漏えい検知・隔離するインターロックが作動し自動的に隔離されるため、運転員の手動操作は必要ない。</p> <p>一方、低エネルギー系統の破損を想定した場合は、漏えい箇所の確認（特定）と隔離操作及び系統の切替操作について、運転員による対応が必要となる。</p> <p>(2) 消火水の放水による溢水</p> <p>火災発生時における消火水放水（3時間放水）を考慮した評価としており、運転員のアクセス性の検討は不要。</p>	<p style="text-align: right;">補足説明資料 11</p> <p>運転員のアクセス性</p> <p>1. 運転員のアクセスが必要となる溢水事象</p> <p>泊発電所3号炉の内部溢水影響評価では、以下のとおり評価を実施しており、運転員のアクセス性に関して評価が必要となるのは、想定破損及び地震起因による溢水影響評価である。</p> <p>(1) 想定破損による溢水</p> <p>溢水発生時に現場の温度を上昇させるような高温の溢水源としては、化学体積制御系、主蒸気系、主給水系、補助給水系、蒸気発生器ブローダウン系及び補助蒸気系があるが、これらについては、漏えい検知・隔離するインターロックが作動し自動的に隔離される、又は中央制御室からの遠隔操作による隔離が可能な系統であることから、運転員による中央制御室外での手動操作は必要ない。</p> <p>一方、低エネルギー配管の破損を想定した場合は、漏えい箇所の確認（特定）と隔離操作について、運転員による対応が必要となる。</p> <p>(2) 消火水の放水による溢水</p> <p>火災発生時における消火水放水を考慮した評価としており、運転員のアクセス性の検討は不要。</p>	<p>【女川・大飯】</p> <p>記載表現の相違</p> <p>【女川】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>泊では、地震発生後に運転員によるパトロールを実施し、耐震B、Cクラスの機器からの漏えいが確認された場合には手動操作による漏えい停止を実施する。（伊方と同様。詳細は補足説明資料14を参照。）</p> <p>【女川】</p> <p>記載表現の相違                  対象設備の相違                  設計方針の相違</p> <p>・泊では、高エネルギー配管については、自動隔離の他に、検知、事象の判断、漏えい箇所の特定、隔離操作のすべてを中央制御室で実施するケースがあるが、現場へのアクセスがないため、自動隔離と併せて記載する。（玄海、川内、伊方と同様）</p> <p>・泊では、低エネルギー配管において溢水時に必要な系統の切替操作は無い。（大飯と同様）</p> <p>・泊では、消火栓からの放水については、3時間の放水により想定される溢水量若しくは、火災源が小さい場合においては、その可燃性物質の量及び等価時間を考慮した消火活動に伴う放水により想定される溢水量を設定している。（大飯、島根と同様）</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																												
<p>内部溢水発生時における運転員のアクセス性について検討した。運転員のアクセス性に係る評価項目を表1に示す。</p> <p>表1 運転員のアクセス性に係る評価項目</p> <table border="1" data-bbox="114 834 683 1038"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水位</td> <td>歩行に影響しないこと。</td> </tr> <tr> <td>温度</td> <td>溢水温度が歩行に影響しないこと。</td> </tr> <tr> <td>薬品</td> <td>化学反応により歩行に影響しないこと。</td> </tr> <tr> <td>放射線</td> <td>被ばくによる現場確認、操作作業に支障のないこと。</td> </tr> <tr> <td>漂流物</td> <td>歩行に影響する障害物がないこと。</td> </tr> </tbody> </table> <p>内部溢水影響評価において運転員のアクセス性の評価ケースの抽出条件は、漏えい箇所の確認を要することと隔離操作を要することであり、抽出した1ケースの評価結果を表2に示す。</p> <p>現場確認が必要な設備へのアクセスルートにあつては、歩行に影響のない水位であること及び必要に応じて環境の温度、放射線量、薬品等による影響を考慮しても、運転員による操作場までのアクセスが可能であることを確認した。別紙1に評価結果の詳細を示す。</p>	項目	内容	水位	歩行に影響しないこと。	温度	溢水温度が歩行に影響しないこと。	薬品	化学反応により歩行に影響しないこと。	放射線	被ばくによる現場確認、操作作業に支障のないこと。	漂流物	歩行に影響する障害物がないこと。	<p>(3) 地震起因による溢水  <span style="color: red;">運転員による手動隔離には期待しない評価としている。</span></p> <p><b>【再掲】</b>(9条-別添1-補足9-1より抜粋)  <span style="color: red;">(1) 想定破損による溢水</span>  <span style="color: red;">低エネルギー系統の破損を想定した場合は、漏えい箇所の確認(特定)と隔離操作及び系統の切替操作について、運転員による対応が必要となる。</span></p> <p>2. 運転員のアクセス性を検討する際の評価項目                  内部溢水発生時における運転員のアクセス性を検討する際の評価項目を表1に示す。</p> <p>表1 運転員のアクセス性に係わる評価項目</p> <table border="1" data-bbox="703 834 1263 1038"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水位</td> <td>歩行に影響しないこと</td> </tr> <tr> <td>温度</td> <td>溢水温度が歩行に影響しないこと</td> </tr> <tr> <td>薬品</td> <td>化学反応により歩行に影響しないこと</td> </tr> <tr> <td>放射線</td> <td>被ばくによる現場確認、操作作業に支障のないこと</td> </tr> <tr> <td>漂流物</td> <td>歩行に影響する障害物がないこと</td> </tr> <tr> <td>照明</td> <td>歩行に影響しないこと</td> </tr> <tr> <td>感電</td> <td>感電がないこと</td> </tr> </tbody> </table> <p>内部溢水影響評価において運転員のアクセス性の評価を実施する場合、漏えい箇所の確認に対する評価と隔離操作に対する評価、及び系統の切替操作を伴う場合、操作対象弁までのアクセス性に関する評価が必要となる。</p> <p>表2に漏えい箇所の確認・隔離操作における運転員のアクセス性評価結果、表3に系統の切替操作が必要となるケースを整理した結果を示す。</p> <p>なお、本事項は後段規則での対応が必要となる事項である。(別添2参照)</p>	項目	内容	水位	歩行に影響しないこと	温度	溢水温度が歩行に影響しないこと	薬品	化学反応により歩行に影響しないこと	放射線	被ばくによる現場確認、操作作業に支障のないこと	漂流物	歩行に影響する障害物がないこと	照明	歩行に影響しないこと	感電	感電がないこと	<p>(3) 地震起因による溢水</p> <p><span style="color: red;">耐震B、Cクラス機器の破損を想定した場合は、漏えい箇所(特定)と隔離操作について、運転員による対応が必要となる。</span></p> <p>2. 運転員のアクセス性を検討する際の評価項目                  内部溢水発生時における運転員のアクセス性を検討する際の評価項目を表1に示す。</p> <p>表1 運転員のアクセス性に係わる評価項目</p> <table border="1" data-bbox="1285 855 1854 1050"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水位</td> <td>歩行に影響しないこと</td> </tr> <tr> <td>温度</td> <td>溢水温度が歩行に影響しないこと</td> </tr> <tr> <td>薬品</td> <td>化学反応により歩行に影響しないこと</td> </tr> <tr> <td>放射線</td> <td>被ばくによる現場確認、操作作業に支障のないこと</td> </tr> <tr> <td>漂流物</td> <td>歩行に影響する障害物がないこと</td> </tr> <tr> <td>照明</td> <td>歩行に影響しないこと</td> </tr> <tr> <td>感電</td> <td>感電がないこと</td> </tr> </tbody> </table> <p>内部溢水影響評価において運転員のアクセス性の評価を実施する場合、漏えい箇所の確認に対する評価と隔離操作に対する評価及び操作対象までのアクセス性に関する評価が必要となる。</p> <p>表2に想定破損時の漏えい箇所の確認・隔離操作における運転員のアクセス性評価結果、表3に地震時の漏えい箇所の確認・隔離操作等における運転員のアクセス性評価結果を示す。</p> <p>なお、本事項は後段規則での対応が必要となる事項である。(別添2参照)</p>	項目	内容	水位	歩行に影響しないこと	温度	溢水温度が歩行に影響しないこと	薬品	化学反応により歩行に影響しないこと	放射線	被ばくによる現場確認、操作作業に支障のないこと	漂流物	歩行に影響する障害物がないこと	照明	歩行に影響しないこと	感電	感電がないこと	<p><b>【女川】</b>  <span style="color: red;">設計方針の相違</span>                  泊では地震発生時に隔離操作を期待している。(伊方と同様。詳細は補足説明資料14を参照。)</p> <p><span style="color: green;">記載表現の相違</span></p> <p>伊方でも同様に地震時の隔離操作があるが、本項に記載する際に参考できる記載がないため、女川の想定破損の記載を地震に置き換えて記載する。</p> <p><b>【大飯】</b>  <span style="color: green;">記載表現の相違</span></p> <p><b>【大飯】</b>  <span style="color: green;">記載方針の相違</span>                  女川審査実績の反映</p> <p><b>【女川】</b>  <span style="color: green;">記載表現の相違</span>  <span style="color: red;">設計方針の相違</span>                  ・泊では溢水時に必要な系統の切替操作は無い。(大飯と同様)                  ・泊では地震発生時に隔離操作を期待している。(伊方と同様。詳細は補足説明資料14を参照。)</p> <p><b>【大飯】</b>  <span style="color: green;">記載方針の相違</span>                  女川審査実績の反映</p>
項目	内容																																														
水位	歩行に影響しないこと。																																														
温度	溢水温度が歩行に影響しないこと。																																														
薬品	化学反応により歩行に影響しないこと。																																														
放射線	被ばくによる現場確認、操作作業に支障のないこと。																																														
漂流物	歩行に影響する障害物がないこと。																																														
項目	内容																																														
水位	歩行に影響しないこと																																														
温度	溢水温度が歩行に影響しないこと																																														
薬品	化学反応により歩行に影響しないこと																																														
放射線	被ばくによる現場確認、操作作業に支障のないこと																																														
漂流物	歩行に影響する障害物がないこと																																														
照明	歩行に影響しないこと																																														
感電	感電がないこと																																														
項目	内容																																														
水位	歩行に影響しないこと																																														
温度	溢水温度が歩行に影響しないこと																																														
薬品	化学反応により歩行に影響しないこと																																														
放射線	被ばくによる現場確認、操作作業に支障のないこと																																														
漂流物	歩行に影響する障害物がないこと																																														
照明	歩行に影響しないこと																																														
感電	感電がないこと																																														



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料11）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																									
<p>表2 内部溢水影響評価における運転員のアクセス性の評価結果</p>	<p>表2 漏えい箇所の確認・隔離操作等における運転員のアクセス性評価結果</p>	<p>表2 想定破損時の漏えい箇所の確認・隔離操作等における運転員のアクセス性評価結果</p>	<p>【女川】</p>																																																																																																																																																									
<table border="1"> <tr> <th>対象</th> <td>想定破損(原子炉周辺建屋)</td> </tr> <tr> <th>検知方法</th> <td>化学体積制御系</td> </tr> <tr> <th>現場へ行く理由</th> <td>サンプ検知</td> </tr> <tr> <th>操作箇所</th> <td>中央制御室(遠隔操作)</td> </tr> <tr> <th>アクセスルート上の溢水水位</th> <td>0.077m(原子炉周辺建屋E.L.+10.0m)</td> </tr> <tr> <th>水温(気温)</th> <td>~46℃</td> </tr> <tr> <th>薬品(液性)</th> <td>現場確認時に薬品は漏えいしない。</td> </tr> <tr> <th>被ばく線量<sup>※1</sup></th> <td>約2.2 mSv</td> </tr> <tr> <th>漂流物対策</th> <td>実施済み<sup>※2</sup></td> </tr> </table>	対象	想定破損(原子炉周辺建屋)	検知方法	化学体積制御系	現場へ行く理由	サンプ検知	操作箇所	中央制御室(遠隔操作)	アクセスルート上の溢水水位	0.077m(原子炉周辺建屋E.L.+10.0m)	水温(気温)	~46℃	薬品(液性)	現場確認時に薬品は漏えいしない。	被ばく線量 <sup>※1</sup>	約2.2 mSv	漂流物対策	実施済み <sup>※2</sup>	<table border="1"> <tr> <th>対象建屋・エリア</th> <th>原子炉建屋</th> <th>原子炉種</th> <th>原子炉建屋付属種</th> <th>制御建屋</th> <th>海水ポンプエリア</th> <th>CSTエリア</th> <th>軽油タンクエリア</th> </tr> <tr> <td>検知方法</td> <td>①、②、③</td> <td></td> <td>①、②</td> <td>①、②</td> <td>①、②</td> <td>①、②</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>現場へ行く理由<sup>※1</sup></td> <td>RI, Ro, Rv, T</td> <td></td> <td>RI, Ro, Rv, T</td> <td>RI, C, T</td> <td>海P</td> <td>CST</td> <td>LOT</td> </tr> <tr> <td>隔離操作を実施する建屋・エリア<sup>※2</sup></td> <td>0~0.4m</td> <td></td> <td>0~0.3m</td> <td>0~0.3m</td> <td>0m</td> <td>0m</td> <td>0m</td> </tr> <tr> <td>アクセス通路の溢水水位<sup>※3</sup></td> <td>~40℃程度<sup>※4</sup></td> <td></td> <td>~40℃程度<sup>※4</sup></td> <td>~40℃程度<sup>※4</sup></td> <td>~30℃程度</td> <td>~40℃程度<sup>※4</sup></td> <td>~40℃程度</td> </tr> <tr> <td>温度(気温)<sup>※4</sup></td> <td>約5.0×10<sup>4</sup> mSv<sup>※5</sup></td> <td></td> <td>~40℃程度<sup>※4</sup></td> <td>想定破損評価時において、薬品タンクが影響を及ぼすことはない<sup>※6</sup></td> <td>約6.5×10<sup>4</sup> mSv<sup>※5</sup></td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> </tr> <tr> <td>薬品<sup>※4</sup></td> <td>— (管理区域外)</td> <td></td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> </tr> <tr> <td>漂流物対策<sup>※4</sup></td> <td>— (管理区域外)</td> <td></td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> </tr> <tr> <td>照明<sup>※4</sup></td> <td>— (管理区域外)</td> <td></td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> </tr> <tr> <td>感電<sup>※4</sup></td> <td>— (管理区域外)</td> <td></td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> </tr> </table> <p>※1 ①漏えい箇所の特定、②漏えい箇所の確認、③緊急切替操作          ※2 RI：原子炉建屋原子炉種、Ro：原子炉建屋付属種、Rv：原子炉建屋付属種、T：制御建屋、海P：海水ポンプエリア、CST：CSTエリア、LOT：軽油タンクエリア          ※3 系統隔離及び系統切替操作におけるアクセス性の確認を別紙1に示す          ※4 漏えい箇所の確認・隔離操作等後の中核制御室まで戻るまでのアクセス性を評価          ※5 高放射線水素である加熱蒸気系、原子炉冷却材系は、漏えい・検知・自動隔離、加熱蒸気系については、想定破損除外を適用          ※6 高放射線水素である加熱蒸気系は、想定破損除外を適用          ※7 薬品によるアクセス性への影響については補足説明資料30に示す          ※8 現場操作時の線量影響の考え方を別紙2に示す          ※9 同種対策の実施例を別紙3に示す          ※10 漏水等により、断絡等の影響が発生した場合の負荷の軽減を行う</p>	対象建屋・エリア	原子炉建屋	原子炉種	原子炉建屋付属種	制御建屋	海水ポンプエリア	CSTエリア	軽油タンクエリア	検知方法	①、②、③		①、②	①、②	①、②	①、②	②	現場へ行く理由 <sup>※1</sup>	RI, Ro, Rv, T		RI, Ro, Rv, T	RI, C, T	海P	CST	LOT	隔離操作を実施する建屋・エリア <sup>※2</sup>	0~0.4m		0~0.3m	0~0.3m	0m	0m	0m	アクセス通路の溢水水位 <sup>※3</sup>	~40℃程度 <sup>※4</sup>		~40℃程度 <sup>※4</sup>	~40℃程度 <sup>※4</sup>	~30℃程度	~40℃程度 <sup>※4</sup>	~40℃程度	温度(気温) <sup>※4</sup>	約5.0×10 <sup>4</sup> mSv <sup>※5</sup>		~40℃程度 <sup>※4</sup>	想定破損評価時において、薬品タンクが影響を及ぼすことはない <sup>※6</sup>	約6.5×10 <sup>4</sup> mSv <sup>※5</sup>	— (管理区域外)	— (管理区域外)	薬品 <sup>※4</sup>	— (管理区域外)		— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	漂流物対策 <sup>※4</sup>	— (管理区域外)		— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	照明 <sup>※4</sup>	— (管理区域外)		— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	感電 <sup>※4</sup>	— (管理区域外)		— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	<table border="1"> <tr> <th>対象建屋・エリア</th> <th>タービン建屋</th> <th>出入管理建屋</th> <th>電気建屋</th> <th>循環水ポンプ建屋</th> </tr> <tr> <td>検知方法</td> <td>①</td> <td>警報、監視点検</td> <td>警報</td> <td>漏えい検知</td> </tr> <tr> <td>現場へ行く理由<sup>※1</sup></td> <td>A/B</td> <td>①、②</td> <td>①、②</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>隔離操作を実施する建屋・エリア<sup>※2</sup></td> <td>0m</td> <td>A/B</td> <td>A/B</td> <td>A/B</td> </tr> <tr> <td>アクセス通路の溢水水位<sup>※3</sup></td> <td>~40℃程度</td> <td>0m</td> <td>0m</td> <td>0m</td> </tr> <tr> <td>温度(気温)<sup>※4</sup></td> <td>~40℃程度</td> <td>~40℃程度</td> <td>~40℃程度</td> <td>~40℃程度</td> </tr> <tr> <td>薬品<sup>※4</sup></td> <td>— (管理区域外)</td> <td>想定破損評価時において、薬品タンクが影響を及ぼすことはない<sup>※5</sup></td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> </tr> <tr> <td>実効線量<sup>※4</sup></td> <td>— (管理区域外)</td> <td>3.3×10<sup>4</sup> mSv<sup>※6</sup></td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> </tr> <tr> <td>漂流物対策<sup>※4</sup></td> <td>— (管理区域外)</td> <td>—<sup>※7</sup></td> <td>— (管理区域外)</td> <td>— (管理区域外)</td> </tr> <tr> <td>照明<sup>※4</sup></td> <td>— (管理区域外)</td> <td>非常用照明又は可搬型照明により対応可能</td> <td>—<sup>※8</sup></td> <td>— (管理区域外)</td> </tr> <tr> <td>感電<sup>※4</sup></td> <td>— (管理区域外)</td> <td>非常用照明又は可搬型照明により対応可能</td> <td>—<sup>※8</sup></td> <td>— (管理区域外)</td> </tr> </table> <p>※1 ①漏えい箇所の特定、②漏えい箇所の確認          ※2 A/B：原子炉補助建屋          ※3 系統隔離におけるアクセス性の確認を別紙1に示す          ※4 漏えい箇所の確認・隔離操作等後の中央制御室まで戻るまでのアクセス性を評価          ※5 薬品によるアクセス性への影響については補足説明資料31に示す          ※6 現場操作時の線量影響の考え方を別紙2に示す          ※7 想定破損時の隔離操作については、溢水水位が発生する区域にアクセスしないため漂流物対策は不要          ※8 アクセス先に塩水が発生しないため、感電による影響はない</p>	対象建屋・エリア	タービン建屋	出入管理建屋	電気建屋	循環水ポンプ建屋	検知方法	①	警報、監視点検	警報	漏えい検知	現場へ行く理由 <sup>※1</sup>	A/B	①、②	①、②	①	隔離操作を実施する建屋・エリア <sup>※2</sup>	0m	A/B	A/B	A/B	アクセス通路の溢水水位 <sup>※3</sup>	~40℃程度	0m	0m	0m	温度(気温) <sup>※4</sup>	~40℃程度	~40℃程度	~40℃程度	~40℃程度	薬品 <sup>※4</sup>	— (管理区域外)	想定破損評価時において、薬品タンクが影響を及ぼすことはない <sup>※5</sup>	— (管理区域外)	— (管理区域外)	実効線量 <sup>※4</sup>	— (管理区域外)	3.3×10 <sup>4</sup> mSv <sup>※6</sup>	— (管理区域外)	— (管理区域外)	漂流物対策 <sup>※4</sup>	— (管理区域外)	— <sup>※7</sup>	— (管理区域外)	— (管理区域外)	照明 <sup>※4</sup>	— (管理区域外)	非常用照明又は可搬型照明により対応可能	— <sup>※8</sup>	— (管理区域外)	感電 <sup>※4</sup>	— (管理区域外)	非常用照明又は可搬型照明により対応可能	— <sup>※8</sup>	— (管理区域外)	<p>【記載表現の相違】</p> <p>【設計方針の相違】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊では想定破損において、アクセスする区域に溢水水位が発生しない評価結果となっている。</li> <li>・泊は、想定破損において溢水が発生する区域にアクセスしないため、「漂流物対策については不要」、「感電による影響はない」としている。</li> <li>・泊では溢水時に必要な系統の切替操作は無い。(大飯と同様)</li> <li>・女川の※5,6について、泊では表2の対象建屋・エリアにある溢水源配管に対し、応力評価による想定破損除外を適用していない。</li> </ul> <p>【大飯】</p> <p>【記載表現の相違】</p>
対象	想定破損(原子炉周辺建屋)																																																																																																																																																											
検知方法	化学体積制御系																																																																																																																																																											
現場へ行く理由	サンプ検知																																																																																																																																																											
操作箇所	中央制御室(遠隔操作)																																																																																																																																																											
アクセスルート上の溢水水位	0.077m(原子炉周辺建屋E.L.+10.0m)																																																																																																																																																											
水温(気温)	~46℃																																																																																																																																																											
薬品(液性)	現場確認時に薬品は漏えいしない。																																																																																																																																																											
被ばく線量 <sup>※1</sup>	約2.2 mSv																																																																																																																																																											
漂流物対策	実施済み <sup>※2</sup>																																																																																																																																																											
対象建屋・エリア	原子炉建屋	原子炉種	原子炉建屋付属種	制御建屋	海水ポンプエリア	CSTエリア	軽油タンクエリア																																																																																																																																																					
検知方法	①、②、③		①、②	①、②	①、②	①、②	②																																																																																																																																																					
現場へ行く理由 <sup>※1</sup>	RI, Ro, Rv, T		RI, Ro, Rv, T	RI, C, T	海P	CST	LOT																																																																																																																																																					
隔離操作を実施する建屋・エリア <sup>※2</sup>	0~0.4m		0~0.3m	0~0.3m	0m	0m	0m																																																																																																																																																					
アクセス通路の溢水水位 <sup>※3</sup>	~40℃程度 <sup>※4</sup>		~40℃程度 <sup>※4</sup>	~40℃程度 <sup>※4</sup>	~30℃程度	~40℃程度 <sup>※4</sup>	~40℃程度																																																																																																																																																					
温度(気温) <sup>※4</sup>	約5.0×10 <sup>4</sup> mSv <sup>※5</sup>		~40℃程度 <sup>※4</sup>	想定破損評価時において、薬品タンクが影響を及ぼすことはない <sup>※6</sup>	約6.5×10 <sup>4</sup> mSv <sup>※5</sup>	— (管理区域外)	— (管理区域外)																																																																																																																																																					
薬品 <sup>※4</sup>	— (管理区域外)		— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)																																																																																																																																																					
漂流物対策 <sup>※4</sup>	— (管理区域外)		— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)																																																																																																																																																					
照明 <sup>※4</sup>	— (管理区域外)		— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)																																																																																																																																																					
感電 <sup>※4</sup>	— (管理区域外)		— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)	— (管理区域外)																																																																																																																																																					
対象建屋・エリア	タービン建屋	出入管理建屋	電気建屋	循環水ポンプ建屋																																																																																																																																																								
検知方法	①	警報、監視点検	警報	漏えい検知																																																																																																																																																								
現場へ行く理由 <sup>※1</sup>	A/B	①、②	①、②	①																																																																																																																																																								
隔離操作を実施する建屋・エリア <sup>※2</sup>	0m	A/B	A/B	A/B																																																																																																																																																								
アクセス通路の溢水水位 <sup>※3</sup>	~40℃程度	0m	0m	0m																																																																																																																																																								
温度(気温) <sup>※4</sup>	~40℃程度	~40℃程度	~40℃程度	~40℃程度																																																																																																																																																								
薬品 <sup>※4</sup>	— (管理区域外)	想定破損評価時において、薬品タンクが影響を及ぼすことはない <sup>※5</sup>	— (管理区域外)	— (管理区域外)																																																																																																																																																								
実効線量 <sup>※4</sup>	— (管理区域外)	3.3×10 <sup>4</sup> mSv <sup>※6</sup>	— (管理区域外)	— (管理区域外)																																																																																																																																																								
漂流物対策 <sup>※4</sup>	— (管理区域外)	— <sup>※7</sup>	— (管理区域外)	— (管理区域外)																																																																																																																																																								
照明 <sup>※4</sup>	— (管理区域外)	非常用照明又は可搬型照明により対応可能	— <sup>※8</sup>	— (管理区域外)																																																																																																																																																								
感電 <sup>※4</sup>	— (管理区域外)	非常用照明又は可搬型照明により対応可能	— <sup>※8</sup>	— (管理区域外)																																																																																																																																																								

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

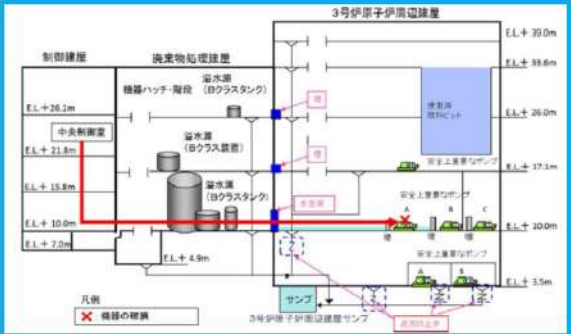
大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																										
	<p style="text-align: center;">表3 系統の切替操作が必要となるケース</p> <table border="1" data-bbox="698 221 1272 821"> <thead> <tr> <th>機能</th> <th>系統</th> <th>手動弁の操作</th> <th>現場指示計の確認<sup>※1</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">原子炉施設</td> <td>緊急停止機能</td> <td>水圧制御ユニット</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>未臨界維持機能</td> <td>ほうげん水注入系</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">高温停止機能</td> <td>残留熱除去系</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>自動風圧系</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>低圧炉心スプレイ系</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">原子炉隔離時注水機能</td> <td>原子炉隔離時冷却系</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>高圧炉心スプレイ系</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">手動逃がし機能</td> <td>逃がし安全弁</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>自動風圧系</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">低温停止機能</td> <td>残留熱除去系</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>(原子炉停止時冷却モード)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>閉じ込め機能</td> <td>隔離弁機能</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">使用済燃料プール</td> <td rowspan="2">冷却機能</td> <td>非常用ガス処理系</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>可燃性ガス濃度制御系</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">給水機能</td> <td>燃料プール冷却浄化系</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>燃料プール補給水系</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中央制御室</td> <td>残留熱除去系 (燃料プール水の冷却)</td> <td>○<sup>※2, 4</sup></td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>残留熱除去系 (燃料プール水の補給)</td> <td>○<sup>※3, 4</sup></td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td>中央制御室換気空調系</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="698 828 1272 949">                     凡例 ○：操作又は確認が必要な場合 —：操作又は確認が無い場合                      ※1 状態監視のみの現場指示計について、系統切替操作時に必要か否かの確認を実施                      ※2 燃料プール冷却浄化系の機能が喪失した場合、残留熱除去系への切替操作が必要                      ※3 燃料プール補給水系の機能が喪失した場合、残留熱除去系への切替操作が必要                      ※4 系統切替操作時のアクセス通路における溢水水位について、別紙1に示す                 </p>	機能	系統	手動弁の操作	現場指示計の確認 <sup>※1</sup>	原子炉施設	緊急停止機能	水圧制御ユニット	—	未臨界維持機能	ほうげん水注入系	—	高温停止機能	残留熱除去系	—	自動風圧系	—	低圧炉心スプレイ系	—	原子炉隔離時注水機能	原子炉隔離時冷却系	—	高圧炉心スプレイ系	—	手動逃がし機能	逃がし安全弁	—	自動風圧系	—	低温停止機能	残留熱除去系	—	(原子炉停止時冷却モード)	—	閉じ込め機能	隔離弁機能	—	使用済燃料プール	冷却機能	非常用ガス処理系	—	可燃性ガス濃度制御系	—	給水機能	燃料プール冷却浄化系	—	燃料プール補給水系	—	中央制御室	残留熱除去系 (燃料プール水の冷却)	○ <sup>※2, 4</sup>	—	残留熱除去系 (燃料プール水の補給)	○ <sup>※3, 4</sup>	—		中央制御室換気空調系	—	—		<p>【女川】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>泊では溢水時に必要な系統の切替操作はない。（大飯と同様）</p>
機能	系統	手動弁の操作	現場指示計の確認 <sup>※1</sup>																																																										
原子炉施設	緊急停止機能	水圧制御ユニット	—																																																										
	未臨界維持機能	ほうげん水注入系	—																																																										
	高温停止機能	残留熱除去系	—																																																										
		自動風圧系	—																																																										
		低圧炉心スプレイ系	—																																																										
原子炉隔離時注水機能	原子炉隔離時冷却系	—																																																											
	高圧炉心スプレイ系	—																																																											
手動逃がし機能	逃がし安全弁	—																																																											
	自動風圧系	—																																																											
低温停止機能	残留熱除去系	—																																																											
	(原子炉停止時冷却モード)	—																																																											
	閉じ込め機能	隔離弁機能	—																																																										
使用済燃料プール	冷却機能	非常用ガス処理系	—																																																										
		可燃性ガス濃度制御系	—																																																										
	給水機能	燃料プール冷却浄化系	—																																																										
		燃料プール補給水系	—																																																										
中央制御室	残留熱除去系 (燃料プール水の冷却)	○ <sup>※2, 4</sup>	—																																																										
	残留熱除去系 (燃料プール水の補給)	○ <sup>※3, 4</sup>	—																																																										
	中央制御室換気空調系	—	—																																																										

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																												
		<p>表3 地震時の漏えい箇所の確認・隔離操作等における運転員のアクセス性評価結果</p> <table border="1" data-bbox="1285 284 1865 1185"> <thead> <tr> <th>対象建屋・エリア</th> <th>タービン建屋</th> <th>地震</th> <th>電気建屋</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>検知方法</td> <td></td> <td>出入管理建屋 地震検知</td> <td></td> </tr> <tr> <td>現場へ行く理由<sup>#1</sup></td> <td>①、②</td> <td>①、②</td> <td>①、②</td> </tr> <tr> <td>隔離操作を実施する建屋・エリア<sup>#2</sup></td> <td>EL/B</td> <td>A/B</td> <td>A/B</td> </tr> <tr> <td>アクセス通路の陸水水位<sup>#3</sup></td> <td>0m</td> <td>0~0.05m</td> <td>0~0.05m</td> </tr> <tr> <td>温度(気温)<sup>#4</sup></td> <td>~40℃程度</td> <td>~40℃程度</td> <td>~40℃程度</td> </tr> <tr> <td>薬品<sup>#4</sup></td> <td>地震時において、薬品タンクが影響を及ぼすことはない<sup>#5</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実効熱量<sup>#4</sup></td> <td>-(管理区域外)</td> <td><math>1.32 \times 10^6 \text{ms}^3</math><sup>#6</sup></td> <td><math>1.32 \times 10^6 \text{ms}^3</math><sup>#6</sup></td> </tr> <tr> <td>漂流物対策<sup>#4</sup></td> <td>-<sup>#7</sup></td> <td>実施済み<sup>#8</sup></td> <td>実施済み<sup>#9</sup></td> </tr> <tr> <td>照明<sup>#4</sup></td> <td></td> <td>非常用照明又は可搬型照明により対応可能</td> <td></td> </tr> <tr> <td>感知<sup>#4</sup></td> <td></td> <td>上置側の遮断器がトリップするため影響はない<sup>#9</sup></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 ①漏えい箇所の特定、②漏えい箇所の隔離          ※2 A/B: 原子炉補助建屋、EL/B: 電気建屋          ※3 系統隔離におけるアクセス性の確認を別紙1に示す          ※4 漏えい箇所の確認・隔離操作等後の中央制御室まで戻るまでのアクセス性を評価          ※5 薬品によるアクセス性への影響について補足説明資料31に示す          ※6 現場操作時の熱量影響の考え方を別紙2に示す          ※7 陸水水位が発生しないため漂流物対策は不要          ※8 固着対策の実施例を別紙3に示す          ※9 陸水水位により地絡等の警報が発生した場合も異常を調査した上で、負荷の切り離しを行う</p>	対象建屋・エリア	タービン建屋	地震	電気建屋	検知方法		出入管理建屋 地震検知		現場へ行く理由 <sup>#1</sup>	①、②	①、②	①、②	隔離操作を実施する建屋・エリア <sup>#2</sup>	EL/B	A/B	A/B	アクセス通路の陸水水位 <sup>#3</sup>	0m	0~0.05m	0~0.05m	温度(気温) <sup>#4</sup>	~40℃程度	~40℃程度	~40℃程度	薬品 <sup>#4</sup>	地震時において、薬品タンクが影響を及ぼすことはない <sup>#5</sup>			実効熱量 <sup>#4</sup>	-(管理区域外)	$1.32 \times 10^6 \text{ms}^3$ <sup>#6</sup>	$1.32 \times 10^6 \text{ms}^3$ <sup>#6</sup>	漂流物対策 <sup>#4</sup>	- <sup>#7</sup>	実施済み <sup>#8</sup>	実施済み <sup>#9</sup>	照明 <sup>#4</sup>		非常用照明又は可搬型照明により対応可能		感知 <sup>#4</sup>		上置側の遮断器がトリップするため影響はない <sup>#9</sup>		<p>【女川】  <u>設計方針の相違</u>          ・泊では地震発生時に隔離操作を期待している。(伊方と同様。詳細は補足説明資料14を参照。)          ・一部の建屋では、アクセスする区画に溢水が発生しないため漂流物対策を不要としている。</p>
対象建屋・エリア	タービン建屋	地震	電気建屋																																												
検知方法		出入管理建屋 地震検知																																													
現場へ行く理由 <sup>#1</sup>	①、②	①、②	①、②																																												
隔離操作を実施する建屋・エリア <sup>#2</sup>	EL/B	A/B	A/B																																												
アクセス通路の陸水水位 <sup>#3</sup>	0m	0~0.05m	0~0.05m																																												
温度(気温) <sup>#4</sup>	~40℃程度	~40℃程度	~40℃程度																																												
薬品 <sup>#4</sup>	地震時において、薬品タンクが影響を及ぼすことはない <sup>#5</sup>																																														
実効熱量 <sup>#4</sup>	-(管理区域外)	$1.32 \times 10^6 \text{ms}^3$ <sup>#6</sup>	$1.32 \times 10^6 \text{ms}^3$ <sup>#6</sup>																																												
漂流物対策 <sup>#4</sup>	- <sup>#7</sup>	実施済み <sup>#8</sup>	実施済み <sup>#9</sup>																																												
照明 <sup>#4</sup>		非常用照明又は可搬型照明により対応可能																																													
感知 <sup>#4</sup>		上置側の遮断器がトリップするため影響はない <sup>#9</sup>																																													

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料11）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																		
<p style="text-align: right;">別紙1</p> <p>想定破損のアクセス性評価結果について                      化学体積制御系の充てんポンプミニフローラインの破断箇所は原子炉周辺建屋E.L.+10.0mにある。                      破断後、中央制御室にサンプ水位高等の警報が発信し、様々な運転パラメータから破断箇所を推定し、運転員は現場で漏えい箇所の特定を行う。閉止にかかる操作は、中央制御室から行うことができるため漏えい確認に要した時間で被ばく評価を実施した。</p>  <p style="text-align: center;">図1 想定破損のアクセス性評価の概要</p> <p style="text-align: center;">表1 評価結果</p> <table border="1" data-bbox="143 906 674 1074"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th colspan="2">結果概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水位</td> <td>0.077m</td> <td>原子炉周辺建屋E.L.+10.0m通路の溢水水位</td> </tr> <tr> <td>温度</td> <td>室温</td> <td>～46℃</td> </tr> <tr> <td>薬品</td> <td>影響無し</td> <td>想定破損では、破損想定する設備以外は漏えいしない。</td> </tr> <tr> <td>放射線</td> <td>約2.2mSv</td> <td>詳細は別紙2に示す。</td> </tr> <tr> <td>漂流物</td> <td>影響なし</td> <td>固縛対策を実施済み。詳細は別紙3に示す。</td> </tr> </tbody> </table>	項目	結果概要		水位	0.077m	原子炉周辺建屋E.L.+10.0m通路の溢水水位	温度	室温	～46℃	薬品	影響無し	想定破損では、破損想定する設備以外は漏えいしない。	放射線	約2.2mSv	詳細は別紙2に示す。	漂流物	影響なし	固縛対策を実施済み。詳細は別紙3に示す。	<p>3. 運転員のアクセス性に関する検討結果                      現場操作が必要な設備のアクセス通路にあっては、歩行に影響のない水位であること、及び環境の温度、放射線量、薬品による影響、漂流物の影響、照明並びに感電を考慮してもアクセス性への影響がないことを確認した。</p>	<p>3. 運転員のアクセス性に関する検討結果                      現場操作が必要な設備のアクセス通路にあっては、歩行に影響のない水位であること及び環境の温度、放射線量、薬品による影響、漂流物の影響、照明並びに感電を考慮してもアクセス性への影響がないことを確認した。</p>	<p>【女川】  <a href="#">記載表現の相違</a></p> <p>【大飯】  <a href="#">記載方針の相違</a>                      女川審査実績を反映し、別紙1にアクセス性について確認した結果を記載する。</p>
項目	結果概要																				
水位	0.077m	原子炉周辺建屋E.L.+10.0m通路の溢水水位																			
温度	室温	～46℃																			
薬品	影響無し	想定破損では、破損想定する設備以外は漏えいしない。																			
放射線	約2.2mSv	詳細は別紙2に示す。																			
漂流物	影響なし	固縛対策を実施済み。詳細は別紙3に示す。																			



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料11）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由						
<p>別紙4</p> <p>被水に対するアクセス性について</p> <p>現場操作に向かう運転員の被水に対するアクセス性については各評価項目（想定破損、消火活動に係る放水、地震時の破損）において、弁操作は基本的には中央制御室からの操作により隔離が可能である。一方、以下のケースについては漏えい箇所の確認又は現場操作のために運転員が現場へアクセスする必要があるが、表1に示すように、いずれのケースにおいてもアクセス性に影響を与えないことから消火活動だけに限定できる。</p> <p>表1 被水に対するアクセス性の評価</p> <table border="1" data-bbox="116 582 680 742"> <thead> <tr> <th>想定するケース</th> <th>アクセスの目的</th> <th>不要とする理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>想定破損（原子炉周辺建屋）</td> <td>漏えい箇所の確認</td> <td>漏えい箇所の確認のみを実施するため破断箇所まで近接する必要がなくアクセス性への影響はない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>なお、スプリンクラーの放水時の現場へのアクセスについては、スプリンクラーが作動している現場の状況確認であり、停止操作は中央制御室にて操作することから「消火活動に係る放水による溢水影響評価」にて記載しているとおり運転員への被水による影響はなくアクセス性への影響はない。</p>	想定するケース	アクセスの目的	不要とする理由	想定破損（原子炉周辺建屋）	漏えい箇所の確認	漏えい箇所の確認のみを実施するため破断箇所まで近接する必要がなくアクセス性への影響はない。	<p>4. その他</p> <p>(1) 被水によるアクセス性への影響について</p> <p>対象系統の隔離作業に影響がある被水は考えられないが、万が一隔離作業に支障がある場合には、隔離弁の変更、アクセスルートの変更等による対応が可能であるため、アクセス性への影響はない。</p> <p>(2) 蒸気によるアクセス性への影響について</p> <p>加熱蒸気系の漏えいについては、現場での隔離作業がないため、アクセス性への影響はない。</p>	<p>4. その他</p> <p>(1) 被水によるアクセス性への影響について</p> <p>対象系統の隔離作業に影響がある被水は考えられないが、万が一隔離作業に支障がある場合には、隔離弁の変更、アクセスルートの変更等による対応が可能であるため、アクセス性への影響はない。</p> <p>(2) 蒸気によるアクセス性への影響について</p> <p>化学体積制御系、補助蒸気系、蒸気発生器ブローダウン系及び主蒸気系の漏えいについては、現場での隔離作業がないため、アクセス性への影響はない。</p>	<p>【大阪】</p> <p>記載方針の相違</p> <p>女川審査実績の反映</p> <p>【女川】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント設計の違いによる系統の相違</p>
想定するケース	アクセスの目的	不要とする理由							
想定破損（原子炉周辺建屋）	漏えい箇所の確認	漏えい箇所の確認のみを実施するため破断箇所まで近接する必要がなくアクセス性への影響はない。							
	<p>別紙1</p> <p>系統隔離及び系統切替操作におけるアクセス性の確認</p> <p>1. 系統隔離操作におけるアクセス性の確認</p> <p>(1) 隔離操作時のアクセス通路の溢水水位</p> <p>漏えい箇所の隔離操作対象となる現場手動弁までのアクセス通路の設定を行う場合は、積極的な流下経路に設定している階段室を通過しないことを考慮している。溢水を想定する系統（想定破損させる系統）とその隔離操作時にアクセスが必要となる区画について、表1に示す。</p>	<p>別紙1</p> <p>系統隔離におけるアクセス性の確認</p> <p>1. 想定破損時の系統隔離操作におけるアクセス性の確認</p> <p>(1) 隔離操作時のアクセス通路の溢水水位</p> <p>想定破損におけるアクセス区画について、溢水水位が発生する区画はない。溢水を想定する系統（想定破損させる系統）とその隔離操作時にアクセスが必要となる区画について、表1に示す。</p>	<p>【女川】</p> <p>設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊では溢水時に必要な系統の切替操作はない。（大阪と同様）</li> <li>・女川は想定破損の隔離において、溢水水位が発生するが、泊では溢水水位が発生しないため、その旨を記載している。</li> </ul> <p>【女川】</p> <p>記載表現の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊では、地震時にも現場にアクセスし隔離操作を実施しているため、記載表現を左記のとおりとする。</li> <li>・別紙1の2項にて地震時のアクセス性の確認結果を示す。（9-別添1-補11-7）</li> </ul>						

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																	
	<p>表1 隔離操作時のアクセス性（隔離弁までのアクセス性） (1/3)</p> <table border="1" data-bbox="707 287 1263 973"> <thead> <tr> <th>溢水系統</th> <th>アクセス区画</th> <th>溢水評価高さ (m)</th> <th>アクセス可否</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">CRD</td> <td>R-1F-5</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-B2F-3</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-B2F-7</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-B2F-4</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>T-1F-1</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>T-B1F-1</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">SLC</td> <td>R-1F-5</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-2F-3</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>RIR(A)</td> <td>R-1F-5</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>RIR(B)</td> <td>R-1F-5</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>RIR(C)</td> <td>R-1F-5</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">LPCS</td> <td>R-1F-5</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-B1F-1</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-MB1F-2</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-MB1F-4</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">HPCS</td> <td>R-1F-5</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-B1F-1</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-MB1F-2</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">FPC</td> <td>R-1F-5</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-1F-4</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-M2F-3</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> </tbody> </table>	溢水系統	アクセス区画	溢水評価高さ (m)	アクセス可否	CRD	R-1F-5	0	可	R-B2F-3	0	可	R-B2F-7	0	可	R-B2F-4	0.3	可	T-1F-1	0	可	T-B1F-1	0	可	SLC	R-1F-5	0.3	可	R-2F-3	0.3	可	RIR(A)	R-1F-5	0.3	可	RIR(B)	R-1F-5	0.3	可	RIR(C)	R-1F-5	0.3	可	LPCS	R-1F-5	0	可	R-B1F-1	0.3	可	R-MB1F-2	0	可	R-MB1F-4	0.3	可	HPCS	R-1F-5	0	可	R-B1F-1	0.3	可	R-MB1F-2	0.3	可	FPC	R-1F-5	0.3	可	R-1F-4	0.3	可	R-M2F-3	0.3	可	<p>表1 想定破損時における隔離操作時のアクセス性（隔離弁までのアクセス性）</p> <table border="1" data-bbox="1290 277 1854 542"> <thead> <tr> <th>溢水系統</th> <th>アクセス区画</th> <th>溢水評価高さ (m)</th> <th>アクセス可否</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">水消火系 (出入管理建屋・電気建屋)</td> <td>3AB-F-N7</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">原子炉補給水系（脱塩水） (出入管理建屋)</td> <td>3AB-H-1</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>3AB-F-N7</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>3ELB-C-N01</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">飲料水系 (出入管理建屋)</td> <td>3AB-D-N1</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> </tbody> </table>	溢水系統	アクセス区画	溢水評価高さ (m)	アクセス可否	水消火系 (出入管理建屋・電気建屋)	3AB-F-N7	0	可	原子炉補給水系（脱塩水） (出入管理建屋)	3AB-H-1	0	可	3AB-F-N7	0	可	3ELB-C-N01	0	可	飲料水系 (出入管理建屋)	3AB-D-N1	0	可	<p>【女川】  <u>記載表現の相違</u>                      泊では、地震時にも現場にアクセスし隔離操作を実施しているため、記載表現を左記のとおりとする。  <u>設計方針の相違</u>                      ・プラント設計の違いによる対象系統、区画番号の相違。                      ・評価結果の相違。</p>
溢水系統	アクセス区画	溢水評価高さ (m)	アクセス可否																																																																																																	
CRD	R-1F-5	0	可																																																																																																	
	R-B2F-3	0	可																																																																																																	
	R-B2F-7	0	可																																																																																																	
	R-B2F-4	0.3	可																																																																																																	
	T-1F-1	0	可																																																																																																	
	T-B1F-1	0	可																																																																																																	
SLC	R-1F-5	0.3	可																																																																																																	
	R-2F-3	0.3	可																																																																																																	
RIR(A)	R-1F-5	0.3	可																																																																																																	
RIR(B)	R-1F-5	0.3	可																																																																																																	
RIR(C)	R-1F-5	0.3	可																																																																																																	
LPCS	R-1F-5	0	可																																																																																																	
	R-B1F-1	0.3	可																																																																																																	
	R-MB1F-2	0	可																																																																																																	
	R-MB1F-4	0.3	可																																																																																																	
HPCS	R-1F-5	0	可																																																																																																	
	R-B1F-1	0.3	可																																																																																																	
	R-MB1F-2	0.3	可																																																																																																	
FPC	R-1F-5	0.3	可																																																																																																	
	R-1F-4	0.3	可																																																																																																	
	R-M2F-3	0.3	可																																																																																																	
溢水系統	アクセス区画	溢水評価高さ (m)	アクセス可否																																																																																																	
水消火系 (出入管理建屋・電気建屋)	3AB-F-N7	0	可																																																																																																	
	原子炉補給水系（脱塩水） (出入管理建屋)	3AB-H-1	0	可																																																																																																
3AB-F-N7		0	可																																																																																																	
3ELB-C-N01		0	可																																																																																																	
飲料水系 (出入管理建屋)	3AB-D-N1	0	可																																																																																																	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																			
	<p>表1 隔離操作時のアクセス性（隔離弁までのアクセス性） (2/3)</p> <table border="1" data-bbox="712 252 1258 1264"> <thead> <tr> <th>溢水系統</th> <th>アクセス区画</th> <th>溢水評価高さ (m)</th> <th>アクセス 可否</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="5">MUWP</td><td>Rw-1F-1</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>Rw-B1F-1</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>T-1F-1</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>T-B1F-1</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>T-B2F-1</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td rowspan="13">MUWC</td><td>R-1F-5</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-B2F-3</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-B2F-7</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-B2F-4</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-B2F-1</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-B2F-5</td><td>0.4<sup>※1</sup></td><td>可</td></tr> <tr><td>Rw-1F-1</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>Rw-B1F-1</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>Rw-B2F-1</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>T-1F-1</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>T-B1F-1</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>T-B2F-1</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td rowspan="5">FW</td><td>Rw-1F-1</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>Rw-B1F-1</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>Rw-B2F-1</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>Rw-ME2F-1</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>T-B1F-3</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>T-B2F-3</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td rowspan="7">FPMUW</td><td>R-1F-5</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-B1F-1</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-B3F-5</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-B3F-10</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-B3F-6</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-B3F-7</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-B3F-1</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-B3F-8</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td rowspan="2">HNCW</td><td>R-1F-5</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-3F-1</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td rowspan="2">HECW(A)</td><td>R-1F-5</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-3F-1</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> </tbody> </table> <p>※1 設置する堰（高さ0.4m）を考慮</p>	溢水系統	アクセス区画	溢水評価高さ (m)	アクセス 可否	MUWP	Rw-1F-1	0	可	Rw-B1F-1	0	可	T-1F-1	0	可	T-B1F-1	0	可	T-B2F-1	0	可	MUWC	R-1F-5	0.3	可	R-B2F-3	0	可	R-B2F-7	0	可	R-B2F-4	0.3	可	R-B2F-1	0.3	可	R-B2F-5	0.4 <sup>※1</sup>	可	Rw-1F-1	0	可	Rw-B1F-1	0	可	Rw-B2F-1	0	可	T-1F-1	0	可	T-B1F-1	0	可	T-B2F-1	0	可	FW	Rw-1F-1	0	可	Rw-B1F-1	0	可	Rw-B2F-1	0	可	Rw-ME2F-1	0	可	T-B1F-3	0	可	T-B2F-3	0	可	FPMUW	R-1F-5	0.3	可	R-B1F-1	0.3	可	R-B3F-5	0	可	R-B3F-10	0	可	R-B3F-6	0	可	R-B3F-7	0	可	R-B3F-1	0.3	可	R-B3F-8	0.3	可	HNCW	R-1F-5	0.3	可	R-3F-1	0.3	可	HECW(A)	R-1F-5	0.3	可	R-3F-1	0.3	可		<p>【女川】</p> <p><a href="#">記載表現の相違</a></p> <p><a href="#">設計方針の相違</a></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラント設計の違いによる対象系統、区画番号の相違</li> <li>・評価結果の相違</li> </ul>
溢水系統	アクセス区画	溢水評価高さ (m)	アクセス 可否																																																																																																																			
MUWP	Rw-1F-1	0	可																																																																																																																			
	Rw-B1F-1	0	可																																																																																																																			
	T-1F-1	0	可																																																																																																																			
	T-B1F-1	0	可																																																																																																																			
	T-B2F-1	0	可																																																																																																																			
MUWC	R-1F-5	0.3	可																																																																																																																			
	R-B2F-3	0	可																																																																																																																			
	R-B2F-7	0	可																																																																																																																			
	R-B2F-4	0.3	可																																																																																																																			
	R-B2F-1	0.3	可																																																																																																																			
	R-B2F-5	0.4 <sup>※1</sup>	可																																																																																																																			
	Rw-1F-1	0	可																																																																																																																			
	Rw-B1F-1	0	可																																																																																																																			
	Rw-B2F-1	0	可																																																																																																																			
	T-1F-1	0	可																																																																																																																			
	T-B1F-1	0	可																																																																																																																			
	T-B2F-1	0	可																																																																																																																			
	FW	Rw-1F-1	0	可																																																																																																																		
Rw-B1F-1		0	可																																																																																																																			
Rw-B2F-1		0	可																																																																																																																			
Rw-ME2F-1		0	可																																																																																																																			
T-B1F-3		0	可																																																																																																																			
T-B2F-3	0	可																																																																																																																				
FPMUW	R-1F-5	0.3	可																																																																																																																			
	R-B1F-1	0.3	可																																																																																																																			
	R-B3F-5	0	可																																																																																																																			
	R-B3F-10	0	可																																																																																																																			
	R-B3F-6	0	可																																																																																																																			
	R-B3F-7	0	可																																																																																																																			
	R-B3F-1	0.3	可																																																																																																																			
R-B3F-8	0.3	可																																																																																																																				
HNCW	R-1F-5	0.3	可																																																																																																																			
	R-3F-1	0.3	可																																																																																																																			
HECW(A)	R-1F-5	0.3	可																																																																																																																			
	R-3F-1	0.3	可																																																																																																																			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																			
	<p>表1 隔離操作時のアクセス性（隔離弁までのアクセス性） (3/3)</p> <table border="1" data-bbox="703 260 1265 1270"> <thead> <tr> <th>溢水系統</th> <th>アクセス区画</th> <th>溢水評価高さ (m)</th> <th>アクセス可否</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">HECW(B)</td> <td>R-1F-5</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-3F-1</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">RCW(A)</td> <td>R-1F-5</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-3F-1</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">RCW(B)</td> <td>R-1F-5</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-3F-1</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">HPCW</td> <td>R-1F-5</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-2F-3</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">HWH</td> <td>R-1F-5</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-3F-1</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">FP</td> <td>T-1F-1</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>C-1F-1</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>Rw-1F-1</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>A-1F-1</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">DGCW(A)</td> <td>R-2F-16-1</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-2F-4</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-2F-5</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-2F-6</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-2F-7</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-1F-14</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-1F-13-1</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-1F-13</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">DGCW(B)</td> <td>R-2F-16-1</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-2F-8</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-1F-16-1</td> <td>0.2</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-1F-16</td> <td>0.2</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">DGCW(H)</td> <td>R-2F-16-1</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-2F-4</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-2F-5</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-2F-6</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-2F-7</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-1F-14</td> <td>0.3</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-1F-15-1</td> <td>0.2</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>R-1F-15</td> <td>0.2</td> <td>可</td> </tr> </tbody> </table>	溢水系統	アクセス区画	溢水評価高さ (m)	アクセス可否	HECW(B)	R-1F-5	0.3	可	R-3F-1	0.3	可	RCW(A)	R-1F-5	0.3	可	R-3F-1	0.3	可	RCW(B)	R-1F-5	0.3	可	R-3F-1	0.3	可	HPCW	R-1F-5	0.3	可	R-2F-3	0.3	可	HWH	R-1F-5	0.3	可	R-3F-1	0.3	可	FP	T-1F-1	0	可	C-1F-1	0.3	可	Rw-1F-1	0	可	A-1F-1	0	可	DGCW(A)	R-2F-16-1	0	可	R-2F-4	0	可	R-2F-5	0	可	R-2F-6	0	可	R-2F-7	0	可	R-1F-14	0.3	可	R-1F-13-1	0.3	可	R-1F-13	0.3	可	DGCW(B)	R-2F-16-1	0	可	R-2F-8	0	可	R-1F-16-1	0.2	可	R-1F-16	0.2	可	DGCW(H)	R-2F-16-1	0	可	R-2F-4	0	可	R-2F-5	0	可	R-2F-6	0	可	R-2F-7	0	可	R-1F-14	0.3	可	R-1F-15-1	0.2	可	R-1F-15	0.2	可		<p>【女川】  <a href="#">記載表現の相違</a>  <a href="#">設計方針の相違</a>                      ・プラント設計の違いによる対象系統、区画番号の相違                      ・評価結果の相違</p>
溢水系統	アクセス区画	溢水評価高さ (m)	アクセス可否																																																																																																																			
HECW(B)	R-1F-5	0.3	可																																																																																																																			
	R-3F-1	0.3	可																																																																																																																			
RCW(A)	R-1F-5	0.3	可																																																																																																																			
	R-3F-1	0.3	可																																																																																																																			
RCW(B)	R-1F-5	0.3	可																																																																																																																			
	R-3F-1	0.3	可																																																																																																																			
HPCW	R-1F-5	0.3	可																																																																																																																			
	R-2F-3	0.3	可																																																																																																																			
HWH	R-1F-5	0.3	可																																																																																																																			
	R-3F-1	0.3	可																																																																																																																			
FP	T-1F-1	0	可																																																																																																																			
	C-1F-1	0.3	可																																																																																																																			
	Rw-1F-1	0	可																																																																																																																			
	A-1F-1	0	可																																																																																																																			
DGCW(A)	R-2F-16-1	0	可																																																																																																																			
	R-2F-4	0	可																																																																																																																			
	R-2F-5	0	可																																																																																																																			
	R-2F-6	0	可																																																																																																																			
	R-2F-7	0	可																																																																																																																			
	R-1F-14	0.3	可																																																																																																																			
	R-1F-13-1	0.3	可																																																																																																																			
R-1F-13	0.3	可																																																																																																																				
DGCW(B)	R-2F-16-1	0	可																																																																																																																			
	R-2F-8	0	可																																																																																																																			
	R-1F-16-1	0.2	可																																																																																																																			
	R-1F-16	0.2	可																																																																																																																			
DGCW(H)	R-2F-16-1	0	可																																																																																																																			
	R-2F-4	0	可																																																																																																																			
	R-2F-5	0	可																																																																																																																			
	R-2F-6	0	可																																																																																																																			
	R-2F-7	0	可																																																																																																																			
	R-1F-14	0.3	可																																																																																																																			
	R-1F-15-1	0.2	可																																																																																																																			
R-1F-15	0.2	可																																																																																																																				



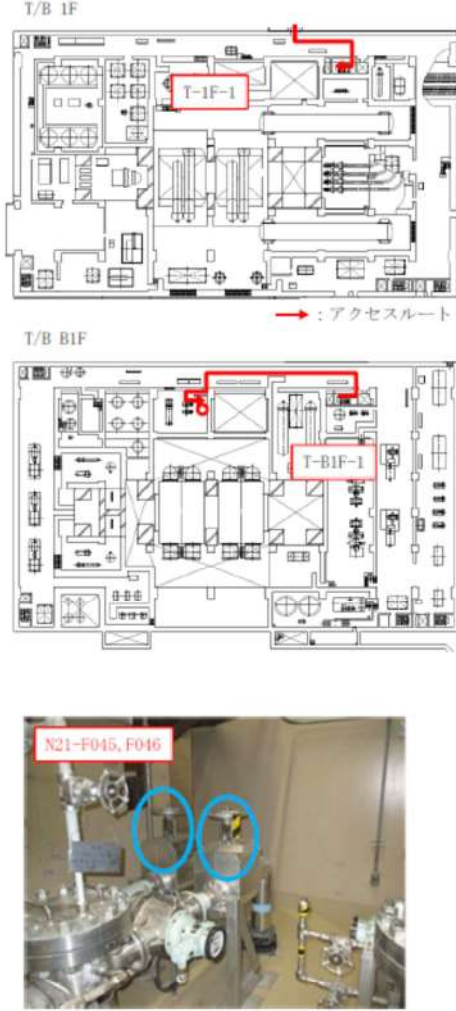
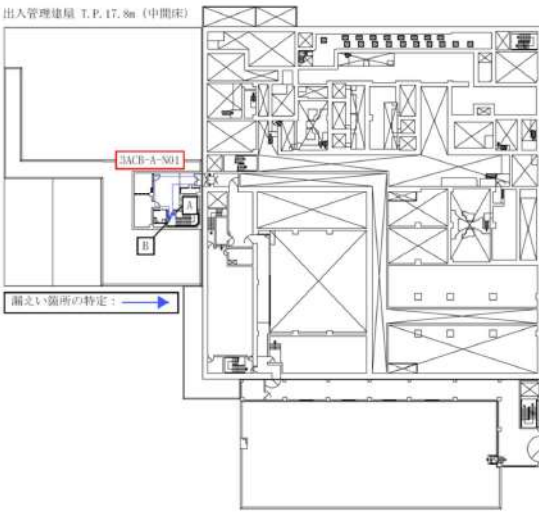
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																
	<p>(2) 隔離操作時に操作が必要となる弁                      漏えい箇所の隔離操作を実施する場合に、操作対象となる現場手動弁までのアクセス通路と操作が必要となる弁について確認を行っている。以下に、代表例（溢水源：制御棒駆動水圧系）を示す。隔離操作対象弁を表2、隔離操作時におけるアクセス通路を図1に示す。</p> <p style="text-align: center;">表2 制御棒駆動水圧系の隔離操作対象弁リスト</p> <table border="1" data-bbox="703 587 1265 711"> <thead> <tr> <th colspan="4">操作対象弁</th> </tr> <tr> <th>弁番号</th> <th>弁名</th> <th>設置場所</th> <th>区画</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>P13-F010</td> <td>CRD 復水入口弁</td> <td>CRD バルブ室</td> <td>R-B2F-4</td> </tr> <tr> <td>N21-F045</td> <td>CRD 復水積算流量計出口弁</td> <td>T/B B1F グランド蒸気復水器室</td> <td>T-B1F-1</td> </tr> <tr> <td>N21-F046</td> <td>CRD 復水積算流量計ベース弁</td> <td>T/B B1F グランド蒸気復水器室</td> <td>T-B1F-1</td> </tr> </tbody> </table>	操作対象弁				弁番号	弁名	設置場所	区画	P13-F010	CRD 復水入口弁	CRD バルブ室	R-B2F-4	N21-F045	CRD 復水積算流量計出口弁	T/B B1F グランド蒸気復水器室	T-B1F-1	N21-F046	CRD 復水積算流量計ベース弁	T/B B1F グランド蒸気復水器室	T-B1F-1	<p>(2) 隔離操作時に操作が必要となる弁                      漏えい箇所の隔離操作を実施する場合に、操作対象となる現場手動弁までのアクセス通路と操作が必要となる弁について確認を行っている。以下に、代表例（溢水源：水消火系）を示す。隔離操作対象弁を表2、隔離操作時におけるアクセス通路を図1に示す。なお、図1に示す通路のアクセスに要する時間の算出については、水深10cm条件の歩行速度にて算出する。（詳細は別紙4参照）</p> <p style="text-align: center;">表2 水消火系の隔離操作対象弁リスト</p> <table border="1" data-bbox="1285 600 1854 702"> <thead> <tr> <th colspan="4">操作対象弁</th> </tr> <tr> <th>弁番号</th> <th>弁名称</th> <th>設置場所</th> <th>区画</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3V-FS-554</td> <td>3-電気建屋行き消火水非管理区域 (A/B) 止め弁</td> <td>原子炉補助建屋 T.P.17.8m 通路</td> <td>3AB-F-N7</td> </tr> </tbody> </table>	操作対象弁				弁番号	弁名称	設置場所	区画	3V-FS-554	3-電気建屋行き消火水非管理区域 (A/B) 止め弁	原子炉補助建屋 T.P.17.8m 通路	3AB-F-N7	<p>【女川】                      設計方針の相違                      ・代表例の相違かつプラント設計の違いによる系統の相違                      ・アクセスの際の歩行速度について、溢水水位にかかわらず、泊では水深10cm条件の歩行速度でアクセスに要する時間を算出している。                      ・プラント設計の違いによる弁番号、弁名称、設置番号、区画の相違</p>
操作対象弁																																			
弁番号	弁名	設置場所	区画																																
P13-F010	CRD 復水入口弁	CRD バルブ室	R-B2F-4																																
N21-F045	CRD 復水積算流量計出口弁	T/B B1F グランド蒸気復水器室	T-B1F-1																																
N21-F046	CRD 復水積算流量計ベース弁	T/B B1F グランド蒸気復水器室	T-B1F-1																																
操作対象弁																																			
弁番号	弁名称	設置場所	区画																																
3V-FS-554	3-電気建屋行き消火水非管理区域 (A/B) 止め弁	原子炉補助建屋 T.P.17.8m 通路	3AB-F-N7																																

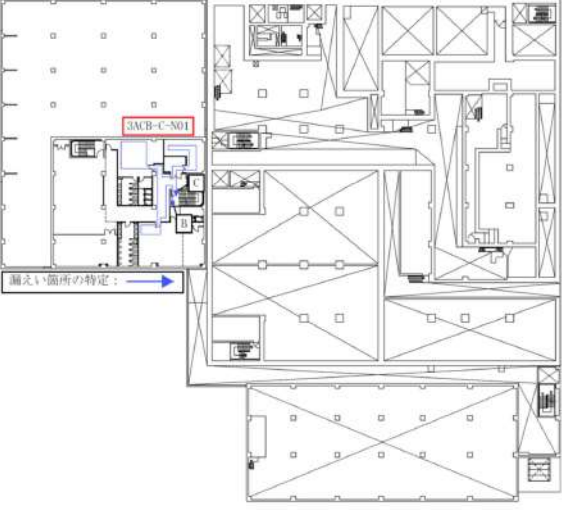
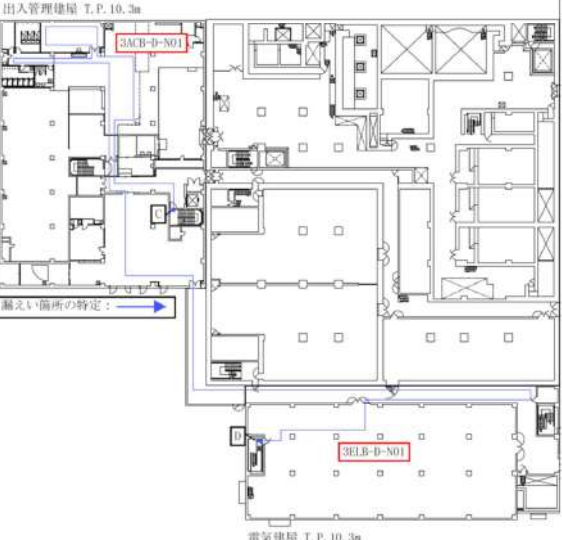
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>→：アクセスルート</p> <p>図1 制御棒駆動水圧系の隔離操作時におけるアクセス通路(1/2)</p>	 <p>図1 水消火系の隔離操作時におけるアクセス通路 (1/8)</p> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	<p>【女川】  <u>記載表現の相違</u>                  代表例の相違かつプラント設計の違いによる系統の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

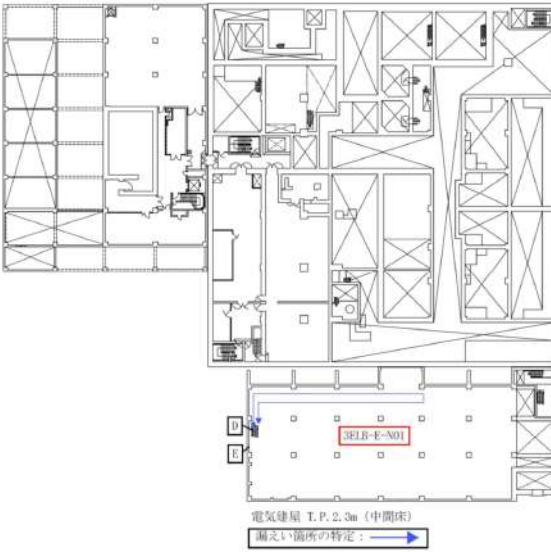
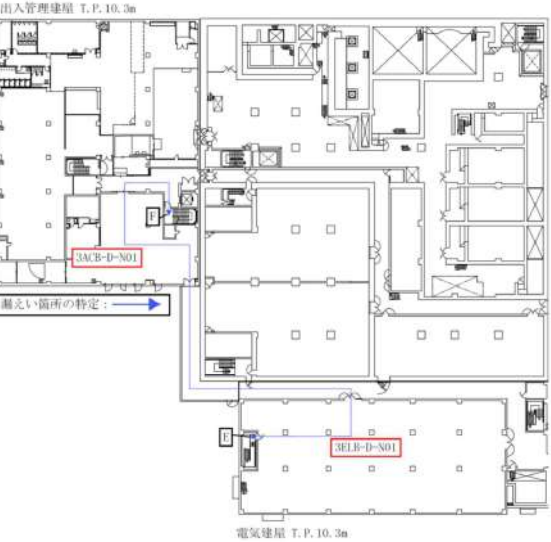
大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>図1 制御棒駆動水圧系の隔離操作時におけるアクセス通路 (2/2)</p>	 <p>図1 水消火系の隔離操作時におけるアクセス通路 (2/8)</p>	<p>【女川】                  記載表現の相違                  代表例の相違かつプラント設計の                  違いによる系統の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

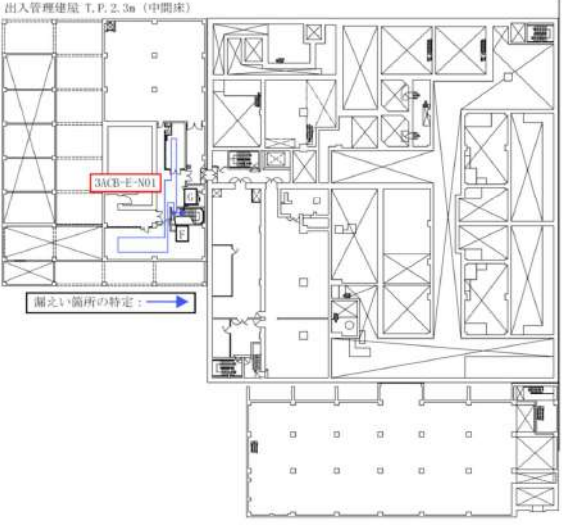
大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>出入管理建屋 T.P.10.3m (中間床)</p>  <p>図1 水消火系の隔離操作時におけるアクセス通路 (3/8)</p> <p>出入管理建屋 T.P.10.3m</p>  <p>図1 水消火系の隔離操作時におけるアクセス通路 (4/8)</p> <p>電気建屋 T.P.10.3m</p>	



赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		 <p>電気建屋 T.P. 2.3m (中間床)              漏えい箇所の特定: →</p> <p>図1 水消火系の隔離操作時におけるアクセス通路 (5/8)</p>  <p>出入管理建屋 T.P. 10.3m              電気建屋 T.P. 10.3m              漏えい箇所の特定: →</p> <p>図1 水消火系の隔離操作時におけるアクセス通路 (6/8)</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>出入管理建屋 T.P. 2.3m（中間床）</p>  <p>図1 水消火系の隔離操作時におけるアクセス通路 (7/8)</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		 <p data-bbox="1317 965 1818 986">図1 水消火系の隔離操作時におけるアクセス通路 (8/8)</p> <p data-bbox="1317 1013 1832 1034"> 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

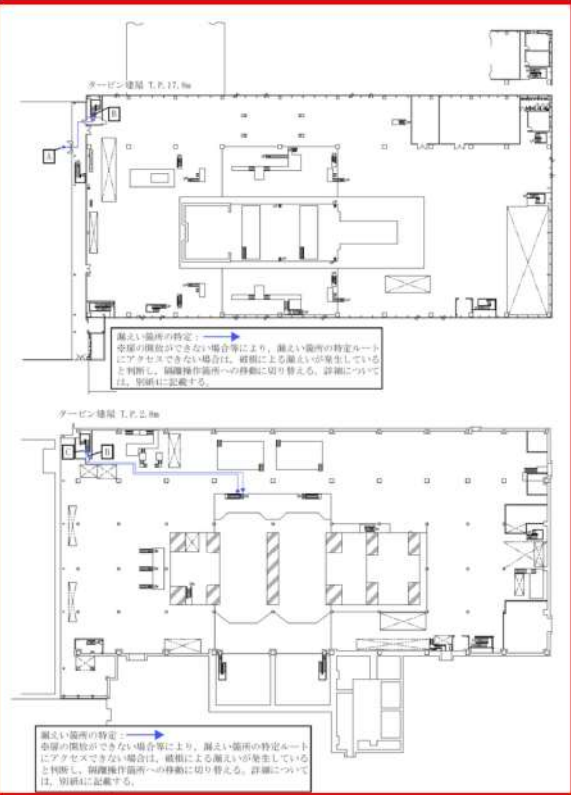
大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																				
		<p>2. 地震時の系統隔離操作におけるアクセス性の確認</p> <p>(1) 隔離操作時のアクセス通路の溢水水位</p> <p>溢水を想定する系統とその隔離操作時にアクセスが必要となる区画について、表3に示す。</p> <p>表3 地震時における隔離操作時のアクセス性（隔離機器までのアクセス性）</p> <table border="1" data-bbox="1290 587 1859 740"> <thead> <tr> <th>溢水系統</th> <th>アクセス区画</th> <th>溢水評価高さ (m)</th> <th>アクセス可否</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>循環水管伸縮継手</td> <td>3ELB-D-N01</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>原子炉補給水系（脱塩水）</td> <td>3AB-F-N7</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>飲料水系</td> <td>3AB-H-1</td> <td>0.05</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>水消火系</td> <td>3AB-D-X1</td> <td>0</td> <td>可</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 隔離操作時に操作が必要となる機器</p> <p>漏えい箇所の隔離操作を実施する場合に、操作対象機器までのアクセス通路と操作が必要となる機器について確認を行っている。以下に、地震時の系統隔離操作について示す。隔離操作対象機器を表4、隔離操作時におけるアクセス通路を図2に示す。なお、図2に示す通路のアクセスに要する時間の算出については、水深10cm条件の歩行速度にて算出する。（詳細は別紙4参照）</p>	溢水系統	アクセス区画	溢水評価高さ (m)	アクセス可否	循環水管伸縮継手	3ELB-D-N01	0	可	原子炉補給水系（脱塩水）	3AB-F-N7	0	可	飲料水系	3AB-H-1	0.05	可	水消火系	3AB-D-X1	0	可	<p>【女川】</p> <p><u>設計方針の相違</u></p> <p>泊では地震発生時に隔離操作を期待している。（伊方と同様。詳細は補足説明資料14を参照。）</p> <p>ここでは、想定破損時の女川の記載と同様に地震時の系統隔離操作におけるアクセス性の確認結果を示す。</p> <p>【女川】</p> <p><u>設計方針の相違</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊では地震発生時に隔離操作を期待している。（伊方と同様。詳細は補足説明資料14を参照。）</li> <li>・アクセスの際の歩行速度について、溢水水位にかかわらず、泊では水深10cm条件の歩行速度でアクセスに要する時間を算出している。</li> </ul>
溢水系統	アクセス区画	溢水評価高さ (m)	アクセス可否																				
循環水管伸縮継手	3ELB-D-N01	0	可																				
原子炉補給水系（脱塩水）	3AB-F-N7	0	可																				
飲料水系	3AB-H-1	0.05	可																				
水消火系	3AB-D-X1	0	可																				



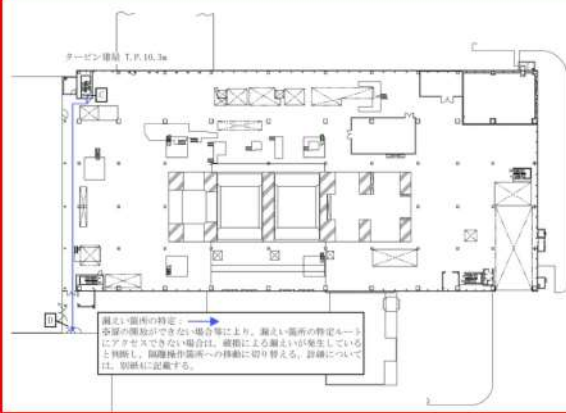

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																												
		<p style="text-align: center;">表4 地震時の隔離操作対象機器リスト</p> <table border="1" data-bbox="1285 209 1856 507"> <thead> <tr> <th colspan="4" style="text-align: center;">操作対象機器</th> </tr> <tr> <th>機器番号</th> <th>機器名称</th> <th>設置場所</th> <th>区画</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3MC-C1</td> <td>3C1-6.6kV メタクラ</td> <td>電気建屋 T.P. 10.3m</td> <td>3ELB-D-N01</td> </tr> <tr> <td>3MC-D</td> <td>3D-6.6kV メタクラ</td> <td>電気建屋 T.P. 10.3m</td> <td>3ELB-D-N01</td> </tr> <tr> <td>3V-DW-729</td> <td>3-出入管理建屋脱塩水補給弁</td> <td>原子炉補助建屋 T.P. 10.3m 通路</td> <td>3AB-H-1</td> </tr> <tr> <td>3V-DR-510</td> <td>3-電気建屋及び出入管理建屋他 飲料水補給弁</td> <td>原子炉補助建屋 T.P. 24.8m 通路</td> <td>3AB-D-N1</td> </tr> <tr> <td>3V-FS-554</td> <td>3-電気建屋行き消火水 非管理区域 (A/B) 止め弁</td> <td>原子炉補助建屋 T.P. 17.8m 通路</td> <td>3AB-F-N7</td> </tr> </tbody> </table> <div style="border: 2px solid black; height: 300px; width: 100%;"></div> <p style="text-align: center;">図2 地震時の隔離操作時におけるアクセス通路 (1/14)</p> <p>□ 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	操作対象機器				機器番号	機器名称	設置場所	区画	3MC-C1	3C1-6.6kV メタクラ	電気建屋 T.P. 10.3m	3ELB-D-N01	3MC-D	3D-6.6kV メタクラ	電気建屋 T.P. 10.3m	3ELB-D-N01	3V-DW-729	3-出入管理建屋脱塩水補給弁	原子炉補助建屋 T.P. 10.3m 通路	3AB-H-1	3V-DR-510	3-電気建屋及び出入管理建屋他 飲料水補給弁	原子炉補助建屋 T.P. 24.8m 通路	3AB-D-N1	3V-FS-554	3-電気建屋行き消火水 非管理区域 (A/B) 止め弁	原子炉補助建屋 T.P. 17.8m 通路	3AB-F-N7	<p>相違理由</p> <p>【女川】  <u>設計方針の相違</u>                      泊では地震発生時に隔離操作を期待している。(伊方と同様。詳細は補足説明資料14を参照。)</p>
操作対象機器																															
機器番号	機器名称	設置場所	区画																												
3MC-C1	3C1-6.6kV メタクラ	電気建屋 T.P. 10.3m	3ELB-D-N01																												
3MC-D	3D-6.6kV メタクラ	電気建屋 T.P. 10.3m	3ELB-D-N01																												
3V-DW-729	3-出入管理建屋脱塩水補給弁	原子炉補助建屋 T.P. 10.3m 通路	3AB-H-1																												
3V-DR-510	3-電気建屋及び出入管理建屋他 飲料水補給弁	原子炉補助建屋 T.P. 24.8m 通路	3AB-D-N1																												
3V-FS-554	3-電気建屋行き消火水 非管理区域 (A/B) 止め弁	原子炉補助建屋 T.P. 17.8m 通路	3AB-F-N7																												


赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		 <p data-bbox="1317 1031 1816 1054">図2 地震時の隔離操作時におけるアクセス通路 (2/14)</p>	<p data-bbox="1877 180 1933 201">【女川】</p> <p data-bbox="1877 217 1995 237">設計方針の相違</p> <p data-bbox="1877 248 2128 336">泊では地震発生時に隔離操作を期待している。(伊方と同様。詳細は補足説明資料14を参照。)</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）


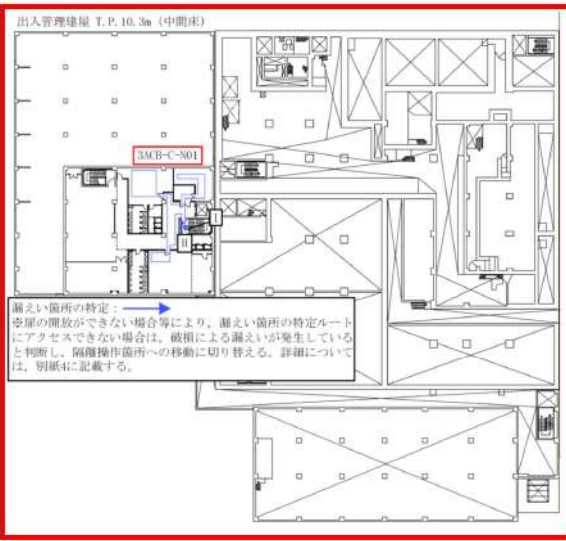
大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		 <p data-bbox="1317 622 1814 646">図2 地震時の隔離操作時におけるアクセス通路 (3/14)</p>  <p data-bbox="1317 1372 1814 1396">図2 地震時の隔離操作時におけるアクセス通路 (4/14)</p>	<p data-bbox="1877 183 1937 207">【女川】</p> <p data-bbox="1877 215 2004 239">設計方針の相違</p> <p data-bbox="1877 247 2128 343">泊では地震発生時に隔離操作を期待している。（伊方と同様。詳細は補足説明資料14を参照。）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

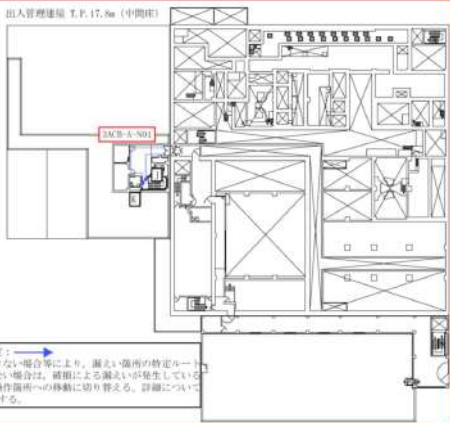
大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		 <p>電気建屋 T.P.2.3m (中間階)</p> <p>電気建屋 T.P.10.3m</p> <p>【赤】 3ELB-E-N01</p> <p>【青】 3ELB-D-N01</p> <p>【緑】 3ACB-D-N01</p> <p>図2 地震時の隔離操作時におけるアクセス通路 (5/14)</p> <p>図2 地震時の隔離操作時におけるアクセス通路 (6/14)</p>	<p>【女川】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>泊では地震発生時に隔離操作を期待している。(伊方と同様。詳細は補足説明資料14を参照。)</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		 <p data-bbox="1310 762 1825 785">図2 地震時の隔離操作時におけるアクセス通路 (7/14)</p>  <p data-bbox="1310 1369 1825 1391">図2 地震時の隔離操作時におけるアクセス通路 (8/14)</p>	<p data-bbox="1877 178 1937 201">【女川】</p> <p data-bbox="1877 215 2004 237">設計方針の相違</p> <p data-bbox="1877 247 2128 339">泊では地震発生時に隔離操作を期待している。(伊方と同様。詳細は補足説明資料14を参照。)</p>

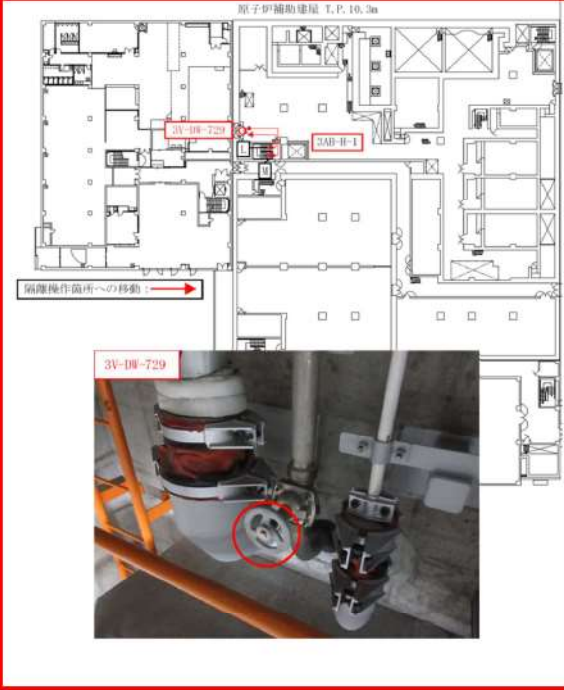
赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<div data-bbox="1288 172 1854 619" style="border: 2px solid red; height: 280px; width: 100%;"></div> <p data-bbox="1317 624 1816 644">図2 地震時の隔離操作時におけるアクセス通路 (9/14)</p> <div data-bbox="1301 667 1854 695" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p data-bbox="1397 671 1854 692">枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p> </div> <div data-bbox="1281 756 1854 1193" style="border: 2px solid red; padding: 5px;">  <p data-bbox="1317 1201 1816 1222">図2 地震時の隔離操作時におけるアクセス通路 (10/14)</p> </div>	<p data-bbox="1877 180 1937 201">【女川】</p> <p data-bbox="1877 217 1995 237">設計方針の相違</p> <p data-bbox="1877 248 2123 336">泊では地震発生時に隔離操作を期待している。(伊方と同様。詳細は補足説明資料14を参照。)</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		 <p data-bbox="1317 655 1816 679">図2 地震時の隔離操作時におけるアクセス通路（11/14）</p> <p data-bbox="1305 703 1850 727">□ 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	<p data-bbox="1877 180 1937 201">【女川】</p> <p data-bbox="1877 217 1995 237">設計方針の相違</p> <p data-bbox="1877 248 2123 336">泊では地震発生時に隔離操作を期待している。（伊方と同様。詳細は補足説明資料14を参照。）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		 <p data-bbox="1317 890 1818 917">図2 地震時の隔離操作時におけるアクセス通路 (12/14)</p>	<p data-bbox="1877 181 1935 202">【女川】</p> <p data-bbox="1877 217 1995 237">設計方針の相違</p> <p data-bbox="1877 252 2123 336">泊では地震発生時に隔離操作を期待している。(伊方と同様。詳細は補足説明資料14を参照。)</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

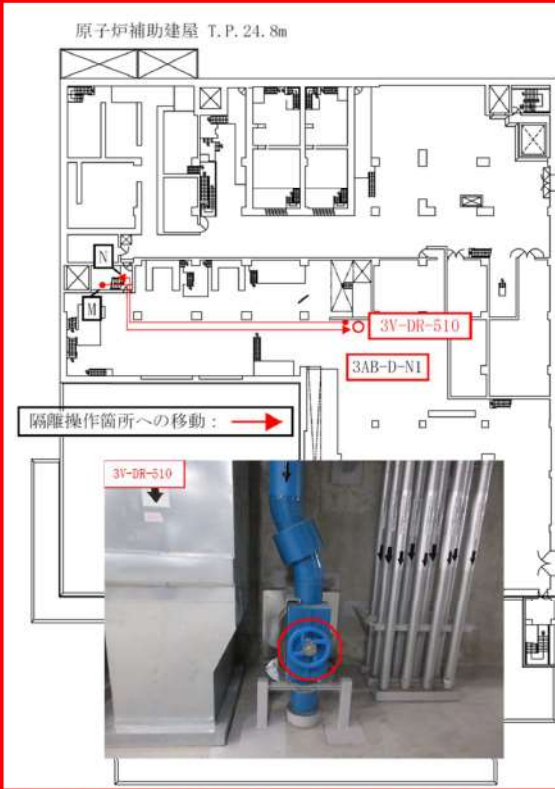
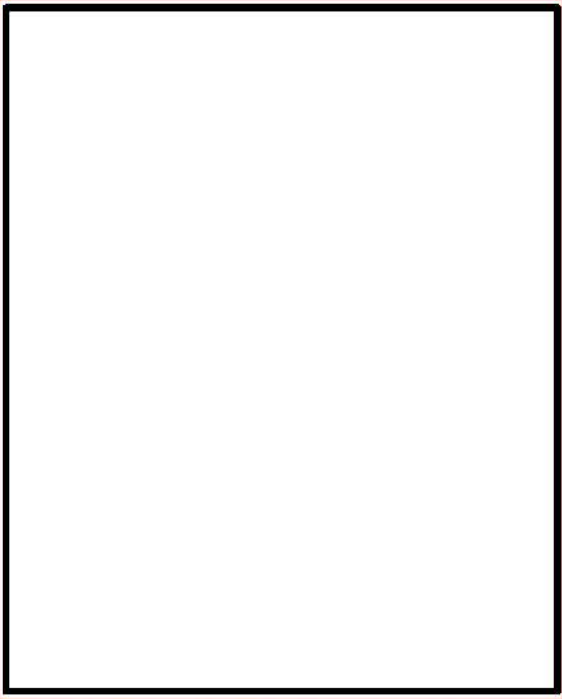
大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>原子炉補助建屋 T.P. 24.8m</p>  <p>隔離操作箇所への移動： →</p> <p>3V-DR-510</p> <p>3AB-D-N1</p> <p>3V-DR-510</p>	<p>【女川】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>泊では地震発生時に隔離操作を期待している。(伊方と同様。詳細は補足説明資料14を参照。)</p>

図2 地震時の隔離操作時におけるアクセス通路 (13/14)

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		 <p data-bbox="1317 893 1818 917">図2 地震時の隔離操作時におけるアクセス通路（14/14）</p> <p data-bbox="1301 943 1839 967"> <span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 20px; height: 10px;"></span>                     枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。                 </p>	<p data-bbox="1877 178 1937 199">【女川】</p> <p data-bbox="1877 215 1998 236">設計方針の相違</p> <p data-bbox="1877 247 2123 335">                         泊では地震発生時に隔離操作を期待している。（伊方と同様。詳細は補足説明資料14を参照。）                     </p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

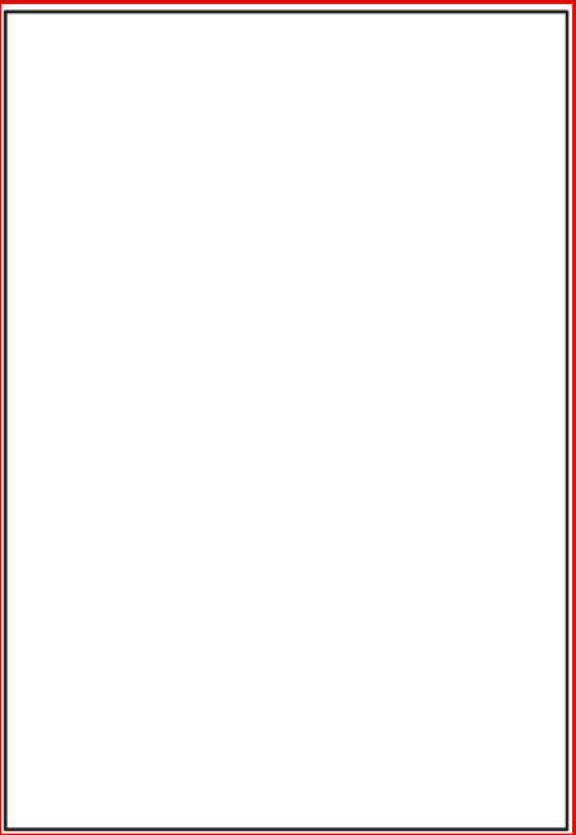
大飯発電所3号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																				
	<p>2. 系統切替操作時のアクセス通路における溢水水位</p> <p>(1) 燃料プール冷却浄化系の機能が喪失した場合（冷却機能喪失時）</p> <p>残留熱除去系への切替時に操作が必要となる弁を表3、4に示す。また、アクセス通路及びアクセス通路における溢水水位について図2、3及び表5に示す。</p> <p style="text-align: center;">表3 残留熱除去系A系の操作対象弁</p> <table border="1" data-bbox="698 454 1281 1157"> <thead> <tr> <th colspan="4">操作対象弁</th> </tr> <tr> <th>弁番号</th> <th>弁名</th> <th>設置場所</th> <th>防護区画</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>E11-F025A</td> <td>RHR A系封水入口弁</td> <td>R/A 1F 西側通路</td> <td>R-1F-5</td> </tr> <tr> <td>E11-F029A</td> <td>RHR A系FPC吸込連絡弁</td> <td>R/A B3F RHRポンプ室(A)室</td> <td>R-B3F-3</td> </tr> <tr> <td>E11-F030A</td> <td>RHR A系FPC供給連絡弁</td> <td>R/A MB1F RHR(A)バルブ室</td> <td>R-MB1F-1</td> </tr> <tr> <td>E11-F503AX</td> <td>RHR熱交換器(A)管側入口第一ベント弁</td> <td>R/A 1F RHR熱交換器(A)室</td> <td>R-1F-1</td> </tr> <tr> <td>E11-F503AY</td> <td>RHR熱交換器(A)管側入口第二ベント弁</td> <td>R/A 1F RHR熱交換器(A)室</td> <td>R-1F-1</td> </tr> <tr> <td>E11-F506AX</td> <td>RHR A系停止時冷却吸込ライン第一ベント弁</td> <td>R/A 上部トラス室(270°)</td> <td>R-B2F-7</td> </tr> <tr> <td>E11-F506AY</td> <td>RHR A系停止時冷却吸込ライン第二ベント弁</td> <td>R/A 上部トラス室(270°)</td> <td>R-B2F-7</td> </tr> <tr> <td>E11-F512AX</td> <td>RHR A系格納容器スプレイライン第一ベント弁</td> <td>R/A 1F RHR(A)バルブ室</td> <td>R-1F-9</td> </tr> <tr> <td>E11-F512AY</td> <td>RHR A系格納容器スプレイライン第二ベント弁</td> <td>R/A 1F RHR(A)バルブ室</td> <td>R-1F-9</td> </tr> <tr> <td>E11-F513X</td> <td>RHRヘッドスプレイ注入ライン第一ベント弁</td> <td>R/A 1F RHR(A)バルブ室</td> <td>R-1F-9</td> </tr> <tr> <td>E11-F513Y</td> <td>RHRヘッドスプレイ注入ライン第二ベント弁</td> <td>R/A 1F RHR(A)バルブ室</td> <td>R-1F-9</td> </tr> <tr> <td>G41-F022</td> <td>FPC RHR供給連絡弁</td> <td>R/A 1F FPC熱交換器上室</td> <td>R-M2F-3</td> </tr> <tr> <td>G41-F023</td> <td>FPC RHR戻り連絡弁</td> <td>R/A 1F FPC熱交換器上室</td> <td>R-M2F-3</td> </tr> <tr> <td>G41-F520</td> <td>FPC RHR供給連絡ラインベント弁</td> <td>R/A 1F FPC熱交換器上室</td> <td>R-M2F-3</td> </tr> <tr> <td>G41-F523</td> <td>FPC RHR戻り連絡ラインベント弁</td> <td>R/A 1F FPC熱交換器上室</td> <td>R-M2F-3</td> </tr> </tbody> </table>	操作対象弁				弁番号	弁名	設置場所	防護区画	E11-F025A	RHR A系封水入口弁	R/A 1F 西側通路	R-1F-5	E11-F029A	RHR A系FPC吸込連絡弁	R/A B3F RHRポンプ室(A)室	R-B3F-3	E11-F030A	RHR A系FPC供給連絡弁	R/A MB1F RHR(A)バルブ室	R-MB1F-1	E11-F503AX	RHR熱交換器(A)管側入口第一ベント弁	R/A 1F RHR熱交換器(A)室	R-1F-1	E11-F503AY	RHR熱交換器(A)管側入口第二ベント弁	R/A 1F RHR熱交換器(A)室	R-1F-1	E11-F506AX	RHR A系停止時冷却吸込ライン第一ベント弁	R/A 上部トラス室(270°)	R-B2F-7	E11-F506AY	RHR A系停止時冷却吸込ライン第二ベント弁	R/A 上部トラス室(270°)	R-B2F-7	E11-F512AX	RHR A系格納容器スプレイライン第一ベント弁	R/A 1F RHR(A)バルブ室	R-1F-9	E11-F512AY	RHR A系格納容器スプレイライン第二ベント弁	R/A 1F RHR(A)バルブ室	R-1F-9	E11-F513X	RHRヘッドスプレイ注入ライン第一ベント弁	R/A 1F RHR(A)バルブ室	R-1F-9	E11-F513Y	RHRヘッドスプレイ注入ライン第二ベント弁	R/A 1F RHR(A)バルブ室	R-1F-9	G41-F022	FPC RHR供給連絡弁	R/A 1F FPC熱交換器上室	R-M2F-3	G41-F023	FPC RHR戻り連絡弁	R/A 1F FPC熱交換器上室	R-M2F-3	G41-F520	FPC RHR供給連絡ラインベント弁	R/A 1F FPC熱交換器上室	R-M2F-3	G41-F523	FPC RHR戻り連絡ラインベント弁	R/A 1F FPC熱交換器上室	R-M2F-3		<p>【女川】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>泊では、使用済燃料ピット水冷却浄化系の機能が喪失しないことから、系統の切替操作は不要である。(大飯と同様)</p>
操作対象弁																																																																							
弁番号	弁名	設置場所	防護区画																																																																				
E11-F025A	RHR A系封水入口弁	R/A 1F 西側通路	R-1F-5																																																																				
E11-F029A	RHR A系FPC吸込連絡弁	R/A B3F RHRポンプ室(A)室	R-B3F-3																																																																				
E11-F030A	RHR A系FPC供給連絡弁	R/A MB1F RHR(A)バルブ室	R-MB1F-1																																																																				
E11-F503AX	RHR熱交換器(A)管側入口第一ベント弁	R/A 1F RHR熱交換器(A)室	R-1F-1																																																																				
E11-F503AY	RHR熱交換器(A)管側入口第二ベント弁	R/A 1F RHR熱交換器(A)室	R-1F-1																																																																				
E11-F506AX	RHR A系停止時冷却吸込ライン第一ベント弁	R/A 上部トラス室(270°)	R-B2F-7																																																																				
E11-F506AY	RHR A系停止時冷却吸込ライン第二ベント弁	R/A 上部トラス室(270°)	R-B2F-7																																																																				
E11-F512AX	RHR A系格納容器スプレイライン第一ベント弁	R/A 1F RHR(A)バルブ室	R-1F-9																																																																				
E11-F512AY	RHR A系格納容器スプレイライン第二ベント弁	R/A 1F RHR(A)バルブ室	R-1F-9																																																																				
E11-F513X	RHRヘッドスプレイ注入ライン第一ベント弁	R/A 1F RHR(A)バルブ室	R-1F-9																																																																				
E11-F513Y	RHRヘッドスプレイ注入ライン第二ベント弁	R/A 1F RHR(A)バルブ室	R-1F-9																																																																				
G41-F022	FPC RHR供給連絡弁	R/A 1F FPC熱交換器上室	R-M2F-3																																																																				
G41-F023	FPC RHR戻り連絡弁	R/A 1F FPC熱交換器上室	R-M2F-3																																																																				
G41-F520	FPC RHR供給連絡ラインベント弁	R/A 1F FPC熱交換器上室	R-M2F-3																																																																				
G41-F523	FPC RHR戻り連絡ラインベント弁	R/A 1F FPC熱交換器上室	R-M2F-3																																																																				

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

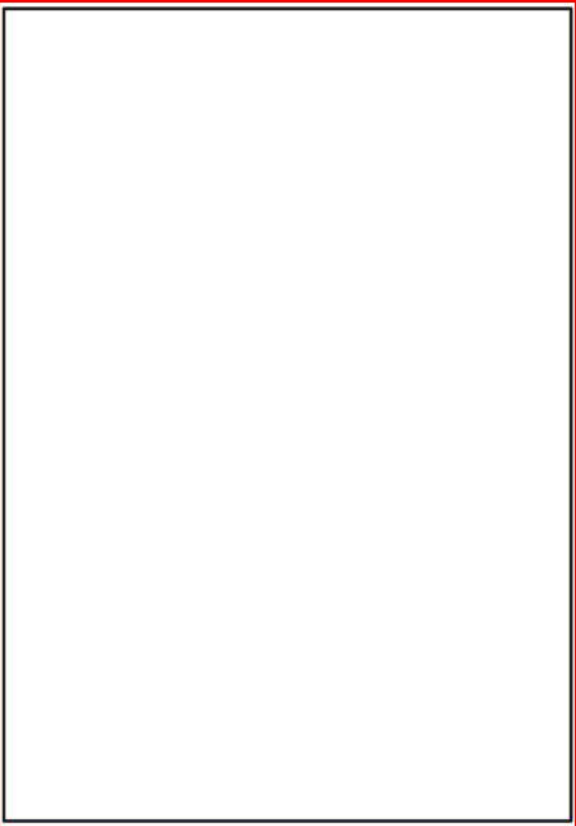
大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																												
	<p style="text-align: center;"><b>表4 残留熱除去系B系の操作対象弁</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="4" style="text-align: center;">操作対象弁</th> </tr> <tr> <th style="width: 15%;">弁番号</th> <th style="width: 30%;">弁名</th> <th style="width: 30%;">設置場所</th> <th style="width: 25%;">防護区画</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>E11-F025B</td> <td>RHR B系封水入口弁</td> <td>R/A 1F 西側通路</td> <td>R-1F-5</td> </tr> <tr> <td>E11-F029B</td> <td>RHR B系FPC吸込連絡弁</td> <td>R/A B3F RHRポンプ室(B)室</td> <td>R-B3F-6</td> </tr> <tr> <td>E11-F030B</td> <td>RHR B系FPC供給連絡弁</td> <td>R/A MB1F RHR(B)バルブ室</td> <td>R-MB1F-3</td> </tr> <tr> <td>E11-F503BX</td> <td>RHR熱交換器(B)管側入口第一ベント弁</td> <td>R/A 1F RHR熱交換器(B)室</td> <td>R-1F-11</td> </tr> <tr> <td>E11-F503BY</td> <td>RHR熱交換器(B)管側入口第二ベント弁</td> <td>R/A 1F RHR熱交換器(B)室</td> <td>R-1F-11</td> </tr> <tr> <td>E11-F506BX</td> <td>RHR B系停止時冷却吸込ライン第一ベント弁</td> <td>R/A 上部トールス室 (90°)</td> <td>R-B2F-7</td> </tr> <tr> <td>E11-F506BY</td> <td>RHR B系停止時冷却吸込ライン第二ベント弁</td> <td>R/A 上部トールス室 (90°)</td> <td>R-B2F-7</td> </tr> <tr> <td>E11-F512BX</td> <td>RHR B系格納容器スプレイライン第一ベント弁</td> <td>R/A 1F RHR(B)バルブ室</td> <td>R-1F-8</td> </tr> <tr> <td>E11-F512BY</td> <td>RHR B系格納容器スプレイライン第二ベント弁</td> <td>R/A 1F RHR(B)バルブ室</td> <td>R-1F-8</td> </tr> <tr> <td>G41-F022</td> <td>FPC RHR供給連絡弁</td> <td>R/A 1F FPC熱交換器上室</td> <td>R-M2F-3</td> </tr> <tr> <td>G41-F023</td> <td>FPC RHR戻り連絡弁</td> <td>R/A 1F FPC熱交換器上室</td> <td>R-M2F-3</td> </tr> <tr> <td>G41-F520</td> <td>FPC RHR供給連絡ラインベント弁</td> <td>R/A 1F FPC熱交換器上室</td> <td>R-M2F-3</td> </tr> <tr> <td>G41-F523</td> <td>FPC RHR戻り連絡ラインベント弁</td> <td>R/A 1F FPC熱交換器上室</td> <td>R-M2F-3</td> </tr> </tbody> </table>	操作対象弁				弁番号	弁名	設置場所	防護区画	E11-F025B	RHR B系封水入口弁	R/A 1F 西側通路	R-1F-5	E11-F029B	RHR B系FPC吸込連絡弁	R/A B3F RHRポンプ室(B)室	R-B3F-6	E11-F030B	RHR B系FPC供給連絡弁	R/A MB1F RHR(B)バルブ室	R-MB1F-3	E11-F503BX	RHR熱交換器(B)管側入口第一ベント弁	R/A 1F RHR熱交換器(B)室	R-1F-11	E11-F503BY	RHR熱交換器(B)管側入口第二ベント弁	R/A 1F RHR熱交換器(B)室	R-1F-11	E11-F506BX	RHR B系停止時冷却吸込ライン第一ベント弁	R/A 上部トールス室 (90°)	R-B2F-7	E11-F506BY	RHR B系停止時冷却吸込ライン第二ベント弁	R/A 上部トールス室 (90°)	R-B2F-7	E11-F512BX	RHR B系格納容器スプレイライン第一ベント弁	R/A 1F RHR(B)バルブ室	R-1F-8	E11-F512BY	RHR B系格納容器スプレイライン第二ベント弁	R/A 1F RHR(B)バルブ室	R-1F-8	G41-F022	FPC RHR供給連絡弁	R/A 1F FPC熱交換器上室	R-M2F-3	G41-F023	FPC RHR戻り連絡弁	R/A 1F FPC熱交換器上室	R-M2F-3	G41-F520	FPC RHR供給連絡ラインベント弁	R/A 1F FPC熱交換器上室	R-M2F-3	G41-F523	FPC RHR戻り連絡ラインベント弁	R/A 1F FPC熱交換器上室	R-M2F-3		<p><b>【女川】</b>  <u>設計方針の相違</u>                      泊では、使用済燃料ピット水冷却浄化系の機能が喪失しないことから、系統の切替操作は不要である。(大飯と同様)</p>
操作対象弁																																																															
弁番号	弁名	設置場所	防護区画																																																												
E11-F025B	RHR B系封水入口弁	R/A 1F 西側通路	R-1F-5																																																												
E11-F029B	RHR B系FPC吸込連絡弁	R/A B3F RHRポンプ室(B)室	R-B3F-6																																																												
E11-F030B	RHR B系FPC供給連絡弁	R/A MB1F RHR(B)バルブ室	R-MB1F-3																																																												
E11-F503BX	RHR熱交換器(B)管側入口第一ベント弁	R/A 1F RHR熱交換器(B)室	R-1F-11																																																												
E11-F503BY	RHR熱交換器(B)管側入口第二ベント弁	R/A 1F RHR熱交換器(B)室	R-1F-11																																																												
E11-F506BX	RHR B系停止時冷却吸込ライン第一ベント弁	R/A 上部トールス室 (90°)	R-B2F-7																																																												
E11-F506BY	RHR B系停止時冷却吸込ライン第二ベント弁	R/A 上部トールス室 (90°)	R-B2F-7																																																												
E11-F512BX	RHR B系格納容器スプレイライン第一ベント弁	R/A 1F RHR(B)バルブ室	R-1F-8																																																												
E11-F512BY	RHR B系格納容器スプレイライン第二ベント弁	R/A 1F RHR(B)バルブ室	R-1F-8																																																												
G41-F022	FPC RHR供給連絡弁	R/A 1F FPC熱交換器上室	R-M2F-3																																																												
G41-F023	FPC RHR戻り連絡弁	R/A 1F FPC熱交換器上室	R-M2F-3																																																												
G41-F520	FPC RHR供給連絡ラインベント弁	R/A 1F FPC熱交換器上室	R-M2F-3																																																												
G41-F523	FPC RHR戻り連絡ラインベント弁	R/A 1F FPC熱交換器上室	R-M2F-3																																																												



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p data-bbox="712 1066 1263 1088">図2 残留熱除去系A系への切替操作時におけるアクセス通路</p> <div data-bbox="703 1102 1267 1150" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p data-bbox="779 1114 1191 1136">枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。</p> </div>		<p data-bbox="1877 180 1935 202">【女川】</p> <p data-bbox="1877 215 1995 237">設計方針の相違</p> <p data-bbox="1877 250 2130 371">泊では、使用済燃料ピット水冷却浄化系の機能が喪失しないことから、系統の切替操作は不要である。（大阪と同様）</p>

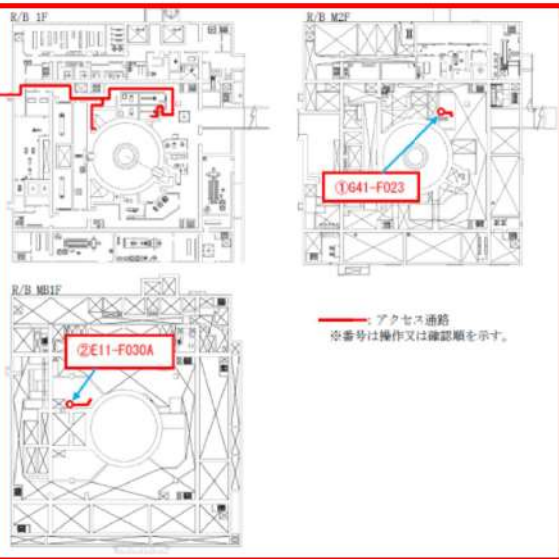
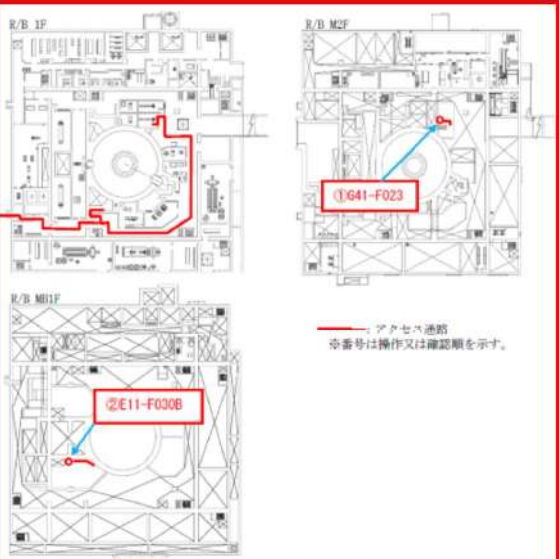
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p data-bbox="712 1029 1263 1053">図3 残留熱除去系B系への切替操作時におけるアクセス通路</p> <div data-bbox="701 1069 1263 1109" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p data-bbox="779 1077 1184 1101">枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。</p> </div>		<p data-bbox="1877 178 1933 199">【女川】</p> <p data-bbox="1877 215 1995 236">設計方針の相違</p> <p data-bbox="1877 247 2128 375">泊では、使用済燃料ピット水冷却浄化系の機能が喪失しないことから、系統の切替操作は不要である。（大阪と同様）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																																																																																						
	<p>表5 残留熱除去系への切替時におけるアクセス通路の溢水水位（冷却機能喪失時）</p> <table border="1" data-bbox="698 248 1272 810"> <thead> <tr> <th rowspan="3">発生区画</th> <th rowspan="3">想定破損</th> <th colspan="4">使用済燃料プール</th> <th rowspan="3">アクセス通路上の最大水位 (m)</th> <th rowspan="3">アクセス可否</th> </tr> <tr> <th colspan="4">冷却機能</th> </tr> <tr> <th colspan="2">FPC</th> <th colspan="2">RBR</th> </tr> <tr> <th>A系</th> <th>B系</th> <th>A系</th> <th>B系</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R-3F-1</td><td>FPC</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>○</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-2F-2</td><td>FPC</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>○</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-M2F-3</td><td>FPC</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>○</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-MB1F-1</td><td>FPC</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>○</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-MB1F-3</td><td>FPC</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>○</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-1F-5</td><td>FPC</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>○</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-1F-9</td><td>FPC</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>○</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-1F-8</td><td>FPC</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>○</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-B1F-13</td><td>FPC</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>○</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-1F-3</td><td>FPC</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>○</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-1F-3</td><td>RCW(A)</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-1F-3</td><td>RCW(B)</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>×</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-1F-4</td><td>FPC</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>○</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-1F-7</td><td>FPC</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>○</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-B1F-1</td><td>FPC</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>○</td><td>0</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-B2F-7</td><td>FPC</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>○</td><td>0.2</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-B2F-2</td><td>FPC</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>○</td><td>0.2</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-B3F-3</td><td>FPC</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>○</td><td>0.2</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-B3F-6</td><td>FPC</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>×</td><td>0.2</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-B3F-10</td><td>FPC</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>○</td><td>0.2</td><td>可</td></tr> </tbody> </table> <p>(2) 燃料プール補給水系の機能が喪失した場合（補給機能喪失時）</p> <p>残留熱除去系への切替時に操作が必要となる弁を表6、7に示す。また、アクセス通路及びアクセス通路における溢水水位について図4、5及び表8に示す。</p> <p>表6 残留熱除去系A系の操作対象弁</p> <table border="1" data-bbox="698 1145 1272 1248"> <thead> <tr> <th colspan="4">操作対象弁</th> </tr> <tr> <th>弁番号</th> <th>弁名</th> <th>設置場所</th> <th>防護区画</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>E11-F030A</td> <td>RBR A系FPC供給連絡弁</td> <td>R/A MB1F RBR(A)バルブ室</td> <td>R-MB1F-1</td> </tr> <tr> <td>G41-F023</td> <td>FPC RBR 戻り連絡弁</td> <td>R/A 1F FPC熱交換器上室</td> <td>R-M2F-3</td> </tr> </tbody> </table> <p>表7 残留熱除去系B系の操作対象弁</p> <table border="1" data-bbox="698 1350 1272 1452"> <thead> <tr> <th colspan="4">操作対象弁</th> </tr> <tr> <th>弁番号</th> <th>弁名</th> <th>設置場所</th> <th>防護区画</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>E11-F030B</td> <td>RBR B系FPC供給連絡弁</td> <td>R/A MB1F RBR(B)バルブ室</td> <td>R-MB1F-3</td> </tr> <tr> <td>G41-F023</td> <td>FPC RBR 戻り連絡弁</td> <td>R/A 1F FPC熱交換器上室</td> <td>R-M2F-3</td> </tr> </tbody> </table>	発生区画	想定破損	使用済燃料プール				アクセス通路上の最大水位 (m)	アクセス可否	冷却機能				FPC		RBR		A系	B系	A系	B系			R-3F-1	FPC	×	×	○	○	0.3	可	R-2F-2	FPC	×	×	○	○	0.3	可	R-M2F-3	FPC	×	×	○	○	0.3	可	R-MB1F-1	FPC	×	×	○	○	0.3	可	R-MB1F-3	FPC	×	×	○	○	0.3	可	R-1F-5	FPC	×	×	○	○	0.3	可	R-1F-9	FPC	×	×	○	○	0.3	可	R-1F-8	FPC	×	×	○	○	0.3	可	R-B1F-13	FPC	×	×	○	○	0	可	R-1F-3	FPC	×	×	○	○	0.3	可	R-1F-3	RCW(A)	×	×	×	○	0.3	可	R-1F-3	RCW(B)	×	×	○	×	0.3	可	R-1F-4	FPC	×	×	○	○	0.3	可	R-1F-7	FPC	×	×	○	○	0.3	可	R-B1F-1	FPC	×	×	○	○	0	可	R-B2F-7	FPC	×	×	○	○	0.2	可	R-B2F-2	FPC	×	×	○	○	0.2	可	R-B3F-3	FPC	×	×	○	○	0.2	可	R-B3F-6	FPC	×	×	○	×	0.2	可	R-B3F-10	FPC	×	×	○	○	0.2	可	操作対象弁				弁番号	弁名	設置場所	防護区画	E11-F030A	RBR A系FPC供給連絡弁	R/A MB1F RBR(A)バルブ室	R-MB1F-1	G41-F023	FPC RBR 戻り連絡弁	R/A 1F FPC熱交換器上室	R-M2F-3	操作対象弁				弁番号	弁名	設置場所	防護区画	E11-F030B	RBR B系FPC供給連絡弁	R/A MB1F RBR(B)バルブ室	R-MB1F-3	G41-F023	FPC RBR 戻り連絡弁	R/A 1F FPC熱交換器上室	R-M2F-3		<p>【女川】  <u>設計方針の相違</u>                      泊では、使用済燃料ピット水冷却浄化系の機能が喪失しないことから、系統の切替操作は不要である。（大飯と同様）</p> <p>【女川】  <u>設計方針の相違</u>                      泊では、燃料取替用水系の機能が喪失しないことから、系統の切替操作は不要である。（大飯と同様）</p>
発生区画	想定破損			使用済燃料プール						アクセス通路上の最大水位 (m)	アクセス可否																																																																																																																																																																																																														
				冷却機能																																																																																																																																																																																																																					
		FPC		RBR																																																																																																																																																																																																																					
A系	B系	A系	B系																																																																																																																																																																																																																						
R-3F-1	FPC	×	×	○	○	0.3	可																																																																																																																																																																																																																		
R-2F-2	FPC	×	×	○	○	0.3	可																																																																																																																																																																																																																		
R-M2F-3	FPC	×	×	○	○	0.3	可																																																																																																																																																																																																																		
R-MB1F-1	FPC	×	×	○	○	0.3	可																																																																																																																																																																																																																		
R-MB1F-3	FPC	×	×	○	○	0.3	可																																																																																																																																																																																																																		
R-1F-5	FPC	×	×	○	○	0.3	可																																																																																																																																																																																																																		
R-1F-9	FPC	×	×	○	○	0.3	可																																																																																																																																																																																																																		
R-1F-8	FPC	×	×	○	○	0.3	可																																																																																																																																																																																																																		
R-B1F-13	FPC	×	×	○	○	0	可																																																																																																																																																																																																																		
R-1F-3	FPC	×	×	○	○	0.3	可																																																																																																																																																																																																																		
R-1F-3	RCW(A)	×	×	×	○	0.3	可																																																																																																																																																																																																																		
R-1F-3	RCW(B)	×	×	○	×	0.3	可																																																																																																																																																																																																																		
R-1F-4	FPC	×	×	○	○	0.3	可																																																																																																																																																																																																																		
R-1F-7	FPC	×	×	○	○	0.3	可																																																																																																																																																																																																																		
R-B1F-1	FPC	×	×	○	○	0	可																																																																																																																																																																																																																		
R-B2F-7	FPC	×	×	○	○	0.2	可																																																																																																																																																																																																																		
R-B2F-2	FPC	×	×	○	○	0.2	可																																																																																																																																																																																																																		
R-B3F-3	FPC	×	×	○	○	0.2	可																																																																																																																																																																																																																		
R-B3F-6	FPC	×	×	○	×	0.2	可																																																																																																																																																																																																																		
R-B3F-10	FPC	×	×	○	○	0.2	可																																																																																																																																																																																																																		
操作対象弁																																																																																																																																																																																																																									
弁番号	弁名	設置場所	防護区画																																																																																																																																																																																																																						
E11-F030A	RBR A系FPC供給連絡弁	R/A MB1F RBR(A)バルブ室	R-MB1F-1																																																																																																																																																																																																																						
G41-F023	FPC RBR 戻り連絡弁	R/A 1F FPC熱交換器上室	R-M2F-3																																																																																																																																																																																																																						
操作対象弁																																																																																																																																																																																																																									
弁番号	弁名	設置場所	防護区画																																																																																																																																																																																																																						
E11-F030B	RBR B系FPC供給連絡弁	R/A MB1F RBR(B)バルブ室	R-MB1F-3																																																																																																																																																																																																																						
G41-F023	FPC RBR 戻り連絡弁	R/A 1F FPC熱交換器上室	R-M2F-3																																																																																																																																																																																																																						

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p data-bbox="707 753 1263 782">図4 残留熱除去系A系への切替操作時におけるアクセス通路</p>  <p data-bbox="707 1433 1263 1461">図5 残留熱除去系B系への切替操作時におけるアクセス通路</p>		<p data-bbox="1872 178 2134 370">【女川】  <u>設計方針の相違</u>                      泊では、燃料取替用水系の機能が喪失しないことから、系統の切替操作は不要である。(大阪と同様)</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）


大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																																											
	<p>表8 残留熱除去系への切替時におけるアクセス通路の溢水水位                      (給水機能喪失時) (1/2)</p> <table border="1" data-bbox="703 256 1272 592"> <thead> <tr> <th rowspan="3">発生区画</th> <th rowspan="3">想定破損</th> <th colspan="3">使用済燃料プール</th> <th rowspan="3">アクセス 通路上の 最大水位 (m)</th> <th rowspan="3">アクセス 可否</th> </tr> <tr> <th colspan="3">給水機能</th> </tr> <tr> <th>FPMUW</th> <th colspan="2">RBR</th> </tr> <tr> <th></th> <th></th> <th>A系</th> <th>B系</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R-3F-1</td><td>FPMUW</td><td>×</td><td>○</td><td>○</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-3F-1</td><td>RCW(B)</td><td>×</td><td>○</td><td>×</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-3F-1</td><td>HECW(B)</td><td>×</td><td>○</td><td>×</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-2F-1-3</td><td>RCW(B)</td><td>×</td><td>○</td><td>×</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-2F-3</td><td>FPMUW</td><td>×</td><td>○</td><td>○</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-2F-3</td><td>HECW(B)</td><td>×</td><td>○</td><td>×</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-2F-3</td><td>RCW(B)</td><td>×</td><td>○</td><td>×</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-2F-3</td><td>HPCW</td><td>×</td><td>○</td><td>○</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-M2F-3</td><td>FPMUW</td><td>×</td><td>○</td><td>○</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-M2F-3</td><td>RCW(B)</td><td>×</td><td>○</td><td>×</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> </tbody> </table> <p>表8 残留熱除去系への切替時におけるアクセス通路の溢水水位                      (給水機能喪失時) (2/2)</p> <table border="1" data-bbox="703 730 1272 1038"> <thead> <tr> <th rowspan="3">発生区画</th> <th rowspan="3">想定破損</th> <th colspan="3">使用済燃料プール</th> <th rowspan="3">アクセス 通路上の 最大水位 (m)</th> <th rowspan="3">アクセス 可否</th> </tr> <tr> <th colspan="3">給水機能</th> </tr> <tr> <th>FPMUW</th> <th colspan="2">RBR</th> </tr> <tr> <th></th> <th></th> <th>A系</th> <th>B系</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R-1F-3</td><td>RCW(B)</td><td>×</td><td>○</td><td>×</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-1F-5</td><td>FPMUW</td><td>×</td><td>○</td><td>○</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-1F-5</td><td>RCW(B)</td><td>×</td><td>○</td><td>×</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-1F-5</td><td>HPCW</td><td>×</td><td>○</td><td>○</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-1F-6</td><td>RCW(B)</td><td>×</td><td>○</td><td>×</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-1F-2</td><td>RCW(B)</td><td>×</td><td>○</td><td>×</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-1F-4</td><td>RCW(B)</td><td>×</td><td>○</td><td>×</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-1F-11</td><td>RCW(B)</td><td>×</td><td>○</td><td>×</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> <tr><td>R-1F-11</td><td>RBR(B)</td><td>×</td><td>○</td><td>×</td><td>0.3</td><td>可</td></tr> </tbody> </table>	発生区画	想定破損	使用済燃料プール			アクセス 通路上の 最大水位 (m)	アクセス 可否	給水機能			FPMUW	RBR				A系	B系			R-3F-1	FPMUW	×	○	○	0.3	可	R-3F-1	RCW(B)	×	○	×	0.3	可	R-3F-1	HECW(B)	×	○	×	0.3	可	R-2F-1-3	RCW(B)	×	○	×	0.3	可	R-2F-3	FPMUW	×	○	○	0.3	可	R-2F-3	HECW(B)	×	○	×	0.3	可	R-2F-3	RCW(B)	×	○	×	0.3	可	R-2F-3	HPCW	×	○	○	0.3	可	R-M2F-3	FPMUW	×	○	○	0.3	可	R-M2F-3	RCW(B)	×	○	×	0.3	可	発生区画	想定破損	使用済燃料プール			アクセス 通路上の 最大水位 (m)	アクセス 可否	給水機能			FPMUW	RBR				A系	B系			R-1F-3	RCW(B)	×	○	×	0.3	可	R-1F-5	FPMUW	×	○	○	0.3	可	R-1F-5	RCW(B)	×	○	×	0.3	可	R-1F-5	HPCW	×	○	○	0.3	可	R-1F-6	RCW(B)	×	○	×	0.3	可	R-1F-2	RCW(B)	×	○	×	0.3	可	R-1F-4	RCW(B)	×	○	×	0.3	可	R-1F-11	RCW(B)	×	○	×	0.3	可	R-1F-11	RBR(B)	×	○	×	0.3	可		<p>【女川】                      設計方針の相違                      泊では、燃料取替用水系の機能が喪失しないことから、系統の切替操作は不要である。(大阪と同様)</p>
発生区画	想定破損			使用済燃料プール					アクセス 通路上の 最大水位 (m)	アクセス 可否																																																																																																																																																																				
				給水機能																																																																																																																																																																										
		FPMUW	RBR																																																																																																																																																																											
		A系	B系																																																																																																																																																																											
R-3F-1	FPMUW	×	○	○	0.3	可																																																																																																																																																																								
R-3F-1	RCW(B)	×	○	×	0.3	可																																																																																																																																																																								
R-3F-1	HECW(B)	×	○	×	0.3	可																																																																																																																																																																								
R-2F-1-3	RCW(B)	×	○	×	0.3	可																																																																																																																																																																								
R-2F-3	FPMUW	×	○	○	0.3	可																																																																																																																																																																								
R-2F-3	HECW(B)	×	○	×	0.3	可																																																																																																																																																																								
R-2F-3	RCW(B)	×	○	×	0.3	可																																																																																																																																																																								
R-2F-3	HPCW	×	○	○	0.3	可																																																																																																																																																																								
R-M2F-3	FPMUW	×	○	○	0.3	可																																																																																																																																																																								
R-M2F-3	RCW(B)	×	○	×	0.3	可																																																																																																																																																																								
発生区画	想定破損	使用済燃料プール			アクセス 通路上の 最大水位 (m)	アクセス 可否																																																																																																																																																																								
		給水機能																																																																																																																																																																												
		FPMUW	RBR																																																																																																																																																																											
		A系	B系																																																																																																																																																																											
R-1F-3	RCW(B)	×	○	×	0.3	可																																																																																																																																																																								
R-1F-5	FPMUW	×	○	○	0.3	可																																																																																																																																																																								
R-1F-5	RCW(B)	×	○	×	0.3	可																																																																																																																																																																								
R-1F-5	HPCW	×	○	○	0.3	可																																																																																																																																																																								
R-1F-6	RCW(B)	×	○	×	0.3	可																																																																																																																																																																								
R-1F-2	RCW(B)	×	○	×	0.3	可																																																																																																																																																																								
R-1F-4	RCW(B)	×	○	×	0.3	可																																																																																																																																																																								
R-1F-11	RCW(B)	×	○	×	0.3	可																																																																																																																																																																								
R-1F-11	RBR(B)	×	○	×	0.3	可																																																																																																																																																																								

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料11）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">別紙2</p> <p>被ばく評価について</p> <p>溢水量算定においては、保守的な溢水量を算出するために流出量及び時間を多く見積もった。被ばく評価においてはアクセスルート評価と同様な歩行時間及び空間線量率を用いた。各ケースの被ばく評価では、原子炉周辺建屋及び廃棄物処理建屋に滞在する時間に空間線量率を乗じて算出した。</p> <p>1. 想定破損</p> <p>原子炉周辺建屋内で現場操作は実施しないため、漏えいが起きているかを運転員が現場で確認する際の被ばくについて検討した。被ばくするのは原子炉周辺建屋内であるが、隔離箇所特定に要する時間及び帰りの移動に要する時間に被ばくするものとした。</p> <p>その結果、隔離箇所特定時間50分（フロア当たり5分）に、帰りの移動5分を加えた合計55分間に対して、空間線量2.83mSv/hと仮定すると被ばく線量は約2.6mSvとなった。</p>	<p style="text-align: right;">別紙2</p> <p>現場操作時の線量影響について</p> <p>現場操作が必要な場合であり、漏えい時に作業環境が線量の観点から厳しくなる溢水源としては、<b>使用済燃料プール水又はサブレーションプール水</b>が考えられる。これら溢水源が内包する放射能濃度は、表1に示すとおり約<math>1.1 \sim 3.7 \times 10^4 \text{Bq/cm}^3</math>であり、実効線量としては約<math>6.5 \times 10^{-4} \sim 5.0 \times 10^{-4} \text{mSv}</math>となる。評価結果は、緊急作業時における許容実効線量である100mSvを下まわっており、隔離操作等において支障がないことを確認した。実効線量の評価結果について、表1に示す。</p> <p>なお、放射性物質を内包する溢水源の中で、漏えい時に環境中の線量率が最も厳しくなる系統は、<b>原子炉冷却材浄化系</b>であるが、本系統は<b>自動隔離</b>が可能であり現場での操作が不要であることから対象外としている。</p>	<p style="text-align: right;">別紙2</p> <p>現場操作時の線量影響について</p> <p><b>地震時</b>に現場操作が必要な場合であり、漏えい時に作業環境が線量の観点から厳しくなる溢水源としては、<b>セメント固化装置</b>が考えられる。この溢水源が内包する放射能濃度は、表1に示すとおり約<math>1.27 \times 10^4 \text{Bq/cm}^3</math>であり、実効線量としては約<math>1.32 \times 10^{-4} \text{mSv}</math>となる。評価結果は、緊急作業時における許容実効線量である100mSvを下回っており、隔離操作等において支障がないことを確認した。実効線量の結果について、表1に示す。</p> <p>なお、放射性物質を内包する溢水源の中で、漏えい中に環境中の線量率が最も厳しくなる系統は、<b>化学体積制御系</b>であるが、本系統は<b>中央制御室内での手動隔離</b>が可能であり現場での操作が不要であることから対象外としている。<b>想定破損時に管理区域へアクセスするのは、出入管理建屋での原子炉補給水系（脱塩水）の溢水時</b>であり、アクセス先では溢水が発生しないため、測定実績より0.001mSv/hを用いて、移動時間15分と操作時間5分を考慮して算出している。</p>	<p>【大阪】</p> <p><a href="#">記載方針の相違</a>                  女川審査実績の反映</p> <p>【女川】</p> <p><a href="#">記載表現の相違</a>  <a href="#">設計方針の相違</a></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊では、地震時の隔離操作に期待している。</li> <li>・プラント設計の違いによる線量が厳しくなる溢水源の相違</li> <li>・放射能濃度及び実効線量の算出結果の相違。</li> <li>・泊では、高エネルギー配管については、自動隔離の他に、検知、事象の判断、漏えい箇所の特定、隔離操作のすべてを中央制御室で実施するケースがある。（大阪と同様）</li> <li>・泊の想定破損時のアクセスについては、管理区域にアクセスするが、アクセス先で溢水が発生しないため、表1中に記載せずに現場での実測値を用いていることを文中で記載する。</li> </ul>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																											
 <p>図1 原子炉周辺建屋の配管からの溢水量算定に用いた時間</p>	<p>表1 実効線量評価結果</p> <table border="1"> <tr> <td>溢水源</td> <td>使用済燃料プール水 (FPC)</td> <td>サブプレッションプール水 (RHR)</td> </tr> <tr> <td>放射能濃度</td> <td>約 1.1 Bq/cm<sup>3</sup></td> <td>約 3.7 × 10<sup>2</sup> Bq/cm<sup>3</sup></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">現場操作時間</td> <td>漏えい箇所の特定時間：35分<sup>※1</sup></td> <td>漏えい箇所の隔離時間：10分<sup>※2</sup></td> </tr> <tr> <td>系統切替操作時間：15分<sup>※3</sup></td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>隔離操作後の移動時間</td> <td colspan="2">原子炉建屋原子炉棟からの退避時間：10分</td> </tr> <tr> <td>実効線量</td> <td>約 6.5 × 10<sup>-4</sup> mSv</td> <td>約 5.0 × 10<sup>-1</sup> mSv</td> </tr> </table> <p>※1 原子炉建屋原子炉棟全域の確認に要する時間（補足説明資料8参照）                  ※2 現場での隔離箇所特定及び隔離操作に要する時間に対し、保守的に設定した時間（検証時間は、補足説明資料8参照）                  ※3 使用済燃料プールの冷却機能・給水機能喪失時における、現場での残留熱除去系への切替操作時間</p>	溢水源	使用済燃料プール水 (FPC)	サブプレッションプール水 (RHR)	放射能濃度	約 1.1 Bq/cm <sup>3</sup>	約 3.7 × 10 <sup>2</sup> Bq/cm <sup>3</sup>	現場操作時間	漏えい箇所の特定時間：35分 <sup>※1</sup>	漏えい箇所の隔離時間：10分 <sup>※2</sup>	系統切替操作時間：15分 <sup>※3</sup>	—	隔離操作後の移動時間	原子炉建屋原子炉棟からの退避時間：10分		実効線量	約 6.5 × 10 <sup>-4</sup> mSv	約 5.0 × 10 <sup>-1</sup> mSv	<p>表1 実効線量評価結果</p> <table border="1"> <tr> <td>溢水源</td> <td>セメント固化装置</td> </tr> <tr> <td>放射能濃度</td> <td>約 1.27 × 10<sup>8</sup> Bq/cm<sup>3</sup></td> </tr> <tr> <td>現場操作時間</td> <td>漏えい箇所の隔離時間：15分<sup>※1</sup></td> </tr> <tr> <td>隔離操作後の移動時間</td> <td>原子炉補助建屋からの退避時間：20分</td> </tr> <tr> <td>実効線量</td> <td>約 1.32 × 10<sup>-1</sup> mSv</td> </tr> </table> <p>※1 現場での隔離箇所特定及び隔離操作に要する時間に対し、保守的に設定した時間（検証時間は、補足説明資料14参照）</p>	溢水源	セメント固化装置	放射能濃度	約 1.27 × 10 <sup>8</sup> Bq/cm <sup>3</sup>	現場操作時間	漏えい箇所の隔離時間：15分 <sup>※1</sup>	隔離操作後の移動時間	原子炉補助建屋からの退避時間：20分	実効線量	約 1.32 × 10 <sup>-1</sup> mSv	<p>【女川】  <u>設計方針の相違</u>                  ・プラント設計の違いによる対象系統の相違。                  ・放射能濃度及び実効線量の算出結果の相違。                  ・女川の※1について、非管理区域で漏えい箇所の特定を実施するため、漏えい箇所の特定時間は実効線量の算出時間に含まない。                  ・女川の※3について、泊では使用済燃料ピット水冷却浄化系の機能が喪失しないことから、隔離操作として系統の切替操作は不要である。（大飯と同様）</p> <p>【大飯】  <u>記載方針の相違</u>                  女川審査実績の反映</p>
溢水源	使用済燃料プール水 (FPC)	サブプレッションプール水 (RHR)																												
放射能濃度	約 1.1 Bq/cm <sup>3</sup>	約 3.7 × 10 <sup>2</sup> Bq/cm <sup>3</sup>																												
現場操作時間	漏えい箇所の特定時間：35分 <sup>※1</sup>	漏えい箇所の隔離時間：10分 <sup>※2</sup>																												
	系統切替操作時間：15分 <sup>※3</sup>	—																												
隔離操作後の移動時間	原子炉建屋原子炉棟からの退避時間：10分																													
実効線量	約 6.5 × 10 <sup>-4</sup> mSv	約 5.0 × 10 <sup>-1</sup> mSv																												
溢水源	セメント固化装置																													
放射能濃度	約 1.27 × 10 <sup>8</sup> Bq/cm <sup>3</sup>																													
現場操作時間	漏えい箇所の隔離時間：15分 <sup>※1</sup>																													
隔離操作後の移動時間	原子炉補助建屋からの退避時間：20分																													
実効線量	約 1.32 × 10 <sup>-1</sup> mSv																													

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料11）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">別紙3</p> <p>充てんポンプミニマムフローラインへのアクセスルート上の漂流物対策状況について</p>  <p>図1 アクセスルート              (制御建屋 E.L. +21.8m、10.0m、廃棄物処理建屋 E.L. +10.0m              原子炉周辺建屋 E.L. +10.0m)</p> <p>枠囲みの範囲は機能に係る事項ですので公開することはできません。</p>	<p style="text-align: right;">別紙3</p> <p>アクセス通路における漂流物対策状況について</p> <p>代表例として、<b>残留熱除去系A系への切替操作時</b>におけるアクセス通路上の漂流物対策状況を図1に示す。</p>  <p>図1 漂流物対策状況(1/2)</p> <p>枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。</p>	<p style="text-align: right;">別紙3</p> <p>アクセス通路における漂流物対策状況について</p> <p>代表例として、<b>地震時の原子炉補給水系(脱塩水)の隔離操作</b>におけるアクセス通路上の漂流物対策状況を図1に示す。</p>  <p>図1 漂流物対策状況</p>	<p>【女川・大阪】  <u>記載方針の相違</u>              代表例の相違かつプラント設計の違いによる系統の相違</p> <p>【女川】  <u>記載表現の相違</u></p> <p>【大阪】  <u>記載方針の相違</u>              女川審査実績の反映</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="703 213 1265 608" style="border: 1px solid black; height: 247px; width: 251px; margin-bottom: 10px;"></div> <div data-bbox="869 624 1099 644" style="text-align: center;">図1 漂流物対策状況(2/2)</div> <div data-bbox="703 660 1265 703" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。</div>		<div data-bbox="1877 592 1991 644" style="color: green;">【女川】 記載表現の相違</div>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料11）

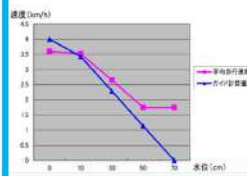
大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>別紙5</p> <p>アクセス性に影響のない水位について</p> <p>内部溢水発生時において現場確認が必要な設備へのアクセスルートにあつては、歩行に影響のない水位であることを評価している。</p> <p>大飯3号炉及び4号炉においては、アクセスする必要のある事象の中で最も高い水位（想定破損時の化学体積制御系の破損）は、原子炉周辺建屋のE.L. +10.0mで約8cmである。この溢水に対しての歩行影響の評価として、「溢水時の歩行速度の検討結果」に基づき評価した結果、屋内アクセスルートの評価において想定している歩行速度（2.4km/h）を満足している。</p> <p>なお、歩行に影響のない水位及びアクセス時の注意事項については、QMSに基づいた標準類の中で所員に周知することとする。</p> <p>参考：浸水時の歩行速度の検討結果について</p>			<p>【大飯】</p> <p>記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊は、女川審査実績を反映し、別紙4の「2. 漏えい箇所特定に要する時間について」に記載のとおり、漏えい箇所の特定による時間を算出するために、保守的な水位を設定し歩行速度の測定を実施している。</li> <li>・一方、大飯は想定する溢水水位での歩行速度が、屋内アクセスルートの評価にて想定している歩行速度を満足しているかを確認するために、歩行速度の測定を実施している。</li> <li>・泊は女川を踏襲するため、大飯の記載は不要と判断した。</li> </ul>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>浸水時の歩行速度の検討結果について</p> <p>1. 浸水時の歩行速度検証結果</p> <p>(1) 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各水位における、50mの歩行にかかる時間を計測（10m区間を2.5往復し、計測実施）</li> <li>○測定は被験者3名にて実施し、その平均速度を算出</li> <li>○被験者は足元を確認しながら歩行することを想定し摺り足歩行とする。</li> <li>○調査時は溢水時の防護具を着用する。</li> </ul> <p>ただし、水深10cmでは長靴及び胴長靴の両方を計測、30cm以上の水位においては胴長靴を着用する（タイベック、アノラック、ゴム手、全面マスク及び長靴又は胴長靴）。</p>	<p>【女川】</p> <p>p.9条-別添1-補足8-13より抜粋</p> <p style="text-align: right;">補足説明資料8 別紙</p> <p>浸水時の歩行速度への影響について</p> <p>1. 浸水時の歩行速度の算出</p> <p>(1) 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水深 340mm における、50mの歩行にかかる時間を計測（10mを2.5往復し、計測を実施）</li> <li>・測定は被験者3名により実施し、平均速度を算出</li> <li>・調査時は溢水時の防護服を着用する。</li> </ul>	<p>浸水時の歩行速度への影響について</p> <p>1. 浸水時の歩行速度の算出</p> <p>(1) 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水深 100mm における、50mの歩行にかかる時間を計測。（10mを2.5往復し、計測を実施）</li> <li>・測定は被験者3名により実施し、平均速度を算出。</li> <li>・調査時は溢水時の防護服を着用する。</li> </ul>	<p>【女川】</p> <p><a href="#">記載表現の相違</a></p> <p>【女川・大飯】</p> <p><a href="#">設計方針の相違</a></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女川では、補足説明資料8「想定破損評価における隔離時間の妥当性について」に記載しているが、泊においては、想定破損と地震時の共通事項であるため、本資料に記載する。</li> <li>・泊では、想定破損及び地震時に隔離操作を期待しており、その際の最大水位が50mmであるため、100mmにおける歩行速度を用いる。</li> <li>・最大水位（女川は300mm、泊は50mm）に対して、保守性を見込んで水深を考慮しているという点において相違はない。</li> </ul> <p>【大飯】</p> <p><a href="#">記載方針の相違</a></p> <p>女川審査実績の反映</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料11）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																	
<p>(2) 実績及び被験者データ</p> <table border="1" data-bbox="112 215 667 327"> <thead> <tr> <th>水深</th> <th>運転員A</th> <th>運転員B</th> <th>運転員C</th> <th>平均歩行速度</th> <th>ガイド計算値</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0cm</td> <td>49s</td> <td>54s</td> <td>46s</td> <td>3.6km/h</td> <td>4km/h</td> <td>長靴</td> </tr> <tr> <td>10cm</td> <td>62s</td> <td>65s</td> <td>60s</td> <td>2.85 km/h</td> <td>3.43km/h</td> <td>長靴</td> </tr> <tr> <td>10cm</td> <td>54s</td> <td>51s</td> <td>47s</td> <td>3.52 km/h</td> <td></td> <td>長靴</td> </tr> <tr> <td>30cm</td> <td>1m1s</td> <td>1m11s</td> <td>1m10s</td> <td>2.65 km/h</td> <td>2.29km/h</td> <td>長靴</td> </tr> <tr> <td>50cm</td> <td>1m31s</td> <td>1m33s</td> <td>2m3s</td> <td>1.75 km/h</td> <td>1.14km/h</td> <td>長靴</td> </tr> <tr> <td>70cm</td> <td>1m43s</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1.75 km/h</td> <td>0km/h</td> <td>長靴</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 歩行速度比較</p>  <p>00cmでの測定タイムは4.0 km/hを下回ったが、水抜き後の濡れた状態で計測したため、防油床面の水垢や落ち葉等で滑りやすく、歩行速度が低下した。      ○参考データとして70cmでの計測を1名実施した結果、70cm水位においても歩行可能であることを確認した。      ○調査結果から、ガイド計算値と平均歩行速度を比較しても概ね遜色ないことを確認した。</p> <p>したがって、屋内アクセスルートで想定している歩行速度2.4km/hよりも速い速度で歩行可能であることを確認したことから、アクセス時間への影響はないものと考えている。</p>	水深	運転員A	運転員B	運転員C	平均歩行速度	ガイド計算値	備考	0cm	49s	54s	46s	3.6km/h	4km/h	長靴	10cm	62s	65s	60s	2.85 km/h	3.43km/h	長靴	10cm	54s	51s	47s	3.52 km/h		長靴	30cm	1m1s	1m11s	1m10s	2.65 km/h	2.29km/h	長靴	50cm	1m31s	1m33s	2m3s	1.75 km/h	1.14km/h	長靴	70cm	1m43s	-	-	1.75 km/h	0km/h	長靴	<p>(2) 実績</p> <p>被験者3名について、2回測定を実施した。なお、測定時には水面で初期水位から最大で約30mmの変動が確認された。浸水時の歩行速度測定結果について表1に示す。</p> <p>表1 浸水時の歩行速度測定結果</p> <table border="1" data-bbox="694 997 1265 1109"> <thead> <tr> <th rowspan="2">水位</th> <th colspan="2">被験者A</th> <th colspan="2">被験者B</th> <th colspan="2">被験者C</th> <th rowspan="2">平均歩行速度</th> </tr> <tr> <th>1回</th> <th>2回</th> <th>1回</th> <th>2回</th> <th>1回</th> <th>2回</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>340mm</td> <td>57s</td> <td>55s</td> <td>63s</td> <td>57s</td> <td>59s</td> <td>51s</td> <td>3.17km/h</td> </tr> </tbody> </table>	水位	被験者A		被験者B		被験者C		平均歩行速度	1回	2回	1回	2回	1回	2回	340mm	57s	55s	63s	57s	59s	51s	3.17km/h	<p>(2) 実績</p> <p>被験者3名について、1回測定を実施した。浸水時の歩行速度測定結果について表1に示す。</p> <p>表1 浸水時の歩行速度測定結果</p> <table border="1" data-bbox="1288 997 1848 1045"> <thead> <tr> <th>水位</th> <th>被験者A</th> <th>被験者B</th> <th>被験者C</th> <th>平均歩行速度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100mm</td> <td>37 s</td> <td>49 s</td> <td>39 s</td> <td>4.32km/h</td> </tr> </tbody> </table>	水位	被験者A	被験者B	被験者C	平均歩行速度	100mm	37 s	49 s	39 s	4.32km/h	<p>相違理由</p> <p>【女川】  <u>設計方針の相違</u>          ・泊では測定の実施が被験者当たり1回である。（大飯と同様）          ・泊では歩行速度の測定に合わせて水位の変動量を確認していないが、女川よりも水位が低く、補足説明資料43「防護対象設備における機能喪失高さの裕度が小さい場合のゆらぎ影響評価」にて記載しているとおり、保守的に0.1mのゆらぎを考慮している。</p> <p>【大飯】  <u>記載方針の相違</u>          ・女川審査実績を反映し、「(3)歩行速度調査状況」において、溢水時の具体的な装備を記載している。          ・実績及び被験者データについての表のフォーマット、歩行速度の比較は女川審査実績を反映した。</p> <p>【女川】  <u>設計方針の相違</u>          泊では測定の実施が被験者当たり1回である。（大飯と同様）</p>
水深	運転員A	運転員B	運転員C	平均歩行速度	ガイド計算値	備考																																																																														
0cm	49s	54s	46s	3.6km/h	4km/h	長靴																																																																														
10cm	62s	65s	60s	2.85 km/h	3.43km/h	長靴																																																																														
10cm	54s	51s	47s	3.52 km/h		長靴																																																																														
30cm	1m1s	1m11s	1m10s	2.65 km/h	2.29km/h	長靴																																																																														
50cm	1m31s	1m33s	2m3s	1.75 km/h	1.14km/h	長靴																																																																														
70cm	1m43s	-	-	1.75 km/h	0km/h	長靴																																																																														
水位	被験者A		被験者B		被験者C		平均歩行速度																																																																													
	1回	2回	1回	2回	1回	2回																																																																														
340mm	57s	55s	63s	57s	59s	51s	3.17km/h																																																																													
水位	被験者A	被験者B	被験者C	平均歩行速度																																																																																
100mm	37 s	49 s	39 s	4.32km/h																																																																																



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料11）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>2. 歩行速度調査状況</p> <p>(1) 調査場所：補助ボイラ用燃料タンク防油堤（長さ13.5m×幅5.4m（手前側は幅3m））</p>  <p>(2) 測定時のスタイル</p> <p>(1)長靴着用時 (2)胴長靴着用時 (3)アノラックの下はタイベック着用</p>  <p>(3) 測定の様子</p> 	<p>(3) 歩行速度調査状況</p> <p>検証時の装備は、溢水時の防護具を想定し、黄服、防水型被服、ゴム手袋、全面マスク、胴長靴、ヘルメットの装備を着用して行った。測定時の状況について図1に示す。</p>  <p>図1 歩行速度測定時のスタイル及び測定状況</p>	<p>(3) 歩行速度調査状況</p> <p>検証時の装備は、溢水時の防護具を想定し、黄服、防水型被服、ゴム手袋、全面マスク、胴長靴、ヘルメットの装備を着用して行った。測定時の状況について図1に示す。</p>  <p>図1 歩行速度測定時のスタイル及び測定状況</p>	<p>【大阪】</p> <p><u>設計方針の相違</u>          泊は女川と同様に10m幅のプールにて測定している。</p> <p><u>記載方針の相違</u>          泊では、大阪に記載されている測定時のスタイル及び測定の様子については、女川と同様に図1にまとめて記載している。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																										
	<p>2. 漏えい箇所特定に要する時間について                      (1) 漏えい箇所特定に要する時間の算出                      浸水時の歩行速度を基に、下記条件で漏えい箇所特定に要する時間を算出した結果を表2に示す。</p> <p><b>【条件】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漏えい箇所が特定できていないものとし、<b>建屋全域</b>を確認。</li> <li>・機器配置図より歩行ルートを検討し、距離を算出。</li> <li>・全域に溢水水位 <b>300mm</b> があると仮定</li> </ul> <p>表2 浸水時の漏えい箇所特定に要する時間算出結果</p> <table border="1" data-bbox="703 756 1265 882"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">原子炉建屋</th> <th rowspan="2">制御建屋</th> </tr> <tr> <th>原子炉棟</th> <th>付属棟</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>歩行距離 (m)</td> <td>1475.1</td> <td>921.8</td> <td>645.5</td> </tr> <tr> <td>漏えい箇所特定時間 (min)</td> <td>28</td> <td>18</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table> <p>上記の算出結果より、表7-1～7-3にて整理している漏えい箇所特定に要する時間（原子炉建屋原子炉棟：35分、原子炉建屋付属棟：22分、制御建屋：22分）は十分保守的な設定である。</p>	項目	原子炉建屋		制御建屋	原子炉棟	付属棟	歩行距離 (m)	1475.1	921.8	645.5	漏えい箇所特定時間 (min)	28	18	13	<p>2. 漏えい箇所特定に要する時間について                      (1) 漏えい箇所特定に要する時間の算出                      浸水時の歩行速度を基に、下記条件で漏えい箇所特定に要する時間を算出した結果を表2に示す。</p> <p><b>【条件】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漏えい箇所が特定できていないものとし、<b>破損が想定される系統設置箇所</b>を確認。</li> <li>・機器配置図より歩行ルートを検討し、距離を算出。</li> <li>・全域に溢水水位 <b>50mm</b> があると仮定。</li> </ul> <p>表2 浸水時の漏えい箇所特定に要する時間算出結果</p> <table border="1" data-bbox="1285 767 1854 893"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th>出入管理建屋・電気建屋</th> <th>タービン建屋</th> <th>循環水ポンプ建屋</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>歩行距離 (m)</td> <td>966.4</td> <td>145.8</td> <td>503.2</td> </tr> <tr> <td>漏えい箇所特定時間 (min)</td> <td>16<sup>※1</sup></td> <td>3<sup>※1</sup></td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 出入管理建屋・電気建屋及びタービン建屋の漏えい箇所特定時間は、破損が想定される系統設置箇所の確認に要する時間を測定</p> <p>上記の算出結果より、補足説明資料12「想定破損評価における隔離時間の妥当性について」及び補足説明資料14「地震時溢水評価における隔離時間の妥当性について」にて整理している漏えい箇所特定に要する時間（出入管理建屋・電気建屋：20分、タービン建屋：5分、循環水ポンプ建屋：10分）は十分保守的な設定である。</p> <p>なお、地震時において扉の開放ができない場合等により、漏えい箇所の特定ルートにアクセスできない場合は、破損による漏えいが発生していると判断し、隔離操作箇所への移動に切り替えることとする。この場合の漏えい箇所の特定に要する時間は、上記の時間（出入管理建屋・電気建屋：20分、タービン建屋：5分）を下回ることから、評価では漏えい箇所の特定に要する時間（出入管理建屋・電気建屋：20分、タービン建屋：5分）を考慮する。</p>	項目	出入管理建屋・電気建屋	タービン建屋	循環水ポンプ建屋	歩行距離 (m)	966.4	145.8	503.2	漏えい箇所特定時間 (min)	16 <sup>※1</sup>	3 <sup>※1</sup>	8	<p><b>【女川】</b>  <u>設計方針の相違</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊では、事象の判断時間にて、漏えい系統を特定できている場合は、建屋内で破損が想定される系統が設置されている範囲を確認する。</li> <li>・女川はアクセスルートにおける最大水位が300mmであるのに対して、泊では最大水位が50mmであることによる相違。</li> </ul> <p><b>【女川】</b>  <u>記載方針の相違</u>  <u>記載反映箇所による相違</u>  <u>設計方針の相違</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラント設計の違いによる建屋名称の相違</li> <li>・測定時間の相違</li> <li>・泊では地震時の隔離操作に期待しており、地震時に特定ルートにアクセスできない場合は、破損による漏えいが発生していると判断し、隔離操作場所への移動に切り替える。</li> </ul>
項目	原子炉建屋		制御建屋																										
	原子炉棟	付属棟																											
歩行距離 (m)	1475.1	921.8	645.5																										
漏えい箇所特定時間 (min)	28	18	13																										
項目	出入管理建屋・電気建屋	タービン建屋	循環水ポンプ建屋																										
	歩行距離 (m)	966.4	145.8	503.2																									
漏えい箇所特定時間 (min)	16 <sup>※1</sup>	3 <sup>※1</sup>	8																										



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: center;">添付資料 1.4.1-2 想定破損による溢水影響評価(没水影響評価)</p> <p>高エネルギー配管は、ターミナルエンド部と一般部の完全全周破断を想定し隔離までの時間を適切に設定することで溢水量を算出する。具体的には破損を想定する系統、箇所に対し、異常の検知方法や運転員が事象を判断する際のパラメータ等を整理し、隔離により漏えいを停止するまでの時間の積み上げを行なう。その後、各系統の漏えい流量を乗じて溢水量を算出する。この溢水量に基づき溢水経路図を作成し防護対象設備の機能喪失高さと比較することで没水影響評価を行う。隔離までの時間設定については、異常の検知、事象の判断、漏えい箇所の隔離の3つのステップにおいて一連の隔離シナリオを統一した考え方にに基づき定める。</p>	<p style="text-align: center;">補足説明資料 8</p> <p>想定破損評価における隔離時間の妥当性について</p> <p>1. はじめに                  溢水の発生後、溢水を検知し隔離するまでの隔離時間を手動隔離及び自動隔離について以下のとおり設定した。</p> <p>2. 隔離までの時間設定</p> <p>2.1 自動隔離</p> <p style="color: blue;">以下の系統については、配管破断を検知し、各種インターロック等により自動隔離が期待できることから、溢水発生から隔離までの所要時間を個別に設定した。</p> <p>(1) 給復水系(C_FDW)                  主蒸気トンネル室内の給水系配管が破断すると、主蒸気トンネル室内に蒸気が充満し、『主蒸気トンネル室漏えい』警報が発信し、インターロックにより主蒸気隔離弁が自動閉止する。そのため、隔離時間は『主蒸気トンネル室漏えい』警報が発信するまでの時間(4秒)及び主蒸気隔離弁が閉止するまでの時間(5秒)の合算値に余裕を見て20秒とした。</p> <p>(2) 原子炉冷却材浄化系(CUW)                  原子炉冷却材浄化系の配管が破断すると、系統の入口と出口の差流量を検出し『CUW 系流量大』警報を発信し、インターロックによりポンプ吸込側隔離弁が自動閉止する。そのため、隔離時間は、差流量検出までの時間(15秒)及び隔離弁全閉時間(30秒)の合算値に余裕を見て60秒と設定した。</p>	<p style="text-align: center;">補足説明資料 12</p> <p>想定破損評価における隔離時間の妥当性について</p> <p>1. はじめに                  溢水の発生後、溢水を検知し隔離するまでの隔離時間を手動隔離及び自動隔離について以下のとおり設定した。</p> <p>2. 高エネルギー配管の隔離までの時間設定</p> <p>2.1 自動隔離及び中央制御室内での手動隔離</p> <p style="color: blue;">高エネルギー配管は、ターミナルエンド部と一般部の完全全周破断を想定し隔離までの時間を適切に設定する。具体的には破損を想定する系統、箇所に対し、異常の検知方法や運転員が事象を判断する際のパラメータ等を整理し、隔離により漏えいを停止するまでの時間の積み上げを行う。</p> <p style="color: red;">隔離までの時間設定については、異常の検知、事象の判断、漏えい箇所の隔離の3つのステップにおいて一連の隔離シナリオを統一した考え方にに基づき定める。</p>	<p>【女川】  <a href="#">記載表現の相違</a></p> <p>【女川】  <a href="#">設計方針の相違</a>                  泊では、高エネルギー配管については、自動隔離の他に、検知、事象の判断、漏えい箇所の特定、隔離操作のすべてを中央制御室にて手動で実施するケースがある。これらについては、個別に溢水発生から隔離までの所要時間を設定しており、現場へのアクセスもないことから、自動隔離と併せて記載する。(大飯と同様)  <a href="#">記載方針の相違</a>                  泊では、自動隔離及び中央制御室内での手動隔離について、それぞれの系統について、破断箇所を詳細に設定し、隔離時間の設定、溢水量の算出を行っているため、溢水発生から隔離までの所要時間を表として、設定した破断箇所を図として大飯と同様に示す。(9-別添1-補 12-5 以降)自動隔離について、溢水発生から隔離までの所要時間を個別に設定していることについて、女川との相違はない。</p> <p>【大飯】  <a href="#">記載表現の相違</a>  <a href="#">記載方針の相違</a>                  本資料では、隔離時間の妥当性について記載するため、溢水量の算出、没水評価結果に関する内容は記載しない。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料12）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(1) 異常の検知について</p> <p>配管破断による異常を早期に検知する手段として以下の3つの方法があり、それぞれ警報発信までの時間を設定する。</p> <p>① 区画内に設置された温度センサによる温度高警報（温度検知）</p> <p>② 系統に設置されている圧力計、流量計、水位計等の中央表示値の変化や演算処理による警報（システム検知）</p> <p>③ 床ドレン配管を通して集水される最下層のサンプル水位高警報（サンプル検知）</p> <p>「温度検知」は、高温配管の破断による蒸気の噴出により区画内の温度上昇を早期に検知する手段であり、中央制御室に警報を表示する。「システム検知」は、配管破断による系統の流量や圧力の変化を検知し、中央制御室に警報を表示する。この二つの方法は、破断口径が大きい場合に有効な手段である。</p> <p>一方、破断口径が小さい場合には、流量や圧力の変化が緩やかであるため「システム検知」による警報は表示されず、破断箇所から目皿等へ流れた溢水が最下層のサンプルに集まる「サンプル検知」となる。</p> <div data-bbox="129 826 678 1118" data-label="Diagram"> <p>図1 検知、判断、特定及び隔離時間の考え方</p> </div>		<p>(1) 異常の検知について</p> <p>配管破断による異常を早期に検知する手段として以下の3つの方法があり、それぞれ警報発信までの時間を設定する。</p> <p>① 区画内に設置された温度検出器による温度高警報（温度検知）</p> <p>② 系統に設置されている圧力計、流量計、水位計等の中央表示値の変化や演算処理による警報（システム検知）</p> <p>③ 床ドレン配管を通して集水される最下層のサンプル水位高警報（サンプル検知）</p> <p>「温度検知」は、高温配管の破断による蒸気の噴出により区画内の温度上昇を早期に検知する手段であり、中央制御室に警報を表示する。「システム検知」は、配管破断による系統の流量や圧力の変化を検知し、中央制御室に警報を表示する。この二つの方法は、破断口径が大きい場合に有効な手段である。</p> <p>一方、破断口径が小さい場合には、流量や圧力の変化が緩やかであるため「システム検知」による警報は表示されず、破断箇所から目皿等へ流れた溢水が最下層のサンプルに集まる「サンプル検知」となる。</p>	<p>高エネルギー配管に対する検知の考え方については、炉型が同じ大飯との比較とする。</p> <p>【大飯・伊方】 記載表現の相違</p> <p>【大飯】 記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図1については、(1)から(3)までの内容を含むため、(3)の後に記載する。</li> <li>・本資料では、隔離時間の妥当性について記載するため、漏えい量に関しては、補足説明資料2「保有水量・系統別溢水量算出要領」に記載する。</li> </ul>

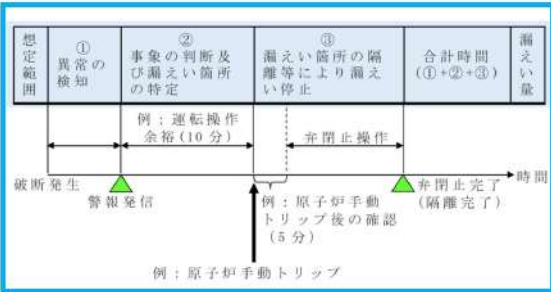
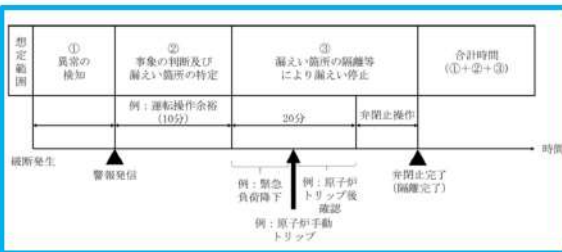


赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(2) 事象の判断及び漏えい箇所の特定について</p> <p>運転員は訓練により、事象の判断及び漏えい箇所の特定を短時間で的確に実施する。中央制御室において漏えい箇所の特定が可能な場合には判断及び特定時間を10分とする。漏えい量が小さく現場での漏えい箇所の確認が必要な場合には、移動の時間も合わせて判断及び特定時間を設定する。運転操作余裕については事象の判断の中を含め、警報発信時から隔離操作開始までの時間として10分以上を確保する。</p> <p>温度センサ警報では異常の検知が行われるが、事象の判断及び漏えい箇所の特定については、圧力計、流量計、水位計等のパラメータの変化を組み合わせて実施する。</p> <p>例えば、主蒸気・主給水管室における枝管の破断の場合、隔離しなければならないループを様々なパラメータから特定した後に原子炉トリップ操作を行い、漏えいを停止させる。</p> <p>また、充てんポンプのミニマムフローラインからの漏えいについては、破断口径が小さいためシステム検知によっても特定することが難しく、サンプの水位高警報により運転員が現場で漏えい箇所を特定する。</p>	<p>【伊方3号炉】</p> <p>まとめ資料 p.9 条-別添1-添5-2より抜粋</p> <p>3.2 事象の判断・漏えい箇所の特定</p> <p>運転員は訓練により、事象の判断及び漏えい箇所の特定を短時間で的確に実施する。中央制御室において漏えい箇所の特定が可能な場合には判断及び特定時間を10分とする。漏えい量が小さく現場での漏えい箇所の確認が必要な場合には、移動の時間も合わせて判断及び特定時間を設定する。運転操作余裕については事象の判断の中を含め、警報発信時から隔離操作開始までの時間として10分以上を確保する。</p> <p>温度センサ警報では異常の検知が行われるが、事象の判断・漏えい箇所の特定については、圧力計、流量計、水位計等のパラメータの変化を組み合わせて実施する。</p> <p>例えば、主蒸気・主給水管室における枝管の破断の場合、隔離しなければならないループを様々なパラメータから特定した後に原子炉トリップ操作を行い、漏えいを停止させる。</p>	<p>(2) 事象の判断及び漏えい箇所の特定について</p> <p>運転員は訓練により、事象の判断及び漏えい箇所の特定を短時間で的確に実施する。中央制御室において漏えい箇所の特定が可能な場合には判断及び特定時間を10分とする。漏えい量が小さく現場での漏えい箇所の確認が必要な場合には、移動の時間も合わせて判断及び特定時間を設定する。運転操作余裕については事象の判断の中を含め、警報発信時から隔離操作開始までの時間として10分以上を確保する。</p> <p>温度検出器警報では異常の検知が行われるが、事象の判断及び漏えい箇所の特定については、圧力計、流量計、水位計等のパラメータの変化を組み合わせて実施する。</p> <p>例えば、主蒸気・主給水管室における枝管の破断の場合、隔離しなければならないループを様々なパラメータから特定した後に原子炉トリップ操作を行い、漏えいを停止させる。</p>	<p>高エネルギー配管に対する検知の考え方については、炉型が同じ大飯との比較とする。</p> <p>【大飯・伊方】 記載表現の相違</p> <p>【大飯・伊方】 記載表現の相違</p> <p>【大飯】 設計方針の相違</p> <p>泊では、ミニマムフローラインからの漏えいについて、充てん流量低警報により検知し、中央制御室からの隔離操作を実施している。 (伊方、川内、玄海と同様)</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料12）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(3) 漏えい箇所の隔離について</p> <p>没水評価の対象となる高エネルギー配管の系統は自動隔離又は中央制御室からの遠隔手動操作により隔離することができる。隔離時間は、操作にかかる時間（以下、操作時間）と停止にかかる時間（以下、停止時間）の合計としている。</p> <p>操作時間は1操作1分とするが、原子炉トリップ操作についてはトリップ後の状況確認のために、全体として5分を確保した。停止時間は弁を閉止する場合、操作時間の1操作1分に含める。一方、ポンプを停止する場合、充てんポンプについては空転時間を考慮し1分とし、主給水ポンプについては出口弁閉止までの5分とした。</p> <p>したがって、隔離時間は弁を閉止する場合は1分、ポンプを停止する場合、充てんポンプは2分、主給水ポンプは6分となる。</p> <p>表1から表8に漏えい停止までの時間設定及び漏えい量とその考え方を示す。</p>		<p>(3) 漏えい箇所の隔離について</p> <p>没水評価の対象となる高エネルギー配管の系統は自動隔離又は中央制御室からの遠隔手動操作により隔離することができる。隔離時間は、操作にかかる時間（以下「操作時間」という）と停止にかかる時間（以下「停止時間」という）の合計としている。</p> <p>操作時間は1操作1分とするが、原子炉トリップ操作についてはトリップ後の状況確認のために、全体として20分を確保した。停止時間は弁を閉止する場合、操作時間の1操作1分に含める。一方、ポンプを停止する場合、充てんポンプについては空転時間を考慮し1分とし、主給水ポンプについては出口弁閉止までの5分とした。</p> <p>したがって、隔離時間は弁を閉止する場合は1分、ポンプを停止する場合、充てんポンプは2分、主給水ポンプは6分となる。</p> <p>図1に検知、判断、特定及び隔離時間の考え方を、表1-1から表1-8に隔離時間の考え方を、図2-1から図2-7にそれぞれの系統の破断箇所を示す。</p>	<p>高エネルギー配管に対する検知の考え方については、炉型が同じ大飯との比較とする。</p> <p>【伊方】  <u>記載表現の相違</u></p> <p>【大飯・伊方】  <u>運用の相違</u></p> <p>泊では、緊急負荷降下後に原子炉トリップ確認することを運転手順書に記載しており、緊急負荷降下の準備連絡に3分、緊急負荷降下に15分、プラントトリップ状態確認に2分の合計20分を要する。</p> <p>【大飯】  <u>記載表現の相違</u></p> <p>手動隔離において、女川の実績を踏襲し、隔離時間という表現を使用している。</p> <p><u>記載方針の相違</u></p> <p>・大飯では、補足資料3-1に破断箇所に関する図を記載しているため、比較対象として、大飯の補足資料3-1の図を大阪発電所3/4号炉の欄に記載する。</p> <p>・図1については、(3)までの内容を含んでいるため、記載箇所を(3)より後に行っている。</p>
<p>【再掲】</p>  <p>図1 検知、判断、特定及び隔離時間の考え方</p>		 <p>図1 検知、判断、特定及び隔離時間の考え方</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料12）

大飯発電所3/4号炉		女川原子力発電所2号炉		泊発電所3号炉		相違理由
表1 漏えい停止までの時間の設定および漏えい量（化学体積制御系） その1						
想定範囲	①異常の検知	②事象の判断及び漏えい箇所の特定	③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止	合計時間 (①+②+③)	漏えい量	
封水注入配管（貫通部～流量計）	<システム検知> 配管破損により、破損側封水注入流量が増加するため、健全側封水注入流量が低下し、封水注入流量低警報が発信（定格流量 1.8m <sup>3</sup> /h に対して低警報が1.5m <sup>3</sup> /h であるため、速やかに警報が発信する） また、封水注入合計流量の増加により、封水注入流量低警報が発信する	以下のパラメータから封水注入流量計上流配管からの漏えいと判断 10分 封水戻り流量、原子炉周辺建屋サンプ水位、RMS 測定値(R-21A/B)、封水注入フィロタ差圧、漏水注意等	中央制御室において、ポンプ封水注入ラインC/V外側隔離弁を遠隔手動閉止 1分	11分	漏えい量 21.8m <sup>3</sup> 封水注入流量 7.2m <sup>3</sup> /h (1ループ当たり 1.8m <sup>3</sup> /h) 11分/60分×7.2m <sup>3</sup> /h = 1.4m <sup>3</sup> 配管保有水量 20.4m <sup>3</sup> 1.4m <sup>3</sup> +20.4m <sup>3</sup> =21.8m <sup>3</sup>	
封水注入配管（流量計～封水注入ライン流量制御弁）	<システム検知> 配管破損により、封水注入流量が低下し、封水注入流量低警報が発信（定格流量 1.8m <sup>3</sup> /h に対して低警報が1.5m <sup>3</sup> /h であるため、速やかに警報が発信する）	以下のパラメータから封水注入流量計下流配管からの漏えいと判断 10分 封水戻り流量、原子炉周辺建屋サンプ水位、RMS 測定値(R-21A/B)、封水注入フィロタ差圧、漏水注意等				
建屋	①異常の検知	②事象の判断及び漏えい箇所の特定	③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止	合計 (①+②+③)		
原子炉建屋	<システム検知> 配管破損により、破損側封水注入流量が増加するため、健全側B、Cーライン流量低警報が発信 1分 (通常の封水注入流量 1.82m <sup>3</sup> /h に対して、低警報は 1.5m <sup>3</sup> /h であるため、速やかに警報が発信する)	以下のパラメータから封水注入流量計上流から封水注入流量計下流までの漏えいと判断 10分 封水戻り流量、原子炉周辺建屋サンプ水位等	中央制御室において、A-1次冷却材ポンプ封水注入ラインC/V外側隔離弁を閉止 2分 (A-1次冷却材ポンプ封水注入ラインC/V外側隔離弁を閉止1分…※1、漏えい継続の場合は1次冷却材ポンプ封水注入流量制御弁を手動閉止1分、合わせて2分)	13分		
原子炉補助建屋	<システム検知> 配管破損により、封水注入流量が低下し、RCP 封水注入ライン流量低警報が発信 1分 (通常の封水注入流量 1.82m <sup>3</sup> /h に対して、低警報は 1.5m <sup>3</sup> /h であるため、速やかに警報が発信する)	以下のパラメータから封水注入流量計上流からの漏えいと判断 10分 封水注入流量、封水戻り流量、補助建屋サンプ水位等	中央制御室において、1次冷却材ポンプ封水注入流量制御弁を手動閉止 1分	12分		
表1-1 漏えい停止までの時間の設定（化学体積制御系） その1						
高エネルギー配管に対する検知の考え方については、炉型が同じ大飯との比較とする。						
【大飯】						
記載表現の相違						
記載方針の相違						
・本資料では、隔離時間の妥当性について記載するため、漏えい量に関しては、補足説明資料2「保有水量・系統別溢水量算出要領」に記載する。						
・女川では隔離時間の設定について、どの建屋であるかを記載しているため、女川審査実績を反映し、建屋名称を記載した。						
設計方針の相違						
プラント設計の違いによる設定時間の相違						



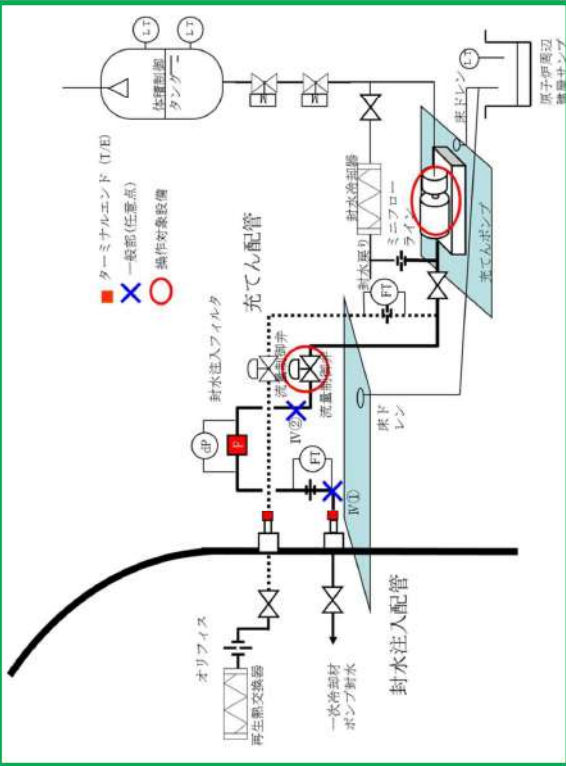
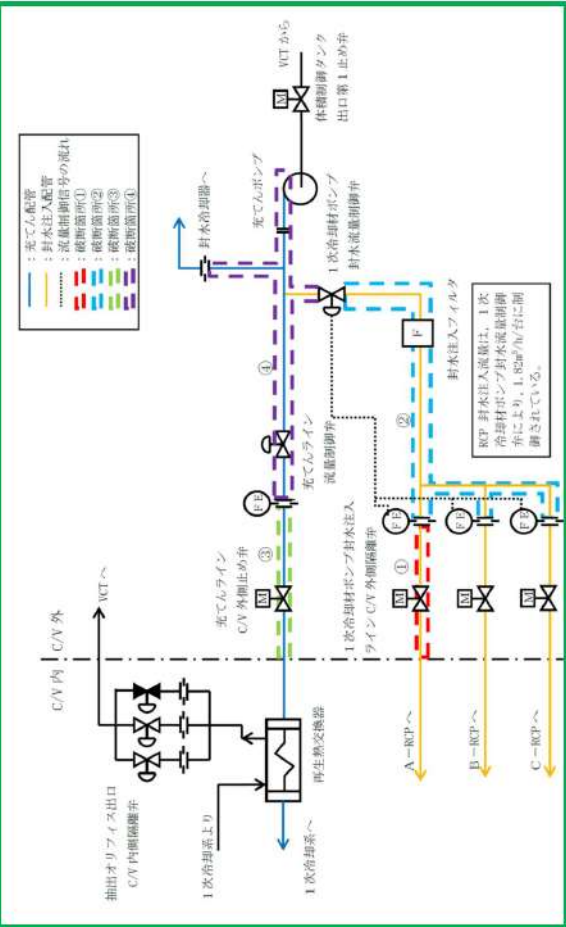
赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉		女川原子力発電所2号炉		泊発電所3号炉		相違理由
表2 漏えい停止までの時間の設定および漏えい量 (化学体積制御系) その2		【玄海3/4号炉】 p.9条-別添1-添3-3より抜粋		表1-2 漏えい停止までの時間の設定 (化学体積制御系) その2		高エネルギー配管に対する検知の考え方については、炉型が同じ大飯との比較とする。 【大飯】 <u>記載表現の相違</u> <u>記載方針の相違</u> ・本資料では、隔離時間の妥当性について記載するため、漏えい量に関しては、補足説明資料2「保有水量・系統別溢水量算出要領」に記載する。 ・女川では隔離時間の設定について、どの建屋であるかを記載しているため、女川審査実績を反映し、建屋名称を記載した。 <u>設計方針の相違</u> ・プラント設計の違いによる設定時間の相違 ・泊では、ミニマムフローラインからの漏えいについて、充てん流量低警報により検知し、中央制御室からの隔離操作を実施している。参考として玄海の充てんラインについての記載を女川欄に記載する。ミニフローラインからの検知に関する記載がないことを確認した。また、事業者内でも伊方、川内、玄海はミニフローラインからの漏えいによる現場での隔離が無いことを確認している。(伊方、川内、玄海と同様)
想定範囲	①異常の検知 <システム検知> 配管破損により、充てん流量が上昇し、充てん流量高警報が発信する。 (通常の高警報28m³/hに対して高警報28m³/hであるため、速やかに警報が発信する) <システム検知> 配管破損により、充てん流量が低下し、充てん流量低警報が発信する。 (通常の高警報28m³/hに対して低警報8m³/hであるため、速やかに警報が発信する)	①異常の検知 <システム検知> 配管破損により、充てん流量が上昇し、充てん流量高警報が発信する。 (通常の高警報28m³/hに対して高警報28m³/hであるため、速やかに警報が発信する) <システム検知> 配管破損により、充てん流量が低下し、充てん流量低警報が発信する。 (通常の高警報28m³/hに対して低警報8m³/hであるため、速やかに警報が発信する)	①異常の検知 <システム検知> 配管破損により、充てん流量が上昇し、充てん流量高警報が発信する。 (通常の高警報28m³/hに対して高警報28m³/hであるため、速やかに警報が発信する) <システム検知> 配管破損により、充てん流量が低下し、充てん流量低警報が発信する。 (通常の高警報28m³/hに対して低警報8m³/hであるため、速やかに警報が発信する)	①異常の検知 <システム検知> 配管破損により、充てん流量が上昇し、充てん流量高警報が発信する。 (通常の高警報28m³/hに対して高警報28m³/hであるため、速やかに警報が発信する) <システム検知> 配管破損により、充てん流量が低下し、充てん流量低警報が発信する。 (通常の高警報28m³/hに対して低警報8m³/hであるため、速やかに警報が発信する)	①異常の検知 <システム検知> 配管破損により、充てん流量が上昇し、充てん流量高警報が発信する。 (通常の高警報28m³/hに対して高警報28m³/hであるため、速やかに警報が発信する) <システム検知> 配管破損により、充てん流量が低下し、充てん流量低警報が発信する。 (通常の高警報28m³/hに対して低警報8m³/hであるため、速やかに警報が発信する)	
検知範囲	②事象の発生時間 (異常の検知手段) ①東京の検知時間 (異常の検知手段) ②事象発生時間 (異常の検知手段) ③事象発生時間 (異常の検知手段) ④事象発生時間 (異常の検知手段) ⑤事象発生時間 (異常の検知手段) ⑥事象発生時間 (異常の検知手段) ⑦事象発生時間 (異常の検知手段)	②事象の発生時間 (異常の検知手段) ①東京の検知時間 (異常の検知手段) ②事象発生時間 (異常の検知手段) ③事象発生時間 (異常の検知手段) ④事象発生時間 (異常の検知手段) ⑤事象発生時間 (異常の検知手段) ⑥事象発生時間 (異常の検知手段) ⑦事象発生時間 (異常の検知手段)	②事象の発生時間 (異常の検知手段) ①東京の検知時間 (異常の検知手段) ②事象発生時間 (異常の検知手段) ③事象発生時間 (異常の検知手段) ④事象発生時間 (異常の検知手段) ⑤事象発生時間 (異常の検知手段) ⑥事象発生時間 (異常の検知手段) ⑦事象発生時間 (異常の検知手段)	②事象の発生時間 (異常の検知手段) ①東京の検知時間 (異常の検知手段) ②事象発生時間 (異常の検知手段) ③事象発生時間 (異常の検知手段) ④事象発生時間 (異常の検知手段) ⑤事象発生時間 (異常の検知手段) ⑥事象発生時間 (異常の検知手段) ⑦事象発生時間 (異常の検知手段)	②事象の発生時間 (異常の検知手段) ①東京の検知時間 (異常の検知手段) ②事象発生時間 (異常の検知手段) ③事象発生時間 (異常の検知手段) ④事象発生時間 (異常の検知手段) ⑤事象発生時間 (異常の検知手段) ⑥事象発生時間 (異常の検知手段) ⑦事象発生時間 (異常の検知手段)	
漏えい量	③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止 中央制御室において、充てん流量制御弁を遠隔手動閉止1分 又は、充てん流量制御弁を遠隔手動閉止2分 (操作1分、停止1分、合わせて2分)	③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止 中央制御室において、充てん流量制御弁を遠隔手動閉止1分 又は、充てん流量制御弁を遠隔手動閉止2分 (操作1分、停止1分、合わせて2分)	③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止 中央制御室において、充てん流量制御弁を遠隔手動閉止1分 又は、充てん流量制御弁を遠隔手動閉止2分 (操作1分、停止1分、合わせて2分)	③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止 中央制御室において、充てん流量制御弁を遠隔手動閉止1分 又は、充てん流量制御弁を遠隔手動閉止2分 (操作1分、停止1分、合わせて2分)	③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止 中央制御室において、充てん流量制御弁を遠隔手動閉止1分 又は、充てん流量制御弁を遠隔手動閉止2分 (操作1分、停止1分、合わせて2分)	
合計時間 (①+②+③)	15分	107分	15分	15分	15分	
漏えい量	充てんポンプのランナウト流量 56.8m³/h 12分(60分)×56.8m³/h=11.4m³ 配管保有水量 20.4m³ 11.4m³+20.4m³=31.8m³	充てんポンプのミニマムフローライン流量 13.6m³/h 107分(60分)×13.6m³/h=24.3m³ 配管保有水量 20.4m³ 24.3m³+20.4m³=44.7m³	充てんポンプのランナウト流量 68m³/h 15分(60分)×68m³/h=14.8m³ 配管保有水量 20.4m³ 14.8m³+20.4m³=35.2m³	充てんポンプのランナウト流量 68m³/h 15分(60分)×68m³/h=14.8m³ 配管保有水量 20.4m³ 14.8m³+20.4m³=35.2m³	充てんポンプのランナウト流量 68m³/h 15分(60分)×68m³/h=14.8m³ 配管保有水量 20.4m³ 14.8m³+20.4m³=35.2m³	



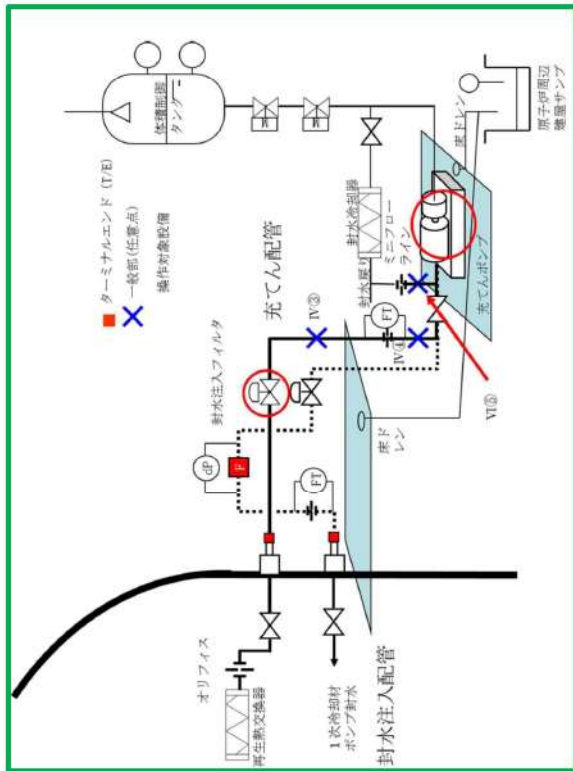
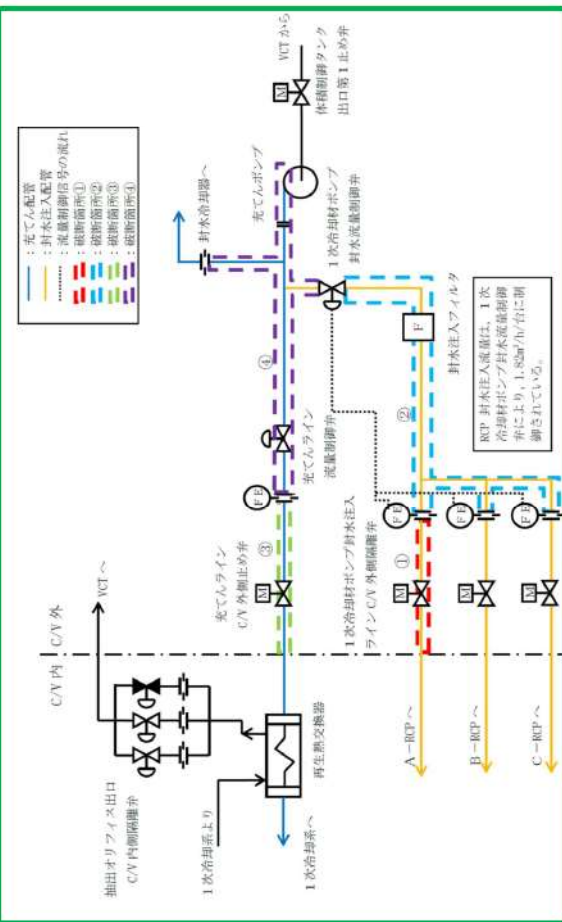
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料12）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">補足資料</p> <p>3-1 想定破損における溢水量の算出について</p> <p style="text-align: right;">別紙3</p>  <p>図1 化学体積制御系（封水注入配管、充てん配管）の系統概要              （表1該当箇所）</p>		 <p>図2-1 化学体積制御系（封水注入配管、充てん配管）の系統概要</p>	<p>高エネルギー配管に対する検知の考え方については、炉型が同じ大飯との比較とする。</p> <p>【大飯】  <u>記載表現の相違</u>  <u>記載方針の相違</u>              大飯では、表1と表2の内容ごとに図を分けているが、泊では表1-1と表1-2を合わせて図2-1に記載する。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料12）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">補足資料</p> <p>3-1 想定破損における溢水量の算出について</p> <p style="text-align: right;">別紙4</p>  <p>図1 化学体積制御系（封水注入配管、充てん配管）の系統概要（表2該当箇所）</p>		<p>【再掲】</p>  <p>図2-1 化学体積制御系（封水注入配管、充てん配管）の系統概要</p>	<p>高エネルギー配管に対する検知の考え方については、炉型が同じ大飯との比較とする。</p> <p>【大飯】</p> <p>記載表現の相違                  記載方針の相違</p> <p>大飯では、表1と表2の内容ごとに図を分けているが、泊では表1-1と表1-2を合わせて図2-1に記載する。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料12）

大飯発電所3/4号炉		女川原子力発電所2号炉		泊発電所3号炉		相違理由
<p>表3 漏えい停止までの時間の設定および漏えい量（化学体積制御系） その3</p>						
想定範囲	抽出配管/非再生冷却器入口（直通部）～非再生冷却器	抽出配管/非再生冷却器出口（非再生冷却器～圧力制御弁）	抽出配管/非再生冷却器入口（直通部）～非再生冷却器	抽出配管/非再生冷却器出口（非再生冷却器～圧力制御弁）	抽出配管/非再生冷却器入口（直通部）～非再生冷却器	抽出配管/非再生冷却器出口（非再生冷却器～圧力制御弁）
①異常の検知	<システム検知> 配管破損によりVCT(11.3m <sup>3</sup> )の保有水が減少しVCT水位が低下する。 VCT水位高警報(55%±1.5%)から原子炉補給開始水位(24%±1.5%)まで水位が低下し原子炉補給水開始音が発信 11.3m <sup>3</sup> ×(56.5%-22.5%)/100%÷32.0m <sup>3</sup> /h×60分=7.2-8.4分	②事象の判断及び漏えい箇所の特定 以下のパラメータから抽出ラインからの漏えいと判断 10分 温度センサ高警報、充てんポンプトリップ、加圧器水位、VCT水位、原子炉周辺建屋サンプリング測定値(R-21A/B)、漏水注管等	①異常の検知 <システム検知> 配管破損によりVCT(0.0780m <sup>3</sup> /%)の保有水が減少しVCT水位が低下する。VCT通常水位(60+5%)から原子炉補給開始水位(36-5%)まで水位が低下し、原子炉補給水制御が自動の場合には自動補給開始音吹鳴、原子炉補給水制御が自動(自動以外)(L120)警報が発信 0.0780m <sup>3</sup> /%×(65%-31%)÷32.1m <sup>3</sup> /h×60分=5.5分	②事象の判断及び漏えい箇所の特定 以下のパラメータから抽出ラインからの漏えいと判断 10分 加圧器水位、VCT水位、原子炉補助建屋サンプリング水位等	③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止 中央制御室において、抽出オリフィス出口及びA内側隔離弁を手動閉止 1分	合計時間 (①+②+③) 19分
漏えい量	漏えい量21.0m <sup>3</sup> オリフィスによる制限流量32.0m <sup>3</sup> /h 19分/60分×32.0m <sup>3</sup> /h=10.2m <sup>3</sup> 配管保有水量10.8m <sup>3</sup> 10.2m <sup>3</sup> +10.8m <sup>3</sup> =21.0m <sup>3</sup>		漏えい量21.0m <sup>3</sup> オリフィスによる制限流量32.0m <sup>3</sup> /h 19分/60分×32.0m <sup>3</sup> /h=10.2m <sup>3</sup> 配管保有水量10.8m <sup>3</sup> 10.2m <sup>3</sup> +10.8m <sup>3</sup> =21.0m <sup>3</sup>		合計時間 (①+②+③) 19分	合計時間 (①+②+③) 16分
建屋	原子炉建屋		原子炉建屋		原子炉建屋	原子炉建屋
<p>表1-3 漏えい停止までの時間の設定（化学体積制御系） その3</p>						
<p>高エネルギー配管に対する検知の考え方については、炉型が同じ大飯との比較とする。</p> <p>【大飯】  <a href="#">記載表現の相違</a>  <a href="#">記載方針の相違</a>                      本資料では、隔離時間の妥当性について記載するため、漏えい量に関しては、補足説明資料2「保有水量・系統別溢水量算出要領」に記載する。  <a href="#">設計方針の相違</a>                      プラント設計の違いによる設定時間の相違</p>						

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料12）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>補足資料                      3-1 想定破損における溢水量の算出について                      別紙7</p> <p>図1 化学体積制御系（抽出配管／非再生冷却器出口、入口）の系統概要</p>	<p>図2-1 化学体積制御系（抽出配管／非再生冷却器出口、入口）の系統概要</p>	<p>図2-2 化学体積制御系（抽出配管／非再生冷却器出口、入口）の系統概要</p>	<p>高エネルギー配管に対する検知の考え方については、炉型が同じ大飯との比較とする。</p> <p>【大飯】  <a href="#">記載表現の相違</a></p>

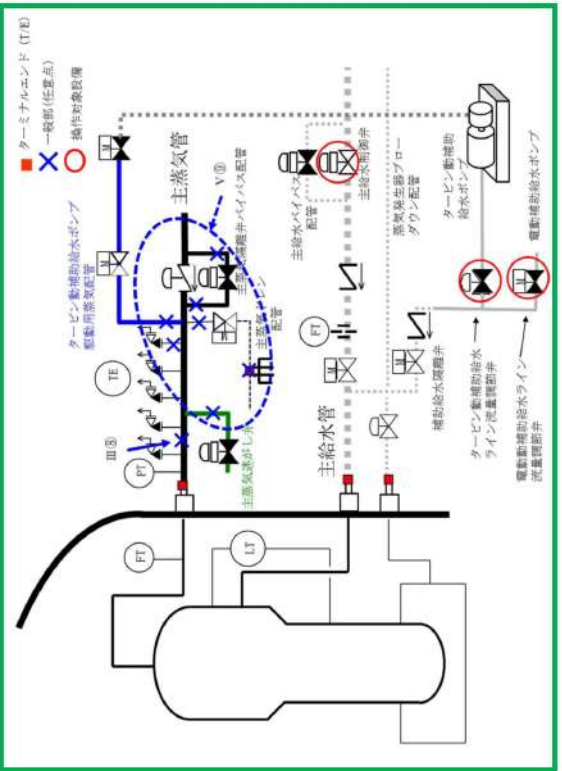
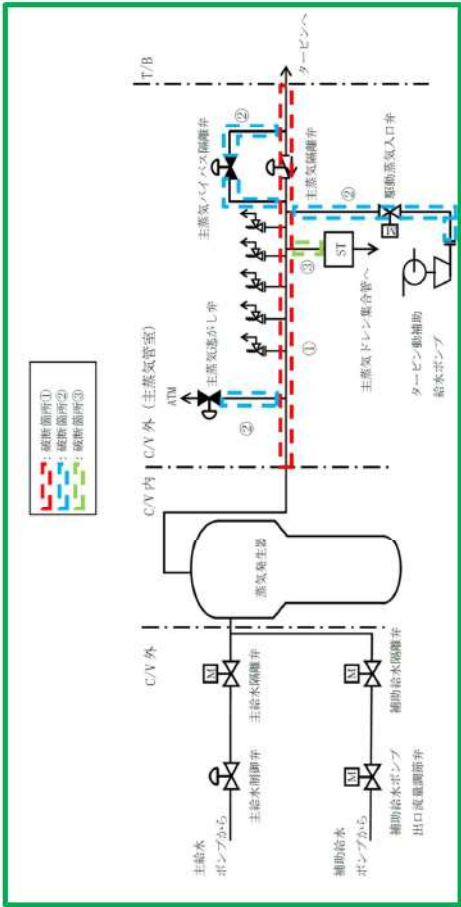


赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																				
<p>表4 漏えい停止までの時間の設定及び漏えい量 (主蒸気系)</p>		<p>表1-4 漏えい停止までの時間の設定 (主蒸気系)</p>																																					
<table border="1"> <tr> <th>想定範囲</th> <th>①異常の検知</th> <th>②事象の判断及び漏えい量の推定</th> <th>③漏えい源の隔離等により漏えい停止</th> <th>合計時間 (1分+2分)</th> <th>漏えい量</th> </tr> <tr> <td>主蒸気管</td> <td>                     &lt;システム検知&gt;                      主蒸気ライン圧力低により中央制御室に警報が発信                      2秒                      また、主蒸気ライン圧力低(S+RT)により、主給水制御弁が自動閉止                      10秒                 </td> <td>                     以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定                      10分                      SG 水位異常、SG 流量異常、主蒸気ライン圧力低、主蒸気・主給水配管至漏度等                 </td> <td>                     中央制御室において、原予知トリップ操作を行い、トリップ後の状態を確認                      その後、電動補助給水ライン流量調節弁を遠隔手動閉止する。                      2分(1分/側)                 </td> <td>12分2秒</td> <td>                     漏えい量 172.7m<sup>3</sup>                      主給水流量 2030m<sup>3</sup>/h                      補助給水流量 430m<sup>3</sup>/h                      10秒/3600秒×2030m<sup>3</sup>/h + 12分/60分×430m<sup>3</sup>/h = 91.7m<sup>3</sup>                      配管保有水量 15m<sup>3</sup>                      蒸気発生器保有水量 60m<sup>3</sup>                      91.7+15+60=172.7m<sup>3</sup> </td> </tr> <tr> <td>主蒸気管がし弁、主蒸気管調節弁、バイパス配管 (主蒸気管分岐～隔離弁)、主蒸気管分岐管 (一般部)、タービン補助給水ライン配管 (タービン補助給水ポンプ駆動用蒸気配管、給水ポンプ分岐～隔離弁～ED)</td> <td>                     &lt;システム検知&gt;                      主給水流量と主蒸気流量の不一致警報が中央制御室に発信                      10分                 </td> <td>                     以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定                      10分                      SG 水位異常、SG 流量異常、主蒸気・主給水配管至漏度高警報等                 </td> <td>                     中央制御室において原予知トリップ操作を行い、トリップ後の状態を確認                      その後、電動補助給水ライン流量調節弁を遠隔手動閉止する。                      2分                      トリップ後の状況確認 5分、操作 2分(1分/側)合わせて7分                      また、原子炉手動トリップ操作後約60秒で原予知トリップし、新設開閉+Toxg 低により、主給水制御弁が自動閉止                      60秒                 </td> <td>17分</td> <td>                     添付「主蒸気管の異常な増量」(2030m<sup>3</sup>/h×4ルーブ×10% = 812m<sup>3</sup>/h)では、2次系弁 (主蒸気管がし弁、タービンバイパス弁等) の1弁の閉鎖を包括しているため、812m<sup>3</sup>/hを保守的に使用                      補助給水流量 430m<sup>3</sup>/h                      11分/60分×812m<sup>3</sup>/h + 7分/60分×430m<sup>3</sup>/h = 199.1m<sup>3</sup>                      配管保有水量 15m<sup>3</sup>                      蒸気発生器保有水量 60m<sup>3</sup>                      199.1+15+60=280.1m<sup>3</sup>                      蒸気発生器(110分+60秒)                 </td> </tr> </table>	想定範囲	①異常の検知	②事象の判断及び漏えい量の推定	③漏えい源の隔離等により漏えい停止	合計時間 (1分+2分)	漏えい量	主蒸気管	<システム検知> 主蒸気ライン圧力低により中央制御室に警報が発信 2秒 また、主蒸気ライン圧力低(S+RT)により、主給水制御弁が自動閉止 10秒	以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位異常、SG 流量異常、主蒸気ライン圧力低、主蒸気・主給水配管至漏度等	中央制御室において、原予知トリップ操作を行い、トリップ後の状態を確認 その後、電動補助給水ライン流量調節弁を遠隔手動閉止する。 2分(1分/側)	12分2秒	漏えい量 172.7m <sup>3</sup> 主給水流量 2030m <sup>3</sup> /h 補助給水流量 430m <sup>3</sup> /h 10秒/3600秒×2030m <sup>3</sup> /h + 12分/60分×430m <sup>3</sup> /h = 91.7m <sup>3</sup> 配管保有水量 15m <sup>3</sup> 蒸気発生器保有水量 60m <sup>3</sup> 91.7+15+60=172.7m <sup>3</sup>	主蒸気管がし弁、主蒸気管調節弁、バイパス配管 (主蒸気管分岐～隔離弁)、主蒸気管分岐管 (一般部)、タービン補助給水ライン配管 (タービン補助給水ポンプ駆動用蒸気配管、給水ポンプ分岐～隔離弁～ED)	<システム検知> 主給水流量と主蒸気流量の不一致警報が中央制御室に発信 10分	以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位異常、SG 流量異常、主蒸気・主給水配管至漏度高警報等	中央制御室において原予知トリップ操作を行い、トリップ後の状態を確認 その後、電動補助給水ライン流量調節弁を遠隔手動閉止する。 2分 トリップ後の状況確認 5分、操作 2分(1分/側)合わせて7分 また、原子炉手動トリップ操作後約60秒で原予知トリップし、新設開閉+Toxg 低により、主給水制御弁が自動閉止 60秒	17分	添付「主蒸気管の異常な増量」(2030m <sup>3</sup> /h×4ルーブ×10% = 812m <sup>3</sup> /h)では、2次系弁 (主蒸気管がし弁、タービンバイパス弁等) の1弁の閉鎖を包括しているため、812m <sup>3</sup> /hを保守的に使用 補助給水流量 430m <sup>3</sup> /h 11分/60分×812m <sup>3</sup> /h + 7分/60分×430m <sup>3</sup> /h = 199.1m <sup>3</sup> 配管保有水量 15m <sup>3</sup> 蒸気発生器保有水量 60m <sup>3</sup> 199.1+15+60=280.1m <sup>3</sup> 蒸気発生器(110分+60秒)		<table border="1"> <tr> <th>想定範囲</th> <th>①異常の検知</th> <th>②事象の判断及び漏えい量の推定</th> <th>③漏えい源の隔離等により漏えい停止</th> <th>合計時間 (1分+2分+3分)</th> <th>漏えい量</th> </tr> <tr> <td>①主蒸気管</td> <td>                     &lt;システム検知&gt;                      主蒸気ライン圧力低、EOS 作動による原子炉トリップ 2秒                      また、主蒸気ライン圧力低により、主給水制御弁が自動閉止 9秒                      1分                 </td> <td>                     以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定                      10分                      SG 水位異常、SG 流量異常、主蒸気ライン圧力低等                 </td> <td>                     中央制御室において、補助給水制御弁、補助給水ポンプ出口流量調節弁を手動閉止                      2分                 </td> <td>13分</td> <td>35分</td> </tr> <tr> <td>②主蒸気管がし弁、主蒸気管調節弁、タービン補助給水ライン配管 (タービン補助給水ポンプ駆動用蒸気配管、給水ポンプ分岐～隔離弁)</td> <td>                     &lt;システム検知&gt;                      主給水流量と主蒸気流量の不一致警報が発信                      10分                      また、主蒸気ライン圧力低(S+RT)により、主給水制御弁が自動閉止                      10秒                      1分                 </td> <td>                     以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定                      10分                      SG 水位異常、SG 流量異常、主蒸気・主給水配管至漏度等                 </td> <td>                     中央制御室において緊急気筒下の蒸気ライン流量調節弁、主給水制御弁、タービン補助給水ポンプ出口流量調節弁を手動閉止                      2分                      トリップ後の状況確認 5分、操作 2分(1分/側)合わせて7分                      また、原子炉手動トリップ操作後約60秒で原予知トリップし、新設開閉+Toxg 低により、主給水制御弁が自動閉止                      60秒                 </td> <td>39分</td> <td>                     ① 主給水ラインの閉鎖までの時間 35分                      ② プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ③ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ④ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ⑤ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ⑥ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ⑦ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ⑧ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ⑨ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ⑩ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ⑪ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ⑫ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ⑬ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ⑭ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ⑮ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ⑯ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ⑰ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ⑱ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ⑲ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ⑳ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ㉑ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ㉒ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ㉓ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ㉔ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ㉕ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ㉖ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ㉗ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ㉘ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ㉙ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ㉚ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ㉛ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ㉜ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ㉝ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ㉞ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ㉟ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ㊱ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ㊲ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ㊳ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ㊴ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ㊵ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ㊶ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ㊷ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ㊸ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ㊹ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ㊺ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ㊻ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ㊼ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ㊽ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ㊾ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                      ㊿ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分                 </td> </tr> </table>	想定範囲	①異常の検知	②事象の判断及び漏えい量の推定	③漏えい源の隔離等により漏えい停止	合計時間 (1分+2分+3分)	漏えい量	①主蒸気管	<システム検知> 主蒸気ライン圧力低、EOS 作動による原子炉トリップ 2秒 また、主蒸気ライン圧力低により、主給水制御弁が自動閉止 9秒 1分	以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位異常、SG 流量異常、主蒸気ライン圧力低等	中央制御室において、補助給水制御弁、補助給水ポンプ出口流量調節弁を手動閉止 2分	13分	35分	②主蒸気管がし弁、主蒸気管調節弁、タービン補助給水ライン配管 (タービン補助給水ポンプ駆動用蒸気配管、給水ポンプ分岐～隔離弁)	<システム検知> 主給水流量と主蒸気流量の不一致警報が発信 10分 また、主蒸気ライン圧力低(S+RT)により、主給水制御弁が自動閉止 10秒 1分	以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位異常、SG 流量異常、主蒸気・主給水配管至漏度等	中央制御室において緊急気筒下の蒸気ライン流量調節弁、主給水制御弁、タービン補助給水ポンプ出口流量調節弁を手動閉止 2分 トリップ後の状況確認 5分、操作 2分(1分/側)合わせて7分 また、原子炉手動トリップ操作後約60秒で原予知トリップし、新設開閉+Toxg 低により、主給水制御弁が自動閉止 60秒	39分	① 主給水ラインの閉鎖までの時間 35分 ② プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ③ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ④ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ⑤ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ⑥ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ⑦ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ⑧ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ⑨ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ⑩ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ⑪ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ⑫ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ⑬ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ⑭ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ⑮ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ⑯ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ⑰ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ⑱ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ⑲ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ⑳ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㉑ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㉒ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㉓ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㉔ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㉕ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㉖ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㉗ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㉘ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㉙ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㉚ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㉛ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㉜ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㉝ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㉞ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㉟ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㊱ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㊲ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㊳ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㊴ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㊵ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㊶ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㊷ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㊸ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㊹ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㊺ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㊻ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㊼ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㊽ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㊾ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㊿ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分	<p>高エネルギー配管に対する検知の考え方については、炉型が同じ大飯との比較とする。</p> <p>【大飯】  <u>記載表現の相違</u>          本資料では、隔離時間の妥当性について記載するため、漏えい量に関しては、補足説明資料2「保有水量・系統別溢水量算出要領」に記載する。  <u>設計方針の相違</u>          プラント設計の違いによる設定時間の相違</p>
想定範囲	①異常の検知	②事象の判断及び漏えい量の推定	③漏えい源の隔離等により漏えい停止	合計時間 (1分+2分)	漏えい量																																		
主蒸気管	<システム検知> 主蒸気ライン圧力低により中央制御室に警報が発信 2秒 また、主蒸気ライン圧力低(S+RT)により、主給水制御弁が自動閉止 10秒	以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位異常、SG 流量異常、主蒸気ライン圧力低、主蒸気・主給水配管至漏度等	中央制御室において、原予知トリップ操作を行い、トリップ後の状態を確認 その後、電動補助給水ライン流量調節弁を遠隔手動閉止する。 2分(1分/側)	12分2秒	漏えい量 172.7m <sup>3</sup> 主給水流量 2030m <sup>3</sup> /h 補助給水流量 430m <sup>3</sup> /h 10秒/3600秒×2030m <sup>3</sup> /h + 12分/60分×430m <sup>3</sup> /h = 91.7m <sup>3</sup> 配管保有水量 15m <sup>3</sup> 蒸気発生器保有水量 60m <sup>3</sup> 91.7+15+60=172.7m <sup>3</sup>																																		
主蒸気管がし弁、主蒸気管調節弁、バイパス配管 (主蒸気管分岐～隔離弁)、主蒸気管分岐管 (一般部)、タービン補助給水ライン配管 (タービン補助給水ポンプ駆動用蒸気配管、給水ポンプ分岐～隔離弁～ED)	<システム検知> 主給水流量と主蒸気流量の不一致警報が中央制御室に発信 10分	以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位異常、SG 流量異常、主蒸気・主給水配管至漏度高警報等	中央制御室において原予知トリップ操作を行い、トリップ後の状態を確認 その後、電動補助給水ライン流量調節弁を遠隔手動閉止する。 2分 トリップ後の状況確認 5分、操作 2分(1分/側)合わせて7分 また、原子炉手動トリップ操作後約60秒で原予知トリップし、新設開閉+Toxg 低により、主給水制御弁が自動閉止 60秒	17分	添付「主蒸気管の異常な増量」(2030m <sup>3</sup> /h×4ルーブ×10% = 812m <sup>3</sup> /h)では、2次系弁 (主蒸気管がし弁、タービンバイパス弁等) の1弁の閉鎖を包括しているため、812m <sup>3</sup> /hを保守的に使用 補助給水流量 430m <sup>3</sup> /h 11分/60分×812m <sup>3</sup> /h + 7分/60分×430m <sup>3</sup> /h = 199.1m <sup>3</sup> 配管保有水量 15m <sup>3</sup> 蒸気発生器保有水量 60m <sup>3</sup> 199.1+15+60=280.1m <sup>3</sup> 蒸気発生器(110分+60秒)																																		
想定範囲	①異常の検知	②事象の判断及び漏えい量の推定	③漏えい源の隔離等により漏えい停止	合計時間 (1分+2分+3分)	漏えい量																																		
①主蒸気管	<システム検知> 主蒸気ライン圧力低、EOS 作動による原子炉トリップ 2秒 また、主蒸気ライン圧力低により、主給水制御弁が自動閉止 9秒 1分	以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位異常、SG 流量異常、主蒸気ライン圧力低等	中央制御室において、補助給水制御弁、補助給水ポンプ出口流量調節弁を手動閉止 2分	13分	35分																																		
②主蒸気管がし弁、主蒸気管調節弁、タービン補助給水ライン配管 (タービン補助給水ポンプ駆動用蒸気配管、給水ポンプ分岐～隔離弁)	<システム検知> 主給水流量と主蒸気流量の不一致警報が発信 10分 また、主蒸気ライン圧力低(S+RT)により、主給水制御弁が自動閉止 10秒 1分	以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位異常、SG 流量異常、主蒸気・主給水配管至漏度等	中央制御室において緊急気筒下の蒸気ライン流量調節弁、主給水制御弁、タービン補助給水ポンプ出口流量調節弁を手動閉止 2分 トリップ後の状況確認 5分、操作 2分(1分/側)合わせて7分 また、原子炉手動トリップ操作後約60秒で原予知トリップし、新設開閉+Toxg 低により、主給水制御弁が自動閉止 60秒	39分	① 主給水ラインの閉鎖までの時間 35分 ② プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ③ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ④ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ⑤ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ⑥ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ⑦ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ⑧ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ⑨ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ⑩ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ⑪ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ⑫ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ⑬ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ⑭ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ⑮ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ⑯ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ⑰ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ⑱ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ⑲ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ⑳ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㉑ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㉒ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㉓ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㉔ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㉕ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㉖ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㉗ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㉘ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㉙ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㉚ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㉛ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㉜ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㉝ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㉞ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㉟ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㊱ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㊲ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㊳ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㊴ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㊵ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㊶ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㊷ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㊸ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㊹ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㊺ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㊻ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㊼ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㊽ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㊾ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分 ㊿ プラントトリップによる補助給水ラインの閉鎖までの時間 6分																																		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料12）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>補足資料 3-1 想定破損における溢水量の算出について 別紙8</p>  <p>図1 主蒸気系の系統概要</p>		 <p>図2-3 主蒸気系の系統概要</p>	<p>高エネルギー配管に対する検知の考え方については、炉型が同じ大飯との比較とする。</p> <p>【大飯】 記載表現の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉		女川原子力発電所2号炉		泊発電所3号炉		相違理由
<p>表5 漏えい停止までの時間の設定及び漏えい量 (主給水系) (1/2)</p>						
想定範囲	①異常の検知	②事象の判断及び漏えい箇所の特定	③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止	合計時間 (①+②+③)	漏えい量	
主給水管 (貫通部～逆止弁)	<p>&lt;システム検知&gt; 主蒸気ライン圧力低により中央制御室に警報発信 8秒 また、主蒸気ライン圧力低(S+RT)により主給水制御弁自動閉止 15秒</p>	<p>以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位偏差、SG 流量偏差、主蒸気ライン圧力低、主蒸気・主給水配管室温度等</p>	<p>中央制御室において、電動補助給水ライン流量調節弁、タービン動補給水ライン流量調節弁を遠隔手動閉止 2分(1分/側)</p>	12分8秒	<p>漏えい量175.5m<sup>3</sup> 主給水流量 2030m<sup>3</sup>/h 補助給水流量 430m<sup>3</sup>/h 15秒/3600秒×2030m<sup>3</sup>/h +12分/60分×430m<sup>3</sup>/h = 94.5m<sup>3</sup> 配管保有水量 15m<sup>3</sup> 蒸気発生器保有水量 66m<sup>3</sup> 94.5+15+66=175.5m<sup>3</sup></p>	
主給水管 (逆止弁～上流)	<p>&lt;システム検知&gt; SG 水位低による原子炉トリップ 50秒 また、Iavg 低による主給水制御弁の自動閉止 110秒</p>	<p>自動隔離のため判断時間なし 0分</p>	<p>自動隔離のため操作時間なし 0分</p>	110秒	<p>漏えい量77.1m<sup>3</sup> 主給水流量 2030m<sup>3</sup>/h 110秒/3600秒×2030m<sup>3</sup>/h = 62.1m<sup>3</sup> 配管保有水 15m<sup>3</sup> 62.1+15=77.1m<sup>3</sup></p>	
<p>表1-5 漏えい停止までの時間の設定 (主給水系)</p>						
建屋	想定範囲	①異常の検知	②事象の相違及び漏えい箇所の特定	③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止	合計 (①+②+③)	
原子炉建屋	①主給水管 (貫通部～主給水隔離弁)	<p>&lt;システム検知&gt; 主蒸気ライン圧力低 RCS 作動による原子炉トリップ 7秒 また、主蒸気ライン圧力低により、主給水隔離弁自動隔離 14秒 1分</p>	<p>以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位偏差、SG 流量偏差、SG 流量偏差、主蒸気・主給水配管室温度等</p>	<p>中央制御室において、補助給水隔離弁、補助給水ポンプ出口流量調節弁を手動閉止 2分</p>	13分	
	②主給水管 (主給水隔離弁～逆止弁)	<p>&lt;システム検知&gt; 主蒸気ライン圧力低 RCS 作動による原子炉トリップ 1秒 1分</p>	<p>主給水ライン漏えいと特定 自動隔離のための、事象判断時間は考慮しない</p>	<p>主蒸気ライン圧力低により主給水制御弁、主給水隔離弁自動隔離 0分 また、主蒸気ライン圧力低により主給水制御弁、主給水隔離弁自動隔離 7秒 ※検知時間の1分に包絡されるため考慮しない</p>	1分	
	③主給水管 (逆止弁～主給水制御弁、主給水ハイパス制御弁)	<p>&lt;システム検知&gt; SG 水位低による原子炉トリップ 39秒 1分</p>	<p>以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位偏差、SG 流量偏差、SG 水位低による原子炉トリップ等</p>	<p>中央制御室において、主給水制御弁、主給水隔離弁を手動閉止 2分</p>	13分	
	④主給水管 (主給水制御弁、主給水ハイパス制御弁)	<p>&lt;システム検知&gt; SG 水位低による原子炉トリップ 39秒 1分</p>	<p>以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位偏差、SG 流量偏差、SG 水位低による原子炉トリップ等</p>	<p>中央制御室において、主給水ポンプ2台を遠隔手動閉止、ポンプ出口弁自動閉止時間 1分 また、中央制御室において、主給水ポンプ2台を遠隔手動閉止 2分 (1分×2台)、ポンプ出口弁自動閉止時間 5分、合わせて7分</p>	18分	
<p>高エネルギー配管に対する検知の考え方については、炉型が同じ大飯との比較とする。</p> <p>【大飯】  <a href="#">記載表現の相違</a>  <a href="#">記載方針の相違</a>                      本資料では、隔離時間の妥当性について記載するため、漏えい量に関しては、補足説明資料2「保有水量・系統別溢水量算出要領」に記載する。  <a href="#">設計方針の相違</a>                      プラント設計の違いによる設定時間の相違</p>						

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

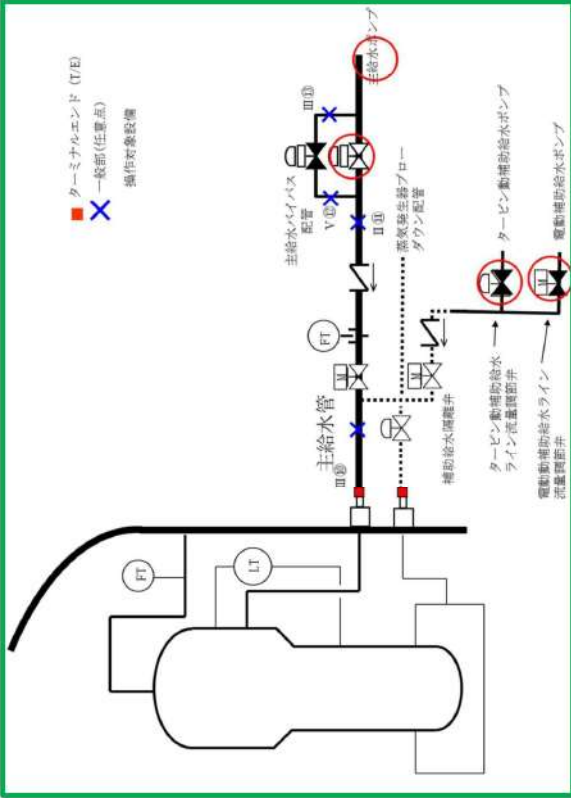
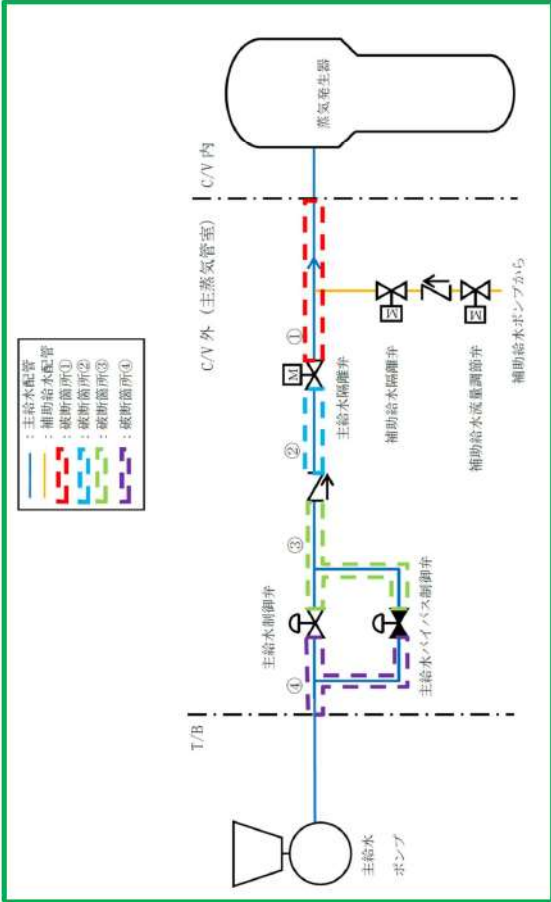
第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料12）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																													
<p>表5 漏えい停止までの時間の設定及び漏えい量（主給水系） (2/2)</p>		<p>【再掲】 表1-5 漏えい停止までの時間の設定（主給水系）</p>																																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>想定範囲</th> <th>①異常の検知</th> <th>②事象の判断及び漏えい箇所の特定</th> <th>③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止</th> <th>合計時間 (①+②+③)</th> <th>漏えい量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>主給水バイパス配管（下流分岐～制御弁）</td> <td>&lt;システム検知&gt; 主給水流量と主蒸気流量の不一致 警報が中央制御室に発信 0分</td> <td>以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位偏差、SG 流量偏差、主蒸気・主給水配管室温度等</td> <td>中央制御室において、原子炉トリップ操作を確認 5分 また、原子炉手動トリップ操作後約60秒で原子炉トリップしや断器閉+Tagg 低により主給水制御弁は自動閉止 50秒</td> <td>11分</td> <td>漏えい量 387.2m<sup>3</sup> 主給水流量 2030m<sup>3</sup>/h 11分/60分×2030m<sup>3</sup>/h = 372.2m<sup>3</sup> 配管保有水 15m<sup>3</sup> 372.2m<sup>3</sup>+15m<sup>3</sup>=387.2m<sup>3</sup></td> </tr> <tr> <td>主給水バイパス配管（制御弁～上流分岐）</td> <td>&lt;システム検知&gt; SG 水位低による原子炉トリップ 50秒 また、Tagg 低による主給水制御弁の自動閉止 110秒</td> <td>以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位偏差、SG 流量偏差、SG 水位低による原子炉トリップ、主蒸気・主給水配管室温度等</td> <td>中央制御室において、主給水ポンプ2台を遠隔手動停止 7分 （操作2分(1分/台)、停止5分、合わせて7分）</td> <td>17分 50秒</td> <td>漏えい量 618.4m<sup>3</sup> 主給水流量 2030m<sup>3</sup>/h 1070秒/3600秒×2030m<sup>3</sup>/h = 603.4m<sup>3</sup> 配管保有水 15m<sup>3</sup> 603.4m<sup>3</sup>+15m<sup>3</sup>=618.4m<sup>3</sup></td> </tr> </tbody> </table>	想定範囲	①異常の検知	②事象の判断及び漏えい箇所の特定	③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止	合計時間 (①+②+③)	漏えい量	主給水バイパス配管（下流分岐～制御弁）	<システム検知> 主給水流量と主蒸気流量の不一致 警報が中央制御室に発信 0分	以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位偏差、SG 流量偏差、主蒸気・主給水配管室温度等	中央制御室において、原子炉トリップ操作を確認 5分 また、原子炉手動トリップ操作後約60秒で原子炉トリップしや断器閉+Tagg 低により主給水制御弁は自動閉止 50秒	11分	漏えい量 387.2m <sup>3</sup> 主給水流量 2030m <sup>3</sup> /h 11分/60分×2030m <sup>3</sup> /h = 372.2m <sup>3</sup> 配管保有水 15m <sup>3</sup> 372.2m <sup>3</sup> +15m <sup>3</sup> =387.2m <sup>3</sup>	主給水バイパス配管（制御弁～上流分岐）	<システム検知> SG 水位低による原子炉トリップ 50秒 また、Tagg 低による主給水制御弁の自動閉止 110秒	以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位偏差、SG 流量偏差、SG 水位低による原子炉トリップ、主蒸気・主給水配管室温度等	中央制御室において、主給水ポンプ2台を遠隔手動停止 7分 （操作2分(1分/台)、停止5分、合わせて7分）	17分 50秒	漏えい量 618.4m <sup>3</sup> 主給水流量 2030m <sup>3</sup> /h 1070秒/3600秒×2030m <sup>3</sup> /h = 603.4m <sup>3</sup> 配管保有水 15m <sup>3</sup> 603.4m <sup>3</sup> +15m <sup>3</sup> =618.4m <sup>3</sup>		<table border="1"> <thead> <tr> <th>建屋</th> <th>想定範囲</th> <th>①異常の検知</th> <th>②事象の判断及び漏えい箇所の特定</th> <th>③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止</th> <th>合計 (①+②+③)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">原子炉建屋</td> <td>①主給水管（貫通部～主給水隔離弁）</td> <td>&lt;システム検知&gt; 主蒸気ライン圧力低 EOC 作動による原子炉トリップ 7秒 また、主蒸気ライン圧力低により、主給水隔離弁自動閉止 14秒 1分</td> <td>以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位偏差、SG 流量偏差、主蒸気ライン圧力低等</td> <td>中央制御室において、補助給水隔離弁、補助給水ポンプ出口流量調節弁を手動閉止 2分</td> <td>13分</td> </tr> <tr> <td>②主給水管（主給水隔離弁～逆止弁）</td> <td>&lt;システム検知&gt; 主蒸気ライン圧力低 EOC 作動による原子炉トリップ 7秒 1分</td> <td>主給水ライン漏えいと特定 10分 ※隔離弁自動閉止のため、事象判断時は考慮しない</td> <td>主蒸気ライン圧力低により主給水制御弁、主給水隔離弁自動閉止 1分 （主蒸気ライン圧力低により主給水制御弁、主給水隔離弁自動閉止1秒） また、時間的1分に包摂されるため考慮しない</td> <td>1分</td> </tr> <tr> <td>③主給水管（逆止弁～主給水バイパス制御弁）</td> <td>&lt;システム検知&gt; SG 水位低による原子炉トリップ 39秒 1分</td> <td>以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位偏差、SG 流量偏差、SG 水位低による原子炉トリップ等</td> <td>中央制御室において、主給水制御弁、主給水隔離弁を手動閉止 2分</td> <td>13分</td> </tr> <tr> <td>④主給水管（主給水隔離弁、主給水バイパス制御弁～T/B貫通部）</td> <td>&lt;システム検知&gt; SG 水位低による原子炉トリップ 39秒 1分</td> <td>以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位偏差、SG 流量偏差、SG 水位低による原子炉トリップ等</td> <td>中央制御室において、主給水ポンプ2台を遠隔手動停止、ポンプ出口弁閉止 7分 （中央制御室において、主給水ポンプ2台を遠隔手動停止2分(1分×2台)、ポンプ出口弁閉止時間5分、合わせて7分）</td> <td>18分</td> </tr> </tbody> </table>	建屋	想定範囲	①異常の検知	②事象の判断及び漏えい箇所の特定	③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止	合計 (①+②+③)	原子炉建屋	①主給水管（貫通部～主給水隔離弁）	<システム検知> 主蒸気ライン圧力低 EOC 作動による原子炉トリップ 7秒 また、主蒸気ライン圧力低により、主給水隔離弁自動閉止 14秒 1分	以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位偏差、SG 流量偏差、主蒸気ライン圧力低等	中央制御室において、補助給水隔離弁、補助給水ポンプ出口流量調節弁を手動閉止 2分	13分	②主給水管（主給水隔離弁～逆止弁）	<システム検知> 主蒸気ライン圧力低 EOC 作動による原子炉トリップ 7秒 1分	主給水ライン漏えいと特定 10分 ※隔離弁自動閉止のため、事象判断時は考慮しない	主蒸気ライン圧力低により主給水制御弁、主給水隔離弁自動閉止 1分 （主蒸気ライン圧力低により主給水制御弁、主給水隔離弁自動閉止1秒） また、時間的1分に包摂されるため考慮しない	1分	③主給水管（逆止弁～主給水バイパス制御弁）	<システム検知> SG 水位低による原子炉トリップ 39秒 1分	以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位偏差、SG 流量偏差、SG 水位低による原子炉トリップ等	中央制御室において、主給水制御弁、主給水隔離弁を手動閉止 2分	13分	④主給水管（主給水隔離弁、主給水バイパス制御弁～T/B貫通部）	<システム検知> SG 水位低による原子炉トリップ 39秒 1分	以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位偏差、SG 流量偏差、SG 水位低による原子炉トリップ等	中央制御室において、主給水ポンプ2台を遠隔手動停止、ポンプ出口弁閉止 7分 （中央制御室において、主給水ポンプ2台を遠隔手動停止2分(1分×2台)、ポンプ出口弁閉止時間5分、合わせて7分）	18分	<p>高エネルギー配管に対する検知の考え方については、炉型が同じ大飯との比較とする。</p> <p>【大飯】  <a href="#">記載表現の相違</a>  <a href="#">記載方針の相違</a>          本資料では、隔離時間の妥当性について記載するため、漏えい量に関しては、補足説明資料2「保有水量・系統別溢水量算出要領」に記載する。  <a href="#">設計方針の相違</a>          プラント設計の違いによる設定時間の相違</p>
想定範囲	①異常の検知	②事象の判断及び漏えい箇所の特定	③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止	合計時間 (①+②+③)	漏えい量																																											
主給水バイパス配管（下流分岐～制御弁）	<システム検知> 主給水流量と主蒸気流量の不一致 警報が中央制御室に発信 0分	以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位偏差、SG 流量偏差、主蒸気・主給水配管室温度等	中央制御室において、原子炉トリップ操作を確認 5分 また、原子炉手動トリップ操作後約60秒で原子炉トリップしや断器閉+Tagg 低により主給水制御弁は自動閉止 50秒	11分	漏えい量 387.2m <sup>3</sup> 主給水流量 2030m <sup>3</sup> /h 11分/60分×2030m <sup>3</sup> /h = 372.2m <sup>3</sup> 配管保有水 15m <sup>3</sup> 372.2m <sup>3</sup> +15m <sup>3</sup> =387.2m <sup>3</sup>																																											
主給水バイパス配管（制御弁～上流分岐）	<システム検知> SG 水位低による原子炉トリップ 50秒 また、Tagg 低による主給水制御弁の自動閉止 110秒	以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位偏差、SG 流量偏差、SG 水位低による原子炉トリップ、主蒸気・主給水配管室温度等	中央制御室において、主給水ポンプ2台を遠隔手動停止 7分 （操作2分(1分/台)、停止5分、合わせて7分）	17分 50秒	漏えい量 618.4m <sup>3</sup> 主給水流量 2030m <sup>3</sup> /h 1070秒/3600秒×2030m <sup>3</sup> /h = 603.4m <sup>3</sup> 配管保有水 15m <sup>3</sup> 603.4m <sup>3</sup> +15m <sup>3</sup> =618.4m <sup>3</sup>																																											
建屋	想定範囲	①異常の検知	②事象の判断及び漏えい箇所の特定	③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止	合計 (①+②+③)																																											
原子炉建屋	①主給水管（貫通部～主給水隔離弁）	<システム検知> 主蒸気ライン圧力低 EOC 作動による原子炉トリップ 7秒 また、主蒸気ライン圧力低により、主給水隔離弁自動閉止 14秒 1分	以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位偏差、SG 流量偏差、主蒸気ライン圧力低等	中央制御室において、補助給水隔離弁、補助給水ポンプ出口流量調節弁を手動閉止 2分	13分																																											
	②主給水管（主給水隔離弁～逆止弁）	<システム検知> 主蒸気ライン圧力低 EOC 作動による原子炉トリップ 7秒 1分	主給水ライン漏えいと特定 10分 ※隔離弁自動閉止のため、事象判断時は考慮しない	主蒸気ライン圧力低により主給水制御弁、主給水隔離弁自動閉止 1分 （主蒸気ライン圧力低により主給水制御弁、主給水隔離弁自動閉止1秒） また、時間的1分に包摂されるため考慮しない	1分																																											
	③主給水管（逆止弁～主給水バイパス制御弁）	<システム検知> SG 水位低による原子炉トリップ 39秒 1分	以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位偏差、SG 流量偏差、SG 水位低による原子炉トリップ等	中央制御室において、主給水制御弁、主給水隔離弁を手動閉止 2分	13分																																											
	④主給水管（主給水隔離弁、主給水バイパス制御弁～T/B貫通部）	<システム検知> SG 水位低による原子炉トリップ 39秒 1分	以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位偏差、SG 流量偏差、SG 水位低による原子炉トリップ等	中央制御室において、主給水ポンプ2台を遠隔手動停止、ポンプ出口弁閉止 7分 （中央制御室において、主給水ポンプ2台を遠隔手動停止2分(1分×2台)、ポンプ出口弁閉止時間5分、合わせて7分）	18分																																											



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料12）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p data-bbox="607 177 689 201">補足資料</p> <p data-bbox="107 212 510 236">3-1 想定破損における溢水量の算出について</p> <p data-bbox="618 244 689 268">別紙10</p>  <p data-bbox="286 1233 510 1257">図1 主給水系の系統概要</p>		 <p data-bbox="1451 1233 1697 1257">図2-4 主給水系の系統概要</p>	<p data-bbox="1868 177 2107 268">高エネルギー配管に対する検知の考え方については、炉型が同じ大飯との比較とする。</p> <p data-bbox="1868 284 1995 339">【大飯】 記載表現の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料12）

大飯発電所3/4号炉		女川原子力発電所2号炉		泊発電所3号炉		相違理由
表6 漏えい停止までの時間の設定及び漏えい量（蒸気発生器ブローダウン系）						
想定範囲	①異常の検知	②事象の判断及び漏えい箇所の特長	③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止	合計時間(①+②+③)	漏えい量	
蒸気発生器ブローダウン配管（貫通部～隔離弁）	<システム検知> 主給水流量と主蒸気流量の不一致警報が中央制御室に発信 0分	以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定 10分 SG 水位偏差、SG 流量偏差、主蒸気、主給水配管室温度等	③漏えい箇所の隔離等において、中央制御室において原子炉トリップ操作を行い、トリップ後の状況を確認。その後、電動補助給水ライン流量調節弁、タービン流量調節弁を遠隔手動閉止。 7分 （トリップ後の状況確認5分、操作2分（1分/船）合わせて7分） また、原子炉手動トリップ操作後約60秒で原子炉トリップし、断器開+Tag 低により主給水制御弁は自動閉止。 60秒	17分	漏えい量247.5m <sup>3</sup> 臨界流量 705m <sup>3</sup> /h （口径 38、SG 圧力 61.5kg/cm <sup>2</sup> 以上） 補助給水流量 430m <sup>3</sup> /h 11分* 40分×705m <sup>3</sup> /h + 7分* 40分×430m <sup>3</sup> /h = 179.5m <sup>3</sup> 配管保有水量 2.0m <sup>3</sup> 蒸気発生器保有水量 66m <sup>3</sup> 179.5m <sup>3</sup> +2.0m <sup>3</sup> +66m <sup>3</sup> = 247.5m <sup>3</sup> ※合計時間(10分+60秒) 漏えい量 23.9m <sup>3</sup> 臨界流量 705m <sup>3</sup> /h （口径 38、SG 圧力 61.5kg/cm <sup>2</sup> 以上） 107秒/3600秒×707m <sup>3</sup> /h = 21.1m <sup>3</sup> 配管保有水量 2.5m <sup>3</sup> 21.1m <sup>3</sup> +2.5m <sup>3</sup> =23.6m <sup>3</sup>	
蒸気発生器ブローダウン配管（隔離弁～アンダグル弁）	<システム検知> SG 水位低による原子炉トリップ 100秒 また、SG 水位低によるブローダウンライン格納容器隔離弁自動閉止 107秒	自動隔離のため判断時 間なし 0分	自動隔離のため操作時間なし 0分	107秒		
表1-6 漏えい停止までの時間の設定（蒸気発生器ブローダウン系）						
建屋	①異常の検知	②事象の判断及び漏えい箇所の特長	③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止	合計(①+②+③)		
原子炉建屋	<システム検知> SG 水位低による原子炉トリップ 114秒 2分……a	以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定 10分……b SG 水位偏差、SG 流量偏差等	中央制御室において、主給水隔離弁、主給水隔離弁を手動閉止、補助給水ポンプ出口流量調節弁を手動閉止 4分 （主給水隔離弁、補助給水ポンプ出口流量調節弁を手動閉止 2分……c、補助給水ポンプ出口流量調節弁を手動閉止 2分……d、合わせて4分）	16分 ※1 主給水ライン隔離完了までの時間 14分（a～cまでの合計） ※2 プラントトリップによる補助給水ポンプ起動から補助給水ライン隔離完了までの時間 14分（b～dまでの合計）		高エネルギー配管に対する検知の考え方については、炉型が同じ大飯との比較とする。 【大飯】 <a href="#">記載表現の相違</a> <a href="#">記載方針の相違</a> 本資料では、隔離時間の妥当性について記載するため、漏えい量に関しては、補足説明資料2「保有水量・系統別溢水量算出要領」に記載する。 <a href="#">設計方針の相違</a> ・プラント設計の違いによる設定時間の相違 ・泊では、隔離弁下流のラインは、想定破損除外を適用している範囲としている。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料12）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>補足資料 別紙11</p> <p>3-1 想定破損における溢水量の算出について</p> <p>図1 蒸気発生器ブローダウン系、補助給水系の系統概要</p>		<p>図2-5 蒸気発生器ブローダウン系の系統概要</p>	<p>高エネルギー配管に対する検知の考え方については、炉型が同じ大飯との比較とする。</p> <p>【大飯】  <a href="#">記載表現の相違</a>  <a href="#">記載方針の相違</a>                      補助給水系については、表の構成と合わせて、表1-7のあとに図2-6として記載する。</p>

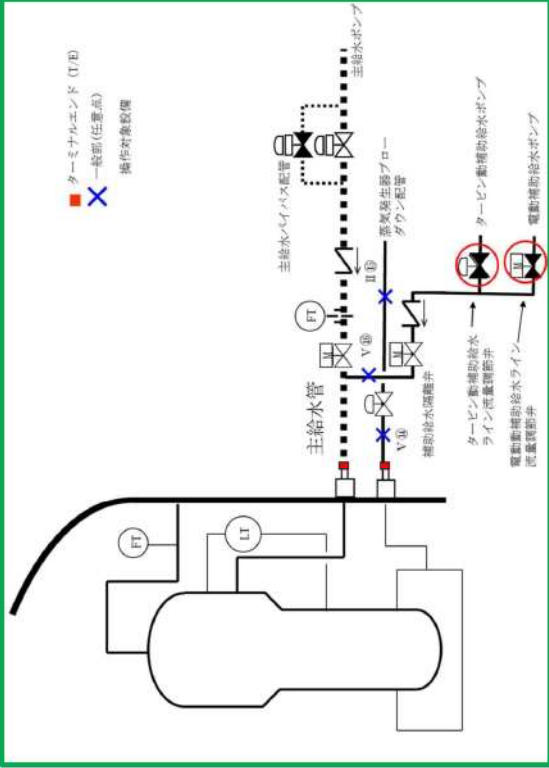
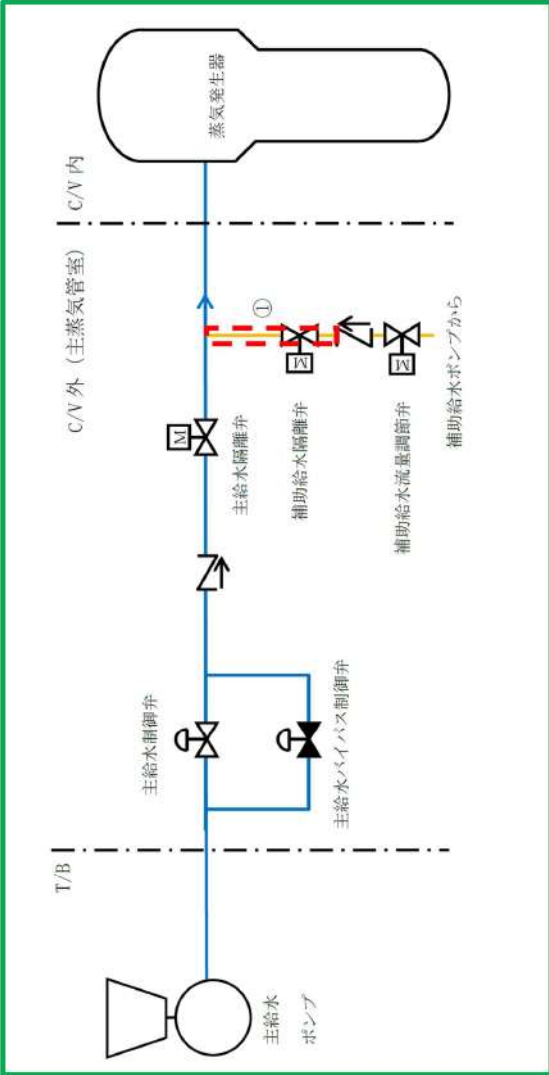
赤字：設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字：記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由								
<p>表7 漏えい停止までの時間の設定及び漏えい量 (補助給水系)</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="100 215 302 454"> <p>漏えい量</p> <p>漏えい量 294.7m<sup>3</sup></p> <p>臨界流量 892m<sup>3</sup>/h (口径3B、SG圧力 61.5kg/cm<sup>2</sup>より)</p> <p>補助給水流量 430m<sup>3</sup>/h 11分<sup>6</sup>/60分<sup>6</sup> × 892m<sup>3</sup>/h + 7分/60分<sup>6</sup> × 430m<sup>3</sup>/h = 213.7m<sup>3</sup></p> <p>配管保有水量 15.0m<sup>3</sup></p> <p>蒸気発生器保有水量 66m<sup>3</sup> 213.7m<sup>3</sup> + 15m<sup>3</sup> + 66m<sup>3</sup> = 294.7m<sup>3</sup></p> <p>※合計時間(10分+60秒)</p> </td> <td data-bbox="302 215 593 454"> <p>合計時間 (①+②+③)</p> <p>17分</p> </td> <td data-bbox="593 215 689 454"> <p>③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止</p> <p>中央制御室において原子炉トリップ操作を行い、トリップ後の状況を確認 その後の電動補助給水ライン流量調節弁、タービン動調節弁を遠隔手動閉止</p> <p>1分 (トリップ後の状況確認5分、操作2分(1分/個)合わせて7分) また、原子炉手動トリップ操作後約60秒で原子炉トリップしゃ断器開+Tagg低により主給水制御弁は自動閉止60秒</p> </td> <td data-bbox="100 454 689 1500"> <p>②事象の判断及び漏えい箇所の特定</p> <p>以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定10分</p> <p>SG 水位偏差、SG 流量偏差、主蒸気・主給水配管至温度等</p> <p>①異常の検知</p> <p>&lt;システム検知&gt; 主給水流量と主蒸気流量の不一致警報が中央制御室に発信0分</p> </td> </tr> </table>	<p>漏えい量</p> <p>漏えい量 294.7m<sup>3</sup></p> <p>臨界流量 892m<sup>3</sup>/h (口径3B、SG圧力 61.5kg/cm<sup>2</sup>より)</p> <p>補助給水流量 430m<sup>3</sup>/h 11分<sup>6</sup>/60分<sup>6</sup> × 892m<sup>3</sup>/h + 7分/60分<sup>6</sup> × 430m<sup>3</sup>/h = 213.7m<sup>3</sup></p> <p>配管保有水量 15.0m<sup>3</sup></p> <p>蒸気発生器保有水量 66m<sup>3</sup> 213.7m<sup>3</sup> + 15m<sup>3</sup> + 66m<sup>3</sup> = 294.7m<sup>3</sup></p> <p>※合計時間(10分+60秒)</p>	<p>合計時間 (①+②+③)</p> <p>17分</p>	<p>③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止</p> <p>中央制御室において原子炉トリップ操作を行い、トリップ後の状況を確認 その後の電動補助給水ライン流量調節弁、タービン動調節弁を遠隔手動閉止</p> <p>1分 (トリップ後の状況確認5分、操作2分(1分/個)合わせて7分) また、原子炉手動トリップ操作後約60秒で原子炉トリップしゃ断器開+Tagg低により主給水制御弁は自動閉止60秒</p>	<p>②事象の判断及び漏えい箇所の特定</p> <p>以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定10分</p> <p>SG 水位偏差、SG 流量偏差、主蒸気・主給水配管至温度等</p> <p>①異常の検知</p> <p>&lt;システム検知&gt; 主給水流量と主蒸気流量の不一致警報が中央制御室に発信0分</p>	<p>表 1-7 漏えい停止までの時間の設定 (補助給水系)</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="689 215 1279 391"> <p>想定範囲</p> <p>①補助給水配管 (主給水管分岐 ~逆止弁)</p> </td> <td data-bbox="689 391 1279 582"> <p>①異常の検知</p> <p>&lt;システム検知&gt; 主給水流量の増加によりSG給水&gt;蒸気流量偏差大警報が発信1分...2分</p> <p>補足：主給水制御範囲内の漏えいとなりSG水位低による原子炉トリップ、主給水ポンプの過回転トリップには期待しない</p> </td> <td data-bbox="689 582 1279 774"> <p>②事象の判断及び漏えい箇所の特定</p> <p>以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定10分...10分</p> <p>SG 水位偏差、SG 流量偏差等</p> </td> <td data-bbox="689 774 1279 965"> <p>③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止</p> <p>中央制御室において緊急負荷降下の準備・連絡 緊急負荷降下プログラムトリップ状態確認 主給水隔離弁 主給水隔離弁手動閉止、補助給水隔離弁手動閉止</p> <p>24分 (緊急負荷降下の準備・連絡3分...c、緊急負荷降下15分...d、プラントトリップ状態確認2分...e、主給水制御弁、主給水隔離弁手動閉止2分...f、補助給水隔離弁、補助給水ポンプ出口流量調節弁手動閉止2分...g、合わせて24分)</p> </td> <td data-bbox="689 965 1279 1157"> <p>合計 (①+②+③)</p> <p>35分</p> <p>※1 主給水ライン隔離完了までの時間33分 (a~fの合計)</p> <p>※2 プラントトリップによる補助給水ポンプ起動から補助給水ラインの隔離完了までの時間6分 (e~gの合計)</p> </td> </tr> </table>	<p>想定範囲</p> <p>①補助給水配管 (主給水管分岐 ~逆止弁)</p>	<p>①異常の検知</p> <p>&lt;システム検知&gt; 主給水流量の増加によりSG給水&gt;蒸気流量偏差大警報が発信1分...2分</p> <p>補足：主給水制御範囲内の漏えいとなりSG水位低による原子炉トリップ、主給水ポンプの過回転トリップには期待しない</p>	<p>②事象の判断及び漏えい箇所の特定</p> <p>以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定10分...10分</p> <p>SG 水位偏差、SG 流量偏差等</p>	<p>③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止</p> <p>中央制御室において緊急負荷降下の準備・連絡 緊急負荷降下プログラムトリップ状態確認 主給水隔離弁 主給水隔離弁手動閉止、補助給水隔離弁手動閉止</p> <p>24分 (緊急負荷降下の準備・連絡3分...c、緊急負荷降下15分...d、プラントトリップ状態確認2分...e、主給水制御弁、主給水隔離弁手動閉止2分...f、補助給水隔離弁、補助給水ポンプ出口流量調節弁手動閉止2分...g、合わせて24分)</p>	<p>合計 (①+②+③)</p> <p>35分</p> <p>※1 主給水ライン隔離完了までの時間33分 (a~fの合計)</p> <p>※2 プラントトリップによる補助給水ポンプ起動から補助給水ラインの隔離完了までの時間6分 (e~gの合計)</p>	<p>高エネルギー配管に対する検知の考え方については、炉型が同じ大飯との比較とする。</p> <p>【大飯】</p> <p><a href="#">記載表現の相違</a></p> <p><a href="#">記載方針の相違</a></p> <p>本資料では、隔離時間の妥当性について記載するため、漏えい量に関しては、補足説明資料2「保有水量・系統別溢水量算出要領」に記載する。</p> <p><a href="#">設計方針の相違</a></p> <p>プラント設計の違いによる設定時間の相違</p>
<p>漏えい量</p> <p>漏えい量 294.7m<sup>3</sup></p> <p>臨界流量 892m<sup>3</sup>/h (口径3B、SG圧力 61.5kg/cm<sup>2</sup>より)</p> <p>補助給水流量 430m<sup>3</sup>/h 11分<sup>6</sup>/60分<sup>6</sup> × 892m<sup>3</sup>/h + 7分/60分<sup>6</sup> × 430m<sup>3</sup>/h = 213.7m<sup>3</sup></p> <p>配管保有水量 15.0m<sup>3</sup></p> <p>蒸気発生器保有水量 66m<sup>3</sup> 213.7m<sup>3</sup> + 15m<sup>3</sup> + 66m<sup>3</sup> = 294.7m<sup>3</sup></p> <p>※合計時間(10分+60秒)</p>	<p>合計時間 (①+②+③)</p> <p>17分</p>	<p>③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止</p> <p>中央制御室において原子炉トリップ操作を行い、トリップ後の状況を確認 その後の電動補助給水ライン流量調節弁、タービン動調節弁を遠隔手動閉止</p> <p>1分 (トリップ後の状況確認5分、操作2分(1分/個)合わせて7分) また、原子炉手動トリップ操作後約60秒で原子炉トリップしゃ断器開+Tagg低により主給水制御弁は自動閉止60秒</p>	<p>②事象の判断及び漏えい箇所の特定</p> <p>以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定10分</p> <p>SG 水位偏差、SG 流量偏差、主蒸気・主給水配管至温度等</p> <p>①異常の検知</p> <p>&lt;システム検知&gt; 主給水流量と主蒸気流量の不一致警報が中央制御室に発信0分</p>								
<p>想定範囲</p> <p>①補助給水配管 (主給水管分岐 ~逆止弁)</p>	<p>①異常の検知</p> <p>&lt;システム検知&gt; 主給水流量の増加によりSG給水&gt;蒸気流量偏差大警報が発信1分...2分</p> <p>補足：主給水制御範囲内の漏えいとなりSG水位低による原子炉トリップ、主給水ポンプの過回転トリップには期待しない</p>	<p>②事象の判断及び漏えい箇所の特定</p> <p>以下のパラメータから隔離する蒸気発生器を特定10分...10分</p> <p>SG 水位偏差、SG 流量偏差等</p>	<p>③漏えい箇所の隔離等により漏えい停止</p> <p>中央制御室において緊急負荷降下の準備・連絡 緊急負荷降下プログラムトリップ状態確認 主給水隔離弁 主給水隔離弁手動閉止、補助給水隔離弁手動閉止</p> <p>24分 (緊急負荷降下の準備・連絡3分...c、緊急負荷降下15分...d、プラントトリップ状態確認2分...e、主給水制御弁、主給水隔離弁手動閉止2分...f、補助給水隔離弁、補助給水ポンプ出口流量調節弁手動閉止2分...g、合わせて24分)</p>	<p>合計 (①+②+③)</p> <p>35分</p> <p>※1 主給水ライン隔離完了までの時間33分 (a~fの合計)</p> <p>※2 プラントトリップによる補助給水ポンプ起動から補助給水ラインの隔離完了までの時間6分 (e~gの合計)</p>							
<p>補助給水配管 (主給水管分岐 ~逆止弁)</p>	<p>原子炉建屋</p>	<p>原子炉建屋</p>									



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料12）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>補足資料 別紙11</p> <p>3-1 想定破損における溢水量の算出について</p>  <p>図1 蒸気発生器ブローダウン系、補助給水系の系統概要</p>		 <p>図2-6 補助給水系の系統概要</p>	<p>高エネルギー配管に対する検知の考え方については、炉型が同じ大飯との比較とする。</p> <p>【大飯】  <a href="#">記載表現の相違</a>  <a href="#">記載方針の相違</a>                      蒸気発生器ブローダウン系統については、表の構成と合わせて、表1-6のあとに図2-5として記載する。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料12）

大飯発電所3/4号炉		女川原子力発電所2号炉		泊発電所3号炉		相違理由
表8 漏えい停止までの時間の設定及び漏えい量（補助蒸気系）						
想定範囲	①異常の検知 <温度検知> 温度センサー（60℃）の検知により 補助蒸気遮断弁が自動閉止 5分	②事象の判断及び 漏えい箇所の特定 自動隔離のため判断時間 なし 0分	③漏えい箇所の隔離等 により漏えい停止 自動隔離のため判断時 間なし 0分	合計時間 (①+②+③)	漏えい量 3.7m <sup>3</sup> システムコンバナー容量 31.3m <sup>3</sup> /h（定格発生蒸気量 30t/hより）5分/60分× 31.3m <sup>3</sup> /h=2.7m <sup>3</sup> 配管保有水量1.0 m <sup>3</sup> 2.7m <sup>3</sup> +1.0 m <sup>3</sup> =3.7m <sup>3</sup>	
想定範囲	①異常の検知 <システム検知> 温度検出器（60℃）の検知により補助 蒸気遮断弁が自動閉止 5分 (温度検出器検知時間は区画に依存す る。補助蒸気遮断弁の閉止時間は約25 秒。検知遅れ10秒を想定。)	②事象の判断及び 漏えい箇所の特定 温度異常高の警報により、漏えい箇所 を特定、判断 10分※ ※隔離弁自動閉止のため、事象判断時 間は考慮しない	③漏えい箇所の隔離等に より漏えい停止 自動隔離のため操作時間なし 0分	合計 (①+②+③)	5分	高エネルギー配管に対する検知の 考え方については、炉型が同じ大 飯との比較とする。  【大飯】 <a href="#">記載表現の相違</a> <a href="#">記載方針の相違</a> 本資料では、隔離時間の妥当性に ついて記載するため、漏えい量に 関しては、補足説明資料2「保有 水量・系統別溢水量算出要領」に 記載する。 <a href="#">設計方針の相違</a> プラント設計の違いによる設定時 間の相違
建屋	原子炉建屋 原子炉 補助建屋					

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料12）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>補足資料                      3-1 想定破損における溢水量の算出について                      別紙 17</p> <p>図1 補助蒸気系の系統概要</p>		<p>図2-7 補助蒸気系の系統概要</p>	<p>高エネルギー配管に対する検知の考え方については、炉型が同じ大飯との比較とする。</p> <p>【大飯】                      記載表現の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>2.2 手動隔離</p> <p>手動隔離に期待する隔離時間については、溢水ガイドを参考に、80分として評価を行っているが、漏えい検知、漏えい箇所特定及び弁操作等により、下記(1)～(4)を組合せて算定し、実際の隔離時間について確認を行った。なお、(2)～(4)については現場での確認を行った。</p>	<p>3. 低エネルギー配管の隔離までの時間設定</p> <p>3.1 手動隔離</p> <p>低エネルギー配管の手動隔離に期待する隔離時間については、溢水ガイドを参考に、80分として評価を行っているが、漏えい検知、漏えい箇所特定及び弁操作等により、下記(1)～(5)を組み合わせて算定し、実際の隔離時間について確認を行った。なお、(3)～(5)については現場での確認を行った。</p>	<p>低エネルギー配管の隔離までの時間設定については、泊と同様に複数の隔離ケースを有する女川審査実績を反映する。</p> <p>【女川】  <a href="#">記載表現の相違</a>  <a href="#">記載方針の相違</a></p> <p>2. が高エネルギー配管の隔離までの時間設定であること、3. が低エネルギー配管の隔離までの時間設定であることを明記する。</p>
<p>【再掲】（まとめ資料p.2-9-別1補-79より抜粋）</p> <p>(1) 異常の検知について</p> <p>配管破断による異常を早期に検知する手段として以下の3つの方法があり、それぞれ警報発信までの時間を設定する。</p> <p>① 区画内に設置された温度センサによる温度高警報（温度検知）</p> <p>② 系統に設置されている圧力計、流量計、水位計等の中央表示値の変化や演算処理による警報（システム検知）</p> <p>③ 床ドレン配管を通して集水される最下層のサンプル水位高警報（サンプル検知）</p>	<p>(1) 漏えい発生から漏えい検知までの時間</p> <p>床ドレンファンネルがある区画は、ドレンサンプの警報により検知するまでの時間を算出し、床ドレンファンネルがなく、漏えい検知器によって溢水を検知する場合は、漏えい検知器による検知に要する時間を算出した。</p>	<p>(1) 漏えい発生から漏えい検知までの時間</p> <p>配管破断による異常を早期に検知する手段として以下の4つの方法があり、それぞれ警報発信までの時間を設定する。</p> <p>① 区画内に設置された温度センサによる温度高警報（温度検知）</p> <p>② 系統に設置されている圧力計、流量計、水位計等の中央表示値の変化や演算処理による警報（システム検知）</p> <p>③ 床ドレン配管を通して集水される最下層のサンプル水位高警報（サンプル検知）</p> <p>④ 漏えい検知器による警報（漏えい検知）</p>	<p>【女川】  <a href="#">記載方針の相違</a></p> <p>・泊では、システム検知を用いているため、大阪の審査実績を方針として記載する。</p> <p>・④の漏えい検知については、女川とは同様の検知手段であるが、システム検知にも期待するため、大阪の記載に漏えい検知を加える形で記載している。</p>
			<p>【大阪】  <a href="#">設計方針の相違</a></p> <p>泊では女川と同様に漏えい検知器による検知にも期待しており、4つの方法に警報までの時間を設定している。</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>【再掲】（まとめ資料 p.2-9-別1補-79より抜粋）</p> <p>(2) 事象の判断及び漏えい箇所の特定について</p> <p>運転員は訓練により、事象の判断及び漏えい箇所の特定を短時間で的確に実施する。中央制御室において漏えい箇所の特定が可能な場合には判断及び特定時間を10分とする。漏えい量が小さく現場での漏えい箇所の確認が必要な場合には、移動の時間も合わせて判断及び特定時間を設定する。運転操作余裕については事象の判断の中を含め、警報発信時から隔離操作開始までの時間として10分以上を確保する。</p> <p>温度センサ警報では異常の検知が行われるが、事象の判断及び漏えい箇所の特定については、圧力計、流量計、水位計等のパラメータの変化を組み合わせる実施する。</p>	<p>(2) 現場への移動時間</p> <p>中央制御室から現場への移動時間について確認を行った。また、管理区域の場合は着替えの時間を考慮した。</p> <p>(3) 漏えい箇所特定に要する時間</p> <p>漏えい箇所特定に要する時間は、当該エリア全域確認に要する時間とした。</p> <p>(4) 隔離操作時間</p> <p>中央制御室での隔離操作に要する時間、現場での隔離箇所特定に要する時間及び現場での隔離操作に要する時間を確認した。なお、隔離対象となる弁等について、実操作が出来ない場合は、同口径、同型式の類似弁にて確認を行った。</p> <p>3. 漏えい停止（隔離操作）の手順書類への反映</p> <p>女川原子力発電所原子炉施設保安規定に基づく規定文書として制定する「内部溢水対応要領書（仮称）」に、運転員の隔離操作について明記することとする。</p> <p>なお、本事項は後段規則での対応が必要となる事項である。（別添2参照）</p>	<p>(2) 事象の判断時間について</p> <p>運転員は訓練により、事象の判断を短時間で的確に実施する。中央制御室において漏えい箇所の特定に必要な判断時間を10分とする。</p> <p>(3) 現場への移動時間</p> <p>中央制御室から現場への移動時間について確認を行った。また、管理区域の場合は着替えの時間を考慮した。</p> <p>(4) 漏えい箇所の特定に要する時間</p> <p>漏えい箇所特定に要する時間は、系統設置箇所の確認に要する時間とした。</p> <p>(5) 隔離操作時間</p> <p>中央制御室での隔離操作に要する時間、現場での隔離箇所特定に要する時間及び現場での隔離操作に要する時間を確認した。なお、隔離対象となる弁等について、実操作ができない場合は、同口径、同型式の類似弁にて確認を行った。</p>	<p>【女川】  <a href="#">設定方針の相違</a>                      泊では事象の判断時間を10分としている。（大阪と同様）</p> <p>【女川】  <a href="#">記載表現の相違</a></p> <p>【女川】  <a href="#">記載表現の相違</a>  <a href="#">設計方針の相違</a>                      (2)の事象の判断時間にて、漏えい系統を特定できている場合は、エリア全域ではなく、エリアに設置されている溢水源となる系統設置箇所の確認としている。</p> <p>【女川】  <a href="#">記載表現の相違</a></p> <p>【女川】  <a href="#">記載方針の相違</a>                      本記載については、泊では後述する。後述した際に、女川との比較を実施する。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																		
	<p>4. 漏えい箇所の隔離に必要な時間例（手動隔離）</p> <p>隔離時間は、上記の漏えい検知の有無、漏えい箇所特定及び弁操作等により確認し、ガイドの記載である80分として評価を行っている。</p> <p>以下に、原子炉建屋内の残留熱除去系(A) (RHR(A))及び制御建屋の所内用水系の隔離時間の評価例を示す。</p> <p>4.1 残留熱除去系の例</p> <p>(1) 漏えい発生から漏えい検知までの時間</p> <p>漏えい発生から漏えい検知までの時間については、</p> <p>①建屋内排水系のサンパ警報発信までの時間</p> <p>②漏えい検知器による検知に要する時間</p> <p>があるが、当該システムの想定破損による溢水を考慮する区画には床ドレンファンネルがあることから、ここでは建屋内排水系のサンパ警報発信までの時間を算定する。サンパ及びサンパポンプの仕様を表1に、漏えい検知までの時間を表2に示す。</p> <p style="text-align: center;">表1 サンパ及びサンパポンプ仕様</p> <table border="1" data-bbox="696 965 1263 1129"> <thead> <tr> <th></th> <th>放射性ドレン移送系</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>サンパポンプ<sup>※1</sup>定格流量(m<sup>3</sup>/h)</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>サンパ容量(水位低～水位高)(m<sup>3</sup>)</td> <td>2.49</td> </tr> <tr> <td>サンパ容量(水位高～水位高高)(m<sup>3</sup>)</td> <td>0.25</td> </tr> <tr> <td colspan="2">※1 サンパ水位高でサンパポンプ1台起動</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">表2 漏えい検知までの時間</p> <table border="1" data-bbox="696 1204 1263 1433"> <thead> <tr> <th>系統</th> <th>漏えい流量(m<sup>3</sup>/h)</th> <th>床ドレン排水流量(m<sup>3</sup>/h)</th> <th>漏えい検知(水位高警報発信)までの時間(分)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>RHR(A)</td> <td>143<sup>※1</sup></td> <td>26<sup>※2</sup></td> <td>6.7<sup>※3</sup></td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 漏えい流量算出値については、「6.個別の設定根拠について」を参照                  ※2 80A配管1本あたりの排水量（「6.個別の設定根拠について」参照）                  ※3 警報発生までの時間は以下の合計値                  水位低～水位高 2.49m<sup>3</sup>÷26m<sup>3</sup>/h×60分=5.75分                  水位高～水位高高 0.25m<sup>3</sup>÷(26-10)m<sup>3</sup>/h×60分=0.94分</p>		放射性ドレン移送系	サンパポンプ <sup>※1</sup> 定格流量(m <sup>3</sup> /h)	10	サンパ容量(水位低～水位高)(m <sup>3</sup> )	2.49	サンパ容量(水位高～水位高高)(m <sup>3</sup> )	0.25	※1 サンパ水位高でサンパポンプ1台起動		系統	漏えい流量(m <sup>3</sup> /h)	床ドレン排水流量(m <sup>3</sup> /h)	漏えい検知(水位高警報発信)までの時間(分)	RHR(A)	143 <sup>※1</sup>	26 <sup>※2</sup>	6.7 <sup>※3</sup>	<p>3. 2 漏えい箇所の隔離に必要な時間例（手動隔離）</p> <p>隔離時間は、上記の漏えい検知の有無、漏えい箇所特定及び弁操作等により確認し、ガイドの記載である80分として評価を行っている。</p> <p>以下に、出入管理建屋及び電気建屋内の水消火系及び循環水ポンプ建屋内の循環水系の隔離時間の評価例を示す。</p> <p>3. 2. 1 水消火系の例</p> <p>(1) 漏えい発生から漏えい検知までの時間</p> <p>漏えい発生により水消火系の圧力が低下し、消火ポンプ起動警報が中央制御室に発信することにより異常を検知する。漏えいの発生から漏えい検知までの時間は1分とする。</p>	<p>【女川】 記載表現の相違</p> <p>【女川】 設計方針の相違 プラント設計の違いによる建屋及び系統の相違</p> <p>【女川】 記載表現の相違 設計方針の相違 ・プラント設計の違いによる系統の相違 ・泊では、検知にシステム検知を用いており、代表例としてシステム検知を用いていることによる相違。(大阪と同様) ・泊ではビット検知を用いているものはあるが、漏えい検知器による検知を期待しているケースはない。</p> <p>【女川】 記載方針の相違 評価例の選定による相違。</p> <p>【女川】 記載方針の相違 評価例の選定による相違。</p>
	放射性ドレン移送系																				
サンパポンプ <sup>※1</sup> 定格流量(m <sup>3</sup> /h)	10																				
サンパ容量(水位低～水位高)(m <sup>3</sup> )	2.49																				
サンパ容量(水位高～水位高高)(m <sup>3</sup> )	0.25																				
※1 サンパ水位高でサンパポンプ1台起動																					
系統	漏えい流量(m <sup>3</sup> /h)	床ドレン排水流量(m <sup>3</sup> /h)	漏えい検知(水位高警報発信)までの時間(分)																		
RHR(A)	143 <sup>※1</sup>	26 <sup>※2</sup>	6.7 <sup>※3</sup>																		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由													
<p>【再掲】（まとめ資料p.2-9-別1補-79より抜粋）</p> <p>(2) 事象の判断及び漏えい箇所の特定について</p> <p>運転員は訓練により、事象の判断及び漏えい箇所の特定を短時間で的確に実施する。中央制御室において漏えい箇所の特定が可能な場合には判断及び特定時間を10分とする。漏えい量が小さく現場での漏えい箇所の確認が必要な場合には、移動の時間も合わせて判断及び特定時間を設定する。運転操作余裕については事象の判断の中を含め、警報発信時から隔離操作開始までの時間として10分以上を確保する。</p> <p>温度センサ警報では異常の検知が行われるが、事象の判断及び漏えい箇所の特定については、圧力計、流量計、水位計等のパラメータの変化を組み合わせて実施する。</p>	<p>(2) 現場への移動時間</p> <p>建屋内排水系サンプ警報の発生により、中央制御室にて原子炉建屋内で漏えいを検知してから中央制御室から原子炉建屋までの移動時間について確認を行った。また、当該エリアは管理区域のため着替えの時間を考慮した。管理区域内の現場への移動時間について表3に示す。</p> <p style="text-align: center;">表3 現場への移動時間</p> <table border="1" data-bbox="696 1241 1267 1350"> <thead> <tr> <th></th> <th>中央制御室から漏えい現場までの移動時間（分）</th> <th>着替えに要する時間（分） （管理区域内の場合）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉建屋</td> <td>2</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>原子炉種</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		中央制御室から漏えい現場までの移動時間（分）	着替えに要する時間（分） （管理区域内の場合）	原子炉建屋	2	5	原子炉種			<p>(2) 事象の判断時間</p> <p>事象の判断において火災警報が同時に発信していない場合は、中央制御室にて関連パラメータである原子炉補助建屋サンプタンク水位及びタービン建屋各ピット水位を確認し、水位上昇がみられない場合は出入管理建屋又は電気建屋における漏えいと判断することが可能であり、事象の判断時間として10分を設定する。</p> <p>(3) 現場への移動時間</p> <p>消火ポンプ起動警報の発生により、中央制御室にて出入管理建屋及び電気建屋内で漏えいを検知してから中央制御室から出入管理建屋までの移動時間について確認を行った。現場への移動時間について表2に示す。</p> <p style="text-align: center;">表2 現場への移動時間</p> <table border="1" data-bbox="1285 1241 1856 1310"> <thead> <tr> <th></th> <th>中央制御室から漏えい現場までの移動時間（分）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>出入管理建屋</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>		中央制御室から漏えい現場までの移動時間（分）	出入管理建屋	3	<p>【女川】</p> <p>対応方針の相違</p> <p>泊では事象の判断結果に基づき、中央制御室にて漏えい範囲を特定している。検知における例を示すため、具体的に泊の判断の内容について記載する。（考え方は大飯と同様）</p> <p>【女川】</p> <p>記載表現の相違</p> <p>記載方針の相違</p> <p>評価例の選定による相違</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント設計による建屋名称及び検知方法の相違</p> <p>【女川】</p> <p>記載表現の相違</p> <p>設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラント設計の違いによる建屋名称の相違。</li> <li>・測定結果の相違。</li> <li>・代表例の違いにより管理区域での着替えは考慮していない。</li> </ul>
	中央制御室から漏えい現場までの移動時間（分）	着替えに要する時間（分） （管理区域内の場合）														
原子炉建屋	2	5														
原子炉種																
	中央制御室から漏えい現場までの移動時間（分）															
出入管理建屋	3															



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由								
	<p>(3) 漏えい箇所特定に要する時間</p> <p>漏えい箇所特定手段がないとし、ドレンサンブ流入区画である原子炉建屋原子炉棟の全域確認を実施した。漏えい箇所特定に要する時間について表4に示す。</p> <p style="text-align: center;">表4 漏えい箇所特定に要する時間</p> <table border="1" data-bbox="703 424 1272 533"> <thead> <tr> <th>漏えい箇所特定に要する時間(分)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉建屋 原子炉棟</td> <td>原子炉建屋原子炉棟の全域確認に要する時間</td> </tr> </tbody> </table> <p>(4) 弁操作時間</p> <p>中央制御室での隔離操作に要する時間、隔離対象箇所確認までの時間及び隔離の操作時間について確認した。なお、隔離操作時間について、実操作ができない場合は、代替での検証で隔離操作時間を確認した。(例：同じ口径型式の弁にて閉操作を実施)</p> <p>(a) 中央制御室での隔離操作に要する時間：6分(2弁)</p> <p>(b) 現場での漏えい箇所隔離弁の特定に要する時間：2分(1弁)</p> <p>(c) 現場での弁操作に要する時間：1分(1弁)</p>	漏えい箇所特定に要する時間(分)	備考	原子炉建屋 原子炉棟	原子炉建屋原子炉棟の全域確認に要する時間	<p>(4) 漏えい箇所特定に要する時間</p> <p>事象の判断に基づき、出入管理建屋及び電気建屋の系統設置箇所の確認を実施した。漏えい箇所特定に要する時間について表3に示す。</p> <p style="text-align: center;">表3 漏えい箇所特定に要する時間</p> <table border="1" data-bbox="1292 448 1861 542"> <thead> <tr> <th>漏えい箇所特定に要する時間(分)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>出入管理建屋 電気建屋</td> <td>出入管理建屋及び電気建屋の系統設置箇所の確認に要する時間</td> </tr> </tbody> </table> <p>(5) 弁操作時間</p> <p>中央制御室での隔離操作に要する時間、隔離対象箇所確認までの時間及び隔離の操作時間について確認した。なお、隔離操作時間について、実操作ができない場合は、代替での検証で隔離操作時間を確認した。(例：同じ口径型式の弁にて閉操作を実施)</p> <p>(a) 中央制御室での隔離操作に要する時間：－(該当なし)</p> <p>(b) 現場での漏えい箇所隔離弁の特定に要する時間：5分(1弁)</p> <p>(c) 現場での弁操作に要する時間：5分(1弁)</p>	漏えい箇所特定に要する時間(分)	備考	出入管理建屋 電気建屋	出入管理建屋及び電気建屋の系統設置箇所の確認に要する時間	<p>【女川】</p> <p>記載表現の相違</p> <p>設計方針の相違</p> <p>泊では事象の判断結果に基づき、中央制御室にて漏えい範囲を特定している。</p> <p>【女川】</p> <p>設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラント設計の違いによる建屋及び評価結果の相違</li> <li>・(2)の事象の判断時間にて、漏えい系統を特定できている場合は、溢水源となる配管範囲の確認としている。</li> </ul> <p>【女川】</p> <p>記載表現の相違</p> <p>設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・隔離に要する時間の測定結果の相違。</li> <li>・プラント設計による隔離対象弁数の相違</li> </ul>
漏えい箇所特定に要する時間(分)	備考										
原子炉建屋 原子炉棟	原子炉建屋原子炉棟の全域確認に要する時間										
漏えい箇所特定に要する時間(分)	備考										
出入管理建屋 電気建屋	出入管理建屋及び電気建屋の系統設置箇所の確認に要する時間										



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>(5) 評価結果</p> <p>(1)～(4)より、RHR(A)の原子炉建屋内の想定破損時における隔離時間は、58分であり、評価として使用している80分の隔離時間以内であることを確認した。</p> <p>&lt;原子炉建屋 RHR(A)系の例&gt;</p> <p>①漏えい発生から漏えい検知までに要する時間：7分</p> <p>②漏えい検知から現場への移動時間：7分</p> <p>③漏えい箇所特定に要する時間：35分</p> <p>④隔離操作時間：9分</p> <p>(a)中央制御室での隔離操作に要する時間：(6分)</p> <p>(b)現場での隔離箇所特定に要する時間：(2分)</p> <p>(c)現場での隔離操作に要する時間：(1分)</p> <p>⑤循環水ポンプ停止時間：一分</p> <p>合計：58分</p> <p>4.2 所内用水系の例</p> <p>(1)漏えい発生から漏えい検知までの時間</p> <p>漏えい発生から漏えい検知までの時間については、</p> <p>①建屋内排水系のサンパ警報発信までの時間</p> <p>②漏えい検知器による検知に要する時間</p> <p>があるが、当該システムの系統漏えい量(9.1m<sup>3</sup>/h)はサンパポンプ定格流量(10m<sup>3</sup>/h)よりも小さく、発生した溢水は全量排水され防護対象設備への影響はないことから、ここでは漏えい検知器による検知に要する時間を算定する。床面積や漏えい検知器検出高さを踏まえ、検知時間が最も長い算定結果を表5に示す。</p>	<p>(6) 評価結果</p> <p>(1)～(5)により、水消火系の出入管理建屋及び電気建屋内の想定破損時における隔離時間は、44分であり、評価として使用している80分の隔離時間以内であることを確認した。</p> <p>&lt;出入管理建屋及び電気建屋 水消火系の例&gt;</p> <p>①漏えい発生から漏えい検知までに要する時間：1分</p> <p>②事象の判断時間：10分</p> <p>③事象の判断から現場への移動時間：3分</p> <p>④漏えい箇所特定に要する時間：20分</p> <p>⑤隔離操作時間：10分</p> <p>(a)中央制御室での隔離操作に要する時間：(一分)</p> <p>(b)現場での隔離箇所特定に要する時間：(5分)</p> <p>(c)現場での隔離操作に要する時間：(5分)</p> <p>⑥循環水ポンプ停止時間：一分</p> <p>合計：44分</p> <p>3. 2. 2 循環水系の例</p> <p>(1)漏えい発生から漏えい検知までの時間</p> <p>漏えい発生から漏えい検知までの時間については、漏えい検知器による検知に要する時間を算定する。床面積や漏えい検知器検出高さを踏まえ、検知時間が最も長い算定結果を表4に示す。</p>	<p>【女川】</p> <p><a href="#">記載表現の相違</a></p> <p><a href="#">設計方針の相違</a></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラント設計の違いによる建屋及びシステムの相違</li> <li>・評価結果及び測定結果の相違</li> <li>・泊では事象を判断する時間として、10分を設定している。(大飯と同様)</li> </ul> <p>【女川】</p> <p><a href="#">記載表現の相違</a></p> <p><a href="#">設計方針の相違</a></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラント設計の違いによる建屋及びシステムの相違</li> <li>・泊の循環水系については、サンパ警報による検知手段がなく、漏えい検知器による検知方法のみ期待している。</li> </ul>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料12）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																				
	<p>表5 漏えい検知器による検知時間</p> <table border="1" data-bbox="705 207 1272 279"> <thead> <tr> <th>区画</th> <th>床面積 (m<sup>2</sup>)</th> <th>漏えい検知器 検出高さ (mm)</th> <th>系統漏えい量 (m<sup>3</sup>/h)</th> <th>漏えい検知までの時間 (分)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>C-1F-3</td> <td>32.8<sup>※1</sup></td> <td>30<sup>※2</sup></td> <td>9.1<sup>※3</sup></td> <td>6.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 漏えい検知に要する時間の算出に関しては、機器占有率に応じた係数を乗じる前の床面積を用いる。なお、設水影響評価の際には、機器占有率に応じた係数を床面積に乗じた値を滞留面積としている。                  ※2 床上20mmで検知する設計としているが、保守的に30mmで検知するものとする。                  ※3 漏えい流量算出値については、「6.個別の設定根拠について」を参照。</p>	区画	床面積 (m <sup>2</sup> )	漏えい検知器 検出高さ (mm)	系統漏えい量 (m <sup>3</sup> /h)	漏えい検知までの時間 (分)	C-1F-3	32.8 <sup>※1</sup>	30 <sup>※2</sup>	9.1 <sup>※3</sup>	6.5	<p>表4 漏えい検知器による検知時間</p> <table border="1" data-bbox="1292 207 1859 279"> <thead> <tr> <th>区画</th> <th>床面積 (m<sup>2</sup>)</th> <th>漏えい検知器 検出高さ (mm)</th> <th>系統漏えい流量 (m<sup>3</sup>/h)</th> <th>漏えい検知までの時間 (分)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3CWPB-B-N03</td> <td>580<sup>※1</sup></td> <td>60<sup>※2</sup></td> <td>1,200</td> <td>1.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 漏えい検知に要する時間の算出に関しては、漏えい検知までの時間が長くなるよう、床面積は保守的に欠損面積を差し引く前の面積を用いる。                  ※2 床上50mmで検知する設計としているが、保守的に60mmで検知するものとする。                  ※3 漏えい流量算出値については、「5.個別の設定根拠について」を参照。</p>	区画	床面積 (m <sup>2</sup> )	漏えい検知器 検出高さ (mm)	系統漏えい流量 (m <sup>3</sup> /h)	漏えい検知までの時間 (分)	3CWPB-B-N03	580 <sup>※1</sup>	60 <sup>※2</sup>	1,200	1.8	<p>【女川】</p> <p><u>記載表現の相違</u>  <u>設計方針の相違</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラント設計の違いによる区画、面積、漏えい検知器検出高さ、系統漏えい量の相違。</li> <li>・漏えい検知器の設計による検出高さの相違。</li> <li>・漏えい検知器による検知時間については、面積が大きい方が保守的な設定となるため、機器や基礎等を考慮する前の面積を考慮する前の面積を用いているという点では泊と女川は同様であるが、女川は機器占有率に応じた係数を考慮しており、一方で泊は基礎欠損、現場欠損を考慮して欠損面積を算出しているという点で設水影響評価における面積の算出方法が異なる。</li> </ul>
区画	床面積 (m <sup>2</sup> )	漏えい検知器 検出高さ (mm)	系統漏えい量 (m <sup>3</sup> /h)	漏えい検知までの時間 (分)																			
C-1F-3	32.8 <sup>※1</sup>	30 <sup>※2</sup>	9.1 <sup>※3</sup>	6.5																			
区画	床面積 (m <sup>2</sup> )	漏えい検知器 検出高さ (mm)	系統漏えい流量 (m <sup>3</sup> /h)	漏えい検知までの時間 (分)																			
3CWPB-B-N03	580 <sup>※1</sup>	60 <sup>※2</sup>	1,200	1.8																			
<p>【再掲】（まとめ資料 p.2-9-別1補-79より抜粋）</p> <p>(2) 事象の判断及び漏えい箇所の特定について</p> <p>運転員は訓練により、事象の判断及び漏えい箇所の特定を短時間で確に実施する。中央制御室において漏えい箇所の特定が可能な場合には判断及び特定時間を10分とする。漏えい量が小さく現場での漏えい箇所の確認が必要な場合には、移動の時間も合わせて判断及び特定時間を設定する。運転操作余裕については事象の判断の中を含め、警報発信時から隔離操作開始までの時間として10分以上を確保する。</p> <p>温度センサ警報では異常の検知が行われるが、事象の判断及び漏えい箇所の特定については、圧力計、流量計、水位計等のパラメータの変化を組み合わせる実施する。</p>		<p>(2) 事象の判断時間</p> <p>漏えい検知器による中央制御室への警報発信により、循環水ポンプ建屋での溢水と判断する。判断時間は、2.1のとおり10分とする。</p>	<p>【女川】</p> <p><u>対応方針の相違</u></p> <p>泊では事象の判断結果に基づき、中央制御室にて漏えい範囲を特定している。検知における例を示すため、具体的に泊の判断の内容について記載する。（考え方は大阪と同様）</p>																				

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																										
<p>（2）現場への移動時間                      中央制御室及び漏えい箇所は共に制御建屋であることから、現場への移動時間については考慮しない。</p> <p>【再掲】（9条-別添1-補足8-3より抜粋）                      （2）現場への移動時間                      建屋内排水系サンプ警報の発生により、中央制御室にて原子炉建屋内で漏えいを検知してから中央制御室から原子炉建屋までの移動時間について確認を行った。また、当該エリアは管理区域のため着替えの時間を考慮した。管理区域内の現場への移動時間について表3に示す。</p> <p>（3）漏えい箇所特定に要する時間                      漏えい箇所特定手段がないとし、制御建屋の全域確認を実施した。漏えい箇所特定に要する時間について表6に示す。</p> <p>表6 漏えい箇所特定に要する時間</p> <table border="1" data-bbox="696 1139 1272 1246"> <thead> <tr> <th></th> <th>漏えい箇所特定に要する時間（分）</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>制御建屋</td> <td>22</td> <td>制御建屋の全域確認に要する時間</td> </tr> </tbody> </table>		漏えい箇所特定に要する時間（分）	備考	制御建屋	22	制御建屋の全域確認に要する時間	<p>（2）現場への移動時間                      中央制御室及び漏えい箇所は共に制御建屋であることから、現場への移動時間については考慮しない。</p> <p>【再掲】（9条-別添1-補足8-3より抜粋）                      （2）現場への移動時間                      建屋内排水系サンプ警報の発生により、中央制御室にて原子炉建屋内で漏えいを検知してから中央制御室から原子炉建屋までの移動時間について確認を行った。また、当該エリアは管理区域のため着替えの時間を考慮した。管理区域内の現場への移動時間について表3に示す。</p> <p>（3）現場への移動時間                      漏えい検知器による中央制御室への警報の発生により、中央制御室にて循環水ポンプ建屋内での漏えいを検知してから中央制御室から循環水ポンプ建屋までの移動時間について確認を行った。現場への移動時間について表5に示す。</p> <p>表5 現場への移動時間</p> <table border="1" data-bbox="1285 603 1848 660"> <thead> <tr> <th></th> <th>中央制御室から漏えい現場までの移動時間（分）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>循環水ポンプ建屋</td> <td>11</td> </tr> </tbody> </table> <p>（4）漏えい箇所特定に要する時間                      漏えい箇所特定手段がないとし、循環水ポンプ建屋の全域確認を実施した。漏えい箇所特定に要する時間について表6に示す。</p> <p>表6 漏えい箇所特定に要する時間</p> <table border="1" data-bbox="1285 1129 1848 1220"> <thead> <tr> <th></th> <th>漏えい箇所特定に要する時間（分）</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>循環水ポンプ建屋</td> <td>10</td> <td>循環水ポンプ建屋の全域確認に要する時間</td> </tr> </tbody> </table>		中央制御室から漏えい現場までの移動時間（分）	循環水ポンプ建屋	11		漏えい箇所特定に要する時間（分）	備考	循環水ポンプ建屋	10	循環水ポンプ建屋の全域確認に要する時間	<p>（3）現場への移動時間                      漏えい検知器による中央制御室への警報の発生により、中央制御室にて循環水ポンプ建屋内での漏えいを検知してから中央制御室から循環水ポンプ建屋までの移動時間について確認を行った。現場への移動時間について表5に示す。</p> <p>表5 現場への移動時間</p> <table border="1" data-bbox="1285 603 1848 660"> <thead> <tr> <th></th> <th>中央制御室から漏えい現場までの移動時間（分）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>循環水ポンプ建屋</td> <td>11</td> </tr> </tbody> </table> <p>（4）漏えい箇所特定に要する時間                      漏えい箇所特定手段がないとし、循環水ポンプ建屋の全域確認を実施した。漏えい箇所特定に要する時間について表6に示す。</p> <p>表6 漏えい箇所特定に要する時間</p> <table border="1" data-bbox="1285 1129 1848 1220"> <thead> <tr> <th></th> <th>漏えい箇所特定に要する時間（分）</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>循環水ポンプ建屋</td> <td>10</td> <td>循環水ポンプ建屋の全域確認に要する時間</td> </tr> </tbody> </table>		中央制御室から漏えい現場までの移動時間（分）	循環水ポンプ建屋	11		漏えい箇所特定に要する時間（分）	備考	循環水ポンプ建屋	10	循環水ポンプ建屋の全域確認に要する時間	<p>【女川】  <u>記載方針の相違</u>                      ・女川の所内用水系においては、移動時間を考慮が不要なため、残留熱除去系の移動時間例を参考にして記載する。  <u>記載表現の相違</u>  <u>設計方針の相違</u>                      ・漏えい検知の方法の相違。女川でも漏えい検知器に期待して隔離操作を実施している実績あり。                      ・プラント設計による建屋名称の相違。                      ・泊では時間を算出している想定破損時の隔離操作において、管理区域にアクセスするケースはない。（1日に2回のパトロールを実施することで溢水量を24時間として算出している原子炉補給水系統（脱塩水）については、管理区域へのアクセスが必要）</p> <p>【女川】  <u>設計方針の相違</u>                      プラント設計による建屋名称及び測定時間の相違</p>
	漏えい箇所特定に要する時間（分）	備考																											
制御建屋	22	制御建屋の全域確認に要する時間																											
	中央制御室から漏えい現場までの移動時間（分）																												
循環水ポンプ建屋	11																												
	漏えい箇所特定に要する時間（分）	備考																											
循環水ポンプ建屋	10	循環水ポンプ建屋の全域確認に要する時間																											
	中央制御室から漏えい現場までの移動時間（分）																												
循環水ポンプ建屋	11																												
	漏えい箇所特定に要する時間（分）	備考																											
循環水ポンプ建屋	10	循環水ポンプ建屋の全域確認に要する時間																											



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																				
	<p>(4) 弁操作時間</p> <p>中央制御室での隔離操作に要する時間、隔離対象箇所確認までの時間及び隔離の操作時間について確認した。なお、隔離操作時間について、実操作ができない場合は、代替での検証で隔離操作時間を確認した。</p> <p>(例：同じ口径型式の弁にて閉操作を実施)</p> <p>(a) 中央制御室での隔離操作に要する時間：－（該当なし）</p> <p>(b) 現場での漏えい箇所隔離弁の特定に要する時間：5分（1弁）</p> <p>(c) 現場での弁操作に要する時間：2分（1弁）</p> <p>【再掲】(9条-別添1-補足8-10より抜粋)</p> <p>表7-4 海水ポンプエリア、復水貯蔵タンクエリアの想定破損における隔離時間</p> <table border="1" data-bbox="698 667 1270 911"> <thead> <tr> <th rowspan="2">対象系統</th> <th rowspan="2">①<sup>※1</sup></th> <th rowspan="2">②</th> <th rowspan="2">③</th> <th colspan="3">④</th> <th rowspan="2">⑤</th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>(a)</th> <th>(b)</th> <th>(c)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CW</td> <td>24</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>15</td> <td>59</td> </tr> <tr> <td>FW<sup>※2</sup></td> <td>178<sup>※4</sup></td> <td>10</td> <td>10</td> <td>-</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>-</td> <td>206</td> </tr> <tr> <td>TCW<sup>※3</sup></td> <td>-</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>-</td> <td>11</td> <td>2</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>RSW (A)</td> <td>8<sup>※4</sup></td> <td>10</td> <td>10</td> <td>2</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>-</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>RSW (B)</td> <td>22<sup>※4</sup></td> <td>10</td> <td>10</td> <td>2</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>-</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>TSW</td> <td>12<sup>※4</sup></td> <td>10</td> <td>10</td> <td>2</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>HPSW</td> <td>8<sup>※4</sup></td> <td>10</td> <td>10</td> <td>2</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>-</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>MWC</td> <td>1<sup>※4</sup></td> <td>7</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>-</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 漏えい検知器による検知を期待する区画があることから、漏えい検知器又はサンブ警報による検知のうち、検知時間が長いものを記載する。</p> <p>※2 FWについては、隔離時間206分として、評価を実施する。</p> <p>※3 系統漏えい流量(13.9m<sup>3</sup>/h)に対して、開口から取水槽へ排水されるため(9m<sup>3</sup>/h×3箇所)、防護対象設備への影響はないが、隔離時間80分として評価を実施する。</p> <p>※4 漏えい検知器による検知時間を記載。</p>	対象系統	① <sup>※1</sup>	②	③	④			⑤	合計	(a)	(b)	(c)	CW	24	10	10	-	-	-	15	59	FW <sup>※2</sup>	178 <sup>※4</sup>	10	10	-	6	2	-	206	TCW <sup>※3</sup>	-	10	10	-	11	2	-	-	RSW (A)	8 <sup>※4</sup>	10	10	2	6	2	-	38	RSW (B)	22 <sup>※4</sup>	10	10	2	6	2	-	52	TSW	12 <sup>※4</sup>	10	10	2	-	-	-	34	HPSW	8 <sup>※4</sup>	10	10	2	6	2	-	38	MWC	1 <sup>※4</sup>	7	5	2	4	6	-	25	<p>(5) 弁操作時間</p> <p>中央制御室での隔離操作に要する時間、隔離対象箇所確認までの時間及び隔離の操作時間について確認した。なお、隔離操作時間について、実操作ができない場合は、代替での検証で隔離操作時間を確認した。</p> <p>(例：同じ口径型式の弁にて閉操作を実施)</p> <p>(a) 中央制御室での隔離操作に要する時間：－（該当なし）</p> <p>(b) 現場での漏えい箇所隔離弁の特定に要する時間：－（該当なし）</p> <p>(c) 現場での弁操作に要する時間：－（該当なし）</p> <p>(6) 循環水ポンプ停止時間</p> <p>操作時間は1操作1分とし、循環水ポンプ停止時間は空転時間を考慮し6分とした。</p> <p>(a) 中央制御室でのポンプ停止操作に要する時間：2分（2台）</p> <p>(b) ポンプ停止時間：4分</p>	<p>【女川】</p> <p>記載表現の相違</p> <p>設計方針の相違</p> <p>・隔離に要する時間の測定結果の相違（泊の本隔離操作においては、弁の閉操作はなく、循環水ポンプを停止することで隔離操作が完了となる。なお、女川のCWについても同様に現場での弁操作はない。（表7-4「海水ポンプエリア、復水貯蔵タンクエリアの想定破損における隔離時間」参照。）</p> <p>【女川】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>循環水ポンプの停止操作に要する時間は、1台2分であり、ポンプの空転時間4分を考慮している。</p>
対象系統	① <sup>※1</sup>					②	③	④			⑤	合計																																																																											
		(a)	(b)	(c)																																																																																			
CW	24	10	10	-	-	-	15	59																																																																															
FW <sup>※2</sup>	178 <sup>※4</sup>	10	10	-	6	2	-	206																																																																															
TCW <sup>※3</sup>	-	10	10	-	11	2	-	-																																																																															
RSW (A)	8 <sup>※4</sup>	10	10	2	6	2	-	38																																																																															
RSW (B)	22 <sup>※4</sup>	10	10	2	6	2	-	52																																																																															
TSW	12 <sup>※4</sup>	10	10	2	-	-	-	34																																																																															
HPSW	8 <sup>※4</sup>	10	10	2	6	2	-	38																																																																															
MWC	1 <sup>※4</sup>	7	5	2	4	6	-	25																																																																															



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>(5) 評価結果</p> <p>(1)～(4)より、<b>所内用水系の制御</b>建屋内の想定破損時における隔離時間は、<b>36分</b>であり、評価として使用している80分の隔離時間以内であることを確認した。</p> <p>&lt;制御建屋 所内用水系の例&gt;</p> <p>①漏えい発生から漏えい検知までに要する時間：7分</p> <p>②漏えい検知から現場への移動時間：一分</p> <p>③漏えい箇所特定に要する時間：22分</p> <p>④隔離操作時間：7分</p> <p>(a)中央制御室での隔離操作に要する時間：(一分)</p> <p>(b)現場での隔離箇所特定に要する時間：(5分)</p> <p>(c)現場での隔離操作に要する時間：(2分)</p> <p>⑤循環水ポンプ停止時間：一分</p> <p>合計：36分</p> <p>5. 各系統の漏えい箇所の隔離に必要な時間                  上記と同様に、各系統の想定破損における漏えい箇所の隔離に必要な時間を纏めた結果を表7-1～7-6に示す。                  また、浸水時の歩行速度への影響について別紙に示す。</p>	<p>(7) 評価結果</p> <p>(1)～(6)より、<b>循環水系の循環水ポンプ</b>建屋内の想定破損時における隔離時間は、<b>39分</b>であり、評価として使用している80分の隔離時間以内であることを確認した。</p> <p>&lt;循環水ポンプ建屋 循環水系の例&gt;</p> <p>①漏えい発生から漏えい検知までに要する時間：2分</p> <p>②事象の判断時間：10分</p> <p>③事象の判断から現場への移動時間：11分</p> <p>④漏えい箇所特定に要する時間：10分</p> <p>⑤隔離操作時間：一分</p> <p>(a)中央制御室での隔離操作に要する時間：(一分)</p> <p>(b)現場での隔離箇所特定に要する時間：(一分)</p> <p>(c)現場での隔離操作に要する時間：(一分)</p> <p>⑥循環水ポンプ停止時間：6分</p> <p>(a)中央制御室でのポンプ停止操作に要する時間：2分</p> <p>(b)ポンプ停止時間：4分</p> <p>合計：39分</p> <p>4. 各系統の漏えい箇所の隔離に必要な時間                  上記と同様に、各系統の想定破損における漏えい箇所の隔離に必要な時間を纏めた結果を表7-1～7-3に示す。</p>	<p>【女川】</p> <p><a href="#">記載表現の相違</a>  <a href="#">設計方針の相違</a></p> <p>・プラント設計の違いによる建屋及び系統の相違</p> <p>・評価結果及び測定時間の相違</p> <p>・泊では、事象を判断する時間として、10分を設定している。</p> <p>・循環水ポンプの停止操作に要する時間は、1台2分であり、ポンプの空転時間4分を考慮している。</p> <p>【女川】</p> <p><a href="#">記載表現の相違</a>  <a href="#">記載方針の相違</a></p> <p>泊では、地震時と想定破損時の隔離操作の妥当性の資料を分けており、両方に関する内容であるため、補足説明資料11「運転員のアクセス性」の別紙4として記載する。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																																																																																																																																			
	<p>表 7-1 原子炉建屋原子炉棟の想定破損における隔離時間</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">対象系統</th> <th rowspan="2">①<sup>※1</sup></th> <th rowspan="2">②</th> <th rowspan="2">③</th> <th colspan="3">④</th> <th rowspan="2">⑤</th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>(a)</th> <th>(b)</th> <th>(c)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>CRD</td><td>8</td><td>7</td><td>35</td><td>2</td><td>15</td><td>6</td><td>-</td><td>73</td></tr> <tr><td>SUC</td><td>13</td><td>7</td><td>35</td><td>-</td><td>4</td><td>1</td><td>-</td><td>60</td></tr> <tr><td>RHR (A)</td><td>7</td><td>7</td><td>35</td><td>6</td><td>2</td><td>1</td><td>-</td><td>58</td></tr> <tr><td>RHR (B)</td><td>7</td><td>7</td><td>35</td><td>6</td><td>2</td><td>1</td><td>-</td><td>58</td></tr> <tr><td>RHR (C)</td><td>7</td><td>7</td><td>35</td><td>6</td><td>2</td><td>1</td><td>-</td><td>58</td></tr> <tr><td>LPCS</td><td>7</td><td>7</td><td>35</td><td>4</td><td>5</td><td>1</td><td>-</td><td>59</td></tr> <tr><td>HPCS</td><td>7</td><td>7</td><td>35</td><td>4</td><td>5</td><td>1</td><td>-</td><td>59</td></tr> <tr><td>RCIC</td><td>7</td><td>7</td><td>35</td><td>4</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>53</td></tr> <tr><td>FPC</td><td>7</td><td>7</td><td>35</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>-</td><td>58</td></tr> <tr><td>MUWP</td><td>9</td><td>7</td><td>35</td><td>2</td><td>16</td><td>10</td><td>-</td><td>79</td></tr> <tr><td>MUWC</td><td>7</td><td>7</td><td>35</td><td>2</td><td>12</td><td>15</td><td>-</td><td>78</td></tr> <tr><td>FW</td><td>7</td><td>7</td><td>35</td><td>-</td><td>17</td><td>6</td><td>-</td><td>72</td></tr> <tr><td>FPMUW</td><td>12</td><td>7</td><td>35</td><td>-</td><td>8</td><td>2</td><td>-</td><td>64</td></tr> <tr><td>HNCW</td><td>7</td><td>7</td><td>35</td><td>4</td><td>6</td><td>1</td><td>-</td><td>60</td></tr> <tr><td>HECW (A)</td><td>7</td><td>7</td><td>35</td><td>4</td><td>3</td><td>1</td><td>-</td><td>57</td></tr> <tr><td>HECW (B)</td><td>7</td><td>7</td><td>35</td><td>4</td><td>3</td><td>1</td><td>-</td><td>57</td></tr> <tr><td>RCW (A)</td><td>7</td><td>7</td><td>35</td><td>2</td><td>3</td><td>1</td><td>-</td><td>55</td></tr> <tr><td>RCW (B)</td><td>7</td><td>7</td><td>35</td><td>2</td><td>3</td><td>1</td><td>-</td><td>55</td></tr> <tr><td>HPCW</td><td>7</td><td>7</td><td>35</td><td>2</td><td>4</td><td>1</td><td>-</td><td>56</td></tr> <tr><td>HWH</td><td>7</td><td>7</td><td>35</td><td>4</td><td>3</td><td>1</td><td>-</td><td>57</td></tr> <tr><td>FP</td><td>9</td><td>7</td><td>35</td><td>-</td><td>19</td><td>2</td><td>-</td><td>72</td></tr> <tr><td>DGDO (A)</td><td>17</td><td>7</td><td>35</td><td>-</td><td>12</td><td>1</td><td>-</td><td>72</td></tr> </tbody> </table> <p>※1 漏えい検知器による検知を期待する区画があることから、漏えい検知器又はサンパ警報による検知のうち、検知時間が長いものを記載する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>①漏えい発生から漏えい検知までに要する時間（分）                  ②漏えい検知から現場への移動時間（分）                  ③漏えい箇所特定に要する時間（分）                  ④隔離操作時間（分）                  (a) 中央制御室での隔離操作に要する時間                  (b) 現場での隔離箇所特定に要する時間                  (c) 現場での隔離操作に要する時間                  ⑤循環水ポンプ停止時間（分）</p> </div>	対象系統	① <sup>※1</sup>	②	③	④			⑤	合計	(a)	(b)	(c)	CRD	8	7	35	2	15	6	-	73	SUC	13	7	35	-	4	1	-	60	RHR (A)	7	7	35	6	2	1	-	58	RHR (B)	7	7	35	6	2	1	-	58	RHR (C)	7	7	35	6	2	1	-	58	LPCS	7	7	35	4	5	1	-	59	HPCS	7	7	35	4	5	1	-	59	RCIC	7	7	35	4	-	-	-	53	FPC	7	7	35	4	3	2	-	58	MUWP	9	7	35	2	16	10	-	79	MUWC	7	7	35	2	12	15	-	78	FW	7	7	35	-	17	6	-	72	FPMUW	12	7	35	-	8	2	-	64	HNCW	7	7	35	4	6	1	-	60	HECW (A)	7	7	35	4	3	1	-	57	HECW (B)	7	7	35	4	3	1	-	57	RCW (A)	7	7	35	2	3	1	-	55	RCW (B)	7	7	35	2	3	1	-	55	HPCW	7	7	35	2	4	1	-	56	HWH	7	7	35	4	3	1	-	57	FP	9	7	35	-	19	2	-	72	DGDO (A)	17	7	35	-	12	1	-	72	<p>表 7-1 出入管理建屋及び電気建屋の想定破損における隔離時間</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">対象系統</th> <th rowspan="2">①</th> <th rowspan="2">②</th> <th rowspan="2">③</th> <th rowspan="2">④</th> <th colspan="3">⑤</th> <th colspan="2">⑥</th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>(a)</th> <th>(b)</th> <th>(c)</th> <th>(a)</th> <th>(b)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水消火系 (出入管理建屋・電気建屋)</td> <td>1<sup>※2</sup></td> <td>10</td> <td>3</td> <td>20</td> <td>-</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>原子炉補給水系（脱塩水）<sup>※1</sup> (出入管理建屋)</td> <td colspan="10">24時間<sup>※3</sup></td> </tr> <tr> <td>飲料水系<sup>※2</sup> (出入管理建屋)</td> <td colspan="10">24時間<sup>※3</sup></td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 原子炉補給水系（脱塩水）及び飲料水系については、隔離時間 24 時間として、評価を実施する。          ※2 漏えい発生により水消火系の圧力が低下し、消火ポンプ起動警報が中央制御室に発信することにより異常を検知。          ※3 出入管理建屋は、1日に2回のパトロールを実施することを「内部溢水対応要領（仮称）」に定めるため、漏えい発生から系統隔離までの隔離時間を24時間と設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>①漏えい発生から漏えい検知までに要する時間（分）                  ②事象の判断時間（分）                  ③漏えい検知から現場への移動時間（分）                  ④漏えい箇所特定に要する時間（分）                  ⑤隔離操作時間（分）                  (a) 中央制御室での隔離操作に要する時間                  (b) 現場での隔離箇所特定に要する時間                  (c) 現場での隔離操作に要する時間                  ⑥循環水ポンプ停止時間（分）                  (a) 中央制御室でのポンプ停止操作に要する時間                  (b) ポンプ停止時間</p> </div>	対象系統	①	②	③	④	⑤			⑥		合計	(a)	(b)	(c)	(a)	(b)	水消火系 (出入管理建屋・電気建屋)	1 <sup>※2</sup>	10	3	20	-	5	5	-	-	44	原子炉補給水系（脱塩水） <sup>※1</sup> (出入管理建屋)	24時間 <sup>※3</sup>										飲料水系 <sup>※2</sup> (出入管理建屋)	24時間 <sup>※3</sup>										<p>【女川】</p> <p><u>記載表現の相違</u>  <u>設計方針の相違</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊では事象を判断する時間として、10分を設定している。（先行PWRと同様）</li> <li>・出入管理建屋及び電気建屋の水消火系は、液算処理による警報によって溢水を検知している。</li> <li>・出入管理建屋の原子炉補給水系（脱塩水）、飲料水系は、ドレンサンパ及び漏えい検知器による検知方法が無いことから、巡視点検による発見に期待し、1日に2回のパトロールにより検知されるとの考えで隔離時間を24時間として設定している。</li> <li>・泊では漏えい検知器による検知がないため、女川の※1の記載は不要とし、サンパ又はビット検知以外の検知については、表の下部に検知の内容を記載する。</li> </ul> <p><u>記載方針の相違</u></p> <p>泊では循環水ポンプの停止時間に関して、「中央制御室でのポンプ停止操作に要する時間」と「ポンプ停止時間」に分けて記載している。</p>
対象系統	① <sup>※1</sup>					②	③	④			⑤	合計																																																																																																																																																																																																																																																										
		(a)	(b)	(c)																																																																																																																																																																																																																																																																		
CRD	8	7	35	2	15	6	-	73																																																																																																																																																																																																																																																														
SUC	13	7	35	-	4	1	-	60																																																																																																																																																																																																																																																														
RHR (A)	7	7	35	6	2	1	-	58																																																																																																																																																																																																																																																														
RHR (B)	7	7	35	6	2	1	-	58																																																																																																																																																																																																																																																														
RHR (C)	7	7	35	6	2	1	-	58																																																																																																																																																																																																																																																														
LPCS	7	7	35	4	5	1	-	59																																																																																																																																																																																																																																																														
HPCS	7	7	35	4	5	1	-	59																																																																																																																																																																																																																																																														
RCIC	7	7	35	4	-	-	-	53																																																																																																																																																																																																																																																														
FPC	7	7	35	4	3	2	-	58																																																																																																																																																																																																																																																														
MUWP	9	7	35	2	16	10	-	79																																																																																																																																																																																																																																																														
MUWC	7	7	35	2	12	15	-	78																																																																																																																																																																																																																																																														
FW	7	7	35	-	17	6	-	72																																																																																																																																																																																																																																																														
FPMUW	12	7	35	-	8	2	-	64																																																																																																																																																																																																																																																														
HNCW	7	7	35	4	6	1	-	60																																																																																																																																																																																																																																																														
HECW (A)	7	7	35	4	3	1	-	57																																																																																																																																																																																																																																																														
HECW (B)	7	7	35	4	3	1	-	57																																																																																																																																																																																																																																																														
RCW (A)	7	7	35	2	3	1	-	55																																																																																																																																																																																																																																																														
RCW (B)	7	7	35	2	3	1	-	55																																																																																																																																																																																																																																																														
HPCW	7	7	35	2	4	1	-	56																																																																																																																																																																																																																																																														
HWH	7	7	35	4	3	1	-	57																																																																																																																																																																																																																																																														
FP	9	7	35	-	19	2	-	72																																																																																																																																																																																																																																																														
DGDO (A)	17	7	35	-	12	1	-	72																																																																																																																																																																																																																																																														
対象系統	①	②	③	④	⑤			⑥		合計																																																																																																																																																																																																																																																												
					(a)	(b)	(c)	(a)	(b)																																																																																																																																																																																																																																																													
水消火系 (出入管理建屋・電気建屋)	1 <sup>※2</sup>	10	3	20	-	5	5	-	-	44																																																																																																																																																																																																																																																												
原子炉補給水系（脱塩水） <sup>※1</sup> (出入管理建屋)	24時間 <sup>※3</sup>																																																																																																																																																																																																																																																																					
飲料水系 <sup>※2</sup> (出入管理建屋)	24時間 <sup>※3</sup>																																																																																																																																																																																																																																																																					

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																																																																			
	<p>表 7-2 原子炉建屋付属棟の想定破損における隔離時間</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">対象系統</th> <th rowspan="2">①<sup>※1</sup></th> <th rowspan="2">②</th> <th rowspan="2">③</th> <th colspan="3">④</th> <th rowspan="2">⑤</th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>(a)</th> <th>(b)</th> <th>(c)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>FW</td><td>7</td><td>-</td><td>22</td><td>-</td><td>24</td><td>6</td><td>-</td><td>59</td></tr> <tr><td>HNCW</td><td>7</td><td>-</td><td>22</td><td>4</td><td>13</td><td>1</td><td>-</td><td>47</td></tr> <tr><td>HECW(A)</td><td>7</td><td>-</td><td>22</td><td>4</td><td>10</td><td>1</td><td>-</td><td>44</td></tr> <tr><td>HECW(B)</td><td>7</td><td>-</td><td>22</td><td>4</td><td>10</td><td>1</td><td>-</td><td>44</td></tr> <tr><td>RCW(A)</td><td>7</td><td>-</td><td>22</td><td>2</td><td>10</td><td>1</td><td>-</td><td>42</td></tr> <tr><td>RCW(B)</td><td>7</td><td>-</td><td>22</td><td>2</td><td>10</td><td>1</td><td>-</td><td>42</td></tr> <tr><td>RSW(A)</td><td>7</td><td>-</td><td>22</td><td>2</td><td>14</td><td>2</td><td>-</td><td>47</td></tr> <tr><td>RSW(B)</td><td>7</td><td>-</td><td>22</td><td>2</td><td>14</td><td>2</td><td>-</td><td>47</td></tr> <tr><td>HPCW</td><td>7</td><td>-</td><td>22</td><td>2</td><td>11</td><td>1</td><td>-</td><td>43</td></tr> <tr><td>HPSW</td><td>7</td><td>-</td><td>22</td><td>2</td><td>11</td><td>1</td><td>-</td><td>43</td></tr> <tr><td>HWH</td><td>7</td><td>-</td><td>22</td><td>4</td><td>12</td><td>1</td><td>-</td><td>46</td></tr> <tr><td>DGCW(A)</td><td>30<sup>※2</sup></td><td>-</td><td>22</td><td>-</td><td>6</td><td>2</td><td>-</td><td>60</td></tr> <tr><td>DGCW(B)</td><td>30<sup>※2</sup></td><td>-</td><td>22</td><td>-</td><td>6</td><td>2</td><td>-</td><td>60</td></tr> <tr><td>DGCW(H)</td><td>30<sup>※2</sup></td><td>-</td><td>22</td><td>-</td><td>6</td><td>2</td><td>-</td><td>60</td></tr> <tr><td>DGDO(A)</td><td>21<sup>※2</sup></td><td>-</td><td>22</td><td>-</td><td>5</td><td>1</td><td>-</td><td>49</td></tr> <tr><td>DGDO(B)</td><td>21<sup>※2</sup></td><td>-</td><td>22</td><td>-</td><td>5</td><td>1</td><td>-</td><td>49</td></tr> <tr><td>DGDO(H)</td><td>21<sup>※2</sup></td><td>-</td><td>22</td><td>-</td><td>5</td><td>1</td><td>-</td><td>49</td></tr> <tr><td>FP</td><td>9</td><td>-</td><td>22</td><td>-</td><td>26</td><td>2</td><td>-</td><td>59</td></tr> </tbody> </table> <p>※1 漏えい検知器による検知を期待する区画があることから、漏えい検知器又はサンパ警報による検知のうち、検知時間が長いものを記載する。</p> <p>※2 漏えい検知器による検知時間を記載。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>①漏えい発生から漏えい検知までに要する時間（分）                  ②漏えい検知から現場への移動時間（分）                  ③漏えい箇所特定に要する時間（分）                  ④隔離操作時間（分）                  (a) 中央制御室での隔離操作に要する時間                  (b) 現場での隔離箇所特定に要する時間                  (c) 現場での隔離操作に要する時間                  ⑤循環水ポンプ停止時間（分）</p> </div>	対象系統	① <sup>※1</sup>	②	③	④			⑤	合計	(a)	(b)	(c)	FW	7	-	22	-	24	6	-	59	HNCW	7	-	22	4	13	1	-	47	HECW(A)	7	-	22	4	10	1	-	44	HECW(B)	7	-	22	4	10	1	-	44	RCW(A)	7	-	22	2	10	1	-	42	RCW(B)	7	-	22	2	10	1	-	42	RSW(A)	7	-	22	2	14	2	-	47	RSW(B)	7	-	22	2	14	2	-	47	HPCW	7	-	22	2	11	1	-	43	HPSW	7	-	22	2	11	1	-	43	HWH	7	-	22	4	12	1	-	46	DGCW(A)	30 <sup>※2</sup>	-	22	-	6	2	-	60	DGCW(B)	30 <sup>※2</sup>	-	22	-	6	2	-	60	DGCW(H)	30 <sup>※2</sup>	-	22	-	6	2	-	60	DGDO(A)	21 <sup>※2</sup>	-	22	-	5	1	-	49	DGDO(B)	21 <sup>※2</sup>	-	22	-	5	1	-	49	DGDO(H)	21 <sup>※2</sup>	-	22	-	5	1	-	49	FP	9	-	22	-	26	2	-	59	<p>表 7-2 タービン建屋の想定破損における隔離時間</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">対象系統</th> <th rowspan="2">①</th> <th rowspan="2">②</th> <th rowspan="2">③</th> <th rowspan="2">④</th> <th colspan="3">⑤</th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>(a)</th> <th>(b)</th> <th>(c)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>循環水系<sup>※1</sup></td> <td>72</td> <td>10</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>97</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 循環水系については、隔離時間 97 分として、評価を実施する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>①漏えい発生から漏えい検知までに要する時間（分）                  ②対象の判断時間（分）                  ③漏えい検知から現場への移動時間（分）                  ④漏えい箇所特定に要する時間（分）                  ⑤隔離操作時間（分）                  (a) 中央制御室での隔離操作に要する時間                  (b) 現場での隔離箇所特定に要する時間                  (c) 現場での隔離操作に要する時間                  ⑥循環水ポンプ停止時間（分）                  (a) 中央制御室でのポンプ停止操作に要する時間                  (b) ポンプ停止時間</p> </div>	対象系統	①	②	③	④	⑤			合計	(a)	(b)	(c)	循環水系 <sup>※1</sup>	72	10	4	5	-	-	-	97	<p>【女川】</p> <p>記載表現の相違          設計方針の相違</p> <p>泊では事象を判断する時間として、10分を設定している。（先行PWRと同様）</p> <p>記載方針の相違</p> <p>泊では循環水ポンプの停止時間に関して、「中央制御室でのポンプ停止操作に要する時間」と「ポンプ停止時間」に分けて記載している。</p>
対象系統	① <sup>※1</sup>					②	③	④			⑤	合計																																																																																																																																																																																										
		(a)	(b)	(c)																																																																																																																																																																																																		
FW	7	-	22	-	24	6	-	59																																																																																																																																																																																														
HNCW	7	-	22	4	13	1	-	47																																																																																																																																																																																														
HECW(A)	7	-	22	4	10	1	-	44																																																																																																																																																																																														
HECW(B)	7	-	22	4	10	1	-	44																																																																																																																																																																																														
RCW(A)	7	-	22	2	10	1	-	42																																																																																																																																																																																														
RCW(B)	7	-	22	2	10	1	-	42																																																																																																																																																																																														
RSW(A)	7	-	22	2	14	2	-	47																																																																																																																																																																																														
RSW(B)	7	-	22	2	14	2	-	47																																																																																																																																																																																														
HPCW	7	-	22	2	11	1	-	43																																																																																																																																																																																														
HPSW	7	-	22	2	11	1	-	43																																																																																																																																																																																														
HWH	7	-	22	4	12	1	-	46																																																																																																																																																																																														
DGCW(A)	30 <sup>※2</sup>	-	22	-	6	2	-	60																																																																																																																																																																																														
DGCW(B)	30 <sup>※2</sup>	-	22	-	6	2	-	60																																																																																																																																																																																														
DGCW(H)	30 <sup>※2</sup>	-	22	-	6	2	-	60																																																																																																																																																																																														
DGDO(A)	21 <sup>※2</sup>	-	22	-	5	1	-	49																																																																																																																																																																																														
DGDO(B)	21 <sup>※2</sup>	-	22	-	5	1	-	49																																																																																																																																																																																														
DGDO(H)	21 <sup>※2</sup>	-	22	-	5	1	-	49																																																																																																																																																																																														
FP	9	-	22	-	26	2	-	59																																																																																																																																																																																														
対象系統	①	②	③	④	⑤			合計																																																																																																																																																																																														
					(a)	(b)	(c)																																																																																																																																																																																															
循環水系 <sup>※1</sup>	72	10	4	5	-	-	-	97																																																																																																																																																																																														

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																		
	<p>表 7-3 制御建屋の想定破損における隔離時間</p> <table border="1" data-bbox="703 213 1265 435"> <thead> <tr> <th rowspan="2">対象系統</th> <th rowspan="2">①<sup>※1</sup></th> <th rowspan="2">②</th> <th rowspan="2">③</th> <th colspan="3">④</th> <th rowspan="2">⑤</th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>(a)</th> <th>(b)</th> <th>(c)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MUWP</td> <td>8</td> <td>-</td> <td>22</td> <td>-</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>-</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>HNCW</td> <td>7</td> <td>-</td> <td>22</td> <td>4</td> <td>13</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>HECW (A)</td> <td>7</td> <td>-</td> <td>22</td> <td>4</td> <td>10</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>HECW (B)</td> <td>7</td> <td>-</td> <td>22</td> <td>4</td> <td>10</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>HRH</td> <td>7</td> <td>-</td> <td>22</td> <td>4</td> <td>12</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>46</td> </tr> <tr> <td>FP</td> <td>9</td> <td>-</td> <td>22</td> <td>-</td> <td>37</td> <td>10</td> <td>-</td> <td>78</td> </tr> <tr> <td>所内用水</td> <td>7<sup>※2</sup></td> <td>-</td> <td>22</td> <td>-</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>-</td> <td>36</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 漏えい検知器による検知を期待する区画があることから、漏えい検知器又はサンブ警報による検知のうち、検知時間が長いものを記載する。                  ※2 漏えい検知器による検知時間を記載。</p> <div data-bbox="913 560 1256 708" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①漏えい発生から漏えい検知までに要する時間（分）                      ②漏えい検知から現場への移動時間（分）                      ③漏えい箇所特定に要する時間（分）                      ④隔離操作時間（分）                      (a) 中央制御室での隔離操作に要する時間                      (b) 現場での隔離箇所特定に要する時間                      (c) 現場での隔離操作に要する時間                      ⑤循環水ポンプ停止時間（分）</p> </div>	対象系統	① <sup>※1</sup>	②	③	④			⑤	合計	(a)	(b)	(c)	MUWP	8	-	22	-	6	4	-	40	HNCW	7	-	22	4	13	1	-	47	HECW (A)	7	-	22	4	10	1	-	44	HECW (B)	7	-	22	4	10	1	-	44	HRH	7	-	22	4	12	1	-	46	FP	9	-	22	-	37	10	-	78	所内用水	7 <sup>※2</sup>	-	22	-	5	2	-	36	<p>表 7-3 循環水ポンプ建屋の想定破損における隔離時間</p> <table border="1" data-bbox="1285 213 1848 288"> <thead> <tr> <th rowspan="2">対象系統</th> <th rowspan="2">①</th> <th rowspan="2">②</th> <th rowspan="2">③</th> <th rowspan="2">④</th> <th colspan="3">⑤</th> <th rowspan="2">⑥</th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>(a)</th> <th>(b)</th> <th>(c)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>循環水系</td> <td>2<sup>※1</sup></td> <td>10</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>39</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 漏えい検知器による検知時間を記載。</p> <div data-bbox="1509 336 1852 600" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①漏えい発生から漏えい検知までに要する時間（分）                      ②対象の判断時間（分）                      ③漏えい検知から現場への移動時間（分）                      ④漏えい箇所特定に要する時間（分）                      ⑤隔離操作時間（分）                      (a) 中央制御室での隔離操作に要する時間                      (b) 現場での隔離箇所特定に要する時間                      (c) 現場での隔離操作に要する時間                      ⑥循環水ポンプ停止時間（分）                      (a) 中央制御室でのポンプ停止操作に要する時間                      (b) ポンプ停止時間</p> </div>	対象系統	①	②	③	④	⑤			⑥	合計	(a)	(b)	(c)	循環水系	2 <sup>※1</sup>	10	11	10	-	-	2	4	39	<p>【女川】  <u>記載表現の相違</u>  <u>設計方針の相違</u>                      泊では事象を判断する時間として、10分を設定している。（先行PWRと同様）  <u>記載方針の相違</u>                      泊では循環水ポンプの停止時間に関して、「中央制御室でのポンプ停止操作に要する時間」と「ポンプ停止時間」に分けて記載している。</p>
対象系統	① <sup>※1</sup>					②	③	④			⑤	合計																																																																																									
		(a)	(b)	(c)																																																																																																	
MUWP	8	-	22	-	6	4	-	40																																																																																													
HNCW	7	-	22	4	13	1	-	47																																																																																													
HECW (A)	7	-	22	4	10	1	-	44																																																																																													
HECW (B)	7	-	22	4	10	1	-	44																																																																																													
HRH	7	-	22	4	12	1	-	46																																																																																													
FP	9	-	22	-	37	10	-	78																																																																																													
所内用水	7 <sup>※2</sup>	-	22	-	5	2	-	36																																																																																													
対象系統	①	②	③	④	⑤			⑥	合計																																																																																												
					(a)	(b)	(c)																																																																																														
循環水系	2 <sup>※1</sup>	10	11	10	-	-	2	4	39																																																																																												
	<p>表 7-4 海水ポンプエリア、復水貯蔵タンクエリアの想定破損における隔離時間</p> <table border="1" data-bbox="703 1007 1265 1257"> <thead> <tr> <th rowspan="2">対象系統</th> <th rowspan="2">①<sup>※1</sup></th> <th rowspan="2">②</th> <th rowspan="2">③</th> <th colspan="3">④</th> <th rowspan="2">⑤</th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>(a)</th> <th>(b)</th> <th>(c)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CW</td> <td>24</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>15</td> <td>59</td> </tr> <tr> <td>FW<sup>※2</sup></td> <td>178<sup>※4</sup></td> <td>10</td> <td>10</td> <td>-</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>-</td> <td>206</td> </tr> <tr> <td>TCW<sup>※3</sup></td> <td>-</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>-</td> <td>11</td> <td>2</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>RSW (A)</td> <td>8<sup>※4</sup></td> <td>10</td> <td>10</td> <td>2</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>-</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>RSW (B)</td> <td>22<sup>※4</sup></td> <td>10</td> <td>10</td> <td>2</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>-</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>TSW</td> <td>12<sup>※4</sup></td> <td>10</td> <td>10</td> <td>2</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>HPSW</td> <td>8<sup>※4</sup></td> <td>10</td> <td>10</td> <td>2</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>-</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>MUWC</td> <td>1<sup>※4</sup></td> <td>7</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>-</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 漏えい検知器による検知を期待する区画があることから、漏えい検知器又はサンブ警報による検知のうち、検知時間が長いものを記載する。                  ※2 FWについては、隔離時間206分として、評価を実施する。                  ※3 系統漏えい流量(13.9m<sup>3</sup>/h)に対して、開口から取水槽へ排水されるため(9m<sup>3</sup>/h×3箇所)、防護対象設備への影響はないが、隔離時間80分として評価を実施する。                  ※4 漏えい検知器による検知時間を記載。</p>	対象系統	① <sup>※1</sup>	②	③	④			⑤	合計	(a)	(b)	(c)	CW	24	10	10	-	-	-	15	59	FW <sup>※2</sup>	178 <sup>※4</sup>	10	10	-	6	2	-	206	TCW <sup>※3</sup>	-	10	10	-	11	2	-	-	RSW (A)	8 <sup>※4</sup>	10	10	2	6	2	-	38	RSW (B)	22 <sup>※4</sup>	10	10	2	6	2	-	52	TSW	12 <sup>※4</sup>	10	10	2	-	-	-	34	HPSW	8 <sup>※4</sup>	10	10	2	6	2	-	38	MUWC	1 <sup>※4</sup>	7	5	2	4	6	-	25		<p>【女川】  <u>記載表現の相違</u></p>														
対象系統	① <sup>※1</sup>					②	③	④			⑤	合計																																																																																									
		(a)	(b)	(c)																																																																																																	
CW	24	10	10	-	-	-	15	59																																																																																													
FW <sup>※2</sup>	178 <sup>※4</sup>	10	10	-	6	2	-	206																																																																																													
TCW <sup>※3</sup>	-	10	10	-	11	2	-	-																																																																																													
RSW (A)	8 <sup>※4</sup>	10	10	2	6	2	-	38																																																																																													
RSW (B)	22 <sup>※4</sup>	10	10	2	6	2	-	52																																																																																													
TSW	12 <sup>※4</sup>	10	10	2	-	-	-	34																																																																																													
HPSW	8 <sup>※4</sup>	10	10	2	6	2	-	38																																																																																													
MUWC	1 <sup>※4</sup>	7	5	2	4	6	-	25																																																																																													



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																					
	<p>表 7-5 軽油タンクエリア<sup>※1</sup>の想定破損における隔離時間</p> <table border="1" data-bbox="703 209 1265 331"> <thead> <tr> <th rowspan="2">対象系統</th> <th rowspan="2">①<sup>※2</sup></th> <th rowspan="2">②</th> <th rowspan="2">③</th> <th colspan="3">④</th> <th rowspan="2">⑤</th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>(a)</th> <th>(b)</th> <th>(c)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>DGDO(A)</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>-</td> <td>20</td> <td>2</td> <td>-</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>DGDO(B)</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>-</td> <td>20</td> <td>2</td> <td>-</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>DGDO(H)</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>-</td> <td>20</td> <td>2</td> <td>-</td> <td>37</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 軽油タンクは地下化工事実施中のため、既設の軽油タンクで隔離時間の確認を実施したため、所要時間の変更も在り得る。                  ※2 漏えい検知器による検知時間を記載。</p> <div data-bbox="922 424 1258 571" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①漏えい発生から漏えい検知までに要する時間（分）                      ②漏えい検知から現場への移動時間（分）                      ③漏えい箇所特定に要する時間（分）                      ④隔離操作時間（分）                      (a) 中央制御室での隔離操作に要する時間                      (b) 現場での隔離箇所特定に要する時間                      (c) 現場での隔離操作に要する時間                      ⑤循環水ポンプ停止時間（分）</p> </div> <p>表 7-6 原子炉建屋付属棟（廃棄物処理エリア（非管理区域））の想定破損における隔離時間</p> <table border="1" data-bbox="703 724 1265 820"> <thead> <tr> <th rowspan="2">対象系統</th> <th rowspan="2">①</th> <th rowspan="2">②</th> <th rowspan="2">③</th> <th colspan="3">④</th> <th rowspan="2">⑤</th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>(a)</th> <th>(b)</th> <th>(c)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>HWH</td> <td>7</td> <td>-</td> <td>27</td> <td>4</td> <td>12</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>51</td> </tr> <tr> <td>HNCW</td> <td>7</td> <td>-</td> <td>27</td> <td>4</td> <td>13</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>52</td> </tr> </tbody> </table> <div data-bbox="922 833 1258 979" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①漏えい発生から漏えい検知までに要する時間（分）                      ②漏えい検知から現場への移動時間（分）                      ③漏えい箇所特定に要する時間（分）                      ④隔離操作時間（分）                      (a) 中央制御室での隔離操作に要する時間                      (b) 現場での隔離箇所特定に要する時間                      (c) 現場での隔離操作に要する時間                      ⑤循環水ポンプ停止時間（分）</p> </div> <p>6. 個別の設定根拠について                  (1) 残留熱除去系(RHR(A))及び所内用水系の漏えい流量について                  漏えい流量については、以下の計算式より求める。なお、低エネルギー配管のため貫通クラックを想定した。RHR(A)の漏えい流量算出結果について表8に示す。</p> <p><math>Q</math> (流出流量) = <math>A \times C \times \sqrt{(2 \times g \times H)} \times 3600</math>                  (A: 破断面積(m<sup>2</sup>), C: 損失係数, g: 重力加速度(m/s<sup>2</sup>), H: 水頭(m))</p>	対象系統	① <sup>※2</sup>	②	③	④			⑤	合計	(a)	(b)	(c)	DGDO(A)	4	5	6	-	20	2	-	37	DGDO(B)	4	5	6	-	20	2	-	37	DGDO(H)	4	5	6	-	20	2	-	37	対象系統	①	②	③	④			⑤	合計	(a)	(b)	(c)	HWH	7	-	27	4	12	1	-	51	HNCW	7	-	27	4	13	1	-	52	<p>5. 個別の設定根拠について                  (1) 循環水系の漏えい流量について                  漏えい流量については、以下の計算式より求める。なお、低エネルギー配管のため貫通クラックを想定した。循環水系の漏えい流量について表8に示す。</p> <p><math>Q</math> (流出流量) = <math>A \times C \times \sqrt{(2 \times g \times H)} \times 3600</math>                  (A: 破断面積(m<sup>2</sup>), C: 損失係数, g: 重力加速度(m/s<sup>2</sup>), H: 水頭(m))</p>	<p>【女川】  <a href="#">記載表現の相違</a></p> <p>【女川】  <a href="#">記載表現の相違</a></p> <p>【女川】  <a href="#">設計方針の相違</a>                      プラント設計の違いによる系統の相違</p>
対象系統	① <sup>※2</sup>					②	③	④			⑤	合計																																																												
		(a)	(b)	(c)																																																																				
DGDO(A)	4	5	6	-	20	2	-	37																																																																
DGDO(B)	4	5	6	-	20	2	-	37																																																																
DGDO(H)	4	5	6	-	20	2	-	37																																																																
対象系統	①	②	③	④			⑤	合計																																																																
				(a)	(b)	(c)																																																																		
HWH	7	-	27	4	12	1	-	51																																																																
HNCW	7	-	27	4	13	1	-	52																																																																

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																			
	<p>表8 漏えい流量算出結果(RHR(A)及び所内用水系)</p> <table border="1" data-bbox="703 225 1265 459"> <thead> <tr> <th>系統</th> <th>RHR(A)</th> <th>所内用水系</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A: 破断面積 (m<sup>2</sup>)</td> <td>9.25 × 10<sup>-4</sup> (口径 350A, Sch40)</td> <td>1.19 × 10<sup>-4</sup> (口径 100A, 肉厚 4.5mm)</td> </tr> <tr> <td>C: 損失係数</td> <td colspan="2">0.82</td> </tr> <tr> <td>g: 重力加速度 (m/s<sup>2</sup>)</td> <td colspan="2">9.80665</td> </tr> <tr> <td>H: 水頭 (m)</td> <td>140 (復水補給水系の最高使用圧力)</td> <td>34 (高架水槽上端から最下階床面高さまでの高低差)</td> </tr> <tr> <td>Q: 漏えい流量 (m<sup>3</sup>/h)</td> <td>143</td> <td>9.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 床ドレン配管1本あたりの排水流量                  想定破損時には、ドレン配管は満水流れに近くなるとし、満水時の流量を評価した。下記に示す評価式のとおり、流量は落差が大きくなるほど大きく、圧力損失が大きいかほど小さくなる。これより、落差が最も小さくなる原子炉建屋地下3階で漏えいが発生した場合(表9)と配管長が最も長くなる地上3階で漏えいが発生した場合(表10)について流量評価を実施した。算出結果より、いずれの場合でも26m<sup>3</sup>/h以上流れる結果となった。</p> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <math display="block">流量 Q = A \sqrt{\frac{2gH}{\lambda \frac{L}{d} + \sum \xi + 1}}</math> <p>A: 配管断面積 (m<sup>2</sup>), d: 配管内径 (m), L: 配管長 (m),                      ξ: 各要素の損失係数, λ: 摩擦係数</p> </div> <p>表9 排水流量 (原子炉建屋地下3階(0.P.-8,100))</p> <table border="1" data-bbox="703 1201 1265 1458"> <tbody> <tr> <td>d: 内径 (m)</td> <td>0.0781</td> <td>80A, Sch40</td> </tr> <tr> <td>λ: 摩擦係数</td> <td>0.03</td> <td></td> </tr> <tr> <td>L: 配管長 (m)</td> <td>30</td> <td>代表の配管で算出</td> </tr> <tr> <td>Σ ξ: 損失係数</td> <td>4.88</td> <td>代表の配管で算出 (エルボ及び合流箇所数より算出)</td> </tr> <tr> <td>g: 重力加速度</td> <td>9.8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H: 落差 (m)</td> <td>2.43</td> <td>床レベルとサンブノズル レベル(0.P.-10,530)との差</td> </tr> <tr> <td>Q: 流量 (m<sup>3</sup>/h)</td> <td>28.53</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	系統	RHR(A)	所内用水系	A: 破断面積 (m <sup>2</sup> )	9.25 × 10 <sup>-4</sup> (口径 350A, Sch40)	1.19 × 10 <sup>-4</sup> (口径 100A, 肉厚 4.5mm)	C: 損失係数	0.82		g: 重力加速度 (m/s <sup>2</sup> )	9.80665		H: 水頭 (m)	140 (復水補給水系の最高使用圧力)	34 (高架水槽上端から最下階床面高さまでの高低差)	Q: 漏えい流量 (m <sup>3</sup> /h)	143	9.1	d: 内径 (m)	0.0781	80A, Sch40	λ: 摩擦係数	0.03		L: 配管長 (m)	30	代表の配管で算出	Σ ξ: 損失係数	4.88	代表の配管で算出 (エルボ及び合流箇所数より算出)	g: 重力加速度	9.8		H: 落差 (m)	2.43	床レベルとサンブノズル レベル(0.P.-10,530)との差	Q: 流量 (m <sup>3</sup> /h)	28.53		<p>表8 漏えい流量算出結果(循環水系)</p> <table border="1" data-bbox="1285 225 1848 421"> <thead> <tr> <th>系統</th> <th>循環水系</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A: 破断面積 (m<sup>2</sup>)</td> <td>1.35 × 10<sup>-2</sup> (直径 3800mm, 肉厚 28mm)</td> </tr> <tr> <td>C: 損失係数</td> <td>0.82</td> </tr> <tr> <td>g: 重力加速度 (m/s<sup>2</sup>)</td> <td>9.80665</td> </tr> <tr> <td>H: 水頭 (m)</td> <td>11.6</td> </tr> <tr> <td>Q: 漏えい流量 (m<sup>3</sup>/h)</td> <td>1,200</td> </tr> </tbody> </table>	系統	循環水系	A: 破断面積 (m <sup>2</sup> )	1.35 × 10 <sup>-2</sup> (直径 3800mm, 肉厚 28mm)	C: 損失係数	0.82	g: 重力加速度 (m/s <sup>2</sup> )	9.80665	H: 水頭 (m)	11.6	Q: 漏えい流量 (m <sup>3</sup> /h)	1,200	<p>【女川】                  設計方針の相違                  プラント設計の違いによる系統及び算出結果の相違</p> <p>【女川】                  泊では、補足説明資料12で記載している隔離時間の算出例において、床ドレン配管による排水流量を用いていないため、記載不要としている。</p>
系統	RHR(A)	所内用水系																																																				
A: 破断面積 (m <sup>2</sup> )	9.25 × 10 <sup>-4</sup> (口径 350A, Sch40)	1.19 × 10 <sup>-4</sup> (口径 100A, 肉厚 4.5mm)																																																				
C: 損失係数	0.82																																																					
g: 重力加速度 (m/s <sup>2</sup> )	9.80665																																																					
H: 水頭 (m)	140 (復水補給水系の最高使用圧力)	34 (高架水槽上端から最下階床面高さまでの高低差)																																																				
Q: 漏えい流量 (m <sup>3</sup> /h)	143	9.1																																																				
d: 内径 (m)	0.0781	80A, Sch40																																																				
λ: 摩擦係数	0.03																																																					
L: 配管長 (m)	30	代表の配管で算出																																																				
Σ ξ: 損失係数	4.88	代表の配管で算出 (エルボ及び合流箇所数より算出)																																																				
g: 重力加速度	9.8																																																					
H: 落差 (m)	2.43	床レベルとサンブノズル レベル(0.P.-10,530)との差																																																				
Q: 流量 (m <sup>3</sup> /h)	28.53																																																					
系統	循環水系																																																					
A: 破断面積 (m <sup>2</sup> )	1.35 × 10 <sup>-2</sup> (直径 3800mm, 肉厚 28mm)																																																					
C: 損失係数	0.82																																																					
g: 重力加速度 (m/s <sup>2</sup> )	9.80665																																																					
H: 水頭 (m)	11.6																																																					
Q: 漏えい流量 (m <sup>3</sup> /h)	1,200																																																					

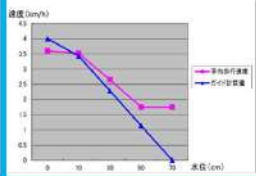
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料12）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																					
<p>別紙5 アクセス性に影響のない水位について</p> <p>内部溢水発生時において現場確認が必要な設備へのアクセスルートにあつては、歩行に影響のない水位であることを評価している。</p> <p>大飯3号炉及び4号炉においては、アクセスする必要のある事象の中で最も高い水位（想定破損時の化学体積制御系の破損）は、原子炉周辺建屋のE.L.+10.0mで約8cmである。この溢水に対する歩行影響の評価として、「溢水時の歩行速度の検討結果」に基づき評価した結果、屋内アクセスルートの評価において想定している歩行速度（2.4km/h）を満足している。</p> <p>なお、歩行に影響のない水位及びアクセス時の注意事項については、QMSに基づいた標準類の中で所員に周知することとする。</p> <p>参考：浸水時の歩行速度の検討結果について</p>	<p>表10 排水流量（原子炉建屋地上3階(O.P.+33,200)）</p> <table border="1" data-bbox="703 212 1265 470"> <tr> <td>d：内径(m)</td> <td>0.0781</td> <td>80A, Sch40</td> </tr> <tr> <td>ε：摩擦係数</td> <td>0.03</td> <td></td> </tr> <tr> <td>L：配管長(m)</td> <td>180</td> <td>代表の配管で算出</td> </tr> <tr> <td>Σε：損失係数</td> <td>14.48</td> <td>代表の配管で算出 (エルボ及び合流箇所数より算出)</td> </tr> <tr> <td>g：重力加速度</td> <td>9.8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H：落差(m)</td> <td>43.73</td> <td>床レベルとサンブノズル レベル(O.P.-10,530)との差</td> </tr> <tr> <td>Q：流量(m<sup>3</sup>/h)</td> <td>54.88</td> <td></td> </tr> </table> <p>【再掲】</p> <p>3. 漏えい停止（隔離操作）の手順書類への反映</p> <p>女川原子力発電所原子炉施設保安規定に基づく規定文書として制定する「内部溢水対応要領書（仮称）」に、運転員の隔離操作について明記することとする。</p> <p>なお、本事項は後段規則での対応が必要となる事項である。（別添2参照）</p> <p>別紙</p> <p>浸水時の歩行速度への影響について</p> <p>1. 浸水時の歩行速度の算出</p> <p>(1) 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水深340mmにおける、50mの歩行にかかる時間を計測（10mを2.5往復し、計測を実施）</li> <li>測定は被験者3名により実施し、平均速度を算出</li> <li>調査時は溢水時の防護服を着用する。</li> </ul> <p>(2) 実績</p> <p>被験者3名について、2回測定を実施した。なお、測定時には水面で初期水位から最大で約30mmの変動が確認された。浸水時の歩行速度測定結果について表1に示す。</p>	d：内径(m)	0.0781	80A, Sch40	ε：摩擦係数	0.03		L：配管長(m)	180	代表の配管で算出	Σε：損失係数	14.48	代表の配管で算出 (エルボ及び合流箇所数より算出)	g：重力加速度	9.8		H：落差(m)	43.73	床レベルとサンブノズル レベル(O.P.-10,530)との差	Q：流量(m <sup>3</sup> /h)	54.88		<p>5. 漏えい停止（隔離操作）の手順書類への反映</p> <p>泊発電所原子炉施設保安規定に基づく規定文書として制定する「内部溢水対応要領（仮称）」に、運転員の隔離操作について明記することとする。</p> <p>なお、本事項は後段規則での対応が必要となる事項である（別添2参照）。</p>	<p>【女川】</p> <p>泊では、補足説明資料12に記載している隔離時間の算出例において、床ドレン配管による排水流量を用いていないため、記載不要としている。</p> <p>【女川】</p> <p>記載箇所の相違</p> <p>隔離時間を説明し終えた後に、運用への反映を記載するように記載方針を変更した。</p> <p>記載表現の相違</p> <p>【女川】</p> <p>記載方針の相違</p> <p>泊では、想定破損時に溢水水位が立つエリアにアクセスすることができないこと、地震時においても隔離操作が発生することから記載箇所を適正化し、女川の別紙の内容を補足説明資料11「運転員のアクセス性」に記載する。</p>
d：内径(m)	0.0781	80A, Sch40																						
ε：摩擦係数	0.03																							
L：配管長(m)	180	代表の配管で算出																						
Σε：損失係数	14.48	代表の配管で算出 (エルボ及び合流箇所数より算出)																						
g：重力加速度	9.8																							
H：落差(m)	43.73	床レベルとサンブノズル レベル(O.P.-10,530)との差																						
Q：流量(m <sup>3</sup> /h)	54.88																							

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料12）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																		
<p>浸水時の歩行速度の検討結果について</p> <p>1. 浸水時の歩行速度検証結果</p> <p>(1) 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各水位における、50mの歩行にかかる時間を計測（10m区間を2.5往復し、計測実施）</li> <li>○測定は被験者3名にて実施し、その平均速度を算出</li> <li>○被験者は足元を確認しながら歩行することを想定し摺り足歩行とする。</li> <li>○調査時は溢水時の防護具を着用する。</li> </ul> <p>ただし、水深10cmでは長靴及び胴長靴の両方を計測、30cm以上の水位においては胴長靴を着用する（タイベック、アノラック、ゴム手、全面マスク及び長靴又は胴長靴）。</p> <p>(2) 実績及び被験者データ</p> <table border="1" data-bbox="114 695 667 807"> <thead> <tr> <th>水深</th> <th>運転員A</th> <th>運転員B</th> <th>運転員C</th> <th>平均歩行速度</th> <th>ガイド計算値</th> <th>備考</th> <th>性別</th> <th>年齢</th> <th>身長</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0cm</td> <td>49s</td> <td>54s</td> <td>46s</td> <td>3.6km/h</td> <td>4km/h</td> <td>長靴</td> <td>運転員A</td> <td>男</td> <td>35歳</td> <td>180cm</td> </tr> <tr> <td>10cm</td> <td>62s</td> <td>65s</td> <td>60s</td> <td>2.85 km/h</td> <td>3.43km/h</td> <td>長靴</td> <td>運転員B</td> <td>男</td> <td>30歳</td> <td>164cm</td> </tr> <tr> <td>10cm</td> <td>54s</td> <td>51s</td> <td>47s</td> <td>3.52 km/h</td> <td></td> <td>胴長靴</td> <td>運転員C</td> <td>男</td> <td>29歳</td> <td>173cm</td> </tr> <tr> <td>30cm</td> <td>1m1s</td> <td>1m11s</td> <td>1m10s</td> <td>2.65 km/h</td> <td>2.29km/h</td> <td>胴長靴</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>50cm</td> <td>1m31s</td> <td>1m33s</td> <td>2m3s</td> <td>1.75 km/h</td> <td>1.14km/h</td> <td>胴長靴</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>70cm</td> <td>1m43s</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1.79 km/h</td> <td>0km/h</td> <td>胴長靴</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 歩行速度比較</p>  <p>0cmでの測定タイムは4.0 km/hを下回ったが、水抜き後の濡れた状態で計測したため、防油床面の水垢や落ち葉等で滑りやすく、歩行速度が低下した。      ○参考データとして70cmでの計測を1名実施した結果、70cm水位においても歩行可能であることを確認した。      ○調査結果から、ガイド計算値と平均歩行速度を比較しても概ね遜色ないことを確認した。</p> <p>したがって、屋内アクセラートで想定している歩行速度2.4km/hよりも速い速度で歩行可能であることを確認したことから、アクセス時間への影響はないものと考えている。</p>	水深	運転員A	運転員B	運転員C	平均歩行速度	ガイド計算値	備考	性別	年齢	身長	0cm	49s	54s	46s	3.6km/h	4km/h	長靴	運転員A	男	35歳	180cm	10cm	62s	65s	60s	2.85 km/h	3.43km/h	長靴	運転員B	男	30歳	164cm	10cm	54s	51s	47s	3.52 km/h		胴長靴	運転員C	男	29歳	173cm	30cm	1m1s	1m11s	1m10s	2.65 km/h	2.29km/h	胴長靴					50cm	1m31s	1m33s	2m3s	1.75 km/h	1.14km/h	胴長靴					70cm	1m43s	—	—	1.79 km/h	0km/h	胴長靴					<p>表1 浸水時の歩行速度測定結果</p> <table border="1" data-bbox="705 220 1272 331"> <thead> <tr> <th rowspan="2">水位</th> <th colspan="2">被験者A</th> <th colspan="2">被験者B</th> <th colspan="2">被験者C</th> <th rowspan="2">平均歩行速度</th> </tr> <tr> <th>1回</th> <th>2回</th> <th>1回</th> <th>2回</th> <th>1回</th> <th>2回</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>340mm</td> <td>57s</td> <td>55s</td> <td>63s</td> <td>57s</td> <td>59s</td> <td>51s</td> <td>3.17km/h</td> </tr> </tbody> </table>	水位	被験者A		被験者B		被験者C		平均歩行速度	1回	2回	1回	2回	1回	2回	340mm	57s	55s	63s	57s	59s	51s	3.17km/h		<p>【女川】</p> <p>記載方針の相違</p> <p>泊では、想定破損時に溢水水位が立つエリアにアクセスすることができないこと、地震時においても隔離操作が発生することから記載箇所を適正化し、女川の別紙の内容を補足説明資料11「運転員のアクセス性」に記載する。</p>
水深	運転員A	運転員B	運転員C	平均歩行速度	ガイド計算値	備考	性別	年齢	身長																																																																																												
0cm	49s	54s	46s	3.6km/h	4km/h	長靴	運転員A	男	35歳	180cm																																																																																											
10cm	62s	65s	60s	2.85 km/h	3.43km/h	長靴	運転員B	男	30歳	164cm																																																																																											
10cm	54s	51s	47s	3.52 km/h		胴長靴	運転員C	男	29歳	173cm																																																																																											
30cm	1m1s	1m11s	1m10s	2.65 km/h	2.29km/h	胴長靴																																																																																															
50cm	1m31s	1m33s	2m3s	1.75 km/h	1.14km/h	胴長靴																																																																																															
70cm	1m43s	—	—	1.79 km/h	0km/h	胴長靴																																																																																															
水位	被験者A		被験者B		被験者C		平均歩行速度																																																																																														
	1回	2回	1回	2回	1回	2回																																																																																															
340mm	57s	55s	63s	57s	59s	51s	3.17km/h																																																																																														



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

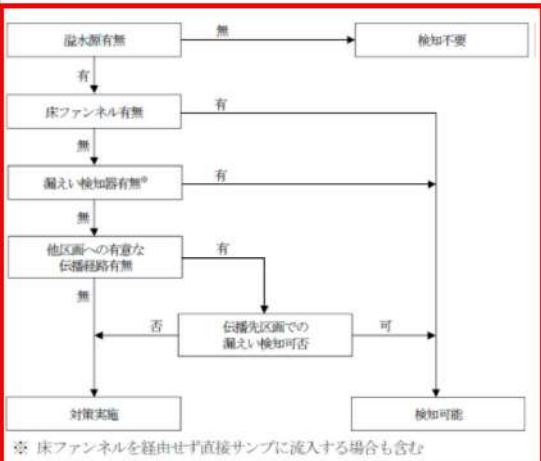
第9条 溢水による損傷の防止等（別添1 補足説明資料12）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>2. 歩行速度調査状況</p> <p>(1) 調査場所：補助ボイラ用燃料タンク防油堤（長さ13.5m×幅5.4m（手前側は幅3m））</p>  <p>(2) 測定時のスタイル</p> <p>(1)長靴着用時 (2)胴長靴着用時 (3)アノラックの下はタイベック着用</p>  <p>(3) 測定の様子</p> 	<p>(3) 歩行速度調査状況</p> <p>検証時の装備は、溢水時の防護具を想定し、黄服、防水型被服、ゴム手袋、全面マスク、胴長靴、ヘルメットの装備を着用して行った。測定時の状況について図1に示す。</p>  <p>図1 歩行速度測定時のスタイル及び測定状況</p>		<p>【女川】</p> <p>記載方針の相違</p> <p>泊では、想定破損時に溢水水位が立つエリアにアクセスすることができないこと、地震時においても隔離操作が発生することから記載箇所を適正化し、女川の別紙の内容を補足説明資料11「運転員のアクセス性」に記載する。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由														
	<p>2. 漏えい箇所特定に要する時間について</p> <p>(1) 漏えい箇所特定に要する時間の算出</p> <p>浸水時の歩行速度を基に、下記条件で漏えい箇所特定に要する時間を算出した結果を表2に示す。</p> <p><b>【条件】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漏えい箇所が特定できていないものとし、建屋全域を確認。</li> <li>・機器配置図より歩行ルートを検討し、距離を算出。</li> <li>・全域に溢水水位 300mm があると仮定</li> </ul> <p>表2 浸水時の漏えい箇所特定に要する時間算出結果</p> <table border="1" data-bbox="707 655 1272 778"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">原子炉建屋</th> <th rowspan="2">制御建屋</th> </tr> <tr> <th>原子炉棟</th> <th>付属棟</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>歩行距離 (m)</td> <td>1475.1</td> <td>921.8</td> <td>645.5</td> </tr> <tr> <td>漏えい箇所特定時間 (min)</td> <td>28</td> <td>18</td> <td>43</td> </tr> </tbody> </table> <p>上記の算出結果より、表7-1～7-3にて整理している漏えい箇所特定に要する時間（原子炉建屋原子炉棟：35分、原子炉建屋付属棟：22分、制御建屋：22分）は十分保守的な設定である。</p>	項目	原子炉建屋		制御建屋	原子炉棟	付属棟	歩行距離 (m)	1475.1	921.8	645.5	漏えい箇所特定時間 (min)	28	18	43		<p><b>【女川】</b></p> <p>記載方針の相違</p> <p>泊では、想定破損時に溢水水位が立つエリアにアクセスすることがないこと、地震時においても隔離操作が発生することから記載箇所を適正化し、女川の別紙の内容を補足説明資料11「運転員のアクセス性」に記載する。</p>
項目	原子炉建屋		制御建屋														
	原子炉棟	付属棟															
歩行距離 (m)	1475.1	921.8	645.5														
漏えい箇所特定時間 (min)	28	18	43														

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大阪発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>【大阪】まとめ資料 p2-9-別1-159より抜粋                      想定破損による溢水影響評価（没水影響評価）                      (1) 異常の検知について                      配管破断による異常を早期に検知する手段として以下の3つの方法があり、それぞれ警報発信までの時間を設定する。                      ①区画内に設置された温度センサによる温度高警報（温度検知）                      ②系統に設置されている圧力計、流量計、水位計等の中央表示値の変化や演算処理による警報（システム検知）                      ③床ドレン配管を通して集水される最下層のサンプル水位高警報（サンプル検知）</p>	<p>補足説明資料 36                      漏えい検知性について                      女川原子力発電所2号炉の漏えい検知性について以下に示す。</p> <p>1. 溢水発生時の漏えい検知の考え方                      各区画にて想定破損の内部溢水が発生した場合の漏えい検知の可否について、漏えい検知の確認フローに従い確認する。確認においては、漏えい検知器のような区画での警報発生による検知と、溢水が発生したことに起因する溢水源系統での警報発生（床ファンネルからの排水によるサンプル警報）による検知を考慮し確認する。</p> <p>2. 確認結果                      図1の各区画の漏えい検知の確認フローに従い各区画の漏えい検知性について確認を実施し、すべての区画において検知可能であることを確認した。漏えい検知性確認結果については表1～表6に示す。また、床ファンネル及び漏えい検知器設置場所について図2に示す。</p>  <p>※ 床ファンネルを経由せず直接サンプルに流入する場合も含む</p> <p>図1 各区画の漏えい検知の確認フロー</p>	<p>補足説明資料 13                      漏えい検知性について                      泊発電所3号炉の漏えい検知性について以下に示す。</p> <p>1. 溢水発生時の漏えい検知の考え方                      想定破損の内部溢水が発生した場合の漏えい検知の可否について確認する。確認においては、以下の方法による検知を考慮し確認する。                      (1) 区画内に設置された温度検出器による警報（温度検知）                      (2) 系統に設置されている圧力計、流量計、水位計等の中央表示値の変化や演算処理による警報（システム検知）                      (3) 床ドレン配管を通して集水される最下層のサンプル水位高警報（サンプル検知）                      (4) 目視点検等による現場確認（人による検知）</p> <p>2. 確認結果                      溢水源となる系統に対する漏えい検知性について確認を実施し、すべての系統において検知可能であることを確認した。高エネルギー配管の漏えい検知性確認結果については表1、低エネルギー配管の漏えい検知性確認結果については表2に示す。</p>	<p>【大阪】  <a href="#">記載表現の相違</a>  <a href="#">記載方針の相違</a>                      女川審査実績の反映</p> <p>【女川】  <a href="#">設備名称の相違</a>  <a href="#">記載方針の相違</a>                      泊は漏えい検知方法を(1)～(4)として記載している。  <a href="#">設計方針の相違</a></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女川では、漏えい検知器による検知及びサンプル警報による検知を考慮しているのに対し、泊では、温度検知、システム検知及びサンプル検知を考慮している系統がある。（大阪と同様）</li> <li>・泊では人による検知としている系統があり、24時間/2回現場パトロールを行う手順及びチェックシート等を整備し漏えいの有無を確認する運用としている。</li> <li>・女川は漏えい検知器及びサンプル検知により漏えい検知を行うため、区画ごとに漏えい検知性の確認を実施しており、各区画の漏えい検知性を確認するためのフローを作成している。泊では、溢水源の系統に応じて検知手段を設定していることから、溢水源の系統別に漏えい検知性の確認を実施している。（大阪と同様。補足説明資料2,12にも記載している）</li> </ul> <p><a href="#">記載方針の相違</a>                      泊は高エネルギー配管と低エネルギー配管で検知手段が異なることから、漏えい検知性確認結果を高エネルギー配管と低エネルギー配管に分けて記載している。（大阪と同様。次ページにて比較掲載）</p>







赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料13）

大飯発電所3 / 4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																				
<p>表2 漏えい停止までの時間の設定及び漏えい量（化学体積制御系） その2</p>	<p>表1 漏えい検知性確認結果一覧（原子炉建屋原子炉棟）(2/2)</p>	<p>表1 漏えい検知性確認結果一覧（高エネルギー配管）(2/3)</p>	<p>【女川】  <a href="#">記載表現の相違</a>  <a href="#">設計方針の相違</a></p>																																				
<p>漏えい量                  漏えい量31.5m<sup>3</sup>                  充てんポンプのランナウト                  流量 56.8m<sup>3</sup>/h                  12分/60分×56.8m<sup>3</sup>/h                  =11.4m<sup>3</sup>                  配管床下水量20.4m<sup>3</sup>                  11.4m<sup>3</sup>+20.4m<sup>3</sup>=31.8m<sup>3</sup></p>	<p>漏えい量44.7m<sup>3</sup>                  充てんポンプのミニマムフローライン流量 13.6m<sup>3</sup>/h                  107分/60分×13.6m<sup>3</sup>/h                  =24.3m<sup>3</sup>                  配管床下水量20.4m<sup>3</sup>                  24.3m<sup>3</sup>+20.4m<sup>3</sup>=44.7m<sup>3</sup></p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>系統</th> <th>想定破損範囲</th> <th>漏えい検知手段</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">主蒸気系 (主蒸気管室内)</td> <td>【主蒸気管】 ①貫通部 ～主蒸気隔離弁下流</td> <td>システム検知</td> <td>主蒸気ライン圧力低ECCS作動による原子炉トリップ また、主蒸気ライン圧力低により主給水隔離弁が自動隔離</td> </tr> <tr> <td>【主蒸気管ドレンライン】 ②主蒸気管分岐 ～主蒸気管分岐</td> <td>システム検知</td> <td>主蒸気流量増加に伴う原子炉出力上昇によりPR中性子束高制御棒引抜阻止 (C-2) 警報が発信</td> </tr> <tr> <td>【主蒸気バイパスライン】 ③主蒸気管分岐～主蒸気バイパス隔離弁 ～主蒸気管分岐</td> <td>システム検知</td> <td></td> </tr> <tr> <td>【主蒸気ドレンライン】 ④主蒸気管分岐 ～スチームトラップ</td> <td>システム検知</td> <td>主蒸気流量増加に伴うSG熱出力が上昇するため、出力変化によるSG熱出力1分間平均値超過警報が発信</td> </tr> <tr> <td>【タービン動補助給水ポンプ駆動用蒸気ライン】 ⑤主蒸気管分岐 ～ターミナルエンド</td> <td>システム検知</td> <td>主蒸気流量増加に伴う原子炉出力上昇によりPR中性子束高制御棒引抜阻止 (C-2) 警報が発信</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">主給水系、 補助給水系 (主蒸気管室内)</td> <td>【主給水管】 ①貫通部 ～主給水隔離弁</td> <td>システム検知</td> <td>主蒸気ライン圧力低ECCS作動による原子炉トリップ また、主蒸気ライン圧力低により、主給水隔離弁自動隔離</td> </tr> <tr> <td>【主給水管】 ②逆止弁 ～逆止弁</td> <td>システム検知</td> <td>主蒸気ライン圧力低ECCS作動による原子炉トリップ</td> </tr> <tr> <td>【主給水管】 ③逆止弁～主給水制御弁、主給水バイパス制御弁</td> <td>システム検知</td> <td>SG水位低による原子炉トリップ</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	系統	想定破損範囲	漏えい検知手段	内容	主蒸気系 (主蒸気管室内)	【主蒸気管】 ①貫通部 ～主蒸気隔離弁下流	システム検知	主蒸気ライン圧力低ECCS作動による原子炉トリップ また、主蒸気ライン圧力低により主給水隔離弁が自動隔離	【主蒸気管ドレンライン】 ②主蒸気管分岐 ～主蒸気管分岐	システム検知	主蒸気流量増加に伴う原子炉出力上昇によりPR中性子束高制御棒引抜阻止 (C-2) 警報が発信	【主蒸気バイパスライン】 ③主蒸気管分岐～主蒸気バイパス隔離弁 ～主蒸気管分岐	システム検知		【主蒸気ドレンライン】 ④主蒸気管分岐 ～スチームトラップ	システム検知	主蒸気流量増加に伴うSG熱出力が上昇するため、出力変化によるSG熱出力1分間平均値超過警報が発信	【タービン動補助給水ポンプ駆動用蒸気ライン】 ⑤主蒸気管分岐 ～ターミナルエンド	システム検知	主蒸気流量増加に伴う原子炉出力上昇によりPR中性子束高制御棒引抜阻止 (C-2) 警報が発信	主給水系、 補助給水系 (主蒸気管室内)	【主給水管】 ①貫通部 ～主給水隔離弁	システム検知	主蒸気ライン圧力低ECCS作動による原子炉トリップ また、主蒸気ライン圧力低により、主給水隔離弁自動隔離	【主給水管】 ②逆止弁 ～逆止弁	システム検知	主蒸気ライン圧力低ECCS作動による原子炉トリップ	【主給水管】 ③逆止弁～主給水制御弁、主給水バイパス制御弁	システム検知	SG水位低による原子炉トリップ							<p>・プラント設計の違いによる相違                  ・女川は漏えい検知器及びサンブ検知により漏えい検知を行うため、区画ごとに漏えい検知性の確認を実施しており、各区画の漏えい検知性を確認するためのフローを作成している。泊では、溢水源の系統に応じて検知手段を設定していることから、溢水源の系統別に漏えい検知性の確認を実施している。(大飯と同様。補足説明資料2,12にも記載している)</p>
系統	想定破損範囲	漏えい検知手段	内容																																				
主蒸気系 (主蒸気管室内)	【主蒸気管】 ①貫通部 ～主蒸気隔離弁下流	システム検知	主蒸気ライン圧力低ECCS作動による原子炉トリップ また、主蒸気ライン圧力低により主給水隔離弁が自動隔離																																				
	【主蒸気管ドレンライン】 ②主蒸気管分岐 ～主蒸気管分岐	システム検知	主蒸気流量増加に伴う原子炉出力上昇によりPR中性子束高制御棒引抜阻止 (C-2) 警報が発信																																				
	【主蒸気バイパスライン】 ③主蒸気管分岐～主蒸気バイパス隔離弁 ～主蒸気管分岐	システム検知																																					
	【主蒸気ドレンライン】 ④主蒸気管分岐 ～スチームトラップ	システム検知	主蒸気流量増加に伴うSG熱出力が上昇するため、出力変化によるSG熱出力1分間平均値超過警報が発信																																				
	【タービン動補助給水ポンプ駆動用蒸気ライン】 ⑤主蒸気管分岐 ～ターミナルエンド	システム検知	主蒸気流量増加に伴う原子炉出力上昇によりPR中性子束高制御棒引抜阻止 (C-2) 警報が発信																																				
	主給水系、 補助給水系 (主蒸気管室内)	【主給水管】 ①貫通部 ～主給水隔離弁	システム検知	主蒸気ライン圧力低ECCS作動による原子炉トリップ また、主蒸気ライン圧力低により、主給水隔離弁自動隔離																																			
		【主給水管】 ②逆止弁 ～逆止弁	システム検知	主蒸気ライン圧力低ECCS作動による原子炉トリップ																																			
		【主給水管】 ③逆止弁～主給水制御弁、主給水バイパス制御弁	システム検知	SG水位低による原子炉トリップ																																			
<p>②漏えい箇所の特定                  以下のパフォーマータから充てん配管からの漏えいと判断                  1分                  又は、充てんポンプ1台を遠隔停止                  2分                  合わせて2分</p>	<p>②漏えい箇所の特定                  現場パトロールによる。現場確認を行い、ミニマムフローラインからの漏えいと判断                  2分                  合わせて2分</p>	<p>②タービン動補助給水ポンプ駆動用蒸気ライン】                  ⑤主蒸気管分岐                  ～ターミナルエンド</p>	<p><a href="#">記載方針の相違</a></p>																																				
<p>③漏えい箇所の特定                  以下のパフォーマータから充てん配管からの漏えいと判断                  1分                  又は、充てんポンプ1台を遠隔停止                  2分                  合わせて2分</p>	<p>③漏えい箇所の特定                  現場パトロールによる。現場確認を行い、ミニマムフローラインからの漏えいと判断                  2分                  合わせて2分</p>	<p>【主給水管】                  ②逆止弁                  ～逆止弁</p>	<p>泊は高エネルギー配管と低エネルギー配管で検知手段が異なることから、漏えい検知性確認結果を高エネルギー配管と低エネルギー配管に分けて記載している。(大飯と同様)</p>																																				
<p>④異常の検知                  &lt;システム検知&gt;                  配管破損により、充てん流量が上昇し、充てん流量高警報が発信                  0.5分                  高警報 28m<sup>3</sup>/h であるため、速やかに警報が発信する</p>	<p>④異常の検知                  &lt;システム検知&gt;                  配管破損により、充てん流量が低下し、充てん流量低警報が発信                  0.5分                  (通常の充てん流量 25m<sup>3</sup>/h に対して配管破損 3m<sup>3</sup>/h であるため、速やかに警報が発信する)</p>	<p>【主給水管】                  ③逆止弁～主給水制御弁、主給水バイパス制御弁</p>	<p>【大飯】  <a href="#">設計方針の相違</a>                  プラント設計の違いによる相違</p>																																				
<p>&lt;サンブ検知&gt;                  (通常の充てん流量 25m<sup>3</sup>/h に対して配管破損 3m<sup>3</sup>/h であるため、速やかに警報が発信する)</p>	<p>&lt;サンブ検知&gt;                  現場パトロールによる。現場確認を行い、ミニマムフローラインからの漏えいと判断                  2分                  合わせて2分</p>	<p>【主給水管】                  ④逆止弁～主給水制御弁、主給水バイパス制御弁</p>	<p><a href="#">記載方針の相違</a>                  泊における隔離時間の妥当性及び系統別溢水量の算出については補足説明資料2,12に記載しており、本資料では漏えい検知性の比較を行い、大飯と同様であることを確認している。</p>																																				
<p>&lt;システム検知&gt;                  配管破損により、充てん流量が低下し、充てん流量低警報が発信                  0.5分                  (通常の充てん流量 25m<sup>3</sup>/h に対して配管破損 3m<sup>3</sup>/h であるため、速やかに警報が発信する)</p>	<p>&lt;システム検知&gt;                  現場パトロールによる。現場確認を行い、ミニマムフローラインからの漏えいと判断                  2分                  合わせて2分</p>	<p>【主給水管】                  ⑤逆止弁～主給水制御弁、主給水バイパス制御弁</p>	<p>泊は高エネルギー配管と低エネルギー配管で検知手段が異なることから、漏えい検知性確認結果を高エネルギー配管と低エネルギー配管に分けて記載している。(大飯と同様)</p>																																				
<p>&lt;システム検知&gt;                  配管破損により、充てん流量が低下し、充てん流量低警報が発信                  0.5分                  (通常の充てん流量 25m<sup>3</sup>/h に対して配管破損 3m<sup>3</sup>/h であるため、速やかに警報が発信する)</p>	<p>&lt;システム検知&gt;                  現場パトロールによる。現場確認を行い、ミニマムフローラインからの漏えいと判断                  2分                  合わせて2分</p>	<p>【主給水管】                  ⑥逆止弁～主給水制御弁、主給水バイパス制御弁</p>	<p>泊は高エネルギー配管と低エネルギー配管で検知手段が異なることから、漏えい検知性確認結果を高エネルギー配管と低エネルギー配管に分けて記載している。(大飯と同様)</p>																																				

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等（別添1補足説明資料13）

大飯発電所3/4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
<p>表3 漏えい停止までの時間の設定および漏えい量（化学体積制御系） その3</p>	<p>表2 漏えい検知性確認結果一覧（原子炉建屋付属棟）（1/2）</p>	<p>表1 漏えい検知性確認結果一覧（高エネルギー配管）（3/3）</p>	<p>【女川】  <a href="#">記載表現の相違</a>  <a href="#">設計方針の相違</a></p>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
<table border="1"> <tr> <td>漏えい量</td> <td>漏えい量21.0m<sup>3</sup> オリファイスによる制限流量32.0m<sup>3</sup>/h 19分/60分×32.0m<sup>3</sup>/h =10.2m<sup>3</sup> 配管保有水量10.8m<sup>3</sup> 10.2m<sup>3</sup>+10.8m<sup>3</sup>=21.0m<sup>3</sup></td> </tr> <tr> <td>合計時間 (①+②+③)</td> <td>19分</td> </tr> <tr> <td>③漏えい箇所での隔離等により漏えい停止</td> <td>中央制御室において、抽出オリファイス出口格納容器第1隔離弁を遠隔手動閉止 1分</td> </tr> <tr> <td>②事象の判断及び漏えい箇所の特定</td> <td>以下のパラメータから抽出ラインからの漏えいと判断 10分 温度センサー高警報、充てんポンプトリップ、加圧器水位、VCT水位、原子炉周辺建屋サンプ水位、RMS測定値(R-21A/B)、漏水注</td> </tr> </table>	漏えい量	漏えい量21.0m <sup>3</sup> オリファイスによる制限流量32.0m <sup>3</sup> /h 19分/60分×32.0m <sup>3</sup> /h =10.2m <sup>3</sup> 配管保有水量10.8m <sup>3</sup> 10.2m <sup>3</sup> +10.8m <sup>3</sup> =21.0m <sup>3</sup>	合計時間 (①+②+③)	19分	③漏えい箇所での隔離等により漏えい停止	中央制御室において、抽出オリファイス出口格納容器第1隔離弁を遠隔手動閉止 1分	②事象の判断及び漏えい箇所の特定	以下のパラメータから抽出ラインからの漏えいと判断 10分 温度センサー高警報、充てんポンプトリップ、加圧器水位、VCT水位、原子炉周辺建屋サンプ水位、RMS測定値(R-21A/B)、漏水注	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区画番号</th> <th rowspan="2">漏水源有無</th> <th rowspan="2">非ファンネル有無</th> <th rowspan="2">漏えい検知器有無</th> <th rowspan="2">他区画への有質な伝達経路有無</th> <th colspan="2">伝達先区画の漏えい検知可否</th> <th colspan="2">伝達先区画の検知性</th> </tr> <tr> <th>伝達種別</th> <th>伝達先区画番号</th> <th>①床ファンネル等サンプ</th> <th>②漏えい検知器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R-2F-2</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-2F-4</td><td>-</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-2F-5</td><td>-</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-2F-3-1</td><td>○</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>検知</td><td>R-2F-6</td><td>①</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-2F-4</td><td>○</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-2F-5</td><td>○</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-2F-6</td><td>○</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-2F-6-1</td><td>○</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-2F-6-2</td><td>○</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-2F-7</td><td>○</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-2F-7-1</td><td>○</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-2F-8</td><td>○</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-2F-8-1</td><td>○</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-2F-8-2</td><td>○</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-2F-9</td><td>○</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-2F-11</td><td>○</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-2F-12-1</td><td>○</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-2F-13-1</td><td>○</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-2F-14-1</td><td>○</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-2F-15-1</td><td>○</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-2F-16-1</td><td>○</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-2F-17</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>漏れ(100cm以上)</td><td>R-2F-6</td><td>①</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-2F-18</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>漏れ(100cm以上)</td><td>R-2F-8</td><td>①</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-2F-19</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>漏れ(100cm以上)</td><td>R-2F-7</td><td>①</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-2F-7</td><td>-</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-2F-8</td><td>-</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-2F-9</td><td>-</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-1F-13</td><td>○</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>漏</td><td>R-1F-13-1</td><td>②</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-1F-13-1</td><td>○</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-1F-14</td><td>○</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-1F-15</td><td>○</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>漏</td><td>R-1F-15-1</td><td>②</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-1F-15-1</td><td>○</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-1F-16</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>漏</td><td>R-1F-16-1</td><td>②</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-1F-16-1</td><td>-</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>貫通口</td><td>R-1F-11</td><td>②</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-1F-17</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> </tbody> </table>	区画番号	漏水源有無	非ファンネル有無	漏えい検知器有無	他区画への有質な伝達経路有無	伝達先区画の漏えい検知可否		伝達先区画の検知性		伝達種別	伝達先区画番号	①床ファンネル等サンプ	②漏えい検知器	R-2F-2	-	-	-	-	-	-	-	-	R-2F-4	-	○	-	-	-	-	-	-	R-2F-5	-	○	-	-	-	-	-	-	R-2F-3-1	○	○	-	-	検知	R-2F-6	①	-	R-2F-4	○	○	-	-	-	-	-	-	R-2F-5	○	○	-	-	-	-	-	-	R-2F-6	○	○	-	-	-	-	-	-	R-2F-6-1	○	○	-	-	-	-	-	-	R-2F-6-2	○	○	-	-	-	-	-	-	R-2F-7	○	○	-	-	-	-	-	-	R-2F-7-1	○	○	-	-	-	-	-	-	R-2F-8	○	○	-	-	-	-	-	-	R-2F-8-1	○	○	-	-	-	-	-	-	R-2F-8-2	○	○	-	-	-	-	-	-	R-2F-9	○	○	-	-	-	-	-	-	R-2F-11	○	○	-	-	-	-	-	-	R-2F-12-1	○	○	-	-	-	-	-	-	R-2F-13-1	○	○	-	-	-	-	-	-	R-2F-14-1	○	○	-	-	-	-	-	-	R-2F-15-1	○	○	-	-	-	-	-	-	R-2F-16-1	○	○	-	-	-	-	-	-	R-2F-17	○	-	-	-	漏れ(100cm以上)	R-2F-6	①	-	R-2F-18	○	-	-	-	漏れ(100cm以上)	R-2F-8	①	-	R-2F-19	○	-	-	-	漏れ(100cm以上)	R-2F-7	①	-	R-2F-7	-	○	-	-	-	-	-	-	R-2F-8	-	○	-	-	-	-	-	-	R-2F-9	-	○	-	-	-	-	-	-	R-1F-13	○	○	-	-	漏	R-1F-13-1	②	-	R-1F-13-1	○	○	-	-	-	-	-	-	R-1F-14	○	○	-	-	-	-	-	-	R-1F-15	○	○	-	-	漏	R-1F-15-1	②	-	R-1F-15-1	○	○	-	-	-	-	-	-	R-1F-16	○	-	-	-	漏	R-1F-16-1	②	-	R-1F-16-1	-	○	-	-	貫通口	R-1F-11	②	-	R-1F-17	○	-	-	-	-	-	-	-	<table border="1"> <thead> <tr> <th>系統</th> <th>想定破損範囲</th> <th>漏えい検知手段</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">主給水系、補助給水系（主蒸気管室内）</td> <td>【主給水管】 ④主給水制御弁、主給水バイパス制御弁～T/B貫通部</td> <td>システム検知</td> <td>SG水位低による原子炉トリップ</td> </tr> <tr> <td>【補助給水ライン】 ⑤主給水管分岐～逆止弁</td> <td>システム検知</td> <td>主給水流量の増加によりSG給水/蒸気流量偏差大警報が発信 補足：主給水制御範囲内の漏えいとなりSG水位低による原子炉トリップ、主給水ポンプの過回転トリップには期待しない</td> </tr> <tr> <td>蒸気発生器ブローダウン系（主蒸気管室内）</td> <td>【復水器へのライン】 ①貫通部～隔離弁</td> <td>システム検知</td> <td>SG水位低による原子炉トリップ</td> </tr> <tr> <td>補助蒸気系</td> <td>補助蒸気ライン</td> <td>温度検知</td> <td>温度検出器（60℃）の検知により補助蒸気遮断弁が自動閉止</td> </tr> </tbody> </table>	系統	想定破損範囲	漏えい検知手段	内容	主給水系、補助給水系（主蒸気管室内）	【主給水管】 ④主給水制御弁、主給水バイパス制御弁～T/B貫通部	システム検知	SG水位低による原子炉トリップ	【補助給水ライン】 ⑤主給水管分岐～逆止弁	システム検知	主給水流量の増加によりSG給水/蒸気流量偏差大警報が発信 補足：主給水制御範囲内の漏えいとなりSG水位低による原子炉トリップ、主給水ポンプの過回転トリップには期待しない	蒸気発生器ブローダウン系（主蒸気管室内）	【復水器へのライン】 ①貫通部～隔離弁	システム検知	SG水位低による原子炉トリップ	補助蒸気系	補助蒸気ライン	温度検知	温度検出器（60℃）の検知により補助蒸気遮断弁が自動閉止	<p>【女川】  <a href="#">記載表現の相違</a>  <a href="#">設計方針の相違</a>          ・プラント設計の違いによる相違          ・女川は漏えい検知器及びサンプ検知により漏えい検知を行うため、区画ごとに漏えい検知性の確認を実施しており、各区画の漏えい検知性を確認するためのフローを作成している。泊では、溢水源の系統に応じて検知手段を設定していることから、溢水源の系統別に漏えい検知性の確認を実施している。（大飯と同様。補足説明資料2,12にも記載している）</p> <p><a href="#">記載方針の相違</a>          泊は高エネルギー配管と低エネルギー配管で検知手段が異なることから、漏えい検知性確認結果を高エネルギー配管と低エネルギー配管に分けて記載している。（大飯と同様）</p> <p>【大飯】  <a href="#">設計方針の相違</a>  <a href="#">記載方針の相違</a>          プラント設計の違いによる相違  <a href="#">記載方針の相違</a>          泊における隔離時間の妥当性及び系統別溢水量の算出については補足説明資料2,12に記載しており、本資料では漏えい検知性の比較を行い、大飯と同様であることを確認している。</p>
漏えい量	漏えい量21.0m <sup>3</sup> オリファイスによる制限流量32.0m <sup>3</sup> /h 19分/60分×32.0m <sup>3</sup> /h =10.2m <sup>3</sup> 配管保有水量10.8m <sup>3</sup> 10.2m <sup>3</sup> +10.8m <sup>3</sup> =21.0m <sup>3</sup>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
合計時間 (①+②+③)	19分																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
③漏えい箇所での隔離等により漏えい停止	中央制御室において、抽出オリファイス出口格納容器第1隔離弁を遠隔手動閉止 1分																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
②事象の判断及び漏えい箇所の特定	以下のパラメータから抽出ラインからの漏えいと判断 10分 温度センサー高警報、充てんポンプトリップ、加圧器水位、VCT水位、原子炉周辺建屋サンプ水位、RMS測定値(R-21A/B)、漏水注																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
区画番号	漏水源有無	非ファンネル有無	漏えい検知器有無	他区画への有質な伝達経路有無	伝達先区画の漏えい検知可否		伝達先区画の検知性																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
					伝達種別	伝達先区画番号	①床ファンネル等サンプ	②漏えい検知器																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-2F-2	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-2F-4	-	○	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-2F-5	-	○	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-2F-3-1	○	○	-	-	検知	R-2F-6	①	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-2F-4	○	○	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-2F-5	○	○	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-2F-6	○	○	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-2F-6-1	○	○	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-2F-6-2	○	○	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-2F-7	○	○	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-2F-7-1	○	○	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-2F-8	○	○	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-2F-8-1	○	○	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-2F-8-2	○	○	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-2F-9	○	○	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-2F-11	○	○	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-2F-12-1	○	○	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-2F-13-1	○	○	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-2F-14-1	○	○	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-2F-15-1	○	○	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-2F-16-1	○	○	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-2F-17	○	-	-	-	漏れ(100cm以上)	R-2F-6	①	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-2F-18	○	-	-	-	漏れ(100cm以上)	R-2F-8	①	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-2F-19	○	-	-	-	漏れ(100cm以上)	R-2F-7	①	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-2F-7	-	○	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-2F-8	-	○	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-2F-9	-	○	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-1F-13	○	○	-	-	漏	R-1F-13-1	②	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-1F-13-1	○	○	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-1F-14	○	○	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-1F-15	○	○	-	-	漏	R-1F-15-1	②	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-1F-15-1	○	○	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-1F-16	○	-	-	-	漏	R-1F-16-1	②	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-1F-16-1	-	○	-	-	貫通口	R-1F-11	②	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-1F-17	○	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
系統	想定破損範囲	漏えい検知手段	内容																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
主給水系、補助給水系（主蒸気管室内）	【主給水管】 ④主給水制御弁、主給水バイパス制御弁～T/B貫通部	システム検知	SG水位低による原子炉トリップ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	【補助給水ライン】 ⑤主給水管分岐～逆止弁	システム検知	主給水流量の増加によりSG給水/蒸気流量偏差大警報が発信 補足：主給水制御範囲内の漏えいとなりSG水位低による原子炉トリップ、主給水ポンプの過回転トリップには期待しない																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
蒸気発生器ブローダウン系（主蒸気管室内）	【復水器へのライン】 ①貫通部～隔離弁	システム検知	SG水位低による原子炉トリップ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
補助蒸気系	補助蒸気ライン	温度検知	温度検出器（60℃）の検知により補助蒸気遮断弁が自動閉止																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
<table border="1"> <tr> <td>①異常の検知</td> <td>&lt;システム検知&gt; 配管破損によりVCT(11.3m<sup>3</sup>)の保有水が減少しVCT水位が低下する。VCT水位高警報(55%±1.5%)から原子炉補給開始水位(24%±1.5%)まで水位が低下し原子炉補給水開始音が発信 11.3m<sup>3</sup>×(56.5%-22.5%)/100%÷32.0m<sup>3</sup>/h×60分=7.2-8分</td> </tr> <tr> <td>想定範囲</td> <td>抽出配管/非再生冷却器入口(貫通部)～非再生冷却器 抽出配管/非再生冷却器出口(非再生冷却器)～圧力制御弁</td> </tr> </table>	①異常の検知	<システム検知> 配管破損によりVCT(11.3m <sup>3</sup> )の保有水が減少しVCT水位が低下する。VCT水位高警報(55%±1.5%)から原子炉補給開始水位(24%±1.5%)まで水位が低下し原子炉補給水開始音が発信 11.3m <sup>3</sup> ×(56.5%-22.5%)/100%÷32.0m <sup>3</sup> /h×60分=7.2-8分	想定範囲	抽出配管/非再生冷却器入口(貫通部)～非再生冷却器 抽出配管/非再生冷却器出口(非再生冷却器)～圧力制御弁	<p>表2 漏えい検知性確認結果一覧（原子炉建屋付属棟）（2/2）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区画番号</th> <th rowspan="2">漏水源有無</th> <th rowspan="2">非ファンネル有無</th> <th rowspan="2">漏えい検知器有無</th> <th rowspan="2">他区画への有質な伝達経路有無</th> <th colspan="2">伝達先区画の漏えい検知可否</th> <th colspan="2">伝達先区画の検知性</th> </tr> <tr> <th>伝達種別</th> <th>伝達先区画番号</th> <th>①床ファンネル等サンプ</th> <th>②漏えい検知器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R-10F-6</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-10F-7</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-10F-8</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-10F-9</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-10F-10</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-10F-11</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-10F-12</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-10F-8</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-10F-9</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-10F-10</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-10F-11</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-10F-12</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-10F-13</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>R-10F-14</td><td>○</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> </tbody> </table>	区画番号	漏水源有無	非ファンネル有無	漏えい検知器有無	他区画への有質な伝達経路有無	伝達先区画の漏えい検知可否		伝達先区画の検知性		伝達種別	伝達先区画番号	①床ファンネル等サンプ	②漏えい検知器	R-10F-6	-	-	-	-	-	-	-	-	R-10F-7	○	-	-	-	-	-	-	-	R-10F-8	○	-	-	-	-	-	-	-	R-10F-9	○	-	-	-	-	-	-	-	R-10F-10	○	-	-	-	-	-	-	-	R-10F-11	○	-	-	-	-	-	-	-	R-10F-12	○	-	-	-	-	-	-	-	R-10F-8	○	-	-	-	-	-	-	-	R-10F-9	○	-	-	-	-	-	-	-	R-10F-10	○	-	-	-	-	-	-	-	R-10F-11	○	-	-	-	-	-	-	-	R-10F-12	○	-	-	-	-	-	-	-	R-10F-13	○	-	-	-	-	-	-	-	R-10F-14	○	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																						
①異常の検知	<システム検知> 配管破損によりVCT(11.3m <sup>3</sup> )の保有水が減少しVCT水位が低下する。VCT水位高警報(55%±1.5%)から原子炉補給開始水位(24%±1.5%)まで水位が低下し原子炉補給水開始音が発信 11.3m <sup>3</sup> ×(56.5%-22.5%)/100%÷32.0m <sup>3</sup> /h×60分=7.2-8分																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
想定範囲	抽出配管/非再生冷却器入口(貫通部)～非再生冷却器 抽出配管/非再生冷却器出口(非再生冷却器)～圧力制御弁																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
区画番号	漏水源有無	非ファンネル有無	漏えい検知器有無	他区画への有質な伝達経路有無	伝達先区画の漏えい検知可否		伝達先区画の検知性																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
					伝達種別	伝達先区画番号	①床ファンネル等サンプ	②漏えい検知器																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-10F-6	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-10F-7	○	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-10F-8	○	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-10F-9	○	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-10F-10	○	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-10F-11	○	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-10F-12	○	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-10F-8	○	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-10F-9	○	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-10F-10	○	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-10F-11	○	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-10F-12	○	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-10F-13	○	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
R-10F-14	○	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														